

ウルトラマンゼロ & プ
リキュアオールスター
ズ

JINISH

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

宇宙警備隊の任務により、別次元の宇宙に亘り、事件を解決するウルトラマンゼロ。だが任務完了し、光の国へ帰還する最中、時空の歪みによって別の世界に引きずり込まれてしまう。

その世界は数々の闇の存在に立ち向かった伝説の戦士・プリキュアが活躍していた世界である。

目次

| | | | |
|--------------|-----|----------------------|-----|
| プロローグ | 1 | 超古代の戦士 | 120 |
| 津成木町の異変 | 5 | V S ベムラー&ヤナカーギー | 132 |
| 光の巨人、現る。 | 15 | 真理奈とくるる | 145 |
| V S ゴルザ | 26 | 二体の魔獣 | 155 |
| 醜悪な異星獣 | 36 | インキュラスを追え! | 168 |
| 滑空する襲撃者 | 47 | V S インキュラス&ラグストーン | 180 |
| リトラとの共闘 | 58 | 真琴が行方不明!? | 193 |
| V S ネオガイガレード | 67 | 異次元の怪獣 | 207 |
| 月の輪怪獣、現る! | 78 | 神秘の光の巨人 | 220 |
| マグマを喰う超獣 | 89 | V S ネオザルス&ゴルドラス&シルバゴ | 230 |
| V S クレッセント | 99 | ン | 242 |
| 池に潜みし悪魔 | 109 | ウルトラ6兄弟 | 242 |

| | |
|----------------------|-----|
| 怨念の集合体 | 254 |
| V S グランドキング | 264 |
| 謎の女、クリシス | 279 |
| 集合、ウルトラ10勇士 | 291 |
| V S ゾグ | 302 |
| 登場人物&登場予定の新キャラ | 315 |
| ジユエル鉱国の王女 | 321 |
| 二体の伝説怪獣 | 330 |
| V S シラリー&コダラー | 339 |
| クリシスを追え! | 350 |
| 舌で切り裂く怪獣 | 361 |
| 復活の宇宙斬鉄怪獣 | 372 |
| V S デイノゾールリバーズ&デイノゾー | 372 |

| | |
|----------------|-----|
| ル | 384 |
| 怪獣、妖精の世界に現る! | 397 |
| キュアエレメント | 407 |
| V S コツテンポツペ | 421 |
| キュアエレメントの設定+α | 430 |
| キュアイーゼス襲撃 | 435 |
| テンダーV S イーゼス | 445 |
| V S プラズマ&マイナズマ | 458 |
| 真琴とマヤ | 470 |
| 蘇る魔獣、イビロン | 481 |
| V S U キラーザウルス | 495 |
| イーゼス、誕生の秘密 | 506 |
| 妖精の世界での戦い | 517 |

| | |
|--------------------|-----|
| ユザレと光の巨人 | 527 |
| ティガの敗北 | 539 |
| V S バラバ | 553 |
| 光の巨人の謎を探れ! | 562 |
| ルルイエに照らす光の巨人 | 573 |
| 誠司の覚悟 | 582 |
| V S ザイゴグ | 592 |
| ユグドラシル | 603 |
| 闇の三種の神器 | 616 |
| 真理奈といちか達の邂逅 | 627 |
| 2体のカプセル怪獣 | 639 |
| V S レッドキング&ブラックキング | 653 |

| | |
|-------------------|-----|
| 真理奈の目覚め | 665 |
| 滅亡の邪神、降臨! | 679 |
| 限界を超えし戦士 | 692 |
| V S ハイパーゼットン | 703 |
| ヤマザキの謎 | 718 |
| マリー・アンジュ | 729 |
| トランプ共和国攻防戦 | 743 |
| キュアイー吉斯&イビロンの設定+α | 757 |
| ソードV S イー吉斯 | 762 |
| ユグドラシルのアジトに潜入! | 774 |
| マヤの償い | 788 |
| ウルトラマンノア | 801 |

| | |
|-----------------|-----|
| 大貝町を守れ! | 815 |
| 取り戻した光 | 830 |
| V S ゾンボーグ | 843 |
| ルルイエ、浮上する! | 860 |
| 反逆のウルトラマン | 874 |
| V S ガルベロス&メガフラシ | 888 |
| 上陸!ルルイエ | 903 |
| ルルイエでの戦い | 915 |
| 光の巨人と伝説の戦士 | 931 |
| 1万年前の真実 | 947 |
| V S イビロン | 966 |
| ゼロの最期!? | 982 |
| 残された希望 | 995 |

| | |
|------------|------|
| ゼロ救出作戦 | 1007 |
| 蘇えるゼロ | 1019 |
| V S ガタノゾーア | 1034 |
| エピローグ | 1048 |
| 次回作の発表 | 1058 |

プロローグ

光に包まれた空間の中、鎧を纏った赤と青と銀の体の巨人が飛翔していた。

その巨人の名はウルトラマンゼロ。

M78星雲・光の国から来たウルトラ戦士。

彼は怪獣墓場でベリアルが復活させた怪獣軍団を倒し、アナザースペースでベリアル銀河帝国軍の野望を阻止し、惑星ブラム付近に現れたビートスターを破壊し、フューチャーアースでバット星人が操るハイパーゼットンを倒し、マイティーベースに姿を現したダークネスファイブと蘇ったウルトラマンベリアルを退けた。

その後、ギンガとビクトリーがいる地球でエタルガーを倒す為の特訓をさせ、エックスが活躍していた地球ではザイゴグが生み出したツルギデマーガを倒し、オーブが旅をしていた地球ではハワイでオーブと共にギヤラクトロンを倒し、ジードが誕生した地球ではジードとオーブと共にギルバリスと戦い、ロツソとブルがいた地球ではウルトラダークキラードからグリーンジョを守り、トリスクワッドが活躍していた地球ではウルトラマントレギアとニセウルトラマンベリアルを相手にタイガ達と共に戦った。

現在ゼロは別次元の宇宙で任務を終えた後、彼が纏っていた鎧、ウルティメイトイー

ジスの力で光の国へ帰還中である。

ゼロ「タイガ達はすでに光の国に戻ったみてえだな。久しぶりに顔を見せに行くか。」
ゼロはタイガ達がグリムドを倒し、光の国に帰還した報告を受け、自身も光の国に帰還する事になった。

しかしその時、ゼロが時空を移動する途中、突然空間が歪み始めた。

ゼロ「!?な、なんだ!?なんだこれは!？」

空間が歪み始めた所為か、上手く飛べないゼロ。

ゼロ「くそおっ!なんなんだよこれ!？」

ゼロは体勢を立て直そうとするが、歪みが強くなり思うように飛べない。

ゼロ「くうっ!うわあああああああああつ!!!!」

ついにゼロは体勢を崩し、歪みの中に消えていった。

場所が変わり・・・

みらい「う〜ん!イチゴメロンパン、甘くてサクサクでおいしい〜!」

ことは「はー！おいしい！」

モフルン「もう食べられないモフゝ・・・」

移動販売車『Mofu Mofu Bakery』の近くのテーブルでイチゴメロンパンを食べているのは、津成木町に住んでいる女の子、朝比奈みらいと花海ことは、そしてみらいが大事にしているぬいぐるみのモフルンである。

ちなみにモフルンはクッキーの食べ過ぎで寝転がっている。

リコ「もう！呑気に食べてる場合じゃないでしょ？」

みらい達に指摘しているのは魔法界に住む魔法学校の生徒、十六夜リコ。

リコ「校長先生が言ってたでしょ？ナシマホウ界にも魔法界にも存在しない大きな力が世界を無にしようとしているって。もしかしたら、水晶さんが言っていた忌まわしき災いかもしれないのよ？何が起るかわからないから用心しなきゃ。」

モフルン「モフ？」

みらい達に注意をするリコ。

その最中、モフルンは何かに気付いたのか、起き上がって走り出した。

みらい「あ！ちよつとモフルン!？」

リコ「モフルン、待ちなさい！」

みらいとリコは慌ててモフルンの後を追う。

ことはもみらいとリコを追う。

モフルンが辿り着いたのは、みらいとリコが初めて会った時の桜並木である。今は夏の時期なので、当然桜は咲いていない。

その木にブレスレットを嵌めている青年が倒れているのを見つけるモフルン。モフルン「誰か倒れてるモフ!?!」

みらい「モフルン!」

リコ「もう、ジツとしてなきやダメじゃない!誰かに見られたらどうするのよ!?!」

ことは「みらい、リコ!あそこに誰がいるよ!」

ことはは倒れている青年に指を指す。

みらい「本当だ!あの、大丈夫ですか!?!」

みらいは青年を起こそうと肩を揺らす、目が覚める様子がない。

リコ「とにかく、この人を家まで運びましょう!」

みらい、ことは「うん!」

みらいとリコとことはは青年を担いで朝比奈家に向かった。

津成木町の異変

みらい、リコ、ことはは倒れていた青年を家まで運び、リコの部屋を借りて彼を寝かせおいた。

その後、しばらく様子を見ていたが、ケガはなく、顔色もよくなってきたことから安心して寝ているように見えるため、みらい達はホッとした。

みらいはお粥を作るため、ことはは洗面器の水を変えるためリコの部屋から出て行った。

部屋に残ったリコはそのまま青年の看病をしている。

リコ（モフルンが気づかなかつたら大変なことになってたわね。それにしてもどうしてあそこに倒れていたのかしら・・・）

リコは青年がなぜ桜並木の木の陰に倒れていたのか考え始める。

リコ（見たことないブレスレットも魔法を使っても外れなかつたし・・・気になるわね・・・）

他にも青年の腕に嵌めているブレスレットが外れなかつたことも気にしていた。

実はみらい達が青年を家に運んでリコの部屋に寝かした後、ブレスレットを外そうと

していたが、全く外れなかったのだ。

リコは魔法でブレスレットを外そうと試みるも、何の反応もなかった。なので、腕のブレスレットはそのままにしている。

言い忘れたが、彼の容姿は高等学校の生徒にいそうな美少年タイプで髪型はツープロツクショートで整えている。

リコは彼のことを考えているその時。

リコ「!? (／／／／)」

青年の手がリコの膝の上に乗せた。

しかも眠ったままで。

リコ「え、ええええ!??? (／／／／)」

リコは今の行動に頬を赤らめながら動揺する。

ことは「リコく! 水変えといたよく!」

ことは洗面器をもってリコの部屋に入った。

リコはことはの声に気付いたのか、膝の上に乗っている青年の腕を戻した。

ことは「?リコ、どうしたの?」

リコ「な、何でもないし! (／／／／)」

ことはリコにどうしたのか聞いたが、リコは何でもないと答えた。

場所が変わり・・・

あゆみ「グレル、エンエン。着いたよ。」

グレル「おっ！待ってました！」

エンエン「ここに魔法つかいプリキュアがいるんだね。」

少女が手提げバッグの中に声をかける。

その中からぬいぐるみのような姿をした生き物が顔を出す。

少女たちと生き物の名は坂上あゆみとグレルとエンエン。

彼女は横浜の学校に転校した時、他の生徒とは馴染めず孤立していたが、フュージョンの一部と呼ばれていたフーちゃんとの出会いがきっかけで友達を作れるようになった。

そして、グレルとエンエンは妖精学校の生徒であり、あゆみのパートナーである。

彼等は妖精学校で影水晶から生まれた影を目覚めさせたが、プリキュアオールスターズの助けで影と和解決し、夢の世界であゆみと出会ったことで彼女のパートナーとなっ

た。

ここまで言えばわかるだろう。

そう、あゆみは幻のプリキュアと呼ばれたキュアエコーに変身する。

彼女もプリキュアオールスターズの助けでフーちゃんのエ元へ駆けつける時にプリキュアへと変身を遂げた。

さらに、夢の世界でグレルとエンエンと出会い、再びキュアエコーに変身し、プリキュアオールスターズを助けることに成功する。

その彼女達が津成木町に来ていたのは、妖精学校の先生からこの町で新しいプリキュアが誕生したと聞き、そのプリキュアに会うためにここに来たのだ。

あゆみ「気持ちには分かるけどあまり大声出さないでね。」

グレル「おお、そうだった。」

エンエン「ごめんなさい。」

あゆみはグレルとエンエンに注意する。

さつきあゆみがキュアエコーに変身すると言ったが、この事は内緒にしている。

その時、周りの人たちがざわつき始める。

それはグレルとエンエンの存在がバレたからではなく、周りの人たちの視線の先の空間が捻じれ始めたからである。

あゆみ「なんだろう?」

グレル「なんだ? どうした?」

エンエン「どうしたの?」

あゆみとグレルとエンエンも捻じれた空間を見る。

その時、その空間から鎧のような皮膚を持つ巨大な怪獣が現れた。

名前は超古代怪獣ゴルザ。

別の世界での話だが、テイガの石像を破壊するために超古代竜メルバと共に石像を破壊した。

しかしその途中で、ウルトラマンテイガが蘇り、撃退された。

ゴルザの出現で大勢の人たちがパニックになり逃げ惑う。

あゆみ「な、何なの!」

エンエン「うわああああああっ!」

グレル「で、でかすぎるだろ!」

ゴルザは腕を振り上げ、建物を破壊し始めた。

グレル「あゆみ!」

エンエン「変身だよ!」

グレルとエンエンは手提げバッグから出て、あゆみに変身するよう言い出す。

みらいもお粥を青年の近くに置いてモフルンを抱えて部屋に出る。

その時に青年の手がピクリと動いていた。

みらい、リコ、ことは「キュアアップ・ラパパ！ほうきよ、飛びなさい！」

みらい達はほうきに乗って鳴き声をする方向へ向かった。

数分後、その鳴き声の元に辿り着いて見たのは、ゴルザが暴れ出している所である。

みらい「なにこれ!? 怪獣!？」

リコ「なんて大ききなの!？」

みらい達はゴルザを見て驚く。

グレル「みらいく！」

エンエン「リコく！」

みらい達は声がる方向を見ると、そこにはあゆみとグレルとエンエンがいた。

みらい「グレル！エンエン！」

リコ「それにあゆみまで！」

みらい達はグレルたちの元に向かった。

みらい「あゆみちゃん！しっかり！」

ことは「まかせて！キュアアップ・ラパパ！あゆみのケガよ、治して！」

ことは魔法のタッチペンを出し、呪文を唱えた。

すると、あゆみのケガが治り始めた。

グレル「うわっ！一瞬のうちに!？」

エンエン「あゆみ?!」

グレルはその様子に驚き、エンエンはあゆみに呼びかける。

あゆみ「う、ううん……」

グレル「あゆみ！」

エンエン「よかった……」

あゆみ「グレル、エンエン……」

グレルとエンエンは涙目になりながら安心した。

しかし、ゴルザの咆哮でその安心はかき消された。

みらい「あゆみちゃん、ここは私たちに任せて！」

リコ「すぐに終わらせてあげるから！」

みらいとリコは手を繋ぎ、「キュアアップ・ラパパ！ダイヤ！」と叫び、ダイヤのリンクストーンがモフルンのリボンに装着される。

みらい、リコ「ミラクル・マジカル・ジュエリー！」

呪文を唱えた後、みらいとリコの服が変わり、魔法使いのような姿に変わる。

みらいはキュアミラクルというピンクのプリキュアに、リコはキュアマジカルという

紫のプリキュアに変身する。

ミラクル「ふたりの奇跡！キュアミラクル！」

マジカル「ふたりの魔法！キュアマジカル！」

ミラクル、マジカル「魔法つかいプリキュア！」

ことははリンクルスマホンにエメラルドのリンクルストーンを嵌める。

ことは「キュアアップ・ラババ！エメラルド！」

そして、魔法のタッチペンで画面にFと書くと、Fの後に小文字でe l i c e が浮かび上がる。

ことは「フェリーチェ・ファンファン・フラワーレ！」

呪文を唱えた後、ことはの服が変わり、妖精のような姿、キュアフェリーチェに変身する。

フェリーチェ「あまねく生命に祝福を！キュアフェリーチェ！」

ゴルザは3人が変身する光に気付いたのか、その方向に振り向く。

グレル「スツゲーツ！あれが新しいプリキュア！」

エンエン「キュアフェリーチェ！」

あゆみ「ミラクル、マジカル、フェリーチェ・・・」

あゆみ達の目の前にいるのは、ゴルザに強い視線を向ける3人のプリキュア。

キュアミラクル、キュアマジカル、キュアフエリーチエである。

光の巨人、現る。

ゴルザが雄叫びを上げると同時にミラクルとマジカルとフェリーチエが身構える。

ミラクル「マジカル！フェリーチエ！行くよ！」

マジカル、フェリーチエ「ええ！」

ミラクル達はゴルザに向かって走り出す。

ゴルザはミラクル達に向けて超音波光線を繰り出す。

ミラクル「リンクル・ムーンストーン！」

ミラクルはムーンストーンのリンクルストーンをリンクルステッキに嵌めて呪文を唱えると満月型バリアでゴルザの超音波光線を防ぐ。

マジカル「リンクル・アクアマリン！」

マジカルはアクアマリンのリンクルストーンをリンクルステッキに嵌めて呪文を唱えると吹雪が発生し、ゴルザの足を凍らせる。

その瞬間、ゴルザの目の前にフェリーチエが現れる。

フェリーチエ「リンクル・タンザナイト！」

フェリーチエはタンザナイトのリンクルストーンをフラワーエコーワンドに嵌めて

呪文を唱えると強い光を放ち、ゴルザの目を眩ます。

フェリーチェ「ミラクル、マジカル！今です！」

ミラクル、マジカル「うん！」

ミラクルとマジカルのリンクルステッキにダイヤのリンクルストーンを嵌める。

ミラクル、マジカル「永遠の輝きよ！私達の手に！フルフルリンクル！」

ミラクルとマジカルはダイヤモンドの魔法陣を作り出し、向かってくるゴルザを受け止める。

ミラクル、マジカル「プリキユア・ダイヤモンド・エターナル！」

ミラクルとマジカルはプリキユア・ダイヤモンド・エターナルでゴルザを閉じ込める。

しかし、ゴルザは力づくでそれを打ち破る。

ミラクル、マジカル「!?」

ゴルザはミラクルとマジカルに腕を振り下ろす。

フェリーチェ「リンクル・アメジスト！」

フェリーチェはアメジストのリンクルストーンをフラワーエコーワンドに嵌めて呪文を唱えると二人の足元に魔法陣が現れ、吸い込まれるかのように魔法陣に入っていく。

すると、別の場所から魔法陣が現れ、二人が姿を現す。

フェリーチエ「大丈夫ですか？」

ミラクル「うん！」

マジカル「なんて奴なの!?!全く効いてないわ！」

ゴルザは再び超音波光線を発射する。

フェリーチエは即座にエメラルドのリンクルストーンをフラワーエコーワンドに嵌める。

フェリーチエ「エメラルド！」

そして、フラワーエコーワンドに「キュアアップ！」と唱える。

数回エコーが響き出すと、一面の種が花を開き、その花からエネルギーが放たれ、フラワーエコーワンドに集めると、フラワーエコーワンドの花が開く。

フェリーチエ「プリキュア・エメラルド・リンカネーション！」

フェリーチエは∞を描くと2つに分かれ、2つのリングがリースになる。

そしてフラワーエコーワンドからピンクの光線が出て、同時に2つのリースも回転しながらゴルザの超音波光線とぶつけ合う。

フェリーチエ「くうっ！」

フェリーチエは踏ん張るが、ゴルザはさらに力を籠めると超音波光線の勢いが強くなり、プリキュア・エメラルド・リンカネーションを押し返す。

ミラクル達「キヤアアアアアアアアアアアツ!!!」

ミラクル達はゴルザの超音波光線に吹き飛ばされる。

あゆみ、グレル、エンエン「みんな!」

超音波光線による煙幕が晴れた時、変身が解除されたみらいとリコと、変身は解除されなかったものの地面に伏しているフェリーチエの姿が映る。

フェリーチエ「う、うう……2人共、大丈夫ですか?」

みらい「う、うん……」

リコ「これくらい……平気よ……」

フェリーチエ達はゆっくりと立ち上がり、戦闘の体勢を整える。

そしてみらいとリコは「キュアアップ・ラパパ! ルビー!」と唱え、モフルンのリボンにルビーのリンクルストーンをセットし、「ミラクル・マジカル・ジュエリーレ!」と唱える。

すると今度は赤を基調とした姿に変わる。

キュアミラクルとキュアマジカルは4つのカラフルスタイルがあり、先程の戦いで変身したいつもの姿、ダイヤモンドスタイルと今変身したパワー重視のルビースタイル、そして空中戦に向いているサファイアスタイルとトリッキーな戦い方をするトパーズスタイルに変身することが可能である。

ミラクル、マジカル「ハアアアアアアアッ!!!」

ミラクルとマジカルはゴルザの足にパンチやキックをお見舞いする。

しかし、すぐにゴルザに蹴り飛ばされた拳句、ゴルザの尻尾で薙ぎ払われる。

ミラクルとマジカルは建物に衝突し、変身が解除される。

あゆみ「ああ！」

グレル「あゆみ！」

エンエン「2人を助けないと！」

あゆみ「うん！」

あゆみはグレルとエンエンの手を繋ぐ。

すると、グレルのダイヤのブローチが光り、続いてエンエンのハートのブローチが光って、あゆみのエコーデコルが光り出す。

あゆみ、グレル、エンエン「皆の思いを守るために、心を1つに！」

すると、あゆみに光が包まれ、天高く浮かび上がり、その光から白い衣装を纏った少女が現れる。

エコー「想いよ届け！キュアエコー！」

そう、その少女こそ前に紹介したキュアエコーである。

モフルン「モツファー！キュアエコーだモフ！」

フェリーチェ「あれがキュアエコー・・・」

魔法のほうきに乗っていたモフルンがエコーの登場に喜び、フェリーチェはエコーとは初めて会うので彼女の登場に目を奪われる。

だが、ゴルザの咆哮でハツと正気を取り戻す。

ゴルザはみらいとリコに目掛けて腕を振り下ろす。

エコー、フェリーチェ「危ない！」

エコーとフェリーチェはみらいとリコを間一髪で救い出す。

みらい「フェリーチェ！エコー！ありがとう！」

エコー「どういたしまして！」

みらいはエコーに感謝する。

リコ「みらい！」

みらい「うん！モフルン、もう一度行くよ！」

モフルン「モフ！」

みらいとリコは「キュアアップ・ラパパ！サファイア！」と唱え、モフルンのリボンにサファイアのリンクルストーンをセットし、「ミラクル・マジカル・ジュエリー！」と唱える。

すると、青を基調とした姿、サファイアスタイルに変身する。

ミラクルとマジカルはゴルザの頭部まで飛び、ゴルザを攪乱する。

ゴルザは2人を叩き落そうとするが躲される。

ミラクル、マジカル「フェリーチェ！」

フェリーチェはミラクルとマジカルの合図でゴルザの背後にフラワーエコーワンドを構える。

フェリーチェ「プリキュア・エメラルド・リンカネーション！」

フェリーチェはプリキュア・エメラルド・リンカネーションを放つ。

ゴルザは直撃を受けたが、ゴルザの尻尾による攻撃で吹き飛ばされる。

フェリーチェ「キヤアアアアアアアッ!!!」

エコー「フェリーチェ！」

エコーはフェリーチェを受け止めるが、反動に耐えられずそのまま建物に衝突する。

ミラクル「フェリーチェ！エコー！」

マジカル「なんてタフな奴なの!?!」

ミラクルとマジカルはゴルザの圧倒的な強さを身をもって知る。

その時、ゴルザの超音波光線をミラクルに命中させる。

ミラクル「キヤアアアアアアアッ!!!」

マジカル「ミラクル！」

エコー「マジカル！危ない！」

エコーの言葉でマジカルが振り向いた瞬間、ゴルザが右手を伸ばし、マジカルを捕らえた。

マジカル「キヤアアツ!!」

フェリーチエ、エコー「ああっ！」

グレル、エンエン、モフルン「マジカル！」

ゴルザはマジカルを捕まえた手を握り始める。

マジカル「ううっ・・・」

ミラクル「マジカルを離して！」

ミラクルは態勢を立て直して高速でマジカルの所に向かう。

ゴルザの腕に何度も攻撃するが、ゴルザは動じない。

ミラクル「このっ、このっ！このおっ！」

ミラクルは涙を流しながら、何度も何度も殴り続ける。

だがこの瞬間、ゴルザは残った左腕でミラクルを薙ぎ払う。

ミラクル「キヤアアアアアアアアツ!!!」

マジカル「ミ・・・ミラ・・・クル・・・！」

ゴルザに薙ぎ払われたミラクルは地面に衝突しようとする。

? 「はあっ!」

すると、誰かが落ちていったミラクルを抱えるように受け止め、着地する。

ミラクル「・・・?」

地面に衝突したかと思われたミラクルは助けてくれた人物の顔を見る。

? 「まさか女の子が怪獣と戦うなんてな。」

ミラクル「あなたは!?!」

ミラクルが見たのは桜並木に倒れていた青年だった。

青年はミラクルを下ろして、ゴルザに視線を向ける。

? 「後は任せろ。お前のダチも助けてやる。」

ミラクル「そんな! 危険です!」

ミラクルは青年を止めようとする、青年が左腕を前に出す。

すると左腕に嵌めているウルティメイトブレスレットから、ゴーグルのようなアイテム

ムが出てくる。

ミラクル「えっ!?!」

ミラクルはこの瞬間を驚く。

青年「デИАツ!」

青年はそのアイテムを目につける。

すると、青年が光に包み込まれ、姿が変わり、ブーメランのような刃が頭に装着される。

光がゴルザの前に移動し、その光からウルトラマンゼロが現れる。

ミラクル「うわあ！」

マジカル「あれ・・・は・・・」

フェリーチエ「大きい・・・」

エコー「巨人？」

モフルン「何か出てきたモフ！」

グレル「な、何だこれ?！」

エンエン「え・・・えっ?」

ゼロはマジカルを捕らえたゴルザの右手首を握る。

ゴルザはゼロに握られ、痛み出す。

それによってマジカルはゴルザの手から解放される。

ゼロは片方の手でマジカルを受け止めた後、瞬時にゴルザを蹴り飛ばす。

よってゴルザは町の外に吹き飛ばされた。

その後、ゼロはマジカルを下ろした。

ミラクル達「マジカル！」

ミラクル達はマジカルの所に集まった。

マジカル「う、うう・・・」

ミラクル「マジカル！無事でよかったーっ！」

マジカル「い、痛い痛い痛い！ミ、ミラクル、もっと優しくしなさいよ！」

ミラクル「ああ、ごめん！」

ミラクルはマジカルの無事に喜び抱き着くが、マジカルは体全体を痛がりミラクルに怒る。

ゼロはマジカルの無事を確認した後、ゴルザの方に振り向く。

ゼロ「さてと・・・一気に片を付けるぜ！」

ゼロは戦闘の体勢に入る。

ゴルザはゼロに向かって走り出す。

ゼロもゴルザが動き出した瞬間、すぐに走り出す。

VS ゴルザ

ゴルザはゼロに超音波光線を繰り出す。

ゼロは超音波光線をジャンプで躲し、脳天に踵落としを喰らわせる。

ゼロ「エメリウムスラッシュ！」

ゼロは額のクリスタルから細長い光線を放つ。

しかし、ゴルザは両腕を広げると、ゼロのエメリウムスラッシュを吸収する。

ゼロ「なに!？」

ゴルザはエメリウムスラッシュを吸収した直後にゼロに攻撃する。

その後、ゼロの首を掴み、そのまま放り投げる。

そして、ゴルザはゼロが立ち上がる時、自分の体を球体状にして、ゼロに体当たりする。

ゼロは吹き飛ばされ、地面に倒れる。

ゼロ「チツ。どうやら今までのゴルザとは違うようだな。・・・だがな！」

ゼロは立ち上がった時、ウルティメイトブレスレットを光らせた後、赤いボディに変わる。

この姿はストロングコロナゼロといい、ウルトラマンダイナのストロングタイプとウルトラマンコスモスのコロナモードを併せ持つ超パワー戦士である。

ストロングコロナゼロの他にルナミラクルゼロと言うダイナのミラクルタイプとコスモスのルナモードを併せ持つ超高速戦士に変わることができる。

ミラクル「赤くなった!？」

ミラクル達はゼロの姿が変わるのを驚く。

ゼロは球体状になったゴルザを受け止め、上に蹴り飛ばす。

ゼロ「ガルネイト・・・バスター!!」

ゼロはウルティメイトブレスレットを叩いた後、蹴り飛ばされたゴルザに向けて拳を振り上げると、炎状の光線が発射し、ゴルザに命中する。

「俺だって、今までとは違うんだよ!」

ゼロはゴルザが落下する前にウルティメイトブレスレットに触れ、ルナミラクルゼロに変わる。

マジカル「今度は青に!？」

マジカル達は再び驚く。

ゼロ「レボリウムスマッシュ!!」

ゼロはタイミングよくゴルザに右掌を当てると衝撃波を放つ。

これによってゴルザは吹き飛ばされるが、すぐに起き上がる。ゼロ「チツ！しぶとい野郎だぜ！」

ゴルザは額にエネルギーを溜め始めた。

マジカル「ミラクル！トパーズスタイルで行きましょう！」

ミラクル「ええ!?!大丈夫なの!?!」

マジカル「これぐらい大したことないし！さつき抱きしめられたから痛みが吹っ飛んだわ。」

ミラクル「あ、あはは・・・すみませんでした・・・」

マジカル「それに助けられた恩を返さなきゃね！」

ミラクルはマジカルの言葉でゼロに変身した青年を思い出す。

ミラクル「わかった！」

ミラクルとマジカルは元のみらいとリコの姿に戻った後、「キュアアップ・ラパパ！トパーズ！」と唱え、モフルンのリボンにトパーズのリンクルストーンをセットし、「ミラクル・マジカル・ジュエリーレ！」と唱える。

すると、黄色を基調としたトパーズスタイルに変身する。

ミラクル「フェリーチエ、エコー！ちよつと待っててね！」

フェリーチエ「ええ！」

エコー「うん！」

ミラクルとマジカルは2つの光の玉を踏み台にして、ゼロの元に向かう。そしてゼロを背にしてゴルザの前に立つ。

ゼロ「！」

ゴルザは超音波光線を発射する。

しかも、エネルギーを溜め込んでいたので威力は今までより強力である。

ミラクル、マジカル「リンクルステッキ！トパーズ！」

ミラクルとマジカルはリンクルステッキにトパーズのリンクルストーンをセットする。

ミラクル、マジカル「金色の希望よ！私達の手に！フルフルリンクル！」

ミラクルとマジカルは稲妻のような魔法陣を作った後、掻き混ぜるように回すと、竜巻が現れる。

2人のリンクルステッキを当てると、竜巻が雷となり、そして巨大なリンクルステッキが現れる。

超音波光線が2人に近づくと、巨大リンクルステッキが前に倒し、超音波光線を止め、魔法陣が現れる。

ミラクル、マジカル「プリキュア・トパーズ・エスペランサー！」

ミラクルとマジカルはリンクルステッキを引くと同時に超音波光線もゆくり引き寄せる。

そしてリンクルステッキを前に押すと超音波光線が反射される。

それによってゴルザの額に命中し、ゴルザは倒れる。

ミラクル、マジカル「今よ！」

ゼロ「ああ！」

ゼロはルナミラクルゼロから元の姿に戻り、ゼロスラッガーをカラータイマーに装着し、エネルギーをチャージする。

ゼロ「こいつを吸収できるモンなら、やってみやがれ！」

ゼロはゼロツインシユートをゴルザに照射する。

流石のゴルザもこの光線は吸収できず、後ろに倒れ爆散する。

ミラクル、マジカル「やった！」

ミラクルとマジカルはゼロがゴルザを倒したことを喜ぶ。

ゼロは町の方に向かい、自らのエネルギーで破壊された建物を修復する。

フェリーチェ「町が元に戻っていく……」

エコー「すごい……」

ミラクルとマジカルはフェリーチェ達の元に戻ってくる。

ゼロもウルティメイトブレスレットを掲げると、光が収束し、ミラクル達の元に舞い降り、青年の姿に戻る。

マジカル、フェリーチエ「あっ!？」

モフルン「さっきのお兄さんモフ！」

マジカルとフェリーチエとモフルンはゼロが青年の姿に戻ると、朝比奈家で看病した青年である事に驚く。

青年「よお。あいつの光線を跳ね返すとはやるじゃねえか。」

ミラクル「ありがとうございます！」

マジカル「いや、ミラクル。なに照れてるのよ。」

ミラクル「だって、私とマジカルを助けてくれたのはこの人なんだよ？」

ミラクルはマジカルに青年が自分達を助けてくれたことを話す。

エコー「あの、この人は？」

エコーは話がついていけず、ミラクルに聞く。

ミラクル「あ、エコーは初めて会うよね。とりあえず帰っていろいろ話そう。町も直ったし。」

青年「だな。それに起きてすぐ……ここまで来て……戦ったから……ちよつと……疲れた……」

対して青年はウルトラマンの事、M78星雲・光の国の事、他の宇宙での活躍の事、さらに時空移動中のトラブルによって訪れた時の事を話した。

みらい「本当に宇宙人がいるなんて！ワクワクもんだあ！」

ことは「ワクワクもんだし！」

モフルン「モフ！」

みらいは青年の話を聞いて興奮し、ことはもみらいのマネする。

リコ「でも、あなたが言っていた話ときつきの怪獣が現れた時の事を考えると物凄い非常事態よね。」

あゆみ「うん、もしかしたら他の場所にも……」

青年「多分な。」

リコは青年が言っていた時空移動中のトラブルとあゆみが話した時空の歪みから現れたゴルザについて深刻に考えていた。

グレル「妖精学校のことを気になるけどよ、あんちゃんの話だと妖精の世界に帰れるかどうか分かんねえよな？」

エンエン「うん、一度シロップさんに話さないか。まだナッツハウスにいるだろうし。」

グレルとエンエンは今の話を聞いて、妖精の世界に帰れるかどうか尋ねに行こうと考

える。

みらい「よし！だったら先輩のプリキュア達にこの事を伝えなきゃ！電話してくる！」

みらいは他のプリキュア達に連絡するため、リコの部屋から出る。

リコ「もう、すぐ突っ走るんだから・・・」

リコはみらいの行動に呆れる。

青年「さてと、俺もそろそろ出るか。大分休んだしな。」

青年はベッドから降りてリコの部屋から出ようとする。

リコ「あ、ちよつと待って！出ても構わないけど、自分がウルトラマンだつてことあ

まり言わないようにね。当分この世界にいるでしょうから今のあなたの名前を考えな

いと。」

青年「実はとつくに考えてあるんだ。モロボシ・シン。それが俺のもう一つの名前だ。」

青年は自分の人間の姿の名前をモロボシ・シンと名付ける。

あゆみ「シンさん、気を付けてください。私がこの町に来た時みたいに怪獣がいきな

り現れることもあるはずですから。」

シン「へっ。その時は返り討ちにしてやるぜ。じゃ、またな。」

シンはそう告げてリコの部屋から出て行った。

リコ（シンとあゆみが言っていた歪み・・・校長先生が言っていたのと何か関係が？）

リコはシンとあゆみの話を振り返って、校長先生が言っていた言葉を思い出す。

グレル「なあ、リコ。」

リコ「え、何？」

リコはグレルに話しかけられたので振り向く。

グレル「あの時シンのあんちゃんがお前に寝倒れた時どんな感じだったんだ？」

グレルは意地悪そうな顔でリコに尋ねる。

リコ「なっ!? ちょ、ちょっとグレル！何言ってるのよ!?!（／／／／）」

グレルの質問に顔を赤くして動揺するリコ。

ことはリコの反応に首を傾げる。

あゆみとエンエンはグレルの質問を聞いた後、顔を赤くなりながらもグレルに叱っていた。

ちなみにシンは朝日奈家から出た後、人目の付かないところでウルトラマンゼロになり、ウルティメイトイージスの力で時空移動できないか試したが、時空移動することができず、結局プリキュアの世界で滞在することになった。

醜悪な異星獣

知っているだろうか、前にエンエンが言っていたナッツハウスの事を。

ナッツハウスはナイトメア、エターナルの脅威に立ち向かったプリキュア5とミルキイローズ、そしてパルミエ王国の国王ココとナッツと運び屋のシロップが拠点にしているアクセサリーシヨップである。

そのナッツハウスの付近に新たな脅威が現れた。

？「プリキュア・シューティング・スター！」

ピンクの衣装を纏った女の子は光と一体化して半魚人の集団に突進する。

半魚人の集団の正体は半魚人兵士デイゴン。

水棲生命体スヒュームが操る戦闘員集団で母艦クラーコフに乗り込み、スーパーGU TSの隊員やウルトラマンダイナと戦ったことがある。

そして、そのデイゴンと戦っているのは夢原のぞみが変身するキュアドリームである。

彼女はプリキュア5のリーダーとなり、様々な脅威に立ち向かったプリキュアの一人である。

彼女の他にも夏木りんが変身するキュアルージュ、春日野うらが変身するキュアレモネード、秋元こまちが変身するキュアミント、水無月かれんが変身するキュアアクア、美々野くるみが変身するミルキイローズも共に多くの脅威に立ち向かった。

ドリームを除く5人のプリキュアも戦っている。

だが、彼女達が戦っているのはデイゴン達だけではなかった。

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

ミントは緑色の円盤を出し、大きな手を防いだ。

その手の正体は古代怪獣ゴメス。

ゴメスは原始怪鳥リトラの宿敵と呼ばれ、怪力が自慢の凶暴な怪獣である。

ちなみにこのゴメスは最初に現れた個体と同じサイズである。

ルージュ「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

ルージュは空中から4つの炎の球を蹴りだし、アクアは数本の水の矢を放つ。

デイゴンはそれを受け、爆発する。

ドリーム「もう一度！プリキュア・シューティング・スター！」

ドリームは再び光を纏ってデイゴンの集団に突進する。

これによってデイゴンは全滅する。

レモネード「プリキュア・プリズム・チェーン！」

レモネードは光のチェーンでゴメスの動きを封じる。

レモネード「ローズ、今です！」

ローズ「任せなさい！」

ローズはミルキイミラーを構える。

ローズ「邪悪な力を包み込む、煌くバラを咲かせましょう！」

ローズは巨大なバラを出す。

ローズ「ミルキイローズ・メタル・ブリザード！」

ローズは鉄紺色のバラの吹雪でゴメスを包み込む。

ゴメスはバラの吹雪の塊の中で消滅していく。

ドリーム「レモネード、ミント、ローズ！」

ドリーム、ルージユ、アクアはレモネード達の元に駆け付けた後、全員の変身を解く。

シロップ「うらら！大丈夫ロプ！」

シロップはうららに心配そうに言う。

うらら「大丈夫、この子のおかげだよ！」

うららは後ろを振り向いて大丈夫だと告げる。

りん「うらら、この子ってあんたねえ・・・」

ナツツ「その鳥は何だナツ・・・」

りん達はうららの背後を見ると、そこには5mほどの大きさの鳥がいた。

その鳥の名は原始怪鳥リトラ。

ゴメスの宿敵と呼ばれ、惑星ボリスで活躍を見せた鳥である。

うららとシロップの話によるとグレルとエンエンに呼ばれ、横浜まで飛び、人間界と妖精界との繋がりはどうなっているのかと話をし、その繋がりに関しては問題はないと教え、シロップがうららを家に帰す途中、そのリトラに会ったのだ。

襲ってくる気配はなく、家まで送った後、どこかへ飛んで行った。

そして次の日になって現在、レモネード達がゴメスと交戦中、リトラが颯爽と登場し、一緒にゴメスと戦ったのである。

かれん「もう、うららったら・・・」

のぞみ「でも、うらら達を助けたんなら、私達の味方ですよ!」

うらら「はい!」

のぞみは疑わず、リトラを味方だと言い放つ。

りん達はのぞみとうららのやり取りに苦笑いする。

場所が変わって・・・

？「はあく・・・皆どこ行ったんだろう・・・」

マゼンタ色の髪をした少女は町の中で寂しそうに歩いている。

彼女の名は星空みゆき。

又の名をキュアハッピー。

彼女はスマイルプリキュアのメンバーで、バッドエンド王国の魔の手から世界を救った戦士である。

彼女の他にキュアサニーこと日野あかね、キュアピースこと黄瀬やよい、キュアマーチこと緑川なお、キュアビューティこと青木れいかも共に戦っている。

今彼女はあかね達とはぐれ、ベンチの上に座っている。

みゆき「はあく・・・キャンディもやよいちゃんと一緒にだし・・・どうしよう・・・」
？「どうした？」

みゆき「あ、はい、お友達とはぐれてて・・・え？」

みゆきは声をした方向に振り向くと、シンの姿があった。

みゆき「うわああっ!?!び、びっくりした!」

シン「いや、そんなに驚くことか？」

シンはみゆきの反応に呆れる。

シン「それより、ダチとはぐれたんだって？よかつたら一緒に探すか？」

みゆき「えっ、いいんですか？」

シン「ああ。1人で探すより一緒に探した方がいいからな。」

みゆき「ありがとうございます！私、星空みゆきって言います！え〜つと・・・」

シン「俺はシン。モロボシ・シンだ。」

シンとみゆきは一緒にあかね達を探し始めた。

しかし20分後、結局見つからずベンチの上で一休みした。

みゆき「うう〜、見つからなくい・・・ハツププー・・・」

シン「これだけ広いと骨が折れるぜ。」

？「あれ？みゆき？」

シンとみゆきが振り向くと、茶髪の爽やかな男性がいた。

彼は小々田コージ、パルミエ王国の国王ココが人間界で生活している時に人間の姿となった妖精である。

同じ国王のナッツはもちろん、運び屋のシロップは人間の姿だけでなく大きな鳥の姿になることができる。

みゆき「あつ、ココさん。あ、いや！小々田先生！」

シン「知り合いか？」

みゆき「はい！この町に住んでる私の友達先生の先生です！」

シン（ここに住んでるダチって一体何人いんだよ？）

小々田（この男のブレスレット・・・そうか、彼が・・・）

小々田はシンのブレスレットを見て確信がついたような表情を浮かべる。

みゆきはシンと小々田を互いに紹介し、みゆきはあかね達とはぐれたことを小々田に話す。

小々田「あははは・・・それは災難だったね・・・」

みゆき「ムウ、笑わないでください！」

小々田「ああ、ごめんごめん。」

小々田が苦笑いしているのを見て怒るみゆき。

その時、腹の音が鳴り出す。

シン「？」

みゆき「お腹空いた・・・」

小々田「ちようどクレープ屋があるし、ご馳走にしよう。」

小々田はクレープ屋に寄り、3人分のクレープを買った。

そして、3人はベンチに向かう。

小々田「みゆき、途中でドジして落とさないようにね。」

みゆき「へっ!? お、落としませんよ……って、うわっ!?」

みゆきは小々田に注意され、落とさないと言いかけた途端転ぶ。

小々田「あ。」

シン（どうやったら平面にこけるんだよ……）

小々田はみゆきが転ぶのを目が点となって見て、シンは呆れた顔でみゆきを見る。

小々田「大丈夫かい？」

みゆき「はい……でも、クレープが……」

小々田はみゆきを起こす。

みゆきはクレープを落としたことに落ち込む。

シン「俺のをやるぜ。まだ口付けてねえしな。」

シンは自分のクレープをみゆきに差し出す。

みゆき「えっ!?! い、いいですよ! これは私が悪いんですから!」

シン「気にすんな。一食抜いたぐらいで大したことねえよ。それにダチを探してからずつと落ち込んでんだから、ああいう顔してるとこつちまでへこむんだよ。だから笑ってほしいんだ。お前は笑顔の方が似合ってるからな。」

みゆき「シンさん……ありがとうございます。じゃあ、遠慮なく。」

みゆきはシンから差し出したクレープを手にはペンチに座ってクレープを食べる。数分後、みゆき達はクレープを食べ終えた。

みゆき「シンさん、ありがとう。おかげで私、ウルトラハッピーになりました。」

シン「ウルトラ・・・ハッピー？」

みゆき「すごく幸せってことです。」

シン「へえ。」

みゆきはシンに感謝している。

？「みゆきーっ！」

シン、みゆき「！」

小々田「来たみたいだね。」

シンたちが振り向くと、あかね、やよい、なお、れいか、キャンディ、ポップがやって来た。

みゆき「あかねちゃん！やよいちゃん！なおちゃん！れいかちゃん！キャンディ！

ポップ！」

あかね「どこ行つとつたん！探したんやで！」

なお「心配したんだよ？」

みゆき「ごめん。」

やよい「でもよかった、やっと会えて……」
れいか「ええ。」

あかね達はみゆきと再会し、安心する。

シン（あいつらが抱えているぬいぐるみ……そうか。）

キャンディ「みゆき〜！」

みゆき「うわっ！キャンディ、ダメだよ！」

あかね「人がおんねんで！」

シン「大丈夫だ。お前らとそのぬいぐるみ達のこととはみらいとリコから聞いた。」

キャンディ「キャンディはぬいぐるみじゃないクル！」

キャンディはシンにぬいぐるみと言われて怒り出す。

みゆき「えっ、ちよつと待って！じゃあ、あなたは……」

ポップ（みらい殿とリコ殿から聞いたということは、この者が……）

？「ロブ〜！」

みゆき達はシンの発言に驚くが、上から声が聞こえてくる。

みゆき達は上を見上げると、大きな鳥となったシロップとそれを追うナメクジのよう
な3体の飛行物体がいる。

そのナメクジの飛行物体の正体はペドレオン。

ペドレオンは触手を使って人を食べるスペースビーストである。

過去に旅行中のバス乗客を一人残らず食べたことがある。

小々田「シロップ！」

なお「いやーっ！なにあれ！」

ポップ「なんと悍ましい！」

シン「ちっ！」

シンはウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを出し、銃のようなものに変形させ、ペドレオンに射撃する。

ウルトラゼロアイから発射した光線は3体のペドレオンに命中し、地面に墜落する。

シロップはペドレオンが落ちた所を見て、すぐにみゆき達の元に急ぐ。

そして、シロップはキャンディと同じ姿に戻る。

シロップ「た、助かったロプ・・・」

シン「いや、安心するのはまだ早い！」

シンが見たのは撃墜された3体のペドレオンが一カ所に集まる所である。

すると3体のペドレオンはスライムのようにくっつき、10 m程のサイズとなった。

しかも外見はウルトラマンネクサスが光線技で倒した、巨大化したペドレオンとなっている。

滑空する襲撃者

ペドレオンはシン達に詰め寄る。

みゆき「ナメクジさんが合体して大きくなった!？」

やよい「まるでフュージョンみたいに……」

シン「ペドレオン、多くの人間を喰うスペースビースト……グロい奴が出てきたな……」
みゆき達は3体のペドレオンが合体して大きくなるのを見て、フュージョンのようだと
言い放つ。

フュージョンは横浜でプリキュア達を倒したが、欠片となって散り散りになっていた
が、個々の欠片が一つになり、大きくなって力を付けた闇の存在である。

キュアハッピーとスイートプリキュアがフュージョンと戦っていた時、3体のフュー
ジョンが1つとなって大きくなったことがある。

ペドレオンは触手を伸ばし、みゆきの体を巻き付ける。

みゆき「キヤアアアアアアアアツ!!!」

ペドレオンは巻き付けたみゆきを捕食しようと引き寄せる。

あかね「みゆき!」

シン「ッ！」

シンは銃の状態となったウルトラゼロアイをゴーグル型にして装着する。そして、シンはウルトラマンゼロに変身する。

ちなみに今のゼロはペドレオンと同じサイズになっている。

ゼロ「させつかよ！」

ゼロはみゆきに巻き付いたペドレオンの触手を掴み、引き千切る。

ゼロはペドレオンを蹴り飛ばした後、みゆきをあかね達の元に下ろす。

なお「みゆきちゃん！」

れいか「大丈夫ですか!？」

みゆき「う、うん。」

やよい「うわー！かっこいい!!」

あかね「また始まったで・・・」

なおとれいかはみゆきのことを心配する反面、あかねはやよいのスーパーヒーロー好きに呆れる。

ゼロはこの光景を見て安心していた。

だがその時、ゼロの首に触手が巻き付かれ、その触手から電撃を発し、ゼロを苦しめる。

みゆき「みんな！」

みゆきの言葉にあかね達はスマイルパクトを構える。

幸い、ペドレオンが姿を現したことで、みゆき達以外の人達が一目散に逃げて行つて誰もいなかった。

みゆき達はスマイルパクトにキュアデコルをセットし、スマイルパクトから「レディー！」と発声する。

みゆき、あかね、やよい、なお、れいか「プリキュア、スマイルチャージ！」

みゆき達の掛け声の後、「ゴー！ゴー！レッツゴー！」と発声した時、パフが飛び出し、みゆきはパフを体にタツチし、あかねは指を鳴らして着火した後胸に当て、やよいは5回手拍子し、なおは前方に三角形を描き、れいかは息を吹きかける。

そしてみゆき達はピンク、オレンジ、黄色、緑、青の衣装を纏い、キュアハッピー、キュアサニー、キュアピース、キュアマーチ、キュアビューティに変身する。

ハッピー「キラキラ輝く未来の光！キュアハッピー！」

サニー「太陽サンサン熱血パワー！キュアサニー！」

ピース「ピカピカぴかりん、じゃんけんポン！キュアピース！」

マーチ「勇気リンリン直球勝負！キュアマーチ！」

ビューティ「しんしんと降り積もる、清き心！キュアビューティ！」

ハッピー、サニー、ピース、マーチ、ビューティ「5つの光が導く未来！輝け！スマイルプリキュア！」

ハッピー「ココさん！シロップさんをお願いします！」

小々田「わかった！」

シロップ「気を付けるロプ！」

ハッピー達はゼロの援護に回った。

ビューティは氷の剣を出し、ペドレオンの触手を斬る。

よってゼロは解放される。

ペドレオンは頭部から火球を4発発射する。

マーチ「プリキュア・マーチシユート！」

マーチは風を4つのボール状にし、火球に向けて蹴り飛ばす。

よって相殺する。

ペドレオンはもう一度火球を放つ。

サニー「プリキュア・サニーファイヤー！」

サニーは炎をボール状にし、バレーの要領で叩く。

よってまた相殺する。

ピース「プリキュア・ピースサンダー！」

ピースはペドレオンの頭上に雷光を放つ。

ペドレオンは感電され、フラフラし始める。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

ハッピーは手をハートの形に組んで光波を放つ。

ペドレオンはその光波に吹き飛ばされる。

ハッピー「ビューティ！」

ビューティ「はい！」

ビューティは氷の剣を消す。

ビューティ「プリキュア・ビューティブリザード！」

ビューティはペドレオンの足元を目掛けて光波上の冷気を放つ。

これでペドレオンの動きは封じられた。

ゼロ「さすがだな！」

ハッピー「シンさん、一緒にやりましょう！」

ゼロ「この姿ではゼロって呼んでくれ！」

ハッピー「わかりました！ゼロ！」

キャンディ「みんなの力を合わせるクル！」

キャンディの額から光が出てきて、ハッピー達はその光を手にするるとレインボーキュ

アデコルとなる。

レインボーキュアアデコルをスマイルパクトにセットする。

すると、5人の髪飾りがプリンセスティアラと羽飾りへと変化する。

ハッピー、サニー、ピース、マーチ、ビューティ「プリキュア・レインボーヒーリング！」

ハッピー達は手を重ね合わせて虹色の光波を放つ。

ゼロ「ワイドゼロショット！」

ゼロは左腕を横に伸ばした後L字を組むと右腕から光線を放つ。

ペドレオンはスマイルプリキュアのプリキュア・レインボーヒーリングとゼロのワイ

ドゼロショットを受け、消滅される。

被害にあった場所はゼロの力で元に戻した。

その後、ゼロは変身を解き、シンの姿に戻る。

スマイルプリキュアも元の姿に戻る。

シン「ふう・・・やるな、お前ら。」

シンはみゆき達の元に歩き出す。

その時、みゆきはシンの元に走り出して、シンに抱きつき、泣き出した。

あかね「みゆき？」

小々田「相当怖がってたんだね。シンが言ってたよ。あの怪物が人間を食べる恐ろしい奴だつて。もしシンがいなかったらみゆきはここにいなかったかもしれない。」

小々田はみゆきがシンに抱きつく理由を言い出す。

シン「泣くなみゆき。あんな目にあつたら泣くのも無理はないが、そんなに泣いたらダチだつて不安になるだろ？あの時言つたよな？笑つてほしいつて。お前は笑顔の方が似合つてるつて。なのにそんな風にへこたれちゃ、前に進めねえだろ？」

キャンデイ「そうクル！みゆきはあの時言つたクル！泣いてるとハッピーが逃げちゃうつて言つたクル！シンの言う通り笑つてほしいクル！」

シンとキャンデイはみゆきを励ます。

みゆき「うん、シンさんとキャンデイの言う通りだね。笑わなきゃ。スマイル、スマイル！」

シン「そうこなくちゃな。」

みゆきは涙を拭いて笑顔を見せる。

シンはそのみゆきの頭を撫でる。

あかね「せやけどシロップがああ怪物を連れてこおへんかつたらみゆきは酷い目に合わへんかつたんちゃう？」

シロップ「シロップのせいじゃないロップ！ココが帰ってくるの遅いから迎えに行つて

たら、目の前にいきなりあいつらが出てきてシロップを襲ってきたんだロプ！ナッツハウスの近くにも同じようにいきなり怖い怪獣や魚人が出てきたロプ！まあ、そいつらのぞみ達とうららが友達になった鳥に倒されたけどロプ。」

シロップはペドレオンに襲われた理由を話す。

シン「あのキモイ奴の他にも怪獣が出てきたのか？」

シロップ「そうロプ。でも大した被害はないから事なきを得たロプ。」

みゆき達はナッツハウスの近くに怪獣が出てきたことを聞いて驚いたが、すでに倒したことを聞いて安心した。

その時、上空から鳴き声が響いた。

シン達は上を見上げる。

上空に飛行しているのは三日月状の頭に右腕の鎌を持つ怪獣だった。

名は超合成獣ネオガイガレード。

ネオガイガレードは彗星怪獣ガイガレードが宇宙球体スフィアに融合させられた怪獣である。

暗黒惑星グランスフィアの掃討を阻止するため、スーパーGUTSの隊員を人質にしたことがある。

シン「あれがダイナが言ったスフィア合成獣、ネオガイガレードか！」

小々田「あの方向は・・・ナッツハウス!？」

小々田はネオガイガレードの飛んでいく方向を見て、ナッツハウスに向かってしていると気づく。

あかね「さっきの怪物よりでかいで！」

れいか「あれほど大きい怪獣に攻め込まれたら、いくらドリーム達でも！」

みゆき「急ごう！」

小々田「シロップ！お疲れのようだけど奴を追うぞ！」

シロップ「わかったロブ！」

ポップ「皆の衆！乗るでござる！」

シロップとポップは鳥の姿になり、シン達を乗せて、ネオガイガレードの後を追う。

その頃、ナッツハウスでは外にいるリトラが何かを察知したのか急に鳴き始める。

うらら「どうしたの鳥さん？」

こまち「何かあったの？」

リトラの鳴き声に気付き、尋ねるうらら。

ナッツハウスの中にいるナッツとミルクも何かを察知する。

ナッツ「何か来たナツ！」

ミルク「さっきの奴らより強い力を感じるミルク！」

ちようどその時、ナッツハウスが揺れ始める。

外を見てみると、ネオガイガレードが現れた。

のぞみ「なにこれ!？」

りん「でかすぎでしょ!？」

ネオガイガレードはナッツハウスに向かって歩き出す。

かれん「こつちに向かってくるわ！」

のぞみ「どれほど大きくてもナッツハウスを壊させない!皆、いくよ！」

りん達「YES！」

のぞみ達はキュアモを取り出し、ミルクはくるみの姿に変わる。

のぞみ達はキュアモを開けて3つのボタンを押し、「プリキュア・メタモルフオーゼ

！」と唱える。

すると、キュアモの画面から光が現れ、バラをイメージした衣装を身に纏い、のぞみはキュアドリーム、りんはキュアルージュ、うらははキュアレモネード、こまちはキュアミント、かれんはキュアアクアに変身する。

ドリーム「大いなる希望の力！キュアドリーム！」

ルージュ「情熱の赤い炎！キュアルージュ！」

レモネード「はじけるレモンの香り！キュアレモネード！」

ミント「安らぎの緑の大地！キュアミント！」

アクア「知性の青き泉！キュアアクア！」

ドリーム、ルージュ、レモネード、ミント、アクア「希望の力と未来の光！華麗に羽ばたく5つの心！YES！プリキュア5！」

くるみはミルクイパレットをタツチペンでスイツチを押し、「スカイローズ・トランスレイト！」と唱えるとくるみの周りに青いバラが包まれる。

そして、青いバラをイメージした衣装を身に纏い、ミルクイローズに変身する。

ローズ「青いバラは秘密のしるし！ミルクイローズ！」

プリキュア5とミルクイローズはネオガイガレードの前に立ちはだかる。

リトラとの共闘

ドリームを先頭にネオガイガレードに向かって走り出す。

ネオガイガレードは右腕の鎌を振り下ろす。

ドリーム達はその鎌を躲す。

ドリームとローズは右腕に乗り移ってネオガイガレードの顔に向かって走り出す。

レモネード「プリキュア・プリズムチェーン！」

レモネードはプリキュア・プリズムチェーンで右腕を縛りつける。

ドリームとローズはネオガイガレードの顔に辿り着き、思い切りパンチを喰らわす。

しかし、思いの外硬かったのか、2人の手が痛み出す。

ドリーム「いった〜い！」

ローズ「なんて硬さなの!?!」

ネオガイガレードはレモネードが捕らえた右腕を振り回す。

振り回されたレモネードはドリームとローズにぶつかる。

ルージュー「プリキュア・ファイヤーストライク！」

ミント「プリキュア・エメラルドソーサー！」

アクア「プリキュア・サファイアアロー!」

ルージュはプリキュア・ファイヤーストライク、ミントはプリキュア・エメラルドソーサー、アクアはプリキュア・サファイアアローを繰り出す。

しかし、ネオガイガレードは亜空間バリヤーを張り、直後に赤色破壊光線を繰り出す。

ルージュ、ミント、アクア「キャアアアアアアアアッ!!!」

ルージュ達はネオガイガレードの赤色破壊光線を受け、吹き飛ばされる。

ネオガイガレードはルージュ達の元に歩き出す。

ローズ「させないわよ!」

ローズは地面にパンチする。

すると、そこにクレーターができ、ネオガイガレードのバランスが崩れ、仰向けに倒れる。

ドリーム「プリキュア・シューティングスター!」

ドリームはプリキュア・シューティングスターを繰り出す。

すると、ネオガイガレードは腹に穴が開き、そこから小隕石群を発射する。

ドリーム「ええっ!? ちよ、ちよっと! うわっ、わっ! キャアアッ!!」

ドリームは突然小隕石群が出てきたことに驚き、避け続けるが、一つの小隕石に命中される。

ローズ「だったら、これはどう!？」

ローズはミルキイミラーを構える。

ローズ「邪悪な力を包み込む、煌くバラを咲かせましょう!ミルキイローズ・メタルブリザード!」

ローズはミルキイローズ・メタルブリザードを繰り出す。

鉄紺色のバラをネオガイガレードを包み込む。

しかし包み込んだバラから鉤爪が出てきて、ローズを捕らえる。

ローズ「キャアツ!う、うそでしょ!？」

ネオガイガレードは立ち上がり、捕らえたローズを地面に叩きつける。

レモネード「プリキュア・プリズムチェーン!」

レモネードはプリキュア・プリズムチェーンでネオガイガレードの足を絡ませて引く張る。

しかし、ネオガイガレードはバランスが崩れることなく、右手の鎌を振り上げる。

その時、ネオガイガレードの頭に火の玉が当たる。

その火の玉に怯んだネオガイガレード。

レモネードはそれを狙い、思い切り引く張る。

よって、ネオガイガレードは仰向けに倒れる。

レモネード「あ、鳥さん！」

レモネードは上を見上げると、リトラが飛行していた。

先程の火の玉はリトラが放っていたものである。

ネオガイガレードは起き上がり、リトラに向けて赤色破壊光線を放とうとする。

？「プリキュア・ピースサンダー！」

その時、雷がネオガイガレードが放とうとしたエネルギーに当たり爆発する。

よってネオガイガレードは再び倒れる。

ルージュ「今の雷……」

アクア「ええ！」

ルージュ達は先程の雷に心当たりがあり、空を見上げる。

サニー「やっと追いついたで！」

ビューティ「間に合ってよかったです。」

空を飛んでいるのは鳥の姿になったシロップとポップ。

そして、シロップの上にはシンと小々田が、ポップの上にはスマイルプリキュアが乗っている。

シン「あれはリトラか！」

シロップ「知ってるロブ？」

シン「ああ！人間に友好的な原始怪鳥だ！」

リトラは倒れたネオガイガレードに嘴で攻撃する。

ネオガイガレードはリトラを鉤爪で反撃する。

その後、再び起き上がる。

ビューティ「プリキュア・ビューティブリザード！」

ビューティはプリキュア・ビューティブリザードでネオガイガレードの足を凍らせる。
る。

サニー「よっしゃ！一気にいくで！」

ハッピー達はポツプから飛び降りて技を放つ準備をする。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

サニー「プリキュア・サニーファイヤー！」

ピース「プリキュア・ピースサンダー！」

マーチ「プリキュア・マーチシュート！」

ビューティ「プリキュア・ビューティブリザード！」

ハッピー達は一斉に技を放つ。

しかし、ネオガイガレードは亜空間バリヤーを張り、ハッピー達の技を防ぐ。

ハッピー「バリヤー!?!」

ネオガイガレードは腹から小隕石群を発射する。

ハッピー達「キヤアアアアアアアアアッ!!!」

ハッピー達はポップから飛び降りて空中で技を放ったので、当然命中される。

ネオガイガレードは足の氷を力づくで破壊する。

リトラはネオガイガレードに火球を放ち、命中させる。

ネオガイガレードはリトラを追うように飛行する。

リトラはネオガイガレードから振り切ろうとするが、スピードはネオガイガレードが上ですぐに追いつかれる。

ネオガイガレードは右手の鎌でリトラを叩き落とす。

リトラは持ちこたえようとするが、上手く飛べず、地上に墜落する。

レモネード「鳥さん！」

シロップ「レモネード！」

レモネードは振り返るとシロップが下りてきて元の姿に戻り、レモネードの元に走る。

レモネード「シロップ！」

シロップ「大丈夫ロプ!？」

レモネード「うん！」

ドリーム「おっい！」

レモネードは振り向くと、ドリーム達が走ってきた。

アクア「レモネード、大丈夫？」

レモネード「大丈夫です。」

ドリーム「ココ、この人は？」

小々田「先日みらいが話していた男だよ。」

ミント「じゃあ、この人が……」

ルージユ「ウルトラマン……」

ドリーム達はシンを見つめる。

シン「来るぞ！」

ドリーム達は振り返ると、ネオガイガレードが戻って来た。

ハッピー「みんな！」

ハッピーはドリーム達の元に合流する。

アクア「腹部から出てくる隕石群、鎧みたいに頑丈な皮膚に、私たちの技を寄せ付けないバリアー……厄介極まりないわね。」

ハッピー「でも、なんとかしないと。」

シン「みんなはリトラを頼む。」

ハッピー「えっ?」

シンはハッピーの肩に手を置いて前に出る。

その後、シンはウルティメイトブレスレットを前に出し、ウルトラゼロアイを出す。

そして、ウルトラゼロアイをランの目に装着する。

よってシンはウルトラマンゼロに変身する。

ドリーム「えっ!?」

ルージュー「ホントに変身した・・・」

サニー「さっきのよりでかなつとる!」

ドリームはゼロの姿に驚愕する。

ピース「うわあああああつ!すつごうい!」

サニー「またそのリアクションかい!」

ピースのリアクションにつっこむサニー。

小々田「ナッツ、ミルクは?」

ミルク「ココ様、ナッツ様。こちらですミルク・・・」

小々田は振り向くとポロポロになったミルクが一步ずつ近づいていた。

小々田「ミルク!」

ナッツ「大丈夫ナッツ!」

ミルク「大丈夫ですミル、お二人ともご無事で。」

先程の戦闘で力尽きたのか小々田の足元に倒れるミルク。

小々田はミルクを抱き上げる。

キャンデイ「ミルク！しっかりするクル！」

ポップ「皆の衆、リトラ殿は拙者たちに任せて、ゼロ殿の援護をするでござる！」

ハッピー「わかった！」

ハッピー達はリトラをポップ達に任せ、ゼロの援護に向かう。

V S ネオガイガレード

ゼロはリトラをプリキュア達に任せ、ネオガイガレードに挑む。

ゼロはネオガイガレードの右手の鎌を躲し、腹にキックをお見舞いする。

怯んだネオガイガレードを見て更なる攻撃を繰り返すゼロだが、ネオガイガレードは即座に反撃する。

ゼロ「てめえがそのつもりなら、こっちも行くぜ！」

ゼロはゼロスラッガーを構え、ネオガイガレードの右手の鎌をチャンバラのように捌く。

ゼロは隙を狙ってネオガイガレードの脇腹を蹴る。

ゼロ（こいつは光線技を使う時、バリアーを使うからな。あの鎌を押し折ってゼロツインソードで止めだ。）

ネオガイガレードは鎌を振りかぶってゼロを襲い掛かる。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

その時、ネオガイガレードの背後にピンクの光波が命中する。

ネオガイガレードはその衝撃で前に倒れる。

ゼロはネオガイガレードの後ろを見てみると、スマイルプリキュアとプリキュア5がいた。

ゼロ「お前ら！」

ハッピー「ゼロ！私達も戦います！」

ドリーム「リトラはココに任せてるよ！」

ゼロ「へへっ、頼りにしてるぜ！」

ゼロはハッピー達と一緒にネオガイガレード撃破を行う。

一方、小々田はリトラの元に辿り着いた。

シロップ「リトラ！大丈夫ロブ!？」

シロップはリトラの心配をかける。

リトラはシロップの声に気が付き、再び飛び上がろうとする。

シロップ「無理に動いちゃ駄目ロブ！あいつはゼロが何とかしてるからジツとしてるロブ！」

ポップ「そうでござる！今は大人しくするでござる！」

ナッツ「ココ！」

小々田「ああ！」

小々田は妖精の姿であるココに戻り、ナッツと共に不思議な力でリトラの回復に努め

た

キャンディ「ミルク、大丈夫クル？」

ミルク「体全体が痛むけど、大分マシになったミル。」

ミルクはポップが念の為に持つてきた薬で少しずつ回復している。

ミルク「でも、あの怪獣をどうすれば・・・」

キャンディ「大丈夫クル！プリキュアとゼロは負けないクル！」

キャンディはミルクにそう言い出す。

ルージュ「プリキュア・ファイヤーストライク！」

マーチ「プリキュア・マーチシュート！」

ルージュはプリキュア・ファイヤーストライクを、マーチはプリキュア・マーチシュートを放つ。

ネオガイガレードは亜空間バリヤーで防御する。

そこでゼロはネオガイガレードにキックをお見舞いする。

ミント「プリキュア・エメラルドソーサー！」

ミントはプリキュア・エメラルドソーサーを繰り出す。

ネオガイガレードは亜空間バリヤーを張る。

その時、サニーとアクアが緑の円盤に飛び移った後、更にジャンプし、ネオガイガレ

ドの真上に見下ろす。

サニー「プリキュア・サニーファイヤー！」

アクア「プリキュア・サファイアアロー！」

サニーはプリキュア・サニーファイヤーをアクアはプリキュア・サファイアアローを放ち、命中させる。

よってネオガイガレードのバリヤーが解かれ、ミントのエメラルドソーサーが直撃する。

レモネード「プリキュア・プリズムチェーン！」

ビューティ「プリキュア・ビューティブリザード！」

レモネードはプリキュア・プリズムチェーンでネオガイガレードの両腕を動かせないように縛りつけ、更にビューティはプリキュア・ビューティブリザードでレモネードのプリズムチェーンを凍らせる。

ピース「プリキュア・ピースサンダー！」

ピースはプリキュア・ピースサンダーを放つ。

それを浴びたネオガイガレードは感電され、フラフラになる。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

ドリーム「プリキュア・シューティングスター！」

ハッピーはプリキュア・ハッピーシャワーを発射し、ドリームはプリキュア・シューティングスターを使い、ハッピーのハッピーシャワーの中に入り、猛スピードで凍らせたプリズムチェーンごと右手の鎌を破壊した。

ドリーム「やった！」

ハッピー「ゼロ！今です！」

ゼロ「おう！」

ゼロはゼロスラッガーを前に出す。

すると、ゼロスラッガーが弓のような形をした大剣となる。

ハッピー「よし、これで勝てる！」

ハッピーはこれでネオガイガレードを倒せると思い始める。

しかし・・・

ハッピー「キャアアッ!？」

突然ハッピーが何かに掴まれる。

ネオガイガレードの左腕の鉤爪だ。

ゼロがゼロツインソードに合体した時にネオガイガレードは左腕を分離してハッピーを捕らえたのだ。

ゼロ「なっ!？」

ゼロはネオガイガレードがハッピーを捕らえた事に驚き、ゼロツインソードの構えを解いた。

ネオガイガレードは捕らえたハッピーをゼロに見せ付ける。

ドリーム「ハッピー！」

サニー「なんちゆう卑怯な奴や！」

ネオガイガレードは腹から小隕石群を発射し、ゼロにダメージを与える。

ゼロ「グアアツ!!」

ゼロは倒れ、構えていたゼロツインソードが手放され、後ろに飛ばされる。

ゼロは今のダメージでカラータイマーが点滅する。

更にネオガイガレードはドリーム達に向け、光弾を連射する。

ドリーム達「キヤアアアアアアアアアツ!!!」

ドリーム達はネオガイガレードの光弾を受け、倒れてしまう。

すると、レモネード以外のプリキュアの変身が解除される。

ネオガイガレードはゼロの元に歩き出す。

シロップ「ゼロが危ないロプ！」

ポップ「しかし、ハッピー殿が人質にされている以上、反撃ができないでござる！」

シロップ達は今の戦況を見て狼狽える。

その時、リトラが鳴き出し、飛び上がる。

シロップ「リトラ！無茶するなロプ！」

ナツツ「まだ傷が治っていないナツ！」

ココ「戻るココ！」

リトラはシロップ達の制止を聞かず、ネオガイガレードの背後に近づく。

リトラは液体を吐き出し、ネオガイガレードを浴びる。

リトラが吐き出した液体はシトロネアシッドという強酸性の液体である。

リトラはその液体でゴメスや巨大植物ジユランを絶命したが、同時にリトラ自身も死んでしまったのだ。

シトロネアシッドを受けたネオガイガレードは苦しみ出し、捕らえたハッピーを放り投げる。

ゼロはそのハッピーを受け止める。

ゼロ「大丈夫か!？」

ハッピー「はい！でも、いったい何が？」

ゼロ「リトラの奴、最後の武器を使ったのか。」

ハッピー「最後の武器？」

ゼロ「あいつが吐き出す酸は強力だが、そいつを使うと死んじゃうんだ。」

ハッピー「そんな!? 私のためにそんなことを!？」

ハッピーはゼロからリトラの最後の武器を聞き、驚愕する。

ネオガイガレードは怒りが心頭したのか、シトロネラアシッドを使い、死にかけて墜落しようとするリトラに光弾を放つ。

ハッピー「あっ!」

光弾を受けたリトラは火達磨になり、墜落した。

レモネード「リトラさああああああん!!!」

レモネードは涙目になってリトラに叫ぶ。

のぞみ「リトラ!」

れいか「なんてことを・・・」

ネオガイガレードは再びゼロの元に歩き出す。

ゼロ「ハッピー、ここにいろ・・・」

ハッピー「ゼロ・・・」

ゼロはハッピーを下ろし、ウルトラ念力でゼロツインソードを手を持つ。

ハッピーは今のゼロは怒っているように見えた。

ゼロ「このクズ野郎が・・・ハッピーを人質にただけじゃなく、死にかけてリトラに止めを刺しやがって・・・!」

ゼロは猛スピードでネオガイガレードに向かって飛翔する。

ネオガイガレードは亜空間バリヤーを張る。

しかし、ゼロはお構いなくゼロツインソードで横一線に両断する。

ネオガイガレードの亜空間バリヤー諸共斬り裂かれ、後ろに倒れ、爆発する。

ゼロはゼロツインソードを元のゼロスラッガーに戻す。

そして、リトラの方に目を向ける。

リトラの近くにはレモネードがいた。

レモネード「リトラさん……」

レモネードはリトラの遺体を見て、涙を流していた。

ハッピー達もレモネードと合流し、リトラの遺体を見る。

ハッピー「リトラ、あの怪物はゼロが倒してくれたよ。シロップさんから聞いたよ。

うららちゃんと友達になったんだよね。君のおかげでうららちゃんもみんなも無事だ

よ。」

ハッピーは笑顔でリトラに言いかける。

ハッピー「私達、ゼロや君のような力はないけど、みんなの笑顔を守り続けるから。だ

から、天国に行っても、笑顔で見守っててね。」

ハッピーはリトラに頬を寄せて涙を流しながら笑顔のままに言う。

ゼロはこの光景を見届けていた。

ネオガイガレードの戦いを終えた後、シンは墓石の前で合掌していた。

この墓石はウルトラマンレオがチェンジングビームで鬼怪獣オニオンをリングの木に変えたように、ウルトラマンゼロがチェンジングビームでリトラを墓石に変えたのだ。

シン（ありがとな、リトラ：：お前がいなかったらみゆきを助けられなかったし、あいつを倒すことができなかつた・・・）

？「シン。」

シンは後ろに振り向くと、シロップが人間の姿になつた少年甘井シローがいた。

シン「シロップか。」

シロー「もう行くのか？」

シン「いつまでもここに居るわけにはいかねえんだ。他の場所にも怪獣が出て来るかも知れねえからな。」

シロー「そっか・・・」

シンはリトラの供養を終えた後、その場から去ろうとする。

シロー「シン！」

シン「なんだ？」

シロー「その・・・ありがとな、リトラを供養してくれて・・・」
シローは指で頬を擦り、リトラを供養してくれたことに礼を言う。

シン「ダチだからな。こんなの当り前だぜ。」

シンはシローにそう言って去って行った。

シンは他のプリキュアに会うためにナッツハウスから離れた。

月の輪怪獣、現る!

管理国家ラビリンズ。

それは、総統メビウスが苦しみも悲しみもない世界を作るために生まれた組織である。

しかし、この世界はフレッシュユプリキュアの活躍によって、メビウスが消滅される。そして現在、メビウス亡き後、キュアパッションこと東せつなどウエスターとサウラーとともに、ラビリンズの世界を幸せな国にするために再建を行っている。

ただ、今も他世界の管理をしている時、問題が起きた。

時空の歪みによる他世界への遮断である。

幸い妖精たちの世界やキュアピーチこと桃園ラブ、キュアベリーこと蒼乃美希、キュアパインこと山吹祈里が住んでいる世界は問題なく行き来できるが、何が原因で他の世界へ行けなくなったのか解明されていない。

もう一つ問題があった。

ラブ達の世界に突如現れた怪獣たちである。

その怪獣たちが現れたのも、時空の歪みに寄るものなのか分からないが、この2つの

問題を現在調査中である。

せつな（タルト達とラブ達の世界はちゃんと行けるのに、プリズムフラワーには何の影響もないのに、時空が歪んで別世界に行けなくなり、50m以上の怪獣が現れるなんて・・・いったい何が・・・）

せつなは今までの経緯に深刻に考えていた。

せつなはラピリンスを幸せな国にするために戻って来たので、ラブ達の世界には滅多に来なかったのだ。

しかし、先程話していた通り、その世界に突如怪獣が現れたため、やはり気になっていたので。

？「あ、せつなちゃん！」

せつなは誰かに声をかけられたので振り向く。

そこには白衣を纏い、黒のロングヘアーの女性が立っていた。

せつな「あなたは確か、新真奈美博士？」

せつなはその女性を新真奈美と呼ぶ。

彼女は妖精の世界の研究や、時空転移ゲート『デイメンジョンゲート』の発明をしている。
いる。

尚、デイメンジョンゲートはプリズムフラワーの力に頼ることなく独自に開発してい

た代物だったが、公表はせず、発明したゲートは一つだけである。

その理由はデイメンジョンゲートの悪用を避けるためである。

それを知っているのは自分の家族とゲートの存在を極秘することを約束した科学者だけ。

真奈美がラビリンスの世界に来たのはそのデイメンジョンゲートがあるからなのだ。

真奈美「お友達の所に行くの？」

せつな「はい。今までの怪獣の出現、みらいが言っていたウルトラマンによって倒されたけど、どうしても気になって・・・」

真奈美「でしょうね。サウラー君が見せてくれた映像を見たけど、その怪獣より強い敵が現れるかもしれないからね。」

せつなは真奈美の言葉に頷く。

真奈美「でも、だから黙って黙って見ているわけにはいかないでしょう？あなたにはお友達がいるから。あなた達プリキュアの辞書に『諦める』って言葉はないでしょう？」

せつな「・・・はい。」

せつなは真奈美の言葉に笑顔で頷いた。

真奈美がプリキュアの正体を知っているのはデイメンジョンゲートでこの世界に来

た時である。

しかし、真奈美はせつな達がプリキュアとして戦っていることを秘密にしている。

せつな「あの、よかつたら私のアカルンで戻りますか？」

真奈美「いいえ、そんなに急ぐ用事はないから気にしないで。それにちゃんと自分の足で帰っておおきなきゃ。」

せつなは真奈美にアカルンの力で帰そうとするが、真奈美はせつなの誘いを断った。

真奈美「それじゃ、何かわかつたら連絡するわ。失礼。」

真奈美はせつなに手を振って去って行った。

その頃・・・

？「美希たん、お待たせ〜！」

ここはフレッシュプリキュアが活躍していた町、四つ葉町。

この町で明日に控えたファッションショーが開かれることになり、今はその準備をしている。

その四つ葉町にマゼンタ色のツインテールの少女と小柄な体格をした少女と茶髪のを

シヨートヘアの少女がラブ達の前に駆け寄る。

彼女達はハートキャッチプリキュアのキュアブロッサムこと花咲つぼみ、キュアマリンこと来海えりか、キュアサンシャインこと明堂院いつき、キュアムーンライトこと月影ゆりである。

彼女達は希望ヶ花市で砂漠の使徒と交戦した伝説の戦士である。

パリでもモン・サン||ミシエルに封印された元砂漠の使徒サラマンダー男爵を相手にしたことがある。

美希「明日のファツションシヨ、ももかさんも来てくれるのよね。」

えりか「そりやあもう！楽しみにしてるよ！明日のファツションシヨ、このファツションデザイナー兼スタイリストを目指すファツション部部长兼フェアリードロップオーナーの娘の来海えりかに任せんしゃい！」

？「えりか、相変わらず調子がいいですつ。」

えりかの後ろから出てきたのはパートナーの妖精・コフレ。

シプレとポプリも一緒である。

コフレ「明日のファツションシヨのために美希達に会いに行こうって言って遅刻したのはどこの誰ですかっ。」

えりか「うるさい！」

コフレの一言に喧嘩腰になるえりか。

一方、ラブ達はつぼみがつ持っている紙袋を気に掛ける。

タルト「ブロッサムはん、その袋はなんや？」

シフォン「プリ？」

つぼみ「はい、3日前にシンさんがふたばを助けてくれたので、そのお礼にシンさんにプレゼントしようと思って持って来たんです。」

祈里「シンさんって？」

ゆり「あなた達も知っているでしょう？津成木町に現れた巨人の事を。」

いつき「みらいが話していた男の人だよ。」

ラブ「えーっ!?!もしかして会ったの!?!」

つぼみから、つぼみがシンに会っていたことに驚くラブと祈里。

つぼみ「はい、ふたばと一緒に散歩に出かけていた時・・・」

~~~~~回想~~~~~

3日前、つぼみがふたばを乗せた乳母車を押して歩いた時、途中で躓いてしまい、手を放してしまった。

しかも、その先には下り坂になっており、ふたばが乗っている乳母車は猛スピードで坂に降りてしまう。

つぼみ「ああっっ!!ふたばあくっ!!」

つぼみは即座に追いかけるが、追いつけず距離が離されてしまう。

その時、乳母車の前にシンの姿があり、シンはその乳母車を受け止めた。

シン「ふっっ・・・危なかったぜ・・・」

つぼみ「すみませくん!」

シンは振り向くと、走って来たつぼみがやって来た。

つぼみ「ありがとうございます!妹のふたばを助けてくれて!」

シン「この赤ちゃん、お前の妹か。」

つぼみ「はい!ふたば、大丈夫でしたか!」

つぼみは心配そうにふたばに話しかけるが、ふたばは元気そうな様子であり、つぼみはホッとした。

シン「どうやら大丈夫そうだな。」

つぼみ「はい。」

つぼみは落ち着いたところで改めて礼を言う。

つぼみ「あの、ふたばを助けてくれてありがとうございます。」

シン「いいってことよ。」

つぼみ「あの、お名前は?」

シン「俺はシン。モロボシ・シンだ。」

つぼみ「えっ?!もしかして、りんさんが話してた!？」

つぼみはシンの名前を聞くと、りんから連絡があったウルトラマンゼロのことを思い出す。

その後、お互いにプリキュアの事やウルトラマンのことを話し合いながら散歩を続ける。

ちなみにつぼみはこころの大樹の事も教え、シンをそこに連れて行った。

その時につぼみとシンとふたばに写真を撮らせている。

そして、数十分後・・・

つぼみ「シンさん、一緒に付き合ってくださいありがとうございます。」

シン「ああ、楽しかったぜ。」

つぼみ「シンさん。また会えますよね?」

シン「ああ!」

シンはつぼみと別れ、去って行った。

~~~~~回想終了~~~~~

これがつぼみとシンの出会いである。

ラブ「みらいちゃんが言っていたウルトラマンに会うなんてやるね〜!」

美希「ねえ、その人の顔を見た時惚れたんでしょ? そうじゃなきゃ一緒に写真撮ったりしないからね。」

つぼみ「はうう〜! 美希さんの言う通りですう。あの人の顔を見た時とてもかつこよかつたんですよ。(〓〓〓〓)」

えりか「出たよ、つぼみの面食い。」

えりかは惚気たつぼみを見て呆れる。

祈里「それじゃ、またシンさんっていう人に会ったら渡すつもりなの?」

つぼみ「はい!」

つぼみは赤面して返事する。

えりか「でも、つぼみはいつきやコツペ様に失恋しちゃったんだよね。」

いつき「うん、僕の事を男と間違われた時やコツペ様が正体現した時、結構シヨック受けてたぐらいだから。」

シプレ「その流れを考えるとまた失恋するかもですう。」

コフレ「二度あることは三度あるっていうですつ。」

ポプリ「でしゅ!」

ゆりを除くえりか達はつぼみがまた失恋するだろうとひそひそする。

つぼみ「皆さん、聞こえてますよ! 揃いも揃って酷いです! 今度は必ず恋を実らせて

みせます！」

つぼみはえりか達の発言に怒り、今度は恋を実らせると主張する。

その時、遠くから震動音が鳴り響いた。

ラブ「な、なに!？」

えりか「遠くから音がするっしゅ！」

美希「この音、占い館があつた森の方だわ！」

ゆり「行きましょう！」

つぼみ達「はい！」

つぼみ達は四ツ葉町郊外に向かった。

一方、せつなはアカルンで四ツ葉町に来ていた頃、突然地面が揺れ始めた。

せつな「なに!?!この揺れ!？」

その時、四ツ葉町郊外の地面から月の輪怪獣クレッセントが現れた。

クレッセントはウルトラマン80が初めて戦ったマイナスエネルギーによつて誕生した怪獣である。

最初は完全に実体化していなかったが、少しずつ力を蓄えたことでようやく実体化に成功した。

せつな「もう怪獣が・・・！」

ラブ「せつな！」

せつなはラブの声が聞こえたので振り向くと、ラブ達とつぼみ達がやって来た。

せつな「ラブ！つぼみ達まで！」

つぼみ「お久しぶりです！」

ゆり「挨拶は後にしなさい！あの怪獣を町に近づいたらいけないわ！」

ラブ達「はい！」

ラブ達はリンクルンを、つぼみ達はココロパフォームを、ゆりはココロポットを構える。

マグマを喰う超獣

ラブ、美希、祈里、せつなはピックルンをリンクルンにセットし、ローラーを回すと、画面から光が発生する。

ラブ達「チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

ラブはピンクを基調としたコスチュームに、美希は青を基調としたコスチュームに、祈里は黄色を基調としたコスチュームに、せつなは赤を基調としたコスチュームに変わる。

よって彼女達は、キュアピーチ、キュアベリー、キュアパイン、キュアパッションに変身した。

ピーチ「ピンクのハートは愛あるしるし！もぎたてフレッシュユ、キュアピーチ！」

ベリー「ブルーのハートは希望のしるし！つみたてフレッシュユ、キュアベリー！」

パイン「イエローハートは祈りのしるし！とれたてフレッシュユ、キュアパイン！」

パッション「真っ赤なハートは幸せの証！うれたてフレッシュユ、キュアパッション！」

ピーチ達「レッツ、プリキュア！」

シプレとコフレとポプリは「プリキュアの種、いくですう！」と言い出した時、シプ

レ達のブローチからプリキュアの種が現れ、つぼみ達はその種を手を持つ。

つぼみ達「プリキュア・オーブンマイハート！」

つぼみとえりかはココロパフュームに、いつきはシャイニーパフュームに、ゆりはココロポットにプリキュアの種をセツトする。

つぼみとえりかはココロパフュームを、いつきはシャイニーパフュームを吹きかけた時、ピンク、青、ゴールドを基調としたコスチュームに変わり、ゆりも銀色と藍色を主な基調としたコスチュームに変わる。

よつて彼女達は、キュアブロッサム、キュアマリン、キュアサンシャイン、キュアムーンライトに変身した。

ブロッサム「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！」

マリン「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！」

サンシャイン「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」

ムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

ブロッサム達「ハートキャッチプリキュア！」

クレッセントは両目から熱線を発射する。

サンシャイン「サンフラワー・イーゼス」

サンシャインはひまわりのシールドを展開し、熱線を反射する。

クレツセントは反射された熱線を受けて怯んだ。

パツシヨン「ブロッサム！マリリン！」

ブロッサム「はい！」

マリリン「やるっしゅ！」

シプレとコフレはマントとなり、ブロッサムとマリリンに飛翔能力を加える。

ブロッサムとマリリンはレッドの種をココロパフュームにセットして吹きかける。

ブロッサム、マリリン「レッドの光の聖なるパフューム！シュシュツと気分でスピード

アップ！」

パツシヨンはアカルンの力で瞬間移動し、ブロッサムとマリリンはレッドの種の力で高速移動し、クレツセントを翻弄する。

クレツセントは叩き落そうと両腕を振り回すが、全部避けられる。

ムーンライトはその隙にマントを展開し、クレツセントの目の前に辿り着き、クレツセントの顔に右手を置く。

ムーンライト「ムーンライト・シルバーインパクト！」

ムーンライトの右手から銀色のエネルギー光波を放つ。

クレツセントは今の攻撃が聞いたのか、痛がっているように両手で顔を隠す。

尚、ブロッサムとマリリンは高速移動して翻弄させた後、披露してしまったためパツ

シヨンに支えられている。

ピーチ「今度はあたしたちの番だよ！」

ピーチはピーチロッドを、ベリーはベリーソードを、パインはパインフルートを構える。

ピーチ「プリキュア・ラブサンシャイン……」

ベリー「エスポワールシャワー……」

パイン「ヒーリングプレア……」

ピーチ達「フレッシュュ！」

ピーチはハートを描き、ベリーはスペードを描き、パインはダイヤを描いた後、それぞれのキュアステイックで撃ち飛ばした。

それぞれのエネルギー光弾はクレツセントの顔に命中し、クレツセントは仰向けに倒れる。

タルト「よっしゃ！これならいけるで！」

ポプリ「プリキュア！頑張るでしゅ〜！」

シフォン「プリッぷ〜！」

タルト達はプリキュアにエールを送る。

その時、クレツセントの後ろに空間が歪み始めた。

パッション「空間に捻じれが・・・」

パッションはブロッサムとマリンを支えながら、歪んだ空間を見る。

すると、歪んだ空間からウサギのような怪獣が現れた。

いや、正確には怪獣ではなく、超獣である。

名前は満月超獣ルナチクス。

ルナチクスは月のマグマを喰い尽くした異次元人ヤプールが作成した超獣である。

以前大涌谷の火山や、月面でウルトラマンエースと交戦したことがある。

ブロッサム「また怪獣が!？」

マリン「何でここまで来て増えちやうのよ!？」

マリンはルナチクスの登場に頭を抱える。

ルナチクスはマリンの声に気付き、その方向に振り向く。

マリン「へ？」

ルナチクスは自分の目をミサイルのように飛ばした。

パッション、ブロッサム、マリン「ええくくくくつ!!？」

ブロッサム達は即座に逃げ出した。

マリン「自分の目玉を飛ばすってどんな怪獣なのよ!？」

ブロッサム「そんなのありですか!？」

しかもルナチクスは撃ち出された目玉を補充することができる。
ルナチクスは再び目玉を飛ばす。

マリ「だあーっ！ 気味悪いからそれやめなさいよ！」

ブロッサム「ホラーみたいなことしないでください！」

ブロッサム達は何度も撃ちだすルナチクスの攻撃から逃げまくる。

サンシャイン「サンシャイン・フラッシュ！」

サンシャインは無数の光弾を放ち、ルナチクスに命中する。

ルナチクスは今の光弾を放つたのはサンシャインだと分かり、マグマ火炎弾を放つ。

サンシャイン「サンフラワー・イーゼス！」

サンシャインはサンフラワー・イーゼスを展開し、ルナチクスのマグマ火炎弾を防ぐ。

サンシャイン「サンフラワー・イーゼス・インパクト！」

サンシャインは展開したサンフラワー・イーゼスを飛ばして、ルナチクスに命中させる。
る。

ルナチクスはサンフラワー・イーゼス・インパクトを受けて倒れる。

ブロッサム「サンシャイン！」

マリ「助かったよ！」

ブロッサムは涙目になり、マリはホツとしてサンシャインにお礼を言う。

コフレ「2人共、安心して居る場合じゃないですっ！」

シプレ「早くムーンライト達を助けないとですう！」

マリ「そうしたいけど、こいつが邪魔なのよ〜！」

マリはルナチクスに指を指してシプレとコフレに言う。

一方、ムーンライト達は・・・

ムーンライト「くうっ！」

ムーンライト達はダメージを受けていないものの、それでもクレツセントに苦戦していた。

ピーチ「強い！」

ベリー「なんて暴れん坊なの!？」

パイン「早くパッション達を助けないといけないのに！」

クレツセントはムーンライト達に向け、両目から熱線を発射する。

ムーンライト「ムーンライト・リフレクション！」

ムーンライトは2枚の光の円盤を出し、熱線を防ぐ。

ムーンライト「あなた達、今の内に！」

ピーチ達「はい！」

ピーチ達は頭上に手を叩いた後、「悪いの悪いの飛んでいけ！」と言い出し、ピーチは

手をハートの形に、ベリーは手をスパードの形に、パインは手をダイヤの形にする。

ピーチ、ベリー、パイン「プリキュア・トリプル・フレツシュ！」

ピーチ達はそのまま手を前に出すと、ピンクと青と黄色の光波を発射する。

クレツセントはプリキュア・トリプル・フレツシュを受けてダメージを負い、ムーンライトがムーンライト・リフレクションで防いだ熱線を反射させ、そのままクレツセントに命中させ、クレツセントを仰向けに倒れる。

ピーチ「よし！」

ベリー「あたし、完璧！」

パイン「やった！」

ピーチはクレツセントが倒れるのを見て喜ぶ。

ムーンライト「まだよ！」

ムーンライトの言葉を聞いて、ピーチ達はクレツセントを見る。

クレツセントは立ち上がり、ピーチ達に熱線を繰り出す。

ピーチ、ベリー、パイン「キャアアアアアアアアアアツ!!!」

ムーンライト「ピーチ！ベリー！パイン！」

クレツセントはそのままムーンライトへ歩き出す。

その時、クレツセントは何かに気付いたのか、空を見上げる。

? 「デエヤアアアアアアアッ!!!」

突然、クレツセントの顔に炎を纏った足が命中される。

それを受けたクレツセントは遠くに吹き飛ばされる。

クレツセントを吹き飛ばしたのはゼロである。

今の攻撃はゼロの蹴り技、ウルトラゼロキックである。

ブロツサム「もしかして、シンさんですか!？」

マリン「えっ!? あれが!？」

ブロツサムはゼロの登場に嬉しさを覚える。

ゼロ「また会ったな、つぼみ。それがお前のプリキュアの姿か。」

ブロツサム「はい! この姿ではキュアブロツサムと・・・」

サンシャイン「ブロツサム、話は後にしなよ。」

ブロツサムは今の姿を話して途中、サンシャインに止められる。

ゼロ「だな。お前ら、こいつは俺に任せて、ブロツサム達と合流しろ。」

ピーチ「は、はい!」

ピーチ達はクレツセントをゼロに任せて、ルナチクスと対峙しているブロツサム達の

元に合流し始めた。

ゼロ「クレツセントか。なかなか骨のある奴だぜ。」

ゼロは指をポキポキと鳴らした後、クレツセントに立ち向かう。

V S クレッツセント

クレッツセントはゼロに向けて目から熱線を発射する。

しかし、ゼロはその熱線 avoidance、クレッツセントにキックをお見舞いする。

怯むクレッツセントだが、負けずにゼロを殴りかかろうと左腕を振り下ろす。

ゼロはその左腕を掴み、クレッツセントを背負い、投げ飛ばす。

ゼロ「へっ！隙だらけだぜ！」

ゼロはクレッツセントを挑発するように右手の指をクイクイと動作する。

クレッツセントはゼロの行為に怒ったのか、突進を始める。

ゼロは突進してきたクレッツセントにラリアットで倒れさせる。

クレッツセントは起き上がり、ゼロに熱線を繰り出す。

ゼロは高くジャンプし、クレッツセントに飛び蹴りをお見舞いする。

クレッツセントは後ろに蹴り飛ばされ、倒れる。

その頃、ピーチ、ベリー、パイン、ムーンライトはブロッサム、マリリン、サンシャイン、パッションと合流し、ルナチクスと対峙する。

ブロッサム「ブロッサム・シャワー！」

マリン「マリン・シュート！」

ブロッサムは桜の花弁を放ち、マリンは無数の水の塊を放つ。

ルナチクスはブロッサムとマリンの技を喰らい、よろける。

ピーチ、ベリー、パイン「ハアアアアアアッ!!」

ピーチはパンチを、ベリーとパインはキックをルナチクスにお見舞いする。

ルナチクスは横向きに倒れる。

ブロッサム「どうです！」

ピーチ「参ったか！」

ルナチクスは口から水蒸気を放つ。

ピーチ「うわああっ!!」

マリン「あっつ!!」

ピーチ達はルナチクスの水蒸気に怯む。

ブロッサム「うう・・・こんな熱い水蒸気、植物に悪いです！」

マリン「ホントだよ！お風呂の湯より熱いわ！」

ルナチクスは起き上がった後、目玉を飛ばした。

ピーチ、ベリー、パイン「ええ~~~~っ!!」

マリン「また目玉飛ばしてるし！」

ブロッサム「怖いからやめてください〜い！」

ブロッサム達はルナチクスに背を向けて逃げ出す。

パッション「はあっ！」

パッションは手をかざすと、目玉が消え、ルナチクスの後頭部に直撃する。

パッション「大丈夫？」

ピーチ「パッション、助かったよ〜！」

ピーチはパッションに感謝する。

ルナチクスは再び目玉を飛ばす。

ムーンライトは片方の目玉を蹴り飛ばしてルナチクスに命中させる。

サンシャイン「サンフラワー・イージス！」

もう片方はサンシャインのサンフラワー・イージスで防御する。

ブロッサム「サンシャイン！」

マリン「ムーンライト！」

ムーンライト「しっかりしなさい！この怪獣は私達に任せているのに、逃げるなんて

情けないわよ！」

ブロッサム達「は、はい！すみません！」

パッション、サンシャイン（気持ちは分かるけどね・・・）

ムーンライトに叱られて謝るプロツサム達。

ルナチクスはマグマ火炎弾を放つ。

マリリン「もう逃げないっしゅ！」

ベリー「完璧なあたし達の戦い、見せてあげるわ！」

マリリンはマリリンタクトを、ベリーはベリーソードを構える。

マリリン「プリキュア・ブルーフォルテウェイブ！」

ベリー「プリキュア・エスポワールシャワー・フレツシュ！」

マリリンは水色の花のエネルギー弾を放ち、ベリーはプリキュア・エスポワールシャワー・フレツシュを放つ。

2人の技はマグマ火炎弾を打ち破り、ルナチクスに命中させる。

マリリン「決まった〜！」

ベリー「あたし、完璧！」

マリリンとベリーは互いの両手を打ち合わせる。

サンシャイン「パイン、私が動きを止めるから打ち込んで！」

パイン「うん！」

サンシャインはシャイニータンバリンを、パインはパインフルートを構える。

サンシャイン「プリキュア・ゴールドフォルテバースト！」

パイン「プリキュア・ヒーリングプレアー・フレッシュユ！」

サンシャインは向日葵のエネルギー弾を一気に発射し、パインはプリキュア・ヒーリングプレアー・フレッシュユを放つ。

ルナチクスはサンシャインの技で動きを止められ、パインの技に直撃される。

サンシャイン「やったね、パイン。」

パイン「ありがとう。」

パインはサンシャインに礼を言う。

ルナチクスは強引にサンシャインの技を打ち破る。

ムーンライト「パッション、行くわよ！」

パッション「はい！」

ムーンライトはムーンタクトを、パッションはパッションハープを構える。

ムーンライト「プリキュア・シルバールフォルテウェイブ！」

パッション「プリキュア・ハピネス・ハリケーン！」

ムーンライトは銀色の花のエネルギー弾を放ち、パッションは赤い旋風を巻き起す。

ルナチクスはムーンライトの技を受け、パッションの技で再び動きを封じる。

ムーンライト「ブロッサム、ピーチ！」

パッション「今よ！」

ムーンライトとパッションはブロッサムとピーチに決めさせる。

ピーチ「オツケー！」

ブロッサム「任せてください！」

ピーチはピーチロッドを、ブロッサムはブロッサムタクトを構える。

ピーチ「プリキュア・ラブサンシャイン・フレツシュ！」

ブロッサム「プリキュア・ピンクフォルテウェイブ！」

ピーチはプリキュア・ラブサンシャイン・フレツシュを放ち、ブロッサムはピンク色の花のエネルギー弾を放つ。

ルナチクスは2人の技を受け、仰向けに倒れ、爆散される。

ピーチ「よし！」

ブロッサム「やりました！」

ピーチとブロッサムはルナチクスを倒して喜ぶ。

一方、ゼロはクレッセントに押されている。

ゼロはクレッセントの事を隙だらけだと甘く見ていたのか、油断して反撃を喰らわされたのだ。

クレッセントはゼロに背負い投げをし、ゼロを叩き落す。

そして、そのままゼロを踏もうとすると、すぐに避けられ、ゼロの蹴りに怯む。

ゼロ「チツ、どうやら調子に乗りすぎたようだな。だつたら！」

ゼロはウルティメイイトブレスレットを光らせ、ストロングコロナゼロにモードチェンジする。

ゼロ「手加減しねえぜ！」

マリリン「色が変わった!？」

ベリー「ウルトラマンって何でもありね。」

クレツセントはゼロを襲い掛かるが、逆にゼロに止められる。

ゼロ「ウルトラハリケーン！」

ゼロはクレツセントを高く投げ飛ばし、空中で身動きできなくさせる。

ゼロ「ガルネイトバスター！」

ゼロはガルネイトバスターを放つ。

クレツセントはゼロの技を受け、大爆発される。

ゼロ「決まったぜ！」

ゼロは親指で口を拭うような仕草をする。

ルナチクスとクレツセントの戦いが終わり、ファッションショーに支障がなく、無事開催することができた。

ちなみにゼロから人間の姿になったシンもファッションショーを見てくれていた。

そして、ファッションショー終了後・・・

ラブ「さっすが美希たん！かわいかったよ！」

美希「当然よ。あたしは完璧なんだから。」

えりか「でもさ、うちのもも姉だつて負けてないよ〜！」

ラブ達はファッションショーを終えた後、カオルズドーナツカフェで和気藹々と満喫している。

ただ、一人を除いては・・・

つぼみ「はあ・・・結局シンさんにあげられませんでした・・・」

せつな「つぼみ？どうしたの？」

いつき「シンさんにあげるつもりプレゼントをファッションショーが終わった後、渡そうとしてたけど、もうどこかへ行っちゃったから会えなかったんだ。」

ゆり「だから、落ち込んでるのよ。」

いつきの話ではシンがファッションショーを見てくれていることをつぼみが知り、ファッションショーが終了後、プレゼントをあげようとしていたが、もうすでにどこかへ行ってしまったため、結局渡せなかったのである。

祈里「つぼみちゃん、元気出して。きつとまた会えるよ。その時は私も手伝うわ。」

ラブ「そうだよ、つぼみちゃん！シンさんに会って、ふたばちゃんを助けたお礼としてプレゼントを渡して、幸せゲットしよう！」

ラブと祈里はつぼみを元気づける。

つぼみ「はい！ありがとうございます！」

つぼみはラブと祈里に励まされ、調子が出て来る。

場所が変わり、ここは小泉学園。

ここにはふたりはプリキュアMAX HEARTのキュアブラックこと美墨なぎさと、キュアホワイトこと雪城ほのか、シャイニールミナスこと九条ひかりが住んでいる町である。

彼女達は闇の世界の戦士達・ドックゾーンと戦いながら、光の園のクイーンを復活させるため、12のハーティエルとクイーンの心と生命を探していた。

その彼女達が住んでいる小泉学園に黒のショートヘアの少女が歩いている。

その少女の名は新真理奈。

彼女はペローネ学院中等部の2年桃組の生徒であり、新真奈美の娘である。

真奈美と同じ科学者になろうと目指している。

真理奈「はあ、私としたことが図書館で眠っちゃうなんて……」

真理奈は頭を掻きながら愚痴をこぼす。

真理奈「まあいいや。夏休みの宿題は全部仕上げたし……ん？」

真理奈は何か発見したのか頭を前に出す。

真理奈が見つけたのは不思議な形をした石である。

真理奈はそれを拾うと石の中に古代の文字のようなものが描かれていた。

真理奈「なんだろう……これ……」

真理奈は石を裏を向けたり、逆さに持ち替えたりしながらじつくりと眺めた。

彼女は気になったので家に持って帰ることにした。

池に潜みし悪魔

クレツセントとルナチクスの戦いから夜、河童山瓢箪池の付近で2体の怪獣が争い合っている。

その山には過去になぎさとほのかがプリズムストーンを収めるのに必要なアイテム・プリズムホーピッシュを探していた場所である。

その場所には猫のような鳴き声を発する怪獣と両腕にハサミを持つ怪獣がいる。前者の怪獣は宇宙恐竜ヤナカーギー。

ヤナカーギーは初代ウルトラマンによつて竜ヶ森湖に封印されたが、タイムスリップしてきた宇宙魔人チャリジャによつて封印が解かれ、破壊を行なっていた。

そして後者の怪獣は岩石怪獣サドラ。

サドラは霧吹山で地底怪獣デットンと交戦していたことがある。

他にもサドラは自身の周りに霧を出すことができる。

ヤナカーギーはサドラを襲い掛かるが、サドラのハサミに止められる。

しかしヤナカーギーはサドラの腹を蹴り、ハサミから解放される。

サドラはハサミでヤナカーギーを殴ろうとするが、素手で止められてしまう。

更にヤナカーギーは背負い投げをし、サドラを足で踏み続ける。

そして、サドラの首を締めあげるヤナカーギー。

サドラは泡を吹き出し、絶命する。

ヤナカーギーは勝利を喜ぶように吠え続ける。

そんなヤナカーギーを他所に青色の怪光が飛翔し、瓢箪池の中に入っていく。

次の日、場所が変わって、ぴかりが丘のブルースカイ王国の大使館のテレビから河童山の瓢箪池に起きたことがニュースで映し出された。

この大使館は幻影帝国の魔の手に立ち向かった戦士・ハピネスチャージプリキュアのキュアラブリーこと愛乃めぐみ、キュアプリンセスこと白雪ひめ、キュアハニーこと大森ゆうこ、キュアフォーチュンこと氷川いおなが拠点にしている。

パートナーの妖精であるリボンとぐらさんも一緒である。

めぐみ「本当に本物の怪獣がこの世界にいるなんてすごいね！」

ひめ「めぐみ、何感心してんのよ!?! 非常事態なんだよ? ニュースでは怪獣が死んでいったって言ってたけど、みらいが言ってたウルトラマンが倒したとは限らないでしょ!?!」

ひめは怒りながらめぐみに詰め寄る。

めぐみ「わ、わかってるよ。」

ひめ「とにかく、ゆうこといおなが来たらなぎさ達に連絡して、出発しよう!」

めぐみ「はい！了解しました！」

めぐみは敬礼しながらひめの言うことを了承する。

そして数分後、ゆうこといおなは大使館に到着し、ひめはなぎさ達に連絡した。

連絡先のなぎさは河童山付近のバス停で合流するように掛け合い、めぐみ達はバスで移動していた。

そのバスの中でひめはこう言い出す。

ひめ「・・・なんで誠司も付いて来てるわけ？」

ひめはめぐみの幼馴染の相良誠司がいることに半開きの目で見える。

しかも誠司はめぐみの隣で座っている。

いおな「私も危険だから家で待っててって言ったんだけど、めぐみのことが心配だから一緒に行くって・・・」

ゆうこ「マナちゃんの言葉で言うならキュンキュンだからね。」

ひめ「これからやばやばい奴と会うことになるのに万が一のことがあつたらどうするのよ!?!それにこの戦いに誠司まで巻き込んだことをウルトラマンが知つたら・・・」

ひめは河童山で怪獣と対峙する時の事を想像した。

ブラック達とラプリー達とゼロが怪獣を倒した後、ゼロは誠司が一緒にいることを知り・・・

ゼロ『てめえら！変身できない無力な人間を連れて来るなんてどういふつもりだ!?もし一歩間違えればあいつに踏み潰されたかもしれないねえんだぞ！余計なことするんじゃない!?』

ラブリー達に激怒する。

ゼロ『てめえらはプリキュア失格だ!』

ゼロはラブリー達にプリキュア失格だと告げる。

ひめはその光景を脳裏に浮かび上がる。

ひめ「・・・なんてことがあつたら、私達の立場も人生も終わりじゃん!!」

ひめは頭を抱えて嘆く。

リボン「ひめ、落ち着いてくださいな。」

ぐらさん「相変わらずの被害妄想だぜ。」

リボンは苦笑いしながらひめを落ち着かせる。

数分後、めぐみ達は河童山に到着し、なぎさ達と合流し、怪物が現れたと言う瓢箪池に向かった。

なぎさ「でもまたここに来るなんて・・・何も起こらなかつたらいいけど・・・」

メップル「何もなかつたらテレビで報道されてないメポ。」

なぎさは愚痴をこぼすが、メップルにツッコまれる。

めぐみ「ん〜！空気がおいしくい！」

誠司「遊びに来たんじゃないんだぞ。」

めぐみは呑気そうに言い出す。

場所が変わり、瓢箪池付近には真理奈と額に赤い宝石がついている生き物、カーバンクルのくるるがいた。

真理奈達はサドラの遺体を見つめる。

くるる「キュウ。」

真理奈「なんて大ききなの。こんなのが町で暴れ出したら・・・」

その時、真理奈の懐から淡い光が発光する。

真理奈「えっ!？」

真理奈は懐から取り出すと昨日の家の帰りの途中に拾ったオーパーツが光り出したのである。

真理奈「なんなの？この光・・・」

真理奈は今も光り続けているオーパーツを見つめる。

その時、瓢箪池の水が突然吹き上がり始めた。

真理奈「なに？」

真理奈は瓢箪池の方向に振り向く。

すると、瓢箪池から背中がトゲトゲしていた怪獣が現れた。

その怪獣の名は宇宙怪獣ベムラー。

宇宙の平和を乱す悪魔のような怪獣と言われている宇宙怪獣である。

ベムラーは以前、初代ウルトラマンから逃げ、竜ヶ森湖の湖底に潜んだことがある。

真理奈「なっ!?!怪獣!?!」

真理奈はベムラーの登場に驚愕する。

真理奈はくるるを抱えて逃げようとするが、ベムラーの青い熱線を繰り出される。

真理奈「キヤアアッ!!?!」

ベムラーの熱線による衝撃で真理奈は吹き飛ばされ、意識を失ってしまう。

その時に手を握っていたオーパーツは数メートル飛ばされてしまう。

ベムラーは瓢箪池の中に潜る。

くるる「キュウ!キュウッ!」

くるるは気絶していた真理奈を起こそうと舌で顔をなめたり、肩を揺さぶったりしていた。

？「あつちから音が聞こえたメポ！」

？「近くに人の気配を感じるミポ！」

くるるは声を聞こえたのでその方向に振り向く。

くるるの視線にはなぎさ達が真理奈の元に走ってくる姿が映る。

くるるはなぎさ達を警戒しているのか身構える。

なぎさ「って何なのこいつ!？」

めぐみ「見たことない生き物だよ。」

ひめ「もしかして、カーバンクル!？」

誠司「知ってるのか?」

ひめはくるるを見てカーバンクルだと言い出す。

リボン「妖精の世界にあるジュエル鉱国に住んでいる生き物ですわ。人間の世界にい

るなんて・・・後ろにいるあの方が連れてきたのでしょうか?」

くるるはずつとなぎさ達に威嚇する。

ひかり「大丈夫よ、危害を加えたりしないわ。」

ポルン「大丈夫ポポ。プリキュラは悪いことしないポポ。」

なぎさ『『ア』だっつーの。』

ひかりはくるるに危害を加えないと言い出し、くるるに手を差し出す。

くるるはひかりの行動に首を傾げつつ、差し出した手に匂いを嗅ぐ。

そしてくるるは、敵ではないと確信したのか、今度は舌でひかりの手をなめる。

ひかり「分かってくれたのね？よかった・・・」

ひかりはくるるの頭を撫でる。

ルルン「ルル！何か近づいて来るルル！」

ルルンは何かを察知し、なぎさ達に伝える。

その時、突然地面が揺れ始める。

地面からヤナカーギーが現れた。

ひめ「何か出てきたーっ!？」

なぎさ「でかすぎ！ありえな〜い！」

ミップル「そこにいる怪獣を倒したのはあいつミポ!？」

ミップルはサドラの遺体を見た後、ヤナカーギーに振り向いて確信をする。

めぐみ「誠司！この子をお願い！」

誠司「分かった！」

誠司は真理奈をおんぶし、その場から離れる。

くるるもその場から離れようとするが、真理奈が持っていたオーパーツを思い出し、

キョロキョロした後、そのオーパーツを見つける。

くるるはオーパーツを拾って、誠司の後を追う。

メツプル「みんな！」

ミツプル「変身するミポ！」

ポルン「ポポ！」

メツプルとミツプルはハートフルコミュニケーションに、ポルンはタッチコミュニケーションに変わる。

めぐみ達もプリチェンミラーとフォーチュンピアノを構える。

なぎさとほのかはハートフルコミュニケーションにプリキュアハートをセットして手をかざした時、ハートフルコミュニケーションが光となって天高く飛ぶ。

なぎさとほのかは互いの手を繋ぎ、「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」と掛け声を上げた時、2人は光に包まれ、その光の中で2人の衣装が変わる。

光を弾けた後、なぎさとほのかはキュアブラックとキュアホワイトに変身した。

ブラック「光の使者、キュアブラック！」

ホワイト「光の使者、キュアホワイト！」

ブラック、ホワイト「ふたりはプリキュア！」

ホワイト「闇の力のしもべ達よ！」

ブラック「とつととお家に帰りなさい！」

ひかりはタッチコミュニケーションに手をかざし、「ルミナス・シャイニング・ストリーム！」と掛け声を上げた時、金色の光を纏い、髪留めが消え、三つ編みの髪が解かれる。

そしてひかりはピンクのコスチュームを纏った少女、シャイニールミナスに変身した。

ルミナス「輝く生命！シャイニールミナス！光の心と光の意志、総てをひとつにするために！」

めぐみ達はプリチェンミラーのフタを、いおなはフォーチュンピアノのフタを開けると、「かわルンルン！」と発声し、それぞれプリカードを挿入し、めぐみ達は「プリキュア・くるりんミラーチェンジ！」と掛け声を上げ、いおなは「プリキュア・きらりんスターシンフォニー！」と掛け声を上げ、プリチェンミラーのミラーボールを回し、フォーチュンピアノの鍵盤を低いドを3回鳴らした後、なぞるように低いドから高いドまで鳴らす。

4人は4色のハートを上から入るとピンク、空色、蜂蜜色、薄紫色の衣装となり、その後マントを外す。

よつてめぐみ達はキュアラブリー、キュアプリンセス、キュアハニー、キュアフォーチュンに変身した。

ラブリー「世界に広がるビッグな愛！キュアラブリー！」

プリンセス「天空に舞う蒼き風！キュアプリンセス！」

ハニー「大地に実る命の光！キュアハニー！」

フォーチュン「夜空にきらめく希望の星！キュアフォーチュン！」

ラブリー、プリンセス「ハピネス注入！」

ハニー、フォーチュン「幸せチャージ！」

ラブリー、プリンセス、ハニー、フォーチュン「ハピネスチャージプリキュア！」

ブラツク達は変身を終えた後、ヤナカーギーを相手に身を構える。

超古代の戦士

ヤナカーギーは尻尾でブラック達を薙ぎ払おうとする。

ブラック達はヤナカーギーの尻尾を避ける。

ブラック「ホワイト！フォーチュン！」

ホワイト「ええ！」

フォーチュン「はい！」

ブラックとホワイトとフォーチュンはヤナカーギーの腹部に辿り着く。

フォーチュン「フォーチュン・スターバースト！」

ブラックは思い切りパンチを繰り出し、ホワイトは回転を加えてキックを繰り出し、

フォーチュンは衝撃波を拳に込めて掌底打ちをする。

しかし、ヤナカーギーは平気な顔をしている。

フォーチュン「効かない!?!」

ブラック「ありえない・・・」

ホワイト「ビクともしないなんて・・・」

ヤナカーギーは手でブラックとフォーチュンを薙ぎ払おうとする。

ハニー「ハニーレポート！」

ハニーはトリプルダンスハニーバトンを頭上に挙げると、ブラックとフォーチュンは瞬時にヤナカーギーと数十メートル離れた所にワープさせる。

プリンセス「これはどう!?!」

プリンセスはラブプリブレスのダイヤルを回す。

プリンセス「プリンセス・弾丸マシンガン！」

プリンセスは両手の拳から光の球を何発も撃ち出し、ヤナカーギーに命中させる。

しかし、ヤナカーギーは腹を埃を払うように撫でるだけだった。

プリンセス「うっそく・・・」

ラブリー「プリンセス！任せて！プリキュア・くるりんミラーチェンジ！チェリーフ

ラメンコ！」

ラブリーはプリチェンミラーにチェリーフラメンコのプリカードをセットし、ミラー

ボールを回す。

すると、ラブリーの衣装はフラメンコダンサーに変わる。

これがハピネスチャージプリキュアが得意とするフォームチェンジである。

ラブリーは今変身したチェリーフラメンコの他にロリポップヒップホップ、プリンセスはシャーベットバレエとマカダミアフラダンス、ハニーはポップコーンチアとココ

ナッツサンバ、フォーチュンは、パインアラビアンとあんみつこまちにフォームチェンジできる。

ラブリー「プリキュア・パッションダイナマイト！」

ラブリーはフラメンコのダンスを踊ると同時に周りの炎を纏わせる。

そして、ラブリーは「オ・レ！」と掛け声を上げた時、大爆発を起こす。

ヤナカーギーはその爆発を受け、仰向けに倒れる。

ラブリー「やったーっ！」

プリンセス「普通に効いてるし！」

ヤナカーギーがようやく倒れた所を見てラブリーは喜ぶ。

ラブリー「今だよ、ルミナス！動きを止めて！」

ルミナス「はい！光の意志よ！私に勇気を！希望の力を！」

ルミナスは天から飛来してきたハーティエルバトンを取り、それを弓状に変形した後、巨大化し、回転し始める。

ルミナス「ルミナス・ハーティエル・アークション！」

ルミナスは手を出すと、ハーティエルバトンが回転することで現れた光を発射する。

それを受けたヤナカーギーは身動きが取れなくなる。

その様子を誠司達は木の陰から見ていた。

誠司「やった！」

ぐらさん「さすがラブリーだぜ。」

リボン「今ならあの怪獣を倒せますわ。」

プリキュア達がヤナカーギーを追い詰めた様子を見る誠司達を他所に真理奈が目を見まし、目の前の誠司の近くにいるリボン達を目撃したことを気付いていなかった。

真理奈（妖精!? それにあの子ら・・・プリキュアなの!?）

真理奈はリボン達だけじゃなく、ヤナカーギーと戦っているプリキュアも目撃した。

ブラック「ブラックサンダー！」

ホワイト「ホワイトサンダー！」

ブラックとホワイトは互いの手を繋ぎ、もう片方の手を頭上に挙げる。

すると、ブラックの手に黒い雷が、ホワイトの手に白い雷が収束する。

ホワイト「プリキュアの美しき魂が！」

ブラック「邪悪な心を打ち砕く！」

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブラックとホワイトは雷を収束した手を引き、直ちに前へ突き出すと、黒と白の雷が合わさり、強大なエネルギーを発射する。

そのエネルギーはヤナカーギーに命中する。

しかし、ヤナカーギーは何事もなかったかのように立ち上がる。

ブラック「えっ!？」

ホワイト「耐えたの!？」

ブラック達はプリキュア・マール・スクリュー・マックスに耐えたヤナカーギーに驚く。

リボン「なんてタフな怪獣なんですの!？」

くるる「キュウ!」

くるるは真理奈が気が付いたのを逸早く気づき、駆け寄る。

真理奈「大丈夫よ、くるる。心配かけたわね。」

真理奈はくるるの頭を撫でる。

くるるは真理奈にオーパーツを渡す。

リボンとぐらさんは真理奈が起きているのを気付き、ルルンを連れて誠司の後ろに隠れる。

誠司「気が付いたのか？」

真理奈「ええ、寝相は最悪だけど・・・それより、後ろにいるあんたら。隠れなくても大丈夫よ。誰も言わないから。それにあんたらがこの戦いを見てる所、ちゃんとこの

目で見たわよ。」

誠司の後ろにいるリボン達は真理奈に気付かれたことにびっくりする。

ぐらさん「ゲッ!!」

リボン「全部見てましたの!」

真理奈「ええ。その男子がここに下ろした後、すでに目が覚めてたの。まあ、聞きたいことはいろいろあるけど、後にするよ。さつきも言ったようにこのことは黙っておくわ。」

真理奈は誠司達にリボン達の事は秘密にすると言い出す。

ルミナス「キヤアアアアアアアツ!!!」

ルミナスはヤナカーギーに薙ぎ払われ、誠司達の元に吹き飛ばされる。

誠司「うわっ!!」

真理奈「やばっ!!」

誠司達は衝突されないよう、すぐに離れる。

ルミナスは木々にぶつかり、倒れる。

ブラック「こんのおく!!」

ブラックはヤナカーギーに殴りかかろうとするが、ヤナカーギーに捕まり、地面に叩き落される。

ホワイトはヤナカーギーの尻尾を掴み、投げ飛ばそうとするが、振り払われてしまい、更にヤナカーギーの尻尾で吹き飛ばされてしまう。

ホワイト「キャアアアアアアアアアッ!!!」

ブラック「ホワイト!」

ホワイトはそのまま瓢箪池に入ってしまった。

真理奈「あっ!?!」

真理奈はホワイトが瓢箪池に落ちた所を見て、その池にベムラーがいることを思い出す。

真理奈「やばい!」

真理奈はオーパーツをポケットにしまい、ヤナカーギーに吹き飛ばされた影響で木々の下敷きになったルミナスを助けようとする。

誠司もルミナスを助けるために真理奈と手伝う。

真理奈「くるる! あんたはプリキュアにあの池の事を伝えて! こっちはこっちで何とかするわ! 危ないと思ったらすぐ逃げてよ!」

くるるは真理奈の言う通りにし、プリキュアの元に駆け寄る。

誠司「どうしたことだよ!?!」

ルミナス「あそこに何かあるんですか!?!」

誠司とルミナスは話が読めず、真理奈に尋ねる。

真理奈「あの池に怪獣がもう一体いるのよ！私もそいつにやられたわ！」

ルミナス達は瓢箪池にもう一体怪獣がいることに驚く。

一方、くるるはプリンセスとハニーの元に辿り着く。

ハニー「あつ！さっきの！」

プリンセス「ここは危ないよ！なんで来たのよ!？」

くるるは額の宝石の色を赤から紫に変わり、目を瞑る。

すると、紫の宝石から映像が出てきて、瓢箪池にいたベムラーが真理奈に向けて青い

熱線を放射し、吹き飛ばした映像を流れる。

ハニー「えっ!？」

プリンセス「あの怪獣の他にもう一体いたの!？」

プリンセスとハニーは瓢箪池に目を向ける。

ラブリー「もう一体!？」

フォーチュン「なんですすって!？」

ブラック「ホワイトが危ない！」

メップル「ミップルもメポ！」

ブラックはホワイトが瓢箪池に落とされたのを見たので、焦りを露わにする。

ブラック達はすぐにホワイトを助けに行こうとするが、ヤナカーギーが踏みつけようとすると、それを気付き、くるるを抱えて回避する。

プリンセス「助けに行きたいのは山々だけど、こいつがすごごごく強いし、行かせてくれないよ〜！」

プリンセスはヤナカーギーの攻撃を避けながら言い出す。

ブラック達はホワイトを助けに行こうとするものの、ヤナカーギーの妨害で瓢箪池に近寄ることができない。

ポルン「ルミナス、待つてるポポ！今ポルンが助けるポポ！」
ルルン「ルル〜！」

ポルン達は真理奈と誠司と一緒にルミナスを下敷きにした木を退かそうとする。

しかし、あまりの重さで、微動だにしなかった。

真理奈「こ、のおく・・・！」

真理奈は必死に木を退かそうとする。

その最中、真理奈のポケットに入っているオーパーツが光り始めているのを気付かないまま。

ヤナカーギーは何かを感じたのか相手をしているプリキュアとは別の方向に向ける。

その方向はルミナス達がいる方向である。

ヤナカーギーが目になっているのは真理奈のポケットから発する光だった。ヤナカーギーは方向を上げるとともにルミナス達に襲い掛かる。

ブラック「あっ!?!」

ラブリー「誠司! 逃げて!」

ラブリーの声を聞いた真理奈と誠司達はヤナカーギーがこちらに向かっていていることに気付く。

ヤナカーギーはジャンプし、踏み潰そうとする。

真理奈は最後まで木を退かそうとする。

真理奈（私は：：諦めない。父さんがいつも言ってた。諦めるなって：：絶対に：：諦めない!!）

その時、真理奈のポケットから強い光が発する。

ルミナス「えっ!?!」

誠司「なんだ!?!」

ルミナス達はその光に驚く。

真理奈「なにこれ!?!」

真理奈も驚きを隠せなかった。

真理奈「ああああああああああっ!!!」

真理奈が光の中に包み込まれる。

その光が膨張し、ヤナカーギーを吹き飛ばす。

フオーチユン「なに!？」

ラブリー達はその光を呆然と見ていられなかった。

そして、その光から巨人が現れ、手に持っているルミナスと誠司達をブラック達の元に下ろした。

ルミナス「あれは・・・？」

ルミナスが見たのはプロテクターを装い、赤、青紫、銀の3色を主体にした巨人である。

その巨人の名はウルトラマンティガ。

ティガは3000万年前の時を経て復活し、ゴルザとメルバを撃退させた超古代の戦士である。

他にも、『エックスの世界』では闇魔分身獣ゴークアントラーを倒した経歴を持つ。

ラブリー「ウルトラマンゼロなの？」

フオーチユン「いいえ、違うわ。でも、間違はなくゼロと同じウルトラマンよ。」

ブラック「ウルトラマンって他にもいるんだ・・・」

ティガは親指を瓢箪池に指した。

ハニー「あの怪獣を止めてくれるの？」

テイガはハニーの言葉に頷く。

テイガの後ろからヤナカーギーの咆哮が聞こえる。

テイガはヤナカーギーを相手に身を構える。

ブラック「みんな！この隙にホワイトを助けよう！」

ブラック達はヤナカーギーをテイガに任せ、ホワイトの救出に向かった。

くるる「キュッ!？」

その時、くるるは瓢箪池に向かって走っている青年を目に映った。

ブラック「えっ!？」

ブラック達もその青年に気付く。

その時に青年は瓢箪池に飛び込んだ。

VSベムラー&ヤナカーギー

ティガがヤナカーギーと戦っている間、瓢箪池に落ちたホワイトはベムラーと遭遇していた。

ホワイト（あの怪獣の他にもう一体いたなんて・・・！）

ホワイトはベムラーの突進を避け、池から浮上しようとするも、すぐにベムラーに追いつかれる。

ホワイト（このままじゃ・・・！それにもう息が・・・！）

ベムラーはホワイトの前に回り込み、尻尾でホワイトを薙ぎ払う。

ホワイト（あああああああああああつ!!!）

ベムラーに薙ぎ払われたホワイトは池の底に沈んでいく。

ベムラーはそのままホワイトを襲おうとするが、頭上から光線が降りかかる。

ベムラーは見上げると、銃を持った青年がいた。

シンである。

シンはウルトラゼロアイで再び光線を撃つ。

その光線はベムラーの目に当たり、痛みによる悶絶でシンやホワイトとは違う方向に

去つて行く。

シンはこの隙にホワイトを救出し、急いで浮上する。

その頃、ティガはヤナカーギーの尻尾を避け、飛び蹴りでヤナカーギーを蹴り飛ばす。ヤナカーギーは立ち上がり、再び尻尾で攻撃する。

しかしティガはその尻尾を掴み、回転を加え、ヤナカーギーを投げ飛ばした。一方、ブラック達は瓢箪池に辿り着く。

すると、そこにホワイトのハートフルコミュニケーションが落ちていた。

メツプル「ミツプル！」

メツプルはハートフルコミュニケーションから戻り、ミツプルに呼びかける。

すると、ミツプルはハートフルコミュニケーションから戻る。

ミツプル「うん……」

メツプル「ミツプル！無事だったメポ!？」

ミツプル「メツプル……」

メツプルはミツプルが無事であることを確認し、ホツとした。

プリンセス「ホツとするのは早いよ！ホワイトを助けなきや！」

プリンセスは人魚のプリカードを出す。

その時、目の前にホワイトを抱えていたシンが池から姿を現す。

プリンセス「つて何か出たし！」

シン「おい！お前ら、手を貸せ！」

ブラックとラブリーはシンを抱えていたホワイトを瓢箪池から離す。

ルミナスはシンの腕についている腕輪を気付く。

ルミナス「その腕輪・・・もしかして・・・」

シン「話は後だ！」

シンは池から上がり、ホワイトの所に向かう。

ブラック「ホワイト！ホワイト、しっかりして！」

ミツプル「ホワイト！」

メツプル「しっかりするメポ！」

ブラック達はホワイトに呼びかけるが、目が覚める様子はない。

シンはブラックを退かし、ホワイトの気道を確保し、鼻をつまみ、口に息を吹き込む。

その様子をメツプルたちは瞬きをしながら見つめ、くるるは目が点となりながら見つ

める。

ラブリー、誠司「えええっ!!? (〃〃〃〃)」

プリンセス、フォーチュン「ああああああく!! (〳〳〳〳)」「
ハニー「まあ・・・! (〳〳〳〳)」

ブラック（なにやってんの、あたし!? 今この人が真剣にホワイトを助けようとしてんの、なんでこんなに恥ずかしい気持ちになつてんの!? (〳〳〳〳)）

ルミナス「うう・・・ (〳〳〳〳)」

ラブリーと誠司は顔を赤くしながら驚き、プリンセスとフォーチュンはラブリー達より真っ赤になつて硬直し、ハニーは口を押え、ブラックとルミナスはシンがやった行為から目を逸らす。

ホワイト「う・・・ご、ごほ、ごほっ!」

ブラック「ホワイト!」

ブラックはホワイトが息を吹き返したことに気付き、ホワイトの元に駆け寄る。

ブラック「ホワイト! 無事でよかった・・・」

ホワイト「ブラック・・・」

ブラックはホワイトを涙を流しながら抱きしめる。

ホワイトも涙を流しながら、ブラックを抱きしめる。

くるるは瓢箪池から水しぶきが上がっているのを見て、ブラック達に呼びかける。

シン「どうやら感動を浸つてる暇はなさそうだな。」

シンはウルトラゼロアイをゴーグル型にして、ブラック達から離れる。

ホワイト「あつ！待って！」

ホワイトはシンの後を追おうとするが、ふらついて思うように歩けなかった。

ブラックとルミナスはホワイトを支える。

ルミナス「ホワイト、一緒に行きましょう。」

ラブリー「よし、私達はあの巨人の援護に行く。」

ラブリーはティガに視線を向け言い出す。

ハニー「そっちは任せたよ。誠司君はリボンちゃん達をお願いします。」

誠司「分かった。」

ブラック「・・・で、あんたら、いつまで固まってんの!？」

ブラックは未だ硬直状態から抜け出せなかったプリンセスとフォーチュンを見て呼びかける。

プリンセス、フォーチュン「はっ!？」

プリンセスとフォーチュンはブラックの声で正気に戻る。

プリンセス「い、いけない! つい・・・(〓〓〓〓〓)」

フォーチュン「わ、私としたことが・・・(〓〓〓〓〓)」

プリンセスとフォーチュンは正気に戻ったものの、顔は真っ赤なままである。

その時、瓢箪池からベムラーが出てきた途端、プリンセスとフォーチュンはようやく落ち着いた。

ラブリー「みんな！あの巨人の援護に行くよ！」

プリンセス、ハニー、フォーチュン「うん！」

ラブリー達はティガの元に向かう。

そのティガはベムラーが出てきたことに気付いて、ベムラーの方に振り向く。

ヤナカーギーはそのティガを捕らえる。

そしてヤナカーギーはティガのエネルギーを吸収し始める。

それによってティガのカラータイマーが点滅をし始める。

カラータイマーはウルトラ戦士が活動するエネルギーのコアの役割を持つ器官である。

もし、カラータイマーの点滅が終わったら、ウルトラマンとしての戦う力を失ってしまうのだ。

ラブリー「ラブリービーム！」

ラブリーは目からピンクの光線を発射し、ヤナカーギーの左腕に命中する。

ヤナカーギーはラブリーの攻撃によって、ティガの左腕を離し、エネルギーの吸収を中斷する。

ティガは肘でヤナカーギーの腹を打ち込んだ後、ヤナカーギーの首を掴み、前に投げ飛ばす。

ラブリー「おーい！巨人さーん！私達ハピネスチャージプリキユアが援護しまーす！」

ティガはラブリーの言葉に頷く。

一方、シンはウルトラゼロアイを装着し、ウルトラマンゼロに変身する。

ゼロ「まずは池から上がってもらうぜ！」

ゼロはウルトラゼロキックでベムラーは蹴り飛ばす。

よってベムラーは地上に吹き飛ばされる。

ゼロ「エメリウムスラッシュ！」

ゼロはエメリウムスラッシュを繰り出す。

その時、ベムラーは2体に分身し、エメリウムスラッシュを躲す。

ゼロ「なに!？」

2体の内1体のベムラーは姿を消し、ゼロの背後に現れる。

ゼロ「分身能力に瞬間移動だど!？」

2体のベムラーは金色の光線を発射し、ゼロの動きを止める。

ゼロ「くっ！あのゴルザと同じか！」

2体のベムラーはゼロに頭突きを食らわせる。

その後、2体のベムラーは青い熱線を発射する。

その時、ゼロの前にルミナスが介入し、バリヤーを張ってベムラーの熱線を防ぐ。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブラックとホワイトはプリキュア・マーブル・スクリュー・マックスを放ち、1体の

ベムラーに命中させる。

ゼロ「お前ら！」

ホワイト「すみません。でも、まだお礼を言っていないから！」

ゼロ「なら、とつととこいつらを倒そうぜ。」

ゼロはベムラーの頭突きによって金縛りが解かれ、容易に動けるようになり、反撃を開始する。

その頃、ティガはハピネスチャージプリキュアの助力でヤナカーギーを追い詰める。

ラブリー「愛と！」

プリンセス「勇気と！」

ハニー「命と！」

フォーチュン「星の光を！」

ラブリー達「聖なる力に！」

ラブリーとプリンセスはラブプリブレスのダイヤルを回し、ハニーはハニーバトンを光らせ、フォーチュンはフォーチュンタンバリンを鳴らす。

ラブリー達「プリキュア！」

フォーチュン「スターライト！」

ハニー「スパークリング！」

プリンセス「ブルーハッピー！」

ラブリー「ピンキーラブ！」

ラブリー達「シユート！」

ラブリー達はピンクと水色と蜂蜜色と薄紫色のエネルギーを合体して発射する。

そのエネルギーはヤナカーギーに命中する。

ヤナカーギーはラブリー達の合体技に怯む。

ラブリー「今だよ！」

ラブリーはティガに攻撃のチャンスを与える。

ティガは両腕を前に交差させた後、左右に伸ばしてエネルギーを集約し、両腕をL字に組んで、ゼペリオン光線を放つ。

ヤナカーギーはゼペリオン光線を受け、後ろに倒れ、爆散する。

その頃、ゼロは2体のベムラーの金縛り光線を躲し、ベムラーの動きを止める。

ポルン「力を合わせるポポ！」

ルミナスはハーティエルバトンから光の洪水ををブラックとホワイトに浴びせる。

ブラック「漲る勇氣！」

ホワイト「溢れる希望！」

ルミナス「光り輝く絆とともに！」

ブラックとホワイトは手を繋ぐ。

ブラック、ホワイト「エキストリーム！」

ルミナス「ルミナリオ！」

ブラックとホワイトは片方の手を前に出すと、ハート型のエネルギーから金色の光を
発射する。

ベムラーはそれを受け、もう1体のベムラーにぶつかる。

ゼロ「今度は俺の番だ！」

ゼロはルナミラクルゼロにタイプチェンジする。

ゼロ「ミラクルゼロスラッガー！」

ゼロはゼロスラッガーから無数の刃が現れ、その刃を2体のベムラーを切り裂く。

2体のベムラーは前に倒れ、爆散する。

ゼロは元の姿に戻り、ティガの方に振り向く。

ゼロ「またティガに会うことになるとはな。」

ティガは光に包まれ、真理奈の姿に戻る。

真理奈はヤナカーギーとの戦いの時、エネルギーを吸い取られたせいか、疲労して膝をつく。

くるるはすぐに真理奈の元に駆け、額の宝石の色が紫から緑に変え、目を瞑る。

すると、真理奈に緑の光が包まれる。

真理奈「はあ、はあ・・・ふう・・・ありがとう、くるる。」

真理奈は上体を起こし、立ち上がる。

ラブリー「大丈夫？」

プリンセス「あのウルトラマン、あなたが？」

プリンセスは真理奈に質問すると真理奈は落ちていたオーパーツを拾う。

そのオーパーツは石の塊だったが、今のオーパーツはティガのプロテクターに似たアイテムになっている。

そのアイテムの名はスパークレンス。

GUTSの隊員マドカ・ダイゴがティガの石像と融合したことにより、生み出した変身アイテムである。

また、エックスの世界で同じアイテムを玉城ユウトも使用している。

真理奈「何が起こったのかわからないけど、そうみたい。」

真理奈はスパークレンズを裏を向けたり、逆さにしたりして見つめる。

ゼロはシンの姿になって、真理奈の元に行こうとする。

ホワイト「あの！」

ホワイトはシンを呼び止める。

ホワイトはよろよろしながらシンに近づく。

ホワイト「助けてくれて、ありがとうございます。あの怪獣に池の底に叩き落された時、もうだめかと思いました。でも、あなたが助けに来てくれなかったら、ここにはいないと思います・・・」

ホワイトは言い出す内に涙を流していた。

そして、ホワイトはシンを抱きしめ、礼を言い出す。

ホワイト「本当に・・・ありがとうございます！」

シンはホワイトの頭を撫で続けた。

ブラックとルミナスは今の光景を見て微笑む。

数時間後、プリキュア達は変身を解き、河童山から下りて、バスで帰宅するのだった。

尚、ほのかは泣き疲れて寝てしまい、シンがほのかをおんぶしてバスに乗せて、なぎさとひかりと一緒にほのかの家に行くことにした。

ちなみにそのほかはシンの隣に座らせている。

そのバスで真理奈はシン達にスパークレンスを手に入れた経緯や、くるるとの出会い、そして真理奈が妖精の事を知っている理由を話すが、それは次のお話・・・

真理奈とくるる

河童山でベムラーとヤナカーギーと遭遇したふたりはプリキュアMAX HEARTとハピネスチャージプリキュア。

その最中、その山で会った少女、新真理奈がウルトラマンティガへと変身する。

ティガはヤナカーギーと戦い、モロボシ・シンはキュアホワイトこと雪城ほのかを救出した後、ベムラーを倒すべく、ウルトラマンゼロへと変身する。

プリキュア達との協力でベムラーとヤナカーギーを見事に倒した。

戦いが終わった後、ほのかの家に向かうため、バスで移動している。

なぎさ「ほのか、ぐっすり寝ちゃったね。」

なぎさは後ろの座席からシンの隣にいるほのかがシンの方に寄りかかって寝ている様を見る。

メップル「なぎさがバスの中で寝ても違和感ないけど、ほのかがバスの中で寝るなんて珍しいメポ。」

なぎさ「どういう意味!？」

ひかり「まあまあ……」

なぎさとメツプルが喧嘩しそうになるが、ひかりが止める。

真理奈「ねえ、あんた。起こさなくていいの？お互い正体を明かした以上話さなきやいけないけど。」

シン「ああ。寝かしといてやれ。」

真理奈はシンにほのかを起こさないのかと聞くが、寝かせておくことにした。

真理奈はヤナカーギーとベムラーとの戦いを終えた後、なぎさ達から自分がプリキュアであることを聞いた。

シンもゼロであることを話した。

もちろんこのことについては誰にも言わないことにしておいた。

シン「けど真理奈。そのアイテムどうやって手に入れることができたんだ？」

真理奈「単なる偶然よ。昨日家に帰ってる最中、変わった形をした石が道端に置いてたから拾っただけ。まさか・・・白雪から聞いたけどウルトラマンっていうのに変身されるとは思わなかったけど・・・」

真理奈はスパークレンスを手に入れた経緯を話す。

スパークレンスを見つけたのは偶然だと言い出す。

シン（偶然・・・本当にそうなのか？）

シンは真理奈の言葉に引っ掛かりを感じた。

今まで時空の歪みから怪獣が現れたから、スパークレンスがこの世界に存在していたのも同じ理由なのではないかと推測するシン。

ひめ「ねえ。私からも質問いい？」

真理奈「なに？」

真理奈はひめの質問を聞く。

ひめ「あなたと一緒にいるカーバンクルの事なんだけど、どんな経緯で出会ったの。」
真理奈「くるるの事か。くるるとの出会いを話す前に、どうやって妖精の世界に行けたのかを話す必要があるわね。」

いおな「私もそれが気になってたわ。」

真理奈はくるるとの出会いを含めて妖精の世界に行けた理由を話す。

真理奈「私の両親はね、妖精の世界を研究していた科学者なの。きっかけで言うなら祖父ちゃんなのよね。祖父ちゃんが飛行機でパリに向かう途中、水晶のような巨大な花を見たんだ。」

真理奈の話からすると、真理奈の祖父は飛行機に行く途中、雲の上に巨大な花が漂っていた。

真理奈の祖父はカメラでその花を撮った。

真理奈「俄かには信じられないでしょ？雲の上に花があつたなんて。まあ、でも興味

がないわけじゃないけどね。とにかくその花は次元を超えた力があることを知ったのよね。祖父ちゃんも研究員だったから。」

真理奈の話聞いてなぎさとひかりは互いの顔を見合わせる。

ひかり「それって！」

なぎさ「うん！」

ミツプル「真理奈。その花はプリズムフラワーと呼ばれる花ミポ。」

ミツプルは真理奈の祖父が見た花を教える。

真理奈「プリズムフラワー？」

ミツプル「そうミポ。プリズムフラワーはミツプル達が住む妖精の世界とほのか達が住む人間の世界を繋いでいる光のエネルギー空間の力の源ミポ。」

真理奈「じゃあ、次元を超えた力っていうのはそのエネルギーの源だったということね。なんで雲の上に漂っているのかわからないけど……」

真理奈はプリズムフラワーの事を深刻に考える。

リボン「真理奈。話の続きを。」

真理奈「へっ？ああ、そうだったわね。祖父ちゃんはパリから帰国した後、そのプリズムフラワーを研究し続け、何年か経った後、ようやく妖精の世界に行けるようにできる装置を作ったの。祖父ちゃんはその装置を『フェアリーゲート』って名前を付けたん

だ。そのゲートで妖精の世界に行ったの。」

ひめ「なんかすごい大規模ね。」

なぎさ「あなたのお祖父さん何なの？」

真理奈「放つといてよ！」

真理奈は妖精の世界に行くことができる装置、『フェアリーゲート』の事を話す。

真理奈「祖父ちゃんが妖精の世界に行けたのはよかったものの、その時に気になるとを気付いたのよ。」

ゆうこ「気になる？」

真理奈「祖父ちゃんは帰国する前、図書館で400年前に誕生したプリキュアの事やその年にパリを襲ってきた侵略者の事を知ったの。祖父ちゃんは妖精の世界の風景を見渡している時にそれを思い出したの。」

真理奈は祖父の気がかりを話した。

いおな「ゆりさんから聞いたことあるわね。400年前にキュアアンジェが誕生して、パリを破壊しようとしたサラマンダー男爵をモン・サンミシエルに封印したとか。」

真理奈「うん。過去に起きた戦いの事でプリズムフラワーを狙う何かが現れるんじゃないかと考えてたのよ。そこで祖父ちゃんは『フェアリーゲート』を閉じてプリズムフ

ラワーに頼らずに妖精の世界に繋げる装置の開発を始めたの。『フェアリーゲート』はプリズムフラワーを基にして作った装置だからね。」

真理奈は祖父が『フェアリーゲート』を閉じた後、妖精の世界に繋げる別の装置を作ろうとしていることを話す。

真理奈「それからしばらく経ち、やつとの思いでプリズムフラワーに頼らず妖精の世界に行ける装置の設計図を完成した。名付けて『ディメンジョンゲート』。」

めぐみ「それでお祖父さんはその『ディメンジョンゲート』を作ったんだね。」

真理奈「いや、『ディメンジョンゲート』を作ったのは父さんと母さんなんだ。」

めぐみ「え？お祖父さんじゃなく？」

めぐみは真理奈の祖父が『ディメンジョンゲート』を作ったと思っていたが、作ったのは父と母だと真理奈は言い出す。

真理奈「祖父ちゃんは『ディメンジョンゲート』の設計図を両親に託した後、なんでかは分からないけど家から出て行ったの。両親が『ディメンジョンゲート』を完成させたちょうどその時にパリの研究所で爆発事故が起きて・・・死んでしまったの・・・」

真理奈は自分の祖父が死んだことを言い出すと、なぎさ達は「あ・・・」と後悔をする。

めぐみ「ご、ごめんね、辛いことを思い出したりして・・・」

真理奈「気にしないでよ。祖父ちゃんの事で毎日毎日落ち込んでても仕方ないから。」
真理奈はくるるを撫でながら言う。

くるるは真理奈の肩に乗り、舌で真理奈の頬をなめる。

それを見たなぎさ達は先程まで沈んだ表情が嘘みたいに微笑む。

真理奈「で、くるるに会ったのはその後よ。『ディメンジョンゲート』のテストを終えた後、一人で石の上に座り込んで落ち込んでたんだ。そのゲートから潜った時に見たのは自然に囲まれた無人島だったんだよね。その無人島でくるるに会ったのよ。無人島って言うてもちゃんと動物が住んでるけどね。」

真理奈はくるると出会った経緯を話す。

真理奈「私がくるるに会ったときは怪我をして弱ってたんだよ。盗賊に襲われたのか、天敵の動物に襲われたのか分からないけどね。とにかく弱っているくるるを放っておけなくて家に連れ帰って怪我を治しておいたの。祖父ちゃんが死んだって聞いた後、また何かが失っちゃったら元の子もないからね。」

真理奈は続けて話す。

真理奈「で、くるるの怪我を治した後、妖精の世界に帰したけど、次の日に母さんの仕事を手伝いにまた妖精の世界に行ったら、くるるがいきなり私の方に飛び込んだのよね。」

誠司「懐かれたってわけか。」

真理奈「まあ、そういうことになるかな・・・帰るように悟ったんだけど、その気が無くってね。それでくるるの事を母さんに話したら『可愛がつてあげなさい。』って言ったのよね。それ以来、くるるは私の家に暮らすことになったの。」

真理奈はくるるの出会いの話を終えた後、「フウ・・・」と溜息を吐く。

ぐらさん「けど、ジュエル鉞国に住んでいるカーバンクルをよく出会えたもんだぜ。」
真理奈「父さんからその話をしたのを覚えてるけど、実際に会えるとは思わなかったのはこっちも同じなんだよね。」

真理奈はぐらさんの言葉に苦笑いする。

真理奈「ねえ、せっかくこうして話しておいて悪いけど、『ディメンジョンゲート』の事は内緒にしてくれないかな？父さんと母さんに言われたの。悪い人達に悪用されたくないからって。」

真理奈はみんなに『ディメンジョンゲート』については秘密にするように言い出す。

ひめ「そんなの当り前じゃん！まあ、めぐみは隠し事苦手だから心配だけど・・・」
めぐみ「だ、大丈夫だよ！誠司やひめ達だっているし！私の事をいつもフォローしてるし！」

誠司「だからお前がしっかりしろよ・・・」

真理奈「あんた、期待されてないわね・・・」

ひめ達はめぐみの発言に呆れた顔をしたり、苦笑いする。

そして数分後、小泉学園に到着し、シンはほのかをおんぶして降りる。

その後、なぎさ、ひかり、真理奈が降りて、めぐみ達と別れる。

シンはなぎさとひかりの案内でほのかの家に向かう。

真理奈はそのまま家に帰る。

同刻、エジプトのサハラ砂漠で20体ほどの甲虫のような怪獣が胸にY字型の赤いクリスタルを持つ銀色の巨人を囲んでいる。

前者の怪獣の集団は怪獣兵器スコープス。

異形生命体サンドロスによって生み出され、北九州を襲ったことがある。

遊星ジュランに住む守護獣パラスタンを倒し、多くの緑を砂漠化したこともある。

そして後者の巨人の名はウルトラマンネクサス。

あらゆるスペースビーストを倒したウルトラ戦士である。

メタフィールドでスペースビーストを囲ませて倒すことが特徴的。

スコープスは額から破壊光弾フラレジットボムを放つ。

ネクサスはスコープスの攻撃を避け、セービングビュートで1体のスコープスを捕らえ、振り回す。

よって周りのスコープスが地上に落ちる。

捕らえたスコープスも地面に叩き落とす。

ネクサスはクロスレイ・シュートロームで地上に落としたりスコープスを1体残らず殲滅した。

ネクサスはスコープスを全滅したのを見届けた後、どこかへ飛び去って行った。

二体の魔獣

ベムラーとヤナカーギーとの戦いから次の日、なぎさとひかり、そして真理奈はほのかの家に訪れた。

ただ、シンはすでにどこかに行ってしまった、会うことはなかった。

なぎさ「シンさん出て行っちゃったんだね。もう少しお話ししたかったな。」

ほのか「仕方ないよ。またどこかで怪獣が暴れ出してるかもしれないから。」

なぎさ達がほのかの家に来る前、シンはほのかのそばで看取っていた。

ベムラーとの戦いの後、くるるの力でほのかのダメージを回復させていたため、傷はないものの、真理奈からは「目が覚めるまで見てやったら？」と言い出したので、ほのかの家に泊まることになった。

シン「どうやら大丈夫そうだな。」

ほのか「はい、わざわざ看取ってくれてありがとうございます。」

シン「いいってことよ。それにお前の体の事は真理奈と一緒にいる奴に言っておけ。あいつのおかげでお前は元気になったんだからな。」

シンはほのかにほのかの体のダメージの事はクルルに感謝するように言い出す。

シンは「お前のばあさんがお粥を作ってくれてたから食つとけ。」と言って立ち上がる。

ほのか「もう行つちやうんですか？」

シン「ああ。いつまでものんびりしてるわけにはいかねえからな。」

シンはほのかの家から出ようとした時、ほのかに呼び止められる。

ほのか「あの・・・また会えますよね？」

シン「ああ。」

シンはほのかの言葉に頷き、ほのかの家を後にする。

なぎさ達がほのかの家に訪問したのはその30分後である。

真理奈「けどさ、住まいの事とかはどうするの？怪獣を倒すために一日中歩き回るなんて辛くない？」

真理奈はシンのこれからの事を考える。

真理奈の言う通り、今のシンは時空の歪みによる影響で他の別の宇宙に行けなくなつてしまった以上、この世界で生活することになる。

ほのか「大丈夫よ、真理奈さん。」

真理奈「呼び捨てでいいよ。私より年上のくせに・・・でも大丈夫って？」

真理奈はほのかに尋ねる。

なぎさはほのかから逃げ出す。

ポルン「行っちゃったポポ。」

ルルン「ルル。」

くるる「キュククク・・・」

くるるは口を押えて笑う。

ひかり達はその光景を見届ける。

2人が出て行った後、真理奈は額に手を押えながらひかりに言い出す。

真理奈「九条・・・今の話、聞かなかったことにするわ・・・」

ひかり「あ、あははは・・・」

ひかりは苦笑いするしかなかった。

その頃・・・

? 「着いたナリ〜!」

ここは、キュアフローラこと春野はるか、キュアマーマイドこと海藤みなみ、キュアトウインクルこと天ノ川きらら、キュアスカーレットこと紅城トワの4人で活動するG
O!プリンセスプリキュアが活躍した夢ヶ浜である。

彼女達はホープキングダム城を支配した闇の勢力デイスダークからこの街を守っていた。

そして、彼女たちが通うノール学園でデイスダークの主デイスピアを倒し、ホープキングダムの住民たちを絶望の扉から解放した。

その夢ヶ浜で両手を上げて叫ぶ少女がいた。

その少女は日向咲。

又の名はキュアブルーム。

ふたりはプリキュアSPLEASH STARRの一人でキュアイーグレットこと美翔舞と一緒にダークフォールの支配者アクダイカーン、そしてダークフォールの黒幕であるゴーヤーンを倒した。

ちなみに舞やフラツピ、チョツピとムープ、フープも一緒である。

舞「咲、はしやぎすぎ・・・」

咲「だつてみなみときららとトワが夢ヶ浜に帰ってくるからはしやぎたくなるよ！」
フラツピ「当たり前前ラピ！最近怪獣が現れて、放つておくと思つてるラピ？」

咲「分かつてるけど、みなみ達が夢のためにはるかちやんと離れ離れになつて、それこそ放つておけると思つてるの？」

咲とフラツピは喧嘩をし始める。

チヨツピ「あっ！みなみときららチヨピ！」

チヨツピはみなみときららが歩いて来るのを気付く。

きらら「ごきげんよう。久しぶりだね、さつきー、まいまい。」

咲「ごつきげんよーっ！きららー！久しぶりナリー！」

みなみ「ごきげんよう。咲さん、舞さん。お久しぶり。元気そうね。」

舞「ごきげんよう、みなみさん。」

咲たちはお互いに挨拶をする。

？「トワ様、こちらですロマ！」

？「はるか、こつちパフ！」

咲たちは声をした方に振り向くと、パフとアロマを先頭にはるかトワがやってくる。

はるか「みなみさん、きららちゃん！ごつきげんよーっ！」

トワ「ごきげんよう。」

はるか達はみなみ達に挨拶した。

その後、マールドーナツ本店に移動する。

そして、そこでドーナツをご馳走する。

きらら「んっ♡久しぶりのマールドーナツのドーナツ、たまになっ♡い♡」

はるかはきららの発言に顔が赤くなる。

トワ「もう、きららつたら・・・」

ムーブ「ムーブ楽しみムブ！」

フープ「フープもムブ！」

はるか「ムーブとフープまで！（／／／／）」

咲「ていうか、人がいるのに声出さないですよ！」

咲はムーブとフープに注意する。

その時、どこからか咆哮が聞こえる。

咲「えっ!？」

はるか「何!？」

咲達は今の咆哮を聞き、辺りを見回す。

その時、海の上の空間が捻じれ始める。

そして、その空間の捻じれからオレンジ色の刺々しい体をした一つ目の怪獣が現れた。

その怪獣の名は催眠魔獣ラグストーン。

ラグストーンは怪獣狩人ノワール星人が地球に送り込み、人間に潜在能力を高める光線を浴びせ、感情を吸収し、催眠状態にして操ることができる強敵である。

ウルトラマンコスモスのネイバスター光線をも通用しなかった。

街の人たちはラグストーンの登場で逃げ惑う。

ラグストーンはその人達にオレンジの光線を放った。

街の人たちは倒れてしまう。

咲「怪獣!？」

きらら「もう！せっかくこうしてドーナツ食べれたのに邪魔しないでよ！」

パフ「あれを見るパフ！」

きららがラグストーンに文句を言うと、パフがラグストーンとは反対の方に指す。

パフが見たのは、ラグストーンが出てきた時とは小さいが先程の空間の捻じれであ

る。

その空間の捻じれから現れたのは複数の眼を持つ羊のような怪獣である。

その怪獣の名は夢幻魔獣インキュラス。

インキュラスはラグストーン同様、ノワール星人が送り込んだ怪獣である。

ラグストーンは人間の欲望を調査するために送り込んだ怪獣だが、インキュラスは

人々の記憶データを盗み出すために送り込んだ怪獣である。

キュラスターという光の筒でウルトラマンコスモスを閉じ込めさせ、苦しめたことが

ある。

チョツピ「変身するチョピ！」

フラツピとチョツピはクリスタルコミュニケーションとなり、咲と舞に変身するよう呼びかける。

咲と舞は頷いてクリスタルコミュニケーションを手に取る。

咲と舞はクリスタルコミュニケーションの先端を回すと光が灯す。

そして2人が手を繋ぎ、「デュアル・スピリチュアル・パワー！」と声を上げ、光が2人を包み込む。

咲は花をモチーフにしたコスチュームに、舞は鳥をモチーフにしたコスチュームに変わる。

咲「花開け大地に！」

舞「羽ばたけ空に！」

咲はキュアブルームに、舞はキュアイーグレットに変身する。

ブルーム「輝く金の花！キュアブルーム！」

イーグレット「煌く銀の翼！キュアイーグレット！」

ブルーム、イーグレット「ふたりはプリキュア！」

イーグレット「聖なる泉を汚す者よ！」

ブルーム「アコギな真似はお止めなさい！」

はるか達はドレスアップキーの先端をタッチすると、底部から鍵を出し、「プリキュア、プリンセスエンゲージ！」と声を上げ、ドレスアップキーをプリンセスパフュームに差し込む。

すると、底から光の香水が現れ、その香水を体に吹き付けると、はるかは花のプリンセスに、みなみは海のプリンセスに、きららは星のプリンセスに、トワは炎のプリンセスに成り変わる。

これをはるかが変身するキュアフローラ、みなみの変身するキュアマーマイド、きららの変身するキュアトウインクル、トワの変身するキュアスカレットである。

フローラ「咲きほこる花のプリンセス！キュアフローラ！」

マーマイド「澄みわたる海のプリンセス！キュアマーマイド！」

トウインクル「きらめく星のプリンセス！キュアトウインクル！」

スカレット「深紅の炎のプリンセス！キュアスカレット！」

フローラ「強く！」

マーマイド「優しく！」

トウインクル「美しく！」

スカレット「Go！」

フローラ、マーマイド、トウインクル、スカレット「プリンセスプリキュア！」

フローラ「さあ、お覚悟は、よろしくて？」

ブルーム達は変身を終えた後、インキュラスと対峙する。

ゼロ「こんなにも早く他のプリキュアに会うとはな。だが今は・・・」

ゼロはブルーム達を見て眩くが、すぐにラグストーンの方に振り向く。

ゼロ「こいつをぶっ倒してからだぜ！」

ゼロは指を鳴らした後、ラグストーンに攻撃を仕掛ける。

ブルーム「皆、行くよ！」

ブルームの掛け声で一斉にインキュラスに攻撃を仕掛ける。

インキュラスを追い!

ラグストーンはゼロに攻撃を繰り返すが、ゼロは難なく躲し、キックをお見舞いする。キックを喰らわされたラグストーンは横転する。

ゼロはラグストーンの頭を掴み、投げ飛ばした。

ラグストーンは投げ飛ばされたが、すぐに起き上がる。

ゼロ「へへっ! 一気に決めてやるぜ!」

ゼロはラグストーンにワイドゼロショットを放つ。

しかし、ラグストーンはワイドゼロショットを受けても、ダメージを与えられなかった。

ゼロ「なにつ!?!」

ラグストーンは地面に片手を置き、足を延ばした後、猛ダツシユでゼロに体当たりする。

ゼロ「うおわっ!?!」

ゼロはラグストーンの体当たりを受け、倒れる。

ゼロ「へっ! やるじゃねえか!」

ゼロは立ち上がり、ラグストーンに向かって走り出す。

一方、ブルーム達はインキュラスに苦戦していた。

ブルーム「ダダダダダダダッ!!」

ブルームはインキュラスに連続パンチを繰り返すが、すべてインキュラスに防がれる。

フローラ「ヤアアアアアッ!!」

フローラはインキュラスの背後から攻撃を繰り返すが、インキュラスは瞬間移動で躲し、フローラはブルームにぶつかる。

フローラ「いたたた・・・すみませえん・・・」

ブルーム「ド、ドンマイだよ・・・」

フローラとブルームは頭をさすりながら言う。

マーメイド「ハアッ!」

マーメイドはインキュラスにキックを繰り返すが、インキュラスはジャンプして躲す。

トウインクル「シューティングスター!」

トウインクルはシューティングスターのドレスアップキーをクリスタルプリンセスロッドに嵌める。

トウインクル「キラキラ、流れ星よ！プリキュア・ミィティア・ハミング！」
トウインクルのロッドから無数の流れ星を降り注ぐ。

しかし、インキュラスは瞬間移動でトウインクルの攻撃を躲す。

そして、インキュラスはトウインクルに回し蹴りを喰らわす。

イーグレットとマーメイドとスカーレットは連携してインキュラスを攻撃するが、インキュラスの動きが素早く、ダメージはなかった。

スカーレット「ハナビ！」

スカーレットはハナビのドレスアップキーをスカーレットバイオリンに嵌めて奏でる。

スカーレット「燃えよ、炎よ！プリキュア・スカーレット・スパーク！」

スカーレットのバイオリンの弓から炎が吹き出し、インキュラスを襲う。

しかし、インキュラスはまたもや瞬間移動で躲される。

マーメイド「早い！」

トウインクル「もう！さつきから逃げてばっか！」

インキュラスはマーメイド達の背後から現れ、インキュラスの背中からオーロラを出し、マーメイド、トウインクル、スカーレットを囲む。

スカーレット「これは!？」

「マーメイド「オーロラ!？」

「フローラ「みんな!」

「フローラはマーメイド達を助けようとオーロラに近づくと、弾き飛ばされてしまう。

「フローラ「キヤアッ!？」

「フローラは後ろに倒れる。

「トウインクル「フローラ!」

「スカーレット「閉じ込められたということですか!？」

「スカーレットたちはインキュラスのオーロラに戸惑う。

「ブルーム「イーグレット!」

「イーグレット「ええ!」

「ブルームとイーグレットはインキュラスに攻撃しようとする。

しかし、インキュラスはブルームとイーグレットが攻撃を繰り返す前に複数の眼からオーロラを放つ。

「ブルームとイーグレットは突然意識が朦朧とする。

「ブルーム「な、なに……ここ……れ……」

「イーグレット「急に……眠く……なっ……て……」

「ブルームとイーグレットは倒れ、眠ってしまった。

フローラ「ブルーム！イーグレット！」

フローラはブルームとイーグレットに呼びかけるが、目覚めなかった。

インキュラスはピンクの綿となり、ブルームとイーグレットを包み込み、ブルームとイーグレットの中に入って行った。

ゼロ「!?あいつら!?!」

ゼロはラグストーンを蹴り飛ばした後、ブルームとイーグレットを見る。

ゼロ「あの羊野郎の仕業か！」

ラグストーンはゼロに突進する。

ゼロ「ぐあっ！」

ゼロはラグストーンに吹き飛ばされる。

ラグストーンはゼロにランニングタックルを繰り返す。

その時、ラグストーンの上に手裏剣状の光弾が炸裂する。

ラグストーンはそれに気づき、頭上に見上げる。

ラグストーンが見たのはティガである。

先程の光弾はティガのハンドスラッシュである。

ゼロ「真理奈！」

ティガ「家に帰る途中、くるるがここに怪獣が暴れてるのを気付いてね。急いで来た

マーメイド「ゼロは？」

ゼロ「俺はこの2人を救い出す！」

ゼロはマーメイドの質問に答える。

その後、ゼロはルナミラクルゼロへと姿を変え、ブルームとイーグレットの周りに高速旋回する。

その時、ブルームとイーグレットの真上に青白い光が現れる。

ゼロはその光の中に入り、その直後光が消えた。

トウインクル「ウルトラマンってなんでもありだね・・・」

トウインクルはゼロのやり方を見て苦笑いする。

スカレット「兎に角、ブルームとイーグレットはゼロに任せて、私達はあの巨人を！」

スカレットの意見に賛同するフローラ達。

フローラ達はティガの援護に向かう。

その頃・・・

フラツピ「ブルーム！しつかりするラピ！」

チョツピ「イーグレット、起きるチョピ！」

ブルームとイーグレットはフラツピとチョツピの呼びかけで目を覚ます。

ブルーム「フラツピ・・・」

イーグレット「チョツピ・・・」

フラツピ「気が付いたラピ！」

チョツピ「大丈夫チョピ？」

フラツピとチョツピはブルームとイーグレットに心配をかける。

ブルームとイーグレットが起き上がり、周りを見渡す。

2人が見た限り、建物の中にいるのは確かだが、何故ここにいるのかは把握していなかった。

ブルーム「うん、大丈夫。」

イーグレット「ここは？」

チョツピ「分からないチョピ。」

フラツピ「でも、嫌な予感がするラピ。」

フラツピとチョツピは不安そうな表情を浮かべる。

イーグレットは四角形の穴から覗いてみると、その風景はファンタジーな景色が広

がっているが、いい雰囲気とは思えなかった。

ブルームもイーグレットの隣からその風景を見る。

イーグレット「夢の世界・・・なの・・・?」

ブルーム「でも、どよよんとして薄気味悪いナリ・・・」

ブルームはこの世界の風景を見て気味悪がる。

フラツピ「ラピ!あいつの気配がするラピ!」

ブルーム、イーグレット「えっ!?!」

ブルームとイーグレットは警戒する。

すると、ブルームが突如吹き飛ばされる。

イーグレットは振り返ると、インキュラスがいた。

インキュラスは立て続けにイーグレットを蹴り飛ばす。

イーグレット「キャアアツ!!」

イーグレットはブルームの元に転がる。

ブルーム「イーグレット!」

ブルームはイーグレットを起こす。

しかし、インキュラスは即座にブルームとイーグレットを掌底打ちする。

ブルームとイーグレットは壁に激突する。

フラツピ「ブルーム！」

チヨツピ「イーグレット！」

インキュラスはブルームとイーグレットを襲い掛かる。

その時！

？「レボリウムスマツシュ！」

インキュラスは衝撃波で壁にぶつかり、その拍子に壁が崩れ、落ちて行つた。

ブルームとイーグレットが見たのはルナミラクルゼロである。

ブルーム、イーグレット「ゼロ！」

ゼロ「どうやら無事みたいだな・・・」

ゼロは元の姿に戻る。

ブルーム「ウルトラマンって大きくも小さくもなれるんだ・・・」

ブルームは今のゼロを見て、初めて会った時のゼロを振り返る。

その時、地震が起きる。

ゼロは先程崩れた壁の方に目を向ける。

ゼロが見たのは巨大化したインキュラスだった。

ゼロ「向こうがその気なら、受けて立つぜ！」

ゼロは穴が開いた壁から飛び出し、巨大化する。

ブルーム「私達も！」

イーグレット「うん！」

ブルームとイーグレットも両足に精霊の力を込めて、壁の穴から飛び出す。

ゼロはインキュラスに殴りかかるが、瞬間移動で避けられる。

ゼロは構えを解き、そのまま佇んでいる。

インキュラスはゼロに殴りかかる。

しかし、ゼロはインキュラスの振りかぶった腕を掴み、腹に蹴りを食らわせる。

ゼロ「気配を感じ取る・・・レオの教えが役に立ったぜ。」

インキュラスはゼロの反撃に怯むが、すぐにゼロを襲い掛かる。

ブルーム、イーグレット「ハアアアアアアアツ!!!」

ブルームとイーグレットはインキュラスの顔面に蹴りを入れる。

インキュラスはブルームとイーグレットの攻撃に倒れる。

ブルーム、イーグレット「ゼロ！」

ゼロ「ああ!とつとどこいつを倒して、ダチの所に帰ろうぜ！」

ブルーム、イーグレット「はい！」

ゼロとブルームとイーグレットはインキュラスにらみつける。

インキュラスはゼロの方に走り出す。

ゼロ達もインキュラスに戦いを挑む。

VSインキュラス&ラグストーン

ティガはパワータイプにタイプチェンジして、ラグストーンにデラシウム光流を放つが、期待してほほどのダメージはなく、ラグストーンのランニングタックルでティガを吹き飛ばす。

ティガ「キヤアツ!!」

ティガはラグストーンのランニングタックルによって倒れる。

ティガはよろめきながら立ち上がるが、カラータイマーが点滅を始めた。
ラグストーンはティガに近づく。

マーメイド「高鳴れ、海よ!プリキュア・マーメイド・リツプル!」

マーメイドは渦巻状の水流を噴出させ、ラグストーンに命中させる。

しかし、ラグストーンは水流を浴びても傷一つかかなかった。

トウインクル「あの羊も手強かったけど、こいつも強すぎなんだけど!」

フローラ「どうしよう・・・」

フローラとトウインクルはラグストーンの手強さに困惑する。

スカレット「待ってください!何か様子が変ですわ!」

スカーレットは今のラグストーンを見て気づく。

マーメイドの技を受けたラグストーンの動きが遅く見えたことに。

ティガもその様子を見ていた。

ティガ（こいつ、私の技を受けても平気だったのに、プリキュアの技を受けると動きが鈍くなってる・・・？）

ティガは目の前のラグストーンと周囲に倒れている町の人達を見て仮説を立てていた。

ティガ（この怪獣が夢ヶ浜の人達の何かを吸収して強くなった？さっきプリキュアの技を受けた途端、怪獣の動きが鈍くなった。確かに過去にプリキュアの技で人の心を浄化したことがある。まさか、この怪獣は人の心を吸収していた!?プリキュアの技を受けてこいつの動きが鈍くなったのは、吸収した心が静めていたから!?もしそうなら、やってみる価値はある！）

ティガはそう推測し、ラグストーンを捕らえ、プリンセスプリキュアの方に向けた。ラグストーンは抗うが、振り払えない。

トウインクル「何!?!」

マーメイド「もしかして、技を使えって言いたいのかしら?」

ティガはマーメイドの言葉に頷く。

フローラ「やってみよう！」

マーメイド達はフローラの意見に賛同する。

プリンセスパレスの扉が開き、その中から青白い光が現す。

マーメイドのサンゴのドレスアップキーとトウインクルのギンガのドレスアップキーとスカーレットのサンゴのドレスアップキーを差し、その後フローラは「モードエレガント！」と声を上げた後、サクラのドレスアップキーを差し込み、ハンドルを回した。

フローラ「サクラ！」

マーメイド「サンゴ！」

トウインクル「ギンガ！」

スカーレット「サン！」

フローラ達は白いドレスを纏う。

フローラ、マーメイド、トウインクル、スカーレット「ドレスアッププレミアム！」
ティガとラグストーンの背後から巨大の城が現れる。

フローラ、マーメイド、トウインクル、スカーレット「響け！全ての力！プリキュア・エクラ・エスポワール！」

フローラ達の両掌からビームを発射し、ラグストーンを取り囲む。

プリキュア・エクラ・エスポワールを受けたラグストーンは弱体化を始めた。

テイガ（やっぱり！）

テイガは周りを見てみると、街の人達が目覚め、起き上がる。

テイガはラグストーンを天高く投げ飛ばした後、パワータイプからマルチタイプにタイプチェンジし、ラグストーンにウルトラフィックスで静止させ、ゼペリオン光線を放った。

ゼペリオン光線を受けたラグストーンは爆散された。

その頃・・・

ゼロ「オラアツ!!」

ゼロはインキュラスに回し蹴りを炸裂する。

ブルームとイーグレットはインキュラスの真上に飛翔し、ブルームは黄緑色の衣装を纏ったキュアブライトに変わり、イーグレットは水色の衣装を纏ったキュアウインディに変わる。

この2人は2つの変身形態を持ち、咲は花の力を持つキュアブルームと月の力を持つキュアブライトに変身でき、舞は鳥の力を持つキュアイーグレットと風の力を持つキュ

アウインデイに変身できる。

ウインデイ「風よ！」

ブライト「光よ！」

ウインデイは風を起こし、ブライトは光弾を生み出す。

ブライトが生み出した光弾はウインデイの風の風圧で威力が倍増し、インキュラスに命中させる。

インキュラスは背中からオーロラを出し、ゼロを包み込む。

ブライトとウインデイは現実世界でそのオーロラを見たので知っている。

ブライト、ウインデイ「ゼロ！」

ブライトとウインデイはゼロの元に駆け寄る。

しかし、ゼロはブライトとウインデイを制止する。

ゼロ「心配いらねえよ。」

ブライトとウインデイはゼロの言葉を理解していなかった。

その時、インキュラスの背後の地面から2つの刃が現れた。

ゼロのゼロスラッガーである。

ゼロスラッガーはインキュラスの背中の中を角を斬り落とした。

よってゼロの周りに包まれたオーロラが消えた。

そう、ゼロはインキュラスがオーロラを出す前に、ゼロの足元にゼロスラッガーを放ったのだ。

そしてオーロラがゼロを囲んだ瞬間、背後からゼロスラッガーでインキュラスの背中の角を斬り落としたのだ。

ブライト「すつごい・・・」

フラツピ「ブライトの援護も必要ないくらいだラピ。」

ブライト「なにっ!?」

ブライトはフラツピの言い方に怒る。

ゼロ「さてと・・・逃げられねえようにしてやるか!」

ゼロはストロングコロナゼロにタイプチェンジする。

インキュラスはゼロに殴りかかるが、ゼロに止められる。

ゼロ「ウルトラハリケーン!」

ゼロはインキュラスを天高く放り投げる。

インキュラスは空中で礫にされる。

ゼロ「決めるぞ!」

ブライト、ウインディ「はい!」

ブライトはベルトの2つのリングを、ウインディはブレスレットの2つのリングを星

形の部分に嵌め、その星型の部分を回し、手を繋ぐ。

すると、緑色とピンク色の光が収束する。

ウインディ「精霊の光よ！命の輝きよ！」

ブライト「希望へ導け！二つの心！」

ブライト、ウインディ「プリキュア・スパイラル・スター・スプラッシュユ！」

ブライトとウインディの目の前に大きな光が収束し、2人が両手を前に突き出すと2つの光が螺旋状に発射する。

ゼロ「ガルネイトバスター！」

ゼロもガルネイトバスターを放つ。

インキュラスはゼロとブライトとウインディの技を受け、爆散する。

すると、爆散した所から光の粒が生じ、世界全体に広がる。

ゼロ「これでお前たちは目が覚めることだろう。」

ゼロは元の姿に戻ってブライトとウインディに言う。

ブライト「じゃあ、また後で、だね。」

ウインディ「うん。」

ゼロはルナミラクルゼロにタイプチェンジし、全身に光を包み込んで天高く飛ぶ。

その頃、現実の世界ではラグストーンを倒した後、プリンセスプリキュアは変身を解除して、ブルームとイーグレットの元に向かう。

ティガも光に包まれた後、真理奈の姿に戻り、ブルームとイーグレットの元に向かう。その時、ブルームとイーグレットに光が包まれる。

光が消えると、ブルームとイーグレットの変身が解除し、咲と舞の姿に戻る。

それだけじゃなく、咲と舞の近くにシンがいた。

真理奈は咲を肩を貸し、シンは舞をおんぶして近くのベンチに座らせる。

シン「2人は大丈夫だ。もうすぐ目が覚める。」

ムーブ「ホントムプ!?」

フープ「よかったププ！」

ムーブとフープは咲と舞がもうすぐ起きると聞いて喜ぶ。

しばらく経った後、咲と舞が目を覚ます。

はるか「咲さん、舞さん！」

パフ「起きたパフ！」

はるかとパフは咲と舞の目が覚めて、安心する。

咲「うん・・・」

舞「戻ってこれたのね・・・」

咲と舞は目を擦りながら言い出す。

この時、舞は咲とは反対側に重みがあるのを気付き、振り向くと、シンが舞に寄りかかって寝ていた。

舞「えっ!?(〃〃〃〃)」

咲「誰かが寝てるナリ!」

咲と舞はそんなシンに対し驚いている。

みなみ「シンさん、疲れてたのよ。寝ている内に舞さんに寄りかかってたの。」

きらら「シンから聞いたけど、夢の世界は初めてだからエネルギーの消耗が激しかったみたいよ。」

真理奈「それにモロボシのお兄さんがこの街に来るまで連載だったしね。」

みなみ達からシンが舞の隣で寝ていた理由を話す。

咲「あなたは?」

咲は真理奈とは初めて会うので名前を聞く。

真理奈「真理奈よ、新真理奈。迷惑なら起こしてあげようか?」

真理奈は咲に名前を言った後、舞にシンを起こそうかと言いつつ出す。

舞「あ、ううん。迷惑なんて思っていないよ。(〃〃〃〃〃〃)
きさら「まりりん、空気読みなよ。」

真理奈「空気読めって・・・ていうか勝手にニックネーム付けられた!？」

真理奈はきさららに勝手にニックネーム付けられて驚く。

トワ「しかし、お2人とも無事でよかったですわ。」

アロマ「ロマ。」

フラツピ「フラツピを忘れちゃダメラピ!」

チョツピ「チョツピもいるチョピ!」

フラツピとチョツピは自分達の存在を忘れられてると思い、大声を上げる。

トワ「もちろん忘れていませんわ。フラツピとチョツピもご無事で。」

トワはフラツピとチョツピの無事に笑顔を見せる。

その時、真理奈のポケットからスマホの着信音が鳴り始める。

真理奈はスマホを取り出し、電話を掛ける。

真理奈「もしもし? あ、キャス!?! うん・・・明日、大貝町ね? 分かった。」

真理奈は電話を切る。

真理奈「ごめん、私帰るね!」

真理奈はスマホをポケットにしまった後、走り出す。

咲「え!? ちょっと!」

真理奈「モロボシのお兄さんの事はあんた達が起こしといて!」

真理奈は咲達に手を振りながら去って行く。

しばらく経った後、シンは起きて、咲達とはるか達に別れを告げ、他のプリキュアと会うために夢ヶ浜を後にした。

同時刻、アメリカのアマゾンで2体の怪獣が現れた。

1体は両腕に鎌を持つ怪獣、もう1体は背中に1本の棘を持つ怪獣である。

前者の怪獣は彗星怪獣ドラコ。

日本アルプスの山中に降り立ち、冷凍怪獣ギガスと格闘したことがある。

その戦いの最中にどくろ怪獣レッドキングに翼をむしり取られた過去がある。

後者の怪獣は地底怪獣テレスドン。

地底人が地上侵入のために送り込んだ。

初代ウルトラマンの投げ技の連続で絶命された。

その2体の怪獣が相手をしているのはネクサスである。

そのネクサスはアームドネクサスをエナジーコアの前に掲げる。すると、ネクサスの姿が銀と紫を基調とした姿になる。

ネクサスは変身した時、アンフアンズという銀色の体をした姿になる。

そして、アームドネクサスの力でジュネツスへとタイプチェンジできる。

過去では赤を基調としたジュネツス、青を基調としたジュネツスブルーにタイプチェンジしたことがある。

しかし、今のネクサスは紫の姿である。

ドラコは翼を広げて空を飛び、ネクサスを襲い掛かる。

ネクサスはアームドネクサスから光の刃を出し、すり抜け様にドラコの翼を斬り落とす。

ドラコはそのまま地面に叩き落される。

テレスドンはネクサスに向かって走り出す。

ネクサスはアームドネクサスをエナジーコアの前に掲げる。

すると、アームドネクサスに光の弓が形成して、テレスドンに放つ。

この技はジュネツスブルーが使用する、アローレイ・シュトロームである。

この技を受けたテレスドンは一刀両断され、爆散される。

ドラコの鳴き声が聞こえ、振り向くネクサス。

翼を斬り落とされたドラコは走ってネクサスを襲う。

ネクサスは両腕を前に交差し、エナジーコアの前にエネルギーを流した後、両腕をV字型に伸ばし、L字を組んで光線を発射する。

この技はジュネツスが使用する、オーバーレイ・シユトロームである。

この技を受けたドラコは青い光の粒となって消滅した。

ネクサスは2体の怪獣を倒した後、どこかへ飛び去って行った。

真琴が行方不明!?

ここ大貝町はキュアハートこと相田マナ、キュアダイヤモンドこと菱川六花、キュアロゼッタこと四葉ありす、キュアソードこと剣崎真琴、キュアエースこと円亜久里が率いるドキドキ！プリキュアがキングジコチューの侵攻を阻止し、プロトジコチューを撃破し、守り抜いた町である。

現在はキングジコチューが侵攻した際に生じた裂け目の向こうにあるトランプ共和国と交友関係になっている。

その大貝町に事件が発生した。

？「六花！亜久里ちゃん！まこぴーいた!？」

六花「ううん、見つからない!」

亜久里「そつちもなのですか、マナ?」

マナ「うん、あつちこつち探したけど見つからないよ。」

シャルル「ダビイとの連絡も取れないシャル!」

ラケル「さつき大貝町に着いた響達も探してくれたけど、見つからなかったケル!」

マナ達は慌てた様子で真琴を探し回っていた。

マナ「明後日まこぴーのライブが控えているのにこんなことになるなんて・・・」
マナの言葉からすると、明後日には真琴のライブが四葉スタジアムで行うことになっていた。

ところが今日、真琴の行方が分からなくなり、真琴の妖精であるダビィとの連絡も取れなくなった。

大貝町に来ていた北条響達もマナ達と一緒に真琴を探すことになったが見つからなかったのだ。

北条響は加音町で活躍していた音楽の戦士スイートプリキュアの一人キュアメロデイの変身者である。

他にキュアリズムこと南野奏、キュアビートこと黒川エレン、キュアミューズこと調辺アコもいる。

スイートプリキュアは世界を不幸のメロデイで悲しみに染めようとするマイナーランドを対峙した戦士である。

メイジャーランドで人々の悲しみから生まれた存在ノイズを浄化し、幸福のメロデイで世界に平和を取り戻した。

シャルル「あつ！ありすから連絡が入ってきたシャル！」
シャルルはラブリーコミュニケーションとなって繋げる。

ありす「マナちゃん、六花ちゃん、亜久里ちゃん。真琴さんの居場所がわかりました。」
六花「えっ!？」

マナ「ホントに!？」

マナと六花と亜久里はありすから真琴の居場所を聞き出す。

その頃・・・

? 「真琴、しっかりするビィ!」

真琴「う、うう・・・」

真琴は誰かの声で目を覚ます。

真琴「ダビィ・・・」

ダビィ「気が付いたビィ?」

真琴「ここは?」

ダビィ「分からないビィ・・・」

真琴とダビィは周りを見渡すが、真つ暗であり、どこなのかも分からない。

ただ、真琴が起き上がる時に手に触っているのが冷たく感じた。

真琴「?何?」

真琴は叩いてみると固く、音が響き渡る。

真琴「鉄板?」

ダビィ「!真琴、声が聞こえるビィ!」

真琴は耳を澄ませる。

?「流石だぜ、ヤマザキ博士。このコンテナにプリキュアの変身を封じる装置を設置したおかげで身代金を手に入れる準備ができそうだけ。」

ヤマザキ「なに、これは目的達成の余興に過ぎない。この2つをあげましょう。この町に住んでいるプリキュアは1人だけではありませんから。」

真琴は今の会話からして、自分は閉じ込められたのだと確信した。

ただ、ヤマザキという人物が言っていた目的達成の事は分からなかった。

コンテナの外では、ヤマザキがサングラスの男2人に何かを渡した後、その場から去って行った。

サングラスの男A「へへ、こいつがありや俺たちは無敵だぜ。」

サングラスの男B「ああ、身代金もガツポリだ。」

サングラスの男2人は手に持っている物を見て笑い出す。

その時、真琴を閉じ込めたコンテナの裏からアロハシャツを着た3人が別のコンテナ

にぶつかる。

コンテナの中にいる真琴もその音に気付く。

真琴「何!?!」

真琴を閉じ込めたコンテナの裏から一人の青年が現れた。

シンである。

サングラスの男A「なんだ、てめえは!」

サングラスの男Bはシンに向かって質問をぶつける。

シン「この中に閉じ込めた奴を助ける者だぜ。」

サングラスの男B「んだとお・・・お前ら出て来い!」

シンの周りに20人ほどの手下が現れる。

その内の何人かがナイフを持っていた。

サングラスの男A「お前ら・・・やっちまえ!」

サングラスの男の命令で手下がシンを襲い掛かる。

しかし、シンは20人ほどの手下を次々となぎ倒し、たった2分で片づけてしまった。

サングラスの男A「う、うそだろ?」

サングラスの男B「強すぎるぜ・・・」

サングラスの男2人はシンの強さに怯む。

シン「さて、どうする？これを開けるか？」

シンはサンングラスの2人組に聞く。

サンングラスの男A「そ、そうはさせるかよ！」

サンングラスの男B「身代金をもらうんだ！引き下がってたまるか！」

2人はポケットから目玉が付いた球体とダイヤ状のシンボルを取り出す。

そして、その球体を真琴を閉じ込めたコンテナとは別のコンテナに、ダイヤを倒れた男のナイフに貼り付ける。

すると、球体に貼り付いたコンテナとダイヤに貼り付いたナイフが生き物のような怪物に変わった。

前者の怪物はホシイナーと呼び、プリキュア5とミルキイローズが敵対した組織エターナルが使役する怪物で、キュアローズガーデンに向かうために必要なローズパクトを奪い取るために操っている。

後者の怪物はナケワメーケと呼び、フレッシュプリキュアが敵対する組織ラビリンズが使役する怪物で、全パラレルワールドを統治するために必要なインフィニティを手に入れるために不幸のゲージに不幸のエネルギーを貯めることを目的に操っている。

シン「なんだ？怪物とは違うな？」

シンはホシイナーとナケワメーケを初めてみるため、少し驚いている。

シン「だが、人を誘拐したてめえらを見過ごすわけにはいかねえ！」

シンは腕輪を掲げる。

？「ちよーつと待ったーっ!!」

シン「へ？」

シンは後ろから大声が聞こえたので振り向く。

そこにはキュアハート、キュアダイヤモンド、キュアロゼッタ、キュアエースが立っていた。

ハート「悪事を働くそのお2人さん！このキュアハートがまこびーを取り戻して見せる！」

ハートは手をハートの形にしてサン格拉斯の2人組に言う。

サン格拉斯の男A「あれは、ドキドキ！プリキュア!？」

？「こつちもいるよ！」

サン格拉斯の2人組は後ろに振り向く。

そこにはキュアメロディ、キュアリズム、キュアビート、キュアミューズの4人スイートプリキュアが立っていた。

メロディ「まこびーは多くの人達を笑顔にするアイドル！あんなたちのような自己中人達がそのアイドルをさらうなんて、絶対に許さない！」

メロディはサングラスの2人組に怒りをぶつける。

サングラスの男B「他にもプリキュアが!？」

サングラスの2人組は2組のプリキュアが現れたことで焦り出す。

ミュージズ「それにしても、なんでホシイナーとナケワメーケがここにいるのよ？」

ミュージズはホシイナーとナケワメーケがいるのに疑問を持つ。

エース（あの方のブレスレット・・・）

エースはシンの腕輪を見る。

ハート「とにかく、まこぴーを助け出すよ！」

ハート達はホシイナーを、スイートプリキュアはナケワメーケを対峙する。

エースはシンの元に駆け付ける。

エース「あなたがウルトラマンゼロですわね。私達があの怪物を相手にしている隙に

真琴を。」

シン「ああ！」

シンはエースの言う通りにする。

エースはすぐにハートの元へ向かう。

メロディ「ダアアアアアアアッ!!!」

メロディはパンチのラッシュでナケワメーケを追い詰める。

ナケワメーケは自身の刃でメロデイを斬りかかろうとする。

ビート「ビートバリア！」

ビートはラブギターロッドを出して弾いた後、バリアを張ってナケワメーケの攻撃からメロデイを守る。

リズム「気合のレシピ見せてあげるわ！ハアアッ！」

リズムはナケワメーケの横から蹴りを入れる。

ナケワメーケは吹き飛ばされる。

ミュージズ「おいで、シリー！」

シリー「シシー！」

シリーはミュージズのキュアモジュールにセットされる。

ミュージズはキュアモジュールを吹き付ける。

ミュージズ「シの音符のシャイニングメロデイ！」

ミュージズは4人の分身を作り、ナケワメーケを囲む。

ミュージズ「プリキュア・シャイニングサークル！」

ミュージズは五芒星のサークルを作り、ナケワメーケを拘束する。

ミュージズ「今よ！メロデイ、リズム！」

メロデイ、リズム「うん！」

メロディとリズムは手を叩き、息の合った動作をした後、互いに手を繋ぐ。

メロディ、リズム「プリキュア・パッションナート・ハーモニー!」

メロディとリズムは繋いだ手を前に出すと金色のト音記号が現れる。

ト音記号が回転すると、金色の閃光波を発射し、ナケワメーケに直撃する。

ナケワメーケは浄化され、ダイヤが消滅し、元のナイフに戻る。

ハート「やああっ!」

ハートはホシイナーにパンチを繰り出す。

ホシイナーはコンテナのドアを開き、掃除機のように吸い込む。

ロゼッタ「ラブハートアロー!」

ロゼッタはラブハートアローを出し、アローキュアラビーズをセットし、4色のハ

ートの模様をなぞる。

ロゼッタ「プリキュア・ロゼッタリフレクション!」

ロゼッタはラブハートアローで円を描くと巨大なクローバー型のバリアを形成する。

ロゼッタ「えい!」

ロゼッタはそのバリアを思いっきり叩くと、ホシイナーのコンテナドアに向かって飛

ばす。

プリキュア・ロゼッタ・リフレクションでコンテナドアのフタになり吸い込めなく

なった。

ダイヤモンド「煌めきなさい！ トウインクルダイヤモンド！」

ダイヤモンドは人差し指の先から氷を飛ばす。

よつて、プリキュア・ロゼッタ・リフレクションが凍結した。

エース「ときめきなさい！ エースショット！ ばきゅくん！」

エースは前方に生成したハート型のエネルギー体をラブキッスルージュを振り下ろす。

すると、赤い花びらを纏った赤いビームが発射される。

そのビームを受けたホシイナは浄化され、目玉の付いた球体が消滅し、元のコンテナに戻った。

サングラスの男A「ま、まじか……」

サングラスの男B「こうなったら、剣崎真琴だけでも……」

サングラスの2人組は逃げようとするが……

シン「悪いな、もう助けたぜ？」

シンや人間体になったダビィに気絶させられる。

そして、1時間後……

マナ「いや、よかったよ。まこぴーが無事で。何の連絡も入ってこなかったから一

時はどうなるかと思ったよ。」

マナ達と響達は四葉邸に移動した。

今は真琴の精密検査を行なっている。

あります。「そのことですが、真琴さんが閉じ込めたコンテナの屋根にプリキュアの変身やラブリーコミュニケーションでの通信をできないように設計されていました。恐らく連絡を取れなかったのはそれが原因ではないかと。」

あります。真琴との連絡ができなかった理由を話す。

響「そんな装置を作れるなんて、まこぴーが言ってたヤマザキって人、何者なの？」
六花「ていうかその装置を解明した四葉財閥ってどれだけすごいのか？」

エレン「ねえ、真琴をさらったあいつらはあの後どうなったの？」

奏「ダビィが警察に知らせたから大丈夫だと思うけど。」

真琴を解放した後、ダビィが警察に連絡して誘拐を目論んだ犯罪者たちの事を話した。

ダビィは今もその現場にいる。

真琴「ふう・・・」

マナ「あ、まこぴー！大丈夫？」

真琴「ええ、異常はなかったみたい。」

ドアから出てきた真琴をマナが心配かける。

響「四葉財閥ってすごいね・・・」

響は精密検査ができる機械も作った四葉財閥に啞然とする。

亜久里「シンお兄様には感謝しないといけませんわ。」

アコ「そうね。」

ハミイ「真琴、あそこに着替えを置いてるニヤ。」

真琴「ありがとう。」

真琴はハンガーにかけてある自分の服を着ようとする。

その時・・・

シン「おい、もう終わった・・・か・・・」

真琴が着替えてる最中にシンが入って来た。

真琴「キヤアアアアアアアアツ!!! (//////)」

シン「のわあっ!?! (//////)」

真琴は悲鳴を上げてしやがみ込む。

アコ「ちよつとシンお兄ちゃん!いきなり入ってこないでよ!」

亜久里「そもそもノックもせずに入るなんてどういふつもりですの!?!」

アコと亜久里はシンに対して怒鳴る。

シン「わ、悪い！まさか着替えてる所とは思わなくてよ！（／＼／＼／＼）」

真琴「いいから！早く出て行きなさい！（／＼／＼／＼）」

シン「わ、わかった！すぐ出るから！ホントにすまん！（／＼／＼／＼）」

シンは足早に部屋から出て行った。

アコ「もう・・・シンお兄ちゃんつたら・・・」

亜久里「さっきの言葉、撤回したいですわ・・・」

アコと亜久里は先程の言葉を言ったことを後悔した。

アコと亜久里と真琴以外のみんなは苦笑いするしかなかった。

異次元の怪獣

ここは大貝町で新しく建設した施設、『プロノーン・カラモス』。

ここでは科学者の子供や世界中に誕生した天才児達が集まり、プロトジコチューが消滅し、人間界とトランプ共和国と交流が行なつて以来、設立した。

科学者の子供はその天才児達の事を『アルケミー・スターズ』と呼んだ。

真理奈もたまにだが、ここに来ている。

真理奈「キヤス、ダニエル、お待たせ。」

キャサリン「真理奈、待ってたわよ。」

パソコンの前で真理奈を待っていたのはキャサリン・ライアンとダニエル・マクフィーである。

この2人がプロノーン・カラモスの代表格である。

真理奈「昨日、電話でパリ上空で謎の生物を見たって聞いたけど、本当なの？」

ダニエル「ああ。パリは君のお祖父さんの研究所があったから、君にも知らせるべきだと思って電話したんだ。」

キャサリン「すぐに映像を出すわ。」

キャサリンはパソコンでパリで見た謎の生物の映像を出す。

キャサリン「撮影されたのは2週間前よ。」

真理奈が見たのはほぼ壊された真理奈の祖父の研究所上空で現れた謎の生命体である。

特徴で言うなら紫の体色で腕が4本あり、翼も生えていて下半身がない代わりに、巨大な水晶玉のような物体を持ち、人のような体格を持つ異形の存在であった。

真理奈「なんなの、これは・・・」

真理奈はキャサリンが見せた生命体を絶句する。

真理奈（なんで祖父ちゃんの研究所の上空にこんなのが・・・）

ダニエル「真理奈、大丈夫か？」

真理奈「大丈夫って言ったら大丈夫だけど、なんだか気になるわね。」

真理奈は今見た生命体について深刻に考える。

キャサリン「この生物がパリ上空に姿を現してしばらく経った後、消えたの。何か心当たりがある？」

真理奈「分かんないわよ。初めて見るぐらいだから。まあ、でもいつかパリに行って調べようとは思ってるんだけどね。」

真理奈はキャサリンに対しそう言う。

真理奈「とりあえずこの映像コピーしてもらおうよ。USB持ってきたし、今後分かる時が来るかも。」

真理奈は今見せた映像をコピーし、USBに移動した。終わつた後、そのUSBをしまう。

真理奈「ダニエルとキャスも何かわかつたら教えてよ。」

キャサリン「分かつたわ。」

真理奈はプロノン・カラモスを後にした。

その頃、マナは真琴を助けた礼としてシンを実家の洋食屋ぶたのしつぽ亭に招待した。

ダビイもすでに合流した。

シン「なあ、真琴。さっきの事はすまん。」

真琴「もういいわよ。逆に恥ずかしくなるわ。」

シンは真琴の下着姿を見てしまったことを深く謝罪していた。

亜久里「今度はちゃんとノックして入ってくださいいな？」

シン「ああ、気を付けておく。」

亜久里はシンに念を押す。

マナ「みなさーん！お待ち遠様でした！」

マナは料理を運んできた。

運んできた料理はオムライス、ハンバーグ、スパゲッティである。

マナ「パパと一緒に作りました！」

マナは料理をテーブルに置いた。

シン「お、上手そうだな。」

シンはスプーンを手に取り、オムライスにのばす。

マナ「ちよちよちよちよ！ご飯食べる前はいただきますですよ？」

シン「え、そうだっけ？」

アコ「常識ないわね・・・」

アコはシンの行為に呆れる。

料理を並び終えた後、マナも席に着いた。

マナ「それじゃ、改めて！いただきます！」

マナはご飯を食べる前の挨拶をした時、みんなもマナと復唱する。

シン「うめえ！」

マナ「でしよう！伊達にここに生まれてませんから！」

マナは拳を握り、片手を掲げる。

マナ「さて。ご飯食べた後、シンさんのこれからについて対策を練るとしますか！」

シン「へ？俺の？」

シンはマナの言葉に首を傾げる。

ありす「はい、昨日ひかりちゃんから聞きました。モロボシさんが元の世界に帰れなくなってしまう以上、当分の間この世界に過ごすことになりますから、お住まいやお仕事に関して話し合うことになったのですわ。」

ありすはひかりから電話で聞いたことをシンに話す。

シン「なるほどな。」

マナ「ということですからよろしくね！」

シン「ああ！」

マナによりよくを言うシン。

その頃・・・

真理奈「祖父ちゃんの家に出て行った理由……あの生物と関わりがあるのかな……」
真理奈は東京クローバータワーの前にいた。

真理奈はUSBを見て、『ディメンジョンゲート』の設計図を渡した後、出て行った祖父の事を思い浮かべる。

その時、真理奈は周りの人のざわめく声を聞く。

周りの人達は指を指したり、手を目の上に置いて見たりしていた。

真理奈もその方向を見ると、空間が捻じれていた。

その時、その捻じれから赤いラインが入った銀色の怪獣が現れた。

その怪獣は剛力怪獣シルバゴン。

獅子鼻樹海に現れた異次元から来た怪獣である。

シルバゴンの桁外れのパワーでティガを苦しめたことがある。

東京クローバータワー付近にいた人達はシルバゴンの登場により逃げ惑う。

その時、シルバゴンと同じ所に空間が捻じれ始め、金色の体をした怪獣が現れた。

その怪獣は超力怪獣ゴルドラス。

桜ヶ丘に現れた時空を歪める能力を持つ怪獣である。

ゴルドラスのバリアーでティガのデラシウム光流を弾き返す程の強敵である。

真理奈「また怪獣が!？」

真理奈は2体の怪獣の登場に驚く。

しかし、真理奈は真剣な面持ちになり、人目の付かない所を見つけ、そこに隠れる。そこでスパークレンスを取り出し、天に掲げる。

その時、スパークレンスから光が発生し、真理奈を包み込む。よって真理奈はウルトラマンティガに変身する。

シルバゴンとゴルドラスはティガの登場に唸り声を上げる。

ティガはシルバゴンとゴルドラスを相手に構える。

一方、ぶたのしっぽ亭の料理を食べ終えた後・・・

シン「!？」

シンは何かを感じ取った。

マナ「どうしたの？」

シン「どうやら怪獣が出てきたようだな。」

みんな「ええっ!？」

シン以外の全員はシンから怪獣が出てきたことを驚く。

? 「キユウ!」

シン 「へ?」

シンは鳴き声を聞き振り向くと、ドアの前にくるるがいた。しかもそのドアは開けられている。

シン 「お前は真理奈の?」

ハミイ 「あー!よく見たらカーバンクルニヤ!」

エレン 「ホントだ!ジュエル鉱国のカーバンクルよ!」

シンは見たのは一昨日河童山で出会った真理奈のパートナー、カーバンクルのくるるである。

くるるはシン達に手招きして外に出る。

シン 「え?来いって?」

シンはくるるについていく。

アコ 「あたし達も行こう!」

マナ達はアコの言う通りに外に出る。

六花 「ねえ、エレン。カーバンクルって頭に赤い宝石が付いているリスに近い生き物よね?」

エレン 「ええ。妖精の世界ではカーバンクルの額の宝石は7つの力を秘めているって

言い伝えがあるの。」

エレンはカーバンクルについて教える。

ランス「あ、着いたでランス！」

シンとマナ達が着いたのは公園である。

シン「俺達を怪獣の所に連れてってくれるのか？」

シンはくるるの考えを言い当てる。

くるるはシンの問いに対し頷く。

シン達が集まったことをくるるが確認した後、額の宝石を赤から白に変わり、目を瞑る。

すると、白い光がシン達を包み込んだ後消えた。

一方、ティガはシルバゴンとゴルドラスが攻撃される前に飛び上がる。

ティガは太陽に向かって飛び、そこから急降下し、町の上で低空停止し、拳を握ってシルバゴンに向かって突撃する。

シルバゴンはティガの突撃に吹き飛ばされる。

ティガは着地した後、ゴルドラスに振り向いて構える。

ゴルドラスはティガに攻撃するが躲かれ、ティガのチョップに喰らわされる。ティガはゴルドラスの攻撃を躲し、蹴りを入れる。

その戦いの中、東京クローバータワーの前に白い光が現れる。白い光が消えるとシン達の姿が現す。

マナ「うわっ?! あつという間にクローバータワーに着いたよ!」
ありす「まあ。便利ですわね。」

六花「何言い出すのよ?」

六花はありすの言葉にツッコむ。

くるるも呆れた顔でありすを見る。

シン「ティガ!? あいつもここに来たのか!」

アコ「話は後! 皆で怪獣を倒すわよ!」

マナ達「うん!」

マナ達と響達はそれぞれの変身アイテムを構える。

ドリー「ドド!」

レリー「レレ!」

ラリー「ララ!」

ドドリー「ドド！」

ドリー、レリー、ラリー、ドドリーは4人のキュアモジュールに装着する。

響、奏、エレン、アコ「レッツプレイ！プリキュア・モジュール・アクション！」

響達はキュアモジュールをト音記号を描いた後、スイッチを押す。

するとキュアモジュールの真ん中のダイヤから金色のト音記号が現れる。

響はピンクのリボン状の光を、奏は白いリボン状の光を、エレンは青いリボン状の光を、アコは黄色いリボン状の光を纏う。

そのリボン状の光が衣装に変わり、響はマゼンタ色のコスチュームを、奏は白色のコスチュームを、エレンは青色のコスチュームを、アコは黄色のコスチュームを纏う。

よって響はキュアメロディに、奏はキュアリズムに、エレンはキュアビートに、アコはキュアミューズに変身した。

メロディ「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

メロディ、リズム、ビート、ミューズ「届け、4人の組曲！スイートプリキュア！」

マナ達はラブリーコミュニケーションにキュアラビーズを嵌め込む。

マナ、六花、ありす、真琴「プリキュア、ラブリンク！」

亜久里「プリキュア・ドレスアップ！」

アイちゃん「きゅぴらっぴゅ！」

アイちゃんの胸のハートマークから光を放ち、その光からラブアイズパレットが現れ、亜久里はキュアラビーズをラブアイズパレットに嵌め込む。

マナはピンクのコスチュームを、六花は青と水色のコスチュームを、ありすは黄色と黄緑のコスチュームを、真琴は薄い赤紫色のコスチュームを、亜久里は深紅と白のコスチュームを纏う。

よってマナはキュアハートに、六花はキュアダイヤモンドに、ありすはキュアロゼッタに、真琴はキュアソードに、亜久里はキュアエースに変身した。

ハート「みなぎる愛！キュアハート！」

ダイヤモンド「英知の光！キュアダイヤモンド！」

ロゼッタ「ひだまりポカポカ！キュアロゼッタ！」

ソード「勇気の刃！キュアソード！」

エース「愛の切り札！キュアエース！」

ハート、ダイヤモンド、ロゼッタ、ソード、エース「響け！愛の鼓動！ドキドキ！プリキュア！」

ティガは東京クローバータワーの方から光が見えたので振り向くと、プリキュアとシンがいた。

ティガ（プリキュア!?!それにそこにいるのはモロボシのお兄さん!?!この町に来てたの!?!）

ティガはシルバゴンの咆哮が聞こえ、すぐに振り向き、構える。

シン「さて、俺も行くか！」

シンはウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを出し、目に装着する。

よってシンはウルトラマンゼロに変身する。

ゼロ「真理奈! その怪獣は任せるぜ! 俺はこいつをやる!」

ゼロはゴルドラスを相手にする。

ティガ「分かった!」

ティガはこのままシルバゴンを相手にする。

ハート「あたし達はゼロを援護する! メロディ達はティガっていう巨人を援護して

!

メロディ達「うん!」

ハート達はゼロの元へ、メロディ達はティガの元へ向かう。

神秘の光の巨人

ゼロはゴールドラスに蹴りを入れる。

ゴールドラスはゼロの蹴りに怯むが、尻尾で反撃する。

ゼロはゴールドラスの攻撃を躲す。

ゼロ「エメリウムスラツシュ！」

ゼロはゴールドラスにエメリウムスラツシュを放つ。

しかし、ゴールドラスはバリアーを張り、エメリウムスラツシュを弾き返す。

ゼロ「チイツ！」

ゼロはバック転で弾き返されたエメリウムスラツシュを躲す。

ゼロはゼロスラツガーを構え、ゴールドラスに斬りかかろうとする。

だが、ゴールドラスの角から放つ閃光でゼロを怯ませる。

その直後、ゴールドラスは角から発するゴールドニックサンダーを放つ。

よってゼロにダメージを与える。

ハート「タアアッ！」

ハートはゴールドラスの頭部に蹴りを入れる。

ゴルドラスはダメージは受けていないものの、ハートに振り向き、殴りかかる。

ロゼッタ「プリキュア・ロゼッタ・リフレクション」

ロゼッタはプリキュア・ロゼッタ・リフレクションで防ぐが、簡単に破られ、ハートと一緒に殴り飛ばされる。

ハート、ロゼッタ「キヤアツ!!」

ゼロはゴルドラスを背後から捕まえる。

ゴルドラスは角から閃光を放つ。

ダイヤモンド「煌めきなさい! トウインクルダイヤモンド!」

ダイヤモンドはトウインクルダイヤモンドを放つ。

ゴルドラスはバリアーで防ぐ。

エース「ハアアツ!」

エースはキツクをお見舞いするが、ゴルドラスはエースの攻撃を躲す。

ソード「閃け! ホーリーソード!」

ソードは右手で空を切った後、無数の剣型のエネルギー弾を飛ばす。

ゴルドラスはバリアーで弾き返す。

ソード「キヤアアアアアアアアツ!!」

ソードは弾き返されたホーリーソードによってダメージを受ける。

一方、ティガはシルバゴンに踵落としを喰らわせる。

シルバゴンは怯むが、尻尾で反撃する。

ティガはシルバゴンの尻尾を捕らえる。

メロディ「行くよ、リズム！」

リズム「OK！」

メロディはシルバゴンにパンチのラツシユを繰り出す。

リズムもシルバゴンの後頭部に蹴りを入れる。

ビート「ハアアアアアアッ!!!」

ミュージズ「ヤアアアアアアッ!!!」

ビートとミュージズはシルバゴンを左右から蹴りを入れる。

ティガは尻尾を掴んだまま、空中横回転ジャンプし、シルバゴンを倒れさせる。

ティガはシルバゴンを乗り込み、チョップを繰り出す。

しかし、シルバゴンはチョップする手を止め、ティガを殴り飛ばす。

メロディ達はシルバゴンに攻撃を繰り出すが、シルバゴンの尻尾に薙ぎ払われる。

メロディ達「キヤアアアアアアッ!!!」

シルバゴンはそのまま尻尾でティガに攻撃する。

ティガは側転で躲す。

ティガはシルバゴンに反撃を行なおうとするが、その時、ティガはシルバゴンとゴルドラスがいる所とは違う所に空間の捻じれが生じているのを気付く。

ゼロもその捻じれに気付いた。

ゼロ「あれは!?!」

ティガ「また!?!」

ゼロとティガはその捻じれを見る。

そこに現れたのは尻尾の先までの鰭と肩と背中にトゲを生やした赤い怪獣である。

その怪獣はハイパークローン怪獣ネオザルスである。

TPC生物学研究所のオオトモ博士がザリーナ地帯で回収し、多くの怪獣を組み込まれて改造された怪獣である。

その力はシルバゴンのクローンの怪力をも物ともしない實力である。

ティガ「また怪獣が!?!」

ゼロ「次から次へと出てきやがって!」

ネオザルスは東京クローバータワーに向かう。

ティガ「行かせない!」

ティガはネオザルスを止めに行くが、シルバゴンの尻尾攻撃で妨害される。

ゼロ「野郎!」

ゼロもネオザルスを止めに行こうとするが、ゴルドラスのゴルドニツクサンダーを受けてしまう。

その様子をビルの屋上から眺めている人物がいた。

その人物は真琴を誘拐した犯罪者集団にエターナルボールとナケワメーケのダイヤを渡したヤマザキである。

ヤマザキ「興味深い・・・目的達成の為に使えるかもね。」

ヤマザキは単眼鏡でシルバゴン、ゴルドラス、ネオザルスを見届ける。

ゼロはゴルドラスに、ティガはシルバゴンに相手をしている為、ネオザルスは刻々と東京クローバータワーに近づく。

ハート「みんな！あの怪獣を止めるよ！」

メロディ達「うん！」

ハート達はネオザルスの所へ駆けつける。

ハート「プリキュア・ハートシユート！」

ハートはラブハートアローでネオザルスにエネルギー流を撃ち込む。

そのエネルギー流はネオザルスに命中する。

ネオザルスはハートの方に振り向く。

メロディ、リズム、ビート、ミューズ「プリキュア・パツシヨナートハーモニー！」

メロディ達はネオザルスの背後に回って、プリキュア・パッションナートハーモニーを放つ。

しかし、ネオザルスは平気な顔をしている。

ダイヤモンド、ロゼッタ、ソード、エース「私達の力をキュアハートの元へ！」

ダイヤモンド、ロゼッタ、ソード、エースはマジカルラブリーパッドからダイヤ、クラブ、スペード、エースのカードをハートのマジカルラブリーパッドに飛ばす。

そしてハートが手でハートを描くと、ハートの矢のようなカードになる。

ハート「プリキュア・ラブリーストレートフラッシュ！」

ハートはそのカードをネオザルスに向けて発射する。

ネオザルスに命中し、ハートの泡となって包み込む。

しかし、ネオザルスは何事もなかったかのようにハート達の技を破る。

ハート「えっ!？」

メロディ「効かない!？」

ネオザルスは胸からホーミングビームを放つ。

メロディ達はジャンプして躲すが、ネオザルスが放ったビームがメロディ達を追い、命中する。

メロディ達「キヤアアアアアアアアアアアッ!!!」

ダイヤモンド「あのビーム、追いかけてくるの!？」

ハート達はネオザルスが放ったビームに驚く。

ネオザルスはハート達にホーミングビームを放つ。

その時、ホーミングビームがハート達に当たる直前、別の方向から光線によって遮断される。

ハート「え？」

エース「なに？」

ネオザルスは振り向くと、東京クロウバータワーの前に銀色の巨人がいた。

ウルトラマンネクサスである。

メロディ「ウルトラマン!？」

ミューズ「ゼロやティガ以外にウルトラマンがいたの!？」

プリキュアはネクサスの登場に驚く。

ティガ「新たなウルトラマン!？」

ゼロ「ネクサス!?! あいつもこの世界に!？」

ネクサスはアームドネクサスをエナジーコアに掲げる。

よってネクサスは紫の姿になる。

ネオザルスはネクサスを襲い掛かる。

ネクサスは全身から光を放ち、ネオザルスを止める。

ロゼッタ「怪獣さんの動きが止まりましたわ。」

ネクサスは動きが止まったネオザルスに蹴りを入れる。

ネオザルスは吹き飛ばされ、ゴルドラスにぶつかる。

ティガも殴りかかったシルバゴンの腕を掴み、放り投げる。

シルバゴンはネオザルスにぶつかる。

ネクサスはシルバゴン、ゴルドラス、ネオザルスが一カ所に集まっているのを見た後、アームドネクサスから青い光線を放つ。

すると、黄金の光が滝のように降り注ぎ、地表から泡のような光が立ち上る。

ハート「うわぁ！」

ソード「なに!?!この光!?!」

プリキュアはネクサスが発した光に戸惑う。

それはシルバゴン、ゴルドラス、ネオザルスも同じ。

ティガ「この光は・・・?」

ゼロ「もしかして、キングの爺さんが前に話していたメタフィールド?」

黄金の光がドーム状になり、その後、包まれた光の中にいたウルトラマンもプリキュアも怪獣も消えた。

プリキュアが目を覚ました時、今いる場所が変わった。

そこは、異形の大地が広がり、オーロラが揺らめく空間だった。

メロディ「何、ここ？」

ダイヤモンド「見たことない空間ね・・・」

メロディ達は周りの景色を不思議そうに見ていた。

この空間がメタフィールドである。

ネクサスがフェーズシフトウエーブを放った時、先程の黄金の光が包み込む時に現れる不連続時空間である。

スペースビーストを倒すためにこのフィールドを展開したのだ。

ゼロ「ここが・・・メタフィールド・・・」

ティガ「・・・」

ゼロはメタフィールドを初めて見るため、周りを見渡してばかりである。

ティガはこの光景を前に驚きを隠せなかった。

だが、シルバゴンとゴルドラスとネオザルスの鳴き声で我に返る。

ネクサスは3体の怪獣を前に構える。

ゼロとティガもネクサスの隣に駆け付け、3体の怪獣を前に構える。

ハート「みんな！まずは怪獣たちを倒そう！」

メロディ達「うん！」

ハート達はゼロとティガとネクスサスの援護を回す。

シルバゴンとゴルドラスとネオザルスはゼロとティガとネクスサスを襲い掛かる。

ゼロとティガとネクスサスもシルバゴンとゴルドラスとネオザルスに向かって走り出す。

VSネオザルス&ゴルドラス&シルバゴン

ゼロはネオザルスを、ティガはゴルドラスを、ネクサスはシルバゴンを相手にする。

ゼロはネオザルスにキックを繰り返す。

ネオザルスも蹴りを入れるが、ゼロはネオザルスの蹴りを受け止め、片方の足を払う。

ネオザルスは仰向けに倒れる。

ネオザルスはホーミングビームを放つ。

ゼロは躲すが、ビームはゼロを追う。

ゼロはゼロスラッガーを合体させ、ゼロツインソードとなり、ホーミングビームを切

り裂く。

ゼロ「俺に寝首を掻こうなんざ、2万年早いぜ！」

ネオザルスは起き上がり、ゼロを襲い掛かる。

ゼロはゼロツインソードで斬りかかるが、ネオザルスに受け止められる。

しかし、ゼロはジャンプしてネオザルスの頭部に蹴り飛ばす。

ネオザルスは怯むが、即座に尻尾で攻撃する。

ソード「プリキュア・スパークルソード！」

ソードはラブハートアローをクロスボウのように構え、大量の剣型光弾を発射する。エース「ときめきなさい！エースシヨット！ばきゅくん！」

エースはエースシヨットを放つ。

よつて2人の攻撃によつてネオザルスの尻尾が弾かれる。

ミューズ「ドの音符のドリームエクセレントメロデー！」

ミューズはキュアマジューレで円を描く。

すると、大量の黄色い泡が現れる。

ミューズはキュアマジューレを吹き付けると、泡がト音記号の形になる。

ミューズ「プリキュア・スパークリング・シャワー！」

ミューズはネオザルスに大量の黄色い泡を飛ばす。

ネオザルスは泡に包み込まれていないが、泡が目の前に壊れ、後退る。

ゼロ「隙だらけだぜ！」

ゼロはこのチャンスを逃さず、ゼロツインソードでネオザルスの尻尾を斬り落とす。

ティガはパワータイプにタイプチェンジし、ゴルドラスにパンチを繰り出す。

ゴルドラスは耐えて、ティガにキックを浴びせる。

その後、ゴルドラスはゴルドニックサンダーを繰り出す。

ティガはゴルドニックサンダーを掴むように受け止め、玉状になり、それをゴルドラ

スに投げる。

ゴルドラスはバリアーで弾く。

ティガ「くっ！めんどくさいやつね！」

ティガは腕をクロスしてティガクリスタルの金色に輝かせる。

そして、クロスした腕を前に出すと、カラータイマーも金色に輝かせる。

ゴルドラスは眩しかったのか両手で目を塞ぐ。

ティガは即座にハンドスラッシュを放つ。

ハンドスラッシュはゴルドラスの片方の角に命中する。

よってゴルドラスの片方の角は失われる。

ゴルドラスは閃光を放とうとするが、何も起こらなかった。

ティガ「？」

ティガは今のゴルドラスの様子が気になった。

メロディ「あれ？何も起こらないよ？」

リズム「ゼロとハート達が戦った時は眩しい光を放ったって聞いたけど・・・」

メロディとリズムも先程の戦いとは違うように感じた。

ビート「もしかして、ティガの攻撃で角を失ったから？」

ビートはさつきティガがハンドスラッシュでゴルドラスの片方の角を命中した時、片

方の角が失った。

そして今のゴルドラスは片方の角を失ったことで、閃光を放てなかった。

メロディ「だったら！」

リズム「今がチャンスね！」

メロディはミラクルベルティエを、リズムはファンタスティックベルティエを、ビートはラブギターロッドを構える。

メロディ「おいで、ミリー！」

ミリー「ミミ！」

ミリーはミラクルベルティエに嵌る。

リズム「おいで、ファリー！」

ファリー「ファファ！」

ファリーはファンタスティックベルティエに嵌る。

ビート「おいで、ソリー！」

ソリー「ソソ！」

ソリーはラブギターロッドに嵌る。

ビート「チェンジ、ソウルロッド！」

ビートはラブギターロッドのボディ部分をヘッド部分まで移動させた。

そして、同時にボディから白い羽のパーツが出る。

メロディ、リズム、ビート「翔けめぐれ、トーンのリング！」

メロディはミラクルベルティエで、リズムはファンタステイックベルティエで、ビートはラブギターロッドで円を描く。

メロディ、リズム「プリキュア・ミュージッククロンド！」

メロディはオレンジのリングを、リズムは黄色のリングを飛ばす。

ビート「プリキュア・ハートフルビートロック！」

ビートはソウルロッドのトリガーを引き、緑のリングを放つ。

3つのリングはゴルドラスのもう片方の角に入れる。

メロディ、リズム、ビート「三拍子！1・2・3！ファイナーレ！」

メロディ達の掛け声により、リングが爆発し、ゴルドラスのもう一本の角が失われる。

ティガ「もしかして私があいつの角を潰したから・・・なら、これで気にしなくて済みそうね！」

ティガは今のゴルドラスは倒せると判断した。

ネクサスはシルバゴンの尻尾攻撃を躲し、シルバゴンの腹に蹴りを入れる。

シルバゴンは青色の火炎弾デモリッション・フレイムを放つ。

ネクサスは青い円形状のバリアでデモリッション・フレイムを防ぐ。

ダイヤモンド「プリキュア・ダイヤモンドシャワー！」

ダイヤモンドはラブハートアローを打ち鳴らし、吹雪を生み出す。

シルバゴンの足が吹雪によって氷漬けにされる。

ハート「プリキュア・ハートシュート！」

ハートはプリキュア・ハートシュートを放つ。

ハートの攻撃はシルバゴンの右眼に命中する。

シルバゴンは痛がっているのか、両手で右目を塞ぐ。

シルバゴンは怒りを露わにして足の氷を力づくで脱出する。

シルバゴンはダイヤモンドに向け、デモリッション・フレイムを放つ。

ロゼッタ「プリキュア・ロゼッタリフレクション！」

ロゼッタはプリキュア・ロゼッタリフレクションでデモリッション・フレイムを防ぐ。

それだけではなく、デモリッション・フレイムがプリキュア・ロゼッタリフレクション

を吸収し、そのままシルバゴンに跳ね返した。

シルバゴンはその反撃に喰らわれて怯む。

ネクサスはアームドネクサスを光の弓にしてアローレイ・シュトロームを放つ。

シルバゴンはネクサスによって真つ二つにされ、爆散される。

ゴルドラスは両角が失われたため、格闘戦でテイガを倒そうとする。

しかし、テイガはゴルドラスを持ち上げ、投げ飛ばす。

ゴルドラスは地面に打ち付けられるものの、すぐに起き上がるが、時すでに遅し。テイガはゴルドラスにデラシウム光流を放つ。

デラシウム光流を受けたゴルドラスは仰向けに倒れ、爆散する。

メロデイ「ハート！」

ハート「イエーイ！」

メロデイとハートはハイタッチする。

ロゼッタ「これで残るはあの怪獣だけですわね。」

テイガとネクサスはゼロと合流する。

ゼロ「下がってな。」

ゼロはテイガとネクサスを止める。

ゼロ「ブラックホールが吹き荒れるぜ！」

ゼロはストロングコロナゼロにタイプチェンジする。

ネオザルスはホーミングビームを放つ。

ゼロ「ガルネイトバスター！」

ゼロはガルネイトバスターを放つ。

威力はガルネイトバスターが上回り、ホーミングビームを破る。

そしてそのままネオザルスに貫く。

ネオザルスの胸に穴が開き、前に倒れて爆散する。

ハート、メロディ「やったーっ！」

ハートとメロディは肩を組んで喜びに浸っている。

ネオザルスが倒された直後、メタフィールドが金色の光に戻り、ネクサスも消えていく。

金色の光が消えた後、大貝町にいた。

ゼロとティガは町を修復し、元の姿になった。

もちろんプリキュアも変身を解く。

マナ「シンさん！お疲れさまでした！」

シン「おう！お前らも超フアインプレーだぜ！」

シンは笑顔でマナ達を褒める。

亜久里「シンお兄様、そちらの方は？」

シン「こいつは真理奈。ほのか達が住んでる町に暮らしてる。」

響「えっ?!ほのかさんの町に!?!」

真理奈「まあね。新真理奈よ。」

真理奈は自分の名前を伝える。

? 「キュウ!」

真理奈達は鳴き声が聞こえ、振り向くとくるるが駆けつけてきた。

くるるは真理奈に飛び込む。

真理奈 「おっと!くるる!」

くるる 「キュウ!」

真理奈はくるるを抱きとめる。

それからしばらく経った後、四葉邸に訪問し、ネクサスの足取りを掴もうとするが、行方が分からなかった。

エレン 「見つからなかったんだ。」

ありす 「はい、これまであの巨人はエジプトのサハラ砂漠やアメリカのアマゾンで多くの怪獣を倒したと報告がありました。他に分かったことがございませんでしたわ。」

響 「でも、さつき一緒に戦ってくれたから、間違いない味方だよ!」

奏 「響ったら・・・」

奏は響の自信満々の言い方に呆れる。

亜久里 「ところで、真理奈はヤマザキ博士という方はご存知ありませんか?」

真理奈 「うん・・・私も生物工学の研究員だということぐらいしか・・・」

亜久里は真理奈にヤマザキについて知らないか聞かすが、詳しくは知らなかったよう

だ。

真理奈「とりあえず、そのヤマザキって人、母さん達に聞いてみるよ。ここの用事済んだから帰ろうと思ってたところだったし。」

ありす「ご協力ありがとうございますわ。」

シン「頼りにしてるぜ。」

真理奈「あれ？あんた、その腕・・・」

真理奈はシンの右腕にハンカチが巻いてあるのに気づく。

シン「真琴が手当てしてくれたんだ。」

マナ「まこびーをさらった人達から助けようとした時にナイフで切られたんだよ。」

マナは真理奈に詳しく教える。

シン「けど、あいつ手当てした後、顔を赤くなりながら怒ってたな。」

真理奈「怒ってた？なんで？」

マナ「実はね・・・」

四葉財閥に着いた後、真琴がシンの右腕から血が流れているのを気付き、真琴はマナと六花と一緒に別室で手当てをした。

そして、手当てを終えた後・・・

真琴「ごめんね、シン。私の為に・・・」

シン「いいって。こういうの慣れてる。それに真琴達がいなかったらネオザルスはタワーを壊してたかもしれねえんだ。お互い様だぜ。」

シンは真琴を慰める。

シン「今まで多くのプリキュアが俺の手助けをしてくれたように、これからは一緒に助け合う。そうだろ？」

真琴「シン・・・うん。」

真琴は少し微笑む。

シン「フフツ。」

真琴「えっ？なに？」

シン「いや、やっぱ真琴は笑顔でいる時の方が一番可愛いって思ってたさ。」

真琴「なっ!?! (／／／／)」

真琴はシンの発言に顔が赤くなる。

シン「?どうした真琴?熱があるのか?」

真琴「ち・・・違うわよ、バカ!鈍感宇宙人! (／／／／)」

シン「はあっ!?!」

真琴に怒られ、戸惑うシン。

マナ「・・・というわけなんだ・・・」

六花「意外と鈍感だったんだよね・・・」

真理奈（雪城と美翔はピンチの時、ああいう男に助けられたの？）

真理奈はシンを見て、呆れた顔をする。

ウルトラ6兄弟

M78ワールド。

ウルトラマンゼロが生まれたM78星雲・光の国が存在する宇宙である。

この宇宙には初代ウルトラマン、ウルトラセブン、ウルトラマンジャック、ウルトラマンA、ウルトラマンタロウ、ゾフィー等宇宙警備隊が宇宙の平和の為に凶悪な怪獣や侵略宇宙人を撃退している。

しかし、このM78ワールドにも異変が起こった。

ウルトラマン「ゾフィー！」

ゾフィー「メビウスとマックスは見つけたか？」

ウルトラマン「いや、惑星アープや惑星ファネゴンまで探したが、見当たらなかった。」
ウルトラマンはゾフィーにメビウスとマックスの事を伝えた。

少し前、メビウスとマックスが任務完了後、突然空間が歪み、メビウスとマックスが空間の歪みに巻き込まれ、消えてしまったという報告を聞き、ウルトラ6兄弟はメビウスとマックスを探すため、多くの惑星付近に探索を行なっていた。

？「2人とも！」

ウルトラマンとゾフィーは振り向くと、セブン、ジャック、A、タロウがやって来た。セブン「その様子だと見つからなかったのか？」

ウルトラマン「ああ。そっちもか？」

ジャック「はい。ボリス、ブラム、デント周辺にも調べたが、手掛かりがありませんでした。」

A「太陽系にも調べましたが、見つかりません。」

タロウ「いったい何が・・・」

セブン達もマックスとメビウスの行方が分からなかった。

セブン（ゼロ・・・まさかお前も・・・）

セブンはゼロのことを呟く。

ウルトラ6兄弟「!？」

ウルトラ6兄弟は何かを察知する。

ウルトラ6兄弟の周りに空間が捻じれ始めた。

ウルトラマン「これは!？」

セブン「報告にあった空間の歪み!？」

ウルトラ6兄弟の周りの空間の歪みが強くなり、しばらく経った後、ウルトラ6兄弟が消えた。

場所が変わり・・・

ゼロ「エメリウムスラッシュ！」

ゼロは太平洋上に現れた悍ましく、鳥のような怪獣をエメリウムスラッシュで次々と倒す。

その怪獣の軍団は超古代尖兵怪獣ゾイガーの軍団である。

ゾイガーは邪神ガタノゾーア復活前に世界各国を破壊し始めた眷属である。

テイガがガタノゾーアを倒した後、ゾイガーが全て消滅された。

ゼロ「ワイドゼロショット！」

ゼロはワイドゼロショットでゾイガーをいつぺんに掃討した。

ゾイガーの軍団がすべて倒した後、大貝町に戻る。

ゼロはその途中、3人の少女に出会う。

その少女たちはみらい、リコ、ことはである。

みらい「あ！ゼロだよ！」

リコ「えっ!?!」

ことは「ハー！」

みらい達はゼロを見つける。

ゼロ「あいっら！」

ゼロは変身を解き、シンの姿に戻って、みらい達の所に駆け付ける。

シン「しばらくぶりだな。みらい、リコ、ことは。」

みらい「シンさん！」

ことは「久しぶり！」

みらいとことははシンに手を振る。

リコ「プリキュアウィークリーで見てたわ。いろんな所で活躍してたみたいね。」

シン「ああ。」

リコ「まあ、元気そうでよかったわね。あの時はへとへとだったから。」

シン「あの時は世話になったな。」

リコはシンの元気そうな表情を見て安心する。

？「シンさん！」

シン達は振り向くと、みゆき達がやって来た。

シン「みゆき、あかね、やよい、なお、れいか！」

みゆき「久しぶり……」

みゆきは手を振って挨拶しようとするが、躓いた。

みゆき「わっ！わわっ！」

シン「おっと！」

シンはみゆきを抱きかかえる。

シン「お前のドジっ子ぶりは変わらねえな。」

みゆき「そんなことないです、はっぶっぶ〜！」

みゆきは口を尖がらせて言う。

シン「でも、なんで大貝町に？」

あかね「今日ここでな、まこぴーのライブが始まんねんて。」

れいか「それで皆で真琴さんのライブを楽しもうとここに来たのです。」

シン「そういや、マナもそんなこと言ってたな。」

？「あーっ！みゆきちゃんにみらいちゃん！」

シン達はみゆき達とみらい達とは違う方向に振り向くと、咲と舞がやって来た。

咲「お花見以来ナリー！」

みらい「咲ちゃん！」

みゆき「咲さん！」

咲とみゆきとみらいは互いに手を繋いで回る。

舞「シンさん。」

シン「舞、また会ったな。」

舞はシンと出会い、笑顔になる。

みらい「あ、そうだ！紹介するね。この子ははーちゃん、花海ことはちゃんだよ。」

ことは「初めまして！花海ことはです！」

ことはは自己紹介した後、咲達も自己紹介する。

その後、シンはみらい達と一緒に四葉スタジアムへ向かった。

そして、そこになぎさ達とあゆみともう一人の少女がいた。

なぎさ「あつ！みらいちゃん！皆！」

ほのか「シンさん！」

なぎさとほのかとひかりとあゆみはシンとみらい達に手を振る。

みらい「なぎささん！ほのかさん！ひかりちゃん！あゆみちゃん！」

シン「お前らも来てたのか。」

？「私達も来てます。」

なぎさとほのかとひかりの後ろにラブ、美希、祈里、せつな、はるか、みなみ、きらら、トワがいた。

シン「おお！」

はるか「この前はどうも！」

シン「真理奈は来てないのか？」

シンは真理奈がいないことに気付く。

なぎさ「今さつき連絡が来て、もうすぐこっちに來るって。」

なぎさは真理奈はもうすぐ來ると伝える。

シン「この子は？」

？「あ、初めまして。新まのんです。お姉ちゃんがお世話に。」

少女はシンに自己紹介する。

新まのんは真理奈の妹であり、ペローネ学院中等部1年桃組の生徒である。

劍崎真琴のファンであり、彼女をきっかけにアイドルを目指している。

シン「真理奈の妹か。」

まのん「はい。」

？「あ！シンさん！」

シン達は振り向くと、つぼみ達と響達が來た。

シン「つぼみ、響！みんな！」

つぼみ「やっと会うことができました！」

響「シンさん、どうも！」

響はシンに挨拶した。

シン「?つぼみ、その袋はなんだ？」

つぼみ「はい、ふたばを助けてくれたお礼です。また会うことがあつたら渡そうと思つて持つて来たんです。」

シン「そうか、ありがたく受け取つてもらうぜ。」

シンはつぼみが持つていた紙袋を受け取る。

「やつと着いたよー!」

シン達は振り向くと、のぞみ達とめぐみ達が来た。

りん「あんたが降りる駅、間違えるからでしょうが。」

のぞみ「う、すみませんでした・・・」

のぞみはりんに謝る。

ひめ「もう!めぐみが道間違えるからだよ!」

めぐみ「ごめーん。」

いおな「それ以前に寝坊したのはどこの誰だったかしら?」

ひめ「グッ!?だ、だってリボンが起こしてくれなかつたんだもん!」

リボン「たまには自力で起きてくださいな!」

ひめは寝坊した原因をリボンに押し付けるが、リボンに叱られる。

シン「よ!お前ら!」

のぞみ「ん？あーっ！シンさん！久しぶり！」

ひめ、いおな「えっ!？」

のぞみはシンに気付いて手を振るが、ひめといおなはシンを見た直後、顔を赤くしながら逸らした。

シン「？」

シンはそんなひめといおなに対し、首を傾けた。

？「うゝ！まこぴーのライブ楽しみゝ！キユンキユンしてきたよゝ！」

？「マナったら、はしやぎすぎ・・・」

最後にマナ、六花、ありす、亜久里、真理奈が来た。

真理奈「ハイテンションにも程があるでしょ？」

くるる「キユウ！」

くるるはまのんの元に走り出す。

まのん「くるる！お元気そうで何より！」

まのんはくるるを抱き上げる。

くるるはまのんを舌で舐める。

マナ「それじゃ！全員揃ったということ！レッツゴー！」

真理奈「うるさい女ね・・・」

真理奈はマナのテンションに呆れる。

シン「？」

シンは何かを感じ取る。

リコ「？どうしたの？」

シン（この気配・・・まさか・・・）

シンは今感じた気配の正体を知ってるようだ。

シン「悪い、用事、思い出した。」

ほのか「えっ!?用事って何ですか!？」

シン「すぐ戻る！」

シンは四葉スタジアムから離れる。

その頃、富士山付近で空間が捻じれ、そこからウルトラ6兄弟が現れる。

ゾフィー「ムウ・・・」

ウルトラマン「皆、無事か？」

セブン「ああ。」

ウルトラ6兄弟は覆った腕を解き、全員の無事を確認する。
ジャック「ここは地球か？」

A「ええ、間違いなく。」

タロウ「さっきの空間の歪みは一体・・・」

ゾフィーたちは今いる場所が地球の富士山付近だと気づく。

その時、ウルトラ6兄弟の前に空間が捻じれ始める。

セブン「またか!？」

ウルトラマン「何か来るぞ！」

捻じれた空間からロボットのような怪獣が現れる。

その怪獣の名は超合体怪獣グランドキング。

宇宙の帝王ジユダが怪獣の悪霊を集結させて誕生した怪獣である。

ゾフィーのM87光線、ウルトラマンとジャックのスペシウム光線、セブンのワイドシヨット、エースのメタリウム光線も効かない防御力を持つ。

セブン「こいつは！」

ウルトラマン「グランドキング！」

グランドキングは頭部からグランレーザーを放つ。

ウルトラ6兄弟はグランドキングの攻撃に怯む。

ゾフィー「今まで起きた空間の歪み、ジユダに関わっているのか!」
グランドキングは再びグランレーザーを放とうとする。

その時!

? 「ワイドゼロショット!」

グランドキングの背中に光線が命中する。

セブン「今の光線は!」

セブンは上を見上げる。

そこにはゼロがいた。

ゼロ「やつぱり親父たちだったか!」

ゼロはウルトラ6兄弟の元に降りる。

セブン「ゼロ! 無事だったか!」

ゼロ「へへっ! 簡単にやられると思うなよ?」

ゼロは余裕ぶつた表情で言い返す。

ゾフィー「ゼロ、何があつたのか知らないが、後で話を聞かせてもらう。」

ゼロ「ツたりめーだ! さっさとこいつを倒そうぜ!」

ゼロとウルトラ6兄弟はグランドキングを前に構える。

怨念の集合体

マナ達は四葉スタジアムの控室で真理奈にシンの事を話した。

DB 「シンが!？」

マナ 「うん。多分怪獣が現れたんだと思う。」

真理奈 「私が行くよ。皆はライブを楽しんで。」

真理奈は自分がゼロの後を追うと言い出す。

マナ 「真理奈、気持ちは嬉しいけど、そういうわけにはいかないよ。」

真理奈 「え？」

マナ 「他の所について怪獣が現れるか分からないし、君はここにいるべきだと思う。それに、まのんちゃんから聞いたよ。真理奈はお父さんとお母さんの手伝いばかりしていたから、どこかに遊びに行ったりしていないなかったって。」

マナは四葉スタジアムに入る前、まのんから真理奈のを聞いた。

真理奈は両親の仕事の手伝いをしてきたため、部活も入らず、友達も真理奈と同じ科学者の子供しかいなかった。

なので娯楽を楽しんだりすることはなかった。

真理奈 「まのんの奴、余計なことを・・・」

真理奈は溜息を吐きながら呟く。

マナ 「ご両親のお手伝いをするのは構わないよ。でも、これを機に他の楽しみを経験してほしいんだ。」

真理奈 「・・・わかった、約束する。」

マナは真理奈との話を終えた後、時計を見る。

マナ 「ライブが始まるまであと1時間。行くよ、シャルル！」

シャルル 「分かったシャル！」

真理奈 「待って！私も行くわ！」

真理奈 「はあっ!？」

真理奈は真理奈の言葉に驚く。

真理奈 「何、バカなことやってんのよ!？あんた、ライブの準備が・・・」

マナ 「大丈夫！まこぴーには指一本触れさせないし、30分でシンさんを連れてくるから！伊達に大員第一中学生徒会長を務めてないよ！」

真理奈 「なんなの、その根拠のない自身は？」

真理奈はマナの発言に呆れる。

真理奈 「それに、シンが言ってた。私達が手助けしたように、これからは一緒に助け合

うって。だから、シンがピンチになったら私達が助けてやりたいの。」

真理奈「・・・わかった。」

真理奈は真琴の熱意に承諾する。

マナ「いこう！」

真琴「ええ！」

マナと真琴は控室から出る。

真理奈（プリキュア・・・ウルトラマンとは違う意味で強いわね。）

真理奈は少し笑みを浮かべながら、控室から出る。

その頃・・・

ゼロ「うあっ！」

ゼロはグラウンドキングに薙ぎ払われる。

ゼロ「チツ！手強い野郎だぜ！」

セブン「大丈夫か、ゼロ！」

ゼロ「ああ！」

グランドキングはゼロとウルトラ6兄弟にグランレーザーを放つ。

ゼロとウルトラ6兄弟はグランレーザーを躲す。

セブン「ゼロ！」

ゼロ「ああ！」

ゼロはゼロスラッガーを、セブンはアイスラッガーを繰り出す。

しかし、グランドキングには傷一つかなかった。

ウルトラマンとジャックはスペシウム光線を放つ。

それでも、グランドキングにはダメージを与えられなかった。

タロウ「ストリウム光線！」

タロウはストリウム光線を放つ。

だが、グランドキングには効いていなかった。

ゼロ「野郎！」

ゼロは飛び上がり、ウルトラゼロキックを繰り出す。

しかし、グランドキングはゼロのウルトラゼロキックを受け止める。

ゼロ「なに!？」

グランドキングはそのままゼロを放り投げる。

Aはメタリウム光線を、ゾフィーはM87光線を放つ。

グランドキングはダメージがなかった。

ゼロ「まだまだ！」

ゼロはゼロスラッガーを構え、グランドキングに斬りかかろうとする。

その時、グランドキングの尻尾から光線が放たれる。

ゼロ「ぐあっ！」

ゼロはグランドキングの光線を受け、吹き飛ばされる。

ゼロ「チツ！伊達に親父達を苦戦させたわけじゃねえな！」

ゼロは口を拭う素振りをする。

その頃・・・

真理奈「ホント、すごい人数ね・・・」

真理奈は四葉スタジアムの観客席を見て観客の多さに圧倒する。

真理奈「まのん、どこかな？」

真理奈はまのんを探す。

まのん「お姉ちゃん！こっちこっち！」

真理奈は手を振っているまのんを見つめる。

真理奈「ふう、流石に人数多いから探すの大変だったわ。」

まのん「お疲れさま！」

まのんはエースティーを真理奈に渡す。

真理奈（相田たちは兎も角、美墨たちはいないな。モロボシのお兄さんの事で席を外してたのか。）

真理奈はなぎさ達がいらないことに気付く。

恐らくシンを追っていったのだと予想していた。

真理奈「まのん、くるるは？一緒にじゃないの？」

まのん「ああ、くるるならひかりちゃん達と一緒に出て行ったよ。」

真理奈（くるるもか・・・）

真理奈はエースティーを飲みながら呟く。

真理奈（くるるはレポートできるし、なんとか間に合えるかな・・・）

真理奈はそう考える。

まのん「うー！剣崎真琴さん、早く来てくれないかなー！」

真理奈「まだ50分時間あるのよ？すぐに始まるわけないわよ。」

興奮するまのんにそういう真理奈。

真理奈（とはいうけど、劍崎は相田と一緒にモロボシのお兄さんを探しに行ってたなんて言えないよね・・・）

真理奈はまのんを見て苦笑いする。

真理奈（一昨日の夜、ヤマザキの事聞いてみたけど・・・）

真理奈は一昨日、亜久里達からヤマザキの事を聞き、家に帰って母にヤマザキについて聞いてみた。

真理奈「母さん、生物工学の研究員ヤマザキって人、何か知らない？」

真奈美「ヤマザキ？うん、知ってるわよ。」

真奈美はヤマザキについて話す。

真奈美「ヤマザキ・ヒロユキ。2年前までここで働いてただけど、彼は人間の命令に従う妖精のクローンを作ろうって考えを持ってたの。」

真理奈「妖精のクローン？」

真奈美は続ける。

真奈美「ええ。彼のやっていることは神をも恐れぬ行為だったの。彼の研究は打ち切りにして辞めさせたわ・・・もしかして、そのヤマザキに会ったの？」

真奈美は真理奈にヤマザキに会ったのか聞いてみた。

真理奈「会ってはいないけど、大貝町で誘拐犯と手引きしてたって四葉財閥のお嬢さ

んから聞いたから。」

真奈美「ありすちゃんから？」

真理奈「ええ、劍崎真琴を誘拐した奴らと手引きしてたのよ。なんでも過去にプリキュアに戦わせた怪物を従う道具を持つてたみたいで。」

真理奈は大貝町の四葉ターミナルで起きた出来事を話す。

真奈美「なんてことを・・・」

真理奈は一昨日の真奈美の話を思い出す。

真理奈「ヤマザキの狙いは一体何なの？」

真理奈はヤマザキの事を気に掛ける。

その頃、ゼロとウルトラ6兄弟はグランドキングに苦戦していた。

ゼロ「チイツ！エメリウムスラッシュ！」

ゼロはエメリウムスラッシュを放つ。

しかし、グランドキングはダメージがなかった。

ゼロ「どんだけタフな奴なんだ!？」

ゼロは地面に一発殴りながら言い出す。

ゾフィー、ウルトラマン、セブン、ジャック、A、タロウはグランドキングを押しさえつける。

しかし、グランドキングは全身から電撃を放出する。

よってウルトラ6兄弟は吹き飛ばされる。

ゼロ「これならどうだ！」

ゼロはゼロスラッガーを胸のプロテクターに装着する。

ゼロ「ゼロツインシユート！」

ゼロはゼロツインシユートを放つ。

グランドキングに命中し、動きが止まる。

しかし、しばらく経った後、すぐに動き出し、グランレーザーを放つ。

ゼロ「ぐわあっ！」

ゼロはそれを喰らい、仰向けに倒れる。

ゾフィーはM87光線、ウルトラマンはスペシウム光線、セブンはワイドショット、ジャックはスペシウム光線、Aはメタリウム光線、タロウはストリウム光線を放つ。

グランドキングはそれを受け、動きが止まる。

しかし、すぐに動き出し、ウルトラ6兄弟にグランレーザーを放つ。

ウルトラ6兄弟はグランドキングに吹き飛ばされる。
ゼロとウルトラ6兄弟は立ち上がるが、カラータイマーが点滅を始める。

VS グランドキング

グランドキングはゼロとウルトラ6兄弟にグランレーザーを放つ。

？「エキストリーム！」

？「ルミナリオ！」

すると、黄金の光波がゼロとウルトラ6兄弟の前に遮るように、グランレーザーを防ぐ。

ゼロ「今のは!？」

ゼロは今の光波を放った方向に振り向く。

そこにいるのは45人もいる少女達プリキュアである。

ゼロ「みんな! どうしてここに!？」

ブラック「急に飛び出したからくるるに頼んで送ってもらったのよ。」

ブラックはゼロにここに来た理由を言い出す。

セブン「ゼロ、あの娘たちは？」

ゼロ「伝説の戦士プリキュア。この世界を守り続けてるんだ。」

ゼロはセブン達にプリキュアの事を教える。

トウインクル「ゼロやティガの他にウルトラマンがいたなんてね。」
トウインクルはウルトラ6兄弟を見て言い出す。

ゼロ「皆、いいのか？ ライブってのがあるんだろ？ それにソードも抜け出して大丈夫なのか？」

ゼロはプリキュア達に尋ねる。

ロゼッタ「ご心配なく。ライブが始まるまで40分ありますわ。」

マーチ「それに自分だけライブを見ないなんて筋が通ってないよ！」

トウインクル「そうそう。ソードはあんたに歌を聴いてほしくてわざわざ来てたんだよ！」

ソード「ちよつと！ トウインクル!? (〃〃〃〃〃〃)」

ソードはトウインクルの発言に顔が赤くなる。

ブラック「トウインクル、それを言ったらホホワイトがヤキモチ妬くから。」

ブルーム「イーグレットもね。」

ホホワイト「もう！ ブラック!? (〃〃〃〃〃〃)」

イーグレット「ブルームも！ なに言ってるのよ!? (〃〃〃〃〃〃)」

ホホワイトとイーグレットはブラックとブルームの発言に顔を赤くしながら怒る。

ミラクル「そういえばマジカルが1週間前、夜空を見上げてシンさんに会いたいわ」

て・・・」

マジカル「い、言っていないし！（／＼／＼／）」

マジカルは顔を赤くしながらミラクルの発言を否定する。

サニー「ハッピーはどうなん？」

ベリー「ブロッサムこそ、どうなのよ？」

ハッピー「ええっ!?（／＼／＼／）」

ブロッサム「あううっ!?そ、それは！（／＼／＼／）」

ハッピーとブロッサムはサニーとベリーにからかわれ、顔が赤くなる。

エコー「と、とにかく、皆さんはゼロさんと一緒にライブを見ると決めたんです。」

エコーは話がややこしくならないように話を変える。

ハート「ソードがあなたに手当てをした時、言いましたよね?今まであたし達も手助けしたように、これからは一緒に助け合うって。だからあたし達にも頼ってください！」

ハートはゼロにそう伝える。

ゼロ「・・・わかったぜ!皆でこいつを倒して、真琴のライブを楽しもうぜ!」

プリキュア達はゼロの言葉に頷く。

ゼロとウルトラ6兄弟は立ち上がり、グランドキングを睨む。

プリキュア達もグランドキングを相手に身を構える。

セブン「ゼロ、いい友達を持ったな。」

ゼロ「ああ。まだ会って間もないけどな。」

ゼロは口を拭う素振りを見せる。

グランドキングはゼロとウルトラ6兄弟の方に歩き出す。

ブラック「みんな！行くよ！」

ブラックの掛け声で一斉にグランドキングの元に走り出す。

ブルーム「いくよ！イーグレット！」

イーグレット「ええ！」

ブルームとイーグレットは精霊の力で飛翔する。

ブルーム、イーグレット「プリキュア・ツインストリーム・スプラッシュ！」

ブルームとイーグレットはプリキュア・ツインストリーム・スプラッシュを放つ。

直撃を受けたグランドキングはブルームとイーグレットにグランレーザーを放つ。

ルミナス「はあっ！」

ルミナスはバリアを張り、グランドキングの攻撃からブルームとイーグレットを守る。

レモネードはプリキュア・プリズムチェーンで、ハニーはハニー・リボンスパイラル

でグランドキングを捕らえる。

そこへブラック、ホワイト、ドリーム、ピーチ、サンシャイン、メロディ、リズム、サニー、マーチ、ラプリー、フォーチュンがグランドキングに殴りかかろうとする。

しかし、グランドキングは全身から電撃を放つ。

ブラック達はグランドキングの電撃によって吹き飛ばされる。

ブロッサム、マリリン「プリキュア・フローラルパワー・フォルティシモ！」

ブロッサムとマリリンはエネルギーを纏い、グランドキングに突進する。

グランドキングは鉤爪でブロッサムとマリリンを薙ぎ払う。

ルージューはプリキュア・ファイヤーストライク、ミントはプリキュア・エメラルドソー

サー、アクアはプリキュア・サファイアアローを放つ。

グランドキングは鉤爪で3人の技を破る。

ローズ「ダアアアアアアアツ!!!」

ローズはグランドキングの足元にパンチを入れる。

そこにクレーターができ、グランドキングのバランスが崩れる。

ミラクル、マジカル「プリキュア・ダイヤモンド・エターナル！」

ミラクルとマジカルはプリキュア・ダイヤモンド・エターナルを放つ。

フェリーチェ「プリキュア・エメラルド・リンカネーション！」

フェリーチェはプリキュア・エメラルド・リンカネーションを放つ。

グランドキングは2人の技に直撃される。

グランドキングはグランレーザーを放つ。

ジャックはウルトラディフェンダーでグランレーザーから魔法つかいプリキュアを守る。

ジャック「大丈夫か？」

ミラクル「ありがとうございます！」

リズム、ビート、ミューズはグランドキングの頭部にキックを繰り出す。

ベリー「プリキュア・エスポワールシャワー！」

パイン「プリキュア・ヒーリングプレアー！」

ベリーはプリキュア・エスポワールシャワー、パインはプリキュア・ヒーリングプレアーを放つ。

2人の技はグランドキングの背中に命中する。

グランドキングは尻尾から光線を放つ。

しかし、その光線はブーメランに防がれる。

そのブーメランはセブンのアイスラッガーである。

パイン「ありがとうございます！」

ベリー「あのウルトラマンのブーメラン、ゼロのものと同じ？」

ベリーはセブンのアイスラッガーを見てゼロのゼロスラッガーと似ていると言い出す。

グランドキングの頭上からゾフィーのM87光線が放たれる。

グランドキングはゾフィーの光線にダメージを受ける。

ゾフィー「!?」

ゾフィーは今のグランドキングに違和感を感じる。

A「今まで効かなかったのに、今更になってダメージを受けている？」

ゼロ「!そうか!プリキュアの技は闇の力を浄化できる!グランドキングは怪獣達の

怨念が集まった怪獣、プリキュアの力がグランドキングの力を弱めてるのか!」

ゼロはグランドキングがゾフィーの光線を受けた時、ダメージを与えられた理由が分

かった。

ウルトラマン「彼女達の力でグランドキングが弱体化したと?」

ゼロ「ああ!」

ゾフィー「ゼロ、君が奴に止めを刺すんだ。」

ゼロ「おう!親父達の力も貸してもらおうぜ!」

ウルトラ6兄弟はゼロの提案に乗る。

タロウ「プリキュア、君たちの力でグランドキングの力を抑えるんだ！」
プリキュア達はタロウの言う通りにした。

ラブリー、プリンセス「プリキュア・ツインミラクルパワーシユート！」

ラブリーとプリンセスはプリキュア・ツインミラクルパワーシユートを放つ。

グランドキングは2人の合体技を鉤爪で薙ぎ払う。

ビューティ「プリキュア・ビューティブリザード！」

ダイヤモンド「プリキュア・ダイヤモンドシャワー！」

マーメイド「プリキュア・フローズン・リップル！」

マジカル「リンクル・アクアマリン！」

ビューティ、ダイヤモンド、マーメイド、マジカルの技でグランドキングの両足を封じる。

グランドキングはビューティ達にグランレーザーを放つ。

しかし、ビューティ達はピンクの光に包まれ、消えて行った。

そして、ビューティ達は別の場所に現れた。

パッション「大丈夫？」

ビューティ「はい。」

ビューティ達はパッションに感謝する。

エース「ときめきなさい！エースシヨット！ばきゅらん！」

スカレット「羽ばたけ、炎の翼！プリキュア・フェニックス・ブレイズ！」

エースとスカレットはそれぞれの技を放つ。

2つの技はグランドキングに命中。

ムーンライト「プリキュア・シルバーフォルテウェイブ！」

ムーンライトはプリキュア・シルバーフォルテウェイブを放つ。

ムーンライトの技はグランドキングに命中。

ミューズ「プリキュア・シャイニングサークル！」

ミューズはプリキュア・シャイニングサークルでグランドキングを拘束する。

ルミナス「ルミナス・ハーティエル・アंकシオン！」

ルミナスはルミナス・ハーティエル・アंकシオンでグランドキングの動きを封じる。

フローラ「プリキュア・フローラル・トルビオン！」

フローラは花吹雪をグランドキングに包み込む。

トウインクル「そろそろいいんじゃない？」

フローラ「ゼロ！」

フローラはゼロを呼びかける。

ゼロ「おう！」

ゼロはウルティメイトイーゼスを弓状にし、光の弦を引っ張る。

ウルトラ6兄弟はウルティメイトイーゼ스에 エネルギーを送った。

ゼロ「ファイナルウルティメイトゼロ！」

ゼロは光の弦を放すとウルティメイトイーゼスがグランドキングに向かって飛翔する。

ウルティメイトイーゼスがグランドキングに命中し、高速回転し、グランドキングの胴体を貫く。

グランドキングは前に倒れ、爆散する。

グランドキングの戦いの後、プリキユア達はゼロに先に行くよう言われ、クルルの力で四葉スタジアムに戻り、真琴はすぐに控室に向かった。

ゼロはウルトラ6兄弟に今まで起こったことを説明した。

ゼロ「じゃあ、マックスとメビウスも？」

A「恐らくな。」

ジャック「他の世界にも影響が出ているかもしれない。」

ゼロはA達からマックスとメビウスの事を聞いた。

ウルトラマン「他の場所にも時空の歪みが影響して怪獣が現れたのなら・・・」

セブン「このままいるわけにはいかな・・・」

タロウ「我々は他の場所に行き、怪獣退治を専念する。」

ゾフィー「君はプリキュアと共に戦うのだ。」

ゼロ「ああ。ここに飛ばされた時、そのつもりだぜ。」

ゼロはゾフィーにそう答える。

セブン「では、またな。」

ゼロ「ああ。」

ウルトラ6兄弟は飛び上がり、どこかへ去って行った。

ゼロもテレポルトで大貝町に戻った。

そして、四葉スタジアムでライブが開始した。

真琴は『SONG BIRD』、『勇気の花』、『Missing Piece』を披露する。

マナ「まこぴー！キュンキュンだよー！」

まのん「真琴さーん！メルシー！」

マナとまのんは真琴の歌を聴いて興奮した。

真理奈「全く、相田にまのん、周りの人の事も考えてほしいわ・・・」

真理奈はマナとまのんのリアクションに溜息を吐く。

真理奈（けど、改めて見ると眩しくていいわね。）

真理奈は真琴のライブを見て感想を持ち込む。

その後も真琴のライブが続き、最後に『こころをこめて』を披露する。

そして、最後の曲を歌い終え、周りのファンにお辞儀をしながら応える真琴。

ライブ終了後、マナ達は四葉スタジアムから出る。

ひかりは『TAKO CAFE』の仕事に戻る。

マナ「くうーっ！サイコーだよー！」

四葉スタジアム前でマナは回転しながら喜ぶ。

六花「マナ、落ち着きなさい。」

真理奈「ここまでハイテンションだと逆に困るんだけど・・・」

真理奈はマナのリアクションに呆れる。

まのん「お姉ちゃん！どうだった？真琴さんのライブ。」

真理奈「そうね・・・歌を聴いていい曲だなって思ったけど、それ以上に眩しかったな。」

真理奈はまのんに真琴のライブの感想を言う。

真理奈「家に帰る前にCDショップ寄って、彼女のCDアルバム買うよ。疲れを癒すのにいいかもね。」

まのん「ホント!?!」

真理奈はまのんの問いに対し、笑顔で頷く。

その頃、真琴はアイドルの衣装から私服に着替え、控室から出る。

そこにシンが背もたれして立っていた。

真琴「シン！」

シン「よお！真琴！」

シンは真琴に対し、一回手を振る。

シン「いい歌声だったぜ、真琴。」

真琴「ありがとう。」

真琴はシンに礼を言う。

真琴「いつも控室の前にマナ達に来るけど、まさかあなたに来るなんて……」

シン「マナが行かせてくれたんだ。」

真琴「そうなんだ。」

シンと真琴は四葉スタジアムの外まで一緒に歩く。

シン「あ、そうだ。もう一つ言いたいことがあった。」

真琴「え？」

シン「ステージのお前の表情、イキイキとしてたぜ。可愛かった。」

真琴「か、かわ・・・!? (〃〃〃〃〃〃)」

真琴はシンの言葉を聞いて顔が赤くなった。

シン「? どうした？」

真琴「な、なんでもないわよ! バカ! (〃〃〃〃〃〃)」

シン「何で怒る!?!」

シンは真琴に怒られ戸惑う。

シン「ん?」

シンは何かを感じたのか表情が固くなる。

真琴「なに?」

シン「誰かに見られてる・・・」

ダビィ「真琴のファンビィ?」

シン「どうやら違うみたいだな。真琴じゃなく俺を見ている。」

シンの言葉を聞いて真琴も表情が固くなる。

シン「出て来い! 見られてるのは気付いてるんだ!」

シンは周りを見渡しながら言う。

? 「あーあ、気付かれちゃったかあ・・・」

シンは後ろから声が聞こえ、視線を後ろに向ける。

曲がり角から薄紫色の髪をしたミステリアスな女性が出てきた。

? 「こんにちは。」

女性はシンに挨拶する。

シン「今まで会ったことねえよな？」

? 「うん、初めましただよ。私はクリシス。よろしくね。」

クリシスと名乗る女性は笑顔でよろしくと言う。

謎の女、クリシス

シンは真琴を背に隠し、クリシスと呼ぶ女性に質問する。

シン「さつきから俺の事、見ていたよな？何故だ？」

クリシス「ちよつと興味を持ったから観察させてもらつてたの。この辺りの人達とは違う感じがしてたからね。」

シン「お前も只物じゃねえよな。」

シンは警戒心を解かず、クリシスに質問する。

クリシス「フフツ、やっぱり普通の人とは違うみたいだね。えーつと・・・」

シン「シン。モロボシ・シンだ。」

クリシス「シンだね？どうやらお邪魔みたいだからまた後でね。」

クリシスはシンと真琴を通り過ぎていく。

真琴「シン・・・」

シン「あいつは一体何者なんだ・・・」

シンは去つて行つたクリシスを見届ける。

次の日・・・

真理奈「わざわざ大貝町の公園に呼び出してどうしたのよ？」

真理奈は大貝町の公園に来ていた。

シンに呼ばれていたからである。

その公園に来ていたのは、シンと真理奈だけじゃない。

ドキドキ！プリキュアのメンバーも来ていた。

シン「ああ、四葉スタジアムで変わった女に会ったんだ。ずっと俺の事を見ていたから。」

真理奈「女？」

シン「クリリスって女だ。お前は会ったことないのか？」

真理奈「知らないわね。名前だって初めて聞いたし。」

真理奈はシンの質問に対し、そう答える。

ありす「真琴さんも知ってたんですか？」

真琴「ええ、その時はシンも一緒だったから。」

六花「クリリスっていったい何者なの？」

六花達はクリリスの事を気に掛ける。

マナ「まこぴーの誘拐に関わったヤマザキさんの事も気になるけど、クリリスさんって人も気になるね。」

亜久里「とにかく油断は禁物ですわね。」

？「おーい、シンさん！」

シンと真理奈は振り向く。

その先にはみらいとリコとことはがやって来た。

シン「みらい、リコ、ことは？」

みらい「おはようございまーす！」

シンに挨拶するみらい。

真理奈「なんでここに？」

みらい「あ、真理奈ちゃん。シンさんの様子を見に来たんだ。ここに住んでるって聞

いてたから。」

マナ「あ、みらいちゃん達は知らないんだっけ？」

六花「はーちゃんの好奇心でどこかに連れて行かれちゃったものね・・・」

六花はことを見て苦笑いする。

マナ「まこぴーのライブを終わった後、みんなに話したけど、あたしの家で居候することになったんだ。そこで家事全般や料理の手伝い、それからお客さんの対応も教えたけど、適応力高いし、テキパキ動いてるし、オールオツケーだよ！」

マナは親指を立てて言う。

真理奈「確かあんたの家って洋食店だったよね？モロボシのお兄さんはそこで働くことになってんの？」

マナ「あ、仕事の事だけだね。もちろんシンさんはぶたのしつぽ亭で働くことになったけど、アルバイトでまこぴーの付き人をする事になったんだって。」

真理奈「どういうこと？」

マナ「ライブを終わった後にね、シンさんがまこぴーの控室に行った時に、プロデューサーさんがまこぴーを助け出した礼で契約してくれたの。」

真理奈（剣崎を助けてくれたからって契約する理由になるの？）

真理奈はシンを見て呆れた表情になる。

リコ（なに、この感じ・・・なんでこんなにモヤモヤしてるのよ・・・？）

リコはアルバイトとはいえシンが真琴のボディガードをすると聞いて、不機嫌そうな表情をする。

ことは「？リコ、どうしたの？」

リコ「な、なんでもないし。」

リコは頬を少し赤く染めながら言う。

シン「？どうしたリコ、風邪でも引いたのか？」

シンはそう言って自分の額をリコの額に当てる。

その瞬間、リコの顔は真っ赤になった。

リコ「な、なななな、なんでもないから！ホントに！大丈夫だから！（／＼／＼／＼）」

リコは動揺しながら後退るもなんでもないと答える。

真琴（なんで今を見て、こんなに心がモヤモヤするの・・・？）

真琴は今の光景を見て不機嫌そうな表情で見る。

真理奈（雪城や美翔に劍崎だけじゃなく十六夜もなの？）

真理奈は呆れた表情でシンを見る。

亜久里「戦いの勘が鋭い割に、肝心なことは鈍いのですね・・・」

シン「え？肝心なことってなんだよ？」

亜久里「なんでもありませんわ。」

シン「なんなんだよ？」

亜久里はそっぽを向く。

シン「ん？」

シンは何かを見つける。

シンが見たのはクリシスである。

シン「あいつは！」

シンはクリシスを見つめ、走り出す。

真理奈「え？あ、ちよつと！モロボシのお兄さん!？」

真理奈達はシンを追う。

シン「おい！クリシス！」

クリシス「？あ！シンじゃん！また会ったね。」

シン「何をしてるんだ？」

シンはクリシスを警戒しながら聞く。

クリシス「何もしてないけど、お腹が空いてたから噂のレストランに行こうとしてただけ。それじゃダメ？」

シン「ダメとは言ってねえがな・・・」

真理奈「モロボシのお兄さん！急に走らないでくれる!？」

真理奈達はシンを追いつく。

真琴「クリシス！」

マナ「えっ!?!あの人が!？」

マナはクリシスを見て驚く。

クリシス「皆さん、どうも！」

真琴「あなた！」

クリシス「あ！剣崎真琴じゃん。皆、シンと真琴の友達なの？」

シン「ああ。」

シンはクリシスの質問に答える。

クリシス「あ、そうだ！せつかくだからみんなもご飯どうかな？いいよね？もうお昼だし。」

真理奈「えっ？そりゃあ・・・かまわないけど・・・」

真理奈はクリシスの発言に戸惑いながら答える。

シン「ああ、いろいろ聞きたいことあるしな。」

シンは未だ警戒心を解かないまま答える。

その時、どこからか咆哮が木霊する。

真理奈「えっ!？」

六花「まさか!？」

シン達は周囲を見渡すと今まで見てきた空間の捻じれより大きな捻じれを見つけた。

クリシス「・・・!」

クリシスは苦しそうな表情で片手で頭を押さえる。

しかし、そのクリシスを見たものはいなかった。

シン達が見た巨大な捻じれから600mを超える4本の脚を持つ怪獣が現れる。

その怪獣の名は根源破滅天使ゾグ。

天使の姿でウルトラマンガイアとウルトラマンアグルを倒したことがある。ガイアとアグルの攻撃で本性を現したのがこの怪獣である。

真理奈「なにーっ!？」

六花「いくらなんでも大きすぎるでしょう!？」

ことは「今まで戦った怪獣が可愛く見えちゃう!」

マナ達はゾグの圧倒的な巨体に驚愕する。

シン「どんだけでかくなるうと、ぶっ飛ばしてやるぜ!」

シンはウルトラゼロアイを構える。

真理奈もスパークレンスを構える。

シンはウルトラゼロアイを目に嵌め、ウルトラマンゼロに変身する。

真理奈もスパークレンスを掲げて、ウルトラマンティガに変身する。

マナ「みんな、いこう!」

みらい「クリリスさんはここで待っていてください!」

マナ達とみらい達はクリリスから離れる。

クリリスはゼロとティガに目を向ける。

ゼロ「いくぜ、ティガ!」

ティガ「ええ!」

ゼロとティガはゾグに接近する。

ゾグは接近してきたゼロとティガを薙ぎ払う。

ゼロ「ぐあっ！」

ティガ「ああっ！」

ゼロとティガは地面に叩き落される。

ゾグは両腕を前に出す。

すると、ゼロとティガは苦しみながら宙に浮く。

ゾグは両手を下ろすと、ゼロとティガは地面に叩きつけられる。

マナ、六花、ありす、真琴「プリキュア・ラブリング！」

亜久里「プリキュア・ドレスアップ！」

みらい、リコ「キュアアップ・ラパパ！ダイヤ！ミラクル・マジカル・ジュエリーレ！」

ことは「キュアアップ・ラパパ！エメラルド！フェリーチェ・ファンファン・フラワール！」

マナ達はプリキュアに変身する。

ハート「みなぎる愛！キュアハート！」

ダイヤモンド「英知の光！キュアダイヤモンド！」

ロゼッタ「ひだまりポカポカ！キュアロゼッタ！」

ソード「勇気の刃！キュアソード！」

エース「愛の切り札！キュアエース！」

ハート達「響け！愛の鼓動！ドキドキ！プリキュア！」

ミラクル「ふたりの奇跡！キュアミラクル！」

マジカル「ふたりの魔法！キュアマジカル！」

フェリーチェ「あまねく生命に祝福を！キュアフェリーチェ！」

ミラクル達「魔法つかいプリキュア！」

ハート達とミラクル達はポーズを決める。

ミラクル「マジカル！フェリーチェ！行くよ！」

ミラクル、マジカル、フェリーチェ「キュアツプ・ラパー！ほうきよ、飛びなさい！」

ミラクル達はほうきでゼロとティガの元へ向かう。

ハート「よし！あたし達も！」

ハート達はマジカルラプリーハープを取り出し、ハープの弦を爪弾くことで背中に白

い羽根が現れる。

ハート達もミラクル達の後を追う。

その時、ゾグの周りに空間が捻じれ始めた。

クリリス「ウツ・・・グウ・・・」

クリシスは苦しみ出す。

ゾグの周りの捻じれた空間から頭に魚のような口があり、顔と膝に目玉が表れた怪獣が50体が姿を現す。

名は破滅魔虫カイザードビシ。

ワームホールから現れたドビシが合体した破滅招来体である。

数の多さでガイアとアグルを追い詰めた。

ダイヤモンド「また怪獣が!？」

マジカル「しかも多い！」

ハート達はカイザードビシの多さに驚愕する。

ティガ「あんなバカでかい怪獣だけでも厄介なのに！」

ゼロ「上等じゃねえか！まとめて相手をしてやるぜ！」

ティガ「まあ、野放しにできないのは当然だよね・・・」

ティガはゼロの熱意に呆れながらも身を構える。

？「ゼロ！」

ゼロとティガは振り向くと、ドキドキ！プリキュアと魔法つかいプリキュア以外のプリキュア達があった。

ゼロ「お前ら！」

マリリン「ものすんごいでかい鳴き声が聞こえたから駆けつけてきたよ！」

ブラック「ていうかあんなでかいのありえなくない！」

プリンセス「しかも数が多いし！」

ブラック達はゾグの大きさとカイザードビシの数の多さに圧倒される。

ゼロ「よし！お前らはキモイ連中を頼むぜ！俺と真理奈はあのデカブツをやる！」

ゼロとティガはゾグを相手にする。

2体のカイザードビシはゼロとティガを阻もうとする。

ソード「閃け！ホーリーソード！」

マジカル「リンクル・アクアマリン！」

ソードはホーリーソードで1体のカイザードビシに命中させる。

マジカルはカイザードビシの足に吹雪で凍らせる。

ソード、マジカル「邪魔はさせない！」

ゼロ「任せるぜ！」

ゼロとティガはカイザードビシをプリキュアに任せ、ゾグに向かって飛翔する。

集合、ウルトラ10勇士

ブラック達はカイザードビシを相手にしていた。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブラックとホワイトはプリキュア・マーブル・スクリュー・マックスを放つ。

ブルーム、イーグレット「プリキュア・ツイン・ストリーム・スプラッシュ！」

ブルームとイーグレットはプリキュア・ツイン・ストリーム・スプラッシュを放つ。

2組の技によってカイザードビシが消滅する。

ブラック「そんなに強くないみたい！」

ブルーム「これならいけるナリ！」

ブラックとブルームはカイザードビシをあつさり倒せたことで勢い付く。

ホワイト（シンさん、待っててください。必ず行くから。）

イーグレット（シンさん、私達が来るまで待っててください。）

ホワイトとイーグレットはゾグを相手しているゼロを見てそう思う。

カイザードビシは腹からグロテスクな口を出し、マリンとプリンセスを襲う。

マリン「ドツワアアアアアッ!! 気持ち悪うううう!!」

プリンセス「いくらなんでもヤバヤバすぎるよ！」

マリンとプリンセスは慌てて逃げ出す。

ブロツサム「プリキュア・ピンクフォルテウェイブ！」

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

ブロツサムとハッピーの技がグロテスクな口に命中し、消滅させた。

ブロツサム「大丈夫ですか!？」

ブロツサムはマリンとプリンセスに無事を確認する。

マリン「うん！」

プリンセス「ありがとう！」

マリンとプリンセスはブロツサムとハッピーに礼を言う。

フォーチュン「来るわよ！」

フォーチュンは先程マリンとプリンセスを襲ったカイザードビシが近づいて来るのを気付く。

ブロツサム「シンさん、待っていてください。必ず来ます！」

ハッピー「シンさん、すぐに後を追うから！」

ブロツサムとハッピーはゾグと戦っているゼロを見てそう言う。

マリン「聞こえるようにそう言うと、こつちが恥ずかしいんだけど・・・」

マリンは2人の決意を目の当たりにして呆れる。

マジカル「リンクル・ペリドット!」

マジカルはカイザードビシを葉の吹雪で包み込んで動きを止める。

マジカル「ソード!」

ソード「ええ!」

ソードはラブハートアローを構える。

ソード「プリキュア・スパークルソード!」

ソードはプリキュア・スパークルソードを放つ。

カイザードビシはソードの技を受け、消滅する。

ソード（シン、負けたら許さないから!）

マジカル（いつも強がって言えなかったけど、さつき心配かけてたこと嬉しかったのよ・・・負けちゃダメだからね・・・）

ソードとマジカルはゾグと戦っているゼロにそう思う。

カイザードビシは3つの目から光線を発射する。

ルミナス「ふっ!」

ルミナスはソードとマジカルをかばうようにバリアを張る。

ルミナス「大丈夫ですか!？」

ソード「え、ええ！」

マジカル「大丈夫よ！」

カイザードビシはルミナスのバリアに集中攻撃する。

ルミナス「くっ！うっ！」

ルミナスはカイザードビシの集中攻撃に耐える。

他のプリキュアはルミナスとソードとマジカルを助けようとするが、他のカイザードビシに妨げられる。

クリシス「フフツ、頑張ってるね。なんだか楽になっちゃった。」

クリシスはウルトラマンとプリキュアが戦っている場所へ向かう。

ルミナス「うっ！くう・・・」

ルミナスは耐えきれなくなったのか、膝がついてしまう。

ハート「近寄れないよ！」

ハートはカイザードビシの攻撃に苦戦する。

ハート「あっ！」

ハートは誰かが走ってくるのに気づく。

クリシスだ。

ハート「クリシスさん!？」

ミラクル「危ない！」

カイザードビシはクリシスの存在に気付く。

クリシスはポケットから短剣のようなアイテムを取り出す。

そのアイテムは心臓音が鳴ると同時に光り輝く。

ここまて言えばお分かりだろう。

そのアイテムはエボルトラスター。

ウルトラマンネクサスに変身するのに必要な変身アイテムである。

デュナミストがネクサスに変身する際、このアイテムを使った。

クリシスはエボルトラスターを刀を抜くように引いた。

その時、クリシスは光に包まれる。

ルミナスが張ったバリアが破ろうとした瞬間、ルミナスとソードとマジカルに光が包まれる。

ルミナス達に集中攻撃したカイザードビシ達は消滅した。

光の中からウルトラマンネクサスが現れる。

ネクサスは左手を地面に置き、広げる。

ルミナスとソードとマジカルは無事だった。

ルミナス「ウルトラマン……！」

ハート「クリシスさんが・・・あのウルトラマン!？」

ルミナス達はネクサスの手から降りる。

ゼロ「ネクサス!？」

ティガ「あの時の!？」

ゼロとティガはネクサスの存在に気付く。

ゼロ「それにこの感じ・・・クリシスか!？」

ゼロはネクサスを見て、変身したのはクリシスだと気づく。

ネクサスはカイザードビシにクロスレイ・シユトロームを放つ。

カイザードビシはネクサスの光線で爆散される。

ネクサスはアームドネクサスをエナジーコアに掲げる。

よってネクサスは紫の姿になる。

ゾグはゼロとティガに波動弾を放つ。

ゼロ「グアアッ!」

ティガ「ウウアアッ!」

ゼロとティガはゾグの攻撃により吹き飛ばされる。

ゾグは再び、ゼロとティガに波動弾を放つ。

? 「ギンガサンダーボルト!」

ゼロとティガの後ろから雷の渦が波動弾に命中し、相殺した。

ゼロ「今のは!？」

ゼロは雷が放った方向に振り向く。

そこには所々クリスタルが備えられた巨人と、サイバー感のある巨人がいた。

一人はウルトラマンギンガ。

はるか未来から来たと言われているウルトラマン。

暗黒の魔神ダークルギエルを倒し、超時空魔神エタルガーを倒した。

もう一人はウルトラマンエックス。

虚空怪獣グリーザを追う際にウルトラフレアによってデータ生命体となってしまう

たウルトラマン。

闇魔獣ザイゴグを倒した後、肉体を取り戻した。

パツシヨン「新たなウルトラマン!？」

ゼロ「ギンガ! エックス!」

ゼロはギンガとエックスの登場に驚く。

ギンガ「よう、ゼロ!」

エックス「また会ったね!」

ゼロ「お前らもこの世界に来てたのか!？」

? 「ギンガとエックスだけじゃないよ!」

ゼロの後ろにいるカイザードビシに3人の巨人が降り立った。

ゼロ「お前ら!」

ゼロが見たのは赤と青を基調とした巨人と、黒いラインのプロテクターを装う赤い巨人、そして優しさが現れている巨人である。

まず、前者の巨人の名はウルトラマンダイナ。

宇宙全ての生命を吸収するスフィアの脅威を打ち破り、ワームホールの彼方に消えた伝説の巨人である。

その後、無事生きており、M78ワールドやフューチャーアースにも活躍をしていた。次にダイナの隣に立っている巨人はウルトラマンガイア。

根源的破壊招来体をアグルと共に戦った地球のウルトラマンである。

ゾグを倒した後、力を失われたが、深海生命体リナールによって再び変身できるようになった。

最後にもう一人はウルトラマンコスモス。

カオスヘッダーの脅威に立ち向かった慈愛の戦士。

カオスヘッダーの怒りと憎しみを鎮めることに成功した。

ゼロ「ダイナ! ガイア! コスモス!」

コスモス「久しぶりだね、ゼロ。」

ガイア「急に空間が捻じれてきたと思ったら、僕がいた世界とは違う世界に来てしまったんだ。」

ダイナ「昨日会った2人のウルトラマンも一緒だぜ。」

ゼロ「2人のウルトラマン？」

ゾグはゼロ達に波動弾を放とうとした瞬間、ゾグの背中に虹色の光線と金色の光線が命中される。

ゼロはゾグの背後を見る。

そこにはウルトラセブンに似た巨人と、左腕に赤いブレスレットを装う巨人がいた。

前者の巨人はウルトラマンマックス。

地球の文明監視するためにやってきたウルトラマンである。

一度ギガバーサークに敗北するが、DASHの作戦で復活を遂げ、ギガバーサークを撃破した。

後者の巨人はウルトラマンメビウス。

ウルトラの父から地球に派遣された宇宙警備隊のルーキーである。

エンペラ星人との決着後、ウルトラ兄弟の一員となった。

ゼロ「マックス！メビウス！」

マックス「君もこの世界に来ていたか。」

メビウス「危なかったね、ゼロ。」

ゼロ「親父達から聞いたが、無事みたいだな。」

ゼロはマックスとメビウスが無事だと知り、安心した。

ドリーム「昨日会ったウルトラ6兄弟の他にウルトラマンがいたの!?!」

ピース「きやああくっ!ウルトラマンだあく!」

サニー「やつぱりそのリアクションかい!」

プリキュア達はゼロ、ティガ、ネクサス以外のウルトラマンの登場に驚く。

コスモス「君、立てるかい。」

コスモスはティガに手を差し伸べる。

ティガ「大丈夫よ。」

ティガはコスモスの手を取り、立ち上がる。

ゼロは自力で立ち上がる。

ゼロ「よし!プリキュア、ダイナ達の援護を頼むぜ!ティガ、ネクサス、3人であのデカブツをぶっ倒すぞ!」

ゼロとティガとネクサスはゾグを相手にする。

ダイナ、ガイア、コスモス、マックス、メビウス、ギンガ、エックスはカイザードビ

シの集団と戦い、プリキュアはダイナ達の援護に回る。

VSゾグ

ゼロはゾグにエメリウムスラッシュを放つ。

ゾグはゼロの攻撃に怯むが、ティガに波動弾を放つ。

ティガは波動弾を避け、ゾグに殴りかかる。

しかし、ゾグはティガを叩き落とし、更にティガを踏ん付ける。

ティガは受け止めるが、そのまま土の中に。

ネクススはゾグの足を押す。

ティガは土の中から脱出した。

ティガはハンドスラッシュを、ネクススはパーテイクルフエザーを放つ。

ゾグは2人の技を受けて怯む。

ダイナはカイザードビシに蹴りを入れる。

カイザードビシはダイナの蹴りに倒れる。

ダイナの背後に2体のカイザードビシが腹の口を出し、ダイナを襲う。

ピーチ「プリキュア・ラブサンシャイン・フレッシュユ！」

メロディ「翔けめぐれ、トーンのリング！プリキュア・ミュージッククロンド！」

ピーチはプリキュア・ラブサンシャイン・フレツシユを、メロディはプリキュア・ミュージッククロンドを放ち、腹の口を爆発させる。

ダイナは背後の2体のカイザードビシに気付く。

ダイナ「次から次へと出てきやがって！ 本当の戦いはここからだぜ！」

ダイナは倒れたカイザードビシの足を掴み、振り回した。

そして、ダイナはカイザードビシを2体のカイザードビシに投げ飛ばす。

カイザードビシ達3体とも倒れる。

ダイナは3体のカイザードビシにソルジェント光線を放つ。

3体のカイザードビシは爆散される。

ダイナ「見たか、俺の超ファインプレー！」

ダイナは爆散したカイザードビシにそう言う。

ガイアは2体のカイザードビシの腹の口に縛りつけられていた。

ラブリー「ラブリーライジングソード！」

ラブリーは光の剣を出す。

ビューティも氷の剣を出す。

ラブリーとビューティは2体のカイザードビシの腹の口を切り裂く。

ガイアはカイザードビシの口を解いた。

ガイア「ありがとう！」

ラブリー「どういたしまして！」

ガイアはラブリーとビュウティに礼を言う。

サンシャイン「プリキュア・ゴールドフォルテバースト！」

サンシャインはプリキュア・ゴールドフォルテバーストを放ち、片方のカイザードビシに命中。

カイザードビシは消滅する。

ガイア「まさか天使だけじゃなく、イナゴが一つになった破滅招来体が現れるなんて・・・でも、僕は負けない。この世界は滅んだりしない！」

ガイアはもう1体のカイザードビシにフォトンエッジを放つ。

ガイアの技を受けたカイザードビシは爆散される。

ドリーム、ハッピー、フローラ「キャアアアアアアッ!!!」

ドリームとハッピーとフローラは3体のカイザードビシの光線に吹き飛ばされる。

3体のカイザードビシは再び光線を放つ。

その時、コスモスはバリアを張り、更にバリアを前進させてカイザードビシにぶつける。

フローラ「ありがとう！」

コスモス「大丈夫かい？」

ハッピー「はい！」

3体のカイザードビシはコスモスに向かって走り出す。

コスモス「一緒に戦おう！皆の夢を守るために！」

ドリーム「！YES！」

ドリームはコスモスの言葉に笑顔で返事する。

ドリーム「プリキュア・シューティング・スター！」

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

フローラ「プリキュア・フローラル・トルビヨン！」

ドリームはプリキュア・シューティング・スター、ハッピーはプリキュア・ハッピー

シャワー、フローラはプリキュア・フローラル・トルビヨンを放つ。

3体のカイザードビシの内2体は消滅する。

コスモスはルナストライクでもう1体のカイザードビシを倒す。

3体のカイザードビシが腹からイナゴのような生命体が大量に出現させた。

その生命体は破滅魔虫ドビシ。

あらゆる情報手段を遮断させ、テレビ回線だけを残してガイアとアグルの敗北を見せ

つけた破滅招来体である。

地球全体を包み込んで、太陽の光を遮った。

マックスはアイシングウエーブでドビシを凍らせる。

しかし、背後からもう1体のカイザードビシがドビシを出して、マックスをまとわりつく。

マックスはまとわりつかれたドビシに悶絶する。

エコー「プリキュア・ハートフルエコー！」

エコーはプリキュア・ハートフルエコーでマックスにまとわりついたドビシを消滅する。

エコー「大丈夫ですか!？」

マックス「ああ。」

4体のカイザードビシはマックスに襲い掛かる。

マックス「地球の未来は人類自らの手で掴み取る!」

マックスはマクシウムソードで4体のカイザードビシを切り裂く。

よってカイザードビシは仰向けに倒れ、爆散する。

メビウスは2体のカイザードビシの光線に倒れる。

カイザードビシは腕を鎌となり、メビウスを襲い掛かる。

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

ソード「プリキュア・スパークルソード！」

アクアはプリキュア・サファイア・アローを、ソードはプリキュア・スパークルソードを放つ。

2人の技を受けた2体のカイザードビシは消滅する。

アクア「大丈夫？」

メビウス「大丈夫だよ。」

メビウスの背後にカイザードビシが襲い掛かる。

メビウスはそのカイザードビシに気付く。

メビウス「最後まで諦めず、不可能を可能にする。それがウルトラマンだ！」

メビウスはメビウムシールドを放つ。

メビウスの光線を受けたカイザードビシは爆散された。

カイザードビシは鎌でギンガを襲う。

ギンガはカイザードビシの鎌を避け、蹴りを入れる。

ギンガ「ギンガセイバー！」

ギンガはカイザードビシを切り裂く。

よってカイザードビシは倒れ、爆散する。

その時、カイザードビシは光線を放つ。

ギンガはカイザードビシの光線で倒れる。

カイザードビシは腹からドビシの大軍を出す。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブルーム、イーグレット「プリキュア・ツイン・ストリーム・スプラッシュ！」

ミラクル、マジカル「プリキュア・ダイヤモンド・エターナル！」

ブラック達はそれぞれの合体技を放つ。

ドビシの軍団は消滅される。

ブラック「大丈夫!？」

ギンガ「ああ! あとは任せろ！」

ギンガは背後にいたカイザードビシに振り向く。

ギンガ「今の俺は最強・・・いや、超最強だ! ギンガクロスシュート!」

ギンガはギンガクロスシュートを放つ。

カイザードビシはギンガの技で爆散される。

エックス「大地、この怪獣からは人類滅亡の望みしか感じない! 気を抜くなよ!」

大地「ああ!」

エックスはカイザードビシの鎌攻撃を受け止め、蹴りを入れる。

カイザードビシは腹から口を出し、エックスを噛みつく。

エックス「イタタタタツッ!」

エックスは噛みつかれて痛がり、口を掴んだまま後退する。

プリンセス「プリンセスカッター!」

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー!」

プリンセスはプリンセスカッター、ミントはプリキュア・エメラルド・ソーサーでエックスを噛みついたカイザードビシの腹の口を切断する。

エックス「すまない!」

エックスはカイザードビシに飛び蹴りを浴びせる。

カイザードビシは仰向けに倒れる。

エックス「ザナディウム光線!」

エックスはザナディウム光線を放つ。

カイザードビシは爆散されるが、スパークドールズ化しなかった。

ゾグはゼロに波動弾を放つ。

ゼロはワイドゼロショットで迎え撃つ。

よって、相殺される。

ティガはゼペリオン光線を、ネクサスはオーバーレイ・シュトロームを放つ。

ゾグは2人の光線を受けて怯む。

ゾグは翼を広げてゼロとティガとネクサスを追うように走り出す。

ゼロとティガとネクサスはゾグとの距離をとる。

ゼロ「こいつで決めるぜ！」

ゼロはウルティメイトイージスを弓状にし、光の弦を引っ張る。

ティガとネクサスはウルティメイトイージスにエネルギーを送る。

ゼロ「フィニッシュ！」

ゼロは光の弦を放す。

ウルティメイトイージスはゾグに命中し、高速回転する。

最後にウルティメイトイージスがゾグを貫く。

ゾグは爆散される。

ネクサスは力が抜けたように膝につく。

ネクサスは光に包まれて消えた。

ティガ「あ、クリシスの所に行かなきゃ。モロボシのお兄さん、後はお願いね。」

ゼロ「ああ。」

ティガは光に包まれて消えた。

ティガとネクサスを除くウルトラマンは周りの修復を行なった。

周りの修復が終わり、ダイナはアスカ・シンに、ガイアは高山我夢に、コスモスは春

野ムサシに、マックスはトウマ・カイトに、メビウスはヒビノ・ミライに、ギンガは礼堂ヒカルに、エックスは大空大地に戻る。

そして、ゼロもシンの姿に戻り、プリキュア達も元の姿に戻った。

そして、シンはアスカ達にこの世界はプリキュアという存在がいたこと、この世界に飛ばされたウルトラマンは元の世界に帰れなくなったこと、真理奈の事やクリシスの事を伝えた。

我夢「クリシスか・・・僕の世界では『プロノーン・カラモス』で藤宮が作った光量子コンピュータの名前もクリシスだったよ。そのコンピュータが破滅招来体とシンクロしていた。しかもコンピュータウィルスの役割を持っているクリシスゴーストが金属生命体の破片を手に入れて、新たな金属生命体を生み出した。」

マナ「それほど危険なんですネ。」

我夢はクリシスという女性の名前を聞き、ウルトラマンアグルである藤宮博也が作った光量子コンピュータ・クリシスを思い出した。

マナ「けど、我夢さんがいた世界にも『プロノーン・カラモス』ってあるんだ。」

我夢「えっ?じゃあこの世界にも?」

あります「はい、トランプ共和国と交流が行なって以来、科学者の子供達や『アルケミー・スターズ』が集まって、『プロノーン・カラモス』を設立しました。あの施設を設立した

「のは私達、四葉財閥ですわ。」

アスカ「すっげっ!!」

アスカは『プロノーン・カラモス』を設立したのは四葉財閥だと知ると驚く。

我夢「この世界は『プロノーン・カラモス』だけじゃなく、『アルケミー・スターズ』も存在してたんだね・・・」

我夢も呆気をとられる。

シン「で、これからどうすんだ？」

シンはアスカ達にこれからの事を聞く。

カイト「私はゾファイ隊長と合流する。」

ミライ「僕もそうするよ。それに、怪獣が現れたのは日本だけじゃないはず。」

カイトとミライはゾファイと合流することにした。

アスカ「俺はトランプ共和国に行ってくる。妖精の世界にも怪獣が出て来る可能性もあるしな。」

ムサシ「僕も行く。」

ヒカル「俺もだ。」

アスカとムサシとヒカルはトランプ共和国に向かうことにした。

アスカ「我夢と大地はどうする？」

我夢「うくん・・・『プロノーン・カラモス』に行ってみようと思ってる。ここに飛ばされた原因が突き止められるかもしれないし。」

大地「俺は・・・ヒカルさん達と一緒にいこうかな。」

我夢は『プロノーン・カラモス』に訪問、大地はアスカ、ムサシ、ヒカルと同行することにした。

シン「お互い無事でな。」

アスカ達は頷く。

我夢は早速、『プロノーン・カラモス』に行き、アスカとムサシとヒカルと大地はトラップ共和国に、カイトとミライはゾフィー達を探しに行った。

その後、ドキドキ！プリキュアと魔法つかいプリキュアを除くプリキュア達は住んでいる場所に戻った。

真理奈と合流した時、クリシスも一緒だった。

そして、ぶたのしっぽ亭で昼食をとった。

昼食を食べ終えた後・・・

クリシス「ご馳走様でした！」

クリシスは食べた後、挨拶をする。

クリシスは財布を取り出して代金を払い、店から出る。

シンはクリシスを追った。

シン「なあ、なんでお前はネクサスの変身アイテムを持つてるんだ？」

シンはクリシスに質問する。

クリシス「ああ、これ？」

クリシスはエボルトラスターを出して言う。

クリシス「目が覚めたら私の横に置いてあったの。なんでそこにあったのか分かんないけどね。」

クリシスはエボルトラスターを持っていた理由を言うが、何故エボルトラスターがあつたのかは知らないと答える。

クリシス「何か思い出したら教えるね。じゃ、またね。」

クリシスはシンと別れを告げる。

シン（いったい何なんだ・・・）

シンは去って行くクリシスを見て呟く。

登場人物&登場予定の新キャラ

登場人物

モロボシ・シン

ウルティメイトフォースゼロの1人、ウルトラマンゼロが地球で活動する時に人間の姿になった。

謎の時空の歪みによって、プリキュアの世界に飛ばされる。

現在は相田マナが暮らしている洋食店ぶたのしっぽ亭で居候し、剣崎真琴を助けた礼として、彼女の付き人をしている。

戦闘に関する勘は鋭いが、恋愛に関しては鈍い。

新真理奈

ペローネ学院中等部2年桃組。

真理奈の母・新真奈美と同じ科学者になることを目標としている。

両親の手伝いをした為、部活に入らず、どこかに遊ぶ機会がなかった。

『ディメンジョンゲート』のテスト後、クルルと出会う。

河童山でプリキュアと怪獣の戦いに遭遇した時、ウルトラマンティガになる。

恋愛には興味がなく、空気を読まない所もしばしばくるる

ジュエル鉱国に住むカーバンクル。

額の宝石には7つの力を秘めている。

無人島で怪我をして弱っていたが、真理奈に治療される。

その後、妖精の世界の無人島に帰されたが、真理奈が真奈美の手伝いをする時に再開した。

それ以来、一緒に暮らすことになった。

モチーフはファイナルファンタジーIXのカーバンクル。

新まのん

ベローネ学院中等部1年桃組。

新真理奈の妹で剣崎真琴のファン。

剣崎真琴をきっかけにアイドルを目指している。

フランス語で挨拶するのが癖になっている。

妖精の世界に訪れた時、不慮の事故によりジュエル鉱国で気を失うが、ディアーナに助けられた。

クリシス

モロボシ・シンが四葉スタジアムで出会った謎の女。
ウルトラマンネクサスに変身する。

時々、頭痛が起きることがある。

新真奈美

真理奈の母。

妖精の世界の研究や『デイメンジョンゲート』の発明をした科学者。

『デイメンジョンゲート』の悪用を避ける為、真奈美の家族と部下の科学者だけの極秘にしている。

『デイメンジョンゲート』で管理国家ラビリンスの東せつなど会い、プリキュアの事を秘密にしている。

ヤマザキ・ヒロユキ

生物工学の연구원。

2年前、真奈美の元で働いていたが、人間の命令に従う妖精のクローンを作ろうとした理由で、研究は打ち切りにされ、辞職される。

裏で犯罪者にプリキュアの敵が操る怪物を使役するアイテムを渡したが、目的は不明。

ダニエル・マクフィー

『プロノーン・カラモス』のリーダーであり、『アルケミー・スターズ』の1人。

パリに建てた祖父の研究所に謎の生命体が現れたことを真理奈に伝えた。

アメリカ出身。

キャサリン・ライアン

『プロノーン・カラモス』の副リーダーで、『アルケミー・スターズ』の1人。

真理奈からは「キャス」と呼ばれている。

アメリカ出身。

新キャラクター

ディアーナ

ジュエル鉱国の王女。

カーバンクルと共に国を守り続けていた。

まのんがジュエル鉱国で気を失っていた所を助けた。

ジュエル鉱国にもプリキュアの伝説が語られているが、ディアーナとまのんだけの秘

密にした。

モチーフはポケットモンスターXYのディアンシー。

新カズマ

真理奈の父親。

真奈美 of 妖精の世界の研究を手伝っているが、格闘技にも自信がある。

真理奈にジークンドーを教えた。

現在は『デイメンジョンゲート』がある無人島で開拓作業を行われている。

新レナ

真理奈の姉。

ハワイで暮らしている。

ハワイで海の生き物を研究している。

新ダイゴ

レナの夫で真理奈の義兄。

レナと同じくハワイで暮らしている。

旧姓は「マドカ」。

フォスター植物園で働いている。

新光太郎

真理奈の祖父。

量子物理学を専攻していた研究員。

飛行機でパリに移動中、プリズムフラワーを発見し、研究を積み重ね、妖精の世界を

繋ぐ『フェアリーゲート』を発明。

しかし、キュアアンジェとサラマンダー男爵の戦いを知った彼はプリズムフラワーに頼らずに妖精の世界を繋げる『デイモンジョンゲート』の設計図を真奈美とカズマに渡した後、パリで研究所を建てたが、爆発事故により行方不明になる。

デニース・ポーカー

元トランプ王国の戦士。

ジコチュー襲撃時行方不明になっていたが、生存していた。

トランプ共和国の政治を快く思わなかったデニースは、同じくトランプ共和国の政治を快く思わない者を集め、革命軍ユグドラシルを組織した。

マヤ／キュアイーリス

トランプ王国の出身。

ジコチュー襲撃の時、ジュエル鉱国に逃げ込んで生き延びた。

デニースからマリー・アンジュ王女が消えたこと、プリカードファイルの力で願いが叶えることを知り、デニースと協力し、プリチェンミラーとプリカードファイルを手に入れる。

海外に回り、プリカードを奪って集めている。

プリキュアとしての能力は強力な攻撃力と防御力を併せ持ち、キュアアテンダーと互角に渡り合う実力を発揮する。

ジュエル鉱国の王女

ゾグとの戦いから3日後、真理奈は妖精の世界で真奈美と父親の新カズマの手伝いをしていた。

新カズマは真奈美と共に妖精の世界を調べている。

現在は今いる無人島で開拓作業をしている。

そして、娘の真理奈にジークンドーを習わせた。

真奈美「カズマ。開拓作業は順調なの？」

カズマ「ああ。吉田と桑原と志摩が力仕事をするのに、ナカジマとドイガキの指示に従って開拓を進めている。」

カズマは開拓作業の進み具合を伝えた。

真理奈「この世界を研究するためには、こんな風に小さな町づくりを始めるなんてね。」

真理奈は開拓した場所を見渡しながら言い出す。

真理奈「ところで母さん、ラピリンスから時空の歪みの原因のこと突き止めたの？」

真奈美「まだよ。いろいろ調べたけど手掛かりはなかったわ。」

真理奈は時空の歪みの原因について真奈美に聞いてみたが、未だ解明されていなかった。

真理奈（原因が分かればモロボシのお兄さん達も安心するんだけどな・・・）

真理奈は溜息を吐いて呟く。

そして、30分後・・・

真理奈「ふう・・・疲れた・・・」

真理奈は真奈美とカズマの手伝いを終えた後、家に帰った。

真理奈「まのんの奴、私が父さん達の手伝いをしている間、まだ帰ってきてないのか。」

真理奈がカズマと真奈美の手伝いに行く時、まのんも一緒だったが、まだ帰ってきて

なかった。

その時、真理奈のポケットから音が鳴る。

真理奈はポケットからIpadを取り出す。

そして、Ipadのアイコンを触る。

すると、Ipadの映像から2人の男女が映し出す。

？「アロハ、真理奈。」

真理奈「レナ姉さん！それにダイゴ義兄さんまで！」

映像から出てきたのは新レナと新ダイゴ。

2人は結婚した後、ハワイで暮らしていた。

レナは海の生き物を研究し、ダイゴはホノルルにあるフォスター植物園で働いている。

真理奈がいる日本は現在10時だが、レナとダイゴが暮らしているハワイでは15時であるため、2カ所とも明るい。

ダイゴ「真理奈ちゃん、元気？」

真理奈「元気よ。家にはいないけどまのんも元気にしてる。そっちは？」

レナ「見ての通り。」

真理奈とレナとダイゴは賑やかに話している。

レナ「ねえ、妖精の世界の方はどうなの？」

真理奈「今も研究を続けてるけど、開拓作業も行なってる。人どころか妖精もない無人島だからね。」

ダイゴ「真理奈ちゃん。お義父さんとお義母さんの手伝いをするのはいいけど、君はまだ14歳。普通の女の子として過ごしててもいいんだよ。」

ダイゴは真理奈にそう言う。

真理奈「まあ、考えておくよ。元気だね。」

レナ「お父さんとお母さんとまのんのことお願いね。」

ダイゴ「アロハ。」

レナとダイゴは真理奈との通信を切った。

真理奈「ふう、どいつもこいつもイチャコラして……でも元気そうよかった……」

真理奈はレナとダイゴが元気そうな姿を見て安心した。

その時、真理奈のスマホから着信音が鳴る。

真理奈は電話を掛ける。

真理奈「はい、もしもし。」

? 「よう、真理奈。」

真理奈「モロボシのお兄さん!？」

シン「シンでいいぜ。マナや真琴が相手でも名字で呼んでるみたいだな。」

真理奈にかけてきたのはシンだった。

真理奈「下の名前呼び合う仲じゃないでしょ!それよりあんた携帯持ってなかったでしょ!?!というかなんで私の電話番号知ってるわけ!？」

真理奈はシンが電話をかけてくるとは思わなく、驚きを隠せなかった。

シン「ありすの執事に買ってもらったんだ。お前の電話番号はありすのおかげで知ってたぜ。」

真理奈（四葉財閥の情報網で知ったか……全くあのお嬢様め、後で説教だからね……）

!

真理奈はシンが自分の電話番号を知ったのはありすの仕業だと分かり、ありすに対し怒りが燻ぶる。

真理奈「で？何の用なの？」

真理奈は怒りを抑えながらシンに尋ねる。

シン「ああ。マナがな、明日みんなで遊園地に行こうって話になつてよ。俺と真琴は明日と明後日休みだから一緒に行けるんだ。お前にも誘おうと思つたんだ。」

真理奈「遊園地ね・・・確かに私、祖父ちゃんが出て行つてから遊園地どころか遊びに行つたりしなかつたからね・・・」

シン「どうだ？」

真理奈「仕方ないわね・・・わかつた。まのんにも誘うよ。」

真理奈はシンの誘いにOKする。

シン「ああ、よろしくな。」

真理奈「それで、どこの遊園地に行くつて？」

シン「横浜コスモワールドつてとこだぜ。」

真理奈「横浜コスモワールドね？分かつた。じゃ、切るよ。」

シン「じゃあな。」

真理奈はシンとの通信を切った。

その頃・・・

まのん「ここに来るのって1年くらい前だね・・・」

まのんがいる場所は周りが色とりどりの宝石が埋まっている洞窟の中である。

その洞窟の中にはくると同じカーバンクルや鉱物の塊の妖精が暮らしている。

まのん「くるる、一緒に来てくれてありがとう。」

くるる「キュウ！」

くるるはまのんに感謝され、胸を張る。

？「まのん、お久しぶりです。」

まのんとくるるは振り向くと、下半身の鉱石が人型に伸び、額にブリリアントカットのダイヤモンドが付き、ツインテールのような髪状のダイヤがついている妖精である。

その妖精の名はディアーナ。

まのんとくるるが今いる洞窟ジュエル鉱国の王女である。

カーバンクルと共にこの国を守り続けてきた。

まのん「ディアーナ、久しぶり。」

ディアーナ「あなたがここで気を失い、私^があなたが介抱して以来ですね。」

まのんは笑顔でディアーナに挨拶する。

まのんとくるとディアーナは楽しく話しながら奥へと向かう。

ジュエル鉱国の最奥部に壁画が描かれている。

まのん「ここ、私の怪我を治した後に見せた所だよね。」

ディアーナ「はい。遠い昔、このジュエル鉱国は地底に眠りし魔獣イビロンに襲われました。」

ディアーナは右端の黒い翼をもつ8つ足のドラゴンの壁画を見る。

ディアーナ「しかし、一人の少女とカーバンクルの結びの光によりキュアエレメントとなり、イビロンを封じ、平和を取り戻しました。」

ディアーナは右端から2番目の光に包み込む少女とカーバンクルの壁画を見て、左端から2番目の7つの光を囲むプリキュアの壁画を見た後、プリキュアがイビロンに立ち向かう壁画を見た。

ディアーナ「ただ最近、このジュエル鉱国に再びイビロンが蘇ろうとしています。」

ディアーナは悲しげな表情で言い出す。

まのん「うん、ディアーナは知らないだろうけど、最近人間の世界では時空の歪みで

巨大な怪獣が出てきたの。怪獣だけじゃない。別の世界から来たプリキュアとは違う戦士が出てきたのよ。」

ディアーナ「別の世界からの戦士？」

まのん「うん。ウルトラマンっていう戦士なの。今はプリキュア達と協力してる。」

ディアーナ「それほど深刻な事態なのですね・・・」

ディアーナはまのんの話を聞いて俯く。

ディアーナ「まのん。私があなただを介抱した時、この壁画の事を私とまのんだけの秘密にするようにと約束しましたが、そうは言っていられないようです。あなたが人間の世界に戻ったら、このことを伝えていただきませんか？」

ディアーナは事態が深刻になっているのを知り、まのんに壁画の事を伝えてほしいと頼む。

まのん「うん、わかった。」

まのんはディアーナの頼みを引き受ける。

その晩、場所が変わり、北海道の釧路湿原ではカミキリムシのような怪獣と左右対称

の2つの頭を持つ怪獣がネクサスに押されている。

前者の怪獣は宇宙恐竜ゼットン。

地球侵略を目論んだゼットン星人が送り込んだ最強の怪獣である。

戦闘力が高く、初代ウルトラマンを倒したことがある。

後者の怪獣は双頭怪獣パンドン。

地球侵略を目論んだゴース星人が送り込んだ宇宙怪獣である。

ウルトラセブンのアイ斯拉ッガーをキャッチしたことがある。

ゼットンはネクサスに攻撃するが、ネクサスはゼットンの攻撃を全て避け、蹴りを浴びせる。

ネクサスはセービングビュートでゼットンとパンドンを拘束する。

そしてネクサスはジャンプし、真上からアローレイ・シユトロームを放つ。

ゼットンとパンドンはネクサスの技により、爆散される。

ネクサスは光に包まれた後、クリシスの姿になる。

クリシス「はあ、はあ・・・頭痛いな・・・なんなんだろうね・・・？」

クリシスは頭を押さえながら、どこかへ歩いて去って行く。

二体の伝説怪獣

次の日、シン達は横浜コスモワールドに来ていた。

やよい「横浜コスモワールド、キターーーー！」

みらい「おっっ！ 広くて楽しそう！ ワクワクもんだ〜！」

のぞみ「わあ〜っ！」

興奮するみらい達。

真理奈「そんなに興奮するほどの事じゃないでしょ？」

真理奈はそんなみらい達に呆れる。

まのん「ノンノン！ そう言わないの！」

ラブ「そうそう！ せっか〜くこうして集まったんだから！」

真理奈「はいはい。」

真理奈は溜息を吐きながら返事する。

のぞみ「それじゃ、横浜コスモワールドで楽しく遊ぶこと！ けっ〜い！」

のぞみを先頭に皆が園内に入る。

みゆき「シンさんは遊園地初めてだよね？」

シン「ああ。」

みゆき「じゃあ、一緒に行こう！」

つぼみ「し、シンさん！わ、私と一緒に！」

みゆきは一緒に遊ぼうと言い出すが、つぼみが乱入し、一緒に遊ぼうと言い出す。

シン「分かった。頼むぜ、みゆき、つぼみ。」

あかね（いや、わかってへんな・・・）

えりか（鈍いっしゅ・・・）

真理奈（ていうか、花咲と星空もなの？）

あかねとえりかはシンのつぼみやみゆきに対する返答に呆れる。

真理奈はつぼみとみゆきのシンに対する勧誘に呆れる。

まのん「お姉ちゃん！早く早く！置いてくよ！」

真理奈「はいはい、今行くから。」

真理奈は走ってまのんに追いつく。

シン達は横浜コスモワールドの園内でほとんどのアトラクションを楽しんだ。

つぼみ「う〜！怖かったです〜！」

真理奈「緑川、気持ちちは分かるけどあんなにでかい声で悲鳴あげるのやめてくれる？

耳に障るんだけど・・・」

なお「だつて〜！」

あかね「なおはお化け苦手やからな・・・」

あかねはなおの怯えてる姿を見て苦笑いする。

なおがこのようになったのは『新・幽霊堂』で幽霊たちに追い掛け回されたからである。

真理奈「まあ・・・確かにいきなり最高レベルの怖さで行ったら気分優れないわよね・・・」

真理奈は申し訳なさそうに言い出す。

『新・幽霊堂』は3つの恐怖度を選ぶことができ、真理奈は恐怖度3で挑んだ為、なおが怯えているのだ。

真理奈「今度はちゃんといい場所に連れてつてあげるから。」

真理奈はなおの肩を叩き慰める。

みゆき「うう〜・・・」

シン「みゆき、大丈夫か？」

みゆき「大丈夫じゃないよ・・・」

みゆきはシンの右腕を抱きつきながら歩く。

あゆみとやよいはシンとみゆきの後をついていく。

ちなみにやよいの目はキラキラしていた。

真理奈（物凄い好奇心ね・・・）

真理奈はそんなやよいに呆れた顔をする。

みゆき「シンさん・・・もう少しこのままでもいい？まだ怖くて・・・歩けないよ・・・」

つぼみ「!？」

シン「ああ、いいぜ。俺が傍にいるから安心しろ。」

あかね「シンはん、えらい発言やな。」

真理奈「よくそんな恥ずかしいセリフ言えるわね。」

シンはみゆきに笑顔を見せる。

今のシンの発言にあかねは苦笑いし、真理奈は呆れた顔をする。

つぼみ（な、なんなんですか、これ・・・？胸が刺さったような感じがします・・・）

つぼみはシンがみゆきにかけてた言葉に不機嫌になる。

その後、まのん、えりか、いつき、ゆり、れいかが来て、13人でコスモコートに入
た。

真理奈「他のみんなは来てないみたいね。待つててもしょうがないし、先に昼食べよ
うか。」

えりか「賛成っしゅ！」

シン「これで拭いとけよ？」

シンはポケットからハンカチを出し、つぼみに渡す。

つぼみ「あ、ありがとうございます！あとで洗濯してお返しします！（／＼／＼）」

つぼみは顔を赤らめながらシンにお礼を言つて、そのハンカチで頬のケチャップを拭き取る。

その時、コスモコートの外から咆哮が聞こえた。

あゆみ「なに!？」

れいか「外からですね!？」

シン達はコスモコートの外に出る。

コスモコートの外に空に指を指して見ている者が多数いた。

シン達は空に見上げると、ネクサスと甲虫のような表皮に覆われたドラゴンが戦っていた。

そのドラゴンの名は伝説宇宙怪獣シラリー。

「天空に追放された者」と呼ばれた怪獣である。

コダラーと共にウルトラマングレートを追いかめた。

シン「クリシス！戦っているのはグレートを追いかめたシラリーか!？」

ネクサスはシラリーの攻撃を避けた後、オーバーレイ・シュトロームの構えをする。

その時、ネクサスが突然頭を押さえて苦しみ出す。

シン「!?!」

真理奈「どうしたの!?!」

シラリーは嘴でネクサスにお見舞いする。

ネクサスはシラリーの攻撃で海に叩き落される。

ネクサスは海から姿を現すが、まだ苦しんでいる。

その時、ネクサスの背後から水しぶきを上げ、そこからずんぐりむつくりした甲羅を持つ怪獣が現れた。

その怪獣の名は伝説深海怪獣コダラー。

「深海に閉ざされし者」と呼ばれた怪獣である。

グレートの光線を跳ね返して、グレートを倒したことがある。

シン「あれはコダラー!?!」

真理奈「もう1体いたの!?!」

コダラーはネクサスを殴り飛ばす。

シラリーはクイーンズスクエア横浜付近に着地する。

コダラーはネクサスを持ち上げ、投げ飛ばす。

よってネクサスはシラリーの前に叩き落される。

コダラーはネクサスを追って上陸する。

コスモワールドにいた人達は係員の指示に従って安全な場所に移動している。シン達はどきどきに紛れて人気のいない所に隠れる。

つぼみ、えりか、いつき、ゆり「プリキュア・オープンマイハート！」

みゆき、あかね、やよい、なお、れいか「プリキュア、スマイルチャージ！」

つぼみ達はハートキャッチプリキュアに、みゆき達はスマイルプリキュアに変身する。

ブロッサム「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！」

マリン「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！」

サンシャイン「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」

ムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

ブロッサム、マリン、サンシャイン、ムーンライト「ハートキャッチプリキュア！」

ハッピー「キラキラ輝く未来の光！キュアハッピー！」

サニー「太陽サンサン熱血パワー！キュアサニー！」

ピース「ピカピカぴかりんじやんけんポン！キュアピース！」

マーチ「勇氣リンリン直球勝負！キュアマーチ！」

ビューティ「しんしんと降り積もる清き心！キュアビューティ！」

ハッピー、サニー、ピース、マーチ、ビューティ「5つの光が導く未来！輝け！スマイルプリキュア！」

シンはウルトラゼロアイを目に装着し、ウルトラマンゼロに変身する。

真理奈もスパークレンスを翳して、ウルトラマンティガに変身する。

ハッピー「あゆみちゃん、なぎささん達を探しに行つてあげて！」

あゆみ「うん！」

あゆみはハッピーの言う通り、なぎさ達を探しに行つた。

ゼロとティガは一足先にネクサスの元に向かう。

ハッピー達もゼロとティガの後を追う。

VS シラリー & コダラー

ゼロとティガはネクサスの元に着地する。

ネクサスは頭を押さえ、苦しみながら光に包まれ、消えていった。

よってネクサスはクリシスの姿に戻る。

クリシスは気を失っている。

ハッピー達はポップの変化の術による鳥の姿でようやくゼロとティガに追いつき、クリシスの元に駆け寄る。

ブロッサム「大丈夫ですか!？」

マリ「この人がシンさんが言ってたクリシスさん？」

ブロッサムはクリシスを抱き上げ、声をかけるが、気を失ったまま。

ゼロ「来るぞ！」

シラリーは両腕からレーザー光線を放つ。

ティガはウルトラシールドでシラリーのレーザー光線を防ぐ。

ティガはシラリーにハンドスラッシュを繰り返す。

その時、コダラーが乱入し、ハンドスラッシュを受け止め、そのまま跳ね返した。

ティガはコダラーの反撃にダメージを受ける。

ゼロはコダラーにパンチやキックを繰り出すが、コダラーは怯まなかった。

シリリーは両腕からレーザー光線を放つ。

シリリーのレーザー光線はゼロの背中に命中する。

コダラーはゼロにパンチを繰り出す。

ゼロは怯んで後退る。

ゼロ「チツ！めんどくせえ野郎だぜ！」

ティガは立ち上がり、シリリーにゼペリオン光線を繰り出そうとする。

ゼロ「待て！」

ゼロはティガを止める。

ゼロ「シリリーは核エネルギーを持つてる！無暗に光線技を使ったらここら一帯はお

釈迦だぞ！」

ティガ「核を!？」

ティガはシリリーの体内に核エネルギーを持っていることを知り、ゼペリオン光線を放つのをやめる。

サンシャイン「核だつて!？」

ハッピー「え？どうということ？」

ビューティ「核物質はミサイルや爆弾等に使われ、その威力は広島市や長崎市の多くの人達を犠牲にする程の爆発をするのです！」

ハッピー「ええええええええつ!!?」

ビューティはハッピーに核兵器の威力を説明する。

ティガ「くつ！こいつを倒した後、鈍間のカメを一気に倒そうと思っただけ、核物質を持つてたなんて！」

ティガはシラリーを見てそう言う。

シラリーは口から火炎放射を放つ。

ゼロとティガはシラリーの火炎放射を躲す。

コダラーはシラリーの火炎放射を躲したティガを襲う。

ティガはすり抜け様にコダラーの攻撃を躲し、コダラーに蹴りを浴びせる。

さらにティガはコダラーにパンチを繰り出すが、コダラーに受け止められ、投げ飛ばされる。

シラリーはゼロに火炎放射を放つ。

サンシャイン「サンフラワー・イージス！」

サンシャインはサンフラワー・イージスでシラリーの火炎放射を防ぐ。

ビューティ「プリキュア・ビューティブリザード！」

ビューティはシリリーにプリキュア・ビューティブリザードを放つ。

シリリーは凍り付かれたが、即座に破った。

ゼロ「この野郎！」

ゼロはゼロツインソードを構え、シリリーに斬りかかる。

しかし、シリリーは口でゼロツインソードを受け止める。

さらにシリリーは両腕からレーザー光線を放ち、ゼロを吹き飛ばす。

コダラーは立ち上がろうとするティガを蹴り飛ばす。

マリリン「サニー！マーチ！同時攻撃行くよ！」

サニー「よっしゃ！」

マーチ「直球勝負だ！」

マリリン「プリキュア・ブルーフォルテウエイブ！」

サニー「プリキュア・サニーファイヤー！」

マーチ「プリキュア・マーチシュート！」

マリリンはプリキュア・ブルーフォルテウエイブ、サニーはプリキュア・サニーファイヤー、マーチはプリキュア・マーチシュートを放つ。

コダラーは3人の技を受け止め、3つの技を1つにし、そのまま跳ね返した。

ムーンライト「ムーンライト・リフレクション！」

ムーンライトはムーンライト・リフレクションを跳ね返した技を跳ね返した。

コダラーはムーンライトに跳ね返された技をまた跳ね返す。

ロゼッタ「プリキュア・ロゼッタリフレクション！」

その時、ムーンライトの前にロゼッタが現れ、コダラーに跳ね返された技を防御する。

ムーンライト「ロゼッタ！」

ロゼッタ「遅くなりました！」

ロゼッタはそのまま跳ね返す。

コダラーはロゼッタに跳ね返された技を受け止める。

コダラーは少し後退ったが、そのまま跳ね返す。

ルミナス「はあっ！」

ルミナスはバリアを張り、コダラーが跳ね返した技を防ぐ。

今のルミナスはハーティエル・ブローチエを装備されており、防御力が向上している。

ルミナスはコダラーが跳ね返した技を即座に跳ね返した。

コダラーは跳ね返された技を受け止めきれず、ダメージを負う。

ティガはシラリーの首にキックを繰り返す。

シラリーはティガの攻撃に怯み、口に啜っていたゼロツインソードを放す。

ゼロツインソードはゼロスラッガーに戻り、ゼロの頭に戻る。

シラリーは火炎放射を放つ。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

ハッピーはプリキュア・ハッピーシャワーで火炎放射を相殺する。

ブロッサム「プリキュア・フローラルパワー・フォルティシモ！」

ブロッサムはプリキュア・フローラルパワー・フォルティシモでシラリーに体当たりする。

マリン「つてなんであたしがいなくても使えるの!?!」

マリンはブロッサムがマリンとのペアなしでプリキュア・フローラルパワー・フォルティシモを使用したことに驚く。

ブロッサムはシラリーの両腕、両足、両翼、最後に頭部に激突した。

シラリーはフラフラになる。

コダラーはシラリーの元へ駆け寄ろうとする。

ゼロ「おっと！お前の相手は俺だぜ！」

ゼロはストロングコロナゼロにタイプチェンジする。

ゼロ「真理奈！シラリーはお前に任せるぜ！」

ティガ「私が？」

ゼロ「ああ！ダイナからティガの事聞いた。ティガの紫の姿は冷凍光線が使える。そ

いつで奴を凍らせとけ。」

ティガ「ウルトラマンってホントなんでもありね．．．わかった。」

コダラーはゼロに任せ、ティガはシラリーを相手にする。

ティガはマルチタイプからスカイタイプにタイプチェンジし、シラリーにティガフリーザーを放つ。

シラリーは刻々と氷漬けにされる。

ティガはシラリーを持ち上げ、空へと飛びあがる。

ゼロ「へっ！これでためえを地獄に送ってやれるぜ！」

ゼロはコダラーのパンチを躲し、背中から捕らえる。

ゼロ「ウルトラハリケーン！」

ゼロはウルトラハリケーンでコダラーを天高く投げ飛ばし、さらに磔にさせる。

ゼロ「ガルネイトバスター！」

ゼロはガルネイトバスターを放つ。

コダラーはガルネイトバスターを受け止め、そのまま跳ね返す。

ゼロ「それを待つてたぜ！」

ゼロは飛び上がり、足に炎を纏わせ、キックを繰り出す。

跳ね返されたガルネイトバスターを炎を纏った足に蓄積し、コダラーにキックを浴び

せる。

コダラーはゼロのキックに耐えられず、爆散される。

ゼロは地上に着地する。

ゼロ「決まったぜ！」

ゼロは爆散されたコダラーに指を指す。

一方、ティガは核物質を体内に蓄えているシリリーを宇宙に持ち込む。

ティガ「ここなら爆発しても問題ないわね。」

ティガはシリリーを投げ飛ばす。

そして、ティガはランバルト光弾を放ち、シリリーに命中する。

シリリーは氷ごと爆散する。

ティガはシリリーの最期を見届けることなく、地球に戻る。

そして、ティガが地球に戻った後、ゼロ達は変身を解き、気を失ったクリシスをベンチに移動させた。

しばらく経った後、クリシスが目を覚ます。

クリシス「あ、みんな・・・」

真理奈「気が付いたみたいね。」

クリシス「あの怪獣達はどうなったの？」

つぼみ「大丈夫です。シンさんと真理奈さんが倒してくれましたよ。」

真理奈「真理奈でいいって。同じ年でしようが。」

つぼみはクリシスにシラリーとコダラーはゼロとティガが倒したことを伝えた。

クリシス「初めましての子達もいるね。私がシンが話したクリシスだよ。」

クリシスはまだ会っていなかったプリキュア達に自己紹介する。

クリシス「ありがとう、あの時は助けてあげたのに、今度は助けられたね。」

みゆき「当然だよ。クリシスさんにはいつも助けられたんだもん。」

ラブ「そうそう！あたし達は当たり前のことをしただけだよ！」

クリシス「うふふ、当たり前・・・か・・・」

クリシスは笑みを浮かべるが、先程の頭痛が残っていたのか頭を押さえる。

クリシス「うう・・・まだ頭が痛いな・・・」

クリシスはポケットから錠剤が入っていた銀紙を取り出す。

そして、銀紙に入っている錠剤を1錠取り出し、口に放り込む。

れいか「それは？」

クリシス「ただの頭痛薬だよ。私、時々頭が痛くなる時があるんだ。ウルトラマンに変身して戦ってる最中でも頭痛が起きててね。」

シン「さつきみたいにか？」

シンは先程ネクサスがシラリーに光線技放とうとした時、頭を押さえ苦しみ出す光景を思い出す。

クリシス「うん。ずっと前から同じことを繰り返してたよ。」

なぎさ「ずっと前からって病院に診てもらわなくて大丈夫なの!？」

クリシス「うん。もう頭痛が治まったから。じゃあ私、そろそろ行くね!シンも真理奈もみんなもまたね!」

クリシスはシン達に別れを告げる。

くるみ「なんなの、あの人？」

ほのか「なんだか変わった人ね・・・」

シン（クリシス・・・頭痛に耐えながら怪獣と戦うなんて・・・何か理由があるのか？）

シンはクリシスの背中を見て、そう呟く。

しばらく経った後、横浜コスモワールドに来園してきた客達が怪獣達がウルトラマンとプリキュアの活躍によって倒されたことを知り、被害が起きている所もなく遊びに再開することが出来た為、再び横浜コスモワールドで楽しんだ。

シン達も横浜コスモワールドで様々なアトラクションに行つて楽しんだ。

クリシスを追え!

クイーンズスクエア横浜に現れたシラリーとコダラーが現れ、ゼロとティガはプリキュア達の協力により、2体の怪獣を倒した。

その後、横浜コスモワールドで楽しく遊んだ。

次の日、真理奈とまのんは四ツ葉町に来ていた。

まのん「ここってラブさん達クローバーが活動していた町だよね?ラブさん達がダンスの練習をしているとこ見たかった〜!」

真理奈「遊びに来たんじゃないのよ?東に話があるって言われたからここに来ただけ。」

まのん「もう〜!真面目すぎるよ、お姉ちゃん!」

まのんは真理奈の真面目さに不機嫌になる。

真理奈とまのんが言い合っている間、四ツ葉町公園にあるカオルズドーナツカフェに到着した。

カオルズドーナツカフェのテーブルにせつなが座っている。

せつな「真理奈、まのん。こっちよ。」

せつなは真理奈とまのんに手を振る。

真理奈「東。」

まのん「せつなさん、ボンジュール！」

せつな「ふふ、ボンジュール。」

せつなはまのんにフランス語でこんにちわと返した。

まのん「ひかりちゃんから聞きました！4人でダンスユニットを組んでたことを！

私、真琴さんに憧れてアイドルになると決めました！オーデイションに行くことが決

まったらダンスを教えてください！」

まのんはテンション高めでせつなにお願いする。

真理奈「まのん、その話後にしてくれる？東だつてその話を聞くために呼び出したん

じやないのよ？」

まのん「分かつてるけど！」

せつな「まあまあ、そう言わずに。まのん、その時が来たらラブ達と一緒にダンスを

やりましょう。」

まのん「はい！ありがとうございます！」

まのんは嬉しそうにお礼を言う。

真理奈はそのまのんを呆れた表情で見る。

まのんとせつなどの話を終えた後、本題に入った。

ジュエル鉱国で聞いたキュアエレメントとイビロンの事、今まで秘密にしてきた『ディメンジョンゲート』の事を。

せつな「イビロンが蘇ろうとしたのは、怪獣が次々と現れてからね。ラビリンスで調べたけど、その無人島から闇のエネルギを少しずつ放出していたわ。」

まのん「ディアーナの言う通りだね。」

せつなは深刻な顔をして開拓を行われていた妖精の世界の無人島に起ころうとしたことを言い出す。

真理奈「まのんにこの話を聞いた時、信じられなかったね。」

せつな「それで、真理奈と真奈美博士達にこの事を話したの?」

まのん「はい。ディアーナはこの事は2人だけの秘密にしてって言ったけど、そうは言ってられないって。危ないと思ったから打ち明けたんです。」

まのんはディアーナに言われたことを言い出す。

真理奈「私は最初は断ったのよ? 『ディメンジョンゲート』の存在を世間に知られたら悪用される恐れがあるからって。でも母さんがき、打ち明ける相手がプリキュアなら大丈夫だって。もし悪用する人が来たとしても何度も止めてみせるからって言われてね。」

真理奈はシンからの誘いを受けた後、まのんからディアーナの話聞き、『デイメンジョンゲート』の事を打ち明けるように言われた時断つたが、真奈美にプリキュア達に打ち明けろと言われた。

真理奈は多少抵抗があつたが、真奈美の言う通り、プリキュア達に打ち明けることにした。

真理奈「全く、母さんは科学者なのに根拠のない言い方して・・・まあ、でも私もなんだかんだ言いながら、その根拠のない事を信じたくなつたのよね。・・・と話逸らしたわね。とにかく、万が一妖精の世界に怪獣が現れることを考えて、素直に教えた方が賢明かな。」

まのん「うんうん。おっしゃる通りで。分かっていらつしやる。」

真理奈「調子に乗るな。」

真理奈はまのんにデコピンする。

せつな「決まりね。」

真理奈（あの生命体の事はモロボシのお兄さんの知り合いの・・・高山のお兄さんだっけ？『プロノン・カラモス』に寄つたワケだからすでに調べてるはずだよね？だつたら例の生命体の事を含めて教えた方がいいかな・・・）

真理奈はパリ上空に現れた謎の生命体の映像を思い出し、『デイメンジョンゲート』の

事も一緒に教えるつもりである。

しばらくして、真理奈とまのんはせつなどの話を終えた後、小泉学園に戻った。

まのん「あくあ、ダンスを教えてもらいたかったな・・・」

真理奈「教えてもらうのは別に構わないけど、その前に宿題あるでしょうが？あとは読書感想文と自由研究でしょ？今の内に仕上げた方が得策なのよ。」

まのん「ム・・・お姉ちゃんのケチ。」

真理奈「ケチって何だい。こっちは全部仕上げたのに、やろうとしないのが悪いんでしょうが。」

真理奈とまのんは小さい喧嘩をし始めた。

その時、2人はシンを見つける。

真理奈「モロボシのお兄さん？」

シン「おお、真理奈、まのん。」

真理奈に声をかけられたシンは手を振って挨拶する。

真理奈「どうしたの、こんなところに？仕事はどうしたの？」

シン「今日はオフになった。マナのレストランも定休日休みを入ってる。いつ怪獣が現れるか分からねえからブラブラとな。」

まのん「お姉ちゃんが言ってた現象の事ですね？」

シン「ああ。」

シンは真理奈とまのんに小泉学園にいた理由を言う。

真理奈「何も起こらなかつたらいいんだけどな・・・なんて、そんな都合よく行くわけがないよね・・・」

真理奈は溜息を吐きながら呟く。

？「あ、真理奈！」

真理奈は振り向くとなぎさとほのかとひかりがいた。

真理奈「美墨、雪城、九条。」

なぎさ「あんたを探してたのよ。」

真理奈「私？」

ほのか「うん。この前話した『ディメンジョンゲート』のこと、咲さん達にも教えようと思ってたの。今は私達の世界のあちこちで怪物が現れてるでしょう？妖精の世界にも現れる可能性もあるし、せめて咲さん達にも知っておいた方がいいと思ってるの。」
ほのかは『ディメンジョンゲート』について他のプリキュアにも教えた方がいいと真理奈に言い出す。

真理奈「うん。私もそうしようって話したの。実は今日、東にその話を持ち出したのよ。」

なぎさ「東？」

まのん「もう、お姉ちゃん。名字じゃ誰だか分かんないからせつなさんって言ってよ。」

なぎさ「ああ。せつなの事か。」

真理奈「だからそういう間柄じゃないって。とにかく近い内に話すつもりよ。」

真理奈はほのかの言う通り他のプリキュアに『デイメンジョンゲート』の事を話すことにした。

なぎさ「よっし！認めたも同然！」

なぎさはガッツポーズをとる。

ひかり「あら？あそこにいるのはクリシスさんじゃないですか？」

ひかりはクリシスを見つける。

真理奈「どこへ行く気なの？」

シン「後をつけてみようぜ。」

シン達はクリシスの後を追う。

クリシスに気付かれずに隠れてついていく。

なぎさ「まさか尾行することになるなんてね。」

真理奈「でも、これでクリシスのお姉さんの秘密が明らかになりそうだね。」

真理奈はクリシスに気付かれずに小さい声で言い出す。

咲「なにしてるの？」

真理奈達は後ろから声をかけられて驚く。

振り向くと咲と舞がいた。

なぎさ「咲と舞か・・・」

真理奈「静かにしてよ。クリシスのお姉さんに気付かれるでしょ？」

真理奈はぐったりした表情で言い出す。

舞「クリシスさん？」

シン「ああ。この前は後ろとられたからな。今度はこつちの番だぜ。」

まのん「クリシスさんは何者なのか気になったから尾行することになってるんです。」

咲「そうなんだ。」

真理奈「あ、バス停に止まった。」

真理奈はクリシスがバス停に立っている所を目撃する。

クリシス「ん？」

クリシスは何かに気付き、振り向くが、誰もいなかった。

クリシス「フフッ。」

クリシスは笑みを浮かび、バスが来るのを待っている。

真理奈「危ねえ、気付かれたかと思った……いきなり声をかけるからでしょうが……」
真理奈は溜息を吐きながら言い出す。

その時、バスが到着し、クリシスはバスに乗り込む。

シン「よし、俺達も行くぞ。」

シン達はクリシスが乗っていたバスに乗り込む。

その時にクリシスを発見したが、そのクリシスはアイマスクを装着して眠っていた。
そして30分後、バスが止まり、ドアを開く。

クリシスは運賃を払い、バスから降りる。

シン達も運賃を払い、クリシスの後を追う。

シン達が降りたのはホビーショップやアニメショップが建ち並ぶ街並みである。

真理奈「ここって……秋葉原だよね……?」

ほのか「どうやらそうみたい……」

なぎさ「クリシスさん、ここで何をやってるの……?」

なぎさ達は今いる場所が秋葉原だと分かり、苦笑いしたり、呆れた表情をしたりする。

真理奈「ま、まあ、ついていけば分かるか……」

シン達はクリシスを見失わないように隠れてついていく。

しばらく経った後、シン達はクリシスが店の前に立ち止まるのを見る。

クリシス「はい！着きましたよー！」

クリシスは突然声を上げる。

シン達は突然の事を驚く。

クリシス「シン、皆さん。隠れなくても大丈夫だよ！」

真理奈「ええっ!？」

なぎさ「き、気付いてたの!？」

クリシス「うん。バス停で到着時間を調べた時すでにね。」

クリシスは小泉学園のバス停で到着時間を調べた時、すでにシン達の存在に気付いたのだ。

真理奈達はとつくに気付いたことに驚く。

シン「ここで何をしてるんだ？」

クリシス「遊びだよ。秋葉原って楽しそうじゃない？だからここで楽しもうって思ってたんだ。」

咲「やよいがここにいたら絶対興奮するナリ・・・」

クリシス「そうだ！せっかくだから一緒にこの店に入ろう！」

クリシスはほのかと舞の手を引つ張り、店の中に入る。

ほのか「きゃあっ!？ちよ、ちよつとクリシスさん!？」

舞「わわっ！そ、そんなに引っ張らないでください！」

ほのかと舞はクリシスに連れて行かれる。

真理奈「モロボシのお兄さん、あとの事、お願いしていい？私、なんだか疲れちゃった・・・」

シン「おう、任せろ。」

まのん「お姉ちゃん、付いてってあげるよ。」

ひかり「私もよろしいですか？」

真理奈「ありがとう、まのん、九条。」

真理奈はまのんとひかりと一緒に先程のバス停付近に向かう。

シンとなぎさと咲は店の中に入った。

舌で切り裂く怪獣

真理奈とひかりとまのんはシン達を別れた後、バス停付近に留まった。

真理奈「はぁ・・・クリシスのお姉さんは何者なのか突き止めるつもりが、こんなことになるなんてね・・・」

真理奈はベンチに座って頭を抱えて溜息を吐く。

ひかり「大丈夫ですか、真理奈さん？」

真理奈「ええ。あんた達はいい判断してるわ・・・」

まのん「お姉ちゃん、いいの？シンさん達より先にバス停に来て・・・」

真理奈「先に帰るわけじゃないから・・・」

真理奈は疲れた顔でまのんの問いに答える。

真理奈「モロボシのお兄さん、こういうの初めてだからお兄さんの精神持つか心配してるの事実よ？クリシスのお姉さん、一体全体何考えてるのか・・・」

真理奈は再び溜息を吐く。

その時、まのんから腹の虫が鳴る。

まのん「あ、あははは・・・お腹空いちやった・・・」

ひかり「もう・・・まのんったら・・・」

真理奈「まのん、あんたねえ・・・」

真理奈とひかりはまのんの腹の虫を聞いて緊張感がなくなる。

真理奈「まあ、もう昼だしね。考えても仕方ないし、どっかレストランを寄るか。」

真理奈達は近くのレストランに寄ることにした。

その頃、シン達はクリシスが立ち寄った店の中に入った。

その中にはゲームキャラクターやアニメキャラクターの衣装や、グッズなどが置かれていた。

なぎさ「うわあ、私1人だったら来れないよ・・・」

咲「店員さんもすごい衣装ナリ・・・」

シン達は店の中を見て嘖然とした。

クリシス「あ、3人とも！こっちだよー！」

クリシスはシン達を見つけ、手招きをする。

シン達はクリシスの元に駆け寄る。

シン「クリシス、ここは何なんだ？」

クリシス「いろんなゲームキャラクターやアニメキャラクターのコスプレがレンタルしているショップだよ。秋葉原に来ている人達はここで着替えて、街中に歩き回るんだ。今、ほのかと舞は試着室で着替えてるよ。」

クリシスはシン達に今いる店を紹介し、ほのかの舞は試着室で着替えをしていることを伝える。

なぎさ「真理奈じゃなくても嫌な予感がしてきたよ・・・」

咲「うん・・・」

なぎさと咲はひそひそと話す。

クリシス「そろそろ着替え終わる頃かな？お二人さくらん、着替え終わってた？」

クリシスは試着室の中にいるほのかと舞を呼びかける。

ほのか「た、確かに着替え終わりましたけど・・・（／／／／／）」

舞「ほ、本当に見せるつもりなんですか？（／／／／／）」

ほのかと舞は恥ずかしそうな声でクリシスに聞く。

クリシス「モチのロンだよ。すでに着替えたんなら尚更だよ。それにシン達も二人の今の格好はどんな衣装なのか気になってるわけだし。」

クリシスは試着室にいるほのかと舞にそう言う。

クリシス「3人共もほのかと舞は何を着てるのか気になるでしょう?」

シン「まあ・・・そうだな。」

シンはクリシスの問いに答える。

なぎさと咲も反応は薄いですが、頷く。

クリシス「ほのか、舞、聞こえた? 気になるだつて。」

ほのか「ううゝ・・・(//////)」

舞「あう・・・(//////)」

ほのかと舞はクリシスからシン達の意見を代弁する口振りを聞いて、恥ずかしがる。

舞「わ、わかりました・・・(//////)」

ほのか「お、お願いします・・・(//////)」

ほのかと舞は観念してクリシスの言う通りにする。

クリシス「オツケー! それではご覧ください! カーテンオープン!」

クリシスは試着室のカーテンを開ける。

シン「おお・・・!」

なぎさ、咲「うわあ・・・!」

シン達はほのかと舞の格好を見て驚く。

ほのかはファイナルファンタジーX-2のユウナの歌姫姿のコスプレを着ている。

一方、舞はファイナルファンタジーⅣのリディアのコスプレを着ている。

クリシス「はい！今も人気のファイナルファンタジーの二大キャラのコラボです
！」

クリシスは楽しそうに言い出す。

クリシス「ほのかの衣装はファイナルファンタジーⅩ―2のヒロイン、ユウナがドレスファイアの手でジョブチェンジした歌姫のコスプレにしました。そして舞の衣装はファイナルファンタジーⅣの召喚士リディアのコスプレに仕立て上げました」

クリシスはほのかと舞の衣装を紹介する。

シン「いや、そう言われても俺には分かんねえぞ？」

クリシス「ああ、そっか。シンは元々宇宙人だから知らないのも無理ないか。あとで教えてあげるね。それと怪獣退治するのはいいけど、プライベートでゲームをやったり、このようにお友達と一緒にシヨッピングに付き合ったりしているんな楽しみを体験するのもいいよ。」

シン「あ、ああ・・・」

クリシスはシンにそう言う。

クリシス「それで？どう？2人の衣装を見て。」

シン「ああ。ほのかはプリキュアの姿と一緒に戦った時、白ってイメージしかなかった

たが、その格好もいいな。多分真琴も羨ましがると思う。成績がいい分歌姫の姿がよくまとまってるな。それに紫の上着に黒のスカートのはのかって新鮮な感じがするな。」

ほのか「あうううう・・・ま、ますます恥ずかしいよ・・・（／＼／＼／＼）」

ほのかはシンに感想を言われ、顔が真っ赤になる。

クリシス「舞の方は？」

シン「舞はほのかと違って露出が多いが、妖精ってイメージがあるな。舞のプリキュアの姿は鳥をイメージしてるが、この格好もいいな。緑の衣装も似合ってるし、明るさが際立ってるな。」

舞「し、シンさん、そんな風に言われると・・・は、恥ずかしいです・・・（／＼／＼／＼）」
舞もシンに感想を言われて顔が真っ赤になる。

なぎさ「ていうかシンさん、なにほのか達の格好を見て真面目に感想述べてるんですか!？」

シン「いやいやいや、待てよなぎさ! なんにもやましいことなんか考えてねえからな!？」
（／＼／＼／＼）」

シンは少し顔が赤くなり、なぎさに反発する。

クリシス「ふくん? ウルトラマンと言えどもやっぱり男なんだね?」

シン「へっ!？」

クリシス「このコスプレ以外にもいろんなものが置いてあるからゆっくり眺めてるといいよ。リクエストがあれば着せ替えさせてあげる。」

シン「え、えーつと・・・」

シンはクリシスに対し、今の話を脱却する方法を考える。

ほのか「し、シンさん！変な想像しないでください！（／／／／／）」

シン「へっ?!し、してねえって！」

シンはほのかに誤解を疑われ、必死に否定する。

舞「嘘！じゃあ、なんでそんなに顔が赤くなってるんですか!？」

舞はシンに詰め寄る。

シン「お、落ち着けて！その格好で詰め寄るな！」

ほのか、舞「あっ・・・！」

ほのか「も、もう！いじわる！着替えてきます！（／／／／／）」

舞「わ、私も着替えてきます！（／／／／／）」

シン「俺のせいだよ!？」

ほのかと舞は足早に試着室に入る。

シンは精神的に疲れたのか、大きい溜息を吐く。

なぎさと咲はそんなシンを見て苦笑いする。

が5体飛来した。

その怪獣の名は宇宙斬鉄怪獣デイノゾール。

高次元捕食体ボガールにより呼び寄せられた宇宙怪獣である。

人の目には見えない舌であらゆる物を切断する。

ほのか「怪獣！」

シン「デイノゾールか！行くぞ！」

シンはウルテイメイトブレスレットからウルトラゼロアイを出し、目に装着する。

クリシスもエボルトラスターを引き抜き、頭上に掲げる。

シンとクリシスは光に包まれ、ウルトラマンゼロとウルトラマンネクサスに変身する。

ゼロとネクサスはデイノゾールを追って飛翔する。

なぎさ「私達も行くよ！」

ほのか達「うん！」

メツプル「みんな！」

フラツピ「変身するラピ！」

メツプルとミツプルはハートフルコミュニケーションに、フラツピとチョツピはクリスタルコ

ミューンになる。

なぎさ達は変身アイテムを手にする。

なぎさ、ほのか「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」

咲、舞「デュアル・スピリチュアル・パワー！」

なぎさとほのかはキュアブラックとキュアホワイトに変身し、咲と舞はキュアブルームとキュアイーグレットに変身する。

ブラック「光の使者、キュアブラック！」

ホワイト「光の使者、キュアホワイト！」

ブラック、ホワイト「ふたりはプリキュア！」

ホワイト「闇の力のしもべ達よ！」

ブラック「とつととお家に帰りなさい！」

ブルーム「花開け大地に！」

イーグレット「羽ばたけ空に！」

ブルーム「輝く金の花！キュアブルーム！」

イーグレット「煌く銀の翼！キュアイーグレット！」

ブルーム、イーグレット「ふたりはプリキュア！」

イーグレット「聖なる泉を汚す者よ！」

ブルーム「アコギな真似はお止めなさい！」

ブラックは変身を終えた後、ゼロとネクサスの後を追う。

ブラック「ひかりと真理奈もすぐに来るはず！私達であいつらを倒そう！」

ホワイト達「うん！」

ブラック達は急いでディノゾールの元へ急ぐ。

復活の宇宙斬鉄怪獣

真理奈とひかりとまのんはデイノゾールの出現により、レストランから出る。

真理奈「全く、お兄さん達が心配になってきたところで怪獣出てこないでよ！」

ひかり「それより、あの怪獣達を何とかしないと！」

真理奈「そうしたいけど街の人達が！」

真理奈はティガに変身しようとするが、周りには逃げ遅れた人達に囲まれている。

2体のデイノゾールは口を開き、断層スクープティザーをしようとする。

その時、2体のデイノゾールの真上から2つの刃が飛翔し、デイノゾールの首を切断する。

2つの刃は急上昇する。

そして上空からゼロとネクサスが舞い降りる。

ネクサスの手の上にブラック、ホワイト、ブルーム、イーグレットが乗っている。

ゼロ「まずは2体やっただぜ。」

ネクサス「みんな、メタフィールドを張るよ。準備はいい？」

ブラック「ええ！」

ネクサスはブラック達を下ろす。

ひかり「ブラック！ホワイト！」

真理奈「ブルーム！イーグレット！」

ネクサスはアームドネクサスをエナジーコアに掲げる。

よつてネクサスはジュネツスビオレにタイプチェンジする。

そしてネクサスはフェーズシフトウエーブを放ち、首を失った2体のデイノゾールを含めて5体のデイノゾールとゼロ達をメタフィールドに入っていく。

まのん「あっ！消えちゃった！」

真理奈（あの時の空間に入ったの？）

真理奈は大貝町で展開したメタフィールドを思い出す。

そのメタフィールドの内部ではゼロとネクサスとブラック達は3体のデイノゾールの断層スクープテイザーを避ける。

ネクサスは飛び上がり、パーティクルフェザーを放つ。

ネクサスの技はデイノゾールの頭部に命中する。

デインゾールはネクサスの技に怯む。

デインゾールはゼロに断層スクープテイザーで切りかかる。

ゼロは断層スクープテイザーを掴み、引きちぎる。

デインゾールは舌が引きちぎられ、痛がる。

ゼロ「そんなもん、止まって見えるぜ！」

ゼロはデインゾールに向かって、飛び蹴りを食らわせる。

デインゾールはゼロの蹴りで後退る。

ブラック、ブルーム「どおおりやあああああつ!!!」

ブラックとブルームはデインゾールの腹にパンチのラッシュを繰り返す。

デインゾールは後退る。

ホワイト、イーグレット「やあああああつ!!!」

ホワイトとイーグレットはデインゾールの頭に蹴りを入れる。

デインゾールはホワイトとイーグレットの攻撃に怯む。

ブラック達がデインゾールを相手にしている所を他所にゼロによって首が切断され

た2体のデインゾールが逆立ちし、2つの頭が現れる。

ゼロに倒されたデインゾールが宇宙斬鉄怪獣デインゾールリバーズとして生き返った。

デインゾールリバーはG U Y Sの活躍により倒されたデインゾールが体の極性を反転させて復活を遂げた怪獣である。

ウインダムやG U Y Sの攻撃を防ぎ、メビウスを追い詰めたことがある。

デインゾールリバーは断層スクープテイザーを使い、ホワイトとイーグレットの足を切った。

ホワイト「あああああああつ!!!」

イーグレット「キヤアアアアアアアアアアツ!!!」

ホワイトとイーグレットは足を切られ、地面に倒れる。

ブラック「ホワイト!」

ブルーム「イーグレット!」

ブラックとブルームはホワイトとイーグレットの元に駆け付ける。

ゼロ「なに!?!」

ネクサス「もしかしてさっき倒した怪獣!?!」

ゼロとネクサスはデインゾールリバーの存在に驚く。

ブルーム「生き返ったの!?!」

ブラック「ありえない!」

ミッブル「ホワイト!大丈夫ミポ!?!」

チョッピ「イーグレット！」

ホワイト「くうっ……ううっ……」

イーグレット「あ……足が……」

ホワイトとイーグレットは足を押さえる。

ゼロ「ちっ！これがメビウスが言ってたデイノゾールの特性か！」

ゼロはデイノゾールの断層スクープテイザーを回避する。

その頃……

ひかり「真理奈さん、ブラック達の元へ急ぎましょう！」

真理奈「そんなこと言っただって今のゼロ達は全くの異空間の中よ？いくら私でもそこへは行けないわよ。せめてくるるがいればな……あいつのレポートである中に行けるんだけど……」

ひかりはブラック達の元へ行こうと真理奈に言うが、今いる場所とメタフィールドは別空間、どうやってメタフィールドに入るか悩む。

？「君が真理奈ちゃんだね？」

真理奈は誰かに声をかけられ、振り向くと大空大地とアスカ・シンと春野ムサシがいた。

ひかり「アスカさん！ムサシさん！大地さん！」

真理奈「あんた達は？」

真理奈は大地たちとは初対面の為、知らない。

大地「初めて会ったね？俺は大空大地。彼はエックス。」

エックス「真理奈。君の事はゼロから聞いた。」

大地のデバイザーからエックスの声が発声する。

真理奈「うわあっ!?喋った!？」

大地「あ、彼は自分の意志でデバイザーの中に入っていただけで、デバイザー自体が喋ってるわけじゃないんだ。」

大地からエックスの事を聞いた真理奈は（ウルトラマンってホントなんでもありね・・・）と眩く。

ムサシ「僕は春野ムサシ。ゼロと一緒に戦ったんだ。」

アスカ「俺はアスカ・シン。ゼロには世話になったようだな？」

ひかり「あなた達は確かトランプ共和国に行ったのでは？それに礼堂さんは？」

ムサシ「今日トランプ共和国でウルトラマンタロウとゾフィーが来て、ヒカルと一緒に

に残ることにしたんだ。それと、僕たちがここに来たのはゼロから聞いた真理奈ちゃんのスパークレンスの事でここに来たんだ。」

ムサシはひかりと真理奈にトランプ共和国から秋葉原に来た理由を言う。

真理奈「これを？」

真理奈はスパークレンスを取り出し、ムサシに聞く。

エックス「ああ、それについて話をしようと思ったが、どうやらそうは言っていないみたいだ。」

大地「状況は分かった。今からメタフィールドの中に行こう。」

真理奈「行こうって方法あるの!？」

真理奈は大地にそう尋ねる。

大地は頷く。

大地「エックス！」

エックス「よし、ユナイトだ！」

大地はエクステバイザーの上部のスイッチを押すと、側面パーツがX字に展開する。

そしてウルトラマンエックスのスパークドールズが現れ、エクステバイザーのリードし、「ウルトラマンエックスと、ユナイトします。」のアナウンスを発する。

大地「エックス！」

アナウンス「エックス、ユナイテッド。」

大地はエクスデバイザーを掲げる。

よって大地はエックスとユナイトする。

真理奈「あれがエックス？」

エックス「大地、どうやらあれの出番みたいだな。」

大地「ああ。」

大地はウルティメイトゼロのカードをエクスデバイザーにセットする。

アナウンス「ウルティメイトゼロ、ロードします。」

エックスはゼロのウルティメイトイージスを装着する。

アナウンス「ウルティメイトゼロ、アーマー、アクティブ。」

真理奈、ひかり「ええええええええええつ!!？」

真理奈とひかりはエックスがウルティメイトイージスを装備したことに驚きを隠せなかった。

アスカ「ゼロから聞いたけどホントびつくりするな・・・」

エックス「さあ行こう。準備はいいか？」

アスカはリーフラッシュャーを、ムサシはコスモブラックを取り出す。

真理奈とひかりも変身アイテムを取り出す。

アスカ「ダイナアアアアアツ!!」

ムサシ「コスモオオオオオス!!」

アスカとムサシは変身アイテムを頭上に掲げる。

よってアスカとムサシは光に包まれた後、ウルトラマンダイナとウルトラマンコスモスに変身する。

真理奈もスパークレンスを掲げ、光に包まれた後、ウルトラマンティガに変身する。

ひかりはタツチコミュニケーションに手を翳す。

ひかり「ルミナス・シャイニング・ストリーム!」

ひかりはシャイニールルミナスに変身する。

ルミナス「輝く生命! シャイニールルミナス! 光の心と光の意志、総てをひとつにするために!」

ティガはルミナスの前に手を置く。

ルミナスはティガの手の上に乗る。

大地「みんな、行きますよ!」

エックスはウルティメイティージェスの力で空間に穴をあけ、そこからダイナ、コスモス、ティガとルミナスと一緒に入っていく。

一方、ブラック達はデイノゾールの融合ハイドロプロパルサーの弾幕から逃れる。

ネックスはデイノゾール2体を相手にし、ゼロは2体のデイノゾールリバースを相手にしている。

ゼロ「チイツ！邪魔すんじやねえ！」

ゼロはデイノゾールリバースの断層スクープテイザーに苦戦する。

ブラック達はデイノゾールに追い詰められる。

その時、ブラック達の背後から時空の穴が現れ、そこからダイナ、コスモス、ティガとルミナスが現れ、最後にウルティメイトイージスを装備したエックスが現れる。

ゼロ「それ俺の・・・」

エックスはウルティメイトゼロソードでブラック達を追い詰めたデイノゾールを切り裂く。

デイノゾールはエックスに斬られ、爆散される。

イーダレット「エックス！ダイナ！コスモス！」

ホワイト「ルミナス！ティガ！」

ブラック「つてエックス！ゼロと同じ物を着てる!?ありえなくい！」

ブラックはウルティメイトイージスを装備したエックスを見て驚く。

エックス「これがないとメタフィールドに入れないんでね。」

エックスはブラックにそう言う。

ルミナス「皆さん！」

ルミナスはブラック達の元に駆け付ける。

ルミナス「ホワイト！イীগレット！その傷！」

ホワイト「くっ……大丈夫よ。」

ティガはホワイトとイীগレットの足の傷を見て、ネクサスが相手をしている2体のデイノゾールとゼロが相手をしているデイノゾールリバーバスにらみつける。

ティガ「よくも2人を傷つけたわね？タダじゃ置かないわよ？」

ティガは4体の怪獣に対し、構える。

ダイナ「デイノゾールは俺とコスモスに任せろ。」

コスモス「真理奈と大地はゼロとネクサスと一緒に。」

ティガ「分かったわ。」

大地「はい！」

ダイナ達も身構える。

ゼロ「お前らも来てくれるとはな。クリシス！」

ネクサス「オツケー！聞いた通りだよ！」

ゼロとネクサスも身構える。

ダイナとコスモスはディノゾールを、ゼロとティガとネクサスとエックスはディノゾールリバーズを相手にする。

VSディノゾールリバーズ&ディノゾール

2体のディノゾールは断層スクープテイザーでダイナとコスモスを斬りかかる。

ダイナとコスモスは断層スクープテイザーを躲す。

ダイナは2体のディノゾールの舌を掴み、引きちぎる。

2体のディノゾールは後退るが、即座に融合ハイドロプロパルサーを放つ。

ダイナはフラッシュサイクラーで前段撃ち落とす。

コスモスはマストアーム・プロテクターでディノゾールの砲撃を弾き飛ばす。

ダイナとコスモスは2体のディノゾールに向かって走り出す。

ダイナはディノゾールの頭部に蹴りを入れる。

そして、ダイナはディノゾールを放り投げる。

コスモスはディノゾールを押し進む。

ディノゾールはコスモスに殴りかかるが、コスモスはバック転で避ける。

ディノゾールはコスモスを襲い掛かるが、コスモスはジャンプしてディノゾールの背

後に回る。

ダイナ「まだまだ！」

コスモス「いくよ！ダイナ！」

一方、ティガとネクサスはデイノゾールリバースの断層スクープテイザーを躲す。

しかし、躲していく内にデイノゾールリバースの断層スクープテイザーがティガを巻き付く。

ネクサスはソードレイ・シュトロームでデイノゾールリバースの舌を斬る。

デイノゾールリバースは自分の舌をネクサスに斬られて怯む。

ティガは巻き付かれた舌を投げ捨てる。

ネクサス「大丈夫？」

ティガ「当たり前よ！」

ティガとネクサスは走り出し、デイノゾールリバースの腹部に蹴りを入れる。

デイノゾールリバースはティガとネクサスに噛みつきこうとする。

しかし、ティガとネクサスはデイノゾールリバースの噛みつきを受け止める。

ティガは自分が掴んだデイノゾールリバースの首で、ネクサスが掴んだもう一つの首に噛みつかせる。

デイノゾールリバースの2つの首は互いに噛みつき合う。

ネクサス「うわあ、味方に噛みつかれたら喧嘩しちゃったよ。」

ティガ「くっつからない喧嘩ね・・・でもチャンスよ。」

そして、ゼロとエックスを相手にしているもう一体のディノゾールリバーズは断層スクープテイザーで斬りかかる。

ゼロはルナミラクルゼロにタイプチェンジする。

ゼロは光の速さでディノゾールリバーズに接近する。

ゼロ「レボリウムスマッシュ！」

ゼロはレボリウムスマッシュでディノゾールリバーズを吹き飛ばす。

ディノゾールリバーズは遠くまで吹き飛ばされ、倒れる。

大地はサイバーゴモラのカードをエクスデバイザーにセットする。

アナウンス「サイバーゴモラ、ロードします。」

エックスは水色の鎧を纏い、Gと刻まれた両腕の爪の付いたプロテクターを装備する。

アナウンス「サイバーゴモラ、アーマー、アクティブ。」

大地「ゴモラ振動波！」

エックスは両腕のプロテクターを地面に指し、爪先から衝撃波を放つ。

ディノゾールリバーズに向かって地面が爆発する。

ディノゾールリバーズは爆発による衝撃で怯む。

ゼロ「どうだ！」

ゼロは元の姿に戻り、口を拭う素振りを見せる。

デイノゾールリバーはゼロとエックスに背中を見せる。

すると、デイノゾールリバーの背中から融合ハイドロプロパルサーが放たれる。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブルーム、イーグレット「プリキュア・ツイン・ストリーム・スプラッシュ！」

ブラック達はそれぞれの合体技で融合ハイドロプロパルサーを撃ち落とし、そのままデイノゾールリバーに命中させる。

デイノゾールリバーは2組の合体技によってよろめく。

ゼロ「ホワイト！イーグレット！無茶しやがって！」

ホワイト「すみません。でも黙っていられなくて。」

ゼロ「助けてくれるのは構わねえが、無茶はすんなよ？」

デイノゾールリバーはゼロとエックスを襲い掛かる。

一方、ダイナとコスモスが相手をしている2体のデイノゾールは融合ハイドロプロパルサーを放つ。

ダイナとコスモスはバリアーを張り、デイノゾールの攻撃を防ぐ。

ルミナス「ルミナス・ハーティエル・アंकション！」

ルミナスはルミナス・ハーティエル・アंकションで2体のデイノゾールの動きを止

める。

ルミナス「今です！」

ダイナ「おう！」

ダイナはディノゾールにソルジェント光線を放つ。

ディノゾールはダイナの光線により爆散される。

コスモス「ごめん！」

コスモスはディノゾールに謝り、ムーンライトスマッシュを放つ。

ディノゾールはコスモスの光線により爆散される。

その後、コスモスは爆散されたディノゾールから目を逸らす。

ティガとネクサスはバック転でディノゾールリバーズに接近し、腹部に蹴りを入れる。

ディノゾールリバーズはティガとネクサスのダブルキックにより大ダメージを与える。

ネクサス「真理奈、いくよ！」

ティガ「ええ！」

ティガはゼペリオン光線を、ネクサスはオーバーレイ・シウトロームを放つ。

2人の光線技を受けたディノゾールリバーズは後ろに倒れ、爆散される。

ゼロとエックスはディノゾールリバースの首を掴み、背負い投げの要領で投げ飛ばす。

ゼロ「そろそろ決めるぜ！」

エックス「ああ！」

ゼロ「ワイドゼロシヨット！」

エックス、大地「ザナディウム光線！」

ゼロはワイドゼロシヨットをエックスはザナディウム光線を放つ。

2人の光線がディノゾールリバースに命中し、爆散する。

その後、メタフィールドが消えていった。

ディノゾールとディノゾールリバースの戦いが終わった後、ゼロ達は変身を解除した。

シン達はほのかと舞の元に向かう。

シン「ほのか！舞！」

真理奈はほのかと舞の足の傷を見る。

真理奈「ひどい傷ね・・・！待ってて、今救急車を呼ぶから！」

真理奈はポケットからスマホを取り出す。

シン「必要ねえ！」

真理奈「はあっ!？」

シン「俺に任せろ！」

真理奈「任せろってどうやって!？」

シンはウルティメイトブレスレットに手を翳す。

すると、星屑の光がちらつかせ、ウルティメイトブレスレットが嵌めた手を前に出す。

星屑の光がほのかと舞の足に浴びせ、2人の傷が見る見るうちに治っていった。

なぎさ「傷口が塞いでる！」

ほのか「すごい、痛みがなくなった！」

真理奈「人間の姿でもできんの!？」

真理奈はシンがほのかと舞の傷を治したところを見て驚く。

クリシス「そうみたいだね。でも、その傷が原因で2人がプリキュアだってバレること

とがなくてよかったじゃん。」

真理奈はクリシスにそう言われ、何も言い返さなかった。

ディノゾールリバーズとディノゾールを倒し、町の被害もなく、賑やかに楽しむ町の人達。

クリシスはシン達と昼食を摂った後、他の店に回ることにしたが、真理奈はまのんとひかりと一緒にアスカ達からスパークレンスの事を聞くことにした。

真理奈達はクリシスと一緒にいったシン達を見送る。

真理奈「ふう・・・お兄さん達が来てくれたおかげで面倒なことに巻き込まれずに済んだわ・・・」

大地「? どういうこと？」

真理奈「ああ、気にしないで。それより、さつき言ってたこいつのことだけど、何か知ってるの？」

真理奈はムサシが言ってたスパークレンスの事を聞く。

ムサシ「うん。トランプ共和国でジヨナサン・クロンダイク大統領からこのアイテムの事を聞いたんだ。大統領の話だと、スパークレンスは1万年前のプリキュアが持っていた三種の神器と同じ秘宝だったんだ。」

真理奈「えっ?! じゃあ、これは元々トランプ王国の?」

真理奈はムサシの話を聞いて驚く。

ムサシ「正確にはトランプ王国とは別の場所で。1万年前、キュアエンプレス達が活躍していた同じ時代で、このスパークレンスともう2つの秘宝の力で、地上を支配しようとしていたんだ。」

真理奈「なんですって・・・?」

ムサシ「あらゆる獣を操る杖・モンスターズルーラー。周囲の聖なる力を吸収する球・

イヴイルアイ。そして、闇の巨人へと姿を変える石器・スパークレンス。その3つの秘宝で支配しようとしていたんだ。」

真理奈はムサシの話を聞いて、信じられないと言いたげな表情をする。

ひかり「でも、私達は今までティガが怪獣達と戦っていたことを何度も見てきました。」

ポルン「そうポポ。ティガには怖い力を感じなかったポポ。」

ひかりとポルンはティガのこれまでの戦いを振り返る。

まのん「お姉ちゃん。1万年前のティガのように支配しようなんてしないよね？絶対しないよね？」

まのんは真理奈に詰め寄る。

真理奈「そんなの当たり前じゃない！私だって好きでウルトラマンの力を手に入れたわけじゃないから！私は私！モロボシのお兄さんとクリスのお姉さん、それに春野のお兄さん達とは違うよ！」

真理奈はまのんにそう言い返す。

アスカ「それでいいんじゃないか？」

真理奈「えっ？」

アスカ「君と同じようにティガに変身して巨大な闇を打ち払った後、人間として生き

てきた人がいる。その人は言ったんだ。人としてできること、それは自分自身で決めるしかないんだと。」

真理奈「人としてできること・・・」

真理奈はアスカが言った言葉に俯く。

真理奈「覚えとくよ。今後の為にもね。」

真理奈はアスカの言葉を覚えておくと伝える。

しばらく経った後、シン達に戻ってきたが、皆疲れ切った表情を窺わせる。

真理奈達は何があったのか気になってはいたものの、あえて聞かないことにした。

クリシスはシン達と店を回り終えた後、すでにどこかへ行つたようだ。

真理奈達はバスに乗り、家に帰った。

ちなみにアスカとムサシはシン達と一緒に戦うことにし、大地は我夢の手伝いをする
ことになった。

同刻、アメリカで爆音が鳴り響く。

カウガールの衣装を纏うプリキュアが聖騎士のような衣装を纏う銀髪のプリキュア

と戦っている。

カウガールのプリキュアはボンバーガールズプリキュアと呼び、アメリカで幻影帝国と戦ってきたプリキュアチームである。

そのプリキュア達が聖騎士のプリキュアに追い詰められている。

？「ボンバーガールズプリキュア。その程度では私を倒すことが出来ないわ！」

聖騎士のプリキュアはボンバーガールズプリキュアにそう言う。

ボンバーガールズプリキュアは右肩から星を出し、聖騎士のプリキュアに投げる。

聖騎士のプリキュアはラブプリプレスのダイヤルを回す。

？「イージス・ジャステイスソード！」

聖騎士のプリキュアのラブプリプレスから光の剣を生み出し、ボンバーガールズプリキュアの攻撃をすり抜け、切り裂く。

ボンバーガールズプリキュアは倒れ、変身が解除される。

聖騎士のプリキュアは赤髪の少女からカードをくすねた。

そして、聖騎士のプリキュアはプリカードファイルを出し、くすねたカードをプリカードファイルに入れた。

その時、真上から新たなプリキュアが襲い掛かる。

聖騎士のプリキュアは即座に躲す。

聖騎士のプリキュアは襲い掛かってきた者を見る。

目の前にいたのはキュアフォーチュンに似ていた紫のプリキュアである。

彼女はキュアテンダー。

氷川まりあが変身するプリキュアで、ハピネスチャージプリキュアの一人、キュアフォーチュンこと氷川いおなの姉である。

いおなを庇い、フアントムに封印された挙句、クイーンミラーージュに洗脳されるが、ハピネスチャージプリキュアの働きにより救われる。

テンダー「あなた、何者なの？なぜこんなことをするの？」

テンダーは聖騎士のプリキュアに尋ねる。

？「私の名はキュアイージス。私の願いを叶えるために世界を回り、プリカードを集めているわ。」

聖騎士のプリキュアはキュアイージスと名乗る。

イージス「キュアテンダー。悪いけどあなたに構ってる暇はない。邪魔をしないで。」

イージスはラブプリブレスのダイヤルを回す。

イージス「イージス・サウザンドソード！」

イージスは無数の光の剣を召喚し、テンダーを襲わせる。

テンダーはイージスの攻撃を全て薙ぎ払う。

しかし、テンダーが全ての攻撃を薙ぎ払った時、すでにイージスの姿はなかった。テンダー「イージス・・・何を叶えようとするの・・・？」
テンダーはイージスがいた場所を見つめながら言う。

怪獣、妖精の世界に現る！

秋葉原にデイノゾールとデイノゾールリバーズが現れたが、ネクサスがメタフィールドを展開したおかげで秋葉原に被害はなかった。

そのメタフィールドでダイナ、コスモス、エックスと共にデイノゾールリバーズ達を倒すことが出来た。

その後、ムサシから真理奈が持つスパークレンスは1万年前に地上を支配するために使われていた闇の神器であることを知った。

真理奈はアスカが言っていた言葉「人としてできること」を脳裏に刻み付けた。

そして、3日後・・・

まのん「お姉ちゃん、よかったね。みんな、納得してくれて。」

真理奈「キヤスが見せた生命体の事も、四葉の自家用機でいつでもパリに行かせてくれるみたいだしね。スパークレンスの事も春野のお兄さんが話してくれたし。」

真理奈とまのんは朝食を食べながら話す。

秋葉原から帰って次の日、四葉邸で『デイメンジョンゲート』の事や、パリに現れた謎の生命体の事、イビロンやキュアエレメントの事、そして真理奈が所持していたス

パークレンスの事を話した。

全員とは言わないが、四葉の根回しで追々伝達することになっている。

真理奈「ただ、まだ分からないことがあるのよね・・・クリシスのお姉さんの事。尾行してもすぐに気づかれちゃったし・・・」

真理奈は前にシン達とクリシスの後をつけていた時気付かれた為、何者なのか分からず終いだっただ。

真理奈「まあ、クリシスのお姉さんに関しては何春野のお兄さん達に任せるしかないわね。もう一つ気になるのはヤマザキって人よ。まだ見つかってないって四葉の執事さんが言ってたわ。」

真理奈はクリシスの事の他にヤマザキの行方も気になっていた。

まのん「それにプリキュアウイークリーでボンバーガールズプリキュアを倒したプリキュアが出てきたって話聞いたよ。なんでそんなことを・・・」

真理奈「全く・・・ただでさえ忙しいのにいろいろ面倒持ち込んで・・・」

真理奈は少しイラつきながら溜息を吐く。

真理奈「はあ・・・愚痴っても仕方ない。妖精の世界の空気吸いに行くかな。」

真理奈は朝食を食べ終え、食器を洗い、食卓を後にする。

その頃、ここはある地底。

その地底で乱闘が起きた。

そこには純金でできた皮膚を持つ首長竜と、同じく体中に金が混じっている怪獣がいた。

前者の怪獣は黄金怪獣ゴルドン。

大田山の鉾山の地下から現れた地底怪獣である。

初代ウルトラマンに尻尾で自分の首に巻き付けられ、止めを刺される。

後者の怪獣は爆弾怪獣ゴーストロン。

凶暴怪獣アーストロンの弟と噂されていた地底怪獣である。

視力は悪いが、優れた聴力を持つ。

ゴルドンは尻尾でゴーストロンに打撃を与える。

ゴーストロンは怯むが、ゴルドンを殴る。

ゴルドンもゴーストロンの攻撃に怯むが、お返しを言わんばかりに頭突きを食らわせる。

ゴーストロンは怯み、倒れる。

ゴルドンはその隙を突こうとゴーストロンに近寄る。

その時、ゴルドンとゴーストロンの体の金が溶け始める。

そして、ゴルドンとゴーストロンとは別の鳴き声が響き渡る。

現れたのは額と両肩の5本の角を持つ黒い怪獣である。

その怪獣の名は吸金怪獣コッテンポツペ。

ベンゼン星人が金を強奪するために連れてきた宇宙怪獣である。

この怪獣の全身は地球を滅ぼすことが出来る爆弾のようなものになっている。

コッテンポツペはゴルドンにキツ光線を放つ。

ゴルドンは大ダメージを負う。

ゴルドンは倒れ、死亡する。

ゴーストロンはコッテンポツペにファイヤーマグマを放つ。

コッテンポツペは怯むが、ゴーストロンのファイヤーマグマを吸収する。

ゴーストロンはコッテンポツペの行動に驚く。

そしてコッテンポツペは口からファイヤーマグマを放つ。

ゴーストロンはコッテンポツペの攻撃を喰らい、爆散する。

その後、コッテンポツペは先程倒したゴルドンとゴーストロンの溶かした金を舌で飲

み込む。

一方、真理奈は実験器具やパソコン、そして2階建ての大型バスを潜れるほどの広さを持つアーチのような装置が置かれてある部屋に訪れた。

真理奈は一台のパソコンの前に座り込み、キーボードを打ち込む。

そして、パソコンの近くにある手の平の形をした枠に手を置く。

すると、アーチの内側から白銀の光が広がっていき、光がアーチ内に覆いつくした後、内側から自然溢れる世界観が現れる。

真理奈はその中に入っていく。

真理奈「うくん！風が気持ちいいね。」

真理奈は背伸びしながら言う。

真理奈がいるのは『デイメンジョンゲート』のテストを行った際に訪れたまだ名前のない無人島である。

そう、先程のアーチのような装置こそ『デイメンジョンゲート』である。

真理奈（祖父ちゃん・・・祖父ちゃんがこの世から去った後、この島は開拓し始めてる。いつかこの島を人間と妖精が差別のない環境にするつもりよ。）

真理奈は空を見上げて祖父・光太郎の事を呟く。

その時、真理奈は水しぶきが聞こえる。

真理奈は海の方からだどと気づき、駆けつける。

真理奈は海から水しぶきを上げるのを見つける。

その水しぶきから全身にトゲが生えたトカゲのような怪獣が現れる。

その怪獣の名は海獣ゲスラ。

背中のトゲで初代ウルトラマンを苦しめた怪獣である。

初代ウルトラマンに背ビレを引きちぎられ、逃げ出した。

真理奈「怪獣!?妖精の世界にも現れたの!?!」

真理奈はゲスラの登場に驚く。

人間の世界に現れた怪獣は今まで妖精の世界には現れなかったため、驚きを隠せなかつた。

真理奈「まさかここで変身することになるなんてね。」

真理奈はスパークレンスを取り出す。

そして、スパークレンスを掲げる真理奈。

真理奈はウルトラマンティガに変身する。

ティガはゲスラの進撃を止めようとする。

しかし、ティガがゲスラの背中を触れた瞬間、急に手が痺れ出す。

ティガ「ううああっ！手が……！」

ゲスラはティガにトゲを飛ばす。

ティガはゲスラの攻撃に怯む。

その頃、ゼロは横浜で2体の怪獣を相手にしていた。

その2体は背中に大きな角を生えた黒い体の怪獣と赤い体の怪獣である。

まず黒い怪獣の名は双子怪獣ブラックギラス。

そして赤い怪獣の名は双子怪獣レッドギラス。

2体ともマグマ星人が使役する怪獣である。

セブンの右足をへし折ったことがある。

ゼロ「親父の足をへし折った怪獣か。上等じゃねえか！」

ゼロはブラックギラスの腹に蹴りを入れ、レッドギラスに回し蹴りを喰らわす。

ブラックギラスとレッドギラスはゼロに襲い掛かる。

ゼロ「ストロングコロナゼロ！」

ゼロはストロングコロナゼロにタイプチェンジする。

ブラックギラスとレッドギラスはゼロを掴みかかる。

ゼロ「引つかかったな？ウルトラハリケーン！」

ゼロはウルトラハリケーンでブラックギラスとレッドギラスを海に投げ飛ばす。

ゼロは元の姿になり、ゼロスラッガーを放つ。

しかし、そのゼロスラッガーはブラックギラスとレッドギラスの背中の中だけ角だけが斬られ、海の中に逃げられてしまう。

ゼロ「チツ！逃げられたか！」

ゼロはブラックギラスとレッドギラスを逃がしてしまい、舌打ちをする。

ゼロはシンの姿になる。

そこにあゆみとグレルとエンエンが駆けつける。

あゆみ「シンさん！大丈夫ですか？」

シン「おう！」

シンとあゆみ達は港の見える丘公園に訪れた。

あゆみ「真理奈ちゃん、大丈夫でしょうか？」

シン「え？」

あゆみ「真理奈ちゃんが持っていた変身アイテムは本当は地上を支配するためにあつ

た闇の神器だったわけですし……」

あゆみは真理奈の事を心配していた。

シン「心配すんな。ダイナから聞いた。人としてできることを自分自身で決めろって。真理奈なら大丈夫だ。あいつを信じろ。」

グレル「そうだけ。真理奈はいつも一緒に戦ってくれてたじゃんか。」

エンエン「真理奈は地上を支配したりしないよ。」

シン達はあゆみに真理奈を信じろと言う。

あゆみ「はい。」

あゆみは笑顔になる。

その時、あゆみのスマホから着信音が鳴る。

あゆみは電話を掛ける。

あゆみ「はい、もしもし。」

？「あゆみ殿でござるか!？」

あゆみ「その声……ポップさん!？」

ポップ「大変でござる!メルヘンランドに怪獣が現れたでござる!」

あゆみはポップの電話の内容に驚く。

今まで妖精の世界に怪獣が現れた話は聞いたことなかったからだ。

シン「あゆみ、代わってくれ!」

あゆみ「あ、はい!」

あゆみはシンにスマホを持たせる。

シン「ポップ、俺だ!」

ポップ「シン殿!」

シン「そこにみゆき達は?」

ポップ「すでに駆けつけて来たでござる! マナ殿たちも一緒にござる!」

シン「なるべく時間を稼いでくれ! 俺達もすぐに行く!」

シンはポップにそう伝えるとあゆみのスマホを切る。

あゆみ「でもシンさん。あなたはさつき・・・」

シン「大丈夫だ。それに悠長なことして暇なんざねえよ。」

シンはウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを出し、目に嵌める。

よってシンはウルトラマンゼロに変身する。

そしてゼロはウルティメイトイージスを装備する。

ゼロ「あゆみ、行くぞ!」

あゆみは頷いて、ゼロの手の上に乗る。

ゼロは時空の穴に入りメルヘンランドに向かう。

キュアエレメント

ティガはゲスラの背中を触れずに攻撃する。

ゲスラは海に潜り、猛スピードでティガに突進する。

ティガはゲスラのスピード攻撃に怯む。

まのん「お姉ちゃん！」

くるる「キュウ！」

まのんとくるるはゲスラの鳴き声に気付き、『ディメンジョンゲート』から妖精の世界に駆け付けた。

ティガは後ろに振り向き、まのんとくるるの存在に気付くと、猛スピードで襲い掛かってくるゲスラを受け止める。

しかし、ティガはゲスラの背中を触ってしまい、手が痺れ出す。

ティガはそれでもゲスラを食い止める。

まのん「お姉ちゃん!?!」

まのんはティガがゲスラを触れた瞬間、苦しんでいるように見え、心配する。

くるるは額の宝石を赤から黒に変わり、目を閉じる。

すると、くるるの額の宝石からゲスラが映り、さらにゲスラの体の構造が映し出す。そしてゲスラの背中を映すと、背ビレから体中のトゲに毒が流れ込んでいるのを発覚した。

まのん「もしかして、お姉ちゃんはそれで!?」

まのんはティガが苦しんでいる理由を知る。

まのん「お姉ちゃん!あの怪獣の背ビレを狙って!あの背ビレから毒が流し込んでるの!」

ティガはまのんの助言を聞き、背ビレを引きちぎろうとしたが、ゲスラのトゲを長いこと触ったせいで手が思うように動かなかった。

ゲスラはティガを乗っかる。

まのん「お姉ちゃん!」

まのんはティガがゲスラに乗っかって海に沈めていくのを見る。

その時、くるるが何かを感じ取り、後ろに振り向き、威嚇の声を上げる。

まのんはくるるの威嚇を聞き、後ろに振り向く。

そこに小さい空間の歪みが生じていた。

まのん「まさか・・・!」

その歪みから人間と同じサイズの虫のような怪獣が現れる。

その怪獣はインセクトタイプ・ピースト・バグバズンブルード。人間を食べてバグバズングローラーに捕食される役割を持ったスペースピーストである。

ウルトラマンエックスとも戦ったことがある。

まのん「ひっ……！」

バグバズンブルードはゆつくりとまのんに近寄る。

クルルはバグバズンブルードに向かって走り出す。

バグバズンブルードは向かってくるくるるを薙ぎ払おうとするが、くるるは身をかわし、バグバズンブルードの足に噛みつく。

バグバズンブルードは痛みが、足を振り回す。

くるるはバグバズンブルードに振り払われる。

まのん「くるる！」

まのんはくるるを受け止める。

だが、その拍子に崖から落ちてしまう。

まのんは運よく木の根を掴む。

まのん「くうっ……！」

まのんはくるるを抱えたまま、木の根を掴んでいる為、動けなかった。

バグバズンブルードは『ダイメンジョンゲート』を見て、そこに近寄る。

まのん「!だ、だめ!近づかないで!」

まのんはゲートの先にある人間の世界に行こうとするバグバズンブルードを止めようと呼ぶ。

しかし、バグバズンブルードはそのまま『ダイメンジョンゲート』に向かう。

まのん「入らないで!お願い!」

くるる「キュ、キュウ・・・」

くるるはまのんの叫び声で目を覚ます。

バグバズンブルードはすでに『ダイメンジョンゲート』の目の前にいる。

まのん（あの怪物が私達の家に入ったら父さんも母さんもいなくなっちゃう!そんなのイヤ!絶対に行かせない!!）

まのんは目を瞑って訴えかける。

その時、くるるの額の宝石が黒から赤に変わり、強く光り輝く。

くるる「キュッ!」

まのん「えっ!」

まのんとクルルはその光に驚く。

バグバズンブルードもその光に気付く。

光がまのんとクルルを包み込み、浮遊し、バグバズンブルードの元に降り立つ。

その光の中から緑とピンクのオッドアイに金髪のポニーテールを整え、ピンクを基調として白の装飾を組み合わせたコスチュームを纏い、胸に赤い宝石のブローチを、耳に星型のイヤリングを嵌めた少女が現れる。

？「えっ!?!これって・・・プリキュア!?!」

少女は今の姿に戸惑う。

？「くるるの額の宝石が光ったと思ったら、その光が包まれて・・・えっ!?!じゃあ、この姿がディアーナが言ってたキュアエレメントなの!?!」

彼女はキュアエレメントに変身したことを気付く。

バグバズンブルードはエレメントを襲い掛かる。

エレメント「キヤアッ!?!」

エレメントはジャンプし、バグバズンブルードの攻撃を避ける。

しかし、ジャンプした時は非常に高かった。

エレメント「うわっ!?!」

エレメントはジャンプした自分自身に驚く。

着地した後、エレメントは自分の手を見る。

エレメント「プリキュアって変身した時、超人的な能力を持つってママから聞いたけ

ど、やっぱりびっくりだよ。」

エレメントは今も自分の能力に驚いている。

バグバズンブルードはエレメントに向かって走り出す。

？『キュウ！』

エレメント「！頭の中から声が・・・くるる？」

エレメントは頭の中からクルルの声が聞こえる。

エレメント「テレパシーって奴なの？」

くるる『キュウ！』

エレメント「・・・わかった！」

エレメントの胸のブローチの宝石が赤く輝かせる。

エレメント「燃え上がる炎よ、焼き払って！プリキュア・ファイヤーボール！」

エレメントの前に大きな火の玉が現れ、襲ってくるバグバズンブルードに撃ち込む。

火の玉はバグバズンブルードに命中し、火達磨になって爆散される。

エレメント「すっごい・・・」

エレメントは今の戦いぶりに驚く。

エレメント「！そうだ！お姉ちゃんは!？」

エレメントは先程の崖に向かう。

そしてティガを探すか、ゲスラに海に沈まされてから姿を見せなかった。
エレメント「お姉ちゃん！」

エレメントはティガに気に掛ける。

その時、胸のブローチの宝石が赤から青に変わった。

エレメント「宝石の色が変わった……えっ？海の中でも大丈夫なの？」

エレメントは頭の中からくるるの声を聞く。

エレメント「よし！」

エレメントは海に飛び込む。

海の中にいたエレメントはあることに気付く。

エレメント「！息ができる！」

今のエレメントは海の中でも呼吸できるようになっている。

エレメント「すごい……」

エレメントは今の自分に驚く。

だが、エレメントはティガの安否が気になるため、驚いている場合じゃないと気づく。

エレメントはティガを探し出す。

しばらく経った後、ようやくティガとゲスラを発見した。

エレメント「お姉ちゃん！」

ティガはゲスラに蹴りを入れるが、避けられ、反撃を喰らわれる。

エレメント「お姉ちゃん、待ってて！今助けるから！」

エレメントは胸のブローチの宝石を青く光らせる。

エレメント「迸る水よ、逆巻いて！プリキュア・ウォーターピース！」

エレメントは両手に水のエネルギを集約し、ゲスラに向かって噴射する。

水のエネルギはゲスラの背ビレに貫く。

ゲスラは背ビレに穴が空けられたことで慌てる。

ティガはようやく手のしびれが切れ、ゲスラにチョップを下す。

今度は毒の影響がなくなり、ティガはゲスラを殴り飛ばす。

ティガはゲスラにゼペリオン光線を放つ。

ゲスラはゼペリオン光線を受け、爆散される。

エレメント「やった！」

エレメントはティガが勝利したのを見て喜ぶ。

その後、ティガとエレメントは海から上がり、変身を解く。

真理奈「まさかあなたが前に話したキュアエレメントに変身するなんてね……」

まのん「うん。自分でもびつくりだよ……」

真理奈はまのんがキュアエレメントだったことを驚く。

まのん「でも、くるるがいなかったら私達の居場所がなくなっちゃうかもね・・・」

真理奈「くるるには感謝しないとね。」

くるる「キュウ！」

くるるは両手を腰に当てて鼻息を吹く。

真理奈「しかし朝から怪獣に出くわすなんて最悪だわ。しかも妖精の世界に現れるな

んて・・・」

真理奈は草原に寝転がり、両手を枕のようにして当てる。

真理奈「いったい何があつたんだろう・・・」

真理奈は空を見上げながら俯く。

まのん「お姉ちゃん。」

真理奈「何？」

まのん「私、みんなと一緒に戦いたい。」

真理奈「はあっ!？」

真理奈はまのんの言葉に驚き、起き上がる。

真理奈「ちよつと待ってよ! あんたもあの怪獣と戦うつもり!?! 命いくつあつても足ん

ないのよ!?!」

まのん「分かってるよ! 正直言って怖いよ。でも、誰かがいなくなったりするのが

もつと怖い。お祖父ちゃんのように知らない所で死んじやったりしたら耐えられないよ。」

真理奈「だけど、モロボシのお兄さんが戦ってきた怪獣はプリキュアが敵う相手じゃ・・・」

まのん「私だつて待つてばかりの私じゃないよ。パパが言つてたでしょ？人は前へ進む力を持つてゐる。きつとひかりちゃん達もそうする。私もそうしたい。皆を守りたいの！」

まのんは強い眼差しで真理奈を見る。

真理奈はその眼差しを見て溜息を吐くが・・・

真理奈「分かったよ。諦めるな。父さんがそう言つたもんね。」

まのんは真理奈の言葉に頷く。

？「真理奈殿！」

真理奈達は振り向くと、『ディメンジョンゲート』からキャンディとポップがやってきた。

まのん「キャンディ！ポップさん！」

キャンディ「大変クル！メルヘンランドに怪獣が現れたクル！」

真理奈、まのん「えっ!？」

ポツプ「さつきシン殿とあゆみ殿に伝えたでござるが、お主にも手伝ってほしいでござる！」

キャンデイ達は真理奈達にメルヘンランドに怪獣が現れたことを伝える。

真理奈「やっぱり他の場所にも！」

まのん「急ごう！」

真理奈「うん！キャンデイ、ポツプ！くるるの力でそのメルヘンランドに行く！こつち来て！」

キャンデイとポツプは真理奈の傍に寄る。

まのん「くるる、お願い！」

くるる「キュウ！」

くるるは額の宝石を赤から白に変え、真理奈達と一緒にメルヘンランドにテレポートする。

そして、くるるの力でメルヘンランドに瞬間移動した真理奈達が見たのはスマイルプリキュアとドキドキ！プリキュアがコッテンポツペと腹に純金製のプロテクターを装備した怪獣と交戦していた。

コッテンポツペと一緒にいる怪獣はSカプセル怪獣ダークラー。

レディベンゼン星人が使役したカプセル怪獣である。

ゼアスが使役したZカプセル怪獣ミラクロンに敗北された。

まのん「怪獣が2体！」

コッテンポツペはキツ光線を放つ。

ロゼツタはプリキュア・ロゼツタリフレクションで防御する。

サニーとマーチはコッテンポツペに技を放つが、バリアで防がれる。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

ソード「閃け！ホーリーソード！」

ハッピーとソードはダークラーに技を放つが、ダークラーのプロテクターには破れなかった。

ダークラーは角からクラクラビームを放つ。

ハッピーとソードは避ける。

ダークラーはもう1度クラクラビームを放とうとする。

その時、空からゼロがウルトラゼロキックでダークラーを怯ませた。

ゼロ「待たせたな！」

ゼロはウルティメイトイージスをブレスレット状態にし、すでに変身していたエコーを下ろす。

エコー「ハッピー！みんな！」

ゼロ「真理奈達も来たみたいだな。」

真理奈「今着いたとこ！」

真理奈はスパークレンスを掲げて、ウルトラマンティガに変身する。

しかし、ティガとゼロは連戦したのでカラータイマーが点滅を始めた。

ゼロ「お前も怪獣と戦ったみたいだな？」

ティガ「ええ。流石にきついから早いとこ終わらせよう！」

ゼロとティガはコッテンポツペとダークカラーに振り向いて身を構える。

まのん「くるる、あの時みたいにできる？」

くるる「キュウ！」

まのんはくるるを抱き上げ、目を瞑る。

くるるも目を閉じる。

まのん（お願い、力を貸して！）

まのんはそう念じる。

その時、くるるの額の宝石が光り輝き、その光がまのんを包み込む。

キャンディ「クル!？」

ポップ「何事!？」

光の中からキュアエレメントが現れる。

エレメント「繋ぎ合う7つの光、キュアエレメント！」

エコー「キュアエレメント！」

エース「あれがイビロンを封印したプリキュア・・・」

エレメントの登場に驚くプリキュア達。

ゼロ「まのんがプリキュアになるとはな。」

ティガ「詳しいことはまのんに聞いてよ。今はこいつらよ！」

ゼロとティガはコッテンポツペとダークラーに攻撃を開始する。

エレメントを含めたプリキュア達もゼロとティガの援護に向かう。

VSコッテンポツペ

ゼロはコッテンポツペの背後にジャンプし、コッテンポツペを殴る。

ゼロは怯んだコッテンポツペを再び殴りかかろうとする。

しかし、コッテンポツペは角からビードロ光線を放ち、ゼロを吹き飛ばす。

ゼロ「うおお!」

ゼロはコッテンポツペのビードロ光線を受け、後ろに倒れる。

コッテンポツペは口から火炎放射を放つ。

ゼロは横回転で火炎放射を躲す。

コッテンポツペは再び火炎放射を放とうとする。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー!」

ハッピーはコッテンポツペにプリキュア・ハッピーシャワーを放つ。

コッテンポツペはハッピーの技を受け、火炎放射の発射を中止する。

コッテンポツペはハッピーに向けてキツ光線を放つ。

ピース「プリキュア・ピースサンダー!」

ピースはプリキュア・ピースサンダーを放ち、コッテンポツペのキツ光線を相殺する。

ティガはダークラーにチョップを繰り返す。

ダークラーは角からクラクラビームを放つ。

ティガはハンドスラッシュを放ち、クラクラビームを破り、ダークラーに命中する。

ダークラーはティガのハンドスラッシュに怯む。

ティガ「そんなに強くないわね。皆、こいつは私に任せて、モロボシのお兄さんをサ

ポートして！」

エレメント「大丈夫なの？ここに来る前、怪獣と戦ったからもうエネルギーが……」

ティガ「さっきの怪獣に比べたら大した奴じゃないわよ！とにかく私に任せてつて

！」

エレメントはティガに心配するも、ダークラーの事はティガに任せることにし、ドキ

ドキ！プリキュアと共にゼロの援護に向かう。

ティガはダークラーの首を抱え、チョップを下す。

ダークラーはティガを振り解き、角からクラクラビームを放つ。

ティガはクラクラビームを手で受け止め、そのままダークラーに投げ飛ばす。

ティガが投げ飛ばしたクラクラビームはダークラーに命中し、仰向けに倒れる。

ゼロはコッテンポツペに殴りこむ。

そしてゼロはコッテンポツペにウルトラゼロキックを繰り返す。

コッテンポツペはバリヤーを張り、ウルトラゼロキックを防ぐ。

ゼロはコッテンポツペのバリヤーに弾かれるが、着地する。

コッテンポツペはビードロ光線を放つ。

エレメント「くるる！」

くるる『キュウ！』

エレメントはゼロを守るようにコッテンポツペのビードロ光線の前に立ち塞がる。

エレメントの胸のブローチが赤から黒に変わり、光り出す。

エレメント「生み出す闇よ、封じ込めて！プリキュア・グラビティホール！」

エレメントは胸のブローチから自分の身長の2倍の大きさを持つボール状の重力場が出て、コッテンポツペのビードロ光線を吸い込んだ。

コッテンポツペのビードロ光線を吸い込んだ後、重力場が消滅する。

そして、エレメントは胸のブローチの宝石を黒から紫に変化する。

エレメント「響き渡る雷よ、纏わせて！プリキュア・サンダーストライク！」

エレメントのブローチから電気が放出し、エレメントの体に包み込む。

そしてコッテンポツペに向かって目に見えないほどのスピードで突進する。

コッテンポツペはエレメントの突進に怯む。

ティガはダークラーの尻尾を掴み、振り回した。

そしてティガはダークラーを投げ飛ばす。

ダークラーは地面に衝突する。

ダークラーはフラフラになりながら起き上がる。

しかし、時すでに遅し。

ティガはダークラーに向けてゼペリオン光線を放つ。

ダークラーはティガのゼペリオン光線を受け、爆散される。

ティガ「よし、あとはあいつね。」

ティガはゼロと戦っているコッテンポツペを見る。

ゼロはコッテンポツペのキツ光線を躲す。

ゼロ「ストロングコロナゼロ！」

ゼロはストロングコロナゼロにタイプチェンジする。

ゼロはコッテンポツペの腹に連続蹴りする。

ゼロ「オラアツ！」

ゼロはコッテンポツペに膝蹴りする。

コッテンポツペはゆっくりと倒れる。

ハート、ハッピー「やったーっ！」

ゼロは倒れてコッテンポツペに近づく。

ティガ「何してんの？」

ゼロ「こいつを宇宙に連れて行く。ゼアスってウルトラマンから聞いた。こいつは光線を浴びると地球を木っ端微塵にぶっ飛ばしちまうほどでかい爆発を起こしちまう。」

ティガ「うそ!!」

ティガはゼロの話を聞いて驚く。

ゼロ「とりあえず宇宙まで行って済ませるからな。」

ティガ「あの時みたいに宇宙へ持つていくの？ていうか妖精の世界って宇宙あるのかな？」

ティガはゼロの言葉に自分がシラリーを宇宙まで運んだことを思い出したついでに妖精の世界に宇宙空間があるのかと呟く。

ゼロはコッテンポツペを持ち上げ、宇宙まで飛翔する。

ゼロは宇宙に到達した後、コッテンポツペを投げ飛ばし、ワイドゼロショットを放つ。

コッテンポツペはゼロのワイドショットにより爆散される。

ゼロは爆発に巻き込まれないようにすぐに離れ、ハッピー達の元に戻る。

ゼロがメルヘンランドに戻ってきた後、みんなは変身を解いた。

真理奈「はあ・・・マジ疲れた・・・」

まのん「お姉ちゃん、さつき戦ってたもんね・・・」

真理奈はぐったりしなげに言い出す。

真理奈「あのキモイ怪獣倒した後よ？モロボシのお兄さんは2体の怪獣を倒した後、すぐに連戦持ち出したのにあんなに元気なのがおかしいわ・・・」

真理奈はシンを見てそう言う。

真理奈「まあ、話変わるけど、まのんの心掛けがあの子らに伝わってよかったわね。」

まのん「うん。これからも頑張るよ！」

まのんは真理奈にそう言う。

真理奈はそのまのんに溜息吐きながらも頷く。

真理奈（それにしても、今まで無人島で開拓作業してたから分からなかったけど、妖精の世界って不思議なところよね・・・祖父ちゃん、きつと羨ましがらるだろうな・・・）

真理奈はメルヘンランドの風景を見て、祖父の事を思い浮かべる。

その後、シン達は人間の世界に戻った。

真理奈とまのんは親に黙ってメルヘンランドに駆け付けたので、言い訳を考えながら帰っていった。

シン達は今、東京クローバータワーにいた。

シン「しかし、まのんがプリキュアになるなんてな。」

マナ「ホントだよ。まのんちゃんとくるるが合体してプリキュアになったなんて、今

までそんなことなかったもんね。」

マナ達は真理奈とまのんからキュアエレメントの誕生の事を聞いて盛り上がっていた。
た。

キャンディ「イビロンを封印したプリキュアが誕生して嬉しいクル〜！」

ありす「頼もしいですわね。」

マナ達はエレメントの事で盛り上がっていた所、展望台の窓際にクリシスがいるのに
気付いた。

マナ「あ、クリシスさん！」

クリシス「あ！シン達じゃん！奇遇だね！」

クリシスはシン達に元気よく言い出す。

シン「ここで何してるんだ？」

クリシス「フフツ、ただの観光。初めてこの町に来た時、クローバータワーに入っ
ていなかったから。」

クリシスは東京クローバータワーに来た理由を言い出す。

六花「あの時は怪獣が現れたもんね。」

クリシス「そうなんだよね〜。」

クリシスは残念がるような素振りをする。

クリシス「まあ、でもこうしていい景色見れたし、満足だよ。」

クリシスは回転しながら言う。

クリシス「あ、そうだ。今日のニユースなんだけど、アメリカのボンバーガールズプリキュアが騎士のようなプリキュアにやられたって聞いたけど、知ってる？」

クリシスはシン達にニユースで見た内容について問う。

マナ「うん！プリキュアウィークリーで見たよ！」

みゆき「わたしも見ました！」

マナ達はプリキュアウィークリーでボンバーガールズプリキュアの事を聞いた。

クリシス「その事だね。これからぴかりが丘に行つて聞いてみようって思ってたの。ハピネスチャージプリキュアは海外でも活躍してたって聞いてたもん。何か知っててもおかしくないでしょ？」

クリシスはハピネスチャージプリキュアが住んでいるぴかりが丘に行こうと決めていた。

あかね「そら、知つとるかも知れへんけど・・・」

六花「なんであなたがそのこと知ってるんですか？」

クリシス「この前秋葉原でなぎさ達から聞いたから。で、さっきの話だけど、よかつたら一緒に行く？」

クリシスはシン達と一緒にぴかりが丘に行かないかと尋ねる。

シン「そうだな。今日は仕事休みだし、行くとするか。」

亜久里「そうですね。もしかしたらそのプリキユアが日本に來ているかもしれないかもしれませんし。」

クリシス「ありがとう！よろしくね、みんな！」

シン達はクリシスと一緒にぴかりが丘へ行くことに決めた。

キュアエレメントの設定+α

キュアエレメント

変身者 新まのん

パートナー くるる

変身時の名乗りは「繋ぎ合う7つの光、キュアエレメント！」

瞳の色は左の瞳の色が緑で右の瞳の色がピンク。

髪型は金髪のポニーテール。

コスチュームはキュアエンプレスの衣装（キュアエンプレスの白地にピンクの装飾という組み合わせのコスチューム）を逆に変更したもので胸に赤い宝石のブローチを嵌め、耳に星型のイヤリングを嵌めている。

変身アイテムを持たないが、まのんとくるるが一つになる（マナ曰く合体）ことでキュアエレメントに変身する。

その為、エレメントの頭の中からくるるが語り掛けてくる。

キュアエレメントの能力は7つあり、くるるの意志でブローチの宝石の色を変えることで能力が変わる。

赤：炎の力を操る。砂漠地帯の高熱やマグマを耐えられるバリアの役割を持つ。

青：水の力を操る。水中でも呼吸できるようになる。

黄色：土の力を操る。他のプリキュアの能力を向上させる能力や他の動物や植物と会話する能力を持つ。

緑：風の力を操る。治癒能力や音を聞き分ける能力を持つ。

紫：雷の力を操る。光の速さで飛翔する能力や相手の記憶を読み取ることが出来る能力を持つ。

黒：闇の力を操る。敵の能力や体内構造を見抜くことができる。

白：光の力を操る。浄化能力やテレポート能力を持つ。

技

プリキュア・ファイヤーボール

エレメントのブローチの宝石が赤く輝かせた時に発動できる。

火の玉が出現し、敵にぶつけて火達磨にする。

掛け声は「燃え上がる炎よ、焼き払って！」

プリキュア・ウォーターパーズ

エレメントのブローチの宝石が青く輝かせた時に発動できる。

両手で水のエネルギーを集約し、勢いよく噴射する。

掛け声は「迸る水よ、逆巻いて！」

プリキュア・グラビティホール

エレメントのブローチの宝石が黒く輝かせた時に発動できる。

胸のブローチからボール状の大きな重力場を出し、敵の攻撃を吸収する。

この重力場が吸収できるのは敵の攻撃に対してのみの為、攻撃に適していない。

掛け声は「生み出す闇よ、封じ込めて！」

プリキュア・サンダーストライク

エレメントのブローチの宝石が紫に輝かせた時に発動できる。

ブローチから発する電気を体に纏わせ、超高速で瞬時に突進する。

掛け声は「響き渡る雷よ、纏わせて！」

プリキュア・ハリケーンダンス

エレメントのブローチの宝石が緑に輝かせた時に発動できる。

エレメントが踊り出すと竜巻が召喚する。

この竜巻は攻撃や防御に使用できる。

掛け声は「吹き荒ぶ風よ、舞い踊って！」

プリキュア・クリスタルウォール

エレメントのブローチの宝石が黄色に輝かせた時に発動できる。

クリスタルを召喚し、敵の攻撃を防御する。

掛け声は「命宿す大地よ、守り抜いて！」

プリキュア・サンライトヒーリング

エレメントのブローチの宝石が白く輝かせた時に発動できる。

ブローチから巨大な光を出し、その光からエネルギーを与える。

そのエネルギーは味方の傷を治したり、力を分け与えたりすることができる。

掛け声は「照らし続ける光よ、導いて！」

プリキュア・レインボーフォース・センチション

エレメントのブローチの宝石を赤、青、黄色、緑、紫、黒、白の7色の光を輝かせる時に発動できる。

自身を7色の光に包み込み、その状態で7色の光線を放つことで闇の力を浄化することができる。

1万年前のエレメントはこの技の影響で消滅されたが、現代のエレメントは仲間を信じる気持ちのおかげで消滅されなかった。

掛け声は「七色の光の輝きよ、大いなる力となり、奇跡を導け！」

ちなみになるが持つ7つの力は以下の通り。

赤：キュアエレメントの変身をさせる役割を持つ。

青：バリアを張る能力を持つ。

黄色：動物や植物をテレパシーで翻訳する能力を持つ。

緑：治癒能力を持つ。（疲労回復効果もある。）

紫：過去の出来事を映す能力を持つ。

黒：敵の体の構造や能力を映す能力を持つ。

白：テレポート能力を持つ。

キキュアイージス襲撃

コッテンポツペとダークラーを撃破した後、シン達は真理奈とまのんと別れ、東京クローバータワーに来た時、クリシスと出会う。

クリシスはアメリカに現れた謎のプリキュアの事を知る為、ハピネスチャージプリキュアが住んでいるぴかりが丘に行こうとしていた。

シン達もクリシスの提案に乗り、一緒にぴかりが丘へ同行する。

バスで移動中・・・

クリシス「それでね。ほのかと舞にゲームキャラクターのコスプレを着させてね。」

やよい「どんなキャラクターですか!？」

クリシス「人気のRPGゲーム・ファイナルファンタジーのユウナとリディアだよ。」

やよい「えっ!?ユウナとリディアってファイナルファンタジーXとVIの!？」

クリシス「うん。可愛かったよ!」

やよい「羨ましくい!」

クリシス「今度連れてってあげるね。もちろんみゆき達とマナ達も連れて。」

やよいはクリシスの秋葉原の体験談を聞いた。

あかね「やよいの奴、めっちゃ盛り上がってるやん……」

六花「しかもクリシスさん、私達まで巻き込ませて……」

あかねと六花は2人の会話を聞いて呆れた表情をする。

亜久里「シンお兄様は知ってたのですか？」

シン「ああ。見てる俺の方が恥ずかった……」

シンは頭を抱えながら言い出す。

クリシス「そんなこと言ってる。シンだってほのかと舞が着ていたコスプレ、気にな

るって言ったじゃん。」

シン「ああなるとは思わなかったんだよ！」

シンはクリシスにそう言う。

クリシス「でも、真理奈とまのんとひかりは残念だったね。秋葉原に降りてきた怪獣

と倒した後、なぎさと咲も着させてあげたけど、3人は参加しなかったからね……」

あかね、なお、六花（真理奈達の判断、正しかったと思う……）

あかね達はクリシスが言っていることに真理奈達に同情する。

しばらく経った後、シン達はぴかりが丘に到着した。

クリシス「ん〜！いいドライブだね〜！」

あかね「なんもしてへんやろ！」

六花「自分が運転したみたいと言わないでください！」

あかねと六花はクリシスの言葉にツッコみを入れる。

クリシス「気にしない、気にしない」

クリシスはあかねと六花にツッコまれるも、気にしなかった。

あゆみ「クリシスさん、マイペースだね・・・」

なお「マイペースというより天然だと思う・・・」

あゆみとなおはクリシスの性格に苦笑いする。

その頃、ゆうこを除くハピネスチャージプリキュアはブルースカイ王国大使館に集まっていた。

そんな中、ひめは『爆裂戦記ドンシャイン』を見ていた。

ひめ「すごごごーい！かっこいい！」

リボン「ひめ！呑気にテレビを見てる場合じゃありませんわ！」

ひめ「たまにはこうやってのんびりしたっていいじゃん！」

リボン「これからシン達がこちらに来て、アメリカに現れたプリキュアについて対策

を取らなければいけませんのよ!?!それなのになんですの、その体たらくは!?!」

リボンはひめに指摘する。

いおな「リボンの言う通りよ。あのプリキュア、ボンバーガールズプリキュアのプリカードを奪ったのよ?いつここに来るか分からないわ。」

ぐらさん「緊張感なさすぎだぜ。」

いおなはリボンと同じようにひめに注意し、ぐらさんはひめの体たらくに呆れる。

ひめ「おーっ!キラメキエクスプロージョン、決まった!」

いおな「つて人の話聞きなさい!」

いおなは話を聞かなかったひめに怒る。

めぐみ「大丈夫、大丈夫!あたし達は幻影帝国からブルースカイ王国の平和を取り戻したし、レッドを止めることができたし、シンさんと一緒に多くの怪獣を倒したから、そのプリキュアが出てきても怖くないよ!」

リボン「めぐみ、油断は禁物ですわよ!」

リボンはめぐみの発言に注意する。

その時、外から大きな音が鳴り響く。

ひめ「えっ!?!なに!?!」

いおな「外からよ!」

めぐみ達はブルースカイ王国大使館から出る。

外に出てみると、ブルースカイ王国大使館の前にガラスのナケワメーケとUFOのホシイナーの他に大工の格好をした赤色のサングラスとグレーのマフラーを装備した怪物がいた。

その怪物はサイアークと呼び、幻影帝国の幹部が召喚する怪物である。

めぐみ「サイアーク!」

ひめ「ええ〜っ!?!なんで!」

いおな「幻影帝国は滅んだはず!」

めぐみ達はサイアークの存在に驚く。

?「あなた達がハピネスチャージプリキュアね?」

めぐみ達はサイアークから目を下ろすと、聖騎士のプリキュアが歩み寄る。

いおな「あのプリキュアは!」

ぐらさん「プリキュアウィークリーで見たプリキュアだぜ!」

いおなとぐらさんは目の前のプリキュアをボンバーガールズプリキュアを襲ったプリキュアだと分かった。

リボン「ひめが呑気に特撮番組を見るから、もう来てしまいましたわ!」

ひめ「ちょ!?!それ関係ないでしょ!」

ひめはリボンの言うことに否定する。

めぐみ「あなたは誰!？」

めぐみは聖騎士のプリキュアに尋ねる。

イービス「私の名はキュアイービス。あなた達のプリカードを貰いに来たわ。」

イービスはラブプリブレスのダイヤルを回す。

イービス「裁け! ジャツジメントソード!」

イービスは左手を白く光らせ、右上から左下へと斜め一閃に斬るように振る。

すると、無数の白い光の剣を放ち、めぐみ達を襲う。

めぐみ達「キヤアアツ!!」

めぐみ達の周りに光の剣が着弾し、爆風により突っ伏してしまふ。

いおな「今の攻撃、キュアソードの技に似てる……!」

ひめ「いきなりなにすんのよ!？」

めぐみ「仕方ない! ゆうゆうはまだ来てないけど、あたし達が止めよう!」

めぐみとひめはプリチェンミラーを構え、いおなはフォーチュンピアノを構える。

めぐみ、ひめ「プリキュア・くるりんミラーチェンジ!」

いおな「プリキュア・きらりんスターシンフォニー!」

めぐみはキュアラブリーに、ひめはキュアプリンセスに、いおなはキュアフォーチュ

ンに変身する。

ラブリー「世界に広がるビッグな愛！キュアラブリー！」

プリンセス「天空に舞う蒼き風！キュアプリンセス！」

フォーチュン「夜空にきらめく希望の星！キュアフォーチュン！」

ラブリー達は変身を終えた後、ポーズを決める。

イーリス「もう一人はいないみたいね？まあいいわ。あなた達、下がちなさい。」

イーリスはサイアークたちに下がるよう命じる。

ラブリー「プリンセス、フォーチュン！行くよ！」

プリンセス「オツケー！」

フォーチュン「ええ！」

ラブリー達はイーリスに攻撃を仕掛ける。

イーリスはラブリーのパンチを受け止め、脇腹に蹴りを入れ、その後背に背負い投げをする。

次にプリンセスの蹴りを躲し、プリンセスの腹を殴り、回し蹴りでプリンセスの頭部に命中するイーリス。

フォーチュンはイーリスに得意の空手で攻めるが、全て受け流される。

ラブリーとプリンセスはフォーチュンに加勢する。

イービスは後ろからラブリーとプリンセスが向かってくるのを気付き、フォーチュンの首元を抱え、彼女を軸にラブリーとプリンセスに蹴りを入れる。

その後、イービスはフォーチュンの腹に膝蹴りをし、ラブリーとプリンセスに向けて放り投げる。

プリンセス「フォーチュン！」

フォーチュン「こいつ・・・強い・・・！」

フォーチュンはイービスの強さに圧倒される。

ラブリー「でも、あたし達のプリカードを渡さない！」

ラブリーはラブプリブレスのダイヤルを回す。

ラブリー「ラブリービーム！」

ラブリーはラブリービームを放ち、イービスに命中する。

しかし、爆炎が晴れると、イービスは無傷のままだった。

ラブリー「効かない!？」

ラブリーは無傷のイービスに驚きを隠せなかった。

イービスはラブプリブレスのダイヤルを回す。

イービス「イービス・サウザンドソード！」

イービスはイービスサウザンドソードを放つ。

ラブリー達「キャアアアアアアアアッ!!!」
ラブリーはイージスの攻撃により倒れる。

イージス「あなた達のプリカードはあの中ね。」

イージスはブルースカイ王国大使館に目を向ける。

そして、そのままブルースカイ王国大使館に向かう。

その時、イージスの背後から爆音が鳴り響く。

イージスは振り向くと、サイアークとナケワメーケとホシイナーが浄化されていた。

サイアークたちが消えた後、1人のプリキュアが姿を現す。

そのプリキュアはキュアテンダーである。

フォーチュン「お姉ちゃん!」

フォーチュンはテンダーの姿を見て笑顔になる。

テンダー「久しぶりね、フォーチュン。」

テンダーはフォーチュンに笑顔で交わす。

イージス「キュアテンダー・・・」

テンダー「イージス、これ以上の勝手はさせないわ!」

イージス「すぐ目の前にプリカードがある。早めに終わらせてもらおうわ!」

イージスはテンダーに対し、戦闘の構えをする。

テンダー「やあっ！」

イーゼス「はあっ！」

テンダーとイーゼスは互いに走り出す。

テンダーVSイージス

ハピネスチャージブプリキュアとキュアテンダーがキュアイージスと交戦した頃……

あゆみ「クリシスさん、あれから頭痛は大丈夫なんですか？」

あゆみはクリシスに頭痛の事を聞く。

クリシス「うん。時々頭痛が起きたりすることがあるけど、平気だよ。」

クリシスはあゆみの問いに答える。

クリシス「心配してくれたんだ。お姉さん、うれしいよ！」

クリシスはあゆみを抱きしめる。

あゆみ「く、クリシスさん！そんなに抱きしめないで……！」

あゆみはクリシスに強く抱きしめられて苦しむ。

エンエン「あゆみ!？」

グレル「あの姉ちゃん、遠慮なさすぎだろ……」

グレルはクリシスの行為に呆れる。

？「フフフ、皆さんお揃いで楽しそうだね。」

シン達は振り向くと、ゆうこの姿があった。

みゆき「ゆうこちゃん！」

クリシス「あつ、ゆうこ！」

クリシスはゆうこの存在に気付き、あゆみを離す。

あゆみはやつと解放されたと思い、ぐったりとする。

グレル「あゆみく、しつかりしろく。」

エンエン「あゆみ、大丈夫？」

あゆみ「大丈夫だけど、少しは遠慮してほしいよ・・・」

あゆみはクリシスに対して愚痴をこぼす。

クリシス「めぐみ達は一緒じゃないの？」

ゆうこ「これから行くところなんです。」

クリシス「そうなんだ。私達もめぐみ達と会いたって思ってたの。」

ゆうこ「それじゃ、一緒に行きましょう。一緒にご飯食べて楽しみましょう。」

クリシス「ワウオ！ゆうこお手製のご飯食べてみたい！ちようどお腹ペコペコだつ

たの！」

クリシスとゆうこは楽しそうに話す。

真琴「すぐく仲いいわね・・・」

シン「クリシスとゆうこ、気が合うかもな。」

? 「大変ですわく!!」

シン達は誰かの大きな声が聞こえ、振り向くと、リボンが大慌てで向かってきた。

リボンはクリシスに向かって飛んでいくが、クリシスは「おおっと!」と言いながらすぐにしゃがんでリボンを避ける。

そして、そのまま真琴の顔面にぶつかる。

真琴 「キヤアアツ!」

シン 「真琴!」

リボンにぶつけられた真琴は後ろに倒れるが、シンが咄嗟に受け止め、その拍子に尻もちをつく。

リボンは真琴にぶつかった衝撃で後ろに吹き飛ばされるが、ゆうこが受け止める。

シン 「真琴、大丈夫・・・」

シンは真琴に大丈夫かと言おうとしたが、言葉が詰まる。

何故なら、シンの左手が真琴の胸に触っていたからである。

真琴 「ひっ!?!キヤアアアアアアアツ!!! (／／／／)」

真琴は思い切り力を入れてシンの頬を殴る。

シンは真琴に殴られ、後ろに倒れる。

マナ 「えっ!?!なに!?!どうしたの!?!」

シン「イテテテ・・・」

真琴「シン！どこ触ってるのよ!? (〃〃〃〃〃〃)」

シン「す、すまん！悪気はないけどよ! (〃〃〃〃〃〃)」

シンは真琴に怒られ、必死に謝る。

十数分後、ようやくほとぼりが冷める。

真琴「全く、もう・・・! (〃〃〃〃〃〃)」

マナ「いきなり悲鳴あげた時はびっくりしたよ・・・」

ダビィ「一歩間違ってたら通報されてたビィ・・・」

シン「マジですまん・・・(〃〃〃〃〃〃)」

シンは顔を赤らめながら真琴に謝る。

クリシス「ところで、そんなに慌ててどうしたの?」

リボン「はっ!そうですわ!大変ですわ!アメリカに現れたプリキュアがプリンセスたちを襲ってきたのですわ!」

みゆき「ええっ!?!」

みゆき達はボンバーガールズプリキュアを倒したプリキュア・キュアイーゼスが来たことに驚く。

シンと真琴もそれを聞いて赤くなった顔が元に戻る。

リボン「今、日本に帰ってきたキュアテンダーがそのプリキュアと戦ってますわ！」
ありす「キュアテンダーは確かにおなさんの？」

リボン「はい、いおなのお姉さんですわ！とにかく急ぐのですわ！」

リボンは急いでブルースカイ王国大使館に来るよう言い出す。

マナ「よし、みんな！行くよ！」

みんなはマナの言葉に賛同し、リボンと一緒にブルースカイ王国大使館に向かおうとする。

クリシス「うぐっ!？」

その時、クリシスは走り出した時、頭を抱えて苦しみ出す。

あゆみ「クリシスさん!？」

クリシス「うう・・・ぐぐ・・・」

クリシスは頭痛に苦しむ。

その時、怪獣の咆哮が響き渡る。

ラケル「怪獣の鳴き声ケル！」

ランス「またでランスく!？」

シャルル「あそこシャル！」

シャルルが指した方向に振り向くシン達。

そこには空間の捻じれが生じていた。

その捻じれから3つの口を持つ1本角の怪獣と、2本角の鬼のような怪獣が現れた。2体の怪獣の名は合体怪獣プラズマとマイナズマ。

角から発する怪電波でUGMの隊員を攪乱させるほどの知性を持つ地底怪獣である。この2体が合体することで80を追い詰めた。

シン「プラズマとマイナズマ！ウルトラマン80を苦しめた怪獣か！」

六花「こんな時に！」

クリシス「みんなは先に行つて……ここは私が食い止めるから……！」

クリシスはよろけながら立ち上がる。

みゆき「無理しないで！」

クリシス「大丈夫……頭痛はもう治まったから……」

クリシスは心配かけるみゆきに笑顔を見せる。

シン「お前らは行け！奴らは俺に任せろ！」

シンはウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを出し、目に装着する。

よつてシンはウルトラマンゼロに変身する。

クリシス「大丈夫、すぐ追いつくから……！」

クリシスはみゆきの手を放し、エポルトラスターを出し、引き抜く。

よってクリシスはウルトラマンネクサスに変身する。

ゼロ「お前……！」

ネクサス「大丈夫だよ、負けるつもりもないもん。」

ゼロ「無理するなよ。」

ネクサス「お互い様。」

ゼロとネクサスはプラズマとマイナズマに向かって走り出す。

マナ「みんな、ゼロとネクサスが心配なのはわかるけど、今はラプリー達を助けに行こう！」

みんな「うん！」

マナ達はプラズマとマイナズマの事をゼロとネクサスに任せて、ブルースカイ王国大使館に向かった。

その頃……

テンダー「フッ！」

イージス「っ！」

テンダーはイービスに対し、空手で対抗する。

イービスはテンダーの猛攻を避けたり、防いだりして牽制している。

イービス「イービス・サウザンドソード！」

イービスはイービス・サウザンドソードを放つ。

テンダーはイービスの技を躲す。

そして、テンダーはイービスに掌底打ちをする。

イービスは寸前に両腕を交差して防ぐ。

さらにイービスはテンダーの顔面を目掛けて蹴りを入れる。

しかし、テンダーはイービスの蹴りを受け止め、投げ飛ばす。

テンダー「テンダー・ライジングスターバースト！」

テンダーは空と地上に五芒星の魔法陣を描き、イービスを閉じ込める。

そして魔法陣から紫の光波を放出する。

ラブリー「決まった！」

紫の光波が消えると、そこにはボロボロになったイービスが立っていた。

イービス「まだ、倒れるわけにはいかないの・・・！」

イービスは平然とした顔でテンダーを睨みつける。

その様子をブルースカイ王国大使館の陰から窺う人物がいた。

その人物はヤマザキである。

ヤマザキ「流石は世界中のプリキュアの支援をしただけの事はある。キュアイーゼスと互角に渡り合うとは：：せつかく来たのだから彼女の望みの物を手に入れないとね。」
ヤマザキはイーゼス達を後回しにし、ブルースカイ王国大使館の裏に回り、アタッシュケースから小型のパラボラを取り出し、そのパラボラについてあるコードをノートパソコンに繋ぎ、入力始める。

すると、パラボラからエネルギーを発し、壁に穴が開く。

ヤマザキはその穴に入り、ブルースカイ王国大使館の中を調べる。

一方、外での戦いではテンダーがイーゼスを追い詰める。

イーゼスはテンダーの攻撃を躲し、イーゼス・ジャステイスソードでテンダーを斬りつける。

テンダー「くっ！」

テンダーは紙一重でイーゼスの攻撃を躲したが、脇腹に掠り、そこから出血した。

フォーチュン「お姉ちゃん！このおっ！」

フォーチュンはイーゼスがテンダーを傷つけたことに怒り、イーゼスを襲い掛かる。

イーゼスはフォーチュンの行為に気づく。

イーゼス「イーゼス・ソードトルネード！」

イージスは回転を始めると、無数の光剣の竜巻が出現する。

その竜巻はそのままフォーチュンに襲い掛かる。

フォーチュン「キャアアアアアアアアアッ!!!」

フォーチュンは光剣の竜巻にのまれる。

プリンセス「フォーチュン！」

ラブリー「任せて！」

ラブリーはチェリーフラメンコのプリカードをプリチェンミラーにセットする。

ラブリー「プリキュア・パッションダイナマイト！」

ラブリーはプリキュア・パッションダイナマイトを繰り出す。

ラブリーの力で爆発させたことで光剣の竜巻が消滅する。

フォーチュンは光剣の竜巻のダメージの為か変身が解除され、いおなの姿に戻った。

テンダーはいおなを受け止める。

イージス「くっ……!!」

イージスはラブリーのプリキュア・パッションダイナマイトによつて後ろに下がった後、地面に膝をつく。

そして、イージスは強制的に変身が解除され、茶髪のロングヘアの少女に戻る。

? (目の前にあるのに!)

マナ「ラブリー！大丈夫なのーっ!？」

少女は後ろに振り向くと、マナ達がやって来た。

ラブリー「マナちゃん！大丈夫だよ！」

プリンセス「そこにいる子がニュースで話したプリキュアよ！」

プリンセスは少女に指を指して言う。

六花「この子がボンバーガールズプリキュアを倒したっていう・・・」

真琴「えっ!？あなた、マヤなの!？」

マヤ「!？」

真琴は目の前にいる少女の事をマヤと呼ぶ。

あかね「知り合いない!？」

真琴「ええ、この子もトランプ王国に住んでいたの！マヤ、どうしてアメリカのプリ

キュアを!？」

マヤ「・・・」

マヤは何も言わず、ポケットから黒い球を取り出し、地面に叩きつける。

するとその球から激しい光が放たれる。

マナ「うわっ！眩しい！」

六花「閃光弾!？」

六花はマヤが地面に叩き落した黒い球を閃光弾だと知る。光が消えるとそこにはマヤがいなかった。

プリンセス「あーっ！逃げられた！」

真琴「マヤ・・・」

真琴はいなくなったマヤの事で俯く。

その時、遠くから怪獣の咆哮が聞こえる。

亜久里「例のプリキュアについて聞きたいところですが、その前にやることがありま
すわね。」

マナ「うん！ラブリー、いきなりで悪いけど少し付き合ってくれらる!？」

ラブリー「もちろん！」

ラブリーはマナの意見に賛同する。

プリンセス「テンダー！いおなの事、お願いします！」

テンダー「ええ、任せて！」

プリンセスはテンダーにいおなの事を頼む。

みゆき「あゆみちゃん、いおなちゃんの事、お願い！」

あゆみ「うん！」

みゆきもあゆみにいおなの事を頼む。

マナ達はプリキュアに変身し、ゼロ達の元に駆け付ける。

VS プラズマ&マイナズマ

マナ達がハピネスチャージプリキュアの元に行った頃、ゼロはプラズマを、ネクサスはマイナズマと交戦していた。

プラズマはゼロに殴りかかる。

ゼロはプラズマの攻撃を躲し、腹に蹴りを入れる。

プラズマは白色光線を放つ。

ゼロはジャンプでプラズマの光線を躲し、そのまま飛び蹴りを喰らわす。

ゼロ「へっ！遅えよ！」

プラズマはゼロに向かって走り出す。

ネクサスはジュネッスビオレにタイプチェンジする。

マイナズマはネクサスに殴りかかる。

しかし、ネクサスは跳び箱の要領でマイナズマの頭に手を置き、後ろに回り込む。

ネクサスはマイナズマの尻尾を掴み、回転を加えた後、投げ飛ばす。

マイナズマは地に落ちるものの、すぐに立ち上がり、青色のレーザー光線を放つ。

ネクサスはマイナズマの攻撃を躲す。

ネクサスはマイナズマに反撃しようとするが、急に頭を押さえ、地に伏せる。
ネクサス「うう・・・こんな時に・・・」

ネクサスは頭を押さえて苦しむ。

そのネクサスの背後に空間の捻じれが生じる。

その空間の捻じれから、頭部に角を生えた怪獣と、その怪獣に似ているが、角がない怪獣が現れた。

2体の怪獣の名は兄怪獣ガロンと弟怪獣リットルである。

息の合ったコンビプレーでウルトラマンレオを苦しめた兄弟である。

アストラの加勢により逆転され、レオとアストラの光線技で倒される。

ネクサス「また・・・増えた・・・！」

マイナズマは尻尾でネクサスを吹き飛ばした後、プラズマの元に向かう。

ゼロ「あれはレオを追い詰めたガロンとリットル！また増えたのか!!」

マイナズマはプラズマと戦っていたゼロを襲い掛かる。

ゼロはマイナズマの攻撃を避けるが、プラズマに隙を突かれ、ダメージを受ける。

マイナズマは尻尾でゼロを叩き飛ばす。

プラズマは額の角からプラス電撃光線をマイナズマに向かって放つ。

マイナズマもマイナス光線をプラズマに向かって放つ。

その後、プラズマとマイナズマは互いに背を向け、背中合わせに組み合った。ゼロ「チツッ！面倒なモン使ってきたぜ！」

合体したプラズマとマイナズマはシンセサイズレーザーを放つ。

ゼロはウルトラゼロデیفエンサーを張るが、破られるのを気付き、上へ避ける。プラズマとマイナズマはこれを狙い、再びシンセサイズレーザーを放つ。

今度はゼロに命中する。

ゼロは地上に叩き落される。

ネクサス「ゼロ・・・！キャアッ！」

ネクサスは立ち上がるが、リットルに殴り飛ばされる。

そして、ガロンがネクサスを蹴り飛ばす。

ガロンとリットルは口からロケット弾を放ち、ネクサスにダメージを負わせる。

ネクサスは辛うじて立ち上がり、ソードレイ・シュトロームを構え、ガロンとリットルに斬りかかる。

しかし、ガロンはネクサスの攻撃を躲し、リットルはネクサスのソードレイ・シュトロームを出した腕を掴み、腹に蹴りを入れる。

そこをガロンが飛び蹴りでネクサスを蹴り飛ばす。

ネクサス「この怪獣達も手強いね・・・！」

ガロンはロケット弾を放つ。

ネクススは横回転でロケット弾を躲す。

しかし、リットルはそれを狙い、ジャンプしてネクススを捕らえ、立ち上がらせる。

ガロンはネクススに飛び蹴りを入れ、リットルはネクススを放り投げる。

ゼロ「この野郎！」

ゼロはプラズマとマイナズマにエメリウムスラッシュを放つ。

プラズマとマイナズマに命中するが、効果がなかった。

プラズマとマイナズマはそのままゼロに向かって歩く。

ゼロはプラズマとマイナズマに蹴りを入れるが、その蹴りを払われ、プラズマとマイ

ナズマに反撃される。

ゼロは今度はワイドゼロショットを放つ。

しかし、プラズマとマイナズマは通用しなかった。

ゼロのカラータイマーが点滅を始める。

プラズマとマイナズマは分離し、ゼロを襲い掛かる。

ゼロはプラズマの攻撃を避け、マイナズマを蹴り飛ばす。

プラズマは白色光線を放ち、ゼロに命中する。

マイナズマは起き上がり、青色のレーザー光線を放ち、ゼロに命中する。

プラズマはゼロを背中から押さえつけ、マイナズマはゼロに殴り続ける。

その時、マイナズマの頭上に細長い光線が命中される。

マイナズマは地に伏してしまう。

ゼロ「今の光線は！」

ゼロは見上げると、ウルトラセブンがやって来た。

セブンはエメリウム光線でプラズマに命中させる。

プラズマは後ろに倒れ込む。

ゼロ「親父！」

セブン「大丈夫か、ゼロ。」

ゼロ「ああ！」

セブンはゼロを立ち上がらせる。

ゼロとセブンはプラズマとマイナズマの方に振り向く。

プラズマとマイナズマはゼロとセブンに向かって走り出す。

セブン「いくぞ、ゼロ！」

ゼロ「ああ！」

ゼロとセブンもプラズマとマイナズマと再び交戦する。

ネクサスはリットルの攻撃を躲し、ガロンの攻撃を受け止め、蹴りを入れるが、即座

にリットルに隙を突かれる。

ガロンはネクサスに飛び蹴りを繰り返して出し、ネクサスを地に伏せる。

ネクサスのエナジーコアが点滅を始める。

ガロンとリットルはネクサスに近づく。

その時、赤い球が現れ、ガロンとリットルを弾き飛ばす。

赤い球が発光し、その中から初代ウルトラマンが現れた。

ネクサス「あれがゼロが言ってたウルトラ兄弟の一人……」

ウルトラマン「ネクサス、立てるか？」

ネクサス「うん、まだイケるよ！」

ウルトラマンはネクサスに手を伸ばす。

ネクサスはウルトラマンの手を握り、立ち上がる。

そしてウルトラマンとネクサスはガロンとリットルに視線を向ける。

ガロンとリットルはロケット弾を放つ。

ウルトラマンとネクサスはロケット弾をすり抜け様に走り出す。

ウルトラマンはガロンを、ネクサスはリットルを対峙する。

ウルトラマンはガロンの攻撃を躲し、チョップを連続で叩きこむ。

その後、ウルトラマンはガロンの首を掴み、前へ投げ飛ばす。

ネクサスはリットルが攻撃を繰り出す前に蹴りを入れ、首を掴み、リットルを下へ押し込みながら膝蹴りを繰り出す。

痛がっていたリットルに飛び蹴りを繰り出す。

ガロンとリットルは起き上がり、ミサイル弾を放つ。

ウルトラマンはスラッシュ光線でミサイル弾を相殺する。

その後、手をクロスして高速回転し、キャッチリングを放つ。

よってガロンとリットルはキャッチリングに捕らえられ、身動きを封じられる。

ネクサスはキャッチリングで捕らえたガロンとリットルにコアインパルスを放つ。

ガロンとリットルはネクサスの技を受け、爆散される。

ネクサスはガロンとリットルとの戦いによる疲労で地面に膝をつく。

ゼロ「おらよっ！」

セブン「フンッ！」

ゼロはプラズマに飛び回し蹴りを炸裂する。

セブンはマイナズマに踵落としを繰り出す。

プラズマは白色光線を放つが、ゼロに躲かれ、腹に蹴りを浴びせられる。

その後、ゼロはプラズマの首を掴み、前に投げ飛ばす。

マイナズマは青色のレーザー光線を放つが、セブンはジャンプしてマイナズマの攻撃

を躲す。

そして、マイナズマの背後に降り立ったセブンはマイナズマの尻尾を掴み、振り回した後、プラズマに向けて投げ飛ばす。

マイナズマはプラズマに激突する。

プラズマとマイナズマは不利だと判断したのか、背中合わせにして合体する。

セブン「ゼロ！」

ゼロ「ああ！」

プラズマとマイナズマはシンセサイザーを放つが、ゼロとセブンに躲される。

ゼロはゼロスラッガーを、セブンはアイスラッガーを同時に飛ばす。

3つの刃はプラズマとマイナズマの体中に切り裂く。

そして、ゼロとセブンはウルトラ念力でゼロスラッガーとアイスラッガーをプロペラ状に並べて、プラズマとマイナズマに向かって飛ばす。

よってプラズマとマイナズマの体にゼロスラッガーとアイスラッガーが貫かれ、一緒に爆散される。

ゼロスラッガーはゼロの元に、アイスラッガーはセブンの元に戻る。

ゼロはプラズマとマイナズマとの戦いで疲労し、地面に膝をつく。

ゼロとネクサスはシンとクリシスの姿に戻る。

ウルトラマンとセブンは4体の怪獣の攻撃で荒らされていた町を修復した後、人間の姿になる。

ウルトラマンはハヤタ・シンに、セブンはモロボシ・ダンになる。

ハート「お〜い！ゼロ〜！」

シン達はハートの声を聞き、振り向く。

ハート「あれ!?もう終わっちゃったの!?!」

ダイヤモンド「どうやらそのようね。」

ハート達はラブリー達にゼロ達が怪獣と戦ったことを教えた後、ゼロ達の元に急いだが、すでに倒されていた。

ハート達は変身を解いた後、シン達と一緒にブルースカイ王国大使館に行き、キュアイージスについて話した。

ちなみにまりあの脇腹の傷はゼロによって治療した。

いおなにはぐらさんが看取っている。

クリシスもソファアを借りて寝転がっている。

クリシス「そっかあ、そのキュアイージスってプリキュアは自分の願いを叶うためにボンバーガールズプリキュアのプリカードを奪ったんだね。」

まりあ「ええ。確かにそう言ったわ。」

「まりあからイービスがプリカードを狙っている理由を言い出す。

ダン「本当にそんなことが？」

リボン「ええ。ファイルの中にプリカードがいつぱいになると、どんな願いにもひとつ叶うことができるのですわ。その願いが叶うとファイルが消えますが、プリカードは消えませんわ。少々お待ちくださいな。ひめの部屋にそのファイルがありますので。」

リボンはプリカードファイルを取りに行くため、ひめの部屋に向かった。

クリシス「でも、いおなが無事でよかったね。そんなに強かったの？」

ひめ「そうなの！もうやばやばいぐらい強かったんだよ！まりあさんとほぼ互角だったし！」

クリシス「でもエンエン達から聞いたけど、ひめ達は幻影帝国を壊滅させたって聞いたよ？本気を出せば勝てたんじゃやない？」

ひめ「もう！簡単に言わないでよ！」

クリシスはソファアで横になりながらひめにそう言う。

ひめはクリシスに反論する。

リボン「大変ですわっ!!」

ひめ「うわあっ!?!びっくりした！」

みゆき「リボン、どうしたの？」

リボン「ファイルの中にあつたプリカードがなくなりましたわ〜!!」

めぐみ達「ええ〜っ!?!」

めぐみ達はリボンからプリカードが失つていたことを聞き、驚きを隠せない。

その頃・・・

ヤマザキ「怪獣達のおかげで君が求めていたプリカードが手に入れたよ。」

ヤマザキは手に持っているプリカードをマヤに見せる。

2人が今いるのは柚が浜海岸のコテージである。

このコテージはハピネスチャージプリキュアが強化合宿するために利用した場所である。

マヤ「テンダーと戦つてる間、余計なことしてくれるわね・・・」

ヤマザキ「そんな言い方しないでくれないか? 君の為に手に入れたんだから。」

ヤマザキはにやけながらマヤにそう言う。

マヤはそんなヤマザキの事を気に入らないのかそっぽ向く。

ヤマザキ「まあ、とにかく。これをファイルに入れるのは待つてくれないかな? い

や寧ろ、プリカードファイルを使う必要はないだろうね。」

マヤ「・・・」

ヤマザキ「もうすぐ例の物が完成する。つまり、もうすぐ君の願いは叶えられるんだよ。」

ヤマザキはプリカードをポケットにしまう。

ヤマザキ「さて、そろそろユグドラシルの元へ行こう。」

ヤマザキはアタツシケースを持ってコテージから出る。

マヤもコテージから出る。

真琴とマヤ

ぴかりが丘のブルースカイ王国大使館にキュアイービスが現れ、ハピネスチャージプリキュアを追い詰めるも、キュアテンダーの加入により、逆転する。

その戦いの時にイービスは変身が解かれ、正体を表す。

イービスの正体を見た真琴は同じトランプ王国で暮らしていたマヤという少女だと分かった。

マヤはハピネスチャージプリキュア達から逃げ出し、どこかへ去って行った。

そして同じ頃、合体怪獣ブラズマとマイナズマと対峙したゼロとネクススは兄弟怪獣ガロンとリットルの乱入により、ゼロとネクススを追い詰めるが、ウルトラマンとセブンの加入により逆転し、勝利した。

しかしその後、ひめの部屋からプリカードが失っていたことに気付く。

シン達は一先ず帰ることになった。

ハヤタとダンも横浜で滞在することになった。

プリカードやキュアイービスの居所も四葉財閥で調べることにした。

翌日、シンと真琴は小泉学園に訪れた。

勿論、ダビィも一緒である。

なぎさ「じゃあ、海外のプリキュアのプリカードを奪ったのはその・・・」

ほのか「真琴さんの幼馴染のマヤさんだったのね。」

真琴「ええ。」

その小泉学園にある公園でなぎさとほのかと会い、真琴はマヤの事を話す。

尚、ひかりはTAKOCAFEの手伝いで来ていない。

まのん「そのマヤさんって真琴さんと同じトランプ王国のプリキュアだったんですか？」

真琴「いいえ、マヤはトランプ王国の戦士ではないけど、王女様の為にプリキュアになることを目標にしていたわ。」

真琴はトランプ王国でプリキュアに就任する日を迎えた頃を話す。

？「今日ここに新たな伝説の戦士、プリキュアが誕生した事は大きいなる喜びです。共に祝いましょ。」

トランプ王国の住民達の前でキュアソードの誕生に祝いの言葉を挙げたのはピンクの長髪の女性である。

彼女はトランプ王国の王女、マリィ・アンジュ王女。

彼女はジコチューの襲撃の時、シャルル達をマナ達の世界に送った後、ボール達から

逃げ出すべく、ソードと共に逃げ出したが、魔法の鏡での時空移動中、ソードと別れ、ベールにジコチューにされかける。

しかし彼女は、ベールによってプシケケーが抜き出される瞬間、プシケケーを2つに分かれさせ、彼女の存在が失われる。

この話はあくまでジコチュー襲撃の時の話で、真琴が話したのはジコチューが現れる前の話である。

アンジュ「今日からあなたはキュアソードと名乗って、トランプ王国の平和の為に尽くすのです。」

ソード「光荣です。王女様。」

ソードはアンジュにお辞儀をする。

就任式を終えた後、ソードとアンジュはマヤと会い、3人で楽しく話し合っている。

ソード「マヤ、行ってくるね。」

マヤ「王女様の事、お願いね！私も必ず追いつくから！」

ソード「任せて。」

ソードはマヤにそう言う。

そしてマヤはアンジュにこう告げる。

マヤ「王女様！私もいつか・・・ううん、必ず伝説の戦士プリキュアになって、王女

様をお守りして見せます！」

アンジュ「フフツ、頼もしいわね。待っていますよ。」

マヤ「はい！」

マヤはアンジュにトランプ王国の戦士となり、アンジュを守ると約束する。

しかし数日後、ジコチューの襲撃により、トランプ王国は滅ぼされ、約束を果たすことはなかった。

なぎさ「そんなことがあったんだね・・・」

真琴「私の知ってるマヤは人を傷つけるような酷いことはしなかった・・・どうしてあんなことを・・・」

真琴はマヤの事で俯く。

メツプル「きつとアン王女を蘇らせようとしてたんだメポ。」

ミツプル「でも、どうやってプリカードファイルとプリチェンミラーを手に入れたミポ？」

まのん「クルルなら過去に起こった出来事を映す力があるんだけど、そのクルルはお姉ちゃんと一緒に苺坂に行ってたから聞けないし・・・」

まのんはクルルの力でマヤの過去を知ろうと考えていたが、そのクルルは真理奈と一緒に苺坂に行ってた為、頼めなかった。

まのん「！そうだ！ジュエル鉱国のカーバンクルなら分かるかも！」

まのんはジュエル鉱国にカーバンクルが住んでいるのを思い出し、そのカーバンクルからマヤの事を聞こうと思いついた。

シン「真理奈が話してた場所か？」

まのん「はい！案内します！」

まのんはシン達に自宅に案内すると言い出す。

？「あつ！なぎささんじゃん！」

シン達は振り向くと、つぼみとえりかといつきがいた。

なぎさ「あつ！みんな！」

えりか「チーッス！」

ほのか「どうしてここに？」

ほのかはつぼみ達が小泉学園にいた理由を聞く。

つぼみ「真理奈さんから借りた宇宙の本を返しに来たんです。」

えりか「つぼみ、砂漠の使徒がいなくなった後、宇宙飛行士になるって言うってたもね。」

なぎさ「ゆりさんは？」

なぎさはゆりがないことに気付く。

えりか「ノートルダム大聖堂!？」

なぎさ「ありえなくいい！」

なぎさ達は真理奈とまのんの家を見て驚きを隠せなかった。

まのん「この一帯は元々ホテルだったんです。お祖父ちゃんが若かった頃、閉鎖されてしまいましたけど、イルマ財閥とのコネで新しく建てたんです。この外観はお祖父ちゃんの趣味ですけど。」

なぎさ「イルマ財閥っていったい何なの？」

なぎさはまのんの話を聞いて呆然とする。

まのん「イルマ財閥の事は後でお話します。さ、行きましょう。」

シン達はまのんと一緒に家に向かった。

その頃……

真理奈「くるる〜? 全く、ちよつと目を放すと勝手にどこかに行きやがって……かくれんぼが得意なあいつの事だから簡単には見つからないだろうけど、騒ぎを起こしちゃロクなことになんないわ。どこなの〜?」

真理奈はどこかに行つたぐるぐるを声をあげながら探していた。

真理奈がいるのは苺坂の商店街である。

苺坂は最近噂になつてゐるキラキラ☆プリキュアアラモードが活躍してゐた場所である。

そして、キラキラ☆プリキュアアラモードはスイーツに宿る力『キラキラル』を操ることが出来る伝説のパティシエと言われたプリキュアである。

キラキラ☆プリキュアアラモードはキュアホイップこと宇佐美いちか、キュアカスタードこと有栖川ひまり、キュアジェラートこと立神あおい、キュアマカロンこと琴爪ゆかり、キュアシヨコラこと剣上あきらの5人で構成されている。

真理奈「はあ、くるるの奴、どっかで誰かに連れて行かれなかつたらいいんだけどな……」

真理奈は手すりにもたれかけながら愚痴をこぼす。

その後、ポケットからスパークレンスを取り出す。

真理奈（今更思つたけど、闇の巨人つて呼ばれたティガがなんで今までのように怪獣を倒し、人々を救つたのかな……？ 私が変身したとはいえ……1万年前に何かあつたのかな……？）

真理奈はスパークレンスを見て、ティガがゼロ達と一緒に戦い、人々を救つたのか頭

に過る。

くるる「キュウ！」

真理奈はくるるの鳴き声に気付き、振り向く。

真理奈「くるる！どこ行ってたのよ!?探したのよ！」

真理奈はどこかに行つたくるるに叱る。

真理奈「今度は勝手にどこかに行かないですよ？」

くるるは真理奈に注意され、軽く頷く。

真理奈「ホントにわかつてんの？まあいいや。この町のお菓子が灰になったって噂聞いたけど、今は何ともないみたいね。ずっとここにいてもしょうがないし、そろそろ帰ろう。」

くるるは真理奈の肩まで登り、座り込む。

真理奈はそのまま帰ろうと苺坂自然公園を通り過ぎようとすると、一風変わったスイーツショップを見つけた。

真理奈「ん？くるるを探し回っていた時、こんな店あったっけ？」

真理奈は見つけたスイーツショップが気になり、首を傾げながら寄って行った。

一方、東京コンピナート付近で頭が下に、棘がついた鞭のような尻尾が上についてある怪獣がネクサスと交戦している。

その怪獣の名は古代怪獣ツインテール。

地底怪獣グドンが天敵とされている怪獣である。

そのグドンと一緒にウルトラマンジャックを追い詰めるも、途中でグドンに噛みつかれた挙句、地面に叩きつけられて絶命された。

ネクサス「頭と尻尾が反対になってる怪獣か・・・面白い怪獣だね。」

ネクサスはツインテールを見て面白がっている。

ツインテールはネクサスに尻尾で攻撃する。

ネクサスはツインテールの攻撃を躲し、胴体に蹴りを入れる。

ツインテールはネクサスの攻撃に怯むものの、ジャンプしてネクサスを押し倒す。

ツインテールは更にジャンプしてネクサスを踏み込もうとするが、ネクサスは直前に躲し、ツインテールを蹴り飛ばす。

ネクサスはパーティクル・フェザーでツインテールの尻尾を斬り落とした。

その後、ネクサスはオーバーレイ・シュトロームでツインテールを浴びせ、爆散させる。

ツインテールを倒したネクススはクリシスの姿に戻る。

クリシス「ふう・・・頭が痛いし、疲れたあ・・・」

クリシスは頭を抱え、体を休ませる。

しばらく経った後、クリシスは頭痛薬を取り出し、口に放り込む。

クリシス（私って何なんだろうね・・・）

クリシスはエボルトラスターを取り出し、じつと見つめながら俯く。

蘇る魔獣、イビロン

シン達はまのんの案内で真理奈の家に着する。

その後、まのんは家の中も丁寧案内した。

そして、ついに『デイメンジョンゲート』が設置されている部屋に入る。

『デイメンジョンゲート』が設置されているのは地下室になっている。

えりか「うわぁ・・・広いね・・・」

いつき「ありすの家といい勝負だよ・・・」

なぎさ「もうありえない・・・」

なぎさ達は地下室の中を見て呆気をとられる。

ほのか「あのアーチのような物が『デイメンジョンゲート』なの？」

まのん「はい。妖精の世界に行く時、これを使ってきたんです。そのパソコンに入力することで入ることができます。」

まのんは『デイメンジョンゲート』を見てそう言う。

まのん「えーっと、確かこの引き出しに・・・あった!」

まのんはパソコンが置いてある机の引き出しから一枚の紙を取る。

シン「何があったんだ？」

まのん「パスワードです。『ダイメンジョンゲート』を開けるにはこれが必要ですか。』」

まのんは椅子に座り、パソコンに入力し、パスワードを打ち込む。

まのん「よし、後は……」

まのんはパソコンの横にある手の平の形をした枠が描かれていた装置に手を置く。

よつて『ダイメンジョンゲート』の内側から光が広がっていき、全て覆った後、内側から無人島の草原が見えてくる。

シン「すげえっ！」

真琴「本当に繋がった……！」

シン達は目の前で起きた光景に驚きを隠せなかった。

まのん「フウ……コンピュータには詳しくないから上手くいくか不安だったけど、なんとかなったね……」

まのんは椅子にもたれかけ、ホッと溜息を吐きながら、安心する。

その頃、真理奈とクルルは小泉学園に帰って来た。

真理奈「やれやれ・・・変わったお店だったね、あのスイーツショップ。」
くるる「キュ？」

真理奈は手に持つている手提げを見て、苺坂自然公園で見たスイーツショップを思い出す。

真理奈「あそこどう見ても人間が造ったものじゃないわよ。そもそも公園にスイーツショップを建てること自体、変だわ。」

？「あつ！真理奈ーっ！」

真理奈は思っていたことを口にしていている途中、後ろから声をかけられ、振り向くと、咲と舞がいた。

真理奈「日向。美翔。」

咲「真理奈、咲って呼んでよ。」

真理奈「だから、下の名前で呼び合うほどの仲じゃないって・・・それより、なんでここのこ？」

真理奈は咲と舞が小泉学園に来た理由を尋ねる。

咲「この前、ありすの家で『デイメンジョンゲート』の事を話したよね。それってどんな装置なのかなって気になっちゃって。」

真理奈「まあ、気にならないって言ったら嘘になるわね。まあ早い話、私の家にある『ディメンジョンゲート』を見せてくれってことよね？」

真理奈は咲と舞が小泉学園に来た理由を知る。

真理奈「本当は知られちゃいけないことだけど、あんた達はプリキュアだ。科学者の関係者じゃなくても秘密にしてくれるから信じられるよ。一緒に行こう。」

舞「いいの、真理奈さん。」

真理奈「ええ。母さんと父さんは買い物に行っただし、母さんの助手の皆も他にやることがあつていないしね。それにライブや遊園地の礼もまだだったからお礼代わりとして自宅の事も教えるよ。」

咲「ありがとう、真理奈！」

咲と舞は真理奈の案内で家に向かう。

舞「ところで真理奈さん、あなたの家はどんな家なの？」

真理奈「まあ、一言で言うならノートルダム大聖堂のようなデザインなのよね・・・」

真理奈は呆れた顔をして言う。

舞「ノートルダム大聖堂ってフランスの!？」

咲「マジ!？」

真理奈「自分でもびっくりなんだよね・・・祖父ちゃんのお好みに合わせて建てたって

聞いてたけど、私からしてみれば贅沢過ぎってちよつと思うくらいなのよね・・・」
真理奈は苦笑いしながら言う。

真理奈「ウチには母さんの助手が何人か住んでるから仕方ないことだけど、流石にあの外観は驚くよ。」

真理奈と咲と舞が会話してから十数分後、真理奈の家に到着する。

咲「うわああ~~~~！でつかうい！」

舞「本当にノートルダム大聖堂のような建築ね・・・」

真理奈「やっぱり驚くよね？」

真理奈は咲と舞の反応を見て苦笑いする。

真理奈「まあ、外観は豪華だけど、中は質素だから期待外れになっちゃうけどね。」

真理奈はそう言いながらドアを開ける。

真理奈「あ、そうだ。『ディメンジョンゲート』を潜るとすぐに無人島に入るから、そこに行くつもりなら靴持って上がってくるように。」

真理奈は咲と舞にそう言い、靴を脱いだ後、その靴を手に持ち、中に入る。

舞「え、ええ・・・」

咲「家は豪華なのにそう言われると品格が損なうように聞こえるよ・・・」

真理奈「悪かったわね!?品がなくて!？」

真理奈は咲の言葉に不貞腐れる。

咲と舞は家に入って真理奈に案内される。

真理奈「あとは地下室の方ね。そこに『デイメンジョンゲート』があるの。」

咲「この家、地下室もあるんだ・・・」

咲は真理奈からこの家に地下室があることを知る。

その時、家の中が響く程の物音が聞こえた。

いや、物音と言うより、獣が吠えるような声が聞こえた。

咲「えっ!？」

舞「何なの!？」

真理奈「地下からだ!」

真理奈は今の声は地下から聞こえるのを気付き、急いで駆け付けた。

舞「真理奈さん!」

咲「待つナリ〜!」

咲と舞は真理奈を追う。

真理奈が帰宅する前、シン達はまのんと一緒に『デイメンジョンゲート』の先に繋いでいる無人島に足を踏み入れた。

えりか「自然豊かでいいじゃん！」

なぎさ「風も気持ちいいね！」

つぼみ「この畑やログハウスはこの家に住んでいる人が？」

まのん「はい、パパとママは妖精の世界を研究しているけど、研究の他にこの無人島に町づくりをやってるんです。人間の世界の人達が妖精の世界に来れた証として。」

まのんはつぼみが指した畑とログハウスの事を話す。

まのん「トランプ共和国に比べれば小さい規模ですけど・・・」

まのんは苦笑いしながら言う。

？「でも、誰も成し得なかった人と妖精達と共に生きる事を成し得ようとする事は決して悪い事ではありません。」

まのんは後ろに振り向くと、ディアーナがいた。

まのん「ディアーナ！」

ディアーナ「今日はお友達と一緒に来て下さったんですね。」

いつき「まのんさん、この人がディアーナなの？」

まのん「はい、ジュエル鉱国の王女、ディアーナです。」

ディアーナ「お初にお目にかかります。」

ディアーナはシン達に自己紹介する。

まのん「ディアーナ、このお兄さんが前に話した別の世界の戦士様だよ。」

ディアーナ「初めまして。あなたの事はまのんから聞いておられます。伝説の戦士プリキュアと一緒に戦ってくれていると。」

ディアーナはシンに手を差し伸べる。

シン「ああ。俺はウルトラマンゼロ。この姿ではモロボシ・シンって呼ばせている。」

ディアーナ「では私もあなたの事をシンと呼ばせてもらいますわ。」

シンはディアーナと握手する。

まのん「ところでディアーナ。どうして地上に？」

ディアーナ「あ、はい。伝えなければならぬことがあり、あなたの元に来たのです。」

まのん「伝えなきゃならないこと？」

まのんはディアーナが伝えようとした事を聞く。

ディアーナ「・・・とうとうイビロンが目覚めてしまいました。」

まのん「ええっ!？」

まのんはディアーナからイビロンが目覚めた事を聞いて驚く。

ディアーナの後ろから一匹のカーバンクルが現れ、そのカーバンクルの額の赤い宝石

が紫に変わり、その宝石から映像を出す。

その映像から白衣の男が装置を運んでいる所を映す。

ほのか「この人は？」

まのん「多分、ママが言つてたヤマザキさんだと思います。」

いつき「この男が真琴さんの誘拐を手引きした・・・」

まのんは映像に出てきた白衣の男をヤマザキだと断定する。

ヤマザキ『この辺りでいい・・・』

ヤマザキは装置を置いて、その装置から針のような物を地面に突き刺す。

ヤマザキ『コンテナに閉じ込めたプリキュアのエネルギーをデータ化し、そのエネルギーをマイナスに変換、そしてマイナスに変換されたプリキュアのエネルギーを地底に注ぎ込む。そうすればキュアエレメントが封印したという化け物が蘇るだろう。効果は期待できるはず。』

ヤマザキはにやけながら地面を見る。

真琴「なっ!?!」

シン「そのために真琴をコンテナに閉じ込めたのか。」

シン達はヤマザキが誘拐犯達を手引きして真琴をコンテナに閉じ込めた理由を知る。

そして、地鳴りが発すると同時に地面が割れはじめ、そこから黒く大きい翼が生え、八

つの足をもつドラゴンが現れる。

このドラゴンこそが魔獣イビロンである。

なぎさ「これが……」

ほのか「イビロン……」

シン「映像から見てもすげえ邪気だぜ。」

なぎさ達はイビロンの姿を見て呆気をとられる。

ヤマザキ『フフフ……成功だ。やっぱりマイナスエネルギーで復活することができた！あとはデニーズ・ポーカー殿が手に入れたあらゆる獣を操る杖・モンスターズラーの力で！』

ヤマザキは背負っているリュックから紫の水晶が付いている禍々しい形をした杖を取り出し、頭上に掲げると、イビロンの動きが止まる。

ヤマザキ『フヒハハハハ！すごい！本当に操ることができるとは！これが地上を制圧するために作られた神器モンスターズラーの力！』

ヤマザキは狂ったような高笑いを上げる。

そして、イビロンは翼を羽ばたかせ、宙に浮いたかと思うと、八つの足が鋭利な触手となり、両翼の翼も2つに分かれ、蛇竜のような姿に変わる。

つぼみ「姿が変わりましたよ!？」

えりか「そんなのあり!？」

イビロンはその触手でヤマザキの前に置いた。

ヤマザキはイビロンの触手を捕まる。

そしてイビロンはヤマザキと一緒にどこかに飛び去った。

カーバンクルから流れた映像はここで消える。

シン「アスカとムサシが言つてた杖、そいつが持っていたなんてな。」

つぼみ「しかも真琴さんの力を利用してイビロンを復活させたなんて……」

ほのか「モンスターズルーラーを手にしたという事はもう一つの秘宝も……」

シン達は今の映像を見て考え込む。

そんな中、真琴は深刻に俯いている。

シン「真琴?」

シンはそんな真琴に気付き、声をかけようとする。

その時、どこからか怪獣の咆哮が聞こえる。

シン達「!?!」

メツプル「あそこだメポ!」

シン達はメツプルが指した方向に振り向く。

シン達が見た先には時空の歪みが生じている所である。

その歪みから4本の触手と全身の棘が生えていた怪獣が現れた。いや、これは怪獣ではなく、超獣である。

その正体は究極超獣Uキラーザウルス。

ウルトラマン、セブン、ジャック、エースの4人と月面で対峙した超獣である。

4人のファイナルクロスシールドで神戸の海に封印された。

シン「Uキラーザウルス!? 面倒な奴が出てきやがって!」

なぎさ「どんな怪獣なの!」

シン「奴は超獣っていう怪獣を上回るバケモンだ! 親父達と互角に渡り合える程手強い奴だ!」

えりか「うえええっ!? それはやばいっしょ!」

つぼみ「え、えりか!? なんで私の後ろに隠れるんですか!」

えりかはシンの言葉を聞いてつぼみの後ろに隠れながら言い出す。

? 「みんな!」

シン達は振り向くと、咲と舞と真理奈が駆けつけて来た。

なぎさ「真理奈! 咲! 舞!」

舞「大丈夫ですか!」

ほのか「ええ!」

咲「うわあ・・・今まで倒した怪獣達より強そうナリ・・・」

咲はヒキラーザウルスを見て引き気味になる。

シン「だが、奴の好きにさせるわけにはいかねえ！イビロンをぶつ倒すには不足はねえぜ！」

真理奈「本当に根拠のない言い方するわね・・・けど、この島を壊すわけにはいかな
いのは事実ね！」

シンはウルトラゼロアイを、真理奈はスパークレンスを取り出す。

いつき「真琴さん。」

真琴「大丈夫よ、分かってるわ。」

まのん「くるる！」

くるる「キュウ！」

くるるはまのんの元に駆け付ける。

なぎさ達も変身アイテムを手取る。

なぎさ、ほのか「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」

咲、舞「デュアル・スピリチュアル・パワー！」

つぼみ、えりか、いつき「プリキュア・オープンマイハート！」

真琴「プリキュア・ラブリック！」

なぎさ達はプリキュアに変身し、シンと真理奈もゼロとティガに変身する。
ゼロ達はUキラーザウルスを見上げ、戦闘態勢と取る。

VSUキラーザウルス

Uキラーザウルスは4本の触手でゼロとテイガを捕らえようとする。

サンシャイン「サンフラワー・イージス！」

ブルーム、イーグレット「はあっ！」

サンシャインはサンフラワーイージスで4本の内2本を防ぎ、ブルームとイーグレットも精霊の力で結界を張り、もう2本を防ぐ。

ブロッサム「ブラック！ホワイト！」

マリン「いつちやいますよ！」

ブラック「オツケー！」

ホワイト「お願い！」

ブロッサムとマリンはマントを羽織った状態でブラックとホワイトを引っ張り、飛行する。

ブロッサム「ブロッサム・シャワー！」

マリン「マリン・シュート！」

ブロッサムはブロッサム・シュートをマリンはマリン・シュートを放つ。

Uキラーザウルスは2人の技を避け、触手でブロッサム達を捕らえようとする。

ソード「閃け！ホーリーソード！」

ソードはホーリーソードで触手に命中する。

よって触手の勢いが落ちる。

ちなみに今のソードはエンジェルモードになっている。

ソード「あたしの事を忘れないでよね！」

ホワイト「ありがとう、ソード！」

ブラック「よし！私達も！ブロッサム、マリン！上に放り投げて！」

ブロッサム「は、はい！」

マリン「やるっしゅ！」

ブロッサムとマリンはブラックとホワイトを真上に投げ飛ばす。

ブラックとホワイトは手を伸ばし、互いに手を繋ぐ。

ブラック「ブラックサンダー！」

ホワイト「ホワイトサンダー！」

ブラックの手に黒い雷が、ホワイトの手に白い雷が集約する。

ホワイト「プリキュアの美しき魂が！」

ブラック「邪悪な心を打ち砕く！」

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」
ブラックとホワイトはUキラーザウルスに向けてプリキュア・マーブル・スクリュー・マックスを放つ。

Uキラーザウルスは尻尾で海を叩き付け、水しぶきをあげる。

ブラック、ホワイト「なっ!？」

2人の技は水しぶきに命中し、爆発する。

爆発によって生み出した霧が晴れると、Uキラーザウルスの姿がなかった。

ブロッサムとマリンはブラックとホワイトを捕まる。

サンシャインとブルームとイーグレットとエレメントもブロッサム達と合流する。

ブラック「消えた!？」

エレメント「気を付けてください!くるるが言いました!あの怪獣・・・いや超獣は

海の中にいるって!」

エレメントは海を見て言う。

その時、エレメントの背後に触手が現れ、エレメントを捕らえる。

エレメント「キャアアッ!」

ソード「エレメント!」

ソードはエレメントを助けに行こうとするが、海から3本の触手が出てきた。

2本目はソードを捕らえ、3本目はブルームとイーグレットを捕らえ、4本目はブラックとホワイトとブロッサムとマリンを捕らえた。

ソード「しまった！」

それぞれの触手が出た場所の真ん中からUキラーザウルスが現れる。

Uキラーザウルスは触手を海に叩き落した。

よつてブラック達は海の中に落ちてしまう。

Uキラーザウルスは海に落ちたブラック達に向けて、触手の爪先からファイラーショットを放とうとする。

その時、Uキラーザウルスの頭の横から打撃を与えられる。

テイガがUキラーザウルスに蹴りを入れたのだ。

そしてテイガは即座にハンドスラッシュでUキラーザウルスに命中させる。

Uキラーザウルスは触手でテイガを捕らえようとする。

テイガはその触手に気付き、掴んで止める。

テイガ「油断のない奴ね・・・！」

テイガは触手を掴みながら言う。

しかし、テイガは触手に気を取られ過ぎたため、Uキラーザウルスに攻撃を喰らわされる。

ティガ「キャアアッ!？」

ティガはUキラーザウルスに殴り飛ばされる。

Uキラーザウルスは棘ミサイルを放つ。

ゼロ「ワイドゼロショット!」

ゼロはワイドゼロショットで棘ミサイルを全て撃ち落とす。

ゼロ「目の前に気を取られ過ぎだ!」

ティガ「ごめん!」

ゼロとティガはUキラーザウルスの触手を避け続けるが、触手はゼロとティガを追い続ける。

ソード「プリキュア・スパークルソード!」

サンシャイン「サンシャイン・フラッシュユ!」

ソードはプリキュア・スパークルソードを、サンシャインはサンシャイン・フラッシュユを放つ。

ゼロとティガを追う触手はその衝撃で制止される。

その後、Uキラーザウルスは黒と白の光のエネルギーに命中される。

Uキラーザウルスは振り向くと、ブルームとイーグレットに掴まされているブラックとホワイトがいた。

ブラック「まったく！海に叩き落すなんて！私はトンカチだつてのに！」

ホワイト「カナヅチでしょ？」

ブラックの発言にツツコみを入れるホワイト。

Uキラーザウルスは棘ミサイルを発射する。

エレメントは胸のブローチを紫から緑に変え、光らせる。

その途端、エレメントは落下していく。

しかし、落下地点は海から浮き出た岩礁の為、上手く着地できた。

エレメント「よし！吹き荒ぶ嵐よ、舞い踊つて！プリキュア・ハリケーンダンス！」

エレメントは踊り出すと、複数の竜巻が召喚される。

その竜巻はブラック達を守るように棘ミサイルを防ぐ。

Uキラーザウルスはエレメントに向けてファイラッシュを放つ。

エレメント「くるる！」

くるる『キュウツ！』

エレメントは胸のブローチを緑から黄色に変え、光らせる。

エレメント「命宿す大地よ、守り抜いて！プリキュア・クリスタルウォール！」

エレメントは目の前にクリスタルを召喚し、ファイラッシュを防ぎ、そのままUキ

ラーザウルスに撥ねかえす。

よって、Uキラーザウルスが放ったファイラーシヨックは触手に命中され、失われる。ティガもハンドスラッシュでUキラーザウルスの触手を切り裂く。

Uキラーザウルスは触手でエレメントを捕らえようとする。

ゼロ「へっ！俺の事も忘れんなよ！」

ゼロはゼロスラッガーを飛ばし、Uキラーザウルスの触手を斬り落とす。

ブラック「ホワイト！今度こそいくよ！」

ホワイト「うん！」

ブルーム「イーグレット！」

イーグレット「ええ！」

ブラックとホワイトは岩礁の上に立ち、ブルームとイーグレットは浮遊したままで技を放とうとする。

Uキラーザウルスは棘ミサイルを発射する。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブルーム、イーグレット「プリキュア・ツイン・ストリーム・スプラッシュ！」

ブラックとホワイト、ブルームとイーグレットはそれぞれの合体技を放つ。

そしてそのまま棘ミサイルを飲み込み、Uキラーザウルスに命中する。

Uキラーザウルスはそのまま海に落ちる。

ゼロ「止めだ！ゼロツインシュート！」

ゼロはゼロツインシュートを放つ。

その時、ゼロの光線を阻むように別の方向から赤黒い光線によって遮られる。

ゼロ「なに!？」

ゼロは今の赤黒い光線を見て驚く。

そして、ゼロはその方向に振り向く。

ゼロが見たのは二つに分かれた両翼に8つの触手を持つ蛇竜である。

その姿はカーバンクルが見せたドラゴンと同じ姿である。

ゼロはそのドラゴンをイビロンだと気付く。

ティガ「なんなの!?!このドラゴンは!?!」

ゼロ「こいつは!！」

エレメント「イビロン・・・」

イビロンは触手から赤紫色の光線を放ち、Uキラーザウルスに浴びさせる。

するとUキラーザウルスは赤紫色の球体に包まれ、光線を放った触手に吸い込まれる。

ゼロ「なに!?!Uキラーザウルスが!！」

マリリン「あいつに吸い込まれたっしゅ!！」

ブラック「ありえない！」

イビロンはUキラーザウルスを吸い込んだ後、目を赤く光らせる。

すると、イビロンの真下に黒い穴が現れ、そのままその穴に入った。

その後、穴が消えてしまった。

ゼロ達はその光景を呆然と見届けるしかなかった。

しばらく経った後、ゼロ達は変身を解き、ディアーナと合流した。

真理奈「なるほど、道理で見つからなかった訳ね。」

真理奈はシン達からヤマザギが妖精の世界でイビロンを蘇らせたことを知る。

ディアーナ「これは由々しき問題です。イビロンは強い力を持つ獣を従わせ、破壊の

限りを尽くしたのです。それを人間の手で蘇らせるなんて・・・」

まのん「ディアーナ・・・」

まのんはディアーナに心配をかける。

真理奈「元氣出しなよ、ディアーナ。あんたがそう言われると、イビロンが復活したのは私達の所為だと言ってやるような口振に聞こえるんだよね。けどそれは違うから。私達はいいつとは違う。言葉足らずだけど、これは本当の話だからね？」

真理奈はディアーナを慰める。

シン「ディアーナ、俺の仲間のAはヤプールって卑怯者の作戦で人間とウルトラマン

の絆を壊した。ヤプールはサイモン星人に変装して人間に守られていた。Aはその宇宙人の正体がヤプールだと気づき、殺したんだ。それがきっかけで人間との信頼を失った。」

シンはディアアーナにAについて話す。

シン「優しさを失わないでくれ。弱い者を労わり、互いに助け合い、どこの国の人達とも友達になろうとする気持ちを失わないでくれ。例え、その気持ちが何百回裏切られようと。・・・てな。俺は皆を信じてここまでやって来た。これからもな。だからお前も俺達の事を信じてくれ。俺達はもうダチだからな。」

シンは笑顔でディアアーナにそう言う。

ディアアーナ「シン・・・はい。あなたの言う通りです。私はまのんを信じてイビロンの事をあなた達に伝えるよう言いました。そんなあなた達を信じないなんて私自身が許しません。」

まのん「ディアアーナ。」

ディアアーナ「シン、ありがとうございます。どんな時も皆さんを信じます!」

シン「おう!」

ディアアーナはシンに感謝する。

まのんはそのディアアーナを見て嬉しそうな表情を見せる。

真理奈（どこの国の人達とも友達になろうとする気持ち・・・か・・・）

真理奈はスパークレンスを見て眩く。

デイアーナ「皆さん。先程お伺いしたかった事を話します。マヤの過去やキュアイー
ジスの誕生を。」

デイアーナはシン達にマヤがキュアイージスになる経緯を話す。

しかし、その経緯は次のお話で。

イーゼス、誕生の秘密

まのんの案内で真理奈の家に訪れるシン達。

そしてその家にある『デイメンジョンゲート』で繋いでいる妖精の世界の無人島に足を踏み入れた。

そこでダイアーナと出会い、カーバンクルが見せたヤマザキの行いとイビロンの復活を目の当たりにした。

その直後、Uキラーザウルスが現れ、戦闘に入る。

しかし、そこにイビロンが現れ、Uキラーザウルスを吸収し、消えて行った。

Uキラーザウルスとの戦いを終えた後、シン達はダイアーナからマヤについて聞き出す。

まのん「ダイアーナはマヤさんと会ったことあるの？」

ダイアーナ「ええ。マヤはジコチューの軍団がトランプ王国に攻め込まれた時、まのんのように地上から落下してジュエル鉱国に訪れたのです。ジコチューに襲われて混乱してしまっただのか、彼女には恐怖を覚えました。」

ダイアーナの話からすると、トランプ王国がジコチューの襲撃に遭われ、国民達がジ

コチューとなり、滅亡された時、マヤはその最中、トランプ王国からジュエル鉱国に繋がっている穴に落ちてしまい、まのんと同じように気を失ってしまった。

真理奈「そーいやまのん、1年前に母さん達が仕事してる最中、岩陰にある穴に落ちてたっけ。」

まのん「あ、あれはくると遊んだ時に間違つて踏み外してただけだもん！」

真理奈「気張ることじゃないでしょ？」

まのん「うう・・・もう！私の事はどうでもいいでしょ!？」

まのんは真理奈の指摘に癪が障り、怒り出す。

ディアーナ「あの・・・お話を続けても？」

ディアーナは2人を見て話を続けていいか聞く。

まのん「あ、どうぞ。」

真理奈「いいよ、続けて。」

真理奈とまのんは話を続けるよう促す。

ディアーナ「私の国で目覚めた彼女はトランプ王国の事で酷く落ち込んでいましたが、私の案内の元でメイジャーランドに連れて行き、そこに匿わせることにしたのです。」

ディアーナはトランプ王国が滅んだことを知ったマヤをメイジャーランドで住まわ

せたことを話した。

つぼみ「え？メイジャーランドにも繋がっていたんですか？」

つぼみはその話を聞いて、メイジャーランドにもジュエル鉱国と繋がっていたことを知り、ディアーナに聞き出した。

ディアーナ「はい。ジュエル鉱国は世界中の大地に繋がっていますから。話を戻しますが、長い月日が経った後、トランプ王国にジコチューの脅威が失い、平和を取り戻しました。しかし、マヤの心の傷は癒されていませんでした。」

ディアーナの話の内容はキュアハートがプロトジコチューを倒し、トランプ王国に平和を取り戻し、トランプ共和国へと生まれ変わった時だった。

しかし、マヤの心は虚しいままだった。

ディアーナ「その訳はマリー・アンジュ王女だったのです。」

真琴「！」

真琴はマヤの心の傷の訳はアンジュであることを知り、動揺する。

ディアーナ「そして、そんなマヤに誘いがあったのです。」

咲「誘い？」

ディアーナ「はい。マヤを誘ったのは行方不明になっていたトランプ王国の戦士デニーズ・ポーカードだったのです。彼もジコチューの襲撃の時に生き延びてきました。」

ディアーナはその時のマヤの事を話す。

真琴「デニーズ・・・さん・・・」

真理奈「剣崎？」

シン「知ってるんだな、そのデニーズのこと。」

シンは真琴が俯いているのを見て言う。

シン「あの映像を見た後、気になつていたんだ。あの時はヤマザキがイビロンを蘇らせたからその表情になつたのかと思つたが、本当はヤマザキが言つていたそいつの事で俯いてたんだな？」

シンは真琴が俯いている理由を述べる。

真琴はシンが述べた理由に頷く。

なぎさ「・・・で、どんな人なの？その・・・デニーズって？」

なぎさはデニーズについて聞き出す。

真琴「デニーズ・ポーカーさんはトランプ王国の騎士の中で強く誇り高い戦士だった。彼は国の為に力を尽くしてきた。ジコチューとの戦いにも屈することなく立ち向かってきたけど、それ以来会うことがなかった。」

真琴はデニーズ・ポーカーの事を話す。

えりか「その人がヤマザキとマヤと手を貸してたんだね。」

いつき「どうしてそんなことを？」

えりかといつきはデニーズの行いに疑問を持つ。

ディアーナ「デニーズは今のトランプ共和国の政を快く思いませんでした。真琴、今のトランプ共和国は人間界と交流を深めているそうですね？」

真琴「あ、はい。四葉財閥の飛行船が行き来する等、友好関係が築かれました。」

真琴はディアーナの質問に答える。

ディアーナ「しかし、デニーズはその国の政では国民が墮落を生み、破滅へと向かうと考えていたのです。デニーズがヤマザキという人と会った経緯は分かりませんが、彼はメイジャーランドに訪れ、そこに匿っていたマヤに会いました。」

ディアーナはデニーズがマヤと会った経緯を話す。

真理奈「じゃあ、マヤがショックを受けたのはそのデニーズって人からアンジュっていうお姉さんの身に何かあったことを知ったから。そういう事なの？」

ディアーナ「そうです。アンジュ王女は真琴が知つての通り、2つの心に分かれ、存在そのものが失われてしまったのです。」

真理奈、まのん「なっ!？」

真理奈とまのんはアンジュの末路に絶句する。

真琴「その2つの心は亜久里ちゃんとレジーナとして生まれ変わったの。黒く染まっ

たプシユケーの片割れと、染まらなかつたプシユケーの片割れからね。エターナルゴールデングラウンの力で記憶が蘇つた亜久里ちゃんはレジーナと決着をつけに行つたの。」

まのん「それで、どうなつたんですか？」

まのんは動揺しながら亜久里とレジーナのその後の事を真琴に聞く。

真琴「マナ達が亜久里ちゃんとレジーナを止めてくれたおかげで、争い合うことはなかつたの。だけど……プロトジコチューを倒した後も……王女様が戻ることはなかつた……」

真琴は涙を流しながら話す。

まのん「真琴さん……」

まのんは真琴を抱き締める。

ディアーナ「ご、ごめんなさい。私が無神経なことを……」

ディアーナは真琴に対してバツ悪そうに言い出す。

真琴「大丈夫です……続けてください。」

真琴は涙を拭つてディアーナに話を続けるよう言い出す。

ディアーナは「分かりました。」と告げ、話を続ける。

ディアーナ「デニーズからその事実を知つたマヤは真理奈が仰つた通り、憔悴してし

まいりました。そんなマヤにデニーズは愛の結晶とプリカードファイルを渡したのです。」

ディアーナの口からデニーズがマヤに愛の結晶とプリカードファイルを渡したことを告げる。

シン「愛の結晶?」

ディアーナ「はい。その結晶は少女の強い気持ちに反応し、プリチェンミラーとプリカードに変わるのです。ヒメルダ王女もその結晶の力で変身する力を得ました。」

ディアーナはシンに愛の結晶について説明する。

ディアーナ「デニーズはマヤにプリカードファイルはカードを全て埋めることで、どんな願いでも一つだけ叶うことができることを教えました。」

ディアーナは続けてプリカードファイルについて説明した。

真理奈「マヤが海外のプリキュアを倒し、プリカードを奪ったのはアンジュのお姉さんを蘇らせるためってことなのね。」

ディアーナ「はい。デニーズはアンジュ王女を蘇らせる方法もマヤに教えたのです。それだけではなく、デニーズはトランプ共和国に革命を企てていたことも教えました。」

まのん「革命・・・」

ディアーナ「そしてデニーズはアンジュ王女を蘇らせることを条件にトランプの地を

取り戻すために誘ったのです。マヤはアンジュ王女の為ならばとデニーズの条件に呑みました。」

「ディアーナはマヤがデニーズの誘いを受けたことを話す。

「まのん」・・・そんな・・・」

「ディアーナ」それからしばらくして、デニーズはトランプ共和国の政に反する者を集め、ユグドラシルという革命軍を設立したのです。」

「ディアーナはデニーズが同志を集め、革命軍を集めていることを告げる。

真理奈「じゃあ、デニーズはトランプ共和国を攻める準備を始めているってわけね。モロボシのお兄さんから聞いた話だと、ヤマザキが持っている怪獣を操る杖はデニーズからもらったわけだから、イビロンを操ってさつきみたいに怪獣を連れ込んで、いつでも攻撃できるように策を練っている。」

「真理奈はディアーナの話とシンから聞いた話を考え、結論付ける。

シン「どうやらこの事をタロウ達に話した方がいいだろうな。」

シンはディアーナから聞いた話を他のウルトラマンに教えることにする。

「真理奈「剣崎、今の話からするとキュアイーゼスと戦うことになるけど大丈夫なの？」
「真琴」・・・ええ。友達と戦うのは辛いけど、王女様の為にも、私達が取り戻したトランプ共和国の為にも、私はマヤの心の闇を切り開き、光を照らすわ。必ず。」

真琴は真理奈の問いに答える。

真理奈（やっぱプリキュアって強いな・・・眩しいよ。）

くるる「キュウ。」

くるるは真理奈の肩に乗る。

真理奈「どうやら、いらぬ心配みたいだったわね。」

シン達はディアーナの話を終えた後、無人島を後にした。

その直後、ディアーナは真理奈に呼びかける。

ディアーナ「真理奈。」

真理奈はディアーナに呼びかけられ、振り向く。

すると、ディアーナは手を翳すと、光が集約し、その光から剣の形をした掌大の透明の小さな石が現れる。

ディアーナ「受け取ってください。ジュエル鉱国に伝わるお守り、『閻魔の剣』です。」

真理奈「お守りか・・・大切にするよ。」

真理奈はディアーナから『閻魔の剣』を受け取る。

その頃、アメリカのグランドキャニオンで細長い体をしたカミキリムシのような怪獣が2人のウルトラマンと戦っている。

その怪獣の名は宇宙恐竜ハイパーゼットン。

バット星人がフューチャーアースに連れ込んだゼットンの進化系である。

ゼロ、ダイナ、コスモスが相手にするも、歯が立たず、窮地に陥れた。

そのハイパーゼットンと戦っているのはマックスとメビウスである。

メビウスはメビウムブレードでハイパーゼットンを斬りかかるが、テレポートで躲した後、メビウスを薙ぎ払う。

マックスはマクシウムソードを放ち、分身させてハイパーゼットンを襲い掛かる。

しかし、ハイパーゼットンはバリヤーを張り、マクシウムソードを弾く。

最後に残った1つのマクシウムソードは地中に入る。

メビウスはハイパーゼットンにメビウムスラッシュを放つ。

ハイパーゼットンはメビウムスラッシュを吸収し、火球を放つ。

メビウスはメビウスデیفエンサークルで火球を防ぐ。

その時、ハイパーゼットンの後ろからマクシウムソードが現れ、ハイパーゼットンの翼を切断される。

マックス「メビウス！」

メビウス「はい！」

マックスはマックスギヤラクシーを、メビウスはメビウムブレードを構える。

その時、ハイパーゼットンの真上に黒い渦が現れるのをマックスとメビウスが気付く。

その渦からイビロンが現れる。

マックス「なんだ!？」

メビウス「!？」

イビロンは触手から赤紫色の光線をハイパーゼットンに当てる。

よってハイパーゼットンは赤紫色の球体に包まれ、イビロンの触手に吸収される。

メビウスはメビウムスラッシュを放つが、イビロンは即座に渦の中に入り、消えて行った。

マックス「あのハイパーゼットンを吸収するとは……」

メビウス「あの怪獣は一体……」

マックスとメビウスは消えた渦があつた空を見上げて呟く。

妖精の世界での戦い

Uキラールザウルスとの戦いの後、シン達はデИАーナからマヤについて聞く。

マヤがキュアイージスになったのは革命軍ユグドラシルを設立した元トランプ王国の騎士、デニーズ・ポーカールの計らいでプリチェンミラーとプリカードファイルを手に入れ、トランプ王国の王女であり、ジヨナサン・クロンダイクの婚約者でもあるマリー・アンジュ王女に対する愛によって、キュアイージスに変身するようになったことが分かった。

ユグドラシルは闇の秘宝の一つである、多くの怪獣を操るモンスターズリーダーを所有し、イビロンを操り、トランプ共和国を攻め込む準備をしていることも知った。

その後、真理奈はデИАーナからジュエル鉱国に伝わる『闇薙の剣』を受け取った。

その晩・・・

まのん「終わった・・・fatigue（疲れた）・・・」

まのんは宿題を全て仕上げた後、机に突っ伏してしまふ。

真奈美「まのん、お疲れ様。」

真奈美はまのんの傍に水を入れたコップを置いた。

まのん「メルシー、ママ。」

まのんはコップを手に取り、水を飲み干す。

まのん「あの・・・ママ・・・今朝はごめんね。」

まのんは朝の時に真奈美にシン達を連れて『デイメンジョンゲート』に勝手に入ったことを謝る。

真奈美「謝らないの。シン君達に秘密にするように言ったんでしょ？何も心配いらないわ。それに前にも言ったでしょ？もし悪用する人が来たら何度も止めるって。」

まのん「ママ・・・」

まのんは真奈美の言葉を聞いて安心した。

一方、真理奈は自室で『闇薙の剣』をジツと見つめながらベッドの上で寝転がっていらる。

真理奈「心の闇を切り開き、光を照らす・・・か・・・」

真理奈は真琴の言葉を思い出して俯いている。

くるる「キュ・・・」

真理奈はくるるに呼びかけられ、くるるに振り向く。

真理奈「くるる、私の事は大丈夫よ。」

真理奈はくるるに大丈夫と言い出す、くるるは先程まで俯いていた真理奈に心配す

る。

真理奈（ティガの事は何なのか分からないけど、ティガと一緒に戦っていく内に分かってくるような気がする・・・）

真理奈は再び『闇薙の剣』をジッと見つめる。

次の日・・・

ゼロ「デエヤアアアアアアアツ!!」

ゼロはウルトラゼロキックで全身が目玉だらけの怪獣を蹴り飛ばす。

ゼロが蹴り飛ばした怪獣は奇獣ガンQ。

巨大な目玉から発する吸引光線で物体を吸収することができない不条理の塊と言われた怪獣である。

ウルトラマンガイアを吸収し、精神攻撃で苦しませた。

ゼロはガンQに向かって走り出し、殴りかかろうとするが、ゼロの背後から強烈な衝撃を与えられる。

ゼロ「グオツ!?!」

ゼロはその衝撃によって倒れ、振り向くと、腹に五角形の印が付いている鳥のような怪獣が降り立った。

その怪獣の名は宇宙大怪獣ベムスターである。

腹部の五角形の口であらゆるエネルギーを吸収することができる怪獣である。

ウルトラマンジャックのスペシウム光線をも吸収してしまい、ジャックを追い詰めたことがある。

ゼロ「このメンツ、怪獣墓場以来だぜ。」

ゼロはガンQとベムスターを見て、怪獣墓場で戦った時の2体を思い出す。

ゼロ「特徴は分かっているが、一応試してみるか。」

ゼロは高く飛び上がると同時に、ベムスターも飛翔する。

ゼロ「ワイドゼロショット！」

ゼロはワイドゼロショットでベムスターに撃ち込む。

ベムスターは吸引アトラクタースパウトでゼロの光線を吸収する。

すると、ガンQの巨大な目玉からワイドゼロショットが放射し、ゼロに命中する。

ゼロはその光線を喰らわれる。

ゼロ「へっ！そんなんじゃないかと思ったぜ！」

ゼロはルナミラクルゼロにタイプチェンジする。

ゼロ「パーティクルナミラクル！」

ゼロは光を纏ってベムスターの腹の口に向かって飛翔する。

ベムスターはそのまま吸収する。

しかし、しばらく経った後、ベムスターとガンQの様子に異変が起きた。

そして、ガンQの目玉からゼロが現れる。

その直後、ベムスターとガンQが爆散した。

ゼロは光を纏って、シンの姿に戻る。

シン「ふう……流石にあれはきつかったぜ……」

シンは岩の上に座り込んで溜息を吐く。

今、シンは目の前に湖の上に建っている城が見える丘の上にいる。

その目の前にある城はピンク、青、黄色、赤の虹がかかっている。

この城がホープキングダム城である。

ホープキングダムはデイスダークの魔の手によって国民達を檻の中に閉じ込められ、その檻を絶望の扉の中に封印されてしまい、魔女デイスピアの物になってしまった国である。

Go!プリンセスプリキュアの活躍によってデイスピアを倒し、プリンセススキーの力で絶望の扉の中に閉じ込められた国民達を解放し、ホープキングダムも元通りとなり、

再び平和となった。

それから現在に至り、他国との交流も深めている。

その王国で先程怪獣と戦ったのはゼロだけではなかった。

スカーレット「羽ばたけ、炎の翼！プリキュア・フェニックス・ブレイズ！」

エレメント「燃え上がる炎よ、焼き払って！プリキュア・ファイヤーボール！」

スカーレットとエレメントはそれぞれの技を放つ。

その2つの技はティガと戦っている凶悪な面構えをした巨大な魚のような怪獣に命中する。

その怪獣の名は巨大魚怪獣ゾアムルチ。

環境汚染によって突然変異された巨大魚怪獣ムルチをメイツ星人が生体改造した怪獣である。

仲間を殺した憎しみによって目覚め、メビウスに差し向けた。

ゾアムルチはスカーレットとエレメントの技を喰らって怯む。

ティガはゾアムルチに蹴りを入れ、後ろに後退させる。

ゾアムルチは口から光線を放射する。

ティガはウルトラシールドで光線を防ぐ。

フローラ「舞え、バラよ！プリキュア・ローズ・トルビヨン！」

フローラはプリキュア・ローズ・トルビヨンでゾアムルチは怯ませる。
フローラ「今だよ！」

ティガ「ええ！」

ティガはゾアムルチにゼペリオン光線を放つ。

ティガの光線を受けたゾアムルチは爆散される。

ティガはゾアムルチの戦いを終えた後、真理奈の姿に戻る。

フローラ達も変身を解き、真理奈の元に駆け付ける。

まのん「お姉ちゃん、e s t i c e q u e ・ a v a（大丈夫）？」

真理奈「平気よ。昨日戦った恐竜モドキに比べればマシな奴だったわ。」

真理奈が言う恐竜モドキはヒキラーザウルスの事を言っている。

今戦ったゾアムルチはヒキラーザウルスには及ばないと真理奈は確信するように言い出す。

はるか「ありがとう、まのんちゃん、真理奈さん。わざわざ来てくれて。」

まのん「気にしないでね、はるかちゃん。私もみんなの力になりたいわけだし。」

真理奈「とは言え、父さん達が開拓していた無人島がホープキングダム近くにあるなんて思わなかったけどね。」

真理奈は海の城の先の海を見つめると、距離はかなり離れているが、『ディメンジョン

ゲート』で訪れた無人島があるのを確認した。

シン「よう。どうやら終わったようだな。」

はるか「シンさん。」

トワ「そちらも倒したのですか？」

シン「ああ。」

シンはニツと笑みを浮かべながら言う。

真理奈「怪獣を倒した後、家に帰ろうと思ったけど、もう一度テイガになる元気ない

わ・・・」

まのん「くるるも今の戦いでクタクタになっちゃってるよ・・・あの鳥の怪獣と戦う

のに無駄に力を使ったからね・・・」

真理奈は手に膝をついて疲れ切った表情で言う。

まのんも寝そべていたクルルを見て言う。

ちなみにまのんが言ってた鳥の怪獣はベムスターの事である。

シン「んじや、ここで少し休むか。トワ、いいか？」

トワ「ええ、怪獣達を私達の国を救ってくれた礼もしなければなりませんし。」

真理奈「いいよ、礼なんて。少し休むだけだからさ。」

真理奈は苦笑いしながらトワに言う。

シン達はガンQ達を倒した後、ホープキングダムでしばらく休むことにした。

シン「4199・・・4200・・・4201・・・」

シンは一室のバルコニーで腕立て伏せを片腕でやっていた。

真理奈「全く・・・モロボシのお兄さんは国の真っ只中にいるのに筋トレなんて・・・それに5000回やるって普通できないわよ・・・」

真理奈はシンが腕立て伏せしているのを見て、呆れた顔で溜息を吐く。

真理奈（モロボシのお兄さんといってもロクなことしないし、部屋から出よ・・・）

真理奈はシンを無視して部屋から出て行った。

その真理奈は今、城下町に歩いていた。

真理奈「男ってめんどくさいわね・・・」

真理奈は髪をかき上げながら愚痴をこぼす。

真理奈「何か本を読んでくるの回復を待つかな。」

真理奈は一軒の建物に入る。

その中には本が沢山並べていた。

真理奈「この世界にも図書館ってあるんだな。」

真理奈は本が並べている本棚を見渡す。

その時・・・

真理奈「ん？」

真理奈は机の上に置いてある一冊の本を見つける。

その本のタイトルに『ユザレと光の巨人』と書かれていた。

しかもそのタイトルの背景にテイガのプロテクターによく似た模様が描かれていた。

真理奈「これは!？」

真理奈はその本を見て驚く。

そして、真理奈はその本を捲り始める。

ユザレと光の巨人

ホープキングダムでガンQ、ベムスター、ゾアムルチを倒したゼロ達はその後、国に止まることになった。

真理奈は城下町に下り、町の中に歩き回ると、一軒の図書館を見つけると、

その図書館で一冊の本、『ユザレと光の巨人』を見つけると、

真理奈（光の巨人ってウルトラマンの事よね？しかも表紙の模様、どう考えてもティガの物だわ・・・とにかく見てみよう。）

真理奈は本の内容を見る。

真理奈（1万年前、このホープキングダムがまだ国が築いていなかった頃、ダイヤの民が地上に暮らしていた。）

『その地には7つの光を輝かせる生き物カーバンクルが住んでおり、ダイヤの民はカーバンクルと共に日々を生きていた。しかし、そこに邪の心を持った盗賊達が攻め入り、カーバンクル達を捕らえた。カーバンクルの額の宝石を手にした者は富と名声を得ると言われている。盗賊達はその宝石を目当てに次々とカーバンクルを捕らえた。』

真理奈（カーバンクルの事も書かれていたのか・・・ダイヤの民ってジュエル鉱国に

住んでいる妖精たちの事よね・・・)

『ダイヤの民は盗賊達の悪行を止めようと抗った。しかし、その争いの中で闇が強くなり、この地は闇に覆われた。そして闇の中から人の邪な心によって地底に眠りし魔獣が姿を現した。その魔獣は邪な心を持った盗賊達に3つの力を与えた。1つはあらゆる獣を従わせる杖『モンスターズルーラー』、1つは聖なる力を封ずる球『イヴィルアイ』、1つは闇の巨人へと姿を変える石器『スパークレンス』である。盗賊はその3つの力を闇の秘宝と呼んだ。』

真理奈「なっ!?!」

真理奈は今の文章を見て驚く。

真理奈（春野のお兄さんが言ってた闇の秘宝はその魔獣が作った物だったっていうの!?!しかもこの絵、イビロンじゃないの!）

真理奈は更に絵に載っている邪な心によって地底に眠りし魔獣を見る。

その絵には黒い翼を持つ8つ足のドラゴンの姿、その姿は紛れもなくイビロンであることが分かった。

『ダイヤの民はその大いなる闇の力に為す術もなく、カーバンクルを連れ、逃げ惑った。盗賊達は闇の秘宝を手にし、全てを支配することができると豪語し、喝采をあげた。だが、その中に1人だけ快く思わない者がいた。その者の名はアムイ。彼は『スパークレ

ンス』を手にしていたが、その力でダイヤの民を苦しませていたことを悔やんだ。アムイはダイヤの民と戦った戦場に立ち、思いふけていた。そんな時、彼の前に少女が現れる。少女の名はユザレ。ユザレはダイヤの民を苦しませたアムイを支えていた。長く接していく内に『スパークレンス』はアムイの心に、ユザレの想いに反応したかのように光り輝いた。』

真理奈（ユザレの想いでスパークレンスを？）

『そして、ある孤島で魔獣は盗賊達と共にダイヤの民を追い詰めた。アムイは盗賊達を裏切り、『スパークレンス』を掲げ、巨人へと変わった。その巨人は光を纏い、身に宿した闇を封じ込めた。巨人はあらゆる脅威に立ち向かい、ダイヤの民達を救った。そして、巨人は魔獣と戦うが、『スパークレンス』は元々、魔獣によって生み出された力の塊の一つ。巨人の力では魔獣には及ばなかった。』

真理奈（光の力を得ても、イビロンを倒すことができなかつたのか・・・）

『その戦いの間、ユザレはダイヤの民を守ろうとした。しかし、ダイヤの民は拒んだ。カーバンクルが盗賊に襲われ、額の宝石を奪われ、そして殺されたから。それでもユザレはダイヤの民を守ろうとした。怪我をしたカーバンクルを治癒しながら。その時、カーバンクルの額の宝石が輝き、ユザレと共に光を包み込んだ。そしてユザレは光の衣を纏い、覆われた闇を消し飛ばした。ユザレとカーバンクルの絆によって闇を振り払っ

たのだ。ダイヤの民はその光を結びの光と呼んだ。』

真理奈（光の衣・・・プリキュアに変身したってことよね・・・）

『ユザレは巨人と共に再び魔獣と立ち向かった。そしてユザレと巨人は魔獣を追い詰める。しかし、魔獣は盗賊達の邪な心、つまり人の心の闇によって生まれた存在。結びの光によって闇を振り払っても倒すことはできなかつた。そしてユザレはある行動を起こした。魔獣を封印することを。カーバンクルと一つになつたユザレは7つの力を使うことができる。そしてその7つの力を一つにすることで魔獣を再び地の底に封印を始めた。しかし、魔獣は封印される寸前に最後の抵抗をした。魔獣は最後の力を振り絞る、巨人の胸に貫いた。その後、魔獣は封印された。魔獣を封印することに成功したユザレは虹のオーラとなつて消えて行つた。巨人になつたアムイも光となつて『スパークレンス』を残し、消滅された。人の心の闇によって魔獣は再び眠りから覚め、封印が解かれるだろう。しかし、光を宿した『スパークレンス』と人とカーバンクルの間に生まれる結びの光が残されている限り、再び闇を振り払うであろう。』

真理奈は本に書かれた文章を読み上げた。

真理奈（そんな過去があつたなんて・・・でも、どうしてそのスパークレンスが人間の世界に・・・）

真理奈は妖精の世界で起きた出来事を知つた。

しかし、スパークレンスが人間の世界にあつた理由が分からなかった。

その頃・・・

まのん「くるる、お疲れ様。」

くるる「キュウ・・・」

まのんはブラシでくるるの毛を整えている。

まのん「まさか君と出会った無人島がホープキングダム近くにあるなんて思わなかったよね。」

くるる「キュウ。」

まのんはくるるの毛を整え終えた後、真理奈がいる部屋に向かった。

？「やつほー！まのん！」

まのんは真理奈がいる部屋に向かう途中、声をかけられる。

まのんは振り向くと、きららとみなみが来ていた。

まのん「みなみさん！きららちゃん！」

みなみ「元気そうね。」

まのん「はい！」

きらら「で、まののん。ダンスの練習、上手くいってる?」

まのん「うん、ミキさんからラブさん達についていけてるって。」

きららの問いに答えるまのん。

まのん「きららちゃんは大丈夫なの、お仕事。」

きらら「うん。夏休みの終わりまでモデル活動お休みなんだよね。ま、ちゃんとレッツ

スンはしてるよ。だってあたしは、天ノ川きららだよ?」

きららはウインクしながらまのんの問いに答える。

その後、改めて真理奈がいる部屋に向かった。

その部屋のドアに到着した後、まのんはドアにノックする。

まのん「お姉ちゃん、いる?」

シン「その声、まのんか?」

まのん「あ、シンさん?」

シン「待ってる、すぐ着替える。」

しばらく経った後、部屋からシンが出て来る。

シン「お、みなみとききららも来てたのか。」

みなみ「ええ。」

きらら「さつき来てたよ。」

まのん「ところでお姉ちゃんは？一緒じゃないんですか？」

シン「ああ。筋トレしてるうちにいなくなつたな。」

シンはまのんに真理奈が部屋にいない理由を言い出す。

みなみ「町の方に行つたのかしら？」

きらら「付き合い悪い奴・・・」

きららは真理奈に対して呆れた顔をする。

まのん「ごめんなさい、お姉ちゃんつたら団体行動苦手だから。」

まのんは困つた顔で言い出す。

？「きやあ~~~~~ツツ!!」

突然、悲鳴が聞こえる。

一同はバルコニーの方に振り向くと、ほうきを跨っていた少女が無茶苦茶に飛び回りながらそのままシン達がいる部屋に突入していく。

その少女はそのままシンにぶつかる。

シン「のあぁっ!!」

シンは少女にぶつかられ、一緒に床に倒れる。

まのん「し、シンさん!？」

みなみ「大丈夫ですか!？」

きらら 「つてよく見たらリコじゃん！」

きららはシンにぶつけた少女をリコだと気付く。

リコ 「いたたた・・・ご、ごめんね・・・」

きらら 「また失敗しちゃったの？」

リコ 「し、失敗してないし。計算通りだし。」

リコは強がつて今の状況を否定する。

きらら 「今のでどこが計算通りなわけ？」

シン 「いって・・・」

シンはぶつかられた衝撃による痛みで悶絶していた。

リコ 「つてシン、大丈夫・・・」

リコは下敷きにされているシンを心配しようとした時、リコの尻に違和感を感じ、振り向くと、シンの手がリコの尻を触っていたことに気付く。

リコ 「キヤアアツ!?! (／／／／)」

リコは即座に立ち上がってシンから離れる。

シン 「リコ、いきなりぶつかってきて大声で悲鳴あげるなよ。驚くだろ？」

リコ 「だ、黙りなさい！変な所触って何言ってるのよ!?! (／／／／)」

リコは顔を真っ赤にしながらシンに怒りをぶつける。

シン「へっ!?今の感触って・・・(〃〃〃〃〃〃)」

リコ「変な所を見て言わない!(〃〃〃〃〃〃)」

シンはリコが押さえている所を見た途端、リコが更に怒り出す。

まのん「シンさん・・・」

みなみ「ふう・・・」

きらら「どさくさに紛れてラッキースケベやらかすなんてね・・・」

まのん達は呆れた表情で呟く。

みらい「リコーっ!」

ことは「大丈夫ー?」

バルコニーからみらいとことはが入り、ほうきから降りる。

リコ「全然大丈夫じゃないし!(〃〃〃〃〃〃)」

リコは顔を真っ赤にし、怒りながら言い出す。

その時、部屋の中が揺れ始めた。

みなみ「な、なに!?!」

みなみ達は今の揺れに驚く。

数分前……

はるか「カナタ、久しぶりだね。」

カナタ「ああ、はるかも元気そうだね。」

はるかは今、別のバルコニーで白い正装をしている青年と話している。

彼はプリンス・ホープ・ブランド・カナタ。

ホープキングダム王子であり、はるかとは幼い頃に出会っていた。

ホープキングダムがデイスダークに占領されてから一人で戦っていたが、Go!プリンスプリキュアと出会ってから共に戦うことになった。

夢ヶ浜で再会を果たしたものの、その時に記憶を失われた挙句、はるかを絶望させてしまう。

しかし、プリンスをを目指すことをやめなかったはるかによって記憶を取り戻す。

そしてデイスピア打倒後、ホープキングダムに平和を取り戻すことができた。

カナタ「君達が住んでいる世界で異変が起こっているようだけど、大丈夫そうだね。」
はるか「うん。今の私達は先輩のプリキュア達と一緒に戦っているし、魔法つかいプリキュアも一緒だったから頑張れたよ。それにウルトラマンも一緒に戦ってくれてるから。」

カナタ「メフィスト様から聞いたよ。この世界にも怪獣が現れたけど、彼らのおかげで何度も助かっていた。」

はるか「せつかくデイスピアを倒して平和になったと思っただのにな・・・」

はるかは現在の状況の事に俯く。

はるか「でも、みんなの夢を守る為に立ち向かうよ。」

カナタ「はるか・・・」

カナタは今のはるかを見て微笑む。

その時・・・

? 「きやあ~~~~~ツツ!!!」

はるかとかナタは悲鳴を耳に傾ける。

2人が振り向くと、ほうきで無茶苦茶に飛び回るリコと、それを追うみらいとことのはるかの姿を見つける。

はるか「ええ~~~~~っ!? みらいちゃんにリコちゃん!? それにはーちゃんまで!?!」

リコはそのまま別の部屋のバルコニーに入ってしまった。

みらいとこととはもリコを追って部屋に入っていく。

その時、急に城が揺れ始めた。

はるか「うわわわっ!」

カナタ「はるか！」

カナタははるかを抱き止める。

はるか「あ、ありがとうカナタ・・・」

はるかはカナタに助けられ、安心する。

その時、怪獣の咆哮が木霊する。

王国の外れの陸に煙の中から赤い眼に腹が緑色をして金色の体をした怪獣が現れた。

その怪獣の名は暗殺怪獣グラール。

究極進化帝王メンシユハイトがダークマターの影響で誕生した怪獣を合成して作り上げた怪獣である。

ウルトラマンネオスからエネルギーを吸収し、瀕死まで追い詰めたことがあった。

はるか「怪獣！」

グラールはホープキングダムに向かっている。

カナタ「はるか！後ろ！」

はるか「！」

はるかはカナタの声で後ろに振り向く。

はるか達の目の前に空間が歪み始めている。

その歪みから半魚人兵士デイゴンが25体現れる。

テイガの敗北

真理奈は城下町の図書館でテイガとキュアエレメントの出生を知るものの、テイガの変身に必要なアイテム、スパークレンスが人間の世界にあつた理由は分からなかった。

一方、ホープキングダム城で暗殺怪獣グラールの出現を確認するはるかカナタ。

それだけではなく、前にナッツハウスでYES！プリキュア5GOGO！が倒した半魚人兵士デイゴンが空間の歪みから現れる。

シン達はバルコニーからグラールを確認する。

シン「グラール！ネオスを瀕死に追い込んだ怪獣か！」

みらい「強そう・・・」

みなみ「！見て！」

みなみは別の方向に指を指す。

その先には空間の歪みが生じている。

そしてその歪みから左手の鎌、右手の鉄球、頭部の剣を備えた怪獣が現れる。

いや、あれは怪獣ではなく、超獣である。

その名は殺し屋超獣バラバ。

ヤプールがアゲハチョウの幼虫と宇宙怪獣を合成して作り上げた超獣の1体である。
Aと善戦するものの敗退される。

シン「あいつはバラバ！Aが倒した超獣か！」

みなみ「みんな、変身よ！」

きらら達「うん！」

きらら達は変身アイテムを取り出す。

みなみ、きらら「プリキュア、プリンセスエンゲージ！」

みらい、リコ「キュアアップ・ラパパ！サファイア！ミラクル・マジカル・ジュエリー
レ！」

ことは「キュアアップ・ラパパ！エメラルド！フェリーチェ・ファンファン・フラワー
レ！」

みなみ達はプリキュアに変身する。

マーメイド「澄みわたる海のプリンセス！キュアマーメイド！」

トウインクル「きらめく星のプリンセス！キュアトウインクル！」

ミラクル「ふたりの奇跡！キュアミラクル！」

マジカル「ふたりの魔法！キュアマジカル！」

フェリーチェ「あまねく生命に祝福を！キュアフェリーチェ！」

ミラクル、マジカル、フェリーチェ「魔法つかいプリキュア！」
まのんもくるるを抱え、目を瞑る。

くるるの額の宝石の力で光の中に包み込まれ、その中からキュアエレメントが現れる。

エレメント「繋ぎ合う7つの光、キュアエレメント！」

シンもウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを取り出し、装着する。
よってシンはウルトラマンゼロに変身する。

トウインクル「キラキラ、星よ！プリキュア・トウインクル・ハミングを放つ。
トウインクルはプリキュア・トウインクル・ハミングを放つ。

バラバはトウインクルの技を鉄球で粉碎する。

フェリーチェ「プリキュア・エメラルド・リンカネーション！」

フェリーチェはプリキュア・エメラルド・リンカネーションを放つ。

しかし、バラバはフェリーチェの技を鎌で斬り裂く。

ゼロ「これならどうだ!?!」

ゼロはゼロツインソードでバラバを斬りかかる。

その時、バラバがゼロの攻撃を受ける寸前、姿を消した。

ゼロ「なにっ!?!」

ゼロはバラバが消えたことに驚く。

ゼロは見渡すが、どこにもいなかった。

その時、ゼロの背後から衝撃を受ける。

ゼロ「ぐあっ!?後ろか!?!」

ゼロは振り向くが、いなかった。

すると、ゼロの背後から再び衝撃が走る。

ゼロ「があっ!」

ゼロはそのまま前に倒れる。

その頃・・・

フローラ「プリキュア・フローラル・トルビヨン!」

フローラはデイゴン達にプリキュア・フローラル・トルビヨンを放つ。

デイゴンは花卉に包まれて、消滅する。

しかし、デイゴンは次々と押し寄せてくる。

フローラ「キリがない!」

デイゴンはフローラとカナタを襲い掛かる。

スカーレット「燃えよ、炎よ！プリキュア・スカーレット・スパーク！」
数体のデイゴンが炎に包まれ、消滅される。

スカーレット「大丈夫ですか!？」

フローラ「スカーレット！」

カナタ「ああ、大丈夫だ！」

デイゴンは今の炎に怯んだが、すかさず襲撃する。

その頃、真理奈は先程の揺れによつて図書館から出た後、グラールの存在を確認した。

真理奈「最近、この世界にも怪獣が出てくるわね・・・！」

真理奈は町の人達に見られないように建物の陰に隠れる。

そして真理奈はスパークレンスを取り出す。

その時、真理奈は図書館で読んだ本の内容を思い出す。

真理奈（本に書かれた話が本当なら・・・）

大昔にティガに変身したアムイが光となつて消えたことを思い出し、変身をするのに少し抵抗を覚える。

しかし、真理奈はそんなことないと否定するかのように首を横に振る。

真理奈「アスカのお兄さんが言ってたじゃない！人としてできることを自分で決めてろって！」

真理奈はアスカの言葉を思い出し、スパークレンスを掲げる。

真理奈はスパークレンスの力でティガに変身する。

ティガはグラールに向かって飛翔し、そのまま突進する。

グラールはティガの突進により後ろに倒れる。

ティガはグラールにチョップを繰り返す。

しかし、グラールは口から火炎弾を放つ。

ティガは火炎弾を喰らって後ろに遠く飛ばされる。

ティガは火炎弾の威力に苦しみながらも立ち直らせる。

その時、グラールは角から光線を放つ。

その光線はティガに命中する。

ティガはグラールの光線を喰らい、ふらついて膝をついてしまう。

ティガ「なんてパワーなの・・・初めて戦ったあの怪獣より強い・・・」

ティガは前に戦ったヤナカーギーを思い出し、目の前のグラールを見て実力の違いを思い知る。

テイガは何か立ち上がらせるが、グラールに首を掴まれ、投げ飛ばされてしまう。テイガはそのまま背中から打ち付けられる。

グラールは立ち上がろうとするテイガを足で抑える。

すると、テイガのカラータイマーから光のエネルギーが放出され、そのエネルギーがグラールの口の中に吸収される。

テイガ「な、なにこれ・・・!?力が・・・!」

テイガのカラータイマーが点滅していくと同時に体が黒くなっていく。

今のテイガの姿はテイガダークと呼び、ユザレの導きによって光を取り戻す前の姿である。

しかし、それは別の世界での話。

このテイガは元々、闇の巨人。

アムイがユザレとの出会いをきっかけに光の巨人となったに過ぎないのだ。

グラールはエネルギーを吸収した後、テイガダークの足を掴み、引きずって歩き出し、その後、投げ飛ばした。

テイガダークは背中から打ち付けられる。

テイガダーク「ぐ・・・う・・・あ・・・体が黒く・・・」

テイガダークは自分の体を見て自身が黒く変わったことに気付く。

グラールはティガダークが立ち上がろうとする所を見計らい、口にエネルギーを溜め込んで、そのままビームを発射する。

グラールのビームはティガダークに直撃する。

ティガダーク「ああああああああああつ!!!」

ティガダークはグラールのビームを受け、地面に突っ伏してしまう。

ティガダークはそれでも立ち上がろうとするが、力が入らず、立つこともできなかつた。

そして、ティガダークはそのまま消滅してしまう。

その光景をゼロ達は目の当たりにした。

ゼロ「なっ!?!」

マーメイド「ティガが!」

トウインクル「まりりん!?!」

ミラクル「真理奈ちゃん!?!」

マジカル「うそでしょ!?!」

フェリーチエ「そんな!?!」

ゼロ達は驚きを隠せなかったが、ゼロ達より動揺を隠せなかったプリキュアがいた。エレメント「お、お姉ちゃああああああん!!!」

そのプリキュアはエレメントである。

エレメントのブローチの宝石が赤から紫に変わり、ティガが消えた場所へ急ぐ。しかし、姿を消したバラバが鞭でエレメントを捕らえて阻まれる。

バラバはエレメントをそのまま投げ飛ばす。

エレメント「キヤアアアアアアアアアアツ!!!」

エレメントはフローラ達が戦っていた場所に投げ飛ばされる。

一方、そのフローラ達はティゴンの集団を全員倒した。

ティゴンと戦っている最中でもティガダークがグラールにやられたことを気付いた。スカーレット「なんてことを……」

フローラ「真理奈さんが……」

フローラ達はティゴン達を倒した後、ティガダークが消えた場所を見る。

エレメント「キヤアアアアアアアアアアツ!!!」

フローラ達は悲鳴を聞き、振り向くと、エレメントがフローラに向かって吹き飛ばされていった。

フローラとスカレットはエレメントを受け止める。

フローラ「エレメント！」

スカレット「大丈夫ですか!？」

エレメント「私は大丈夫・・・でも、お姉ちゃんが・・・」

エレメントは先程の光景で涙を流していた。

その時、グラールは火炎弾でフローラ達がいたバルコニーに向けて放つ。

カナタ「危ない！」

カナタはステッキでバリアを張る。

よって火炎弾を防いだが、その衝撃でバルコニーが崩れてしまう。

グラールはそのままホープキングダム城に向かう。

その時、グラールは何かを感じ取り、後ろに振り向く。

赤い球がグラールに激突する。

グラールは後ろに倒れる。

赤い球は発光するとともに巨人の姿が現れる。

その巨人はゾフィーだ。

ゾファイはグラールに蹴りを浴びせる。

そして、続け様にグラールの頭部に蹴りを入れる。

その後、ゾファイはグラールの頭を抱え、振り回し、ホープキングダムから離すように投げ飛ばす。

グラールはゾファイに投げ飛ばされ、倒れる。

ゾファイは止めを刺そうと光線を放とうとする。

その時、グラールの真上に黒い渦が現れる。

そしてそこからイビロンが現れる。

ゾファイ「あれがイビロンか！」

イビロンは赤紫色の光線を放ち、グラールを吸収する。

その後、イビロンは黒い渦と共に消える。

ゾファイはイビロンを後回しにし、ゼロの元に行こうとするが、途中で悲しみの声を聞く。

ゾファイは振り向くと、フローラ達が倒れていたカナタに声をかける光景を見る。

フローラ「カナタ！カナタ、しっかり！」

スカレット「お兄様！」

エレメント「カナタさん！」

フローラ達はカナタの事を心配するが、目覚める様子はない。

ゾフィーは腕をクロスした後、全身に光を纏い、その光がカナタの元に向かう。光はカナタを包み込む。

フローラ達はゾフィーが放った光の眩しさに目を瞑る。

光が消えた後、フローラ達は目を見開く。

フローラ「カナタ？」

カナタ「う・・・ぐ、う・・・」

カナタはようやく気が付いた。

フローラ「カナタ！」

スカレット「お兄様！」

フローラとスカレットは嬉しさの余り、カナタを抱きつく。

カナタ「は、はるか、トワ？僕は一体、何が？」

カナタは何が起こったのか把握できていない様子だった。

エレメント「さっきのウルトラマンがカナタさんを助けてくれたんですよ。」

カナタ「ウルトラマンが？」

エレメントはカナタにゾフィーが助けてくれたことを教える。

その時、カナタのステッキが光り出す。

フローラ達はその光に気付く。

カナタはステッキを掴む。

カナタ「これは一体……」

ゼロ「カナタ、今のお前はゾフィーと一つになっている。」

カナタ達はゼロに振り向く。

ゼロはバラバの攻撃を受けながら言う。

エレメント「一つになったって？」

ゼロ「ゾフィーはカナタ、お前を救うために一心同体になったんだ。今のお前は俺や真理奈のようにウルトラマンになることができる。大切なものを守るために。」

カナタ「大切なものを……」

カナタはゼロの言葉を聞き、フローラとスカーレットに振り向く。

カナタ「……ゾフィー、一緒に戦ってくれるかい？」

カナタはステッキに向けて語り掛ける。

すると、ステッキの先端からゾフィーの幻影が浮かび上がり、ゾフィーはカナタの言葉に頷く。

カナタはステッキを天に掲げる。

すると、カナタの身に光が包み込まれ、大きくなり、巨大な光の中からゾフィーが現

れる。

フローラ「カナタが・・・ウルトラマンに・・・！」

スカーレット「お兄様・・・」

ゾフィーはウルトラ透視光線を放つ。

すると、姿を消したバラバが姿を現した。

ゼロ「へっ、こっからが本番なのによ。」

ゼロは口を拭う素振りをする。

ゾフィーはゼロの元に向かう。

フローラ「エレメントは真理奈さんをお願い！」

エレメント「うん！」

フローラはゾフィーを追って援護に向かう。

エレメントは真理奈の元へ駆けつける。

VS バラバ

ホープキングダムに現れたグラールをティガが相手にするが、グラールの強さに劣勢になった挙句、エネルギーを吸収され、ティガダークとなってしまう。

最後にグラールに止めを刺され、ティガダークは敗北を喫してしまう。

その光景を見たフローラ達はグラールの攻撃に巻き込まれて、カナタに致命傷を負わせてしまった。

だが、ゾフィーの介入によりカナタを蘇らせ、一心同体となる。

よってカナタはゾフィーに変身することが可能になった。

デイゴンの集団を倒し、グラールはイビロンに吸収された今、ホープキングダムに残っている怪獣は殺し屋超獣バラバのみ。

バラバはゾフィーに右手の鉄球を繰り出すが、ゾフィーはそれを受け止め、バラバに蹴りを入れる。

ゼロ「俺を忘れちゃ困るぜ！」

ゼロはバラバの頭部に跳び蹴りを繰り出す。

ミラクル、マジカル「青き知性よ！わたし達の手に！プリキュア・サファイア・スマー

ティツシュ！」

マーメイド「高鳴れ、氷よ！プリキュア・フローズン・リップル！」

ミラクルとマジカルはプリキュア・サファイア・スマーティツシュを放ち、マーメイドはプリキュア・フローズン・リップルを放つ。

バラバの足がミラクルとマジカルの技とマーメイドの技によって氷漬けにされる。

ゼロはそんなバラバにウルトラゼロキックをお見舞いする。

バラバはゼロの攻撃により、氷が砕かれると同時に後ろに倒れる。

バラバは立ち上がるが、その瞬間……

フローラ「舞え、ユリよ！プリキュア・リイス・トルビヨン！」

スカーレット「羽ばたけ、炎の翼！プリキュア・フェニックス・ブレイズ！」

バラバの背後からフローラとスカーレットの技が炸裂する。

バラバはフローラとスカーレットの技に怯んだ。

ゼロはゼロスラッガーを放つ。

バラバはゼロスラッガーが迫ってくる直前に姿を消した。

ミラクル「また消えた!？」

ミラクル達は辺りを見渡す。

ゼロは構えを解き、その場で動きを止める。

姿を消したバラバはゼロに鉄球を繰り出す。

しかし、ゼロは左手で受け止める。

ゼロ「二度も同じ手を通じるかよ！」

ゼロは鉄球を掴んだままバラバを蹴り出す。

今のダメージでバラバは姿を現す。

フローラ「ええ〜!？」

ミラクル「見えてるの!？」

フローラとミラクルはゼロの反撃に驚く。

ゼロ「こいつが隠れるとは思わなかったから焦ったが、今度はそうはいかねえぜ！」

ゼロは肩を回しながら言う。

バラバは鞭を振り回し、ゼロに攻撃する。

ゼロは鞭を掴み、エメリウムスラッシュで鞭を焼き切った。

バラバはゼロに鞭を焼き切られたことで後退る。

トウインクル「キラキラ、流れ星よ！プリキュア・ミーティア・ハミング！」

フェリーチェ「プリキュア・エメラルド・リンカーネーション！」

トウインクルとフェリーチェはバラバに技を放つ。

2人の技はバラバの頭部に命中する。

バラバは尻尾でトウインクルとフェリーチェを捕らえようとする。

しかし、バラバの尻尾は瞬時に斬り落とされる。

バラバの尻尾を斬り落としたのはゼロだ。

ゼロのゼロスラッガーでトウインクルとフェリーチェを捕らえようとしたバラバの尻尾を斬り落としたのだ。

ゼロスラッガーはそのままゼロの手元に戻る。

ゼロ「俺のこと忘れんなよ！」

ゼロはゼロスラッガーを構えてバラバに向かって走り出す。

バラバは頭部の剣からシヨック光線を放つ。

ゼロ「ぐおっ！ぐっ！」

ゼロはシヨック光線を受け、痺れてしまう。

バラバはそのゼロを鉄球で反撃する。

バラバはゼロが倒れている所で鎌を斬りかかるが、ゼロは全て躲す。

その時、バラバはゾフィーに蹴り飛ばされる。

ゾフィー「油断するな、ゼロ。」

ゼロ「うるせえ。」

ゼロは口元を拭いながらゾフィーに言う。

バラバは火炎放射を放つ。

ゼロとゾフィーは躲す。

バラバは頭部の剣を飛ばす。

ゼロはバラバの剣を受け止める。

ゼロ「お返しだ！」

ゼロは剣を投げ飛ばし、バラバの胸に突き刺さる。

ゾフィーはバラバの左手を蹴る。

よってバラバの鎌が取れ、ゾフィーがその鎌を受け取り、構える。

ゼロはゼロスラッガーをゼロツインソードに合体させ、構える。

ゼロ「これで決まりだ！」

ゼロとゾフィーはバラバの胴体に切り裂く。

バラバはゼロとゾフィーに斬られ、ゆっくりと前に倒れ、爆散される。

フローラ、ミラクル「やったーっ！」

トウインクル「なんだかあたし達の助けはいらない感じ？」

ミラクル「マジカル、ゼロが勝ったよ！」

マジカル「な、何で私に言うのよ？（／／／／）」

マジカルはミラクルに言われて赤く頬を染める。

ゼロとゾフィーは光に包まれた後、シンとカナタの姿に戻る。

マーメイド「えっ!? カナタさん!」

トウインクル「マジ!? カナタがゾフィーになったの!」

ミラクル「えっ!? 今、カナタさんがゾフィーになったって言いました!」

フローラとスカーレットを除くプリキュア達はゾフィーがカナタの姿になったことに驚く。

シンはカナタとゾフィーの事を詳しく話した。

カナタ「正直驚いたよ。まさかウルトラマンに変身できるようになったなんて。」

フローラ「私もトワちゃんもびっくりしたよ。」

トウインクル「そりゃあ、はるはるの未来のお嬢さんがウルトラマンになったって聞いたらね。」

フローラ「ええ〜〜っ!? (〃〃〃) き、きららちゃん、未来のお嬢さんって! (〃〃〃)」

フローラはトウインクルに言われて顔を赤くなりながら慌てる。

シン「それより急げ。真理奈を探さないとな。」

ミラクル「!そ、そうだね!」

マジカル「急ぎましょ!」

シン達は足早に真理奈を探しに行った。

その頃、エレメントはグラールに倒されたティガダークがいたホープキングダムの外にある森に辿り着き、真理奈を探した。

エレメント「お姉ちゃん！お姉ちゃん、どこ？お姉ちゃん！」

エレメントはあちこち見渡しながら真理奈を呼ぶ。

その時、木の上から何かが降りて来た。

しかし、人ではなく、異形の怪物である。

その正体は前にエレメントが無人島で倒したバグバズンブルードである。

その数は10体である。

バグバズンブルードはエレメントを襲う。

エレメント「邪魔しないで！」

エレメントのブローチの宝石が紫から赤に変わる。

エレメント「燃え上がる炎よ、焼き払って！プリキュア・ファイヤーボール！」

エレメントはプリキュア・ファイヤーボールを放つ。

10体のバグバズンブルードはエレメントの技を受け、火達磨となり、消滅された。

エレメント「お姉ちゃん・・・どこなの・・・？」

エレメントは息を切れながら辺りを見渡す。

その時、木が激しく揺れる音を聞く。

エレメントはその音を聞き、身構える。

その時、エレメントのブローチの宝石が赤から黄色に変わる。

エレメント「くるる？」

エレメントはブローチの宝石を見てくるるに語り掛ける。

エレメント（？声が聞こえる？くるるじゃない・・・ずっと近くから・・・）

エレメントは構えを解いて、耳を澄ませるように目を瞑る。

エレメント「・・・えっ!？」

エレメントは目を見開く。

その後、木の揺れる音がなくなった。

エレメントはそれに気づく。

エレメント（もしかして、黄色だと植物の音が聴けるのかな。）

エレメントはブローチを見て眩く。

エレメント「とにかく行ってみよう。」

エレメントは先へと進んだ。

進んだ先に兎、リス、ハトなどと出会い、それらの声を頼りに真理奈を探した。

エレメント（すごい、動物たちの声も聴けるなんて。これがカーバンクルの力……）

エレメントは真理奈を探しながらカーバンクルの力を改めて実感する。

エレメント「あっ！」

エレメントは何かを発見した。

エレメントが見つけたのは真理奈である。

エレメント「お姉ちゃん！」

エレメントは真理奈を見つけて駆けつける。

エレメント「お姉ちゃん、しっかりして！お姉ちゃん！お姉ちゃん!!」

エレメントは何度も真理奈を呼びかけるが、目覚める様子はなかった。

エレメントが真理奈を呼びかける最中、真理奈の手元に『ユザレと光の巨人』の本と

黒く染まったスパークレンスがあった。

しばらくして、シン達も真理奈を見つけ、エレメントと一緒にホープキングダム城に

連れて行った。

真理奈の手元にあった本と黒いスパークレンスも回収した。

光の巨人の謎を探れ!

ゾフィーの加入により、バラバを倒したゼロ達。

エレメントは真理奈の消息を確認したが、グラールとの戦いで戦闘不能に陥っていた。

シン達もエレメントと合流し、真理奈をホープキングダムに連れて行った。

今、真理奈はシンと使っていた部屋で療養している。

シン達は広場で待っている。

まのん「お姉ちゃん……」

まのんは悲愴な面持ちで俯く。

はるか「まのんちゃん……」

はるかはそんなまのんの様子を見て不安そうな顔をする。

それは皆も同じだろう。

しばらく経った後、シン達の元に来た医者から真理奈の状態は命に別状はないものの、未だ昏睡状態のままであることを伝えられている。

きらら「まのんの、元氣出しなよ。ずっとそんなんじや、まりりんに笑われるよ?」

くるる「キュウ！」

くるるは元気づけるようにまのんの頬を舐める。

まのん「くるる・・・はい、きららさんの言う通りです。ずっとこのままじゃ笑われ
ますね・・・」

まのんは涙を拭いて言う。

まのん「くるる、これはお姉ちゃんに必要なものだから送り届けてね。」

くるる「キュウ！」

まのんはくるるにスパークレンスを渡す。

くるるはスパークレンスを啜えて真理奈が眠っている部屋へ向かう。

その後、シン達は城内の書庫に入り、真理奈が所持した『ユザレと光の巨人』を読む。

カナタ「ホープキングダムが建国する前、そんなことが・・・」

まのん「まさか、モンスタースターズリーダーやイヴィルアイだけじゃなく、スパークレン
スもイビロンが作った物だったなんて・・・」

カナタ達は本の内容を見て驚きを隠せなかった。

きらら「けどさ、まりりんの話だと、スパークレンスは小泉学園で見つけたんだよね
？」

まのん「うん、お姉ちゃんが図書館で宿題した帰りに見つけたって。」

まのんは真理奈がスパークレンスを手に入れた経緯を話す。

みなみ「誰かが私達の世界に持ってきたのかしら？」

リコ「だったら、誰が？」

みなみとリコはまのんの話を聞いて気になっていた。

？「あ！いたいた！」

シン達は振り向くと、クリシスがいた。

シン「クリシス！」

クリシス「探したよく！ぶたのしつぽ亭に行ってみればここに来てるってマナが言うてたから。」

クリシスはシンの肩を掴んで言う。

リコはその様子を見て不機嫌な顔になる。

カナタ「彼女は？」

はるか「クリシスさんって言ってね。あの人もウルトラマンに変身できるんだよ。」

はるかはカナタにクリシスの事を教える。

クリシス「おっ！なかなかイケメンだね〜！はるかの彼氏なの？」

はるか「うえ!!? (／／／／) か、かかか、彼氏!?! (／／／／)」

はるかはクリシスに言われて顔が赤くなる。

クリシス「分かりやすい反応だね〜！」

クリシスは面白半分に言い出す。

クリシス「あれ？真理奈は？まのんがここにいるから一緒にいると思ったんだけど・・・」

まのん「！・・・あの・・・お姉ちゃんは・・・」

まのんはクリシスの言葉を聞いて体を振るわせるが、真理奈の状態について話す。

クリシス「事情は分かったよ。じゃあ、真理奈の分まで頑張らなくちゃね！そして真理奈から『よく頑張ったね！』って褒めてもらおう！」

クリシスはまのんに元氣付ける。

まのん「はい。ありがとうございます、クリシスさん。」

まのんはクリシスに礼を言う。

クリシス「ところで、ここで何してるの？」

シン「ああ。この本の事で考えてたんだ。」

シンはクリシスに『ユザレと光の巨人』の本を見せる。

クリシス「ん〜？あつ！この本の模様、前に見たよ！」

シン達「えっ!？」

シン達はクリシスの発言に驚く。

みらい「今、この模様を見たって言いました!？」

クリシス「うん！」

トワ「見たって……」

ことは「どこ!？」

トワとことは慌てた様子でクリシスに問い詰める。

クリシス「加音町の図書館だよ。でも、確かこの本のタイトルと違ってたような……」

シン「とにかく行ってみようぜ。」

ことは「はー！」

シン達はクリシスと一緒に加音町に行くことにした。

しばらく経った後、加音町ではめぐみが踊りながら歌い出した。

加音町はスイートプリキュアが活躍していた町であり、マイナーランドと伝説の楽譜の音符を争奪していた。

この町に来ているのはめぐみだけでなく、いおな、誠司も来ていた。

誠司「お前な……ここは音楽の町だからってそんな風に歌うなよ……」

誠司はめぐみの様子に呆れる。

めぐみ「だって、こんなに楽しい町にいるんだよ！まるで天国に来たような。」

いおな「もう……」

いおなもめぐみの発言に呆れる。

ちなみにひめはブルースカイ王国に帰省しており、ゆうこはおおもりご飯の手伝いがあるため、一緒ではなかった。

？「おーい！」

めぐみ達は振り向くと、響と奏がやって来た。

めぐみ「響ちゃん！」

響「元氣そうだね。」

めぐみ「モチのロンだよ！」

響とめぐみはお互いに手を繋いで言う。

奏「いおなも元氣そうね。シンさんからイージスにやられたって聞いたけど。」

いおな「平氣。もう五体満足よ。またイージスと戦うことがあるから、お姉ちゃんと組み手をやってたわ。」

いおなは奏に自分は平氣だと伝える。

？「響ちゃん！奏ちゃん！」

響達は振り向くと、みらいが手を振りながら駆けつけて来た。もちろん、シン達も一緒である。

ちなみにカナタはホープキングダムに残り、国を守っている。

響「みらいちゃん！」

みらい達は響と奏、めぐみといおなと誠司にこれまでの事を伝えた。

真理奈の状態の事、真理奈が所持していた『ユザレと光の巨人』の事、そして、その本と同じ模様の本が加音町の図書館にあることを。

めぐみ「そんなことがあったんだね。」

まのん「はい。お姉ちゃんがやられた事を考えるとシヨックでしたけど、お姉ちゃん
の分までできることをやろうと思っています。」

くるる「キュウ！」

まのんはめぐみにそう言う。

クリシス「あ、あそこだよ。あそこで例の本を見つけたんだよ。」

クリシスは図書館に指を指して言う。

シン「よし、入るぞ。」

シン達は図書館に入り、クリシスが見たという『ユザレと光の巨人』の本と同じ模様の本を探し出す。

その頃、小笠原諸島の西ノ島の上空で1人のウルトラマンと両頬に袋のような物体を持った鳥の怪獣が戦っている。

そのウルトラマンはウルトラマンタロウ。

そして後者は火山怪鳥バードン。

大熊山の噴火で現れた怪獣であり、人間を食べることもある。

タロウやゾフィーを倒してしまうほどの強敵である。

バードンはタロウに火炎放射を放つ。

タロウは火炎放射を躲す。

タロウ「こいつを放っておいたらこの世界の人達が次々と食い殺される！すぐに倒さなければ！」

タロウはバードンの火炎放射を躲しながら、作戦を考える。

するとタロウは火山の火口を発見する。

タロウはバードンを誘い込むように火山の方に向かう。

火山に近付いたら、タロウはキングブレスレットを触れる。

すると、タロウは2人に分身した。

バードンはタロウの分身に攪乱され、西ノ島の火山にぶつかり、そのまま火口に入る。火山の中に入ったバードンはマグマに焼かれ、死滅される。

タロウは分身を解き、元の姿に戻る。

タロウ「バードンの後を追って行ったら、いつの間にか人間の世界に来てしまったか・・・」

タロウはゾフィーとギンガと一緒にトランプ共和国にいたが、バードンを追っていく内に人間の世界の小笠原諸島の西ノ島に来てしまった。

タロウ「とにかく戻ろう。」

タロウはトランプ共和国に戻る為、飛び去って行った。

一方、シン達は加音町で響、奏、めぐみ、いおなと一緒にクリシスが言っていた本を探していた。

クリシス「うーん・・・確かにこの図書館で見たんだけどなあ・・・」

まのん「見つかりませんね・・・」

クリシスとまのんは懸命に探している。

みらい「おお〜！シンデレラだ！」

リコ「みらい、真面目に探しなさいよ。」

リコはみらいがシンデレラの本を取ったのを見て呆れる。

めぐみ「おお〜！白雪姫もあるよ！」

誠司「お前も真面目に探せよ・・・」

誠司はめぐみが白雪姫の本を取ったのを見て呆れる。

クリシス「アハハハ。楽しそうだね〜。」

クリシスはその様子を見て言う。

すぐに本探しに戻ると、「おっ？」と声を出すクリシス。

クリシスは手を差し伸べ、一冊の本を取る。

その本のタイトルは『ルルイエに照らす光の巨人』と書かれていた。

そしてその本の模様に『ユザレと光の巨人』と同じ模様が描かれている。

クリシス「あつたーっ！見つけましたよーっ！」

いおな「ちよ！静かに！」

いおなはクリシスがいきなり声を立てたので指摘する。

皆さんにも分かっているとありますが、図書館では大声を出さないようお願いしま

す。

クリシスは『ルルイエに照らす光の巨人』をテーブルに置く。

シン「この本の模様と同じだ。それに光の巨人つて所も共通してるぜ。」

まのん「本当にあつたんだ・・・」

まのんは手に持っている『ユザレと光の巨人』の本を見て呟く。

クリシス「よし、早速読んでみるね。」

クリシスは本を捲り出す。

ルルイエに照らす光の巨人

グラールの戦いで昏睡状態に陥った真理奈。

そんな中、ホープキングダムでクリシスと再会するシン達。

クリシスから真理奈が見つけた『ユザレと光の巨人』と同じ、ティガに関わる本が音町の図書館で見つけたことを知る。

シン達は加音町で響、奏、めぐみ、いおな、誠司と合流し、クリシスが見た本を探りに行った。

そして、図書館で『ルルイエに照らす光の巨人』の本を見つける。

クリシスはその本を捲り、読み始める。

クリシス「栄華を誇っていた超古代の都・ルルイエ。その都市で大いなる闇が迫っていた。」

『闇の支配者・クトウルフはルルイエの民を殺し、ルルイエの都市を滅ぼし、世界を暗黒に染め上げた。人は皆、恐怖と絶望を前にした。ルルイエだけでなく、世界のすべてに闇を覆いつくし、光を差すことのない死の世界と化した。しかし、一人の少年は諦めることはなかった。彼の名はダルク。ダルクはクトウルフを倒すべくルルイエに発った。

ルルイエに足を踏み入れたダルクはクトウルフに挑んだ。クトウルフの闇は強く恐ろしい力だったが、彼は枉げることにはなかった。そんな彼の前に光が照らし出す。その光が形となってダルクの前に現れる。彼はそれを手に、天に掲げた。そして、彼に光が包まれ、巨人へと変わった。』

まのん「その巨人って・・・」

クリシス「うん。ティガの事だね。形となった光は恐らくスパークレンスだと思う。じゃあ、続き、読みよ。」

クリシスは続きを読む。

『ダルクが巨人になった様を見たクトウルフは悍ましき姿となり、巨人の前に立った。その姿はタコとドラゴンを掛け合わせた存在だった。そして、悍ましき姿になったクトウルフは更に闇の力に強さが増し、全世界の環境を滅ぼす程に強大になった。巨人は果敢に立ち向かうが、クトウルフの力に及ばずに敗れて、石像となってしまった。しかし、ルルイエに残っていた民の光が巨人に降り注ぎ、石像となった巨人は再び目覚めた。』

いおな「ルルイエの民の光・・・」

クリシス「ルルイエに暮らしていた民族はティガが闇の支配者を倒してくれることを信じていたんだね。そして彼らはティガに希望を託した。」

クリシスはルルイエの民の視点で言ったような口振で言う。
クリシスは続きを読む。

『巨人はルルイエの民の光を受けて金色の光を纏った巨人となり、クトウルフに再び挑んだ。巨人はクトウルフに打ち勝ち、世界中の闇が消え去り、光を差すことができた。しかし、クトウルフは身を滅ぼしていなかった。そのクトウルフは闇の瘴気となり、再び世界を闇で覆いつくそうとした。巨人は残された力でクトウルフをルルイエに封印することにした。ルルイエと共に封印されるクトウルフは巨人にこう告げる。「例えわが身が減びても、我は生まれ変わり、再び蘇る。我は恐怖、破滅、悲しみ、そして無を齎す者。人の心に闇がある限り、我は消えぬ。」クトウルフはそう言い残し、ルルイエに封印され、島ごと海の底に沈んだ。ダルクは光を受け継ぐ者が現れるまで自らを光となり、光の器『スパークレンス』を残した。再び現れるであろう闇の支配者を倒す者が現れるまで。』

クリシスは本の内容を読み上げる。

クリシス「つまりスパークレンスは確かにイビロンって怪獣が生み出したものだけ
ど、人の心の光で生まれ変わって、一緒に戦ってたんだね。」

奏「でも、どうして真理奈の近所にスパークレンスが・・・」

奏は気になっていたことを言う。

何故スパークレンスが真理奈が住んでいる小泉学園にあったのかを。

クリシス「実はね、この図書館にスパークレンスを見つけたっていう新聞の記事があったの。」

はるか「えっ!？」

みなみ「本当ですか？」

クリシス「うん。ちよつと待ってね。」

クリシスはスパークレンスを見つけた記事が載っている新聞を探しに行った。

数分後・・・

クリシス「お待たせ〜！」

きらら「もう、静かにしてつてば。周りの人に迷惑だよ。」

クリシスのハイテンションに呆れるきらら。

クリシス「この記事だよ。」

クリシスは持ってきた新聞をシン達に見せる。

するとシンは新聞の写真を見て目を見開く。

クリシス「?どうしたの？」

シン「え!? あ、いや。この写真の女の子、俺のダチに似てるなって思っただけだ。」

シンが見た写真の女の子、その少女は前にゼロが訪れたアナザースペースで出会った

エメラナ王女に似ていた。

エメラナ・ルルド・エスメラルダ王女は惑星エスメラルダの第二王女でベリアル軍が制圧された母星から逃げ出した後、惑星アヌーでナオとゼロと同化したランと出会い、バラージの盾を探す旅をしていた。

ベリアル軍との戦いから1年後、ビートスターに閉じ込められたが、ウルティメイトフォースゼロに救われ、母星に戻り、平和に暮らしている。

リコ「もしかして、その人とは特別な関係って事は？」

シン「特別な関係って？」

リコ「そ、それは・・・その・・・恋人になった・・・とか・・・」

シン「？俺とあいつはそういう関係じゃねえよ。あいつは俺とランと一緒にバラージの盾を探したダチだ。」

リコ「そ、そうなの・・・(って、なんで安心してるのよ(／／／／))」

リコはシンの言葉を聞いて安心した。

クリシス「アハハ。リコも年相応の女の子だね。」

まのん「クリシスさん、本題本題。」

クリシス「ウフフ。分かってる、分かってる。」

クリシスはまのんに言われ、本題に入る。

クリシス「太平洋の深海でルルイエを発見したイルマ財閥はルルイエを調べていく内にスパークレンスを含めた古代の遺品を見つけたんだよ。」

みなみ「イルマ財閥・・・四葉財閥や海藤グループと同じ世界有数の財閥ですね。」

クリシス「うん。今では防衛省のコネで怪獣と戦う防衛チームを作ってるみたいだよ。」

クリシスはイルマ財閥の事を話す。

トワ「では、この写真の方は・・・」

まのん「この人はイルマ・ミドリさん。私のお祖父ちゃんの研究チーム・GUTSに資金援助したイルマ・メグミさんの娘さんだよ。」

クリシス「ふうん、君のお祖父さんがイルマ財閥で働いているだけあつて知ってるんだ。」

まのん「はい。レナお姉ちゃんとダイゴお兄ちゃんの結婚式を出席した時にイルマさん達と会っていました・・・ってなんでその事を？」

クリシス「秋葉原に行く途中で真理奈のお母さんに会ってその話を聞いたの。」

まのん「そ、そうだったんですか・・・」

まのんはクリシスの口振からして、シン達と一緒にクリシスの尾行をする前に会ったのだと確信する。

まのんは再び新聞を見る。

まのん（2000年11月23日・・・お祖父ちゃんはこの日で死んじゃったんだね・・・）

まのんは新聞の日付を見て俯いていた。

その時、図書館内に地響きが生じる。

まのん「えっ!？」

シン「外か！」

シンは図書館から出る。

まのん達もシンを追うように図書館から出る。

地響きの発生源は加音町郊外であることに気付くシンとクリリス。

加音町郊外の地中から2体の怪獣が現れる。

1体は前にゼロと魔法つかいプリキュアが倒したゴルザ、もう1体は巨大なアゴを持つアリジゴクのような怪獣である。

後者の怪獣の名は磁力怪獣アントラー。

アゴから発する磁力光線で飛行機や銃器を吸収することができる隕石と共に飛来した宇宙怪獣である。

ウルトラマンのスペシウム光線でもダメージを受けることができなかった。

みらい「あーっ！あの怪獣！」

リコ「前に私達が倒した怪獣じゃない！」

シン「ゴルザ！もう1体はアントラーか！」

ゴルザとアントラーが現れた直後、再び地響きが生じる。

その時、ゴルザとアントラーの背後から多数の剣山状の背ビレを生え、右腕の棍棒が特徴的な怪獣が現れる。

その怪獣の名は閻魔獣ザイゴグ。

婆羅慈遺跡の青い石が持ち去られたことで蘇ったこの世を地獄に変えると言われて
いる怪獣である。

ウルトラマンエックスを倒し、エクステバイザーを腐食したことがある。

シン「あいつがエックスが言ってたザイゴグか！」

めぐみ「誠司は逃げてて！」

誠司「あ、ああ！」

誠司はシン達から離れる。

響、奏「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」

めぐみ「プリキュア・くるりんミラーチェンジ！」

いおな「プリキュア・きらりんスターシンフォニー！」

はるか、みなみ、きらら、トワ「プリキュア、プリンセスエンゲージ！」
みらい、リコ「キュアアップ・ラパパ！ルビー！ミラクル・マジカル・ジュエリーレ！」
ことは「キュアアップ・ラパパ！エメラルド！フェリーチエ・ファンファン・フラワー
レ！」

響達は変身アイテムでプリキュアに変身した。

シンもウルトラゼロアイを出し、ウルトラマンゼロに変身する。

クリシスもエボルトラスターを抜いて、ウルトラマンネクサスに変身する。

ゼロ「みんな、行くぜ！」

メロディ達「はい！」

ネクサス「うん！」

ゼロ達はザイゴーク達に立ち向かう。

誠司の覚悟

ゼロとラブリーとフォーチュンとG o o! プリンセスプリキュアはザイゴークを、ネクスとメロディとリズムと魔法つかいプリキュアとエレメントはゴルザとアントラーを相手にした。

ゼロはザイゴークに蹴りを入れる。

ザイゴークは一瞬怯んだが、即座に右腕の棍棒で反撃する。

ゼロ「ぐあっ!」

ゼロはザイゴークの攻撃に吹き飛ばされる。

ラブリー「ラブリービーム!」

フォーチュン「フォーチュンスターバースト!」

ラブリーとフォーチュンはザイゴークに技を繰り出す。

しかし、ザイゴークは棍棒でラブリーとフォーチュンの技を叩き付ける。

フローラ「プリキュア・リース・トルビヨン!」

マーメイド「プリキュア・フローズン・リップル!」

トウインクル「プリキュア・フルムーン・ハミング!」

フローラとマーメイドとトウインクルもザイゴークに技を放つも、期待していたほど効果はなかった。

ザイゴークはラブリー達に棍棒で攻撃する。

スカーレット「プリキュア・スカーレット・イリユージョン！」

スカーレットはザイゴークの攻撃に対し、炎のバリヤーで受け止める。

しかし、そのバリヤーにひびが生じ始める。

そして・・・

ラブリー達「キヤアアアアアアアアアアツ!!!」

ついにバリヤーが破れ、ラブリー達はザイゴークの攻撃によって吹き飛ばされる。

一方、ネクサスはゴルザの尻尾攻撃を躲し、蹴りを入れるが、背後からアントラーがアゴでネクサスを挟み込み、後ろに投げ飛ばす。

ネクサスはすぐに起き上がり、アントラーの攻撃を躲すが、今度はゴルザの超音波光線に浴びせられる。

ネクサス「キヤアアツ!!」

ネクサスはゴルザの超音波光線を喰らい、地面に倒れる。

メロディ、リズム「プリキュア・パッションノートハーモニー！」

メロディとリズムは合体技でゴルザの頭部に命中するが、ゴルザはかゆい所を掻くよ

うな動作をするだけである。

ミラクル、マジカル「プリキュア・サファイア・スマーティツシュ！」

エレメント「プリキュア・ファイヤーボール！」

ミラクルとマジカルも合体技でアントラーに放ち、エレメントもアントラーに技を放つも、アントラーの磁力光線で2人の合体技が分解するように消えていく。

ゴルザとアントラーはミラクル達に攻撃する。

フェリーチェ「リンクル・ピンクトルマリン！」

フェリーチェはゴルザとアントラーの攻撃を防ぐが、バリアが破れてしまう。

ミラクル達「キヤアアアアアアアアアアツ!!!」

ミラクル達はゴルザとアントラーの攻撃に吹き飛ばされる。

ゼロはゼロツインソードでザイゴークの棍棒と打ち合う。

ザイゴークは背中のトゲを発射し、加音町の町中に着弾する。

着弾した場所から両肩、両腕に鋭利な刃物のような部位を持つ怪獣が現れた。

その怪獣の名は閻魔分身獣ツルギデマーガ。

ダークサンダーエナジの影響で姿が変貌した怪獣である。

上海、ローザンヌ、カイロ、ブエノスアイレス、ダラスに現れたが、ゼロ、ギンガ、ビクトリー、マックス、ネクサスによって倒される。

ツルギデマーガは背中から火炎弾を放ち、町を破壊し始める。

ゼロ「あいつは！」

ネクサス「ゼロ！こいつらは私に任せて！」

ゼロ「なっ?!?お前1人じゃ……」

ネクサス「大丈夫！何とかするよ！」

ゼロ「……わかった。」

ゼロはザイゴッグとゴルザとアントラーの相手をネクサスに任せて、ツルギデマーガの元に向かう。

しかし、ザイゴッグは胸の触手でゼロを捕らえる。

ゼロ「うおっ!?!」

ゼロはザイゴッグに捕まり、地上に叩き落とされる。

ネクサスはパーティクル・フェザーでザイゴッグの触手を切断する。

ゼロは絡まった触手を投げ捨てる。

ゴルザは超音波光線でゼロを狙い撃つ。

ゼロはウルトラゼロデیفエンサーでゴルザの超音波光線を防ぐ。

フォーチュン「このままじゃまずいわ！」

トウインクル「ものすんごく不利じゃん！」

フオーチユンとトウインクルは今の状況に悩ませる。

エレメント「あれ？ラブリーは？」

くるる『キュウ！』

エレメントのブローチの宝石が赤から紫に変わり、その宝石から映像が表れる。

映っていたのはザイゴグが背中のとゲが加音町に飛ばした時、ラブリーが町の方に全速力で飛翔するところである。

つまり、ラブリーはゼロが町に行こうとする前に先に町の方へ行ったという事である。

フオーチユン「つてラブリー!?!」

エレメント「そんなに早く!?!」

エレメント達は今の映像のラブリーの行動に驚く。

そのラブリーは・・・

ラブリー「オオリヤアアアアアアアッ!!ラブリーエクスポロージョンボンバー!!」

ツルギデマーガを相手にしている。

ラブリーはツルギデマーガに技を繰り出す。

ツルギデマーガはラブリーの技に怯む。

ラブリー「ラブリーパンチングパンチ!!」

ラブリーはツルギデマーガに巨大な光の拳で殴り飛ばす。

ツルギデマーガは加音町郊外まで吹き飛んだ。

ラブリー「あっ!？」

その時、ラブリーは瓦礫の陰に倒れていた誠司を見つける。

ラブリー「誠司!」

ラブリーは誠司の元に駆け付ける。

ラブリー「誠司!しっかりして!誠司!」

ラブリーは誠司の名前を呼びかけながら瓦礫を退かす。

その時、ツルギデマーガが起き上がり、ラブリーを見つけると、腕の刃を振り下ろす。

しかし、ツルギデマーガの頭部に赤い球が命中される。

よってツルギデマーガが遠くに吹き飛ばされる。

その後、赤い球が発光した後、巨人の姿になっていく。

その巨人はウルトラマンタロウである。

ゼロ「タロウ!」

ゼロ達はタロウの登場に気付く。

ツルギデマーガは起き上がった後、熔鉄光線を放つ。

タロウ「ストリウム光線！」

タロウはストリウム光線を放つ。

互いの光線はぶつかり合うが、タロウのストリウム光線がツルギデマーガの熔鉄光線を破り、そのままツルギデマーガに命中し、爆散させる。

ツルギデマーガを倒した後、タロウのカラータイマーが点滅する。

タロウはラブリーが誠司を呼びかける声を聞き、振り向く。

タロウが目にしたのはラブリーが涙を流しながら誠司を呼びかける姿である。

ラブリーは必死に誠司に呼びかけるが、目を覚ます様子がない。

タロウは腕をクロスして全身に光を纏い、誠司に包み込む。

ラブリーはその光の眩しさに後退りし、目を瞑る。

しばらく経った後、光が治まっていく。

ラブリー「誠司？」

誠司「ん・・・う・・・」

誠司はゆつくりだが、起き上がる。

ラブリー「誠司！よかった・・・」

誠司「めぐみ？俺、一体何が・・・」

ラブリー「きつとタロウだよ。」

ラブリーは誠司の身に起こったこと話す。

そして、誠司の左袖の側面にウルトラバッジが付いているのを誠司とラブリーが気付く。

タロウ『誠司。どうやら無事のようなだな。』

誠司「うわっ!？」

ラブリー「バッジが喋った!？」

ラブリーと誠司はウルトラバッジから声が発しているのを驚く。

タロウ『突然の事ですまないが、誠司、今の君は私と一心同体になっている。』

誠司「タロウが俺と?」

タロウ『ああ。そのウルトラバッジで私になることができる。だが、それはゼロや真理奈のように命がけの戦いに身を投じるといふ事だ。どうするかは君が決めるんだ。』

誠司はタロウの忠告を聞き、考え始める。

そして・・・

誠司「俺は・・・戦う！ゼロ達と一緒に!」

タロウ『・・・理由を聞かせてもらおうか。』

タロウは誠司が戦うと来た理由を聞く。

誠司「今の俺には守りたい奴がいるんだ。でも力がなくて、ずっとそいつの後ろ姿しか見ていることができなかった。」

ラブリー「誠司……」

誠司「でも、力が手に入れば、そいつと一緒に戦って守ってやることができる……だから……力を貸してくれ！大切なものを守るために！」

誠司はタロウに覚悟の言葉を伝える。

ラブリーは誠司の言葉に嬉しくなった。

タロウ『……わかった。共に戦おう、誠司！』

誠司はタロウの言葉に頷く。

ラブリー「誠司！もし誠司がピンチになったら私が助けるから！」

誠司「分かった！」

誠司はラブリーの言葉に頷く。

誠司はウルトラバツジを手を持ち、頭上に掲げる。

よって誠司はウルトラマンタロウに変身した。

ラブリー「行こう、誠司！」

タロウ（誠司）「ああ！」

タロウはスワローキックでザイゴークの頭部に命中する。

ラブリー「ラブリーパンチングパンチ！」

ラブリーは巨大な光の拳でザイゴークの頭部に命中する。

ザイゴークはタロウとラブリーの連続攻撃で倒れる。

ゼロ「タロウ！誠司と一つになっただんな？」

タロウ「ああ。誠司の覚悟も聞いた。」

ゼロ「そうか。まあとにかく、とっとと片付けようぜ！」

ゼロとタロウとネクサスはザイゴークとゴルザとアントラーに目を向ける。

ラブリー「お待たせ！誠司も力を貸してくれてる！一緒に怪獣を倒そう！」

フオーチユン「相良君も？」

ラブリー「うん！ウルトラマンタロウになったんだよ！」

フローラ達「ええっ!?」

フローラ達はラブリーから誠司がタロウになったことを聞いて驚く。

ゼロ「お前ら！話は後だ！今はこいつらを倒すぞ！」

ラブリー達「はい！」

ラブリー達はゼロの言葉に了解する。

ゼロ達はザイゴーク達と再び戦いに挑む。

VS ザイゴーク

ティガに関する出来事を調べている最中、加音町の郊外にザイゴークとゴルザとアントラーが現れる。

シン達はザイゴーク達に立ち向かうべく、ウルトラマンとプリキュアに変身する。

その戦いの中、ザイゴークがツルギデマーガを召喚し、町を壊し始める。

そこにはツルギデマーガに破壊された町の瓦礫の陰に倒れた誠司がいた。

しかし、ウルトラマンタロウが現れ、ツルギデマーガを倒した後、誠司の命を繋ぎ止める為に一心同体となる。

誠司は大切なものを守るためにタロウと共に戦う決心をする。

そして、タロウに変身した誠司はゼロ達と共にザイゴークに立ち向かう。

ゼロはザイゴークを、タロウはゴルザを、ネクサスはアントラーを相手にしている。

プリキュア達もゼロとタロウとネクサスを援護している。

ザイゴークは胸の触手でゼロを捕らえようとする。

ゼロはその触手をゼロスラッガーで斬り落とす。

ザイゴークは口から破壊光線を放つ。

ゼロ「ウルティメイトイージス！」

ゼロはウルティメイトブレスレットからウルティメイトイージスを召喚し、ザイゴークの破壊光線を防ぐ。

ゼロはウルティメイトイージスを装備し、ザイゴークに向かって走り出す。

ザイゴークは棍棒でゼロを攻撃するが、ゼロはウルティメイトゼロソードで受け止める。

ゼロはウルティメイトゼロソードでザイゴークを切り裂く。

ザイゴークはゼロに斬られ、悶絶するが、尻尾でゼロを攻撃する。

ゼロはザイゴークの尻尾を躲す。

タロウはゴルザにスワローキックを浴びせる。

ゴルザはタロウに蹴り飛ばされるが、すぐに起き上がり、超音波光線を発射する。

タロウはタロウバリヤーで超音波光線を防ぐ。

そしてタロウはゴルザにスワローキックを再び繰り出す。

ゴルザはタロウに蹴り飛ばされる。

ゴルザは起き上がり、再び超音波光線を放つ。

ラブリー「プリキュア・ピンキーラブシュート！」

フォーチュン「プリキュア・スターストリーム！」

ラブリーとフォーチュンはそれぞれの技でゴルザの超音波光線と相殺する。

エレメント「燃え上がる炎よ、焼き払って！プリキュア・ファイヤーボール！」

エレメントはプリキュア・ファイヤーボールを放つが、ゴルザは両腕を広げて、エレメントの技を吸収する。

エレメント「ええっ!?!」

エレメントはゴルザに技を吸収されたことに驚く。

ゴルザは超音波光線を放つ。

エメラルド「プリキュア・エメラルド・リンカネーション！」

エメラルドはプリキュア・エメラルド・リンカネーションを放ち、ゴルザの超音波光線を相殺する。

ミラクル、マジカル「プリキュア・サファイア・スマーティッシュユ！」

ミラクルとマジカルはプリキュア・サファイア・スマーティッシュユを放ち、ゴルザの額に命中する。

ゴルザの額に火花が散らす。

タロウ（誠司）「よし！」

ゴルザはミラクルとマジカルに攻撃されて後退る。

タロウはゴルザの腹を蹴り、頭部を殴る。

アントラーは背中に羽根を広げて飛翔する。

ネクサスもアントラーを追うように飛翔する。

ネクサスは飛翔しながらアンファンスからジュネツスビオレにタイプチェンジする。

その後、ネクサスはパーティクル・フェザーを放つ。

アントラーは全て避け、方向転換し、ネクサスにエネルギー光弾を放つ。

ネクサスはシュトロームソードでエネルギー光弾を切り裂いた。

そして、ネクサスはすり抜け様にアントラーの羽根を切り裂く。

アントラーは羽根を失われ、地上に撃墜される。

ネクサスは地上に降り、撃墜されたアントラーに振り向くが、アントラーの姿がなかった。

その時、ネクサスの足元から砂埃が立ち込める。

ネクサスは砂埃を前に両手を顔の前に覆う。

その砂埃からアントラーが現れる。

アントラーはアゴでネクサスの胴体に挟み込む。

ネクサスはアントラーに締め付けられ、苦しむ。

フローラ「プリキュア・リイス・トルビヨン！」

マーメイド「プリキュア・フローズン・リップル！」

トウインクル「プリキュア・ミーティア・ハミング！」

スカーレット「プリキュア・スカーレット・フレイム！」

フローラ達はアントラーに技を撃ち込む。

メロディ、リズム「プリキュア・パッションナート・ハーモニー！」

メロディとリズムもプリキュア・パッションナート・ハーモニーを放つ。

フローラ達の技はアントラーのアゴに命中する。

アントラーのアゴはフローラ達の技によって失われる。

ネクサス「ありがとう！」

ネクサスはフローラ達に礼を言う。

ゴルザはタロウを殴りかかってくる。

タロウはゴルザの攻撃を繰り返される前に腹部にパンチを入れる。

よってゴルザの腹に穴が空けられる。

ゴルザは腹を抱えて苦しむ。

タロウ「ストリウム光線！」

タロウはこの機を逃さず、ストリウム光線を放つ。

ゴルザはストリウム光線を受け、爆散される。

ネクサスはセービングビュートでアントラーの体を巻き付ける。

ネクスス「次はこっちの番だよ！オーバーアローレイ・シュトローム！」
ネクススはセービングビュートで身動きを封じたアントラーにオーバーアローレイ・シュトロームを放つ。

アントラーはオーバーアローレイ・シュトロームを受け、爆散される。

ゼロ「これで残るはためえただけだぜ！」

ゼロはザイゴグに指差して言う。

ザイゴグは口から赤黒いエネルギーを溜め込む。

ゼロ「こいつで決めるぜ！」

ゼロはウルティメイトイージスを外し、ゼロスラッガーをカラータイマーに装着する。

ゼロ「ゼロツインシュート！」

ゼロはゼロツインシュートを、ザイゴグは赤黒い光線を放つ。

ゼロの光線はザイゴグの光線を破り、ザイゴグに命中する。

ザイゴグはゼロツインシュートを受け、倒れる。

その時、ザイゴグの近くの場所から赤黒い渦が現れ、そこからイビロンが現れる。
しかも、今のイビロンは八つ足の姿である。

ゼロ「イビロン！」

イビロンは翼を広げ、両翼の間から赤紫色の光線を放ち、ザイゴークを吸収する。イビロンはそのまま赤黒い渦に沈む。

ゼロ「逃がすかよ！」

ゼロはイビロンにゼロツインシュートを放つ。

イビロンは翼を覆わせ、ゼロの光線を防ぐ。

そして、イビロンはそのまま赤黒い渦の中に消えていった。

ゼロ「ちっ！逃げられたか！」

ゼロはイビロンに逃げられて舌打ちをする。

その時、ネクサスは頭を抱えて膝をつき、そのまま消滅する。

ゼロはネクサスの事を気になるが、先に町を修復し、その後で変身を解く。

プリキュア達やタロウも変身を解いた。

その後、シン達はクリシスを調べの館に連れて行った。

シン「大丈夫か、クリシス。」

クリシス「うん、大丈夫。」

クリシスは頭痛薬を飲み込む。

クリシス「フウ・・・けど、ちよつと疲れたな・・・」

クリシスは段差に寝転がる。

響「クリシスさん、こんな所で寝転んじゃ・・・」

奏「エレンが使つてる部屋があるからそこで休んでてくださいね。」

響達は今のクリシスの状態を見て苦笑いしながら言う。

クリシス「ありがとう、そうしとくね。」

響と奏はクリシスをエレンの部屋に連れて行く。

めぐみ「そういうえば、エレンちゃんとアコちゃんは？」

響「2人はメイジャーランドに帰郷してるよ。」

奏「それで今、調べの館にいるのは音吉さんだけなの。」

響と奏はエレンとアコがない理由を言う。

？「なんじゃ、どうしたんじゃ？」

響、奏「音吉さん！」

奥から工具を入っているポケット付きエプロンを身に着けている老人がやって来た。

彼は調辺音吉。

キュアミューズこと調辺アコの祖父であり、メイジャーランドの先代国王である。

彼が若かった頃、人々の負の感情によって生まれた存在・ノイズを封印したことがある。

トワは音吉に先程の出来事を説明し、響と奏はクリシスをエレンの部屋のベッドに寝

かせに行く。

音吉「そうか、イビロンが・・・」

リコ「次々と怪獣を吸収してどこかに消えて・・・イビロンは何がしたいのかしら・・・」
リコはイビロンのこれまでの行為を考えていた。

まのん「音吉さんはイビロンの事、知ってるんですか？」

音吉「うむ、わしがアコと一緒にこの町に訪れた時、君が持っている本を読んでいる男を見たんじゃ。彼は余程の研究熱心でな。イビロンの存在もその時に知ったんじゃ。」

まのんは音吉の話を聞いて目を見開く。

まのん「その人って・・・私のお祖父ちゃん、光太郎って名前じゃ?!」

音吉「うむ、あいつは妖精の世界やこの世界の事を第一に考えていた。400年前に起きたキュアアンジェと砂漠の使徒との戦いを2度と起こさないためにな・・・そうか、君は光太郎の孫か。」

音吉はまのんが祖父の名前を出した時に目の前にいる女の子が光太郎の孫だと知る。

まのん「はい。」

シン「じゃあ、真理奈が持っているスパークレンスの事もか？」

音吉「ああ。」

音吉は光太郎の事を話す。

音吉が加音町で暮らしていた頃、真理奈とまのんの祖父・新光太郎と出会っていた。その時の光太郎は白衣を纏い、少し白髪がある眼鏡をかけた老人だった。

その光太郎は『ルルイエに照らす光の巨人』の本を手に持っていた。

光太郎は音吉からメイジャーランドでアコの父・メフィストがノイズに操られ、悪行を働いた事とノイズに対抗するべく、パイプオルガンを作っていることを知った。

光太郎『事情は分かったが、そのノイズを倒すためとはいえ、自分の夢の為に作ったパイプオルガンを戦いの道具にするなんて……』

音吉『そう言うな。確かにわしは音楽の素晴らしさを伝えるために作ったこのパイプオルガンでノイズを倒そうとするのは辛いことじゃ。だがわしは世界中の音楽を守りたいんじゃ。』

光太郎『だったら、その事を含めて私に任せればいいだろ？スパークレンスもどこにあるのか見当はついた。この本に書かれてあるのが真実なら手のうちようがある。私はフランスに行つて砂漠の使徒のような侵略者が現れないように例の計画を始めようとしている。それを実行すればノイズもイピロンも……』

音吉『ズレとるな。』

光太郎はノイズの事を自分に任せろと言い出すと、音吉が溜め息まじりで言い出す。

音吉『お前の言う計画の為にわしの夢を捨てるわけにはいかん。』

音吉は光太郎にそう言うと、光太郎は何も言わなかった。

音吉「そいつがああの世に行ってしまったとはな・・・」

まのん「お祖父ちゃんが家から出て行ったのはその計画の為だったんですね・・・」

シン（真理奈が見せたあの化け物も真理奈の祖父さんの計画に関わっているのか…）

シンは真理奈が見せた異形の生命体を思い出す。

その時、シンの携帯電話から着信音が鳴り出す。

シンは携帯電話を取り出し、連絡を取る。

シン「はい、もしもし。」

？『あつ！シンさん！』

シン「マナか？」

シンにかけて来た電話の相手はマナだった。

マナ『やつとつながったく・・・』

シン「どうした？」

マナ『大変なんです！亜久里ちゃんとアイちゃんとレジーナが！』

マナは慌てた様子でシンに伝える。

シンはマナの話の内容に嫌な予感を感じた。

ユグドラシル

ゼロとネクサスは誠司が変身したウルトラマンタロウと共にザイゴークとゴルザとアントラーと戦闘に入る。

プリキュア達の援護でゴルザとアントラーを倒すが、イビロンが現れ、ザイゴークを吸収し、去ってしまう。

調べの館で調辺音吉から真理奈とまのんの祖父・新光太郎の話聞く。

その後、シンの携帯電話からマナがかけてきた。

その内容は……

シン「亜久里達がさらわれただど!?!」

マナ『そうなんです！倒したはずの怪獣も現れて、前にめぐみちゃん達を追い詰めたキュアイージスも出てきて、亜久里ちゃんとアイちゃん、レジーナを連れて行ったんです！』

亜久里とアイちゃんとレジーナがさらわれたという内容である。

マナからの話によると、シン達がテイガの関する事を調べている内に大貝町に2体の怪獣が現れた。

その2体は前にゼロとティガとネクサスがドキドキ！プリキュアとスイートプリキュアの援護の元で倒されたシルバゴンとゴルドラスだった。

ただ、そのシルバゴンとゴルドラスの体のラインが違っていた。

シルバゴンの方は体のラインの色の赤が青に変わり、ゴルドラスの方は黒色の体色が白色に変わっていた。

そのシルバゴンとゴルドラスをガイアとエックスが相手にしていた。

その間、ドキドキ！プリキュアはキュアイー吉斯と対峙していた。

ハート、ダイヤモンド、ロゼッタ『キヤアアアアアアアッ!!!』

ハートとダイヤモンドとロゼッタはイーギスの猛攻に圧倒され、変身が解除される。

ソード『閃け！ホーリーソード！』

ソードはホーリーソードを放つ。

イー吉斯『裁け！ジャツジメントソード！』

イージスもジャツジメントソードを放ち、相殺する。

エース『ハアアアッ!!』

エースはイージスに攻撃を仕掛ける。

イージスはエースの攻撃を躲し、建物の屋根の上に着地する。

そして、イージスはナケワメーケダイヤとエターナルボールを出して投げ飛ばす。

ナケワメーケダイヤは郵便ポストに、エターナルボールは自動車に貼り付く。

よって郵便ポストのナケワメーケと自動車のホシイナーへと変貌する。

ナケワメーケは投函口から無数の手紙をロープのように出し、ソードとエースを捕らえる。

イージスはソードとエースを捕らえたのを確認した後、黒く禍々しい球を取り出し、頭上に掲げる。

ソード『!その球は・・・!』

エース『まさか・・・!』

イージスが持つ球から瘴気が溢れ出し、イージスと共にソードとエースを飲み込む。

ソード『グウウツ・・・!』

エース『ううっ・・・!』

ソードとエースは球の瘴気に飲まれたことで力が失っていくような感覚を覚える。

そして、ソードとエースが変身を解かれる。

真琴『なっ?!変身が解かれた・・・!?!』

亜久里『ま、まさか、あの球は・・・!?!』

真琴と亜久里は強制的に変身が解かれたことに驚く。

イージスも球の瘴気によって変身が解かれ、マヤの姿に戻ってしまったが、表情を変

える様子もなかった。

マヤ『ホシイナー！ 亜久里様を連れて行きなさい！』

マヤはホシイナーに命令する。

ホシイナーはドアを開け、亜久里とアイちゃんを捕らえる。

亜久里『キヤアアッ！』

マナ『亜久里ちゃん！』

亜久里とアイちゃんはホシイナーの中に閉じ込められる。

ホシイナーは最大速度でマナ達から離れる。

マヤ『戻るわよ、ナケワメーケ。』

マヤはナケワメーケにそう命じ、その場から去る。

マナ『亜久里ちゃん！』

真琴『そんな・・・』

マナ達はその光景を見てることしかできなかつた。

イージスとの戦いの後、セバスチャンからレジーナがさらわれたことを知るマナ達。

ガイアとエックスが対峙していたシルバゴンとゴルドラスもまるで転送されたかのように消えていった。

マナは今までの出来事をシン達に伝えた。

その後、シン達は四葉邸に訪れた。

シン「携帯から聞いてたが、そんなことがあったなんてな。」

我夢「すまない。僕達がこの町にいながら・・・」

マナ「あつ、大丈夫ですよ！ 亜久里ちゃん達がさらわれたのはショックだったけど、助けに行くのに変わりないですし。」

我夢はマナに謝るが、マナは両手を前に出して大丈夫だと言い出す。

まのん「けど、マナさんの話だとマヤさんが使った球、きつとイヴィルアイですよね？ その力で変身が解かれた訳ですから、それをどうにかしないと・・・」

まのんはイヴィルアイについて考え込む。

その時、まのんのカバンから着信音が鳴り出す。

まのんのカバンからIpadを取り出す。

そして、Ipadのアイコンを触ると、ダニエルとキャサリンが映し出される。

キャサリン『まのん、久しぶりね。』

まのん「ダニエルさん！ キャサリンさん！」

キャサリン『真理奈の事は真奈美さんから聞いたわ。』

ダニエル『真理奈は昏睡状態になっているって聞いてる。代りに君が僕達の伝言を伝えることになるけど、いいか？』

まのん「はい。」

まのんはダニエルの了承を得るように返事する。

キヤサリン『まず、トランプ共和国の方だけど、エターナルゴルデンクラウンが盗まれたという情報を得たわ。』

マナ達「えっ!?!」

マナはキヤサリンの言葉に驚く。

キヤサリン『怪獣達がこの町から去った後、その報告を聞いた。何者かがトランプ共和国に侵入して奪われたみたいなの。』

まのん「そんな!で、足取りは掴んだんですか!?!」

キヤサリン『いいえ、まだ見つからないわ。私達、アルケミースターズは今からトランプ共和国に向かうことにした。有力な情報を得るためにね。』

キヤサリンはまのん達に今持っている情報を伝えた。

ダニエル『もう一つ報告がある。ヤマザキの事だ。』

我夢「ヤマザキの?」

ダニエルは頷く。

ダニエル『生物工学のヤマザキ・ヒロユキは三ヶ月前にオーストラリアで亡くなったことが判明した。』

まのん「亡くなった？」

きらら「でも、まこぴーの話だと誘拐犯と取引してたって聞いたよ？」

ダニエルから真琴誘拐の手引きやイビロン復活の企てをしたヤマザキが三ヶ月前に死んだことを聞くまのん達。

ヤマザキが怪しげな行動を起こしたのは最近だったので、ダニエルの言葉に疑問を持った。

ダニエル『三ヶ月前に幻影帝国の残党がオーストラリアを支配していた。ヤマザキもオーストラリアにいた。彼は自分の研究成果の為に幻影帝国の残党を相手にしたんだ。彼が使ったのはエボリユウ細胞。その細胞を移植した生物は異常な程の身体能力を身に着けることができるんだ。彼はその細胞を移植したことで怪獣へと変貌した。だが、エボリユウ細胞を移植した生物は大量の電気エネルギーを補給しなければ長く生きられないんだ。幻影帝国はその弱点を知り、エボリユウ細胞を移植したヤマザキを殺したんだ。だが、そのヤマザキが白いローブを着た何者かによって生き返らせたようだ。』

ダニエルはまのん達にヤマザキが起こった出来事を話す。

いおな「今までの事、幻影帝国まで関わっていたなんて・・・」

奏「エボリユウ細胞が怪獣に成り変わる程の力を持つなんて・・・怖い話だよ・・・」
みなみ「それで、エボリユウ細胞はその後処分されたんですか？」

みなみはエボリユウ細胞は今、どうなっているのか尋ねる。

ダニエル『いや、ヤマザキを殺してしばらく経った後、エボリユウ細胞は処分されるどころか、ヤマザキが設立した研究所で改造を行なったとその研究員から聞いた。』

まのん「・・・そんな・・・」

まのんはダニエルの返答を聞き、慄いた。

ダニエル『とにかく、真理奈から聞いたユグドラシルがヤマザキと組んでいると分かった以上、気を付けるようにしてほしい。それを伝えるために連絡したんだ。』

あります「分かりました。どのみちユグドラシルを相手にするつもりですから、注意いたしますわ。」

ダニエル『失礼。』

ダニエルはまのん達との連絡を切った。

はるか「イビロンの復活に亜久里ちゃん達の誘拐、そしてエボリユウ細胞・・・」
きさら「なんか嫌な予感しかないよね・・・」

六花「白いローブの人の事も気になるけど、ユグドラシルは闇の秘宝が2つも持っているんでしょ？」

真琴「ええ。特にイヴィルアイが厄介だわ。あれを使われたら戦うこともできないわ。」

真琴は先程の戦いを振り返り、悩み出す。

「ありす」「1万年前に実在した秘宝でしたら、あの方がご存知ではないですか？」

シン「あの方？」

シンはありますが言っていた『あの方』の事で首を傾げる。

？「それは、私の事ではないか？」

声が出た方に振り向く一同。

マナ「あーっ！あなたは!？」

マナはその声の相手を見て目を見開く。

その頃、妖精の世界にある城で大勢の人達が集まっていた。

その城の周りには町が廃墟になっており、誰も住んでいないが、城の前に集まっている人達はバルコニーに見上げて待っている。

そして、バルコニーから老齢の大柄な男が現れる。

その人物はデニーズ・ポーカー。

ジヨナサン・クロンダイクと同じ元トランプ王国の戦士。

ジコチューがトランプ王国に襲撃した時、行方不明になったが、ジヨナサンと同じく生存していた。

だが、プロトジコチューが消えた後、トランプ共和国として再建されてからトランプ共和国の政治を快く思わなかった。

そして、彼は同志を集めて革命軍ユグドラシルを組織し、クーデターを目論んでいる。そう、今この場にいる大勢の人達はユグドラシルの戦士である。

デニーズ「トランプの行く末を憂い、栄光の未来を奪還すべく集まった誇りある同志諸君！我々はいかに3人の王女を見つけ、黄金の冠も取り戻すことができた！これにより明日、神聖なる王宮の奪還作戦を執行する！そして、新たな国王の戴冠の儀を執り行うのだ！1万年の歴史を誇る偉大な、トランプ王家の統治の下、古き良き強きトランプ王国を復活させるのだ！」

デニーズはユグドラシルの戦士達の前に演説を始める。

彼の話からすると、亜久里達はユグドラシルが拠点としてこの城にいる。

デニーズ「明日こそがトランプの夜明けだ！暗黒の2年に終わりを告げ、このトランプの聖なる地に正義と世界樹の名の下に、光を齎すのだ！」

デニーズの演説に歓声の声をあげるユグドラシルの戦士達。

デニーズの演説を終えた後、バルコニーから去り、城の中に入る。

デニーズの側近「デニーズ様、アグリ王女がお目覚めです。」

デニーズ「分かった、行こう・・・」

デニーズは側近からの報告を受け、亜久里がいる部屋に向かう。

その部屋に着いて、ドアを開ける。

その部屋に亜久里がプリンセスベッドで座っている。

アイちゃんもいるが、まだ眠っている。

デニーズ「アグリ王女殿下、お目覚めはいかがですか？」

亜久里「レジーナはどこにいるのですか!?! 私達を帰してください! あなた方の目的は聞いています! 私達はあなたの思い通りにはなりませんし、このような卑劣なやり方で民の支持が得られると思ったら大間違いですわ!」

亜久里は怒りの言葉をデニーズにぶつける。

デニーズ「クロンダイクの手から国を取り戻し、あなたを確保するため手荒な手段を採るしかなかった・・・その点、深くお詫びいたします。しかしあなたには王宮にて戴冠していただきます。エターナルゴルデンクラウンは既に私の手の中にある。あなたが女王として即位し、トランプは王国として生まれ変わるので。」

デニーズは亜久里にそう言う。

亜久里「いいえ! 私は即位などしません! 国を統治する者を選ぶのは民です! 一部の

人間の野望ではありません！私達を捕らえても無意味です！解放してください！」

亜久里はデニーズに対し、反対の声をあげる。

デニーズ「あなたが即位されないのであれば、私が即位することになります。」

亜久里「それは残念ですわ！エターナルゴルデンクラウンは王家の者にしか、その輝きを齎しません！あなたが戴冠した所で何も起こらないでしょう！」

デニーズ「そう、王家の者でなければならぬ……だが、私が王家の人間となれば話は別です。」

亜久里「それは、どういう意味ですか？」

亜久里はデニーズの言葉に表情が強張る。

デニーズ「……わかりきったこと……私とあなたが婚姻を結ぶという事です。」

亜久里はデニーズの言葉を聞いて顔色が悪くなる。

亜久里「な……なん、で、す……って……？」

デニーズ「トランプの憲法では、王族の婚姻に年齢の制限はありません。歴史上でも、生誕したばかりの皇太子が婚姻を結んだ例もあります。」

亜久里「そ、そんなこと……」

デニーズ「悍ましいとお思いでしょう……そう、これは悍ましい手段です……トランプの輝かしい日の出には相応しくない……だからこそ、あなたのご意思による即

位をご期待しておりますよ……明日までにご決断をお願いします、アグリ王女様……」

デニーズは部屋から出る。
デニーズの言葉に衝撃を受け、涙が出そうになる亜久里。

闇の三種の神器

調べの館で音吉から新光太郎の話をしている途中、マナから連絡が入った。

その内容は亜久里、アイちゃん、レジーナがキュアイービスにさらわれた事だった。

ユグドラシルのトップ、デニーズ・ポーカーは亜久里を利用し、トランプ共和国に終符を打とうとしていた。

イヴィルアイの力で変身を解かれることを知ったマナ達は悩んだ所、ある人物と出会う。

マナ「あーっ！あなたは!?!メラン!?!」

メラン「久しぶりだな、お前達。」

マナ達と出会ったのは1万年前、キュアエンプレスのパートナーとして一緒に戦ってきた妖精メランである。

メランはマジカルラブリーパッドを守り続けていた。

ドキドキ！プリキュアに試練を与える為、ドラゴンの姿で戦いを挑んだ。

ハートにエンプレスの面影を感じたことでマジカルラブリーパッドをハート達に与えた。

六花「メラン、どうしてここに!？」

ありす「音吉さんからお話を伺って、メランさんならイビロンの事を知ってるのではない、セバスチャンに頼んでお迎えいたしました。」

ありすはメランが四葉邸にいる理由を言い出す。

マナ「さ、流石はありす・・・」

マナはありすの話を聞いて苦笑いする。

まのん「あの、すみません。話がついていけないんですけど・・・」

ドキドキ！プリキュア以外の人達はメランとは初対面なので、状況が呑み込めなかった。

マナはメランの事を紹介する。

一通り紹介した後、そろそろ本題に入る。

メラン「イビロン・・・確かに奴は人の心の闇によって生み出された。だが、奴は正しい闇に心を奪われたものに過ぎない。」

シン「どういうことだ？」

シンはメランの言葉に疑問を持つ。

メラン「イビロンはな、元々カーバンクルだったんだよ。」

まのん達はメランの言葉に驚く。

まのん「ちよ、ちよつと待つてください！本に書かれてあった内容からして、カーバンクルはプリキュアに変身させる役割を持った生き物なんですよ！？そのカーバンクルがどうしてイビロンだつて言うんですか！？」

まのんは信じられないと思ひ、メランに突つかかる。

メラン「カーバンクルは確かにプリキュアの力を与える力を持っている。だが、3000万年前に封印されたクトウルフは自らを復活を遂げる為、僅かな闇を放ち、強い力を持つものを探った。そしてその闇はカーバンクルに憑りつき、自らを生まれ変わらせる為の人形を作ったんだよ。」

シン「それでカーバンクルがイビロンかよ・・・」

シンはメランの話を聞いて深刻な顔になる。

メラン「カーバンクルは先程言ったようにプリキュアの力を与えることができる。その力を持った事で自らの力で闇を抑え込み、ホープキングダム of 領土の地底に封印した。しかし、盗賊達がカーバンクルを私利私欲のために殺したことで盗賊達の邪の心によつてカーバンクルの力を失わせ、クトウルフの完全な操り人形になったんだ。」

メランはカーバンクルがイビロンになった理由を述べる。

まのん「そんな・・・元に戻れないんですか！？」

メラン「クトウルフの闇はプロトジコチューとは比べ物にならない。仮にイビロンを

浄化して元のカーバンクルに戻せたとしても、闇の力に負けたカーバンクルは死んでしまったんだ。ホープキングダム領土での結末を見た。キュアエレメントがイビロンを封印したことで自身を消滅された。パートナーであるカーバンクルを残してな。だが、封印されたイビロンから闇を解放し、戦いの後、残されたカーバンクルを憑りついていた。クトウルフは新たな人形を選んで、カーバンクルと共に眠りについたんだ。」

まのん「そんなことが・・・」

まのんはメランの言葉に絶句する。

くるる「キュウ！」

くるるはまのんの肩に乗り、舌で頬を舐める。

まのん「くるる・・・」

クルルはまのんを励ますかのように右前脚を腰に当て、左前脚を拳を作り、ガッツポーズを決める。

まのん「ごめんね、くるる。心配かけて・・・」

まのんはくるるの頭を撫でる。

シン「まのん、真理奈はくるるを助けたんだ。仮にクトウルフの闇に憑りつかれても、あいつなら助け出さず。お前の姉ちゃんを信じる。」

まのん「シンさん・・・はい。」

まのんはシンの言葉に頷く。

マナ「もう大丈夫みたいだね。」

まのん「はい、マナさん。」

まのんはマナの言葉に頷く。

まのん「メランさん、スパークレンスの事は分かりました。あれはイビロンが生み出した物ではなく、3000万年前に存在した物だと。」

まのんは今まで調べてきたスパークレンスの事を話した。

まのん「ただ、イヴィルアイやモンスターズルーラーの事はよく知りませんでした。何か知っているのなら教えてください。」

メラン「ああ、スパークレンスの事も含めて話した方がいいだろう。」

メランはイヴィルアイやモンスターズルーラーについての事をスパークレンスの話を含めて話し出す。

メラン「イヴィルアイとモンスターズルーラー、この2つはクトウルフの闇の力とスパークレンスの力で生み出された物さ。」

マナ「スパークレンスの力で!？」

六花「どういうこと!？」

メランはイヴィルアイとモンスターズルーラーはクトウルフと闇とスパークレンス

によつて作られた物だと告ぐ。

メラン「スパークレンスは超古代の遺伝子を持つ者でなければ巨人の力を制御することができない。ダルクやアムイが巨人に変身することができたのも、その遺伝子を持っているからなんだよ。」

まのん「じゃあ、お姉ちゃんがティガに変身できたのも・・・」

メラン「そうだ。ルルイエに封印されたクトウルフはスパークレンスに自らの闇を注ぎ、そのエネルギーを利用して2つの闇の神器を作ったんだよ。」

メランはイヴィルアイとモンスターズルーラーの誕生を話す。

まのん「そんな・・・」

シン「スパークレンスやイヴィルアイ、モンスターズルーラーはクトウルフの闇をカーバンクルに憑いた時に一緒に封じ込めたって訳か・・・」

メラン「そういうことになる。」

シンはメランの話を聞いてイビロンがスパークレンス、イヴィルアイ、モンスターズルーラーが持っていた理由を知る。

シン「とにかく、スパークレンスは真理奈に任せるしかねえな。」

マナ「モンスターズルーラーはクルルに見せてもらった時、触つても何も起こらなかったから奪つて壊しておけば何とかなるかな。」

真琴「そうなると問題はイヴィルアイね。ウルトラマンにも効くかどうか分からないけど、あれを使われたら思うように戦えないわ。」

シン達はイヴィルアイについて対策を考える。

ありす「メランさんは何かご存知ありませんか？」

ありすはメランにイヴィルアイを封じる方法を尋ねる。

メラン「1つだけある。」

めぐみ「本当に!?!」

メラン「1万年前の戦いの後、ダイヤの民が作った聖なる剣、『闇薙の剣』だ。」

メランはありすの問いに答える。

まのん「『闇薙の剣』……」

奏「それって何なんですか？」

奏は闇薙の剣の事をメランに聞く。

メラン「『闇薙の剣』は闇の力を振り払うことができ、闇の力に囚われた存在を浄化したり、闇の力を持つアイテムを無力化し、破壊する力を持っている。」

メランは『闇薙の剣』について話した。

その『闇薙の剣』はヒキラーザウルスがイビロンに吸収された後、デアーナから真理奈に手渡しており、現在は真理奈が持っている。

くるる「……」

くるるはメランの話を聞いて、真理奈の事を考える。

真理奈が『闇薙の剣』を持っていることを知っているのはディアーナを除いてくるるだけである。

我夢「『闇薙の剣』……」

大地「それがあればイヴィルアイの瘴気を抑えられるんですね。」

メラン「ああ。」

メランは大地の問いに答える。

真琴「それにユグドラシルはイヴィルアイをトランプ共和国に持つてくることはないはずよ。」

まのん「え？それはどうしてですか？」

まのんは真琴の言葉に首を傾げる。

真琴「この町に現れた怪獣達が消えた後、エターナルゴールドデンクラウンが盗まれたって聞いた時、それを盗んだのはユグドラシルなら亜久里ちゃんを即位させるために盗んだのかもしれない。即位させるには王宮で戴冠するのが原則だから……」

真琴はユグドラシルがエターナルゴールドデンクラウンを奪った訳を推測する。

真琴「ユグドラシルがトランプ共和国に攻め入る時、亜久里ちゃんとアイちゃんの力

を封じるためにイヴィルアイをアジトに残していくはずよ。キュアエースに変身されるわけにはいかないから。」

真琴は立て続けにユグドラシルがイヴィルアイをトランプ共和国に持って来ない理由を言い出す。

シン「なるほどな。トランプ共和国を制圧するまではイヴィルアイを使えないからまだチャンスはあるって訳か。」

ありす「確かにその通りですわね。亜久里ちゃんはユグドラシルにとつては奪われるわけにはいかないお姫様ですからね。」

シンとありすは真琴の言い分に納得する。

マナ「そうと分かれば、絶対に亜久里ちゃん達を取り戻して、ユグドラシルの野望を阻止しよう！」

響「うん！亜久里ちゃん達を無理矢理戴冠させるなんて絶対許さない！」

マナと響はそう言う。

めぐみ「ひめ達にも今回の事を伝えないとだね、誠司！」

誠司「ああ、そうだな！」

めぐみと誠司はそう言う。

まのん「私は一度、お姉ちゃんの所に行こうかな。今頃、目が覚めてるはずだし。」

まのんは真理奈が気になる為、ホープキングダムに行こうとする。
はるか「じゃあ、私達も行くよ。」

みらい「私達も。」

はるか達とみらい達はまのんと同行することにした。

シン「俺も行くぜ。あいつの事だ。一人でどこかに行っちゃまうだろうしな。」

シンもまのん達と同行することにした。

その頃、ホープキングダムに療養されていた真理奈は不思議な夢を見た。

その夢の中には空間が真っ白で、その空間にポツンと真理奈が立っていた。

真理奈「何なの、ここ？何も無いわね・・・夢、見てるのかな・・・」

真理奈は辺りを見渡しながら歩き続けていた。

しかし、景色は変わることがなかった。

真理奈（そういや、あの怪獣にやられたんだっけ・・・）

真理奈はグラールとの戦いを思い出す。

真理奈「まさかとは思うけど死んじやった訳じゃないよね・・・？」

真理奈は嫌そうな表情をして、今の状況を考える。

？「お姉ちゃん、まだ死んでないよ！」

真理奈「誰!？」

真理奈は少年の声が聞こえたので辺りを見渡す。

だが、誰もいなかった。

？「僕達は君に会いに来たんだ。」

今度は少年とは違う青年の声を聞く。

真理奈「もう1人・・・?どこななの!？」

真理奈は先程の声の主に呼びかける。

その時、真理奈の目の前に強い光が包み込む。

真理奈「うわあっ!?!な、なによ!?!」

真理奈は目の前の強い光に対し、両腕で顔を隠す。

光が消えていった後、真理奈は両腕を下ろすと、リュックサックを背負った少年と、先住民族のような白い服装を装った男が真理奈の目の前に立っていた。

真理奈といちか達の邂逅

ザイゴグとの戦いの後、四葉邸でメランから3つの闇の神器について聞いた。

イビロンの正体はクトウルフの闇に憑りつかれたカーバンクルであることを知った。

モンスターズリーダーとイヴィルアイはスパークレンスのエネルギーとクトウルフの闇の力によって生み出されたことを知る。

そして、メランの口から闇薙の剣の力でイヴィルアイの力を封じ込めることができる事を知った。

イヴィルアイの対策を練ることができたことで、トランプ共和国の防衛を決するシン達。

そのシン達は真理奈のお見舞いに行くため、四葉邸を後にする。

リコ「問題はユグドラシルの本拠地はどこにあるかよね・・・」

まのん「はい。イヴィルアイの力を封じ込める方法を見つけたとしても、亜久里ちゃん達の居場所が分からなければ助けに行けないですよね・・・」

リコとまのんはユグドラシルの本拠地の事で悩んでいた。

みなみ「もしかしてそこにこの世界と妖精の世界に繋いでいる転移ゲートがあるんだ

とすれば・・・」

はるか「ええっ!?」

まのん「でも、『ディメンジョンゲート』の事は口外してないはず・・・」

まのんの言う通り、『ディメンジョンゲート』の秘密を知っているのは真理奈の家族と真奈美の助手達とプリキュア達とウルトラマン達だけである。

シン「一度幻影帝国つて奴に殺されたとはいえ、そいつは科学者だ。『ディメンジョンゲート』と同じような物を作っても不思議じゃねえ。」

トワ「ヤマザキという科学者の事ですわね？」

シンはトワの問いに対し、頷く。

(お姉ちゃん・・・まだ目を覚まさないのかな・・・)

まのんは今も真理奈の事を心配している。

その時、まのんに抱えられたクルルは何かを感じ取ったのかまのんの腕から跳び降りる。

まのん「あっ!くるる!」

くるるはまのん達から数メートル離れた所で止まり、辺りを見渡したと思ったら、建物の際間に入っていく。

まのん「くるる!?!どこ行くの!?!」

みなみ「とにかく追いましょ！」

はるか達はみなみの言う通りにし、くるるの後を追う。

しかし、くるるが通った隙間は人間のサイズでは通れないので遠回りすることにした。

くるるは建物の隙間から通り抜き、辺りを見渡した後、回れ右して走っていく。

しばらく走った後、すぐに止まる。

すると、くるるが見たのは苺坂の公園で真理奈と一緒に寄って行ったキラキラパティスリーである。

くるる「キユウ！」

くるるはキラキラパティスリーを見て、笑みを浮かべる。

？「あれ？君は？」

くるるは後ろから声が聞こえたので振り向く。

そこにはくるるに指を指しながら驚いているツインテールの少女がいた。

いや、ツインテールの少女だけじゃない。

三つ編みの茶髪の少女と青い革ジャンを羽織った少女、紫のロングヘアの少女とボーイッシュな赤髪の少女、そして、柘と赤色の実のヘアバンダナを嵌めた少女もいる。

？「あーっ！この前のお客さんの!？」

くるる「！キュウ！」

くるるはその少女達を知っているのか、ツインテールの少女の手に飛び込む。

まのん「くるる〜ッ！」

くるると6人の少女達は振り向くと、まのんとシン達がやって来た。

まのん「すみませ〜ん！その子、私のペットです〜！」

まのん達はようやくくるるに追いつく。

くるる「キュウ！」

くるるは少女の腕から飛び降り、まのんの元に駆け付ける。

まのん「もう！勝手にどこかに行ったらダメじゃない！」

まのんはくるるに叱りつける。

はるか、みらい「いちかちゃん！」

まのん「え？」

まのんははるかとみらいが目の中の少女の名前を呼んだ時に振り向く。

目の前にいる少女は宇佐美いちか。

苺坂町に暮らしており、キラキラ☆プリキュアアラモードの1人、キュアホイップに

変身する女の子である。

いちかと一緒にいる少女たちもキラキラ☆プリキュアアラモードのメンバーで、キュ

アカスタードこと有栖川ひまり、キュアジェラートこと立神あおい、キュアマカロンこと琴爪ゆかり、キュアシヨコラこと剣城あきら、キュアパルフェことキラ星シエルである。

いちか「はるかちゃん！みらいちゃんも！」

いちかははるかことみらいの顔を見て嬉しそうな顔をする。

まのん「知り合い・・・ですか？」

まのんは今のやり取りを見てキョロキョロする。

みらい達はシンとまのんにいちか達の出会いを話した。

まのん「春の時期にそんなことが・・・」

ひまり「初めて会った時、私達以外にもプリキュアがいたのは驚きました。」

あおい「それ以上にこの日本で活躍しているプリキュアが50人以上もいるのはびっくりしたけどな。」

ひまりとあおいは現在日本で活躍しているプリキュアの事で苦笑いしている。

ちなみに日本で活躍しているプリキュアは総勢51人である。（キュアエコーを含めて）

ゆかり「あなたもプリキュアだったなんてね。」

あきら「うん。みらいちゃんから聞いた時は驚いたよ。」

まのん「は、はい。自分でもびっくりです・・・」

まのんは苦笑いしながらゆかりとあきらに言う。

くるるはシエルの顔を見て首を傾げる。

何故なら、くるるは前に真理奈とキラキラパティスリーを訪れた時、シエルとは会ってないからだ。

シエル「そういうえはくるる、私と会うのは初めてだったわね？私はキラ星シエル。」

いちか「シエルさんは元々妖精さんなんだよ。」

まのん「ええっ!?!」

いちかはシエルの事をキラリンという妖精だったことを明かすと、シンやひまり達以外の皆は驚いた。

その後、和気藹々と楽しく話し合っていた。

いちか「でも、前にキラパティに来たお客さんと一緒だったくるとまた会えるなんて。」

まのん「そのお客さんって・・・真理奈って人じゃ？」

まのんはいちかの言葉を聞いて気になって真理奈の名前を出した。

ゆかり「ええ。そんな名前だったわ。」

いちか達は真理奈と初めて会った時の事を話す。

数日前、真理奈はキラキラパーティスリーの中に入り、その時にいちか達と出会った。尚、その時はシエルが日本に帰国していなかったたので、真理奈が会ったのはいちか、ひまり、あおい、ゆかり、あきらの5人だった。

いちか『いらつしやいませ!』

真理奈『あ、えーつと・・・どうも。』

真理奈は見たことないスイーツショップに自分と同年位の女の子が経営しているのを見て、ぎこちない言い方で返事する。

その後、真理奈は周りを見てみると、お客様が何人かいるのを確認する。

いちか『わあ、可愛い!この子、あなたのお友達なの?』

真理奈『え?あー・・・まあ、そんなところ。くるるって言うの。』

あおい『へえ。可愛いじゃん!』

ひまり『この子、どんな動物なんですか?』

真理奈『へっ!?あ、えーつと・・・(カーバンクルだなんて言えないよな・・・)』

真理奈はひまりにくるるの事を聞かれて困り出す。

ゆかり『あなた達、お客様が困ってるわよ。』

ひまり『ああ!す、すみません!』

真理奈『あ、いや、気にしないでいいよ。』

真理奈は苦笑いしながら言う。

あきら『ごめんね、いきなりで。』

真理奈『ああ、大丈夫、大丈夫。（私と変わらない年齢の子達がスイーツショップをやっているって・・・）』

真理奈はあきらに案内されながら、キラキラパティスリーの店員が真理奈と同じ中学生が務めている事に疑問を抱く。

ゆかりやあきらのような高校生はバイトで働いているなら納得はするが、中学生も働いているので何故スイーツショップを経営しているのか、真理奈は分からなかった。

そう考えながらも、あきららの案内で席に着く。

真理奈は聞きたいことはいろいろあったが、後で聞くことにした。

それからしばらく経った後、いちかがスイーツを真理奈のテーブルの上に置く。

そのスイーツはくるるの顔をベースにしたカップケーキである。

真理奈（く、くるるのカップケーキ!?!）

真理奈はくるるのカップケーキを見て驚く。

いちか『お待たせしました!』

真理奈『あー・・・どうも・・・』

真理奈は驚きはしたものの、苦笑いしながらいちかにお礼を言う。

真理奈（アニマルスイーツ・・・ねえ・・・）

いちか『あの？どうかしました？』

真理奈『へっ!?!いや、なんでもないよ!』

真理奈はいちかに声をかけられ、戸惑うも、カップケーキを口に作る。

くるる『キュッ、キュウ。』

真理奈『ん?』

真理奈はくるるに服の裾を引っ張られたので、くるるを見ると、くるるがどこかに指を指したので振り向く。

真理奈はカウンターをよく見ると、ぼつちやりとしたクリームのような耳をした妖精・ペコリンを見つける。

真理奈（ふうん、なるほどね・・・）

真理奈はペコリンを見て、いちか達はなぎさ達と同じプリキュアだという事が理解した。

真理奈はカップケーキを再び口に作る。

その後、いちかが紅茶を真理奈の元に届ける。

いちか『紅茶を持ってきました！お味の方はいかがですか?』

真理奈『うん、美味かったよ。見た目も上出来。』

いちか『ありがとうございます！』

いちかは真理奈に褒められてお礼を言う。

真理奈『ねえ、美味しいついでにお土産の分もお願いしていい？できれば5人分。』

真理奈はいちかに先程食べたくなるの cupcakes をお土産として作るようお願いする。

いちか『はい！喜んで！』

真理奈『よろしくね。えーつと・・・』

真理奈はお願いするのはいいが、いちかの名前を聞いてなかったので口籠る。

いちか『私、宇佐美いちかです！』

真理奈『宇佐美か。私は新真理奈。cupcakes を食べ終わったら店の前で待つてるから、また後でね。』

いちか『はい！』

いちかは真理奈の為に作ったくるの cupcakes を作りキッチンに戻る。

真理奈はcupcakes を食べ終えた後、キラキラパティスリーの前でお土産のcupcakes が出来るのを待った。

しばらく経った後、いちかがやってきて、真理奈にcupcakes を入れた袋を差し上げる。

真理奈はいちかからカップケーキを貰った後、キラキラパティスリーを後にした。これが真理奈とキラキラ☆プリキュアアラモードのファーストコンタクトである。

まのん「お姉ちゃん、そんなことがあつたんだ・・・」

まのんはいちか達から真理奈と出会った話を聞いて感心する。

いちか「ねえ、まのんちゃん。真理奈ちゃんは今どうしてるの？」

いちかはまのんに真理奈の事を聞く。

まのん「あ・・・お姉ちゃんは・・・」

まのんは真理奈の現状を知っているので、いちかに真理奈の事を聞かれると口籠る。

その時、くるるがいきなりまのんの腕から飛び降りて唸り声を上げる。

まのん「どうしたの、くるる？」

まのんはくるるにそう聞く。

その後、くるると同じ視線を見ると、空間に歪みが二カ所生じているのを見つける。

その空間の歪みから黄色い体をした頭の小さい怪獣と、黒い体をした角が生えている怪獣が現れる。

前者の怪獣はどくろ怪獣レッドキング。

チャンドラーやドラコ、サラマドンやパラグラ等、多くの怪獣を倒した凶暴な怪獣である。

日本アルプスでウルトラマンを苦しませたことがある。

後者の怪獣は用心棒怪獣ブラックキング。

ナツクル星人が操る宇宙怪獣である。

ジャックのスペシウム光線もウルトラブレスレットも通用しなかった。

シン「レッドキング！ブラックキングも！」

シン達はレッドキングとブラックキングの登場に驚く。

その時、反対側の咆哮から別の怪獣の咆哮が響き渡る。

シン達は振り向くと、レッドギラスとブラックギラスが現れた。

シン「レッドギラス！ブラックギラス！あの時の奴らか！」

シンはレッドギラスとブラックギラスを見て、前に横浜に現れた二体だと気付く。

レッドギラスとブラックギラスの背中の角は斬られてたままだった。

シン「みんな、話してるとこ悪いが、付き合ってくれるか!？」

はるか達「はい！」

はるか達は変身アイテムを構える。

いちか達もスイーツパクトを構える。

2体のカプセル怪獣

シンはウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを出し、両目に装着する。よってシンはウルトラマンゼロに変身する。

あおい「うおおーっ!! かけえーっ!」

ひまり「あれが・・・ウルトラマンですか!」

あおいはゼロの姿に目を輝かせ、ひまりはゼロの登場に驚きを隠せない。

みらい「うん。ウルトラマンゼロ。一緒に怪獣達と戦ったんだ。」

リコ「みんな、私達も行くわよ!」

リコに言われて、いちか達は変身しようとする。

その時、ブラックグラスとレッドグラスの背後に黒い渦が現れる。

その渦からイビロンが現れる。

ゼロ「イビロン!」

いちか「ええっ!?! なに、なに!?!」

きさら「また、あいつ!?!」

リコ「いくらなんでも早すぎるわ!」

はるか「まだ倒してないのに!？」

はるか達は突然のイビロンの登場に驚く。

何故なら、ゼロ達はまだレッドキング達を倒していないからだ。

イビロンの触手から巨大な光を出し、レッドギラスとブラックギラスに光のエネルギーを与える。

ゼロ「なに!？」

ゼロは今の状況に驚く。

すると、レッドギラスとブラックギラスの背中の中が元通りになった。

ゼロ「チツ！思ったより面倒くせえ野郎だぜ！」

ゼロはイビロンの取った行動に舌打ちをする。

レッドキングとブラックキングはゼロに攻撃しようと走り出す。

いちか「みんな！」

いちか達はそれぞれの変身アイテムを構える。

いちか、ひまり、あおい、ゆかり、あきら、シエル「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「ショートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか達は変身アニマルスイーツをスイーツパクトにセットする。

いちか「元氣と笑顔を！」

ひまり「知性と勇氣を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさとトキメキを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

いちか、ひまり、あおい、ゆかり、あきら、シエル「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

いちか達はステイックで星型のボタンを押した後、ボウルに混ぜて、光のクリームを作り出す。

いちか達の体に光のクリームを纏い、いちかはショートケーキとウサギをモチーフにしたピンクの衣装へ、ひまりはプリンとリスをモチーフにした黄色い衣装へ、あおいはアイスとライオンをモチーフにした青い衣装へ、ゆかりはマカロンと猫をモチーフにし

た紫色の衣装へ、あきらはチョコレートと犬をモチーフにした赤い衣装へ、シエルはパフェとペガサスをモチーフにした虹色の衣装へと変わる。

よっていちかはキュアホイップに、ひまりはキュアカスタードに、あおいはキュアジェラートに、ゆかりはキュアマカロンに、あきらはキュアシヨコラに、シエルはキュアパルフェに変身した。

ホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

カスタード「キュアカスタード！できあがり！」

ジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

マカロン「キュアマカロン！できあがり！」

シヨコラ「キュアシヨコラ！できあがり！」

パルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

ホイップ、カスタード、ジェラート、マカロン、シヨコラ、パルフェ「キラキラ☆プリキュアアラモード！」

みらい達も続けて変身を行なう。

みらい、リコ、ことは「キュアアップ・ラパ！」

みらい、リコ「ダイヤ！ミラクル・マジカル・ジュエリー！」

ことは「エメラルド！フェリーチェ・ファンファン・フラワー！」

みらいはキュアミラクルに、リコはキュアマジカルに、ことははキュアフエリーチェに変身した。

ミラクル「ふたりの奇跡！キュアミラクル！」

マジカル「ふたりの魔法！キュアマジカル！」

フエリーチェ「あまねく生命に祝福を！キュアフエリーチェ！」

ミラクル、マジカル、フエリーチェ「魔法つかいプリキュア！」

はるか達もホイップ達とミラクル達に続けて変身を行なう。

はるか、みなみ、きらら、トワ「プリキュア・プリンセスエンゲージ！」

はるかはキュアフローラに、みなみはキュアマーマイドに、きららはキュアトウインクルに、トワはキュアスカーレットに変身した。

フローラ「咲きほこる花のプリンセス！キュアフローラ！」

マーマイド「澄みわたる海のプリンセス！キュアマーマイド！」

トウインクル「きらめく星のプリンセス！キュアトウインクル！」

スカーレット「深紅の炎のプリンセス！キュアスカーレット！」

フローラ「強く！」

マーマイド「優しく！」

トウインクル「美しく！」

スカレット「Go！」

フローラ、マーメイド、トウインクル、スカレット「プリンセスプリキュア！」

ホイップ達は変身を終えた後、ゼロの元に駆け付ける。

まのん（イビロン、ごめん。助け出すことはできないけど、同じ過ちを繰り返さないように頑張るから。）

まのんはイビロンを見て、謝罪するような表情で思う。

まのん「行こう、くるる！」

くるる「キュウ！」

くるるは額の宝石を輝かせ、まのんと光に包み込む。

その光からキュアエレメントが現れる。

エレメント「繋ぎ合う7つの光、キュアエレメント！」

エレメントは変身を終えた後、ホイップ達の後を追う。

ホイップ達はゼロを援護するためにレッドキング達に攻撃しようとする。

その時、ホイップ達の頭上に鞭のような物体が襲い掛かる。

ホイップ達は回避し、見上げると、そこにはイビロンがいた。

エレメントはホイップ達と合流するが、イビロンが目の前にいたことで立ち止まる。

エレメント「イビロン……！」

ジェラート「邪魔する気かよ!」

イビロンの妨害を受けるホイップ達。

イビロンは触手から火炎弾を放つ。

マジカル「リンクル・ムーンストーン!」

マジカルはリンクルステッキにムーンストーンのリンクルストーンを嵌め、バリアを張り、イビロンの火炎弾を防ぐ。

スカーレット「エレメント!」

エレメント「はい!」

スカーレットとエレメントはイビロンの背後に取る。

スカーレット「燃えよ、炎よ!プリキュア・スカーレット・スパーク!」

エレメント「燃え上がる炎よ、焼き払って!プリキュア・ファイヤーボール!」

スカーレットとエレメントはそれぞれの技を放つ。

しかし、イビロンは触手でクリスタル状のバリアを張り、2人の技を跳ね返す。

エレメント「なっ!?!くるる!」

くるる『キュウ!』

くるるはエレメントの掛け声でブローチの宝石を赤から黒に変える。

エレメント「生み出す闇よ、封じ込めて!プリキュア・グラビティホール!」

エレメントはプリキュア・グラビティホールで跳ね返った技を吸収する。

イビロンはキラキラ☆プリキュアアラモードに向けて触手から螺旋状の水を放つ。

ミラクル「リンクル・アメジスト！」

ミラクルはアメジストのリンクルストーンをリンクルステッキに嵌め、魔法陣を召喚し、キラキラ☆プリキュアアラモードを別の場所に転移する。

ホイップ達はイビロンを囲むように手分けしてスティックでスイーツパクトのボウルを掻き混ぜ、イビロンの触手に向けてクリームの鞭を放つ。

よってイビロンの触手は8本の内6本を封じた。

ホイップ「今だよ！」

フローラ、ミラクル「オツケー！」

フローラ達はロイヤルドレスアップキーをプリンセスパレスに挿す。

フローラ、マーメイド、トウインクル、スカレット「モードエレガント！ロイヤル
！」

そして、フローラがハンドルを回した。

よってフローラ達はモードエレガント・ロイヤルにフォームチェンジする。

フローラ、マーメイド、トウインクル、スカレット「ドレスアップ！ロイヤル！」

そして、ミラクルとマジカルとフェリーチエは「キュアアップ・ラパパ！」と唱える。

ミラクル、マジカル、フェリーチエ「アレキサンドライト！」

アレキサンドライトのリンクルストーンをモフルンのリボンに装着し、ミラクルとマジカルがモフルンに手を繋ぎ、ミラクルとマジカルはフェリーチエに手を繋ぐ。

すると、ミラクルとマジカルとフェリーチエはアレキサンドライトスタイルにフォームチェンジする。

ミラクル、マジカル、フェリーチエ「魔法つかいプリキュアオーバーザレインボー！」
まず、フローラ達はリボンを翼にし、高く飛び立つ。

フローラ、マーメイド、トウインクル、スカーレット「響け！はるか彼方へ！プリキュア・グラン・プランタン！」

フローラ達は虹色のオーラを纏ってイビロンに向けて降下する。

モフルン「レインボーキャリッジ！モフ！」

モフルンはレインボーキャリッジに乗り、ミラクル達の元に駆け付ける。

ミラクル「巡り合う奇跡よ！」

マジカル「繋がる魔法よ！」

フェリーチエ「育まれし幸福よ！」

ミラクル、マジカル、フェリーチエ「今、私達の手に！」

レインボーキャリッジに12色の光が解放され、ミラクルとマジカルとフェリーチエ

の腕に光が包み込み、その光からプレシヤスブレスが現れる。

ミラクル、マジカル、フェリーチエ「プレシヤスブレス！」

ミラクル達はレインボーキャリッジから出た魔法陣を翳す。

すると、魔法陣が大きくなった。

ミラクル、マジカル、フェリーチエ「フル・フル・フルフルリンクル！プリキュア・エクストリーム・レインボー！」

ミラクルとマジカルとフェリーチエは手を前に突き出すと巨大な魔法陣が現れる。

ミラクル、マジカル、フェリーチエ「キュアアップ・ラパパ！虹の彼方に！」

ミラクル達が出現させた魔法陣から虹色の光線を発射する。

イビロンは八つの触手の姿から八つ足の姿に変わり、自身を守るように翼を覆わせる。

ミラクル達が放った光線はイビロンに命中し、フローラ達が纏った虹色のオーラがイビロンに突撃する。

フローラ「ブルーミング・・・ごきげんよう！」

フローラ達の技とミラクル達の技を受けたイビロンは覆った翼を広げ、フローラの方に振り向き、口から赤黒い光線を放とうとする。

しかしその最中、フローラ達とミラクル達の技が効いたのか、赤黒い光が消え、地上

に落下する。

マジカル「アレキサンドライトの力を使っても耐えられるなんて!？」

ミラクル「でも、結構効いてるよ!」

イビロンは今の状況を判断したのか、目を赤く光らせ、黒い渦を出現させ、その渦に消えていった。

ジエラート「逃げた・・・かな・・・」

マカロン「そのようね・・・」

エレメント（イビロン・・・）

エレメントは消えていったイビロンの事で俯く。

その時、フローラ達の耳に地鳴りが聞こえる。

フローラ達はその地鳴りが聞こえた方向に振り向くと、ゼロがレッドキング、ブラックキング、レッドギラス、ブラックギラス、ブラックギラスに苦しめられていた。

マジカル「ゼロ!」

ミラクル「みんな、急ごう!」

ミラクル達はゼロの元に駆け付ける。

一方、フローラ達がイビロンと戦っている間、ゼロはレッドキング、ブラックキングと対峙していたが、後方からレッドギラスとブラックギラスのギラススピンによる光線

が放たれ、ゼロに命中される。

ゼロ「チッ！」

レッドキングはゼロに跳び蹴りし、ゼロを地に伏せる。

そしてブラックキングはゼロの背中から捕らえ、身動きを封じる。

ゼロ「なっ!?! 放せ！」

ゼロは足掻くが、離れられない。

レッドキングは腕を炎を纏わせ、ゼロをタコ殴りにする。

その後、レッドキングはブラックキングからゼロを強奪するように力尽くで引きはがし、顔面に膝蹴りをし、地面に放り投げる。

そして、レッドキングは口から怪光線を、ブラックキングはヘルマグマを放つ。

ゼロ「があああああっ!!!」

ゼロはレッドキングとブラックキングの猛攻に倒れる。

レッドギラスとブラックギラスはこの機を逃さず、ゼロの元に走り出す。

マジカル「ゼロ！」

シヨコラ「危ない！」

フローラ達は急いでゼロの元に駆け付ける。

？「ウインダム！ミクラス！行け！」

ホイップ「えっ!？」

ホイップは声が聞こえ周囲を見渡す。

その時、フローラ達の真上から金属でできた表皮を纏っているロボットのような怪獣と4本の角を持つ牛に似た怪獣がレッドギラスとブラックギラスに激突する。

ブラックギラスが相手をしているのは前者の怪獣、カプセル怪獣ウインダム。

ウルトラセブンが使役するM78星雲メタル星の怪獣である。

氷の世界となったM78星雲でサラマンドラを倒した。

そして、レッドギラスが相手をしている後者の怪獣はカプセル怪獣ミクラス。

この怪獣もウルトラセブンが使役するM78星雲バツファロー星の怪獣である。

地球でエレキングやガンダーに敗北されるが、惑星ハマーでケルビムを倒すことができた。

マーメイド「また怪獣!？」

？「彼らは敵ではない!」

フローラ達は振り向くと、ダンの姿があった。

フローラ「ダンさん!」

ダン「君達は彼らと共にレッドギラスとブラックギラスを倒すんだ!」

ダンはウルトラアイを出し、ダンの目に装着する。

よってダンはウルトラセブンに変身する。

ジエラート「あの人もウルトラマン!？」

マカロン「あの2体の怪獣は彼の仲間かしら？」

マカロンはウインダムとミクラスを見た後、セブンに視線を変えて言う。

セブンはブラックキングを相手にする。

ゼロ「親父！」

セブン「ゼロ！」

ゼロは背後から襲い掛かってくるレッドキングを蹴り飛ばし、距離を離す。

フローラ「とにかく、私達はあの2体を！」

フローラ達はウインダムとミクラスが対峙しているレッドギラスとブラックギラスを対峙するため、ウインダムとミクラスの元に駆け付ける。

V S レッドキング&ブラックキング

大貝町でキラキラ☆プリキュアアラモードと再会するG.O.！プリンセスプリキュアと魔法つかいプリキュア。

その時、時空の歪みからレッドキング、ブラックキングが現れ、ゼロに圧倒されたレッドガラスとブラックガラスが現れた。

シンはゼロに変身し、4体の怪獣に立ち向かうが、そこにイビロンが再び姿を現す。

プリキュアに変身したいちか達はゼロの援護に向かうが、イビロンに妨害される。

しかし、プリキュアはイビロンを奮闘し、撃退することができた。

レッドキング達に追い詰められるゼロだが、ウインダムとミクラスが現れたことで、形勢が変わる。

そしてセブンも参上し、ゼロと一緒にレッドキングとブラックキングと戦っている。

ホイップ達もウインダムとミクラスと一緒にレッドガラスとブラックガラスを相手にしている。

ゼロはレッドキングを、セブンはブラックキングを、ウインダムはブラックガラスを、ミクラスはレッドガラスを相手にし、プリキュア達はウインダムとミクラスを援護す

る。

ゼロ「ウルトラゼロキック！」

ゼロはレッドキングにウルトラゼロキックをお見舞いする。

レッドキングはゼロの攻撃に怯むが、即座に口から岩石を吐き出す。

ゼロ「うおっ!?!」

ゼロはその岩石を躲す。

レッドキングが吐き出した岩石は爆発した。

ゼロ「マックスが倒したレッドキングの力も持つてんのかよ!?!厄介なモン出てきや

がって！」

レッドキングは近くにあるバスを持ち上げる。

そのバスでゼロに投げるつもりだった。

ゼロ「やらせつかよ！」

ゼロはエメリウムスラッシュでレッドキングの右腕に命中させる。

レッドキングはゼロのエメリウムスラッシュによってバスを手放す。

そのバスはレッドキングの足に落としてしまい、そのレッドキングは痛がる。

ゼロ「へっ!ダッセエ野郎だぜ！」

ゼロは今のレッドキングを見て鼻で笑う。

レッドキングはそのゼロを見て怒り出す。

一方、セブンでは・・・

セブン「デヤッ！」

ブラックキングに向けてアイスラッガーを繰り出す。

しかし、ブラックキングは素手でアイスラッガーを弾く。

アイスラッガーはそのままセブンの頭部に戻った。

セブン「この防御力、ギエロン星獣を思い出すな。」

ブラックキングはヘルマグマを放射する。

セブンはこれに対し、ウルトラバリアーで防ぐ。

ブラックキングはセブンを襲い掛かる。

セブンはアイスラッガーを手に持ち、ブラックキングの攻撃を躲しながら切りつける。

セブン「息子の前で情けない所を見せるわけにはいかないな。」

セブンはブラックキングとの戦闘を続行する。

そして、ミクラスとウインダムはプリキュア達の援護でブラックギラスとレッドギラスを追い詰めていく。

カスタード「あの2体の怪獣、強いです！」

ホイップ「うん！」

ブラックギラスとレッドギラスは互いに組み合ってギラススピンを繰り出す。

ミクラスとウインダムはブラックギラスとレッドギラスに向かうが、触れることもできず、弾かれてしまう。

ウインダムは額からレーザーショットを放つが、簡単に弾かれてしまう。

ブラックギラスとレッドギラスは角から光線を放ち、ウインダムとミクラスにダメージを負わせる。

フローラ「プリキュア・フローラル・トルビヨン！」

トウインクル「プリキュア・トウインクル・ハミング！」

フローラとトウインクルはブラックギラスとレッドギラスに技を撃ち込むが、これも弾かれてしまう。

マジカル「ダメだわ！弾かれる！」

エレメント「手も足も出ない！」

フローラとトウインクルの技を弾いたブラックギラスとレッドギラスに手も足も出ないマジカル達。

くるる『キュウ！』

エレメント「ん？」

エレメントは頭の中からくるるの声を聞く。

エレメント「!分かったわ!」

ジェラート「何が分かったの?」

ジェラートはエレメントの言葉に疑う。

エレメント「上空から攻撃すればいいんです!くるるが教えてくれました!」

マジカル「本当に!?!」

ミラクル「エレメントとくるるを信じよう!」

ミラクルはエレメントと賛同する。

マジカル「分かったわ!」

ミラクル「モフルン!」

モフルン「了解モフ!」

モフルンはサファイアのリンクルストーンを出す。

ミラクル、マジカル「キュアアップ・ラパパ!サファイア!ミラクル・マジカル・ジュ

エリーレ!」

ミラクルとマジカルはダイヤスタイルからサファイアスタイルにフォームチェンジする。

ミラクル「ふたりの奇跡!キュアミラクル!」

マジカル「ふたりの魔法！キュアマジカル！」

ミラクル、マジカル「魔法つかいプリキュア！」

ミラクルとマジカルはサファイアスタイルのフォームチェンジを完了する。

トウインクル「・・・って、その決め口上、さっき聞いたんだけど・・・」

ミラクル「あれ？そうだった？」

マジカル「つい、勢いにのせられて・・・（／／／／）」

トウインクルに言われて、ミラクルはすつとぼけて、マジカルは気恥ずかしそうに言う。

エレメント「と、とにかくあの怪獣達を！」

ブラックギラスとレッドギラスはギラススピンドでミクラスとウインダムを苦しめる。

その隙にミラクルはフローラを、マジカルはマーメイドを、フェリーチェはスカレットを、エレメントはトウインクルを抱え、ブラックギラスとレッドギラスの頭上に飛び上がる。

フローラ「みんな、行くよ！」

マーメイド、スカレット「ええ！」

トウインクル「うん！」

フローラとマーメイドとトウインクルはプリンセスロッドを構え、スカレットはス

カーレットバイオリンを構える。

フローラ「舞え、ユリよ！プリキュア・リイス・トルビヨン！」

マーメイド「高鳴れ、氷よ！プリキュア・フローズン・リップル！」

トウインクル「キラキラ、流れ星よ！プリキュア・ミーティア・ハミング！」

スカーレット「滾れ、炎よ！プリキュア・スカーレット・フレイム！」

フローラ達はブラックギラスとレッドギラスの真上から技を放つ。

4人の技がブラックギラスとレッドギラスに命中し、取っ組み合った2体の怪獣が離してしまふ。

ホイツプ「今だ！」

ホイツプ達はクリームエネルギーで、パルフェはレインボーリボンでブラックギラスとレッドギラスを巻き付け、再び取っ組み合わないように引き離す。

ホイツプ「後はお願い！」

ホイツプはミクラスとウインダムに攻撃のチャンスを与える。

ミクラスはレッドギラスに突進する。

レッドギラスはミクラスの猛攻に怯む。

ウインダムはブラックギラスを殴り続ける。

そしてウインダムはブラックギラスにレーザーショットを放つ。

ブラックギラスはウインダムのレーザーショットにより爆散される。

ミクラスはレッドギラスを空高く投げ飛ばし、口から熱光線を発射する。

ブラックギラスはミクラスの熱光線によって爆散される。

カスタード「やりました！」

シヨコラ「残るはあの怪獣達だけだ！」

セブンはブラックキングのヘルマグマをウルトラバリアーで防ぎ、アイスラッガーを構え、ブラックキングの腹に何度も切り裂く。

ブラックキングはセブンの猛攻に怯む。

セブンはアイスラッガーを頭に戻し、ブラックキングを持ち上げて、空に投げ飛ばす。

セブンはアイスラッガーを真上に静止させる。

そしてセブンはそのアイスラッガーにハンディショットを当て、ブラックキングに飛ばす。

ブラックキングはセブンのウルトラノック戦法によって爆散される。

マカロン「あんな使い方もあるのね。」

ジェラート「うわあ、出る幕ないな・・・」

レッドキングは両腕に炎を纏わせる。

ゼロ「そういうの、こっちにもあるぜ！」

ゼロはストロングコロナにタイプチェンジする。

レッドキングは炎を纏わせた拳でゼロを殴りかかるが、ゼロに受け止められ、反撃される。

その後、ゼロはストロングコロナアタックでレッドキングをボコ殴りする。

そして、ゼロはレッドキングの首を抱える。

ゼロ「ウルトラハリケーン！」

ゼロはウルトラハリケーンでレッドキングを天高く飛ばす。

ゼロ「ここは・・・俺の距離だ！ガルネイトバスター！」

ゼロはガルネイトバスターで空中に舞ったレッドキングにぶつける。

よってレッドキングは空中で爆散される。

その後、ゼロとセブンは自らのエネルギーで壊された街並みを修復し、それを終えた2人はシンとダンの姿になった。

ホイップ達も変身を解き、元の姿に戻る。

ダン「ミクラス。ウインダム。よくやった。戻れ。」

ミクラスとウインダムは光となってダンの元に戻ると、カプセルのような物体となり、ケースの中に入った。

いちか「あの怪獣達がカプセルに？」

ひまり「あの怪獣達は何だったんですか？」

ひまりはシンにミクラスとウインダムについて聞く。

シン「カプセル怪獣ミクラスとウインダム。親父と一緒に戦ってくれた仲間だ。今はこうしてカプセルの中にいるが、戦う時に力を貸してくれる。そいつらの他にアギラって奴もいる。頼りになる連中だ。仲良くしてやれよ。」

シンははるか達にミクラスとウインダムについて話した。

その後、まのんはいちか達に真理奈の状態とティガの事を話した。

いちか「そうだったんだ・・・」

いちかはまのんの話を聞いて少し俯く。

まのん「あ、でも！いつまでも落ち込んでばかりはいられません！お姉ちゃんのみまで戦うって決めましたから！」

まのんは慌てながらいちかに言う。

いちか「うん、そうだね！」

いちかはまのんに言われて、表情が明るくなる。

はるか「じゃあ、真理奈さんのお見舞いに行こう！」

いちか「うん！前に真理奈ちゃんが食べてくれたくるるのカップケーキを作って贈ろう！」

まのん「ありがとうございます！」

いちか達キラキラ☆プリキュアアラモードはまのんの案内で真理奈の家に向かった。勿論、真理奈の家が大きかったことをいちか達が驚いたのは言うまでもない。

ちょうどその頃、薄暗く、岩や枯れ木がある広い空洞に黒い渦が現れ、その渦からイビロンが現れる。

イビロンは先程の戦闘のダメージが残っているのか、疲弊したかのように蹲る。

？「イビロンにこれ程のダメージを負わせるとはな。」

イビロンの前にヤマザキが現れる。

ヤマザキ「だが、イビロンは怪獣を操る魔獣。こんなこともできるんだよ。」

ヤマザキはモンスターズルーラーを掲げ、紫色の光を怪しく光る。

イビロンは翼を広げ、その間に紺色の光が現れ、イビロンの前に照射する。

照射された光が大きくなり、その光が消えると、メビウスとマックスが追い詰めたハイパーゼットンが現れる。

イビロンは目を赤く光らせ、黒い渦を発生させる。

真理奈の目覚め

大貝町でウルトラセブンとカプセル怪獣ミクラスとウインダムと共にレッドキング、ブラックキング、レッドギラス、ブラックギラスと対峙するゼロとプリキュア達。

ミクラスとウインダムの援護に回ったG.O.プリンセスプリキュアと魔法つかいプリキュア、そしてキラキラ☆プリキュアアラモードによってレッドギラスとブラックギラスを倒すことができた。

レッドキングとブラックキングもゼロとセブンによって倒される。

その後、シン達は真理奈が眠っているホープキングダムに向かうため、真理奈の家へ行くことになった。

その頃・・・

ネクサス「やあっ！」

加音町の付近ではネクサスがメロディとリズムの援護によって棘が生えた黄土色の甲殻と両腕に鞭を備わっている怪獣と戦っている。

その怪獣の名は地底怪獣グドン。

ウルトラマンジャックをツインテールと共に追い詰めた怪獣である。

グドンがツインテールを噛み殺したことでジャックに逆転された。

グドンはネクサスに鞭で叩きつけようとする。

ネクサスはグドンの鞭を後ろに下がって避ける。

メロディ「いくよ、リズム！」

リズム「オッケー！」

メロディはミラクルベルティエを、リズムはファンタステックベルティエを構える。

メロディ、リズム「翔けめぐれ、トーンのリング！プリキュア・ミュージッククロンド！」

メロディとリズムはプリキュア・ミュージッククロンドを放つ。

グドンは2人の技に怯む。

ネクサスはソードレイ・シュトロームでグドンの両腕の鞭を斬り落とし、その後、グドンの腹を突き刺す。

ネクサスはソードレイ・シュトロームを引き抜く。

グドンはそのまま前に倒れ、爆散される。

ネクサスはグドンを倒した後、クリシスの姿に戻る。

メロディとリズムも変身を解いた。

クリシス「2人とも、ご苦労様。」

奏「クリシスさんは大丈夫なんですか？」

クリシス「うん。元氣百倍だよ！」

クリシスは奏に言われて元氣よく返事する。

クリシス「さてと、なにか美味しい物でも食べに行こつかな。じゃ、またねー！」

クリシスは響と奏と別れる。

響「本当に変わった人だね。」

奏「そういえば、クリシスさんはどこで住んでるのかな？」

響と奏はクリシスを見送りながら言う。

その頃・・・

いちか「うわあ〜！本当に妖精の世界に繋がってるんだ！」

いちか達はまのんの案内で『デイメンジョンゲート』を潜り、無人島に入った。

ひまり「広いし、いい眺めです！」

ゆかり「シエルはこの世界は初めてだったわね？」

シエル「ウイ。私とピカリオはいちご山で暮らしてたからね。」

あおい「風が気持ちいい！」

あきら「いい場所だね。」

いちか達はまのんが案内した無人島を見渡す。

いちか「はるかちゃんから聞いたけど、この島の近くにホープキングダムがあるんだよね。」

はるか「うん。その時はびっくりしたよ。」

まのん「私もびっくりしました。」

まのんとはるかは今いる無人島がホープキングダムの近くにあることを当時驚いていた。

ゆかり「けど、そこまでどうやって行くの？」

まのん「ああ、カナタさんからもらったんですけど……」

まのんはカバンから手紙を取り出す。

あおい「手紙？」

あおいはまのんが取り出した手紙を見て目を疑う。

その時、まのんが持っている手紙が光り出し、どんどん大きくなったと思ったら、巨大な絨毯となった。

しかも20人程乗れるぐらいの大きさに。

いちか「なんですとーっ!？」

ひまり「お手紙が絨毯に変わりました!？」

いちか達は手紙が絨毯に変わったことに驚く。

きさら「今みたいに手紙が乗り物になるっていうの、ハルモニアからの招待状と同じ仕組みなんだよね。」

トワ「ええ、ホープキングダムはハルモニアとの交流もありますの。お兄様が渡した手紙はミス・シャムールが作ってくれました。」

まのん「最初に使った時驚きましたよ・・・」

トワは手紙が絨毯に変わった理由を話した。

まのんはその手紙を初めて使った時、驚いたのだった。

シン「俺もみらい達に乗せてもらうのかと思った。」

リコ「乗せられないし。1人しか乗れないし。」

リコはシンの発言に苦笑いしながらツッコむ。

シン達は絨毯に乗り、ホープキングダムに向かった。

そのホープキングダムで眠っている真理奈は不思議な夢を見た。

その夢は目の前にリュックサックを背負った少年と先住民族のような服装をした青年が立っていることである。

真理奈「えっ?!? ダイゴ義兄さん!?! 何、その格好?」

ダイゴ「ああ、ごめん! 僕は君のお義兄さんとは違う人間なんだ。名前は同じけどね。」

真理奈は先住民族のような服装の青年の事をダイゴと呼ぶ。

真理奈の兄じゃないと告げた青年はマドカ・ダイゴ。

ネオフロンティアスペースでは地球平和連合TPC直属の防衛組織GUTSの隊員として戦っていた。

現在は火星でマドカ・レナと共に過ごしている。

彼はGUTSで活躍していた頃、ウルトラマンティガに変身したことがある。

真理奈「え? えーっと・・・つまり、私の義兄さんとは別人ってこと?」

ダイゴ「うん、そういうこと。」

真理奈はダイゴが言っていたことを解釈する。

真理奈「じゃ、あんたは？」

真理奈はリュックサックを背負っている少年に目を向けて名前を尋ねる。

？「僕は玉城ユウトだよ、お姉ちゃん！」

リュックサックを背負う少年は玉城ユウトと名乗る。

彼は東都大学の教授玉城ツカサの息子である。

芭羅慈遺跡で大空大地と出会い、それをきっかけにザイゴグの襲撃に関わる。

ユウトが拾ったスパークレンスによってウルトラマンティガに変身したことがある。

真理奈「天国にしては変な感じね・・・」

ユウト「だからまだ死んでないって！」

ダイゴ「君は怪獣に負けて気絶してただけだよ。」

ダイゴとユウトは真理奈にまだ生きてると告げる。

真理奈「あゝ、そうだったわね。さっきあの怪獣にやられたって思ってたわけだし：

ホープキングダムはどうなってるの!？」

ダイゴ「大丈夫、心配いらないうよ。」

ユウト「ゼロが守ってくれたよ。」

ユウトは真理奈にホープキングダムの無事を伝える。

そして、ダイゴとユウトは自分がウルトラマンティガとして戦っていたことを話し

た。

真理奈「そっか・・・あんた達も大変な目に遭ってたんだね・・・私なんか今も大変だよ。テイガの過去を知ったんだ。テイガは闇の巨人だったけど、大昔の人間が一心同体となって光になったことを。その人間が戦いに勝った後、光となって消えていったことを。私もその人と同じ末路になるのかなって不安になったんだよね。そう考えるとアスカのお兄さんが言ってた人としてできる事って何だろうねって無意識に考えちゃった・・・」

真理奈は雲も青空も太陽もない真っ白な空間に見上げながら言う。

真理奈「2人が羨ましいよ。地球の平和を脅かす強敵に立ち向かえたんだから・・・」
真理奈は言ってる自分自身が情けなく感じる。

ユウト「そんなことないよ!」

真理奈「え?」

真理奈はユウトに声をかけられて振り向く。

ユウト「僕はお姉ちゃんか思ってるほど強くないよ! 芭羅慈遺跡でザイゴークを見た時、怖かったんだ。でも、大地お兄ちゃんのおかげでお母さんを助けたんだ。」

ダイゴ「僕も君が思ってるほど強くないよ。あの時、邪神を倒すことができたのは、その本質が光だったからなんだ。」

真理奈 「光？」

真理奈はダイゴが言っていたことに首を傾ける。

ダイゴ 「それは誰の中にもある。君の中にも。」

真理奈 「・・・」

ダイゴ 「たくさんの人達を輝かせる力があるんだ。だからどんな強敵にも立ち向かえたんだ。」

その時、真つ白だった空間が変わり始めた。

真理奈が見たのは、石像になったティガに多くの光が集まっていた事を。

強大な闇に敗れたティガが石像となった巨人たちに光を与えた事を。

地獄のような存在に追い詰められたティガ達に声援を贈った人達を。

真理奈 「こんなにたくさんの人達がティガを・・・」

真理奈はこの風景を見て、今までティガとなつて戦った日々を思い出す。

真理奈は強い怪獣と戦う時、ゼロ達やプリキュア達に助けられながら一緒に戦ってきた。

真理奈 「言われてみれば、私も支えられてたわね・・・」

真理奈は頬を掻きながら呟く。

ダイゴ 「アスカにも言ったことだけど、何故戦うのか、自分は何者なのか。誰かにそ

の答えを教えてもらいたかった。でも、最後は自分で出さなきゃならない答えもある。君が考えている、人としてできる事、それは自分自身で決めるしかないんだ。」

真理奈「！」

真理奈はダイゴの言葉を聞いて、前にアスカが言った言葉を思い出す。

アスカ『君と同じようにティガに変身して巨大な闇を打ち払った後、人間として生きてきた人がいる。その人は言ったんだ。人としてできること、それは自分自身で決めるしかないんだと。』

真理奈は確信した。

目の前にいるダイゴがアスカが言っていた、巨大な闇を打ち払った後、人間として生きてきた人だと。

真理奈（アスカのお兄さん・・・いや、アスカ兄さんに感謝しないとね・・・）

真理奈は六本木でアドバイスを送ったアスカに感謝しないと思いました。

真理奈「ユウト、励ましてくれてありがとう。」

ユウト「どういたしまして！」

真理奈「ダイゴ兄さんも・・・って兄さん呼びすると私の義兄さんとややこしくなるわね・・・」

ダイゴ「あつはは、なんて呼んでもいいよ。」

真理奈「あはは、ダイゴ兄さんって呼ぶよ。定着しちやったからね。」

真理奈は苦笑いしながら言う。

真理奈「ダイゴ兄さんもありがとう。アスカ兄さんもそうだけど、アドバイスありがとう。」

ダイゴ「がんばれよ。」

真理奈「うん。あ、そういえばまだ名前聞かせてなかったね？私は新真理奈。」

ユウト「真理奈お姉ちゃん、がんばれ！」

ダイゴ「頼んだよ。」

真理奈「うん！」

真理奈はダイゴとユウトに親指を立てるジェスチャーをする。

すると、ダイゴとユウトは真理奈に笑顔で見送るように下半身から消えていく。

真理奈がダイゴとユウトと話し合っている間、シン達は・・・

いちか「真理奈ちゃん、この部屋に？」

まのん「はい。」

シン「シエルは会うのは初めてだったな？」

シエル「ウイ。その時はまだ苺坂に帰ってなかったから。」

真理奈が寝ている部屋の前にいる。

ちなみにいちかの手には前に真理奈がお土産として作らせたクルルのカップケーキが入っている袋が持っている。

シン達はいろいろと話をした後、シンは真理奈が寝ている部屋のドアを開ける。

シン「あ、お前ら。」

シンが見たのはふたりはプリキュアMAX HEARTとふたりはプリキュアSP LASH STARとYESプリキュア5GOGOが真理奈を看取っている所である。

ほのか、舞「シンさん！」

はるか「あーっ！みんな！」

なぎさ「あ、お邪魔してまーす！」

はるか達はなぎさ達がいることに驚く。

ひまり「この方たちは？」

みらい「あ、この人達はね・・・」

みらいはキラキラ☆プリキュアアラモードになぎさ達を紹介する。

その後、みらいはなぎさ達にキラキラ☆プリキュアアラモードを紹介する。

いちか「というわけで、よろしくお願いします！」

咲「こちらこそよろしくナリ！」

りん「しかし、ついに50人超えたね・・・」

くるみ「名前を覚えるだけでも大変だわ・・・」

りんとくるみは度々に増えていくプリキュアに頭を抱える。

まのん「みんなもお姉ちゃんのお見舞いに？」

ほのか「うん。アロマから事情を聞いたよ。」

なぎさ「真奈美さんがゲートを開けてくれたんだよ。」

うらら「シロツブのおかげでここに来ました。」

まのんはなぎさ達から話を聞く。

クルルはまのんの腕から真理奈の隣に飛び移る。

まのん「お姉ちゃん・・・」

まのんは心配そうに真理奈を見る。

真理奈「・・・う・・・う・・・」

まのん「！お姉ちゃん!？」

まのんは真理奈の呻き声を聞き、真理奈の顔に近づく。

まのん「お姉ちゃん！」

真理奈「う・・・うん・・・あ、まのん・・・」

まのん「お姉ちゃん！」

まのんは真理奈が目を覚めて涙を流しながら抱きつく。

真理奈「ちよ、まのん、半病人相手にいきなり抱きつく奴いるか!？」

まのんは真理奈に言われて慌てて抱きついた手を離す。

いちか「真理奈ちゃん、無事だったんだね？」

真理奈はいちかの声を聞いていちかの方に振り向く。

真理奈「なんか聞き覚えのある声がすると思ったら、あのスイーツショップの子達か。」

あおい「起きて一言目がそれかよ？」

あきら「でも、無事でよかったよ。」

ひまり「心配しましたよ。」

ゆかり「元気そうで何よりね。」

いちか達は真理奈が目覚めて安心する。

その後、いちかがシエルを紹介したり、お見舞いの品としてクルルのカップケーキを贈ったりで、真理奈が寝ていた部屋が賑やかになる。

滅亡の邪神、降臨！

グラールに敗北し、ホープキングダムで療養された真理奈はある夢を見る。

その夢はネオフロンティアスペースでティガとなったマドカ・ダイゴと、ウルトラマンエックスの世界でティガとなった玉城ユウトであった。

真理奈は2人からティガとなって戦った日々や光の本質を聞く。

真理奈は2人に感謝し、夢から覚め、シン達と再会する。

今、真理奈はベッドの上でいちか達と話していた。

真理奈「初めてキラキラパティスリーにお邪魔してカップケーキを食べた時、チラツと妖精が見かけたからもしかしてとは思ったよ。」

いちか「あ、あはは・・・見られちゃいました？」

真理奈「チラツとだけどね？」

いちかは椅子に座って真理奈と話していた。

ペコリン「真理奈、初めましてペコ。ペコリンペコ。」

真理奈「ペコリンね？よろしく。」

ペコリンは真理奈に自己紹介する。

シエル「あのゲートは真理奈のお母様が？」

真理奈「ええ。正確には祖父ちゃんが書いた設計図の通りに母さんと父さんが作ったんだけどね。後で紹介するよ。」

真理奈はシエルに『デイメンジョンゲート』の事を話す。

真理奈（伝説のパティシエか・・・できればパティシエを怪獣達の相手にさせたくないけどね・・・）

真理奈はいちか達を見て、そう思った。

だが、シン達の話によるとはるか達やみらい達と一緒に戦ってくれたと言う。

真理奈はシン達の話の思い出して、自分が気恥ずかしくなった。

一方、ホープキングダムの中庭ではココとナッツがタルトと連絡している。

ココ「タルト、トランプ共和国の方はどうなってるココ？」

ここはタルトに今のトランプ共和国の状況を聞く。

タルト『城の皆はんはエースはんやレジーナはん、アイちゃんがいなくなって混乱しとるけど、クロンダイクはんがうまくやつとる。しかもこつちにはさつきハッピーはん

達やラブリーはん達が到着してはるわ。ビューティはんの話やと、ピーチはん達ももうすぐ来るんやて。』

タルトはココに今のトランプ共和国の状況を伝える。

タルト『真理奈はんは目え覚めたん？ 怪獣にやられたって聞いたんやけど・・・』

ナツツ「心配ないナツ。先程から目を覚ましたナツ。今はキラキラ☆プリキュアアラモードが看病してるナツ。」

タルト『新しく誕生したプリキュア達かいな？ 人数増えると頼もしいな・・・って増えすぎやろ！』

ココ「ノリツツコミをしてる場合じゃないココ・・・」

タルトは真理奈の状態を聞くついでにキラキラ☆プリキュアアラモードが加担した事にツツコミを入れるが、ココに飽きられる。

ナツツ「ところで、ミラクルライトは完成したナツ？」

タルト『一応持つて来とるんやけど・・・』

タルトはどこからか風呂敷を出し、その風呂敷からペンライトのような小道具を取り出す。

その先にはスパークレンスの形にしたクリスタルが付けられている。

このペンライトのような小道具がミラクルライトである。

このミラクルライトはプリキュアのパワーアップするのに必要とする奇跡の虹が込められているライトである。

これによつてプリキュアがスーパープリキュアになることができる。

それ以外にもプリキュアのダメージを回復させたり、闇の刺客を退けたりすることができる。

タルト『まだ改良の途中なんや。もうちょい待つてくれへんと、今のままやつたら効果は期待できひん。それにミラクルライトは元々プリキュアの為に作られたもんやから、ウルトラマンにも効くとは思わへん。勘弁したつてや。』

ナッツ「分かったナツ。」

タルトはココとナッツにミラクルライトの事を報告する。

タルト『気になるんはユグドラシルや。そいつらの動きが分からんと手の打ちようあらへんで。』

ナッツ「何か分かったら伝えるナツ。そっちはトランプ共和国の防衛を頼むナツ。」

タルト『了解や。たつた今、我夢はんや大地はんが来てくれとるさかい。そっちも対策頼むで。』

ココ「任せるココ。」

ココとナッツはタルトとの連絡を切る。

その頃、真理奈が目覚めてしばらく経った後、バルコニーではシンとダンがいた。

シン「親父、そろそろ行くのか？」

ダン「ああ。ユグドラシルの本拠地を探しに行く。ジャックやAもトランプ共和国に入ってすぐに捜索に行った。こっちの事は頼むぞ、ゼロ。」

シン「ああ。」

ダンはウルトラアイを目に装着し、ウルトラセブンに変身する。

そしてセブンはシン達と別れ、ユグドラシルの本拠地を探しに飛び立つ。

シンはそのセブンを見送る。

？「シンさん！」

シンは誰かに呼びかけられ、後ろに振り向くと、うららとシローがいた。

シン「うらら。シロップ。久しぶりだな。」

うらら「はい、横浜コスモワールド以来ですね。」

うららとシローはシンの隣に移動する。

シン「今もリトラの墓参りしたのか？」

うらら 「はい。リトラさんは大事なお友達ですから。」

うららはシンにネオガイガレードとの戦いを終えた後もリトラの墓参りをしたことを話す。

シロー 「なあ、シン。リトラの他に人間の味方をする怪獣はいるのか？」

シン 「ああ、いるぜ。」

シンはシローの質問に答える。

シン 「ピグモンって奴だ。怪獣墓場で眠りについたんだが、そこでダイナとコスモスから与えられた力の意味を考えたくて、そこに来たんだ。だが、そこにバット星人グラシエが怪獣墓場に眠る怪獣達の眠りを覚ました。あいつとダチになったのはそれがきつかけだったんだ。」

シンは怪獣墓場で出会ったピグモンについて話した。

うらら 「怪獣墓場って何ですか？」

シン 「怪獣墓場は俺達ウルトラ一族が倒した怪獣や宇宙人が眠る場所だ。俺達によって倒された怪獣は魂となって次元を超えてそこに眠りにつくんだ。だが、その怪獣を蘇らせて利用する宇宙人も多いんだ。」

シンはうららとシローに怪獣墓場について説明した。

シロー 「そのバット星人って奴もその一人か？」

シン「ああ。怪獣達の魂を自分の体に蓄えさせ、俺を倒すためにな。俺は命を弄ぶあいつが許さなくてぶつ倒そうとしたが、奴を倒すと蘇らせた怪獣も死ぬ。つまり、奴を倒せばピグモンもおさらばってわけだ。」

シンは怪獣墓場でバット星人グラシエと戦った時の話をする。

シン「その時はマジで動揺したぜ。おかげで蝙蝠野郎にやられるかと思った。」

うらら「そんなことがあったんですね。」

シロー「けど、ピグモンって奴と友達になつたって話だけど、どうやって蘇らせたんだ？」

シン「コスモスの力のおかげだ。その力でピグモンの命を留まらせたんだ。けど、大変だったのはその後だったんだ。」

うらら「何かあったんですか？」

うららはシンにグラシエとの戦いの後について尋ねる。

シン「メフィラス星人・魔導のスライがピグモンをさらつたんだ。俺を怪獣墓場に來させるためにな。」

シンはダークネスファイブとの戦いを語る。

その前にダークネスファイブについて話そう。

ダークネスファイブはメフィラス星人・魔導のスライ、テンペラー星人・極悪のヴィ

ラニアス、ヒツポリト星人・地獄のジャタール、グローザ星系人・氷結のグロツケン、デスレ星雲人・炎上のデスローグが集結した強敵宇宙人集団である。

この5人がバット星人グラシエを使い、ゼロの能力を分析した。

シロー「怪獣墓場に来させる?」

うらら「どういうことですか?」

うららとシローはシンが言っていた言葉に頭を傾げる。

シン「スライとその仲間の親玉、ベリアルが俺の前に現れたんだ。奴も俺と同じウルトラマンだったんだ。」

うらら、シロー「えっ!?!」

うららとシローはシンからウルトラマンベリアルについて話を始めた時、驚きを隠さなかった。

ウルトラマンベリアルはゼロと同じM78星雲のウルトラ戦士だったが、プラズマスパークタワーのエネルギーコアの力に耐えきれず、光の国から追放された。

その後レイブラッド星人によって悪のウルトラマンとなり、ギガバトルナイザーで光の国を襲った。

その時にウルトラマンキングによって宇宙牢獄に閉じ込められたが数万年の長きに渡り、ザラブ星人によって復活し、光の国を壊滅寸前まで追い込んだ。

怪獣墓場で怪獣軍団を蘇らせたが、ゼロを含めて生き残ったウルトラマン達によってベリアルの野望を阻止するが、それまでに飽き足らず、アナザースペースでカイザーベリアルとしてベリアル銀河帝国を築き、再び光の国滅亡を謀る。

しかし、ゼロを含むウルティメイトフォースゼロの活躍により倒される。

だが、ベリアルと再会したのはダイナとコスモスの力を貰ってしばらく経った後だった。

シン「奴は一度倒されたが、怪獣墓場で蘇って戦いを挑んだんだ。奴の狙いは自分の魂を俺の体に憑りつくことだったんだ。ベリアルは俺の体の中に入り、次々と俺の仲間を殺した。」

うらら、シロー「!？」

うららとシローはシンから発する衝撃の事実を聞く。

シン「ピグモンはその俺を止めようと立ち塞がったんだ。ただ俺はその後の事を覚えていない。気が付いたら俺の手で殺されたはずの仲間達が蘇ったんだ。」

うらら「ピグモンさんの力ですか？」

シン「いや、ピグモンにそんな力は持っていないねえよ。だが、仲間達を蘇らせたのは俺だっつのは間違いのないみたいだ。奴らが姿を消した後、ピグモンと一緒に仲間と過ごしてきたんだ。」

シンはダークネスファイブを撃退した後の事を話した。

シン「あ、悪い。いい話じゃなかったな？」

？「ううん。聞いてよかったって思ってます。」

シンとうららとシローは声が出た方に振り向くと、のぞみ、りん、こまち、かれん、く
るみがいいた。

シン「お前ら。」

シロー「盗み聞きしてたのかよ？」

のぞみ「ごめん、偶然通りがかつたら今の話聞いちゃって。」

シン「そうか。」

シンはのぞみが今の話を聞いた理由を聞く。

シン「!」

シンは何かを感じ取ったのか、辺りを見渡す。

その時、黒い渦から怪獣が現れた。

しかし、現れたのはイビロンではなかった。

シン「あれは!？」

シンが見たのはハイパーゼットンだった。

シン「ハイパーゼットン！奴までイビロンに!？」

くるみ「どんな怪獣なの？」

シン「奴は別の宇宙の地球で人間の絶望と恐怖心を喰って成長した奴だ。ダイナとコスモスと一緒に戦ったんだが、テレポルト能力で手も足も出なかつただけじゃなく、俺達の光線を吸収して撃ち返す力を持っている！」

りん「そんなに強いのが!？」

うらら「見てください！」

シン達はうららが指している方向に振り向く。

そこには2カ所、空間の歪みが生じた。

その歪みから鋭い鉤爪を持つ大きな口をした怪獣と額に水晶のようなものが付いている昆虫のような怪獣が現れた。

前者の怪獣は肉食地底怪獣ダイゲルン。

ダイナを嘔みついて持ち上げる程の顎の力を持つ怪獣である。

地下都市ジオシテイ建設の為に使ったPWウェーブ発生装置を破壊した後、地上の人々を襲い掛かった。

後者の怪獣は変異昆虫シルドロン。

額の水晶体を点滅させる事で敵の攻撃を予知することができる怪獣である。

シルドロンはその能力でダイナの攻撃を悉く躲した。

かれん「また怪獣!？」

シン「チツ!次々と増えやがって!」

ダイゲルンは城に向けて火炎を発射する。

その時、城の前に青白い光が現れ、火炎を防いだ。

その光が消えるとコスモスが現れる。

シン「コスモス!」

シルドロンはコスモスに攻撃しようと前進する。

その時、シルドロンの後頭部に手裏剣状の光弾が命中される。

そのシルドロンの前に現れたのはダイナである。

シン「ダイナ!」

ダイナ「よお!」

コスモス「無事でよかった。」

ダイゲルンとシルドロンの間にハイパーゼットンが降り立つ。

シン「よし!」

こまち「でも、ハイパーゼットンってアスカさんやムサシさんと一緒に戦っても倒せなかつたんですね?そんな怪獣に勝てるのでしょうか?」

シン「心配いらねえよ!俺達は絶対に負けねえ!」

シンはウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを出し、それを目に嵌める。

よってシンはウルトラマンゼロに変身する。

そしてゼロはダイナとコスモスの間に駆け寄る。

ゼロ「行くぜ！ダイナ！コスモス！」

ダイナ「ああ！」

コスモス「うん！」

ゼロとダイナとコスモスはハイパーゼットンとダイゲルンとシルドロンに挑む。

限界を超えし戦士

真理奈が目覚め、いちかを率いるキラキラ☆プリキュアアラモードと再会する。

そして、シンはうららとシローにピグモンとの邂逅とウルトラマンベリアルとの戦いについて語る。

そんな時、イビロンが作った黒い渦からハイパーゼットンが現れる。

それに合わせて、時空の歪みからダイゲルンとシルドロンも出現した。

しかし、怪獣達の前にダイナとコスモスが降り立つ。

シンもゼロとなってハイパーゼットンとダイゲルンとシルドロンの前に立ち塞がる。

一方、YES！プリキュア5 GOGOは他のプリキュア達と合流する。

のぞみ「みんな！」

なぎさ「お待たせ！」

いちか「真理奈ちゃんはカナタさんに任せてあるよ！」

いちか達は城から出て、今は城下町にいる。

きらら「またとんでもないのが出てきたね。」

まのん「うん。」

はるか「それでもこれ以上好きにはさせないよ！みんな！」
はるか達は変身アイテムを構える。

なぎさ、ほのか「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」

ひかり「ルミナス・シャイニング・ストリーム！」

咲、舞「デュアル・スピリチュアル・パワー！」

のぞみ、りん、うらら、こまち、かれん「プリキュア・メタモルフオーゼ！」
くるみ「スカイローズ・トランスレイト！」

はるか、みなみ、きらら、トワ「プリキュア・プリンセスエンゲージ！」

みらい、リコ、ことは「キュアアップ・ラパパ！」

みらい、リコ「ダイヤ！ミラクル・マジカル・ジュエリーレ！」

ことは「エメラルド！フェリーチェ・ファンファン・フラワーレ！」

いちか、ひまり、あおい、ゆかり、あきら、シエル「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「ショートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら 「チョコレート！」

シエル 「パフェ！」

いちか 「元気と笑顔を！」

ひまり 「知性と勇気を！」

あおい 「自由と情熱を！」

ゆかり 「美しさとトキメキを！」

あきら 「強さと愛を！」

シエル 「夢と希望を！」

いちか、ひまり、あおい、ゆかり、あきら、シエル 「レッツ・ラ・まぜまぜ！」
なぎさ達はプリキュアに変身する。

ブラック 「光の使者！キュアブラック！」

ホワイト 「光の使者！キュアホワイト！」

ルミナス 「輝く命！シャイニールミナス！」

ブルーム 「輝く金の花！キュアブルーム！」

イーグレット 「煌く銀の翼！キュアイーグレット！」

ドリーム 「大いなる希望の力！キュアドリーム！」

ルージュ 「情熱の赤い炎！キュアルージュ！」

レモネード「はじけるレモンの香り！キュアレモネード！」

ミント「安らぎの緑の大地！キュアミント！」

アクア「知性の青き泉！キュアアクア！」

ローズ「青いバラは秘密の印！ミルキイローズ！」

フローラ「咲きほこる花のプリンセス！キュアフローラ！」

マーメイド「澄みわたる海のプリンセス！キュアマーメイド！」

トウインクル「きらめく星のプリンセス！キュアトウインクル！」

スカーレット「深紅の炎のプリンセス！キュアスカーレット！」

ミラクル「ふたりの奇跡！キュアミラクル！」

マジカル「ふたりの魔法！キュアマジカル！」

フェリーチェ「あまねく生命に祝福を！キュアフェリーチェ！」

ホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

カスタード「キュアカスタード！できあがり！」

ジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

マカロン「キュアマカロン！できあがり！」

シヨコラ「キュアシヨコラ！できあがり！」

パルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

まのんもクルルを抱え、光に包み込み、その光からキュアエレメントに変身する。

エレメント「繋ぎ合う7つの光！キュアエレメント！」

全員、プリキュアの変身を完了する。

ブラック「みんな、行くよ！」

ブラック達はゼロ達の援護に向かう。

その時、ブラック達の目の前に時空の歪みが生じる。

ジェラート「ゲッ!?また!？」

ジェラートが見た時空の歪みは小さいが、今まで見た歪みによって怪獣が現れたので狼狽える。

その歪みから出てきたのは、デイゴンである。

しかも、その数は100体である。

ドリーム「またこいつらだよ!？」

ルージュ「しつこいわね！」

今まで何度か倒した事がある連中に呆れるルージュ達。

ブラック「仕方ない!こいつらを片付いてからゼロ達を援護するよ!」

ブラック達はゼロ達の援護を後回しにし、先にデイゴンの集団を相手をする。

一方、ゼロはハイパーゼットン、ダイナはシルドロンを、コスモスはダイゲルンを対峙していた。

ゼロ「エメリウムスラッシュ！」

ゼロはハイパーゼットンにエメリウムスラッシュを放つが、ハイパーゼットンはハイパーゼットンテレポートで躲す。

ゼロ「んなろお！」

ゼロはゼロスラッガー飛ばすが、ハイパーゼットンは何度もハイパーゼットンテレポートで避け続ける。

ハイパーゼットンはゼロの前に現れ、殴り飛ばす。

ハイパーゼットンの背後から、ゼロの元に戻るようにゼロスラッガーが飛翔するが、これも躲される。

ゼロ「チイツ！相変わらずのチート野郎だぜ！」

ゼロはハイパーゼットンに対し、苦虫を噛み潰す。

ダイナはシルドロンの頭に蹴りを入れようとする。

その瞬間、シルドロンの額の水晶体が光り、腕のハサミでダイナの蹴りを防ぐ。

そしてシルドロンはもう片方のハサミでダイナを殴り飛ばす。

ダイナはフラッシュサイクラを放つ。

しかし、シルドロンは再び額の水晶体を光らせ、両腕のハサミでダイナの技を防ぐ。

ダイナ「あいつの予知能力も相変わらずか！けどな・・・本当の戦いはここからだぜ

！」

ダイナは両腕をカラータイマーの前にクロスする。

すると、ダイナの額のクリスタルが赤く輝かせる。

よつて、ダイナはフラッシュユタイプからストロングタイプにタイプチェンジする。

ダイナはシルドロンに真正面に殴りかかる。

シルドロンは再び額の水晶体を光らせ、防御する。

しかし、シルドロンはダイナのパワーに吹き飛ばされる。

ダイナは大ジャンプし、シルドロンに目掛けてストロングボムを繰り出す。

シルドロンはまた額の水晶体を光らせ、ハサミで防御する。

しかし、ダイナはシルドロンにハサミごと胴体を貫く。

シルドロンはそのまま爆散される。

ダイナ「見たか、俺の超ファインプレー！」

ダイナは爆散されたシルドロンに指を指して言う。

コスモスはダイゲルンの突進に対し、ジャンプでダイゲルンの頭上に回避する。

ダイゲルンは再び突進するが、コスモスは擦り抜け様に避ける。ダイゲルンは火炎を発射する。

その火炎をリバースパイクで防ぎ、バリヤーと一緒にダイゲルンにお返しする。よってダイゲルンは怯む。

コスモスは片手を高く伸ばして光を照らす。

よってコスモスはルナモードからコロナモードにタイプチェンジした。

ダイゲルンはコスモスに鉤爪で攻撃する。

コスモスはダイゲルンの攻撃を受け止め、腹に蹴りを入れる。

ダイゲルンは尻尾で攻撃を繰り返すが、コスモスに受け止められる。

コスモスは尻尾と一緒に回転を加えると、ダイゲルンも回転され、地上に墜落する。

コスモスはダイゲルンと距離を取って、ブレイジンググウェーブを放つ。

ダイゲルンはコスモスの圧殺波動攻撃によって遠くへと飛ばされ、その直後に爆散される。

コスモス（ムサシ）「コスモス……」

コスモス「今まで現れた怪獣達、私のフルムーンレクトが通じなかった。」

コスモス（ムサシ）「うん、なんだか悲しいな……」

ムサシは先程倒したダイゲルンを見て、今まで戦っていた怪獣達の事を思い出す。

その怪獣達はコスモスの浄化も興奮抑制も効かなかった。

ムサシはそんな怪獣達に少しだけショックを受ける。

しかし、そうは言っていられない。

ダイナとコスモスが2体の怪獣を相手をしている間も、ゼロはハイパーゼットンに苦しめられているのだ。

ダイナとコスモスはゼロと合流し、ハイパーゼットンと相手をする。

ゼロ「ダイナ！コスモス！」

コスモス「ゼロ！」

ダイナ「待たせたな！」

ゼロとダイナとコスモスはハイパーゼットンに目を向ける。

そして、ゼロはワイドゼロショットを、ダイナはガルネイトボンバーを、コスモスはネイバスター光線を放つ。

しかし、ハイパーゼットンはハイパーゼットンアブソープでゼロとダイナとコスモスの技を吸収し、撃ち返す。

ゼロとダイナとコスモスはハイパーゼットンの反撃によって跪く。

ゼロ「チツ！本当にチートな怪獣だぜ・・・」

ダイナ「けど、まだ諦めねえんだろ？」

ゼロ「ああ！俺たちウルトラマンに限界はねえ！」

コスモス「うん！」

ゼロとダイナとコスモスはゆっくりと立ち上がる。

ゼロ、ダイナ、コスモス「本当の戦いはここからだ！」

ゼロとダイナとコスモスがそう叫ぶと、ゼロのウルティメイトブレスレットが変形し、サーガブレスとなる。

そして、ゼロは緑の光に、ダイナは金色の光に、コスモスは青い光に包まれ、巨大な竜巻のように荒れ狂う。

そして3色の光の竜巻が晴れると、結晶体のようなボディに光が溢れ出しているような姿をしたウルトラマンが現れた。

そのウルトラマンはウルトラマンサーガ。

フューチャーアースでゼロとダイナとコスモスが一つとなったウルトラマンである。

フューチャーアースの地球防衛隊・チームUと連携して、ハイパーゼットンを打倒することができた。

サーガはハイパーゼットンにサーガプラズマを放つ。

ハイパーゼットンも1兆度以上の火球を放つ。

よってサーガとハイパーゼットンの技が相殺する。

サーガとハイパーゼットンが先程相殺した時の爆炎が晴れた後も睨み合う。

VS ハイパーゼットン

ホーピングダム上空より発生した黒い渦からハイパーゼットンが現れ、そして時空の歪みからダイゲルンやシルドロンが現れる。

そんな時、ダイナとコスモスの乱入により、ダイゲルンとシルドロンを撃破する。

残るはゼロとダイナとコスモスを苦しめたハイパーゼットンのみ。

一切の攻撃を受け付けないハイパーゼットン。

しかし、ゼロとダイナとコスモスの心が一つになり、ウルトラマンサーガが現れる。

その頃、ブラック達は時空の歪みより現れたデイゴンの集団を相手にしていたが：

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブラックとホワイトはプリキュア・マーブル・スクリュー・マックスを放ち、デイゴ

ン達を撃破する。

マーメイド「これで全滅ね。」

トウインクル「もう来ないでほしいんだけど。」

ルミナス「皆さん、あれを！」

ブラック達はルミナスが指した方向に振り向く。

その先には緑、金、青の光の竜巻が発生し、そしてその竜巻からウルトラマンサーガが現れた所である。

ドリーム「な、なにあれ〜!？」

ホイップ「見たことないウルトラマンだよ！」

イーグレット「もしかして、シンさん達!？」

ミラクル「今、シンさん達って言いました!？」

ブルーム「どうなってるナリ!？」

プリキュア達はサーガの姿を見て驚く。

サーガはハイパーゼットンと睨み合ってしばらく経った後、サーガアクセラレーションでハイパーゼットンとの間合いを詰め、頭部にパンチを入れる。

ハイパーゼットンはハイパーゼットンテレポートでサーガとの距離を取るが、サーガはそれを逃がすまいとハイパーゼットンを追い詰める。

格闘による鮮烈な戦いを繰り広げる。

ハイパーゼットンはスライムのような飛翔体を5体召喚し、周囲の地面に衝突させる。

すると、5カ所の場所から5体の怪獣が現れる。

その5体の内3体は前に人間界で倒された怪獣もいた。

その3体はアントラーとパンドンとブラックキングである。

他にも珊瑚のような体をした怪獣と所々倒された怪獣の体の一部が合体した怪獣も一緒である。

前者の怪獣・・・いや、超獣はミサイル超獣ベロクロン。

異次元ヤプールが送り込んだ超獣第1号である。

全身のミサイルで地球防衛軍の戦闘機隊を全滅させた。

後者の怪獣は暴君怪獣タイラント。

ウルトラ戦士に倒されたシーゴラス、イカルス星人、ベムスター、バラバ、ハンザギラン、レッドキング、キングクラブが合体した強力な怪獣である。

地球侵略に向かったタイラントを阻止しようとしたゾフィー、初代ウルトラマン、セブン、ジャック、Aを薙ぎ倒してしまう程の実力を持つ。

サーガ(ゼロ)「やはりあの時みたいに増やしたか。だが、こんな奴ら屁でもねえぜ。」
サーガはハイパーゼットンとアントラー達を相手に身を構える。

ベロクロンは口から火炎を吐き出す。

しかし、サーガの前にルミナスが現れ、バリアを張り、ベロクロンの火炎を防ぐ。

ルミナス「大丈夫ですか!?!」

サーガ(ゼロ)「お前ら!」

サーガは周囲を見ると、他のプリキュア達が立っていた。

ブラック「あの怪獣達は私達に任せて！」

ドリーム「シンさん達はハイパーゼットンを！」

ブラック達はハイパーゼットンが召喚したアントラー達を相手にするとサーガに告げる。

サーガ（ゼロ）「いいのか？」

ブルーム「任せるナリ！」

ミラクル「いつまでもウルトラマンに任せつきりじゃないですから！」

ブルーム達はサーガに「大丈夫！」と言わんばかりの笑顔で言う。

サーガ（ゼロ）「分かった！ここはお前らに任せる！」

フローラ「はい！」

ホイップ「任せてください！」

ハイパーゼットンは翼と尻尾を出して、空へ飛び立つ。

サーガもアントラー達をプリキュアに任せて、ハイパーゼットンを追って飛び立つ。

ホワイト「エレメントはミラクル達と一緒に戦って！」

エレメント「はい！」

ホワイトはエレメントに魔法つかいプリキュアと一緒に戦うよう言い出す。

エレメントはホワイトの言う通りにする。

ブラック「みんな！いくよ！」

ブラック達はアントラー達と対峙する。

アントラー達もブラック達が動き出したと同時に進行する。

サーガはハイパーゼットンを捕らえ、脇腹に蹴りを入れる。

ハイパーゼットンはサーガを殴りかかるが、サーガに受け止められ、蹴り飛ばされる。

ハイパーゼットンは一兆度以上の火球を放つ。

サーガはそれに対し、サーガプラスマーを放ち、ハイパーゼットンの火球を相殺する。

ハイパーゼットンはコラプサーオーラを纏ってサーガに体当たりする。

サーガもサーガアタッカーを繰り出す。

両者がぶつかり合うと、ハイパーゼットンが地上に墜落する。

サーガも地上に降り、サーガブレスからエネルギーの刃を展開する。

そして、サーガはサーガアクセラレーションでハイパーゼットンの背後を取り、サーガカッターでハイパーゼットンの翼を斬り落とした。

サーガ（ゼロ）「まだまだこれからだぜ！」

サーガはサーガアクセラレーションでハイパーゼットンの目の前に立ち、拳を振り上げる。

ハイパーゼットンはサーガの拳により、空に舞い上がる。

サーガは立て続けに飛びながら回転しながらハイパーゼットンを連続蹴りをする。

これによってハイパーゼットンは宇宙まで吹き飛ばされた。

サーガもハイパーゼットンを追って宇宙まで来た。

その頃、プリキュア達はサーガがハイパーゼットンに任せした後、ふたりはプリキュアMAX HEARTとふたりはプリキュアSPLASH STARはタイラントを、YES!プリキュア5GOGOはベロクロンを、Go!プリンセスプリキュアはブラックキングを、魔法つかいプリキュアとエレメントはパンドンを、キラキラ☆プリキュアアラモードはアントラーを対峙していた。

タイラントはフック付きロープを飛ばした。

ブラック達はそれを避けることで、ロープは地面に突き刺す。

ブラックはそのロープに乗り、全速力で走り抜く。

徐々にタイラントの頭部に近付き、ジャンプするブラック。

ブラック「オオリヤアアアアアアアアアアッ!!」

ブラックはタイラントの頭部に思いっきりパンチを与える。

タイラントはブラックの攻撃に怯むが、なんとか堪えて、ブラックにアロー光線を放つ。

しかし、ブラックの前にルミナスが現れ、バリアを張り、タイラントのアロー光線を防ぐ。

ホワイトは地面に突き刺したフック付きのロープを引っこ抜いて持ち上げる。

ホワイト「ヤアアアアアアアアアアアアアアアッ!!」

ホワイトはフック付きのロープをタイラントに目掛けて放り投げる。

フック付きのロープはタイラントの頭部に命中する。

ブルームはブライトにフォームチェンジし、イーグレットはウィンディにフォームチェンジする。

ブライトとウィンディはタイラントの真上に飛び上がる。

ウィンディ「風よ!」

ブライト「光よ!」

ウィンディは風を起こし、ブライトは光弾を作り、タイラントに目掛けて発射する。

その光弾はタイラントに命中する。

ベロクロンは全身の突起物からミサイルを発射する。

アクア「ルージュユ！」

ルージュユ「はい！」

ルージュユとアクアは腕をクロスする。

ルージュユ「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

ルージュユとアクアはベロクロンのミサイルに対し、自身の技で相殺する。

しかし、まだミサイルが残っていた為、相殺しきれなかった。

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

ミントはプリキュア・エメラルド・ソーサーでルージュユとアクアを守るようにミサイルを防ぐ。

ベロクロンは口から2つのミサイルを発射する。

レモネード「プリキュア・プリズム・チェーン！」

レモネードはプリキュア・プリズム・チェーンでミサイルを捕らえ、そのままベロクロンに投げ飛ばす。

そのミサイルはベロクロンの口に命中し、爆発させる。

ローズはベロクロンの足元にパンチを入れる。

よってベロクロンは後ろに倒れる。

ドリーム「プリキュア・シューティング・スター！」

ドリームはプリキュア・シューティング・スターでベロクロンに突進する。

ブラックキングはフローラ達にヘルマグマを放射する。

スカレット「羽ばたけ、炎の翼！プリキュア・フェニックス・ブレイズ！」

スカレットはプリキュア・フェニックス・ブレイズを放ち、ブラックキングに命中する。

ブラックキングはスカレットの技に怯むが、再びヘルマグマを放つ。

マーメイド「高鳴れ、海よ！プリキュア・マーメイド・リツプル！」

マーメイドはプリキュア・マーメイド・リツプルを放ち、ブラックキングのヘルマグマを相殺する。

フローラ「舞え、バラよ！プリキュア・ローズ・トルビヨン！」

トウインクル「キラキラ、月よ！プリキュア・フルムーン・ハミング！」

フローラとトウインクルは自身の技で、ブラックキングを怯ませる。

パンドンは左右の口から高熱火炎を放射する。

ミラクル「リンクル・ムーンストーン！」

ミラクルは左側の口から放射した火炎を満月型のバリアで防ぐ。

マジカル「リンクル・アメジスト！」

マジカルは右側の口から放射した火炎に対し、魔法陣でパンドンの背中に移す。よってパンドンは前にふらつかせるが、堪えている。

エレメント「迸る水よ、逆巻いて！プリキュア・ウオーターピアーズ！」

エレメントはプリキュア・ウオーターピアーズを放ち、パンドンを退ける。

フェリーチェ「リンクル・ペリドット！」

フェリーチェはパンドンを葉の吹雪で動きを封じる。

アントラーは磁力光線を放射する。

ホイップ「うわわわわわわっ!!」

ジェラート「ちよっ!?!やばいって!?!」

ホイップ達はアントラーの磁力光線に吸い寄せられる。

マカロン「キラキラキラルン！マカロン・ジュリエヌ！」

マカロンはキャンディロッドでマカロンのクリームエネルギーを作る。

マカロン「にゃーお♥」

マカロンはクリームエネルギーを飛ばすと爪を出して、アントラーの片顎を斬り落とす。

よってアントラーの磁力光線が消える。

シヨコラ「はあっ！」

シヨコラはスティックで混ぜた薄い赤色のクリームエネルギーでチョコレートのようなブロック状の足場を作る。

ホイップ達はそこに着地する。

パルフェ「危なかったわ……」

カスタード「助かりました……」

磁力光線が消滅したことでホイップ達は安心する。

パルフェ「ここからが反撃よ！」

パルフェはレインボーリボンを構える。

パルフェ「キラキラキラリン！パルフェ・エトワール！」

パルフェはレインボーリボンで7色のリングを作り、アントラーを拘束する。

パルフェ「みんな、今よ！」

ホイップ達はパルフェに領き、キャンディロッドを構える。

ホイップ達はキャンディロッドのキラキラルポットを回し、「キラキラキラリン、フルチャージ！」と唱える。

カスタードは生地を作成し、ジェラートはその生地を混ぜ、マカロンはその生地を切り、シヨコラはその生地を焼き、最後にホイップはクリームといちごを乗せる。

そして、アントラーに完成した巨大五段ケーキに包まれる。

ホイップ、カスタード、ジェラート、マカロン、シヨコラ「スイー・ツー・ワンダフルアラモード！」

ホイップ達はキャンディロッドのキラキラルポットを回す。

アントラーは巨大五段ケーキの中で消滅する。

ミラクル、マジカル「永遠の輝きよ！私達の手に！プリキュア・ダイヤモンド・エターナル！」

ミラクルとマジカルはプリキュア・ダイヤモンド・エターナルでパンドンを包み込み、宇宙へ飛ばして爆発させる。

フローラ「リリィ！」

マーメイド「バブル！」

トウインクル「シューティングスター！」

フローラ、マーメイド、トウインクル「輝け！3つの力！プリキュア・トリニティ・エクスプロジオン！」

フローラとマーメイドとトウインクルはプリキュア・トリニティ・エクスプロジオンを放つ。

3人が描いた巨大ティアラから放った虹色の光波でブラックキングを包み込む。

フローラ達はプリンセスロッドを回す。

ブラックキングはそのまま消滅する。

ドリーム「5つの力に！」

ルージュ、レモネード、ミント、アクア「勇気を乗せて！」

ドリーム、ルージュ、レモネード、ミント、アクア「プリキュア・レインボー・ロ

ズ・エクスプローション！」

ドリーム達はフルーレの前に突き刺すように押し出す。

よって5つのバラが1つとなり、ベロクロンを押しつぶす。

ベロクロンはバラの中で消滅する。

ルミナス「ルミナス・ハーティエル・アンクシオン！」

ルミナスはルミナス・ハーティエル・アンクシオンでタイラントの動きを封じる。

ルミナス「今です！」

ブラック達はルミナスに頷く。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブライト、ウインディ「プリキュア・スパイラル・スター・スプラッシュ！」

ブラックとホワイトとブライトとウインディは必殺技を放つ。

動けなくなったタイラントは2組の技を受けて、前に倒れ込み、爆散される。

その頃、サーガはハイパーゼットンと決着をつけようと、拳にエネルギーを集約する。ハイパーゼットンは発光器官から1兆度の火球より強力な暗黒火球を放つ。

サーガ（ゼロ）「俺のビッグバンは……もう止められないぜ！」

サーガはサーガマキシマムで暗黒火球を粉碎し、そのままハイパーゼットンの顔面に炸裂する。

サーガはハイパーゼットンを蹴り飛ばす。

ハイパーゼットンはサーガの攻撃で爆散される。

サーガは光に包まれ、ゼロと、ダイナ、コスモスの姿に戻る。

ダイナ「やったな。」

コスモス「うん、本当に手強い怪獣だった。」

ゼロ「だが、これでイビロンが操ったチート野郎がいなくなつたおかげで戦いは楽になるぜ。」

ダイナ「油断すんなよ？俺の経験上そのせいで墜落されまくつたからな？」

ゼロ「なめんなよ？さてと、あいつらの所に戻るか。」

ゼロ達はブラック達がいるホーピンググダムに戻っていく。

ヤマザキの謎

ゼロとダイナとコスモスがサーガとなってハイパーゼットンと対峙した後、ハイパーゼットンはアントラー、パンドン、ブラックキング、ベロクロン、タイラントを召喚する。

しかし、ハイパーゼットンが召喚した5体の怪獣を相手にしたのはふたりはプリキュア MAX HEART、ふたりはプリキュア SPLASH STAR、YES！プリキュア5 GOGO、GO！プリンセスプリキュア、魔法つかいプリキュア、キラキラ☆プリキュアアラモード、そしてキュアエレメントだった。

それぞれのプリキュア達が5体の怪獣を倒し、サーガは宇宙でハイパーゼットンを撃滅した。

その後、ゼロ達はホープキングダムに戻り、変身を解く。プリキュア達も変身を解いた。

ほのか、舞「シンさん！」

リコ「シン！」

シン「おう！そっちも片付いたようだな？」

いちか「はい！見ての通り！」

シンはなぎさ達がすでにアントラー達を倒した事を聞いて安心した。

まのん「けど、1日だけでこれだけ連戦すると、体がもちません・・・」

まのんは尻餅ついて、疲れた表情で言う。

きらら「またここでお休みつてことになるね・・・」

きららは苦笑いしながら言う。

はるか「とりあえず、真理奈さんの所に行こう。」

はるか達は城の中に入り、真理奈が寝ている部屋に行った。

その頃、ユグドラシルの本拠地では、デニースとヤマザキがエントランスで話していた。

キュアイーゼスことマヤも一緒である。

ヤマザキ「あの巨人とプリキュア達が他の怪獣達の相手をしてくれたおかげで、2体の怪獣の細胞を手に入れることができた。能力的にはオリジナルより劣るが、クローン怪獣が4体もいればトランプ共和国の制圧も十分。」

ヤマザキはうつすらと笑みを浮かびながら言う。

デニーズ「その割にはイビロンを頼っているな？」

ヤマザキ「イビロンは万が一の時の保険ですよ。イビロンは強い怪獣を触手の数だけ収容していますしね。今頃は先程倒された怪獣の枠を入れに行ってる頃でしょう。」

ヤマザキの話ではハイパーゼットンがサーガに倒された後、イビロンにハイパーゼットンの代りになる怪獣を探しに行かせたという事である。

マヤ「……」

マヤは薄ら笑いをしているヤマザキに睨む。

ヤマザキ「マヤ君、アンジユ王女の件はもう少し待っててくれないかな？こつちも忙しい身分でね。」

マヤ「……フン……」

マヤはそっぽ向いて立ち去って行った。

エントランスから出て、しばらく経った後、バルコニーに訪れ、空を見上げる。

マヤ（王女様、もう少しお待ちを。あなたは必ず……！）

マヤはマリー・アンジユの事を思いを馳せる。

その頃・・・

まのん「お姉ちゃん、もう大丈夫なの？」

真理奈「ええ。少し楽になったわ。」

シン達が真理奈の様子を見に行った時、すでに回復して五体満足になった。

ちなみに今いる部屋にいるのはシンとはるかとかナタとまのんの4人である。

真理奈「けど、スパークレンスは寝ている間もこのまんまね。当分戦える力は出せないわ。」

真理奈は黒いスパークレンスを出して言う。

真理奈「それより、ヤマザキの事だけ・・・」

まのん「うん。ダニエルさんから聞いたんだけど、エボリユウ細胞を処分せず、改造を施したみたいだけど、一体何をするつもりなんだろう・・・」

真理奈「それについてはダニエルとキヤスから何かいい情報を手に入れるのを待つしかないわね。」

真理奈は窓の外を見ながら言う。

それからしばらく経って、シン達は真理奈の厚意で真理奈の家に泊まらせておくことになった。

尚、キラキラ☆プリキュアアラモードは一旦苺坂に帰ることになり、Go!プリンセ

スプリキュアもホープキングダムに残ることにした。

真理奈は真奈美とカズマに心配かけられたので、2人に謝りに行った。

その詫びとして、真理奈は家族とシン達に分、夕飯を作るようになった。

シン達はまのんの案内で風呂に入っている。

ただ、シン達が目にした風呂場はまさしくホテル内でよく見る露天風呂やサウナ、水風呂に足湯があり、他にも30mほどの範囲がある浴場が見られた。

真理奈によると、この家には家族だけじゃなく、両親の助手をしている人もいるので、元々ホテルだった場所の中から再利用できる物や場所を確保した結果、浴場や個室などを使えるようになったとの事。

まのんが案内した風呂場を含めて、東西南北1カ所ずつ作られた人工温泉である。

ちなみにこの風呂場は当然男湯と女湯で分かれている。

アスカ「しっかし、何から何まで驚かす家族だな。温泉まで作ってるなんてよ……」
ムサシ「イルマ財閥のコネで建てたって聞いたけど、ここまでするなんてね……」
アスカとムサシは湯を浸かりながら、この光景を見て、真理奈の家族の凄さに呆然とする。

シン「これだけ広いと泳ぎたくなるな。」

シンはそう言ってクロールをし始める。

アスカ「おい！こんなところで泳ぐなよ！」

ムサシ「もう子供じゃないんだから！」

アスカとムサシは泳ぎ始めたシンを止める。

一方、女湯の方では・・・

くるみ「全く男は騒がしいものね・・・」

まのん「あははは・・・」

くるみは男湯から聞こえた怒声を聞いて呆れた表情をし、まのんは苦笑いをする。

うらら「でも、真理奈さんのご家族はすごいですね。このように温泉まで設けるなんて。」

なぎさ「ホント、ありえない・・・」

なぎさ達は今入っている浴場を前に圧巻する。

くるみ「キュウ。」

ルルン「気持ちいいルル。」

ルルンはくるるに頭を洗ってもらって気持ちよさそうに言う。

この女湯にはプリキュア達はもちろん、ポルンとムーブもいる。

ポルンとムーブはメップルとフラッピと違って幼稚な所がある為、一緒に入っている。

くるるもオスだが、クルルが真理奈の家に住み込んでからいつもまのんに洗われていたため、問題はなかった。

尚、メップルとフラッピはなぎさと咲に追い払われて、不貞腐れながら男湯に入ってしまった。

その様子を見たココとナツツとシロップは呆気に取られているのは言うまでもない。

みらい「でも、真理奈ちゃんは残念だったね。一緒に入れないなんて。」

まのん「いつもの事です。今日みたいに料理を作ったり、自分の部屋の掃除したり、宿題を終わらせたりした後には風呂に入るので、滅多に一緒に入らないんです。」

まのんは真理奈と一緒に風呂に入らなかつた理由を言い出す。

ひかり「真理奈さん、相当苦労してるんだね……」

ひかりはまのんの話を聞いて苦笑いをする。

くるるはルルンの頭のシャンプーをシャワーで落としていく。

そして、ルルンの頭のシャンプーが落ちたのを確認すると、シャワーを止めるくるる。

その時、くるるは何かを感じたのかキョロキョロと見渡す。

まのん「?どうしたの、くるる?」

まのんはくるるの様子に気付く。

くるるが見渡すのをやめたと思つたら、真剣な面持ちで目の前に睨みつける。くるるが見たのは15cmほどの体の長さを持つムカデだった。

なぎさ達はしばらく沈黙するが・・・

なぎさ達「キヤアアアアアッ!!?」

ムカデを見たなぎさ達は悲鳴をあげながら引き下がる。

くるるは額の宝石を赤から白に変わり、その宝石を光らせる。

ムカデは白い光に包まれ、消えて行った。

咲「び、び、び、びつくりしたナリ・・・」

みらい「ま、まさかムカデがいたなんて・・・」

なぎさ「ホントよ・・・」

なぎさ達はムカデが消えたのを見てホッとす。

しかし・・・

シン「どうした、お前ら!?大丈夫・・・か・・・」

垣根の上からシンの姿が見られた。

なぎさ達「・・・キヤアアアアアアアアアッ!!!」
（／／／／）

なぎさ達は当然悲鳴を上げた。

くるみ「このバカーっ！ サツサとあつちに行きなさい！（〳〳〳〳）

咲「覗きなんて最低ナリーっ！（〳〳〳〳）

のぞみ「シンさんのエッチーっ！（〳〳〳〳）

女湯にいる少女たち（もちろんプリキュア達）は石鹸や風呂桶等をシンに投げつける。

シン「おわあああつ！ わ、わりいいいいいいいっ！！！！（〳〳〳〳）

シンは顔を真っ赤になって退散した。

その後、シンは息を切らしながら浴場の隅っこに腰掛ける。

アスカ「ったく・・・なにやっつてんだよ、お前は・・・」

小々田「アハハハ・・・」

アスカはそんなシンに呆れた顔をし、小々田は苦笑いをする。

メツプル「全く、シンは羨ましいメポ。」

フラツピ「そうラピ。悲鳴が聞こえたからと言って女湯を覗いて・・・」

シン「おい！ お前ら！・・・ったく・・・（〳〳〳〳）

シンはメツプルとフラツピに言われて怒り出す。

それからしばらく経った後、シン達となぎさ達は風呂から上がった。シンは覗いて(？)きた理由を言って、なぎさ達に謝る。

なぎさ達は少しは怒っていたが、シンが理由を言ったことで許してあげた。

夕飯を食べ終えた後、シン達は真理奈とまのんの案内で部屋に入り、体を休ませた。

真理奈の部屋にはなぎさとほのか、咲と舞が入室している。

真理奈「私が料理をしている間にそんなことがあったんだね。シン兄さんも困ったもんね。」

真理奈はなぎさ達から浴場の事を聞いて苦笑い気味で言う。

なぎさ達も苦笑いをする。

なぎさ「びっくりしたよ。ありえなかった。」

咲「シンさんに覗かれた後、絶不調ナリくって思わず言っちゃったよ。」

なぎさと咲は浴場での出来事を思い出し、度肝を抜かれた。

その時、部屋のドアが開ける音が聞こえる。

真理奈達は振り向くと、ディアーナが入ってきた。

真理奈「ディアーナ？何でここに？」

ディアーナ「お邪魔します。真理奈にお会いしたい方を連れてきました。」

真理奈「私に？」

ディアーナは両手から光を作り、その光から人の形となつて姿を現す。

なぎさ「えっ!?!」

咲「なんナリ!?!」

? 「初めまして、皆さん。私はマリー・アンジュと申します。」

真理奈「アンジュ・・・!?!」

真理奈達の目の前に現れたのは、2度と蘇ることがなかったトランプ王国の王女、マリーアンジュ王女である。

マリー・アンジュ

戦いが終わり、ホープキングダムに帰還したシン達。

真理奈は五体満足になるものの、テイガの光の力が失われたままだった。

シン達は真理奈の家に宿泊した時、真理奈となぎさとほのかと咲と舞の前にディアーナがやってくる。

そして、ディアーナと一緒に来訪したのは、プロトジコチューの戦いの後、消えてしまったはずのトランプ王国の王女、マリー・アンジュだった。

咲「えっ!?!なに!?!どういうこと!?!」

なぎさ「ありえなくない!」

なぎさ達は目の前にいるアンジュを見て動揺を隠しきれなかった。

真理奈「ディアーナ! 一体どういう事!?!」

ディアーナ「あなたが怪獣に負け、ホープキングダムに療養していた頃、イビロンが蘇った場所に向かいました。」

ディアーナは真理奈達にアンジュと出会った時の事を話した。

ディアーナはヤマザキの手によって蘇らせた現場に行くため、ジユエル鉱国に繋ぐ通

路を掻い潜ってきた。

辿り着いた場所はトランプ共和国郊外にある菜の花畑である。

その菜の花畑の中心に地割れが残っていた。

ディアーナ『イビロンが封印されたのは真理奈達を訪れた島だった……それがどうしてここに……』

ディアーナは菜の花畑の地割れを見つめる。

1万年前に『デイメンジョンゲート』と繋がった無人島で封印されたはずのイビロンが現代ではトランプ共和国郊外の菜の花畑で目覚めたことに疑問を感じたディアーナ。

その時、地割れした場所から数百メートル先に女性が立っているのにディアーナは気付く。

ディアーナはその女性の元に駆け付ける。

ディアーナ『あなたは？』

アンジュ『あなたは、ダイヤの民ですわね？』

ディアーナ『あ、はい。ディアーナと申します。』

アンジュ『私はマリー・アンジュ。トランプ王国の王女です。』

ディアーナ『えっ!?! アンジュ王女!?!』

ディアーナは目の前の女性がマリー・アンジュであることを驚く。

なぜなら、マリー・アンジュはプロトジコチューの戦いの後、別れを告げて消えてしまったのだから。

ディアーナ（・・・体が透けている・・・）

ディアーナはよくよく見ると、アンジュの体が透けていることに気付く。

ディアーナは今のアンジュの状態を察した。

今のアンジュは未練があり、成仏できず、魂となって残っているのだと。

ディアーナはアンジュを連れて、真理奈達の元に来たのだ。

真理奈「なるほど。じゃあ、目の前にいる王女様は霊体となって現代に留まったってわけだ。」

ディアーナ「はい。本当は真琴に会わせなかったのですが、ユグドラシルの事もあるのでこちらに連れて行くことにしたのです。」

ディアーナは真理奈にアンジュを連れてきた理由を言う。

ほのか「あの、王女様。あなたがここにいるという事は、やっぱりマヤさんの事が気になったんですか？」

アンジュ「ええ。マヤは真琴の幼馴染でしたから。今の彼女はプリキュアの力を手に入れ、デニーズと共にトランプ共和国に攻め入れようとしていることを知っています。」
つまり、アンジュはマヤの事が心残りで現代に留まっているという事である。

でいるマヤに話をしたいからなんです。」

なぎさ「話って何・・・!?」

なぎさはアンジュがユグドラシルの本拠地に行きたいという理由を聞いて、更に質問するが、真理奈に止められる。

真理奈「どんな話をするかは聞かない。あんたにも事情ってモンがあるだろうからね。けどさ、その話を終わつた後、あんた自身はどうするの？真琴達と別れる時みたいに見えるの？」

真理奈は真琴とディアーナが話していた内容を覚え、アンジュにそう質問する。

アンジュは否定とも肯定ともならないのか、表情が曇っていた。

真理奈はアンジュの表情を見て、溜息を吐く。

真理奈「私さ、前に真琴とディアーナからあんたの事を聞いて、納得できなかったの。プロトジコチューを倒してやっと平和が戻つたつていうのに、あんたが真琴と別れてあの世に逝くなんてさ。その話を聞くと、私の祖父ちゃんの事を思い出すんだよね。『ディメンジョンゲート』の設計図なんて置き土産をして、私の知らない所で勝手におさらばしちゃつてさ。勝手なのよ、アンジュ姉さんも。」

真理奈はアンジュに対し、怒りの表情で言い続ける。

真理奈「本当は生きたい癖にさ、大人ぶつて格好つけて、残された人達にハイさよな

らで済ませないでよ……」

真理奈は怒りの表情のまま涙を流していた。

真理奈はそれに気づき、何度も腕で涙を拭いた。

真理奈「決めた。あんたの言う通り、マヤの所に連れて行く。」

なぎさ「真理奈!？」

ほのか「本当に!？」

なぎさ達は真理奈の言葉に驚く。

しかし、その直後……

真理奈「けどさ、あんたの話を終えた後、マヤが持っているファイルの力で蘇らせておく。」

アンジュ「!？」

アンジュは真理奈の答えに驚く。

つまり真理奈はアンジュをユグドラシルの本拠地に連れて、マヤと話をさせる代わりに、ハピネスチャージプリキュアを含めたプリチェンミラーを持つプリキュアから奪ったプリカードとデニーズから渡されたプリカードファイルを所持しているマヤにアンジュを蘇らせるよう説得すると考えている。

真理奈「嫌なんて言わせないからね?」

アンジュ「分かったわ。お願いします。それと・・・」

真理奈「？」

アンジュ「ありがとう。」

真理奈「どういたしまして。」

真理奈はアンジュの気持ちが無理解したかのように返事する。

その時、真理奈のiPadから着信音が鳴り響く。

真理奈はiPadを取り出し、通信を繋ぎ、映像を出す。

その映像からマナと六花が出てきた。

マナ『あ、真理奈!?!よかった、目が覚めたんだね。』

真理奈「心配かけたわね。それよりどうしたの?いきなり連絡して?」

真理奈は連絡してきたマナに質問する。

六花『まのん達が帰った後、ユグドラシルの手掛かりがないか探してみただけど、セバスチャンさんが大貝町から離れた場所に小屋があつて、そこに『ディメンジョンゲート』と同じものを見つけたの。』

真理奈「ゲートが!?!」

マナ『うん。多分そのゲート、ユグドラシルのアジトに繋がってるんじゃないかな?小屋の近くに大きいタイヤの痕が残ってたし。大きさからして亜久里ちゃん達を連れ

て行つた車のホシイナーかも。』

つまり、マヤが命じた自動車ホシイナーは亜久里とアイちゃんをゲートがある小屋に連れて行つて、そこでデニーズの部下が亜久里、アイちゃん、レジーナを連れてゲートに入り、ユグドラシルの本拠地に拉致したという事である。

その時、マナと六花とは別の着信音が鳴り、マナ達の映像を残し、もう一つの映像を流す。

その映像から出たのはダニエルとキヤサリンである。

真理奈「ダニエル！キヤス！」

キヤサリン『真理奈！目が覚めたのね！』

真理奈「キヤス、心配かけたわね。」

キヤサリンは真理奈の無事を画面越しから見てもホツとする。

ダニエル『真理奈、何が起こつたかは聞かないけど、まのん達に迷惑をかけないでくれ。マナ達からも心配していたからね。』

真理奈「あ、あはは・・・努力するよ・・・」

真理奈はダニエルに言われて苦笑いする。

真理奈「ダニエル達の方も何か手掛かりを掴めた？」

ダニエル『ああ。クラウド・エツカルトにユグドラシルのアジトに潜り込ませたおか

げで、デニーズの計画を知ることができた。』

真理奈（よくそんなことができるわね!?）

真理奈はクラウスのスパイ行為に心の中でツツコミを入れる。

キャサリン『デニーズは明日の昼頃にトランプ共和国に向かうわ。ウルトラマン達が倒した怪獣のクローンを引き連れて。』

マナ『亜久里ちゃんとレジーナは即位させるためにアジトに置いて行くはずだから、一緒に連れて行かないんですよね?』

キャサリン『ええ。ありすお嬢が話した通りよ。アジトにはイヴィルアイによってプリキュアの力は使えない。レジーナの方は知らないけど、亜久里ちゃんはプリキュアに変身できるから完全にゆりかごの中よ。』

キャサリンはデニーズの計画を話す。

ダニエル『それからクラウスが得た情報によると、ヤマザキが作った改造エボリユウ細胞をロケットに積載し、それをトランプ共和国と大貝町に繋ぐ空間の裂け目を通して発射する計画も知った。』

真理奈「エボリユウ細胞!」

ほのか「それを移植した生物が怪獣になる細胞だったわね。」

なぎさ「そんなことをしたら・・・!」

真理奈「大貝町だけじゃなく、周囲の生物が怪獣になってしまわね．．．！」
真理奈は苦虫を噛み潰したように言う。

マナ『とにかくユグドラシルの計画を止めなきゃ！でもトランプ共和国を守らなきゃならないし、亜久里ちゃん達を助け出さなきゃならないし．．．よし！こうしよう！真理奈とまのんちゃん、それから先輩のプリキュア達は私と六花が見つけたゲートでユグドラシルのアジトに潜入して亜久里ちゃん達を救出して、イヴィルアイを破壊！トランプ共和国はすでに到着しているありす！とまこぴー、そしてフレッシュプリキュアとスマイルプリキュアとハピネスチャージプリキュアがトランプ共和国にいるウルトラマンと一緒にユグドラシルとクローン怪獣を全力で阻止！そして、地球に残っているウルトラマンはエボリユウ細胞入りのロケットを阻止する！ハートキャッチプリキュアとスイートプリキュア、そしてプリンセスプリキュアと魔法つかいプリキュア、それから新しく入ったキラキラ☆プリキュアアラモードと私と六花は先に潜入した真理奈達がイヴィルアイを破壊したと連絡が入ったら、すぐに突入し、イビロンと戦う！こんな感じだろうか？』

マナは亜久里とアイちゃんとレジーナの救出、イヴィルアイの封印、トランプ共和国の防衛、エボリユウ細胞の感染阻止、イビロンの討伐を考え、真理奈達に伝える。

真理奈「おお．．．どえらいこと考えたわね．．．けどさ、イヴィルアイを破壊するつ

て言ってもどうやって?」

マナ『明日、説明するよ。それで、アジトに入るためには直通のゲートを開けなきゃいけないけど、出来そう?』

真理奈はマナの質問に頭を抱える。

真理奈「そのゲートは他人様の物だからな・・・でも、母さんと協力すればできるかも。」

六花『じゃあ、明日お願い。』

真理奈「うん。母さんに伝えとく。」

真理奈はマナと立花にそう伝える。

真理奈「ダニエルとキヤスはこれからどうするの?」

キヤサリン『イルマ財閥に向かうわ。』

ダニエル『イルマ代表の知り合いが防衛チームを組織させ、現在は怪獣に対抗する戦闘機を開発している。一度イルマ代表に話をつけて、防衛チームを支援するつもりだ。』

真理奈「げっ?!イルマさん、そこまでしてきたの?!」

真理奈はイルマ財閥の現状を聞いて驚く。

真理奈「と、とにかく、お互い無事で。」

ダニエル『ああ。そっちも気をつけろよ。』

マナ『それじゃあ、また！』

マナ達とダニエル達は真理奈との通信を切った。

アンジュ「ウフフ、マナさんと立花さん、相変わらずお元気ですね。」

真理奈「ええ。特にマナなんかうるさいくらいよ。それより、今回の事、母さん達やはるか達にも伝えないとね。」

なぎさ「じゃ、私達も付き合おつか。」

ほのか「うん。」

真理奈「サンキュー。」

咲「じゃあ、私達はつぼみちゃん達に連絡しとく。」

真理奈「お願いね。」

真理奈達はアンジュの事やマナ達とダニエル達が言っていた事をのぞみ達に伝えに行った。

そして、咲達はつぼみ達に連絡した。

同刻、サハリンでは長い尻尾を持つ三日月状の角をした怪獣がゴメスと対峙してい

る。

その怪獣の名は古代怪獣ゴモラ。

ゴモラザウルスという学名を持つジョンソン島に眠っていた恐竜の生き残りである。得意の尻尾攻撃で初代ウルトラマンを退けたことがある。

ゴモラは超振動波を放つ。

一方のゴメスは火炎状の放射線を放った。

ゴモラの超振動波がゴメスの火炎放射に押される。

ゴモラはゴメスの火炎放射を受け、倒れる。

その時、ゴモラの背後から黒い渦が現れ、そこからイビロンが現れる。

イビロンは触手でゴモラの背中を刺す。

その時、ゴモラは急に起き上がり、体全体がオーラを纏い、そして、ゴモラが皮膚が鎧のようになり、凶暴そうな面構えとなる。

今、ゴモラの姿はEXゴモラとなっている。

地球のレイオニクスであるレイが覚醒したと同時に強化変身した姿である。

ゼットンやキングジョーブラック、そしてアーマードダークネスを圧倒する程の力を発揮することができる。

EXゴモラは尻尾でゴメスを薙ぎ払う。

ゴメスはEXゴモラの力にふらつかせるが、なんとか起き上がって、EXゴモラに火炎放射を放つ。

EXゴモラはEX超振動波でゴメスの火炎放射を破り、そのままゴメスに直撃する。ゴメスはEXゴモラの攻撃によって爆散される。

イビロンはゴメスが倒された瞬間を確認した後、触手から赤黒い光線を放ち、EXゴモラを吸収した。

そして、イビロンは触手から巨大な水の球を生み出す。

その水の球が変形し、イビロンと同じ姿となった。

しかも本物と同じ姿でイビロン本体が触れても崩れることがなかった。

偽物のイビロンは黒い渦を発生して、その渦の中に入っていく。

そして、本物のイビロンはどこかに飛び去って行った。

トランプ共和国攻防戦

真理奈の家に訪れたデイアーナはマリー・アンジュ王女を連れて、真理奈とコンタクトを取った。

アンジュはマヤと話したいと思い、デイアーナの案内で真理奈に会いに来たのだという。

真理奈はアンジュにマヤに会わせると言い、その後にマヤが所持しているプリカードファイルの力で蘇らせるといふ条件で承諾した。

そして、マナとダニエルの連絡でユグドラシルの計画を知る真理奈達は亜久里、レジーナ、アイちゃんの救出作戦と、エボリユウ細胞感染阻止、トランプ共和国の防衛、イヴィルアイの封印、イビロンの討伐を計画する。

その晩、真理奈は『デイメンジョンゲート』を通って、無人島に辿り着き、仰向けになつて夜空を見上げていた。

真理奈（ああは言ったものの、実際会えるのかね・・・マヤの奴、デニーズと一緒にトランプ共和国に行く可能性だってあるわけだし・・・）

真理奈は夕方に提案されたマナの計画について考えた。

もし、マヤはユグドラシルの本拠地にいなく、デニーズと一緒にトランプ共和国の制圧に向かったんだとしたら、アンジュに言ったことは無駄だったんじゃないかと真理奈は思っていた。

くるる「キュウ！」

真理奈の顔の真横にくるるがやって来た。

真理奈「くるる。」

? 「やつぱりここにいた。」

真理奈はくるるより先の方に目を向ける。

そこにはまのんがいた。

真理奈「まのん?」

真理奈は上体を起こす。

まのん「お姉ちゃんっいたらいつも一人で悩みこんでるんだから。」

真理奈「そりやそうよ。これから戦場に行くのよ。ユグドラシルの連中のほとんどがアジトに残る可能性だってあるし、そこでまた時空の歪みから怪獣が現れるかもしれないし、マヤもそのアジトにいるかどうか・・・」

真理奈は再び仰向けになる。

まのん「もう・・・そのアジトに私やなぎささん達が付いて来てくれるんじゃない。」

真理奈「でも、まのん達はそのアジトの中ではプリキュアに変身できないのよ？戦えるのは力を失ったティガだけじゃない。それを考えると、私一人で戦ってるようなもんよ……」

真理奈はまのんに言われるも、不安があつた。

今、ユグドラシルの本拠地にはイヴィルアイの力でプリキュアの力を封じられている。

それは、くるるの力で変身できるエレメント基いまのんも例外ではない。

つまり、戦えるのはティガダークに変身できる真理奈だけなのだ。

まのん「お姉ちゃん！」

真理奈「言わなくていいって。分かつてる。マナが考えた作戦なんだし、私一人で決できるもんじゃない。」

まのんは真理奈が一人で戦ってるという発言に怒ろうとするが、真理奈に止められる。

くるる「キュウ！」

くるるは真理奈の目の前で仁王立ちをする。

真理奈「分かってるよ。私だって皆に頼ってるんだからね。」

くるるは真理奈の言葉に頷く。

真理奈「さて、明日の準備した後、さっさと寝るか。」

真理奈は起き上がって『ディメンジョンゲート』に向かう。

まのん（お姉ちゃん、あの時みたいにならないよね・・・？）

まのんは真理奈がグラールに負けて、しばらく意識不明の状態になった時の事を思い出す。

次の日・・・

マナ「みんな、こつちこつち！」

シン達は昨日マナ達が発見したゲートがある小屋に到着した。

真奈美も一緒である。

六花の話によると、この小屋の中には誰もいないとの事である。

シン「この中にユグドラシルが使ったゲートがあんのか？」

六花「はい。まだ使えるみたいです。」

シン達はマナと立花と一緒に小屋の中に入る。

その中には、昨日マナが話したゲートがあった。

真奈美「これが真理奈が話したゲートね？」

六花「起動できそうですか？」

真奈美「ちよつと待ってて。真理奈、手伝って。」

真理奈「うん。」

真奈美はカバンからノートパソコンを2台取り出し、それをケーブルで繋ぎ、ノートパソコンに繋いだケーブルでゲートに繋げる。

その後、真理奈と真奈美はノートパソコンで入力始める。

ノートパソコンの映像からゲートの設計図を割り出す。

真理奈「なるほどね・・・」

真奈美「真理奈、こっちは私がやるから、真理奈はゲートを。」

真理奈「うん。」

真理奈は真奈美の言う通りにし、ゲートを調べる。

真理奈「！ここだ！」

真理奈は不自然な凹みを発見する。

その凹みを捲ると、1から9と0のボタンと赤いボタンを確認する。

真理奈「見つけたよ。」

ひかり「これは？」

真理奈「どうやら暗証番号を入力することで開くようになってるみたいよ。」

真理奈は発見したボタンについて解釈する。

真奈美「真理奈、暗証番号を割り出したわ。入力をお願い。」

真理奈「いいよ。見せて。」

真理奈は真奈美のノートパソコンの映像を見る。

真理奈「『9468』ね。」

真理奈はノートパソコンに表示された暗証番号をゲートのボタンに入力する。

すると、ゲートが開き、そのゲートの先にスラムのような町並みと城が現れる。

真理奈「開いた！」

のぞみ「さすがが科学者、計算が早い・・・」

のぞみは真理奈と真奈美の計算力に圧倒する。

うらら「あの城に亜久里ちゃん達がいるんですね。」

まのん「それにイビロンも・・・」

まのん達はゲートの先にある城に目を向ける。

真理奈「母さん、ここまで来て悪いけど、留守番お願いできないかな？」

真奈美「いいけど、約束して。皆と必ず戻るって。」

真理奈は真奈美に家に帰るよう言い出し、真奈美も真理奈に皆と一緒に戻ってくるよう約束する。

真理奈「うん。結構ハードな事になるけど、約束する。」

真理奈は真奈美の言ったことに頷く。

なぎさ「大丈夫です、真奈美さん。」

ほのか「私達がついてますから。」

なぎさとほのかは真理奈の前に立って真奈美にそう言う。

真奈美「ええ。真理奈とまのんの事、お願いね。」

なぎさ、ほのか「任せてください！」

真理奈「つておい！あんたらがそれ言う!？」

なぎさ「だつてあんたのお母さんの前だもん。」

ほのか「真理奈は単独行動が多いから一緒にいないとね。」

真理奈「おい！」

真理奈はなぎさとほのかと揉め始める。

マナ達はそんな光景を見て、緊張感が解れていた。

シン「アスカとムサシは大貝町に残るんだよね？」

ムサシ「うん。町の人達を怪獣にさせるなんて悲しすぎるからね。」

アスカ「それにエボリユウ細胞の力は俺がよく知ってるからな。あの時みたいレボ

リウムウエーブでサヨナラホームランしてやるぜ！」

アスカは自信満々に言う。

アスカ「シンの方にも助っ人が来るんだろ？」

シン「ああ。もうすぐこっちに来るはずだ。」

シンはアスカに助っ人が来ることを話すと、小屋の出入り口から2人の男が入ってきた。

その男はミライとヒカルである。

シン「来たな、ミライ。ヒカル。」

ミライ「待たせたね、シン。」

ヒカル「男手は多い方がいいだろうな。」

シン「頼りにしてるぜ。」

シンはミライとヒカルの胸にノックするように叩く。

真理奈「あ、そうだ。マナ、昨日言ってたイヴィルアイを破壊する方法だけど、どうするの?」

真理奈は昨日のマナからの連絡を思い出し、改めてマナにイヴィルアイの破壊方法を聞く。

マナ「あ、まだ言っていなかったね。『闇薙の剣』だよ。」

真理奈「えっ? デイアーナにもらったこれの事?」

真理奈は首に下げていた『闇薙の剣』をマナに見せる。

マナ「うん。メランが教えてくれたんだ。これを使えば、浄化したり、闇の力を持つ

アイテムを破壊することができるの。」

真理奈「ええっ!?!そんなことができるの!?!」

真理奈はマナの話を聞いて、『闇薙の剣』を見て驚く。

マナ「さ、ぐずぐずしてる暇はないよ!急いだ、急いだ!」

真理奈「・・・お、押忍・・・」

真理奈はマナに背中から押され、苦笑い気味で返事する。

シン達はユグドラシルの本拠地に向かう。

アスカとムサシはトランプ共和国に繋がる空間の裂け目が見える場所に向かう。

マナ達はシン達からの連絡が来るまで待機する。

その頃、トランプ共和国にいる真琴達は今、ユグドラシル軍と対峙していた。

いおな「あの男がデニーズ・ポーカー・・・」

せつな「ユグドラシルのトップ・・・」

れいか「そして元トランプ王国の戦士・・・」

いおな達は先頭にいるデニーズを見てそう言う。

デニーズ「キュアソード、久しぶりだな。地球のプリキュアを呼び寄せてここに来るとはな・・・」

真琴「デニーズさん・・・私の知るあなたはこんな野望を持つ人じゃなかった・・・どうしてこんな争いを・・・こんな事をして、この国が良くなるとは思えない・・・」

真琴はデニーズに、何故トランプ共和国を攻め入れようとするのか質問する。

デニーズ「過日、この国が滅んだ時、私もクロンダイクと同じく生き延びた・・・地球に渡り、様々な国の支配の様子を学び、この国に必要なものを見極めたのだ・・・強き国に必要で、強き国が例外なく持っているもの、それは絶対的な権威だ！クロンダイクの作った、この温いトランプ共和国を居心地よく感じる者もあろう・・・だが、それは墮落を生み、破滅へと繋がるのみ！私はこの国を強く作り変える！」

デニーズは真琴に対し、その質問を答える。

トランプ王国はジコチューによって滅ぼされた。

ジコチューは人間の自己中心的な心から生まれる怪物だ。

トランプ王国の民達はジコチューに変貌され、国を壊滅した。

デニーズの考えはジョナサンが築き上げた今のトランプ共和国はその時の二の舞になると思っていたのだ。

その為、地球の多くの国を見て、トランプ王国の悲劇を起さぬよう、強い国を築こ

うと考えていたのだ。

ひめ「冗談じゃないよ！私の国は幻影帝国に支配された。私がアクシアを開けた所為で大切な人達を奪われた。でも、めぐみ達と出会って、強くなつて、一緒に戦つてブルースカイ王国を取り戻した！その時の国の人達は今のトランプ共和国の人達と同じで幸せだったよ！なのに、あなたの都合で強い国に作り変えて、絶対的な権威でこの国を取り戻したって何の幸せにもならないよ！」

ひめはデニーズの答えに批判をする。

めぐみ達もひめの意見に賛成するかのように強い眼差しで頷く。

しかし、デニーズはひめの言葉に動じず、睨みつける。

デニーズ「これ以上話しても意味がない。お前達を倒し、王宮を手に入れる！」

デニーズは左手をあげると、デニーズの後ろにいる数名の兵士達がエターナルボールとナケワメーケダイヤを出す。

そして、更に後ろにいる兵士達が棍棒、槍、弓矢、剣、杖、盾、斧、鉄球を投げ飛ばす。

デニーズの後ろにいる兵士達はエターナルボールとナケワメーケダイヤを投げて、8つの武器に貼り付ける。

すると、8つの武器がホシイナーとナケワメーケに変貌する。（棍棒、弓矢、杖、斧は

ホシイナーに、槍、剣、盾、鉄球はナケワメーケに変貌する。」

デニーズ「キュアソードよ、お前の相手はお前のよく知っている我が同志だ。キュア
イージス！キュアソードを倒し、王宮への道を切り開くのだ！」

マヤ「はい、デニーズさん。」

デニーズの命令と同時に兵士達が横に移動すると、マヤがデニーズの前に出る。

真琴「マヤ・・・」

マヤ「改めて久しぶりね、真琴。でも、ここまでよ。」

マヤはプリチエンミラーとプリカードを取り出す。

マヤ「プリキュア・くるりんミラーチェンジ！」

マヤはプリカードをプリチエンミラーに挿入し、ミラーボールを回す。

すると、マヤはキュアイージスに変身する。

イージス「正義の盾！キュアイージス！さあ、マコト。変身しなさい。この戦いがこ
の国の運命を左右する。」

イージスは真琴に変身するように言う。

真琴「わかつてる・・・」

めぐみ「ホシイナーとナケワメーケは私達に任せて！みんな、行くよ！」

めぐみ達は真琴より先にプリキュアに変身し、ホシイナーとナケワメーケを相手にす

る。

真琴「ダビィ！」

ダビィ「了解だビィ！」

ダビィはラブリーコミュニケーションとなる。

真琴はキュアラビーズをダビィの頭に装着する。

真琴「プリキュア・ラブリンク！」

ダビィ「L！O！V！E！」

真琴はラブリーコミュニケーションの画面をL、O、V、Eとなぞる。

よって真琴はキュアソードに変身する。

ソード「勇気の刃！キュアソード！マヤ……あなたのその心の闇を、このキュアソードの光の剣で照らしてみせる！」

ソードはイージスにそう言う。

イージス「ソード、あの時は亜久里様を連れて行くためにイヴィルアイを使っただけ、今は違うわ！」

イージスはラブプリブレスのダイヤルを回す。

イージス「イージス・フィールド！」

イージスはラブプリブレスを天に掲げると、ソードとイージスの周りの風景が変わっ

た。

ソードは周りを見渡すと、あつたはずのトランプ共和国とラブリー達やデニーズ達がおらず、代わりに何も無い神殿の中にいた。

ソード「こ、ここは!?!」

イージス「イージス・フィールド・・・この場に亜空間を展開したわ。誰にも邪魔できない。あなたの仲間のプリキュア達もね。イヴイルアイの力も通さない。」

ソード「正真正銘の1対1ってことね・・・」

ソードは気を引き締めて身構える。

イージスも構えを取る。

ソード「いくわよ!」

イージス「来なさい!」

ソードはイージスに向かって走り出す。

イージスもそんなソードに迎え撃つ。

キュアアイージス&イビロンの設定+α

まず、キュアアイージスの設定を紹介します。

キュアアイージス

変身者 マヤ

変身アイテム プリチェンミラーとキュアアイージスのプリカード

変身する時、ラプリー、プリンセス、ハニーと同じ順序で変身する。

変身口上は「正義の盾！キュアアイージス！」

髪型は銀髪で瞳の色は灰色。

衣装はソードアート・オンラインのアスナのブラッディクロスとキュアフォーチュンのコスチュームを混ぜたような衣装にしている。

技を使う時はラププリブレスを使用する。

キュアソードは素早さを長けた戦士だが、キュアアイージスは優れた防御力の持ち主である。

キュアアイージスの技は以下になる。

技

イービス・ジャステイスソード

ラブプリブレスから光の剣を生み出し、敵を切り裂く。

イービス・サウザンドソード

1000本の光の剣を召喚して一斉発射する。

ジャツジメントソード

左手を白く光らせ、右上から左下へと斜め一閃に斬るように振り下ろすと、無数の白い光の剣を放つ。

動作はキュアアソードのホーリーソードと同じ。

威力はイービス・サウザンドソードを上回る。

掛け声は「裁け！ジャツジメントソード！」

イービス・ソードトルネード

イービスが回転することで無数の光剣の竜巻を発生する。

イービス・フィールド

亜空間を展開させる。

外空間からの侵入は出来ず、イービス自身が敗れたり、変身を解くと元の世界に戻る。

イービス・ソードシールド

6つの光剣の剣先を軸に盾のようにして防御する。

続いてイビロンの設定を紹介します。

超古代変身怪獣イビロン 鎧殻態

カーバンクルが闇の支配者クトウルフの闇の力によって変貌した姿。

黒い翼を持ち、8つの足をしたドラゴンの姿となっている。

ム。モチーフはポケットモンスターダイヤモンド&パールのギラティナ・アナザーフォルム。

攻撃力と防御力が優れている。

ティガとなったアムイとエレメントとなったユザレによって封印されたが、現在となつて封印が解かれ、復活する。

超古代変身怪獣イビロン 翼蛇態

イビロンが空を飛ぶとき、8つの足が触手となり、翼が2つに分かれた蛇竜のような姿に変身した。

ム。モチーフはポケットモンスターダイヤモンド&パールのギラティナ・オリジンフォルム。

この姿の時、防御力が落ちるが、ウルトラマンを超えるスピードを発揮する。

超古代変身怪獣イビロン 龍騎態

イビロンの最終形態。

甲冑を纏った竜人のような姿をして、尻尾がない代わりに剣が握られ、腕のような物体が浮遊している。

攻撃力、防御力、スピードは鎧殻態と翼蛇態をプラスにしたように強力になっている。

4つの腕の物体は光弾を発射したり、自らの意思で攻撃を仕掛けることもできる。

剣からは三日月状のカッターや光線を放つことができる。

モーターはアクセルワールドのクロム・ディザスター。

この2つの形態はステータスが違うが、イビロン自身の能力は変わっていない。

イビロンの能力はハイパーゼットの火球を上回る赤黒い破壊光線。

別の場所に移動できる黒い渦を発生できる。

触手又は黒い翼の間から放つ赤紫色の光線を放って怪獣を収容。

触手を怪獣に刺すことで操ることができる。

そして、イビロンはカーバンクルから変貌したことから、カーバンクルの能力（正確にはキュアエレメントの技）を放つこともできる。

最後にこれから幻影帝国の残党と呼ばれた新しい登場人物を紹介します。

ドクトル・ゴース

幻影帝国侵攻時、オーストラリアを制圧した幻影帝国の元幹部である。

ヤマザキ・ヒロユキと会い、ともにユグドラシルと行動し、計画を遂行している。

白衣を纏い、背中にはリュックサック程の大きいサイズの装置を背負っている。モチーフはキングダムハーツタッチエインオブメモリーズのヴェイクセン。ドクトル・ゴースの詳細はストーリーリーを進行した時に変更・追加します。

ソードVSイージス

マリー・アンジュ王女の話聞き、決心をついた次の日、シン、真理奈、まのん、ミライ、ヒカル、そしてふたりはプリキュアMAX HEART、ふたりはプリキュアS PLASH STARR、YES！プリキュア5GoGoは亜久里達の救出、イヴィルアイの破壊、マヤとの再会をするため、ユグドラシルの本拠地へ乗り出す。

だが、そのマヤはデニーズを率いるユグドラシル軍と真琴とありす、フレツシュプリキュア、スマイルプリキュア、ハピネスチャージプリキュアと対峙していた。

真琴はキュアソードに変身し、キュアイージスに変身したマヤと亜空間で決着をつける。

ちょうどその頃、マナ達は魔法つかいプリキュアと一緒にハートキャッチプリキュア、スイートプリキュア、プリンセスプリキュア、そしてキラキラ☆プリキュアアラモードが来るのを待っている。

そして数分後、ハートキャッチプリキュアとスイートプリキュアが到着した。

つぼみ「お待たせしました！」

えりか「つぼみが途中で道迷ったんだよ。」

つぼみ「うう〜！そういうえりかこそ行く道を間違えたんじゃないですか！」
えりか「うぐっ！」

つぼみはえりかに言われて顔を赤らめるが、その仕返しなのか、つぼみはえりかに文句を言うのと、えりかはギクリと反応する。

奏「響も途中で寄り道してメンチカツを食べるから！」

響「なによ〜！」

響と奏は口喧嘩する。

エレン「もう！喧嘩は後！」

エレンはつぼみとえりか、響と奏の喧嘩を止める。

はるか「みんな！お待たせ！」

いちか「遅くなりました！」

響と奏の喧嘩が中止したと同時にプリンセスプリキュアとキラキラ☆プリキュアアラモードが到着した。

みらい「いちかちゃん！わざわざ呼び出してごめんね？」

いちか「お気になさらず！」

みらいといちかはお互いに両手を握る。

つぼみ「この人達が新しく誕生した？」

みらい「うん。キラキラ☆プリキュアアラモードの宇佐美いちちゃん、有栖川ひま
りちゃん、立神あおいちゃん、琴爪ゆかりさん、剣城あきらさんにキラ星シエルちゃん。」
いちか「初めまして！」

みらいに紹介され、プリンセスプリキュアと魔法つかいプリキュア以外のプリキュア
達に挨拶するいちか。

えりか「ねえ、いつき。高校生のプリキュアってゆりさん以来だよな？」

いつき「うん。ゆりさんと仲良くなれそうだと思うけど・・・」

えりか「いつきはゆりとゆかりとあきらを見てひそひそと話す。」

ゆり「！皆、賑やかに和んでいる場合じゃないみたいよ。」

ゆりは表情が鋭くなり、マナ達とは違う方向に目を向ける。

そこにはヤマザキとチヨイアークの団体が集まっていた。

ヤマザキ「いけないなあ？勝手に上がり込むのは。」

ヤマザキは卑しい表情でプリキュア達に言う。

マナ「あなたがヤマザキさんだね？まこぴーを攫う手伝いをしていたのは?!」

ヤマザキ？「半分正解と言わせてもらおう。キュアソードを誘拐した奴らにエネル

ギー変換装置を渡したのは私。しかし、私はヤマザキ・ヒロユキではない。」

ヤマザキは真琴を誘拐した犯罪者集団にエネルギー変換装置を渡したのは自分だと

告げるが、同時にヤマザキではないと言いつ出す。

「あおい「どういふことだよ？」」

「ヤマザキ？」「フフフ・・・挨拶といふか。」

ヤマザキの姿をした人物の周りに闇のオーラが纏い、姿が変わった。

白衣を纏っている点は変わらないが、背中にはリユツクサク並みの大きさを持つ装置を背負っている。

ドクトル・ゴース「私はドクトル・ゴース。幻影帝国がこの地球に現れてから、オーストラリアを制圧していたのだ。尤も、その時のオーストラリアで活動していたプリキュア達はプリキュアハンター・ファントムに片づけられたがね。当時のファントムはクイーン・ミラージュの命令で、私と行動を共にしたのだ。」

ヤマザキを装った人物は正体を明かし、自らをドクトル・ゴースと名乗る。

六花「ドクトル・ゴース・・・」

マナ「ファンファンと関わっていたなんて・・・」

ゴース「昔話はこちらまでにしよう。君達はここに不法侵入してきたからね。チョイアーク、相手をしてやれ。」

ゴースはチョイアークにプリキュア達を倒せと命令する。

マナ達はプリキュアに変身し、チョイアークと戦った。

ゴースはその隙に小屋の中に入り、ゲートを潜って行った。

その頃、ソードはイージスと一騎打ちしていた。

ソードは連続でイージスを殴りこむが、悉く防がれる。

イージス「この程度の攻撃！」

イージスはイージス・ジャステイスソードでソードを切りかかる。

ソードはイージスの斬撃を躲し、後退する。

ソード「閃け！ホーリーソード！」

ソードはホーリーソードを繰り出す。

そのままイージスに直撃する。

ホーリーソードによって生じた煙が晴れると、全くの無傷の状態のイージスが立っていた。

イージス「こんなの、効かない！」

ソード「傷一つつかない！でも、負けられない！」

ソードは再びイージスに殴りかかる。

イージス「無駄よ！」

イージスはソードの攻撃を受け流す。

イージス「次はこっちの番よ！イージス・サウザンドソード！」

イージスはイージス・サウザンドソードを発射する。

ソード「うわああああああつ！！」

ソードはイージスの技を受け、ダメージを負う。

イージス「これで！イージス・ソードトルネード！」

イージスはイージス・ソードトルネードを放つ。

ソード「！！」

ソードはイージスの技に飲み込まれる。

イージス・ソードトルネードが消えた時、ソードが倒れていた。

イージス「勝負あったわね。この技はキュアフォーチュンを失神させる程強力よ。そ

のまま寝てて。目が覚めた時は……」

ソード「目が……覚めた時……ど、どうなるっていうの……？」

イージス「！」

イージスはソードの声を聞き、ソードの方を見ると、ソードは紫の光のオーラを纏い、ふらつきながらも起き上がっていた。

ソード「……はあ、はあ……私は決して倒れない！あなたに勝って、この世界を

守る！」

ソードはラブハートアローを召喚し、キュアラビーズをセットする。

ソード「プリキュア・スパークルソード！」

ソードはプリキュア・スパークルソードを放つ。

イージス「こんなの！イージス・ソードシールド！」

イージスは大きな6つの光剣の剣先を重ね合つて盾になるように防ぐ。

しかし、光剣の盾はソードの技が当たれば当たる程、罅が生じる。

イージス「なっ!？」

罅が入った光剣の盾は碎け散る。

イージスはソードの技が命中する前に腕をクロスして耐えるが、ソードの技が強力なのか、吹き飛ばされる。

イージス「キヤアアアアアアアアアツ!!!」

ソード「マジカルラブリーパーッド！」

ソードはマジカルラブリーパーッドを出す。

ソード「ソードハリケーン！」

ソードはソードハリケーンを繰り出す。

イージス「くっ！イージス・ソードトルネード！」

イージスはソードの技に対抗し、イー吉斯・ソードトルネードを放つ。

2人の技がぶつかり合うが、イージスの技がソードの技に破られ、そのままイージスに直撃される。

イージスはソードの技に倒れる。

イー吉斯（ぐうつ・・・今までいろんなプリキュアと戦ってきた・・・どのプリキュアも私の守りを破れなかった・・・けど、ソードのこの桁外れの力は一体・・・!?)
イージスはソードの戦いぶりに圧倒される。

ソード「イー吉斯・・・いいえ、マヤ。もうやめましょう・・・こんなことをしても王女様は喜ばない・・・そもそもあなたは地球のプリキュア達からプリカードを奪ってきた。そして今のあなたはそれを収めるファイルを持っている。それなのにどうして、亜久里ちゃんやアイちゃん、そしてレジーナを連れて行くような事をするの?」

ソードはイージスの行為に疑問を持ち、質問した。
確かにイージスはプリカードファイルを持っている。

そしてイージスはハピネスチャージプリキュアを含めた幻影帝国の脅威に立ち向かっていったプリキュア達からプリカードを奪って行った。

すでにマリー・アンジュ王女を蘇らせる条件は整っていたが、プリカードの力を使わず、今度は亜久里、アイちゃん、レジーナを捕らえた。

ソードはイービスの行為が分からなかったのだ。

イービス「亜久里様達をユグドラシルに連れて行ったのはヤマザキの提案だからよ。」
ソード「ヤマザキの？」

ソードはイービスの口から亜久里達を連れて行った理由はヤマザキの提案だからだと聞く。

イービス「プリカードを集めている途中にそいつと会った。ヤマザキはプリカードの力で蘇らせる必要はないと言った。どうしてかと聞いてみたら、奴は新しい生き物を作る技術を持っている。その技術を使えばプリカードの力を使わなくても、王女様を蘇らせることは容易いと言っていた。」

イービスはプリカードファイアルに願いを叶おうとしなかった理由を話す。

イービス「その為には王女様から分かれた3つの命、つまり亜久里様達を捕らえなければならぬ。ヤマザキは亜久里様達を使って王女様を蘇らせようとしている。その方法は亜久里様達をホルマリン漬けにし、3人の遺伝子を組み合わせる事。」

ソード「!!？」

ソードはイービスが語ったヤマザキがやろうとしたアンジュ王女蘇生に絶句する。

ソード「あ・・・亜久里ちゃん達をホルマリン漬けに・・・？」

イービス「ええ。時間はかかるけど3人の遺伝子を組み合わせることで王女様が復活

すると言ったわ。私は王女様がこの世に存在するのなら、それでも構わない！」

ソード「そんな・・・じゃあ、亜久里ちゃん達はどうなるの!？」

イーリス「ホルマリン漬けにされながら死んでいくでしょうね・・・」

イーリスはソードに亜久里達の末路を告げる。

ソード「だ、だめ・・・だめえっ！絶対にダメ！そんなのおかしいわよ！王女様がどんな思いで亜久里ちゃんやアイちゃん、レジーナに自らの存在を委ねたと思ってるの!？」

ソードはイーリスから亜久里達の末路を聞いて全否定する。

ソード「王女様がそんなことを絶対に望むはずがない！あなたがやろうとしていることは冒読よ！私がそんなことを絶対にさせない！王女様が託した3つの命、そして愛する人たち・・・このキュアソードが必ず守る！」

イーリス「例えば冒読でも王女様を蘇らせる！イーリス・ジャステイスソード！」

ソード「煌け！アルティマソード！」

ソードはイーリスを、イーリスはソードを切りかかる。

お互いはしばらく沈黙する。

先に沈黙を破ったのはイーリスの方だった。

イーリスはそのまま前に倒れる。

イージス「お……う……じよさ、ま……」

ソード「マヤ……ごめんなさい……でも、もう少し待って……真理奈達があるなを後押ししてくれる……」

ソードは涙を流しながらイージスに言う。

ソードは今の戦いで力を使い果たしたのか、変身が解かれて真琴の姿に戻る。

イージスが倒れたことで、イージス・フィールドが消えていく。

その頃……

真理奈「むう……中の兵士達に見つからないようになってかここまで来たのはいけど……」

のぞみ「なぎささん達とはぐれちゃった……」

くるみ「はぐれたというよりなぎさ達が落とし穴に落ちて今はこれだけだね……」

ユグドラシルの本拠地内部ではイヴィルアイの破壊、亜久里達の救出、マヤの説得、そしてイビロンの討伐の為にやってきたシン達だったが、今隠れているのは真理奈とミライとヒカル、そしてYES！プリキュア5GOGOだけである。

シンとまのんとふたりはプリキュアMAX HEARTとふたりはプリキュアSP

LASH STARは真理奈達の所にはいなかった。
どうなっているのかは次のお話。

ユグドラシルのアジトに潜入!

ユグドラシルの本拠地に入ったシン達を待つマナ達はゲートが置かれてある小屋の外でヤマザキ・ヒロユキの姿を装った幻影帝国の幹部・ドクトル・ゴースと対面した。

ゴースは引き連れたチョイアークをマナ達に戦わせ、ユグドラシルの本拠地に入ってしまった。

その頃、ソードはイージスと戦い、勝利を収めるが、イージスから亜久里、アイちゃん、レジーナを攫った理由を知る。

それはヤマザキがマリー・アンジュ王女を蘇らせるために3人をホルマリン漬けにして、3人の遺伝子を組み合わせるクローンを作ろうとしたことだった。

その3人がいるユグドラシルの本拠地内部に潜入したシン達だが、その途中でトラブルが起きる。

少し時間を遡る。

シン「へっ、チョロいもんだぜ。」

真理奈「門番を殴り飛ばすなんて・・・中の兵士にバレても知らないわよ?」

真理奈は倒れている門番を見てシンに言う。

まのん「シンさん、容赦ないね・・・」

ひかり「アハハハ・・・」

まのんとひかりはシンを見て苦笑いする。

シン達はそのまま内部に入って行った。

途中で兵士が見かけることもあつたが、バレないように身を隠しながら進み続けた。

真理奈を先頭に慎重に探索している。

そして、真理奈達は広間の手前まで辿り着く。

真理奈「広間か。しかも隠れられる場所もない。」

りん「どうすんの？」

真理奈「この古城、兵士は見かけられるけど、人間界と違って監視カメラやセキュリティはないわ。大声を出したり、兵士に見つかったりしない限りは捕まえられることはない。この広間に隠れられる場所はないのは心許ないけどね。」

真理奈は広間の先を見る。

その先には上り階段と下り階段がある。

真理奈「先に行くわよ？」

のぞみ「なんで？」

真理奈「向こうに兵士がいないか確かめに行ってくる。」

ヒカル「俺も行くぜ。そこで兵士に会ったらお前が捕まるからな。」

真理奈「分かった。」

真理奈とヒカルはそう話し合って、シン達より先に広間の先に走り出す。

階段の所まで着いたら上から足音が聞こえ、視界に入らないように壁に隠れる。

下りてきたのは兵士が3人で2人はヒカルに倒され、もう1人は真理奈が伸してやった。

真理奈「ふう〜、焦った・・・」

ヒカル「やるな、真理奈? ジークンドーができるのか。」

真理奈「父さんから教わってね。武術の1つくらいは覚えとけて。」

真理奈はヒカルにカズマからジークンドーを習った事を教える。

真理奈「それより。」

真理奈はシン達の方に手を振る。

シン達は真理奈と合流する。

その間、真理奈とヒカルは倒れていた兵士を他の兵士に見られないように近くに置いてあった木箱に入れる。

シン「どうやら問題なかったようだな?」

真理奈「ええ。あいつらが来た時は一瞬焦ったけどね。とはいえ、まだ油断できない

けど・・・」

真理奈はホツとしながら壁に手を置く。

その時、真理奈の手が何かを押ししたような感覚が起きた。

真理奈「うわっ!!」

シン「なっ!!」

まのん達「キヤアッ!!」

その瞬間、シン、まのん、くるる、なぎさ、ほのか、ひかり、咲、舞の足元の床が開き、シン達は下に落ちて行った。

真理奈「なに!!」

ミライ「シン!!」

のぞみ「みんな!!」

真理奈達はシン達落ちて行った穴に覗き込む。

しかし、そこにはシン達の姿はなかった。

真理奈「まのん!! 下に下りて助けに行かなきゃ!!」

真理奈は下り階段の方に向かうが、ヒカルに止められる。

ヒカル「待て、真理奈! 落ち着け!!」

真理奈「でも!!」

ヒカル「まのん達の事ならシンに任せておけ!今はイヴィルアイをどうにかするのが先だ!」

ヒカルは真剣な面持ちで真理奈に言う。

ミライ「真理奈ちゃん。僕は以前、敵の策略で追い詰められたことがあります。けど、エース兄さんは教えてくれました。独りじゃないと。離れ離れになっても一緒に戦えると。まのんちゃんも心配なのはわかります。でも、まのんちゃんにも仲間がいます。真理奈ちゃんもその仲間の1人なんです!シン達を信じてください!」

ミライは過去にヤプールの策略で追い詰められたこと、エースから離れ離れになっても一緒に戦えることを真理奈に伝える。

真理奈「・・・わかったよ。まのんもシン兄さんも・・・あとで合流すればいいもんね?」

真理奈の言葉にミライ達は頷く。

のぞみ「よし!それじゃあ、イヴィルアイと亜久里ちゃん達を探しに行くこと、けつて!」

真理奈「決定はいいけど、あんまり声出さないでよね?」

真理奈達はイヴィルアイと亜久里達を探すため、上り階段に上る。

ちようどその頃・・・

まのん「フウ・・・くるる、ありがとう・・・」

くるる「キュウ！」

まのんはくるるにお礼を言う。

くるるの額の宝石は青に変わっていた。

まのん「くるるのバリアがクツションにしたおかげで怪我せずに済んだよ。皆さん、

大丈夫ですか？」

咲「大丈夫だけど、絶不調ナリく・・・」

なぎさ「魔女達にあの世界に飛ばされた時を思い出すわ・・・」

なぎさ達はぐったりとしていた。

ほのか「シンさん、大丈夫ですか？」

シン「ああ、大丈夫だ・・・ん？」

ほのか「へ？」

ほのかはシンに乗っていた。

ほのかはシンの反応が気になり、シンが見た所を見ると、シンの手にはほのかの胸に

触れられていた。(しかも驚掴みに。)

シン、ほのか「あ……(〃〃〃〃〃)」

シンとほのかはその事に気付いて顔が赤くなる。

ほのか「す、す、す、すみません! シンさん! (〃〃〃〃〃)」

シン「い、いや! こっちこそ悪い! (〃〃〃〃〃)」

ほのかは顔を赤くなりながらシンから降りる。

舞「ムウ……」

ひかり「えつと……舞さん?」

舞「……なんでもない……」

舞はその光景を見て不機嫌になる。

シン達は上から落ちて行った時の怪我がない事を確認し、真理奈と合流するため、上

り階段を探した。

まのん「お姉ちゃん、先に上へ行ったんでしうか?」

ほのか「間違いないでしょうね。」

咲「私達も追いかけないとね。」

その時、どこからか咆哮が響き渡る。

まのん「この鳴き声……」

シン「間違いいねえ、イビロンだ。奴はこの地下にいる。皆、気をつけろ。」
シン達はイビロンを注意しながら階段を探す。

その頃、真琴はマヤに打ち勝った後、イージス・フィールドが解け、トランプ共和国に戻れた。

マヤはデニーズの後ろに控えていた兵士の術で、その兵士と一緒にどこかに去って行った。

デニーズ「まさかマヤを倒すとはな。戦いの最中、マヤの想いを聞いたはずだが、その思いは束の間の虚像ということか……」

真琴「マヤの想いは虚像じゃなかった。あなたが何と言おうと揺らぐものじゃない。でも、マヤの想いを己の野望の為に利用したあなたを私は許さない！」

デニーズ「フン……私もお前に構っている暇等ないのだ。王宮を手に入れなければならぬ。この伝統あるトランプの未来のためにな。お前に理解してもらおうとも思わぬ。」

デニーズは真琴の言葉に揺らぐことなく言う。

デニーズ「戦士達よ！クローン怪獣を出せ！」

ユグドラシル兵「ハッ！」

兵士達は呪文を唱えると、魔法陣が現れ、そこからクローンシルバゴン、クローンゴルドラスと倒されたはずのダイゲルンとシルドロンが現れる。

そのダイゲルンとシルドロンもクローン怪獣である。

ラブリー「怪獣が！」

プリンセス「うっそくん！」

ラブリー達はクローンシルバゴン達を見て苦虫を噛む。

パッション「目の前にいるホシイナーとナケワメーケだけでも苦しいのに・・・」

ラブリー達は未だホシイナーとナケワメーケに苦戦していた。

デニーズ「ヤマザキが作ったクローン怪獣だ。ユグドラシルの戦士達よ！我らが同志マヤの意思を継ぎ、神聖なる王宮を取り戻すのだ！」

デニーズは兵士達に号令をかける。

ユグドラシル兵達「うおおくくくくくくっ!!」

ユグドラシル兵は前進を始める。

デニーズ「キュアソード、お前の相手は私がしよう。マヤほどの力は持ち合わせてはいないが、老いたりとは言え、トランプ王国の騎士の端くれ。せめて足掻いてみせよ

う。」

デニーズは呪文を唱えると、自分の身に金色の鎧を纏い、剣を抜く。

？「待つんだ！」

デニーズ「ムツ!?!」

真琴「この声は？」

デニーズは真琴の後ろの方に目を見る。

真琴も後ろに振り向く。

その先には馬に乗って駆けつけてきた鎧を纏ったジヨナサンがやって来た。

ジヨナサン「デニーズ・ポーカー！あなたの相手は僕だ！」

ジヨナサンは馬から降りて、真琴の所に行く。

真琴「ジヨナサン！」

ジヨナサン「遅れてすまない。ダニエル君から連絡が入ってね。君は少し休んでいてくれ。彼は僕が引き受ける。」

真琴「・・・わかったわ。」

真琴はロゼツタに運ばれ、安全な場所に移動した。

ジヨナサン「ポーカーさん・・・お久しぶりだね。あなたがここまでするとは思わなかったよ。誇り高い騎士であつたはずのあなたが・・・」

デニーズ「貴様が来ようと状況は変わらん。地球のプリキュア共は未だホシイナーとナケワメーケに苦戦している。ヤマザキが作ったクローン怪獣もいる。この圧倒的な力には適うまい。」

ジョナサン「確かに状況は悪いね。でも、あなたは少し見落としがあるようだよ。」
デニーズ「なに？」

ジョナサンはデニーズに飄々とした言い方をする。

その時、クローン怪獣の前にジャック、A、ガイア、エックスが現れる。

デニーズ「これは!？」

ジョナサン「彼らは別の世界から来た戦士だそうだよ。今は訳あつて一緒に戦つてくれている。それに、他にも一緒に戦つてくれる人達もいる。」

今度はクローンシルバゴンとクローンゴルドラスの頭部に火花を散らす。

クローン怪獣は見上げると、赤、青、黄色の配色をした戦闘機が飛翔していた。

その戦闘機に青い字でS、その中央に黄色い字でGUTSと書かれていた。

今挙げている戦闘機はガッツイーグルα、β、γである。

ネオフロンティアスペースで活動していた地球防衛組織である。

メンバーは隊長のヒビキ・ゴウスケ、副隊長のコウダ・トシユキ、そしてユミムラ・リョウ、カリヤ・コウヘイ、ナカジマ・ツトム、ミドリカワ・マイ。

アスカ・シンもスーパーGUTSのメンバーである。

ただ、ネオフロンティアスペースのスーパーGUTSとは違い、メンバーは多少違っていた。

ヒュウガ「みんな、初めての怪獣との戦闘だ。気を抜くな。」

リョウ、ハルナ、カリヤ、クマノ、オキ、レイ「了解！」

α 号にはヒュウガ・ヒロシ、ミクラ・レイ、 β 号にはユミムラ・リョウ、カリヤ・コウヘイ、クマノ・マサヒコ、そして、 γ 号にはハルナ・ジユン、オキ・コウイチが搭乗している。

オキ「シルバゴンにゴルドラス、ダイゲルンにシルドロン。どの怪獣も強力なのばかりです。」

ハルナ「あら、その怪獣オタク、精が出てるわね？」

オキ「ええ!?! それ、どういうことですか!?!」

オキはハルナに言われて慌てて言う。

ガッツイーグル α 、 β 、 γ はクローンシルバゴンに砲撃する。

クローンシルバゴンはガッツイーグルを追うが、ガイアに阻止される。

そして、ジャックはクローンダイゲルンを、Aはクローンゴルドラスを、エックスはクローンシルドロンを相手する。

その光景を目の当たりにしたデニーズは驚きを隠せなかった。

デニーズ「馬鹿な!こんなことが!」

ジョナサン「それともう一つ教えてあげよう。彼らの他に仲間がいる。その仲間はユグドラシルが根城にしている場所にお立ち入りしているそうだ。」

ジョナサンはデニーズにシン達がユグドラシルのアジトに潜入していることを教える。

デニーズ「なに!?くっ!王女が危ない!」

デニーズはジョナサンの言葉を聞き、振り向いて走り出す。

しかし、ジョナサンはデニーズが走り出すより早く、回り込む。

ジョナサン「おっと!あなたの相手は僕がすると言っただけ!トランプ王国の騎士デニーズ・ポーカーの類い稀なるその実力、とくと見せてもらおう!」

デニーズ「よかろう・・・トランプ王国の騎士ジョナサン・クロンダイク!貴様を排除し、この国は私が貰い受ける!トランプの栄光を貴様などに踏みにじられてたまるか!この私の革命の邪魔はさせん!」

ジョナサン「この国をあなたの自由にはさせない!いくぞ!」

ジョナサンとデニーズは剣を交わる。

同刻、太平洋上にイビロンが到着する。

イビロンは翼蛇態から鎧殻態へと変わる。

そしてイビロンは翼から黒い雷を放ち、海に降り注ぐ。

その時、海の中からスパークが発生し、海からも電気が迸る。

それと同時に海から大きな影が浮き上がる。

だんだん影が大きくなり、海から島が出現した。その島は古代の建造物が所々建てられていた。

イビロンはその島の中心に降り立ち、天に向かって咆哮をあげた。

マヤの償い

イージスとの戦いが終わるが、ユグドラシルはクローン怪獣を放ち、トランプ共和国の突撃を実行する。

しかし、そのクローン怪獣にジャック、A、ガイア、エックスが立ちはだかる。

それだけでなく、4人のウルトラマンを援護するようにガッツイーグル α 、 β 、 γ が乱入する。

ジオナサンがデニーズと相手をしている間、ユグドラシルの本拠地に潜入したシン達は途中、罠によって地下に落とされる。

残った真理奈とミライ、ヒカルとYES！プリキュア5 GOGOは引き続きイヴィルアイと亜久里達、そしてマヤを探す。

ユグドラシル兵リーダー「おい、マヤ殿はどうしてる？」

ユグドラシル兵「3階の亜久里様がいる部屋の隣に休ませてもらっております。」

ユグドラシル兵リーダー「レジーナ様は？」

ユグドラシル「今、ヤマザキ殿が使っている5階の実験室に向かわせております。」

ユグドラシル兵リーダー「ちゃんと睡眠薬を飲ませてやったんだろうな？」

ユグドラシル兵「それはもちろん。手抜かりはありません。」

ユグドラシル兵リーダー「よし。我々はイヴイルアイを守るぞ。行くぞ。」

ユグドラシル兵「はっ！」

ユグドラシル兵の数名はイヴイルアイを守る為、急行する。

その会話を真理奈とヒカルとミライ、そしてYES！プリキュア5GOGOが柱の陰から聞いていた。

ヒカル「聞いたか？」

ミライ「ええ。イヴイルアイの場所は分かりませんが。」

真理奈「レジーナって言ったっけ？5階の実験室に向かっているって言ってたわね。嫌な予感がするわ。」

真理奈はユグドラシル兵の会話を聞いて嫌な予感を感じた。

のぞみ「じゃあ、レジーナは私達が助けるよ。真理奈ちゃんは亜久里ちゃんとアイちゃんをお願い。」

うらら「マヤさんもです。」

こまち「助けた後、イヴイルアイを探してね。」

真理奈「了解。それから呼び捨てでいいから。」

ミライ「僕はのぞみちゃん達と行きます。」

真理奈とヒカルは亜久里とアイちゃんの救出とマヤの説得するために3階へ向かう。YES!プリキュア5 GOGOとミライはレジーナを助けに5階へ向かう。真理奈とヒカルは3階に到着し、2カ所のドアの前に兵士がいるのを発見すると、柱に身を隠す。

ヒカル「あそこに亜久里達が・・・」

真理奈「どうするの？」

真理奈の目の先には2部屋の前に2人ずつ兵士が見張っている事と、今いる場所から二つ部屋まで40m離れているという事である。

ヒカル「仕方ねえ。強行突破するか。」

真理奈「は?・・・ってちよつと!？」

真理奈はヒカルを止めようとしたが、時すでに遅し。

ヒカルはダッシュで2つの部屋の前にいる兵士4人を殴って気絶させた。

真理奈「男って単純ね・・・」

真理奈は兵士が気絶したのを見た後、ヒカルと合流する。

?「そこにいるのはどちら様ですか!？」

真理奈とヒカルはドアから声を聞いて、その声の主は亜久里だと理解した。

ヒカル「亜久里、そこにいるのか!？」

亜久里「その声はヒカルお兄様!？」

ヒカル「ああ。今開ける! 真理奈、もう片方は頼むぜ。」

真理奈「そのつもり。」

真理奈はマヤが入っている部屋に、ヒカルは亜久里とアイちゃんが入っている部屋に入る。

真理奈はドアを開けてマヤがいないか確認すると、マヤがベッドの上で寝転がっているのを真理奈が発見する。

真理奈（あの子がマヤ・・・キュアイージスカ・・・）

マヤ「あなた・・・ユグドラシルの兵士じゃないわね?」

マヤは入ってきた人物が兵士ではないことを気付く。

真理奈「ええ。トランプ王国の民のちよつとした知り合いよ。」

マヤ「!マコトなの?」

真理奈「まあ、聞きなつて。あんたの事は真琴から聞いた。なんでプリカードの力で願いを叶えようとしらない?」

真理奈はマヤに気になる質問をした。

マヤ「ヤマザキの提案なのよ。」

真理奈「ヤマザキの?」

マヤ「亜久里様とアイ様、レジーナ様の細胞で王女様を蘇らせる計画なのよ。」
真理奈（やっぱりそうか・・・）

真理奈はマヤの返答を聞いて、自分の考えが当たっていると思っていた。

真理奈「でも、その王女はあんたの知っている人じゃない。全く違う人間よ。」

マヤは真理奈の言葉に頭にきて起き上がり、真理奈に詰め寄る。

マヤ「黙りなさい！王女様の事、何も知らないくせに！」

マヤはそう言つて真理奈の胸倉を引き上げる。

真理奈「何よ？十分元氣じゃない？」

マヤ「話を逸らさないで！」

マヤは怒りの形相で詰め寄る。

？「いい加減にしなさい！」

真理奈とマヤはドアの方から声が聞こえ、振り向くと、ヒカルと亜久里とアイちゃん
がいた。

いや、ヒカルと亜久里とアイちゃんだけじゃない。

ヒカルと亜久里の後ろに2人の女性がついてきた。

亜久里の右隣にいるのは茶髪のロングヘアをした女性で、左隣にいる女性は黒髪の
ショートヘアをしている。

マヤ「亜久里様……」

真理奈「ヒカル兄さん。その人たちは？」

真理奈は一緒に来ている2人の女性は誰なのか尋ねる。

ヒカル「デニーズの召使いのアリアとライラだ。二人共、亜久里の世話をしているよう
だぜ。」

アリア「初めまして、真理奈様。アリアと申します。」

ライラ「ライラです。マコトとマヤとは古い友人です。」

アリアとライラは真理奈に自己紹介する。

亜久里「マヤは知っていたのですか!?!デニーズ・ポーカーがヤマザキのクローン技術
で王女を生成して婚姻を交わそうとしたことを！」

マヤ「えっ!?!」

真理奈「婚姻!?!」

真理奈とマヤは亜久里の言葉に驚く。

アリア「デニーズ様はヤマザキ様の技術を買って、亜久里様とアイ様、レジーナ様の
遺伝子によって復活したアンジュ王女様と婚姻を交わし、トランプの国を手に入れよう
としました。」

マヤ「!そ、そんな……」

マヤはアリアからその話を聞いてショックを受けた。

真理奈「要するにあんたはデニーズに利用されただけだったってことか。」

真理奈は胸倉を掴まれたマヤの手を離しながら言う。

マヤは膝をついて俯くしかなかった。

真理奈（アンジュ姉さん。）

アンジュ（ええ。）

真理奈は目を瞑ると、胸が光り出し、その光がマヤの後ろに留まり、アンジュの姿が現す。

亜久里「アンジュ王女！」

アリア、ライラ「王女様！」

マヤは亜久里達が出したアンジュの名前を聞いて振り向く。

マヤ「！王女・・・様・・・」

アンジュ「マヤ、お久しぶりですね。」

マヤ「ど、どうして・・・？」

マヤはアンジュが目の前にいるのに驚きを隠せなかった。

真理奈「昨夜にディアーナが連れてきたのよ。」

アンジュ「私はドキドキ！プリキュアの皆さんがプロトジコチューを倒した後、いな

くなりました。しかし、まだやり残したことがあり、魂のまま現世に留まっていたのです。」

真理奈とアンジュは昨夜のことを話した。

マヤ「王女様・・・私は・・・私は・・・私は邪な誘惑に負け、王女様の生まれ変わりの犠牲にして王女様の復活させようと企んでいました・・・知らずとはいえ、デニーズさんの悪意に賛同し、トランプ共和国を奪おうとしていました・・・もう私に大切な存在を守る資格も救う資格もありません・・・」

マヤは涙を流しながらアンジュに言う。

マヤ「遥かなる地獄に墮とされて、終わりなき苦痛を与えられても構いません！どうか、罪深き私を罰してください！」

真理奈「ちよつと、あんた！」

真理奈はマヤに文句言おうとするが、アンジュに止められる。

アンジュ「分かりました・・・では私から罰を与えます。覚悟なさい。」
アンジュはマヤにそう言うのと、マヤにビンタを喰らわす。

マヤ「！えっ？」

真理奈「ハッ？」

マヤはアンジュにビンタされ、目がパチクリする。

真理奈はその光景を見て目が点になる。

アンジュ「どうですか？地獄なんかよりもっと苦しい私の罰のお味は？」

真理奈「えっ!?今ので!?てか何でさわ・・・」

ヒカル「真理奈、お前は黙ってる。」

ヒカルは真理奈の口を押える。

アンジュ「人はどれだけ正しくても、どれだけ清らかでも、時には誘惑に負けたり、過ちを犯すものです。でも、その過ちは償うことで許されるもの・・・自らの手で償いもせずに、その勇気も出さずに地獄へ墮とせだなんて・・・そんな事、私は絶対に許しません！」

マヤ「！」

アンジュ「自分の心から目を逸らさず、自分の心の光の導くままに生きなさい！」

アンジュはマヤにそう言う。

亜久里「アンジュ王女の言う通りですわ。私の友達の中にはかつて敵の幹部だった方達もいました。その方達は許されることのない罪を犯しました。ですが、その方達は自らの罪を悔い改めてプリキュアとして共に戦ったのです！それなのにあなたは償いもせずに自らの命を絶とうなんて簡単に言わないで下さい！」

亜久里は怒りを込めてマヤに言う。

アリア「私にもデニーズ様とヤマザキ様の企みを知りながら止められませんでした。」
ライラ「しかし、私達はまだやり直せます。一緒に償いましょう。」

アリアとライラはマヤの所に行き、手を添えて言う。

マヤ「アリア・・・ライラ・・・」

真理奈はヒカルの手を退けて続けて言い出す。

真理奈「あとはあんた自身よ。このままこの古城にいるか、一緒に戦うか。」

真理奈はマヤに選択を求める。

マヤは周囲にいるアンジユ達を見て考える。

マヤ「私は・・・私の罪は決して許されるものじゃない・・・でも、私にはまだ守り

たい大切なものがある・・・私は皆と一緒に大切なものを守るために戦いたい！」

マヤは一緒に戦うことを決心する。

亜久里「決心がついたようですね。」

真理奈「ええ。けど、その前にあんたにやってほしいことがあるわ。」

真理奈はマヤに頼みごとを言う。

真理奈「目の前にいるアンジユ姉さんを蘇らせてほしいのよ。」

マヤ「！」

アリア「真理奈様、それはいくらなんでも・・・」

ライラ「魂となった存在を蘇らせる術を持つておりません！」

真理奈「その術はマヤが持つてる。そうでしょ？」

真理奈はアリアとライラに言われるが、何事もなくマヤに視線を送る。

マヤ「・・・ええ。アン女王様、私があなを蘇らせませぬ。」

アンジュ「お願いしますわ。真理奈さんの約束ですもの。」

マヤはアンジュを蘇らせるため、机に置いてあるプリカードファイルを手を持つ。

マヤ「プリカードは既にファイルに埋めた・・・プリカードよ、マリー・アンジュ女王を蘇らせて！」

マヤがそう叫ぶと同時に、光が勢いよく放たれた。

その光がアンジュの魂に包まれる。

アリア、ライラ「女王様！」

真理奈「眩しいね・・・」

真理奈達はその光の眩しき故に目を手で覆う。

光が治まった後、覆っていた手をどき、目の前のアンジュを見る。

今のアンジュは透き通っていた霊体ではなく、ちゃんと姿を捉えていた。

真理奈「蘇ったの？」

アンジュ「ええ。間違いなく。ちゃんと触れますわ。」

アンジュは亜久里の頬を撫でる。

亜久里「お、王女。恥ずかしいですわ・・・（／＼／＼／＼）」

亜久里はアンジュに頬を撫でられ、恥ずかしがる。

真理奈（これでいいんだよね、祖父ちゃん・・・）

真理奈は開いていたドアの先にある窓を見て、光太郎を想う。

真理奈「ねえ、いいトコで悪いんだけど、アリアとライラはイヴィルアイはどこにあるか知らない？」

真理奈はアリアとライラにイヴィルアイの居場所を問う。

アリア「はい。この階のダンスホールにあります。」

アリアはイヴィルアイの居場所を教える。

真理奈「そこにあるのね。確かそこに兵士がいるはず・・・」

ライラ「大丈夫です。確かその出入り口の他に抜け道があるはずですよ。」

真理奈「抜け道があるのね？案内して。亜久里達はのぞみ達と合流して。」

亜久里「大丈夫ですよ？」

真理奈「なるべくバレないようにしとくから。」

真理奈は亜久里にそう言う。

アンジュ「ライラ、真理奈さん達を頼みましたよ。アリア、私達はトランプの国へ。」

アリア「はい！」

アリアはアンジュの命令に従い、呪文を唱え始める。

すると、アリアの前に魔法陣が現れる。

アリア「ライラ、気を付けて。」

ライラ「アリアも。」

アリアとアンジュは魔法陣を潜ってトランプ共和国へ行き、亜久里とマヤはミライとYES！プリキュア5 GOGOと合流に向かい、真理奈とヒカルはライラの案内でイヴィルアイがあるダンスホールに向かう。

ウルトラマンノア

シン達がユグドラシルの罠によって地下に落とされてる間、真理奈とヒカルは亜久里とアイちゃんを救いに、ミライとYES！プリキュア5GOGOはレジーナを救いに行くため、二手に分かれる。

亜久里とアイちゃんを助けに行った真理奈は亜久里とアイちゃんをヒカルに任せ、マヤと対面する。

マヤはデニーズとヤマザキに利用された事を知り、絶望したが、マリー・アンジュ王女の説得により再び立ち上がる。

そして、マヤはプリカードの力でアンジュを蘇らせることを成功する。

亜久里とアイちゃんを世話をしたアリアとライラとも出会い、協力してくれた。

アンジュとアリアはトランプ共和国に、真理奈とヒカルはライラの案内でイヴィルアイが置かれているダンスホールに向かい、そして亜久里とマヤはミライとYES！プリキュア5GOGOと合流しに向かった。

その頃、地下にいるシン達は上に戻る階段を探していた。

まのん「この城の地下、思ったより広いですね・・・」

なぎさ「城の中とは思えないね・・・」

ほのか「ずっと前からあったのかしら・・・」

なぎさ達は地下の空間を見て、改めて圧巻する。

シン「ああ。怪獣がウロチョロするには十分なスペースだぜ。」

シンも地下空間の広さに圧巻する。

ひかり「あっ！」

咲「うわっ!?!ひかり!?!」

舞「大声出さないでね。イビロンにバレるから。」

ひかり「す、すみません・・・」

シン「で、どうした？」

シンはひかりに尋ねると、ひかりは上の方に指を指す。

咲「えっ!?!」

ほのか「あれは!?!」

なぎさ達はひかりが指した方向を見ると、巨大な像が立っていた。

シン「!ウルトラマンノア!」

シン達が見たのはウルトラマンノアの石像である。

ウルトラマンノアは太古より全宇宙の平和を守り続けてきた光の巨人である。

ダークザギとの戦いで別の宇宙に飛ばされ、ネクスト、ネクサスとして戦っていた。ダークザギが蘇り、ネクサスがザギと戦う最中、ノアに戻り、ザギを倒すことに成功する。

シン「この世界にも来ていたなんてな・・・」

舞「知ってるんですか？」

シン「ああ。ベリアルとの戦いの時に力を使い果たした俺に語り掛けてくれた奴だ。バラージの盾と呼ばれていたウルティメイティージェスもノアから授かった。」

シンはアナザースペースでの出来事を話した。

ほのか「そのウルトラマンが私達の世界にも来ていたなんて。」

なぎさ「ぶっちゃけ、ありえない・・・」

なぎさとほのかはノアの石像を見て言う。

シン「？これは・・・」

シンは目の前にある台座に近寄る。

その台座にはエボルトラスターによく似た窪みがあり、その上にネクサスのエナジーコアによく似た模様が描かれていた。

シン「この窪み・・・クリシスが持っていたエボルトラスターと同じ形だ・・・」

シンは台座の窪みをなぞるように触る。

その時、どこからかイビロンの鳴き声が聞こえる。

なぎさ「また！」

ほのか「まだ遠いけど、イビロンの声が・・・」

シン「現場調査は終わりだ。急いでミライとヒカルたちのトコへ行くぞ。」

まのん達「はい！」

シン達は真理奈達の元に合流に向かう。

その頃、ミライとYES！プリキュア5 GOGOは5階に到達し、レジーナを探していた。

ミライ「ここにレジーナちゃんか？」

かれん「そのはずです！」

ミライとYES！プリキュア5 GOGOはくまなく探し続ける。

うらら「あ！あそこです！」

うららが指した方向にミライ達を見る。

うららが示した窓の向こう側にレジーナを担いでいたユグドラシルの兵士がいた。

他にも数人の兵士がいる。

のぞみ「急がないと！」

りん「ちよつと！のぞみ！」

りんがのぞみを止めようとしたその時、ユグドラシルの兵士達の近くに魔法陣が現れ、その魔法陣からマヤと亜久里とアイちゃんが現れる。

マヤは兵士達を次々と薙ぎ倒し、レジーナを担いでいた兵士の腹に一発殴った。

兵士が倒れていったと同時に、マヤはレジーナを抱き止め、壁に寝かせる。

のぞみ「亜久里ちゃん！アイちゃん！」

のぞみ達は亜久里の元へ駆けつける。

亜久里「皆さん！」

うらら「無事でよかったです。」

のぞみ達は亜久里とアイちゃんとレジーナの無事に安心した。

レジーナ「うくん・・・」

こまち「レジーナさん、気が付いた？」

こまちはレジーナが目を覚ましたのを見て、一安心した。

レジーナは周囲を見ると、YES！プリキュア5GOGOとミライ、亜久里とアイちゃんが目に映り、最後にマヤの姿も目に映る。

レジーナ「あーっ！あなた！」

マヤ「レジーナ様……」

くるみ「ちよ、何よいきなり!？」

レジーナはマヤを見た途端、怒りの形相になる。

レジーナ「白服の奴と一緒にいた子よ！」

亜久里「レジーナ、落ち着きなさい！マヤは自分の罪を償うためにあなたを助けたのです！アンジュ王女も彼女のおかげで蘇りました！」

亜久里はレジーナを制止する。

うらら「じゃあ、その人がマヤさん？」

マヤ「ええ……」

マヤの返事はぎこちなかった。

？「外が騒がしいと思ったら、まさかマヤ君が3人を助けるとはね。」

のぞみ達は声が出した方に振り向く。

そこにはヤマザキが立っていた。

マヤ「ヤマザキ……！」

ヤマザキ「いけないな、マヤ君。アンジュ王女の復活は私に任せただが？」

ヤマザキは卑しい表情でマヤに言う。

亜久里「私のお友達がアンジュ王女の魂をお連れして、マヤの心をお救いしました！もうあなたの研究は必要ありません！」

ヤマザキ「それはそれは非論理的な・・・」

ヤマザキは亜久里に言われるも飄々とした素振りをする。

ヤマザキ「とは言え、マヤ君がやってきた数々の行い、今でも拭え切れないはずだ。他国のプリキュアからプリカードを奪ったのも、亜久里君やレジーナ君、アイ君をここに連れてきたのも、挙句にトランプ共和国を制圧しようとしたのも彼女なのだからね。」

ヤマザキはマヤに事実を突きつける。

マヤ「確かに私は多くの人達に酷いことをした。利用されたと気付いた今でも・・・でも、アン王女様や亜久里様達に言われてやるべきことができた。私にはまだ罪を償える機会がある。私は一緒に戦ってくれる者達と大切なものを守るために戦いたい！私は私の正義を持って守り続ける！」

マヤはヤマザキに自分の心意気を伝える。

ヤマザキ「ふっふっふっふっ・・・その威勢、いつまで続くかな？」

ヤマザキはポケットから小さなリモコンを取り出し、そのスイッチを押す。

マヤ「！それはなんなの!？」

ヤマザキ「ふっふっふっふっふっ！エボリユウ細胞が投入したミサイルを起動させた

！15分後には大貝町にいる住民達は怪獣となる！」

のぞみ達はヤマザキの言葉に驚く。

ヤマザキ「加えて・・・」

ヤマザキは片方のポケットから別のスイッチを取り出して押した。

その時、クレーンのような音が聞こえた。

ミライは外に顔を出す。

中庭にはクレーンが2台配置されており、フックには2つのカプセルが引つかかっていた。

ミライ「あのカプセルは!?!」

ミライはそのカプセルを知っている。

クレーンから電流が2つのカプセルに流れる。

よって2つのカプセルが爆発した。

その時、その場所に赤い体をした怪獣と青い体をした怪獣が現れた。

前者の怪獣は赤色火炎怪獣バニラ。

3億5千年前に大暴れした赤い悪魔と恐れられた怪獣である。

オリンピック競技場で後者の怪獣によって倒された。

その後者の怪獣は青色発泡怪獣アボラス。

バナラと同じく3億5千年前に大暴れした青い悪魔として恐れられた怪獣である。

オリンピック競技場でバナラを倒した後、初代ウルトラマンと戦うが、スペシウム光線で撃破された。

ミライ「アボラス！バナラ！あのカプセルをどこで!?」

ミライはバナラとアボラスが誕生させたカプセルをヤマザキに聞く。

ヤマザキ「マヤ君がハピネスチャージプリキュアとの戦いを終えた後、袖が浜海岸で一休みした時、空間が歪んだ後にそのカプセルが現れたのだ。私はそれを分析し、2つのカプセルは怪獣が液化して閉じ込めたものだったことを突き止めた。この城に現れたウルトラマンと戦わせるために用意したものだ、私が起動したミサイルを止めようとするはずなので、計画を少し変更することでしょう。」

ヤマザキは白衣の内側からモンスターズルーラーを取り出し、杖の先の宝石を怪しく光らせる。

ヤマザキ「大貝町にいるウルトラマンを倒しに行け！」

ヤマザキはバナラとアボラスに命令する。

バナラとアボラスはヤマザキの命令に従った。

この瞬間、2体の怪獣の足元から巨大な魔法陣が現れ、消えていった。

ヤマザキ「さて、後は君達だ。せつかくの研究を台無しにしてくれた報いを受けても

らおう。」

ヤマザキはモンスターズルーラーを頭上に掲げる。

すると、天井を破って何かが落ちてきた。

いや、落ちてきたというより、降りてきたと言う方が正解か。その正体はデイゴンの軍団である。

りん「また!?!」

くるみ「何回戦わせるわけ!?!」

うらら「しかも私達、変身できません!」

今のぞみ達はプリキユアに変身できないままである。

ミライ「僕がやります!」

ヤマザキ「フフフフ、どうやってだね?」

ヤマザキはミライに質問する。

ミライはメビウスブレスを出す。

ミライ「メビウス!」

ミライはメビウスブレスを頭上に掲げる。

よってミライはウルトラマンメビウスに変身した。

ヤマザキ「なに!?!」

ヤマザキはミライがメビウスに変身した光景を見て驚く。
のぞみ「ウルトラマンに変身した！」

かれん「ウルトラマンはイヴイルアイの力を受け付けられないのね。」

デイゴンの軍団はメビウスを襲い掛かる。

メビウスもデイゴンに対し、迎え撃つ。

その頃、真理奈とヒカルはライラの案内でイヴイルアイがあるダンスホールに向かっていた。

ライラ「この突き当りの右にダンスホールへ行くと部屋があります。」

真理奈達は一旦走るのを中止し、真理奈がダンスホール前の様子を見る。

ダンスホールの扉の前には三十数人程の兵士が配置されていた。

真理奈「うわあ、すごい人数・・・あんなにいると一溜りもないわね・・・」

真理奈は多くの兵士を見て呆気をとられる。

ライラ「ちよつと待っててくださいね。」

ライラは壁についてある洋灯をレバーのように引く。

すると壁が忍者が使う隠し扉のように開いた。

真理奈「隠し扉!？」

ヒカル「すげえ。」

ライラ「ここを通ればダンスホールに着きます。行きましょう。」

ライラを先頭に真理奈とヒカルは隠し扉に入って行く。

ヒカル「ライラ、この城の事詳しいな?」

ライラ「私とアリアがトランプ王国に住む前はここバラージ王国で暮らしていました。」

私達の両親はこの国のお世話役をしておりました。」

真理奈「そうだったの!？」

真理奈とヒカルはライラとアリアはユグドラシルがアジトにしているバラージ王国の民だったことを初めて知った。

ライラ「はい。しかし、私とアリアが5歳の時、魔王獣と呼ばれていた7体の魔獣によつてバラージ王国が滅ぼされました。私達はその生き残りです。今まで魔王獣が現れなかったのは、ノアの神様の手でジュラン諸島に封印したからなのです。」

ヒカル「あー・・・いやの事聞いたか?」

ライラ「あ、いいえ!お気になさらず!」

真理奈「しかし、いろんな伝説があるんだね・・・」

真理奈はノアの神の事を聞いて「ふうん」と言いたげなりアクションを取る。

一方、シン達は距離は大分あるものの、ようやく上へあがる階段を見つける。

シン「見つけたな。」

なぎさ「イビロンに会わなくてよかった・・・」

咲「ちよつと拍子抜けしたナリ・・・」

なぎさ達はイビロンが現れなかったことにホツとする。

しかしその時、イビロンの咆哮が響き渡る。

ほのか「またこの鳴き声！」

舞「それも結構近い！」

シン達は周囲を見渡す。

その時、シン達の近くに火の玉が落ちていき、爆発する。

シン達は爆風に飛ばされないように地面にしがみつく。

まのん「まさか!?!」

シン達は上を見上げると、翼蛇態のイビロンが姿を現した。

ひかり「イビロン！」

なぎさ「うっそーっ!?ありえない!」

シン「ちっ!ここに来るまで泳がせてたのか!」

咲「ええっ!?後をつけられてたっ!?」

シンは今までイビロンの鳴き声を聞いていたが、姿を現すことなかったことに違和感を感じていたが、階段に来るまで攻撃をしなかったことから、わざと泳がせていたことを今気づいた。

シン「お前ら、下がってろ。」

シンはプリキュアに変身できないなぎさ達を下げらせて、ウルトラゼロアイを出し、ウルトラマンゼロに変身する。

シン「いぐぜ、イビロン。てめえの実力を見せてもらおうぜ!」

シンはイビロンと対峙する。

大貝町を守れ！

真理奈達と合流すべく、地下を散策するシンとまのんとふたりはプリキュアMAX
HEARTとふたりはプリキュアSPLASH STAR。

ようやく上へと続く階段を見つけた矢先、イビロンと遭遇する。

シンはウルトラマンゼロとなり、イビロンと対峙した。

その間、レジーナを救出したマヤと亜久里はミライとYES！プリキュア5GOGO
と合流。

その時、デニーズ・ポーカーと手を貸したヤマザキ・ヒロユキに会う。

ヤマザキはエボリユウ細胞が積み込んだミサイルを起動させ、大貝町にいるアスカと
ムサシにアボラスとバナラを放ち、ミライ達にデイゴンを仕向ける。

一方の真理奈とヒカルはライラの案内で隠し扉を使い、イヴィルアイが置かれている
ダンスホールに向かう。

その頃、チョイアークを相手にしていたハートキャッチプリキュア、スイートプリ
キュア、GO！プリンセスプリキュア、魔法つかいプリキュア、キラキラ☆プリキュア
アラモードはチョイアークをすべて倒した。

ブロッサム「これで全員ですね!」

マリ「いや、苦勞したよ……」

マリ「は疲れた表情で言う。」

ビート「!ドクトル・ゴースがいない!」

サンシャイン「マナと立花も!」

ビートはマナと立花とドクトル・ゴースがいないことに気付く。

ミューズ「チョイアークと戦ってる間にアジトに向かったみたいね!」

シヨコ「じゃあ、マナと立花は!」

マーメイド「急いで追いましょ!」

ブロッサム達はドクトル・ゴースを追おうとするが、怪獣の咆哮が聞こえる。

ブロッサム達は振り向くと空から魔法陣が現れ、そこから2体の怪獣が現れる。

その怪獣の正体はバニラとアボラスである。

マリ「うええっ!?」

フローラ「怪獣が出てきた!」

ジェラート「こんな時に出てこなくていいじゃんかよ!」

マリ「たちはバニラとアボラスが現れて慌てる。」

スカレット「落ち着いてください!今のは空間が歪んで現れたものではありません」

！

マジカル「ええ！確かに魔法陣が出たのを見たわ！きつとユグドラシルが魔法で送り込んだんだわ！」

ジェラート「そんなことできんの!?」

マリ「あたし、聞いてな〜い！」

マジカルはバニラとアボラスが出てきた際に現れた魔法陣を見て、ユグドラシルが仕向けたものだど気付いた。

メロディ「でも、何のために？」

マカロン「大体想像はつくわね。」

ムーンライト「ええ。エボリユウ細胞が積んでいるロケットを阻止するアスカさんを邪魔させるために仕向けたのでしょ〜うね。」

マカロンとムーンライトはバニラとアボラスが仕向けたのは、エボリユウ細胞感染阻止を任せているアスカを倒させるためだと予想している。

ムーンライト「あの怪獣達は私達が食い止めるわ！」

ミューズ「だつたら私達も行く！」

ハートキャッチプリキュアとスイートプリキュアはバニラとアボラスを阻止に行く。

サンシャイン「フローラ達はドクトル・ゴースを！」

フローラ「はい！」

フローラ達はサンシャインの言う通りにし、ドクトル・ゴースを追う。

その頃、真理奈達はダンスホールに続いている隠し通路を通っていた。

その時、真理奈のポケットから着信音が鳴る。

真理奈「うわっ!?!何よ!?!」

真理奈はポケットからスマホを取り出す。

ヒカル「繋がるのか!?!」

真理奈「私が開発した妖精界専用の電波コントロールアンテナ付きのドローンで人間界とも電通できるのよ。」

真理奈は妖精の世界でも連絡取れるようになっていた理由を述べる。

その後、スマホで電話を取る。

真理奈「はい?」

ラケル『真理奈!』

真理奈「ラケル!今、あと少してイヴィルアイの所まで来れるから静かにしてね?で、

どうしたの？」

真理奈はラケルに電話をかけてきた理由を聞く。

ラケル『ヤマザキの偽物が出たケル！今、ハートとダイヤモンドが戦ってるケル！』

真理奈「ヤマザキの偽物・・・幻影帝国の残党の事？」

ラケル『そうケル！ドクトル・ゴースって言ってたケル！』

真理奈「そいつと相手にしてるのハートとダイヤモンドだけなの？」

ラケル『あつ！今、フローラ達が来たケル！でも、とても苦戦してるケル！すぐに合

流できないケル！イビロンの方は城内にいる皆に任せてほしいケル！』

真理奈「分かった！皆にそう伝える！そっちはそっちで何とかしてて！」

ラケル『了解ケル！』

真理奈はラケルとの連絡を切る。

真理奈「マナ達は幻影帝国の残党と戦ってる。相当手間取ってるようだから合流は期

待できない。」

ヒカル「けど、作戦は変わらないよな？」

真理奈「ええ。ちよつと予定を変更することになるけど、イヴィルアイを破壊した後、

ミライ兄さんと合流してシン兄さん達を助けに行こう。」

真理奈は作戦を少し変更して、ミライと合流した後、シン達と合流することになった。

急いでイヴェイルアイがあるダンスホールに向かった。

一方、アスカとムサシは大貝町でエボリユウ細胞が積み込んだロケットが来るのを待っている最中、バナラとアボラスが現れ、アスカはダイナに、ムサシはコスモスに変身し、バナラとアボラスと対峙していた。

勿論、ハートキャッチプリキュアとスイートプリキュアにも来ており、ダイナとコスモスを援護している。

ダイナ「つたく！この一大事に怪獣をぶち込みやがって！」

コスモス「ユグドラシルが怪獣を戦いの道具にするなんて！」

ダイナ「とつとと終わらせて、エボリユウミサイルを次元の彼方へ満塁ホームランしてやらあ！」

ダイナはアボラスを、コスモスはバナラを対峙する。

アボラスはダイナに溶解液を吐き出す。

ダイナはアボラスの溶解液を避ける。

その溶解液はビルに浴びると同時に溶け始めた。

ダイナとコスモスはアボラスとバナラに苦戦する。

一方、デイゴンの集団を相手にしていたメビウスは次々と薙ぎ倒していった。いや、メビウスだけじゃない。

レジーナもミラクルドラゴングレイブでデイゴン達を斬り捨てる。

メビウス「やるね、レジーナちゃん！」

レジーナ「当然よ！こんなのジコチューに比べれば大したことないわ！」

メビウスとレジーナは残り少なくなったデイゴンを倒す。

デイゴン達を全滅させた後、メビウスはミライに戻る。

レジーナ「残るはあなただけよ！覚悟しなさい！」

レジーナはミラクルドラゴングレイブの刃先をヤマザキに向ける。

ヤマザキ「ふっふっふっふっ……」

レジーナ「な、なによ？」

ヤマザキ「流石だよ。あれだけの数を相手に全滅させるとは……しかし、おかげで時間稼ぎはできた。」

ミライ「なに!？」

くるみ「なにあれ!？」

くるみは窓の先を見て言い出す。

ミライ達はくるみと同じ方向を見ると、飛行機雲が猛スピードで近付いてきた。

ミライ「まさか!ミサイルが!？」

ヤマザキ「そうだ。このまま行けば、大貝町に着弾する。」

マヤ「なんて卑怯な!」

ヤマザキ「ふっはっはっはっはっ!」

ヤマザキはマヤに言われながらも嘲笑する。

その頃、ハートとダイヤモンドはGoo!プリンセスプリキュアと魔法つかいプリキュア、そしてキラキラ☆プリキュアアラモードと一緒にドクトル・ゴースと対峙しているが、ハート達はゴースに苦しめられている。

ジェラート「な、何なんだよ、こいつ・・・」

ゴース「どうした?その程度かね?」

プリキュア達は傷を負っているのに対し、ゴースは全くの無傷である。フローラ「プリキュア・フローラル・トルビオン!」

フローラはゴースにプリキュア・フローラル・トルビオンを放つ。

しかし、ゴースの周りにバリアが展開され、フローラの技を防がれる。

ゴース「ふっふっふっふっ……」

ゴースが背負っている装置からパラボラアンテナ型の放射器が出る。

ゴースはポケットからコントローラーを取り出し、ボタンを押す。

すると、放射器からビームが発射する。

フローラ「キヤアアツ!!」

フローラは直撃されてはいないものの、衝撃により飛ばされる。

マーメイド「フローラ!」

トウインクル「大丈夫!?!」

マーメイドとトウインクルはフローラを心配する。

ゴース「はっはっはっはっはっはっ! 化学は万能! 夢や希望など非論理的な言い訳だ。先
の见えない未来に歩んでも空しいだけだ。」

ゴースはプリキュア達にそう言う。

フローラ「先の未来は誰にも分からない……それでも! 私達は夢をあきらめない!」

トウインクル「フローラの言う通りだよね。あたし一度、トップモデルになる夢を諦めかけちゃったけど、フローラ達のおかげで、もう一度夢と向き合うことができた。せつかく決めた夢を捨てたくないもん。ま、夢と希望が空しいって言ってる研究に没頭してるあんたの方が空しいんじゃない？」

トウインクルはゴースにそう言う。

ゴース「口だけは達者だな・・・！」

ゴースはトウインクルに言われて少しキレ気味になる。

ハート「化学は万能かもしれない。でも、あたし達の愛は化学や常識を超えるんだから！」

ハートはゴースに指を指してそう言う。

その頃、真理奈とヒカルとライラはようやくダンスホールに辿り着く。

真理奈は一番奥に置いてあるイヴイルアイを見つける。

真理奈「あれがイヴイルアイか。胸糞悪い物ね・・・」

真理奈はイヴイルアイから溢れ出している闇の瘴気に気味悪がる。

ヒカル「こいつを壊せばなぎさ達はプリキュアに変身できるんだな？」

真理奈「ええ……とはいえ、このサイズの剣じゃ、逆にこの剣が壊れると思うんだけど……」

真理奈は首に下げていた『闇薙の剣』を見て言う。

その時、『闇薙の剣』が光り出し、その光が大きくなって100cmほど長い剣が現れる。

真理奈「えっ!?!」

ライラ「剣が大きく!?!」

真理奈達は『闇薙の剣』が大きくなったのを驚く。

真理奈「でも、これなら……」

真理奈は『闇薙の剣』を持ってイヴェルアイの元へ歩む。

真理奈がイヴェルアイの近くまで来ると、『闇薙の剣』を頭上に振り上げ、そのまま真っ直ぐに振り下ろす。

よってイヴェルアイは真っ二つに割れ、今まで溢れ出ていた闇の瘴気が消える。

真理奈「フウ……やった……」

真理奈はイヴェルアイが壊れて、闇の瘴気が消えたのを見てホッとす。

しかし、扉の開ける音が聞こえ、振り向くと、見張っていた兵士たちが入ってきた。

ユグドラシル兵「き、貴様ら! どうやって入った!?!」

ユグドラシル兵リーダー「捕らえろ！」

兵士たちは真理奈達の確保に向かう。

ライラとヒカルは真理奈の元に向かう。

ライラは詠唱を始め、魔法陣を生成する。

すると、真理奈とヒカルとライラは姿を消す。

一方、ダイナとコスモスはハートキャッチプリキュアとスイートプリキュアの援護を受け、アボラスとバニラと戦うが、アボラスとバニラの再生能力に苦戦していた。

ダイナ「コスモス！こいつらを頼んでいいか？もうすぐロケットがこっちに来る！」

コスモス「うん！頼んだよ！」

ダイナはコスモスにアボラスとバニラを任せ、ダイナはトランプ共和国に繋ぐ空間の裂け目に向かう。

コスモスはコロナモードからエクリップスモードにモードチェンジする。

マリン「うわっ、めっちゃかつこよくなってる・・・」

サンシャイン「感動してる場合じゃないよ？」

サンシャインはマリんにツツコミを入れる。

ダイナは空間の裂け目まで来た後、フラッシュタイプからミラクルタイプにタイプチェンジする。

ダイナの目先にはエボリキュウ細胞が積んでいるミサイルが見えている。

ダイナはレボリウムウェーブを発射する。

ダイナの技がミサイルに命中すると、ミサイルの近くにブラックホールが発生し、そこにミサイルが吸い込まれ、消えていく。

ダイナ「あいつらが邪魔してきた時は焦ったが、決まったぜ!」

ダイナはミサイルが消滅したのを見て、ガッツポーズを決める。

コスモスはバニラをアボラスに向けて投げ飛ばす。

アボラスはバニラに押し倒される。

コスモスはコズミューム光線を放ち、アボラスとバニラに命中させる。

アボラスとバニラはコスモスの技を受けたが、何も起こらなかった。

マリ「あれ?」

ビート「何も起きない?」

アボラスとバニラは何が何だか分からない状況だったが、すぐにコスモスを襲い掛かる。

コスモスはエクリプスブレードを放つ。

アボラスはコスモスの技を受け、爆散される。

コスモスは再びエクリプスブレードを放つ。

今度はバニラがコスモスの技を受け、爆散する。

マリ「えっ!?! どういう事!?!」

ムーンライト「! 最初の光線、あの光線で2体の怪獣の再生能力を無力化したのね?」

メロディ「ホント、なんでもアリだね・・・」

ダイナとコスモスはアスカとムサシの姿に戻る。

アスカ「よし、これでエボリユウ細胞で怪獣になる心配はなくなったな。」

ムサシ「後はシン達だね。」

アスカとムサシはトランプ共和国に繋がる空間の裂け目の方に振り向く。

エボリユウ細胞感染阻止、イヴィルアイの破壊、亜久里とアイちゃんとレジーナの救出、マリー・アンジュ女王の復活、マヤの説得は完了した。

これで残るはトランプ共和国の防衛とイピロンとの戦いである。

しかし、ユグドラシルの計画を他所に新たな脅威が生まれようとしている。

取り戻した光

大貝町にヤマザキが操ったアボラスとバニラが現れ、エボリユウ細胞が積載したミサイルの阻止を任せたダイナとコスモスを阻む。

ハートキャッチプリキュアとスイートプリキュアがダイナとコスモスに援護に回すが、再生能力を持ったアボラスとバニラに苦戦する。

しかし、コスモスはアボラスとバニラを倒し、ダイナはエボリユウ細胞入りのミサイルを阻止し、大貝町の住民が怪獣にする計画を阻止することに成功した。

真理奈とヒカルもライラの案内のおかげで、イヴィルアイを発見し、破壊を成功した。これによってバラージ王国の城内にいるプリキュアは変身できるようになった。

その真理奈達はライラの術によってダンスホールから瞬時に別の場所に移動した。

その場所は・・・

真理奈「あぶねえく・・・兵士達に捕まるトコだったわ・・・」

？「真理奈！」

真理奈「え？」

真理奈は振り向くと、そこにはYES！プリキュア5GOGOと亜久里とアイちゃん

とレジーナとマヤとミライ、そして一番奥にヤマザキがいた。

真理奈「ミライ兄さん！みんな！」

かれん「あなたがここに来たという事はイヴィルアイを破壊したのね？」

真理奈「ええ。これであんた達も地下にいるまのん達もプリキュアに変身できるわ。」
ヒカル「エポリユウ細胞もアスカ先輩からのテレパシーで聞いた。ミサイルは消滅した。」

真理奈の言葉を聞いたのぞみ達は喜んでいた。

亜久里「ヤマザキ・ヒロユキ！ユグドラシルの計画は潰えましたわ！トランプ共和国もすでにアンジュ王女が出向いています！デニーズ・ポーカーの革命もここまでです！あなたが持っているモンスターズルーラーをこちらに渡しなさい！」

亜久里はヤマザキにモンスターズルーラーを手渡すよう言い出す。

ヤマザキ「フフフフ・・・、まさかここまで追い詰めるとは・・・普通なら手渡すだろうが、素直に渡す私じゃない。仮に渡すことになるとしても、このアイテムが持つ怪獣を操る技術があれば十分だ。その技術を欲している妙な奴がいてね。モンスターズルーラーを解析した後、データをそいつにあげた。」

真理奈「何ですって？」

くるみ「誰に渡したっていうのよ？」

くるみはヤマザキに質問する。

ヤマザキ「私にも知らないのさ。名前も教えてもらわなかったしね。とにかく怪獣を操るためのデータを渡した以上、このアイテムは必要ない。だが、最後の抵抗はしないとね。」

ヤマザキは内ポケットから銃型の注射器を取り出す。

ヤマザキ「この注射器はエボリユウ細胞が入っている。」

真理奈「なっ!?!」

ヤマザキ「改良に改良を施した特製品だ。こいつを打った後でも自我を保てる。」

ヤマザキは手に持っていたエボリユウ細胞入りの注射器を自分の腹に打ちこむ。

ヤマザキ「はっはっはっはっ! ハーツハツハツハツハツハツハツハツ!!!」

ヤマザキの体に電流が走り、緑色の電気となり外に出る。

そして電気が広がり、形になっていく。

そこに現れたのは超異形進化怪獣ゾンボグ。

フロンティアアスペースのアステロイドベルトのロックランドでエボリユウ細胞によつて変貌した怪獣である。

地球に放ったエボリユウ細胞積載のロケットをウルトラマンダイナから守ったが、ダイナに倒され、ロケットも消滅された。

真理奈「あいつ！」

こまち「自分の体に!？」

りん「うそでしょ!？」

真理奈達はヤマザキが本当にエボリユウ細胞を自身に注入したことに驚く。

真理奈（シン兄さんの事も気になるけど、ヤマザキを放つとく訳にもいかない……ヒカル兄さんかミライ兄さんに任せて、のぞみ達と一緒にシン兄さんの所に行くべきか……）

真理奈は地下にいるシンの事が気になるが、目の前にいるゾンボーグも野放しにできなかった。

真理奈はどうするか決断できなかった。

その時、真理奈のポケットから黒く怪しく光り出した。

真理奈はポケットから黒いスパークレンスを取り出すと、黒いスパークレンスが何かに呼応するように点滅する。

のぞみ「スパークレンスが光ってる！」

かれん「見て！ヤマザキが持っているモンスターズルーラーも光ってるわ！」

のぞみ達はかれんの視線の先を見ると、確かにゾンボーグが持っているモンスターズルーラーも黒く怪しく光り出した。

黒いスパークレンスと互いに呼応するように。

ゾンボーグはそれに気づいた。

真理奈「みんな、ごめん！また一人で行くことになるけど、みんなはシン兄さんの所へ行って！」

真理奈はのぞみ達に謝りながら言う。

のぞみ「大丈夫！こっちは任せて！」

くるみ「何謝ってんのよ？あんな奴、ギャフンと言わせなさい！」

マヤ「私とライラは王女様の元へ行く！死んじやダメだからね！」

真理奈「言ってくれるわね？」

真理奈はマヤに死ぬなど言われて苦笑いする。

ライラ「皆さん！私の力で1階の階段へ送ります！一カ所に集まってください！」

ヒカルとミライとYES！プリキュア5 G O G Oはライラに言われた通り、一カ所に集まる。

ライラは呪文を詠唱して魔法陣を生成し、ヒカルたちを1階へ転送する。

その後、ライラは再び呪文を詠唱し、亜久里達の足元に魔法陣が生成した後、トランプ共和国に転送される。

今、この場にいるのは真理奈1人だけとなった。

真理奈「私ができる事・・・人としてできること・・・!!」

真理奈は目を瞑って自分に言い聞かせる。

その後、真理奈は黒いスパークレンズを頭上に掲げる。

よって真理奈はティガダークに変身する。

その時、ティガダークの体全体が光り出す。

光が治まると、黒い姿だったティガダークが、赤、紫、銀の配色を持った元のウルトラマンティガに戻った。

ゾンボーグ「なんだと・・・!?」

ゾンボーグはその光景に驚く。

ティガ「!戻ってる・・・あいつに吸われたはずだったのに・・・」

ティガは自身の体を見て驚く。

ゾンボーグ「何が起こったのか知らないが、貴様を殺す!」

ティガ「!やれるもんならやってみなさい!」

ティガはゾンボーグにそう言う。

その時、ティガの後ろからサルのような怪獣が地面から現れる。

その怪獣の名は異形進化怪獣メタモルガ。

サナダ・リョウスケのペットのサルがエボリユウ細胞によって突然変異した怪獣であ

る。

高純度エネルギーを吸収したことで生きた爆弾となったが、ネオフロンティアスペースで活躍したティガに宇宙まで運ばれて倒された。

ティガ「怪獣がもう1体!？」

ゾンボーグ「フツハハハハハッ! エボリユウ細胞で怪獣化してやったのだ!」

ティガ「何から何まで卑怯な手を使ってくれるわね!？」

ゾンボーグ「どうとでも言え! どっちみち貴様は終わりだ!」

ゾンボーグはモンスターズブルーラーから黒い雷を放つ。

? 「待て!」

上空からブーメランのような刃が出てきて、黒い雷を切り裂いた。

ゾンボーグ「何!？」

ゾンボーグは何事かと上空に見上げる。

上空からセブンが現れ、着地する。

先程ゾンボーグの攻撃を切り裂いたのはセブンのアイスラッガーである。

アイスラッガーはセブンの頭部に戻る。

ティガ「セブン!」

セブン「遅くなった。ゼロはまだ城内か?」

テイガ「ええ、どうやら罠にはまって地下に落とされたみたい。でも、ヒカル兄さんとミライ兄さんが向かってる！」

セブン「そうか・・・なら、私達がやるべきはこいつらだな？」

テイガ「ええ！」

テイガはゾンボグを、セブンはメタモルガを対峙する。

その頃、バラージ王国の城の地下でイビロンと戦いを繰り広げるゼロ。

ゼロ「エメリウムスラッシュ！」

ゼロはエメリウムスラッシュを繰り出す、イビロンはゼロの技を避け、触手から水のエネルギーを噴射する。

ゼロはイビロンの攻撃を避ける。

ゼロ「チツ！すばしっこい野郎だぜ！」

ゼロはイビロンに舌打ちする。

なぎさ達はイヴィルアイが破壊された事を知らないため、ゼロとイビロンの戦いを見ることしかできなかった。

ひかり「こんな時に見てるだけだなんて・・・」

なぎさ「もう！真理奈は何やってんのよ!？」

なぎさは上を見上げて真理奈に叫ぶ。

その時、階段の上から足音が聞こえる。

？「なぎさちゃん!」

なぎさ「その声は!」

なぎさ達は階段を見上げる。

のぞみ「お待たせしました!」

なぎさ「のぞみちゃん!みんな!」

のぞみ達はようやくなぎさ達と合流した。

ヒカル「イヴイルアイはすでに破壊した。」

なぎさ「やった!」

咲「これで戦えるナリ!」

なぎさ達はイヴイルアイが破壊された事を聞いて喜ぶ。

まのん「お姉ちゃんは?」

まのんは真理奈がいなことに気付き、ミライに真理奈の事を尋ねる。

ミライ「真理奈ちゃんは怪獣と戦っています。でも、ここに来る途中、ティガから光

を感じました。光を取り戻したんだと思います。」

まのん「お姉ちゃん・・・」

まのんはミライから真理奈の事を聞いて安心した。

くるる「キュウ！」

まのん「うん、分かってる。」

まのんはくるるを抱き上げる。

なぎさ「みんな！行くよ！」

ほのか達はなぎさに言われて頷き、変身アイテムを手取る。

なぎさ、ほのか「デュアル・オーロラ・ウェイブ！」

ひかり「ルミナス・シャイニング・ストリーム！」

咲、舞「デュアル・スピリチュアル・パワー！」

のぞみ、りん、うらら、こまち、かれん「プリキュア・メタモルフオーゼ！」

くるるみ「スカイローズ・トランスレイト！」

なぎさはキュアブラックに、ほのかはキュアホワイトに、ひかりはシャイニールミナスに、咲はキュアブルームに、舞はキュアイーグレットに、のぞみはキュアドリームに、りんはキュアアルージュに、うららはキュアレモネードに、こまちはキュアミントに、かれんはキュアアクアに、くるるみはミルキイローズに、まのんはキュアエレメントに変身

する。

ブラック「光の使者！キュアブラック！」

ホワイト「光の使者！キュアホワイト！」

ルミナス「輝く命！シャイニールミナス！」

ブルーム「輝く金の花！キュアブルーム！」

イীগレット「煌く銀の翼！キュアイীগレット！」

ドリーム「大いなる希望の力！キュアドリーム！」

ルージュ「情熱の赤い炎！キュアルージュ！」

レモネード「はじけるレモンの香り！キュアレモネード！」

ミント「安らぎの緑の大地！キュアミント！」

アクア「知性の青き泉！キュアアクア！」

ドリーム、ルージュ、レモネード、ミント、アクア「希望の力と未来の光！華麗に羽

ばたく5つの心！YES！プリキュア5！」

ローズ「青いバラは秘密のしるし！ミルキイローズ！」

エレメント「繋ぎ合う7つの光！キュアエレメント！」

ヒカルはギンガスパークを、ミライはメビウスブレスを出す。

ヒカル「俺達も行くぜ、ミライ！」

ミライ「はい！」

ヒカルはギンガスパークのスパークブレードを展開し、ギンガのスパークドールズを召喚する。

その後、ギンガのスパークドールズの足の裏をギンガスパークの先端に付けると、「ウルトラライブ！ウルトラマンギンガ！」と音声が出る。

ミライはメビウスブレスのクリスタルサークルを回転させる。

そしてミライはメビウスブレスを頭上に掲げる。

ヒカル「ギンガーっ！」

メビウス「メビウス！」

2人がそう叫ぶと、ヒカルはウルトラマンギンガに、ミライはウルトラマンメビウスに変身する。

ギンガとメビウスはゼロの所まで飛翔する。

ゼロ「お前ら。」

メビウス「ゼロ、遅くなってごめん。」

ギンガ「イヴィルアイは真理奈が壊した。真理奈は今、外で怪獣と戦ってるぜ。」

ギンガはゼロに真理奈とイヴィルアイの事を伝える。

ゼロ「そのようだな。あいつの光を感じるぜ。それに親父も来てるみてえだ。」

ゼロはプリキュア達がいる場所に振り向く。

ゼロ「今まで通り、援護頼むぜ！」

ブラック達「はい！」

ゼロとメビウスとギンガはイビロンに向かって飛翔する。

ブラック達もゼロ達を追うように走り出す。

イビロンはゼロ達に向かって咆哮をあげながら襲い掛かる。

V S ゾンボーグ

イヴィルアイを破壊し、ミライ達と合流した真理奈とヒカルとライラ。だが、そこにヤマザキがエボリユウ細胞を注入し、ゾンボーグとなる。

ミライとヒカルとYES！プリキュア5GOGOはライラの力によって、シン達がいる地下へ、亜久里とレジーナとアイちゃんとマヤとライラはトランプ共和国へと向かい、真理奈はゾンボーグと決着をつけるべくティガダークとなる。

その時、ティガダークが光を取り戻し、ティガの姿へと戻る。

戦闘を開始する時、メタモルガが現れるが、セブンが乱入し、共に戦うことになった。一方のシンはゼロとなってイビロンと戦闘する。

そこにミライ達はなぎさ達と合流し、メビウスとギンガとプリキュアに変身し、ゼロと共にイビロンと対峙する。

一方、トランプ共和国で戦いを繰り広げられているプリキュア達とウルトラマン達はもうすぐ終わろうとしていた。

ラブリー「ラブリービーム！」

ラブリーはラブリービームで斧ホシイナアの足場を崩す。

その衝撃によって斧ホシイナリーの斧が手放される。

ラブリー「ハニー！」

ハニー「はいはい！」

ハニーはハニーバトンを構える。

ハニー「命の光を聖なる力へ！ハニーバトン！プリキュア・スパークリングバトンアタック！」

ハニーはプリキュア・スパークリングバトンアタックを繰り返す。

ハニー「命よ、天に帰れ！」

巨大なクローバーが斧ホシイナリーの頭上に落とし、浄化する。

プリンセス「プリキュア・くるりんミラーチェンジ！マカダミアフラダンス！」

プリンセスはマカダミアフラダンスにフォームチェンジする。

プリンセス「プリキュア・ハワイアンアロハロエ！」

プリンセスはフラダンスを始めると、盾ナケワメーケも踊り出す。

プリンセス「フォーチュン！決めちゃって！」

プリンセスは止めをフォーチュンに任せる。

フォーチュン「星の光を聖なる力に！フォーチュンタンバリン！プリキュア・スターライトアセンション！」

フォーチュンはプリキュア・スターライトアセンションを繰り出す。

フォーチュンの技を浴びた盾ナケワメーケは体全体が白くなる。

フォーチュン「星よ、天に帰れ！」

盾ナケワメーケはフォーチュンによって浄化される。

弓矢ホシイナーはビューティとピースに向けて矢を放つ。

ピース、ビューティ「プリキュア・サンダーブリザード！」

ピースとビューティはプリキュア・サンダーブリザードを放つ。

よって弓矢ホシイナーの矢が砕かれ、そのまま弓矢ホシイナーを貫き、浄化される。

鉄球ナケワメーケはサニーとマーチに向けて鉄球を投げ飛ばす。

サニー、マーチ「プリキュア・ファイヤーシュート！」

サニーとマーチはプリキュア・ファイヤーシュートを繰り出す。

よって鉄球ナケワメーケの鉄球が砕かれ、そのまま鉄球ナケワメーケに命中し、浄化される。

ハッピー「ええつと、えつと・・・」

ハッピーはピースとビューティ、サニーとマーチが合体技を決めたので、どうすればいいのか困惑している。

パッション「ハッピー！危ない！」

ハッピー「え？」

ハッピーは振り向くと、棍棒ホシイナーが棍棒を振り下ろす。ハッピー「うわあぁっ!!」

棍棒ホシイナーの棍棒が振り下ろしたと同時に土埃をあげる。土埃が晴れると、ハッピーの姿がなかった。

棍棒ホシイナーはハッピーを探して周囲を見渡すと、パッションがハッピーを助けていた。

パッション「大丈夫？」

ハッピー「はい！」

棍棒ホシイナーはパッションとハッピーの元へ走り出す。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

ハッピーはプリキュア・ハッピーシャワーを繰り出す。

ハッピーの技は棍棒ホシイナーに命中し、浄化する。

槍ナケワメーケはピーチとベリーとパインを攻撃する。

3人は槍ナケワメーケの槍を躲す。

ピーチ「プリキュア！ラブサンシャイン・・・」

ベリー「エスポワールシャワー・・・」

パイン「ヒーリングプレアー……」

ピーチ、ベリー、パイン「フレッツシュ！」

ピーチとベリーとパインはそれぞれの技を放つ。

槍ナケワメーケはベリーとパインの技を斬り払うが、最後のピーチの技は命中され、浄化される。

残ったのは杖ホシイナーと剣ナケワメーケである。

杖ホシイナーは杖から炎を出し、剣ナケワメーケに向けて放つ。

剣ナケワメーケは杖ホシイナーが出した炎を剣で掻き混ぜるように纏わせる。

更に剣ナケワメーケは炎を纏った剣でフォーチュンに斬りかかる。

その時、フォーチュンの前に誰かが割って入ってきた。

？「イージス・ジャステイスソード！」

フォーチュンの前に現れ、剣ナケワメーケの剣を光剣で受け止めたのは、キュアイー
ジスだった。

フォーチュン「あなたはキュアイージス！どうして私を!？」

イージス「話は後よ！エース、お願いします！」

イージスは剣ナケワメーケを蹴り飛ばした。

剣ナケワメーケは杖ホシイナーにぶつかり、倒れ込む。

エース「ときめきなさい！エースショット！ばきゅりん！」

エースはエースショットを放つ。

よって剣ナケワメーケと杖ホシイナーは浄化される。

エース「皆さん、遅くなりました。」

プリンセス「エース！待ってたよ！」

プリンセスたちはエースが自分たちの前に帰還したことに喜ぶ。

サニー「せやけど、その子は？」

エース「真理奈とアンジュ王女のおかげで共に戦う決心をしました。王女もイージスが願いを叶ったことで蘇りました。」

ピーチ「えっ!？」

マーチ「本当に!？」

プリンセス「すごごごーいじゃん！」

エースとイージスを除くプリキュア達はエースの言葉に驚く。

エース「ところで、こちらは今どういう状況ですの？」

ラブリー「クロンダイクさんはデニーズさんと戦ってるよ。クローン怪獣はジャック達が引き受けてる。」

ラブリーはエースにトランプ共和国での状況を説明した。

それを他所にガツツイーグル α 、 β 、 γ の助力によってクローン怪獣軍団を追い詰めるジャック達。

ジャックはウルトラブレスレットをクローンダイゲルンの口に放り投げる。よってクローンダイゲルンは腹の中から爆発される。

Aはクローンゴルドラスの電撃光線を避け、ウルトラギロチンを繰り出す。

Aの技を受けたクローンゴルドラスは頭、両腕を斬り落とされた後、爆散される。

ガイアはスプリームヴァージョンにタイプチェンジし、クローンシルバゴンの尻尾を掴み、放り投げる。

そして、ガイアはフォトンストリームを発射し、クローンシルバゴンに命中させ、爆散させる。

エックスはゴモラーアーマーを装備し、クローンシルドロンを攻撃する。

クローンシルドロンは両腕の鉤爪で防ぐも、威力を殺せず後ろに倒れる。

エックスはゴモラ振動波を放つ。

クローンシルドロンは振動波を受け、そのまま爆散される。

プリンセス「クローン怪獣も全滅だよ！」

?「お待たせしました〜！」

エースたちが振り向くと、ハートキャッチプリキュアとスイートプリキュアが駆けつ

けてきた。

ピーチ「ブロッサム！」

ハッピー「メロデイ！」

ブロッサム「かれんさんから連絡が入って、こちらに合流しに来ました。」

メロデイ「エース、無事だったんだね。」

エース「ご心配をおかけしましたわ。」

ハートキャッチプリキュアとスイートプリキュアが合流し、デニーズを率いるユグドラシル軍を確保するため、エースとイージス、フレッシュプリキュアとスマイルプリキュアとハピネスチャージプリキュアと共に駆けつける。

その頃、ハート達はドクトル・ゴースを追い詰める。

ゴースは今、焦っていた。

初めて対峙した時はゴースが優勢だったが、徐々に追い詰められていった。プリキュア達の戦いで、ゴースの装置の殆どの機能が壊されていた。

ゴース「おのれ……」

ゴースは放射器を出す。

ハート「シャルル！決めるよ！」

シャルル「分かったシャル！」

ハートはラブリークミューンにキュアラビーズをセットする。

ゴース「私の科学が負けるはずがない！」

ゴースは放射器からビームを発射させる。

ハート「あなたに届け！マイスイートハート！」

ハートはマイスイートハートを放つ。

ハートの技がビームを飲み込み、そのままゴースに飲み込む。

ゴース「グワアアアアアアアアツ!!!」

ゴースはマイスイートハートの威力で吹き飛ばされ、倒れる。

ゴース「ま、まさか・・・こんなことが・・・！」

ゴースはハートの技でダメージを負いながらも、立ち上がる。

ホイップ「今度は私達の番だよ！」

キラキラ☆プリキュアアラモードはキャンディロッドを構える。

ホイップ、カスタード、ジェラート、マカロン、シヨコラ「キラキラキラルン、フル

チャーヂ！」

ホイップ「セブン！」

フローラ「ティガ！元に戻ったんだ！」

フローラはティガの姿が元に戻った事を見て喜ぶ。

セブンはメタモルガの激しい攻撃を躲し、隙を突いて蹴り飛ばし、足を掴んで放り投げらる。

その後、セブンはメタモルガにストップ光線を放ち、メタモルガの動きを止める。

セブンはメタモルガを空に放り投げ、ワイドショットを放つ。

メタモルガはセブンの光線技を受け、爆散される。

ゾンボーグ（おのれえっ！さっきからモンスターズルーラーの力を使っているのに、何故イビロンが来ない!?!）

ゾンボーグはモンスターズルーラーの力を使うが、イビロンが現れる様子が見られなかった。

ティガ「残るはあんただけよ、ヤマザキ！」

ゾンボーグ「チイツ！」

ゾンボーグは口から破壊光線を放つ。

ティガは破壊光線を避け、ハンドスラッシュを放つ。

ゾンボーグはモンスターズルーラーから光弾を放ち、ティガのハンドスラッシュを相

殺する。

ティガ「もうこれ以上、人に危害を加えるようなやり方はさせない！」

ゾンボーグ「ほざくな！私の研究を認めず、私を追放した新真奈美の娘が！」

ゾンボーグは腕を伸ばし、ティガの首を掴む。

ゾンボーグ「寧ろ、人に危害を加えたのはお前の祖父だ！」

ゾンボーグは嘲笑うかのような口調でティガに言う。

ゾンボーグ「新光太郎：…あいつは何を着手したのかは知らないが、それが仇になって奴の研究仲間が死んでいった！お前の祖父は死んで当たり前だ！愚か者が辿る末路だな！」

ゾンボーグはティガを放り投げ、口から破壊光線を放つ。

ティガは破壊光線を受け、そのまま地面に落下する。

しかし、ティガはすぐに立ち上がる。

ティガ「祖父ちゃんを悪く言わないで！祖父ちゃんの研究はいつだって平和利用のためにやって来た！私の方が祖父ちゃんの事をよく知っている！」

ゾンボーグ「新光太郎がゲートの設計図を置いて、何も言わずに出ていった理由を知らないくせに凶に乗るな！」

ゾンボーグはモンスターズルーラーから光弾を放つ。

ティガはウルトラシールドで光弾を防ぐ。

ゾンボーグ「所詮貴様など、祖父の死を受け入れず、ずっと孤独のままに生きてきた哀れな小娘だ！」

ゾンボーグはモンスターズルーラーにエネルギーを溜め始める。

ティガ「私は昔の私とは違う！私はもう、一人じゃない！」

ティガはゼペリオンの光線を放つ。

ゾンボーグはモンスターズルーラーに溜め込んだエネルギーをティガに向けて振り下ろすと、禍々しい光線を放つ。

ティガの光線とゾンボーグの光線がぶつかり合う。

モフルン「ティガく！」

パフ「頑張るパフく！」

パフ達はティガを応援する。

ティガ「ハアアアアアアアアアアッ!!!」

ティガはL字になった腕に力を込める。

すると、ティガのゼペリオンの光線がゾンボーグのモンスターズルーラーによる光線を押し出す。

ゾンボーグ「何!?!」

か!？」

ハート「だってテイガが光を取り戻してうれしかったんだもん！」

真理奈「子供か!？」

真理奈はいきなり押し倒したハートに怒る。

しばらく経つた後、ダイヤモンドがハートを抑え、真理奈は起き上がる。

真理奈「つたく・・・」

ハート「ごめんごめん・・・」

真理奈はハートに対し、少し不機嫌になる。

しかし、真理奈はすぐに真剣な表情になる。

真理奈「まあ、いいや。これではシン兄さん達とトランプ共和国ね。」

フローラ「あつ!あそこ!」

フローラが指した方向に振り向く真理奈達。

その先にはシン達が駆けつけてきた。

シン「お前ら、無事みたいだな?」

フェリーチェ「皆さん!」

ミラクル「マジカル、シンさんが戻って来たよ!」

マジカル「べ、別にうれしくないし・・・(〓〓〓〓〓〓)」

真理奈「まのん！」

エレメント「お姉ちゃん！」

真理奈はエレメントの元に駆け付ける。

エレメントは変身を解き、真理奈に駆け付ける。

くるもまのんと同行する。

真理奈「大丈夫だったの!？」

まのん「うん。平気。」

くるる「キュウ！」

真理奈「よかった・・・」

真理奈はまのんの無事を確認し、安心する。

トウインクル「でも、ほとんどボロボロだね？何があったの？」

トウインクルはブラック達の傷だらけの姿を見て、気になって言う。

レモネード「実は地下でイビロンと遭遇したんです。」

レモネードの言葉にシン達以外の一同は驚く。

真理奈「イビロンと!？」

まのん「正確にはイビロンの偽物。本物のイビロンはここにはいないの。」

まのんはバラージ王国の地下でイビロンと遭遇したが、そのイビロンは偽物で、本物

のイビロンではないと告げる。
どういふ事は次の話・・・

ルルイエ、浮上する！

トランプ共和国でフレッシュプリキュアとスマイルプリキュアとハピネスチャージプリキュアはキュアエースとキュアアイジスの参戦でホシイナールとナケワメーケの軍団を浄化する。

更にジャックとAとガイアとエックスもクローン怪獣軍団を殲滅する。

一方、バラージ王国ではハートとダイヤモンド、Go!プリンセスプリキュアと魔法つかいプリキュアとキラキラ☆プリキュアアラモードはドクトル・ゴースを打ち破る。

そして、セブンはメタモルガを一掃し、ティガはヤマザキが変貌したゾンボーグを倒す。

シン達が合流し、歓喜したが、バラージ王国の地下でイビロンと遭遇した事を知る。

更にシン達が戦ったイビロンは偽物だと知った。

シン達はバラージ王国の地下での出来事を話す。

バラージ王国の地下でゼロ達と合流したミライ達はメビウスとギンガ、そしてプリキュアに変身し、共にイビロンと対峙していた。

ゼロ『エメリウムスラッシュ！』

ゼロはエメリウムスラッシュでイビロンを狙撃する。
イビロンはゼロの技を避ける。

レモネード『プリキュア・プリズムチェーン!』

レモネードはプリキュア・プリズムチェーンでイビロンを捕らえる。

イビロンはレモネードに向けて、口から赤黒い破壊光線を放つ。

ルミナスはレモネードを庇うようにバリアでイビロンの破壊光線を防ぐ。

その時、ルミナスとレモネードの足元から水流が噴射される。

水流によって吹き飛ばされたルミナスとレモネードだが、ブルームとイーグレットに助けられた。

しかし、ブルームとイーグレットとルミナスとレモネードがイビロンの触手に叩き落される。

ルージュ『プリキュア・ファイヤーストライク!』

ミント『プリキュア・エメラルドソーサー!』

アクア『プリキュア・サファイアアロー!』

ルージュとミントとアクアはそれぞれの技を放つ。

しかし、イビロンは3人の技を悉く躲した。

ドリーム『プリキュア・シューティングスター!』

エレメント『響き渡る雷よ、纏わせて！プリキュア・サンダー・ストライク！』

ドリームはプリキュア・シューティングスター、エレメントはプリキュア・サンダー・ストライクでイビロンに突進する。

だが、イビロンは激突される前にドリームとエレメントを触手で捕らえ、ルージュ達がいる所に投げ飛ばす。

ドリームとエレメントはそのまま地面に墜落する。

ルージュ達はドリームとエレメントに駆け付けていくちようどその時に地面から水流が噴射する。

ゼロはイビロンにウルトラゼロキックを繰り出す。イビロンの触手で捕らえられ

る。

ゼロ『まだまだ！』

ゼロはゼロスラッガーを繰り出す。

イビロンは斬られる寸前にゼロを捕らえた触手を離し、距離を取る。

ゼロスラッガーはイビロンを追う。

イビロンはゼロスラッガーを避け続ける。

ギンガ『ギンガファイヤーボール！』

ギンガはギンガファイヤーボールを放つ。

イビロンはゼロスラッガーを避けた後、水流を放ち、ギンガの技を打ち消す。

メビウス（さっきから水流ばかり放ってる・・・どういふことだ・・・？）

メビウスはイビロンの戦いに違和感を感じた。

イビロンは今まで水流による攻撃しか行なっていないから。

イビロンはギンガの技を消した後、すぐにゼロスラッガーを避ける。

イビロンは流石に鬱陶しく思ったのか、破壊光線を周囲に放射する。

破壊光線による衝撃でプリキュアは吹き飛ばされ、ゼロとギンガとメビウスは破壊光線をもろに喰らわれる。

イビロンは爆炎に包まれているゼロ達に再び破壊光線を放とうとする。

ブラック、ホワイト『プリキュア・マールブル・スクリユー・マックス！』

ブラックとホワイトは爆炎の中からプリキュア・マールブル・スクリユー・マックスを放つ。

ブラックとホワイトの技はイビロンが溜め込んだ破壊光線のエネルギーに命中し、爆破される。

イビロンはその衝撃により、体勢が崩れる。

ゼロ『止めだ！』

ゼロはゼロツインソードでイビロンを切り裂く。

するとイビロンの体が液体となって崩れていった。

ゼロ『なに!?!』

ゼロは今の光景に拍子抜けする。

ブラツク『水!?!』

アクア『どういうこと!?!』

ブラツク達は驚きを隠せない状態だった。

ゼロ『チツ!そういう事かよ・・・!』

ゼロはイビロンが水となって消えていったのを見て、理解できた。

ゼロ『今のイビロンはニセモンだ。あのマッドサイエンティストに操られてなんかい

ねえ・・・』

ゼロは今倒したイビロンは偽物だと気付いた。

そして、イビロンはヤマザキに操られていなかったことを知った。

シン達から話したのはこういう流れである。

ハート「つまり、イビロンはヤマザキさんに操られたんじゃないやなくて、操られたフリしてたんだね。」

ミライ「はい。戦闘中に水による攻撃ばかり使っていたので、もしかしたらと思ってました。」

真理奈「だったら、本物のイビロンはどこにいるの？」

真理奈は本物のイビロンはどこにいるのか分からなかった。

もちろん、みんなも考えているが、心当たりはなかった。

ダイヤモンド「ねえ、一度トランプ共和国に行かない？向こうも今どうなってるか気になるし。」

真理奈「そうね。そうしましょう。」

シン達はイビロンの事はトランプ共和国に寄つてから考えることにした。

プリキュア達は変身を解き、バラージ王国に通じたゲートで人間界に戻り、その後トランプ共和国に向かった。

今、トランプ共和国はユグドラシル軍全員拘束しており、首謀者であるデニーズも捕らえた。

バラージ王国に残っているユグドラシルの兵士もホープキングダム兵士が拘束させ、ユグドラシルの計画は失敗に終わった。

みなみ「真理奈、あれからイビロンは？」

真理奈「今、ダニエルとキャスがプロノーンカラモスに戻って、調べに行つてるところ。」

トランプ共和国に到着した直後、真理奈はダニエルとキャサリンにイビロンの居場所

を調べるよう頼んだが、連絡はなかった。

今、真理奈とみなみはバルコニーにいる。

真理奈「しかしイビロンの奴、偽物を作るなんてね。しかもヤマザキに操られていない。ホープキングダムであの本を読んだ時に気付くべきだったわ。」

真理奈は右手で頭を掻きながら言う。

みなみ「それなら、イビロンは何のために怪獣達を？」

真理奈「そこなのよね・・・」

真理奈はイビロンがこれまで強い怪獣を集めてるかのようには吸収した理由が思いつかなかった。

真理奈「とにかく、何が起こるか分からないから、しばらく大人しくした方がよさそうね。」

みなみ「ええ。」

真理奈はそう言い出す。

マヤ「真理奈。」

真理奈「ん？なんだ、あんたか。」

真理奈は振り向くと、マヤとアリアとライラが来ていた。

マヤ「まだお礼を言ってなかったから。ありがとう、真理奈。」

真理奈「いつお礼を言われるようなことしたの？私、なんかしたっけ？」

真理奈はマヤが感謝の言葉を贈られるも、何のことか分からなかった。

マヤ「あなたは私に王女様を蘇らせる機会を作ってくれた。私に罪を償わせるきっかけを作ってくれた。だから、そのお礼を言いたかったのよ。」

真理奈「ああ、そんなことか。それはアンジュ姉さんに言いなよ。私はただ連れてきただけだから。それに私はアンジュ姉さんの末路を聞いて納得できなかったのよ。真琴からアンジュ姉さんが消えたって話を聞いて、3年前にフランスでの爆発事故で亡くなった祖父ちゃんの事を頭に浮かぶのよ。アンジュ姉さんに会った時、もう同じ過ちは繰り返したくないって思い始めたんだよね。多分・・・いや、やっぱいいや。」

真理奈はアンジュの事を話した途中でやめた。

マヤ「えっ？何よ？これからって時に。」

真理奈「昔の事を話しても仕方ないし。それに気のせいだなって思ってたから。それより、これからどうするの？国に残るの？」

真理奈はマヤにこれからの事を聞く。

マヤ「世界中のプリキュア達に謝罪しない限り帰れないわ。それにまだ戦いが終わってないでしょ？」

真理奈「そうなんだけども、多分ユグドラシルの革命に比べればおどろおどろしい

「よ。」

マヤ「覚悟は出来てる。」

マヤは真理奈にこれからの事を言う。

真理奈「しかし、世界中のプリキュアに謝るか・・・長旅になるわね？」

? 「大丈夫よ。」

真理奈達は声がした方に振り向くと、まりあがいた。

マヤ「キュアテンダー・・・いや、今は氷川まりあだったわね。」

まりあ「しばらくぶりね。」

真理奈「氷川ってことはいおなの？」

まりあ「ええ。姉です。初めまして、真理奈。氷川まりあです。」

まりあは真理奈に自己紹介する。

真理奈「大丈夫ってどういう事？」

まりあ「いおなのお友達にはクロスミラールームで海外に出回れるし、みゆきちちゃん達には不思議図書館で行きたい場所へ行けるから、長旅にはならないわ。」

真理奈「そんなのあんの!?!」

真理奈はまりあからクロスミラールームの事や不思議図書館の事を聞いて驚き、内心では「飛行機代いらないうじゃん!?!」とか、「不法入国とかは大丈夫なの!?!」とか思い始め

る。

真理奈（信じらんない・・・）

まりあ「その時は私も一緒に行くわ。」

マヤ「ありがとう、まりあ。」

真理奈はまりあとマヤの会話を苦笑いする。

その時、真理奈のポケットに入ってるiPadから着信音が鳴り出す。

真理奈はiPadを取り出し、連絡先に繋げる。

映像からダニエルとキャサリンが出て来る。

真理奈「ダニエル、キャス。」

ダニエル『真理奈、イビロンの居場所が分かった。』

真理奈「ホントに!?!どこななの!?!」

真理奈はイビロンの居場所を聞く。

キャサリン『イビロンは今、ニュージーランド付近の太平洋にいるわ。』

真理奈「はあ?太平洋?そこに何があんのよ?」

ダニエル『真理奈、君が眠っている間、君の妹からティガの発祥のことを聞いた。ティガは3000万年前に存在していたルルイエという超古代都市で誕生したんだ。そのルルイエには闇の支配者と呼ばれたクトゥルフがいたんだ。イビロンはクトゥルフの

闇によって誕生したカーバンクルの成れの果てなんだ。』

真理奈はダニエルからティガの誕生とイビロンの正体を知って驚く。

真理奈「何ですって・・・!?」

ダニエル『まのんはその話を聞いて動揺していたよ。イビロンが太平洋にいるのもそれが理由かもしれない。』

真理奈「それが本当だとすると、イビロンが怪獣を集めたのはその闇の支配者を蘇らせるための時間稼ぎみたいなものってこと?」

ダニエル『可能性はある。』

キヤサリン『それにイビロンがいる太平洋に島が隆起してるの。その時の映像があるわ。』

キヤサリンは真理奈に太平洋の現状を見せる。

真理奈「なっ!?嘘でしょ!」

真理奈が目になっているのは、太平洋上に超古代の遺跡がある島が浮上している所である。

そして、その島の上にイビロンがいた。

イビロンは触手から紺色の光がルルイエの島に八カ所照射する。

それぞれの場所に8体の怪獣が現れる。

その怪獣はUキラーザウルス、グラール、ザイゴーク、EXゴモラの他にもう4体の怪獣がいた。

その4体の怪獣は頭と尻尾に鳥の羽根が付いている怪獣と、全身に突起口が表れている赤い怪獣、それから背中に開いた鰭と両腕の鎌を持つ怪獣と、肩に蛇のような触手を持つ悪魔のような怪獣である。

まず最初の怪獣は怪獣酋長ジエロニモン。

自らの超能力でウルトラマンに倒された怪獣を蘇らせることができる怪獣のリーダー的存在である。

その能力で初代ウルトラマンと科学特捜隊を総攻撃しようと企んだ。

次の怪獣は毒ガス幻影怪獣バランガス。

ゴードスが生み出した中で最強と言われた怪獣である。

翼から出すガスで幻影を作り、自身をガス化することでテレポーションすることができる。

そして次なる怪獣は根源破壊海神ガクゾム。

根源的破壊招来体の生き残りで深海に潜んでいた怪獣である。

眷属であるバイアクヘーを従えている。

ちなみに今のガクゾムの姿はバイアクヘーと合体した姿である。

最後の怪獣は石化魔獣ガーゴルゴン。

ルディアンに秘められた惑星ゴールドのエネルギーを狙って地球に飛来した怪獣である。

口の中にある目であらゆるものを石にする光線を放つことができる。

ザイゴグは背中のトゲを発射し、周囲に突き刺す。

ザイゴグの周囲には三十体程のツルギデマーガとゴルザによく似た怪獣とアントラーによく似た怪獣が現れる。

前者の怪獣は闇魔分身獣ゴグファイヤーゴルザ。

ザイゴグの背中のトゲによって誕生した怪獣である。

自身の体を丸めて突進することができる。

後者の怪獣は闇魔分身獣ゴグアントラー。

これもザイゴグの背中のトゲによって誕生した怪獣である。

背中の羽を広げて飛行することができる。

ジェロニモンは咆哮を上げると同時に地面からテレスドンとドラコ、ゼットンとパンドン、そして三十体程のゾイガーが現れる。

マヤ「怪獣がこんなに!?!」

真理奈と一緒に映像を見たマヤ達は、ルルイエに現れた怪獣の群れに驚きを隠せな

かった。

真理奈「無茶苦茶ね・・・」

ダニエル『ミスターシン達には、すでにこの事を伝えた。我々はヒビキ総監とコウダ参謀にサポートに徹しようと思つている。今の真理奈はウルトラマンだ。言うまでもないと思うが、あの怪獣の群れと戦うなら、十分気を付けてくれ。』

真理奈「分かった。そうするよ。」

キャサリン『厳しい戦いになるけど、頑張つて。』

ダニエルとキャサリンは真理奈にそう言つた後、連絡を切る。

真理奈「私は今でも人間だつてのに・・・まあ、いい。シン兄さんの所へ行こう。」

真理奈はそう言うと、マヤとまりあは頷く。

マヤ「アリア、ライラ。王女様をお願い。」

アリア「ええ。」

ライラ「分かりました。」

アリアとライラはマヤにそう言われ、返事をする。

真理奈とマヤとまりあはシン達と合流しに行つた。

反逆のウルトラマン

バラージ王国の地下でシン達が生きたイビロンが偽物だと発覚する。

本物のイビロンがいる場所は太古に太平洋の海底に沈んでいた超古代都市・ルルイエだった。

そのルルイエでイビロンはヒキラーザウルス、グラール、ザイゴーク、EXゴモラ、ジェロニモン、バランガス、ガクゾム、ガーゴルゴンを召喚した。

イビロンはルルイエで闇の支配者を復活させるため、怪獣軍団を作り上げた。

真理奈は今、シンとマヤと一緒に真理奈がいる部屋に訪問している。

真理奈「真琴、これからルルイエに行くことになるけど、無理しなくてもいいのよ？」

真琴「大丈夫よ。傷はもう治ったし、戦いに支障はないわ。」

真理奈「そっか……」

真理奈は真琴の体調を聞いて、頬を掻きながら返事する。

シン「心配すんな、真理奈。」

真理奈「え？」

シン「真琴は俺が守るからな。」

真琴「なっ!? (〃〃〃〃)」

マヤ「えっ!? 真琴!」

真琴はシンに「守る」と言われて顔が赤くなる。

マヤ「いつの間にかそういう関係に!」

真琴「ちよっ! そ、それは! (〃〃〃〃)」

真理奈「シン兄さん、一応聞くけど、その言葉はどういう意味なの?」

真理奈はシンが言っていた「真琴は守る」という意味を聞く。

シン「え? 大切なダチを守るのは当たり前だろ?」

真理奈「ダヨネー・・・」

真理奈はシンが言った言葉に呆れながらそう言う。

真琴も呆れた表情で溜息を吐く。

シン「どうした、真琴?」

真琴「なんでもないわよ・・・この鈍感!」

シン「ど、鈍感?」

そっぽを向く真琴。

真理奈「ねえ。デニーズは逮捕したって話だけど、アンジュ姉さんが生き返ったから

考えが変わったの?」

真理奈はマヤにデニーズについて聞いてみた。

マヤ「ううん。デニーズさんの思想は変わらなかった。」

マヤは真理奈にトランプ共和国で起きたユグドラシルの進攻の終結の時に話した。

先程、デニーズを率いるユグドラシル軍が全員拘束されたという話だが、デニーズを捕らえたのはマヤとアリアとライラだったのだ。

その現場にはアンジユとエースも一緒だった。

ジヨナサン『アン!』

アンジユ『ジヨナサン！お久しぶりです！』

デニーズ『アンジユ王女!?復活なされたのですか!?しかし、何故アグリ殿下が!』

デニーズはアンジユの近くにエースがいることに信じられないと言いたげな表情をする。

何故ならアンジユが復活したのなら、エースはここにはいないと思っただからだ。

ヤマザキの化学で亜久里とアイちゃんとレジーナの遺伝子を組み合わせれば、アンジユは蘇る手筈だった。

しかし、エースこと亜久里は目の前にいる。

エース『あなたの野望は潰えました。アン王女はマヤが持っていたプリカードファイ

ルの力で蘇りました。あなたと行動を共にしていたヤマザキ博士もドクトル・ゴースもバラージ王国に残っていたプリキュアとウルトラマンの手でいなくなりました。先程ライラの力でバラージ王国の現状を知りました。もう遺伝子工学は使えません!」

エースはデニーズにバラージ王国で起きた出来事を伝えた。

デニーズ『な、なに!? あそこにはイヴイルアイがあつたはず!? なぜヤマザキとゴースが!?!』

ジヨナサン『ああ。プリキュアの力を無力化にすることができると球の事かい? ユグドラシルの情報網が雑だったのかな? マイスイートハートから聞いたよ。『闇薙の剣』は闇の力を振り払うことができる。恐らくそれでイヴイルアイを破壊したことでプリキュアは変身できるようになったんじゃないかな?』

ライラ『はい。真理奈様をイヴイルアイが置かれていた場所に案内しました。』

ジヨナサンは自分が考えた推理をライラに言うと、ライラは肯定を取った。

デニーズ『おのれ・・・! 裏切者が!』

マヤ『デニーズさん、私は自分自身の愚かさを知りました。しかし、王女様のお言葉で目が覚めたのです。人は自らの過ちを償うことができる。まだやり直せることができます。あなたももう一度考え直さないと。』

デニーズ『黙れ! 人は力がなければ世界を守れんのだ!』

マヤはデニーズに説得するが、聞く耳を持たないデニーズ。

デニーズ『この国に絶対的な権威がなければ未来はないのだ!』

デニーズはアンジュの目の前にも関わらず、自身の思想を曲げることはなかった。

よってデニーズは国家反逆罪で拘束された。

真理奈「どの国にもいるのね、自分が正しいって主張するの・・・」

マヤ「デニーズさんは誇り高い戦士だけど、トランプの国がジコチューに滅ぼされたからか、彼の正義が行き過ぎたみたい・・・」

マヤはショックを受けたかのように言う。

真理奈「ま、今の妖精の世界はホープキングダムのような国もあるし、プリキュアの手によって救われた国もたくさんある。その国と外交すればこのトランプ共和国も強い国でいられるさ。」

マヤ「そう信じたいわね・・・」

マヤは俯き加減で頷く。

シン「お前のように罪を償ってきたプリキュアがいるんだ。そいつらからアドバイスを貰ったらどうだ? いい勉強になるぜ。」

マヤ「・・・ええ。そうするわ。」

シン「よし、まずはルルイエだな。」

まのん「お姉ちゃん！」

突然、まのんが部屋に入ってくる。

真理奈「どうしたのよ？ そんな大慌てで？」

まのん「黒いウルトラマンがこの城に向かっているの！」

真理奈「黒いウルトラマン？」

シン「！まさか・・・！」

シンは血相を変えて部屋の外に出る。

真理奈「ちよっ！ シン兄さん!？」

真琴「私達も行こう！」

真理奈達はシンの後を追う。

その頃、クリシスはネクサスとなって、横浜に現れた4体の怪獣と相手をしていた。その4体の怪獣はゲスラ、パンドン、シルバゴン、ゴルドラスによく似た怪獣である。最初の怪獣は海獣キングゲスラ。

ウルトラマンがいない世界の赤レンガ倉庫に現れた怪獣である。

全身の毒棘でメビウスを苦しめた。

続いている怪獣は双頭怪獣キングパンドン。

ウルトラマンのいない世界で横浜の町を破壊してきた怪獣である。

ダブルレイ・インパクトと双頭撃炎弾でメビウスを苦しませ、町を破壊し続けた。

そして、超剛力怪獣キングシルバゴンと超力怪獣キングゴドラス。

この2体の怪獣は横浜の町でスーパーヒーローと星人と共に現れた。

ウルトラマンのいない世界でティガとダイナとガイアと交戦したことがある。

ネクサス「一気に4体か。でも、シンと真理奈達に戻ってくるまで頑張らないとだね

！」

ネクサスはシュトロームソードを構える。

キングゲスラはベノムショットを放つが、ネクサスはシュトロームソードで全て叩き

落す。

その直後、ネクサスはキングゲスラの胴体に斬りつける。

キングパンドンはダブルレイ・インパクトを放射する。

ネクサスはキングパンドンの攻撃をジャンプで避け、そのまま真つ二つに切り裂く。

キングゲスラとキングパンドンは爆散される。

キングシルバゴンはデモリッション・フレイムを、キングゴドラスはゴールドニック・

サンダーを放つ。

ネクサスはサークルシールドを展開し、2体の攻撃を防ぐ。

2体の攻撃が終わった後、ネクサスはマツハムーブでキングシルバゴンとキングゴルドラスの背後を取る。

ネクサスはアローレイ・シュトロームを横にして発射する。

ネクサスの技がキングシルバゴンとキングゴルドラスに命中し、2体の怪獣を爆散させた。

ネクサスは変身を解き、クリシスの姿に戻る。

クリシス「ふうく……頭痛起きてからの戦闘は辛いね……」

クリシスは頭痛と戦闘による疲労に伴って膝をつき、頭を押さえてそう言う。

？「クリシスさん！」

クリシスは振り向くと、あゆみが駆けつけてきた。

クリシス「あ！あゆみじゃん！てっきりシン達と一緒に行ったのかと思ったよ。」

あゆみ「響ちやんにクリシスさんの事を頼まれてたんです。それよりも、あなたは最近頭痛がよく起きますから、やっぱり病院に診てもらった方が……」

クリシス「だいじよぶ、だいじよぶ♪もう頭痛は治まったから。それに、この世界が危ない時に、1人だけ大人しく休むわけにはいかないよ。それはプリキュア達も同じで

しよ?」

あゆみ「それはそうですけど……」

クリシス「私が休む時は皆と一緒に休む時だよ。今の私達はこの空の下にいるんだから。だから私は皆と一緒にこの世界を守りたいんだよ。」

クリシスはあゆみにそう言う。

あゆみはクリシスの想いを聞いて同感するが、クリシスが心配でならなかった。

クリシスは頭痛薬を飲んで、立ち上がる。

クリシス「一休みしたら、みんなと合流しようかな。あゆみも一緒にどう? どうせならみんなと一緒にの方がいいでしょ?」

あゆみ「……うん……」

あゆみはクリシスに言われて、ただ頷くしかできなかった。

クリシスは山下公園のベンチに座って休む。

あゆみ(目の前に苦しんでいる人がいるのに言い返せない……フリーちゃんならこんな時どうしてたのかな……?)

あゆみはフリーちゃんと呼ぶ者を思い浮かべながら俯く。

あゆみが言っていたフリーちゃんとは、前にここ横浜に襲撃した元々はフュージョンという怪物の一部だった。

フーちゃんはあゆみを守る一心で、スマイルプリキュアにフュージョンの欠片を倒させた後、あゆみ達の前から消えた。

あゆみ（弱気になつちや駄目！そんなんじやフーちゃんが悲しむ！私がいっしょにいな
いと！）

あゆみは先程まで俯いていたが、木をしつかり持った。

その頃、シンはまのんから黒いウルトラマンが現れたと聞き、城から出ていった。

シン「！やっぱりてめえか・・・」

シンが見たのは、まのんが言った通り体黒く、鋭利な爪を備えている。

シン「ベリアル!!」

シンは目の前にいる黒いウルトラマンの事をベリアルと呼ぶ。

ベリアル「フッフハハハハハ・・・」

ベリアルは首を回して骨を鳴らしながらシンを見る。

シン「この野郎・・・しぶとく生き返りやがって・・・今度こそ地獄に送り返してやるぜ！」

シンはウルティメイトブレスレットからウルトラゼロアイを出し、目に装着する。よってシンはゼロに変身する。

ゼロ「うおおおおおおおっ！！！！」

ゼロはベリアル頬の頬に一発殴る。

ベリアルの口からゼロのパンチによって唾を吐き出す。

ベリアルは負けじとゼロに攻撃する。

ゼロはベリアルの爪を避け、ベリアルの足を払うように蹴りを入れる。

しかし、ベリアルはゼロの蹴りを避け、ゼロの胸に蹴りを入れる。

それによって距離が離れ、ベリアルは自身の爪を伸ばし、ゼロに襲い掛かる。

ゼロはゼロスラッガーを構え、ベリアルに立ち向かう。

ゼロとベリアルはゼロスラッガーとカイザーベリアルクローと打ち合う。

まのん「あのウルトラマンです！」

真琴「黒いウルトラマン……」

マヤ「なんて禍々しい……」

真琴とマヤはベリアルを見て感想を漏らす。

真理奈「そんな事よりゼロを助けるよ！」

真理奈はスパークレンスを取り出す。

ゼロ「手え出すな！」

真理奈「えっ!？」

ゼロ「すぐに決着付けてやる！」

ゼロはベリアルルの腹に蹴りを入れて距離を取る。

そしてゼロはゼロスラッガーをカラータイマーに装着する。

ベリアルも右掌にエネルギーを込める。

ゼロ「これで・・・ファイニッシュだ！」

ゼロはゼロツインシュートを放つ。

ベリアルもデスシウム光線を放つ。

ゼロの光線がベリアルルの光線に押し負ける。

ゼロ「あの時とは違うんだよおっ!!」

ゼロはゼロツインシュートを更に力を込める。

すると、ベリアルルの光線がゼロの光線に押し負け始めた。

ゼロの光線がベリアルルに喰らわせ、爆散させた。

ゼロ「決まったぜ！」

ゼロは爆炎に指を指して言う。

真理奈「マジか？今まで直角だったのに・・・」

真琴「今のゼロはそれほど強く……！ゼロ、後ろ！」

真琴は何かに気付いたのか、ゼロに呼びかける。

ゼロは何事かと後ろに振り向くと、そこには、今倒したはずのベリアルがいた。

ベリアルはゼロに回し蹴りを喰らわす。

ゼロ「グアアッ！な、なに!？」

ゼロはたつた今倒したはずのベリアルが生き返って背後にとられた事に驚いた。

ゼロ「バカな……！あの光線の打ち合いからどうやって躲した!？」

ベリアルはカイザーベリアルリッパを放つが、ゼロはそれを避ける。

真理奈「どうということ!？」

マヤ「確かに命中されたはずなのに!？」

ゼロはワイドゼロショットを放つ。

ベリアルは素手で受け止め、ゼロの光線を破る。

しかしゼロは即座にエメリウムスラッシュを放つ。

今度は避けられず、ベリアルはゼロの光線を喰らい、爆散される。

ゼロ「!？」

ゼロはこの時、違和感を覚えた。

ベリアル程の強敵がエメリウムスラッシュで倒されるはずがない事を。

その時、ゼロの背中から衝撃が走った。

ゼロは後ろに振り向くと、ベリアルがいたのだ。

真理奈「また!?!」

真理奈達はゼロが感じていた違和感に気付かなかった。

ベリアルが立て続けに蘇り、ゼロの背後に取っていたことを。

VSガルベロス&メガフラシ

イビロンがルルイエに現れた事を知り、ルルイエに向かおうとした矢先にゼロの宿敵であり、光の国から追放された悪のウルトラマン、ベリアルがトランプ共和国に現れる。シンはゼロに変身して、ベリアルと衝突する。

ゼロの光線によってベリアルを倒したかと思つたその時、倒されたはずのベリアルが生き返り、ゼロを襲う。

ゼロ「おおらあつ！」

ゼロはベリアルと殴り合いを続ける。

ゼロ「エメリウムスラツシュ！」

ゼロはエメリウムスラツシュを放つ。

ベリアルはゼロの光線を避け、カイザーベリアルリツパーを繰り出す。

ゼロはゼロスラツガーを投げてベリアルの技を相殺する。

ゼロはウルトラ念力でゼロスラツガーを操作し、ベリアルを襲う。

ベリアルはゼロスラツガーを弾き返すが、ゼロのウルトラ念力によるゼロスラツガーの操作なので、弾き返しても何度も襲ってくる。

そしてついにベリアルのお体にゼロスラッガーが切り裂く。
よってベリアルが爆散される。

だが、ゼロスラッガーがゼロの元に戻った瞬間、背後からベリアルが蹴り飛ばす。
ゼロ「ドアツ！ニセモンには違いねえが、こいつあ一体・・・」

ゼロは何度も復活するベリアルとの連戦で疲労し、カラータイマーに点滅を始める。

真琴「ゼロ！」

まのん「このままじゃ・・・！」

真琴達はゼロがカラータイマーが点滅しているのを見て、気まづくくなる。

しかし、真理奈は冷静にノートパソコンでベリアルのことを調べた。

真琴「真理奈！こんな時に何してんのよ!？」

真理奈「こんな時だからこそよ！あのウルトラマンは何なのか分かるかもしれない
！」

真理奈は着実にベリアルを調べている。

真理奈「このウルトラマンをこうやって調べれば・・・」

真理奈は画像に映っていたベリアルを分析した。

結果、ゼロを薙ぎ倒したベリアルが映っていなかった。

真理奈「成程、あのウルトラマンは幻。つまり偽物ね。」

まのん「あのウルトラマンが偽物!？」

真理奈「ええ。きつとこの近くに黒いウルトラマンの幻を操っている奴がいるんだわ！そいつを叩けば！」

マヤ「その幻が消えるってことね？」

真理奈「大雑把に言えばそう言うことになるわね。よし、場所も分かった！ゼロと黒いウルトラマンが戦ってる地点の2時の方向の2.5kmの地点よ！」

真理奈はベリアルの幻影を操っている何かがいる場所を突き止めた。

マナ「みんなーっ！」

真理奈達は振り向くとマナ達が駆けつけてきた。

真理奈「マナ、六花、ありす、亜久里！」

マナ「真理奈、あの黒いウルトラマンは？」

真理奈「私にもよく分からないけど、ゼロとは縁がある奴みたい。尤も偽物だけだね。」

マナ「偽物？」

真理奈「うん、さつき調べた。あの黒いウルトラマンは幻影なのよ。そいつを操ってる奴がゼロを追い詰めてるのよ。」

マナ「成程！状況は分かりました！みんな、行くよ！」

マナ達はラブリーコミュニケーションを、亜久里はラブアイズパレットを、マヤはプリチエンミラーを構える。

マナ、六花、ありす、真琴「プリキュア・ラブリンク！」

亜久里「プリキュア・ドレスアップ！」

マヤ「プリキュア・くるりんミラーチェンジ！」

マナはキュアハートに、六花はキュアダイヤモンドに、ありすはキュアロゼッタに、真琴はキュアソードに、亜久里はキュアエースに、マヤはキュアアイジスに変身する。

ハート「みなぎる愛！キュアハート！」

ダイヤモンド「英知の光！キュアダイヤモンド！」

ロゼッタ「ひだまりポカポカ！キュアロゼッタ！」

ソード「勇気の刃！キュアソード！」

エース「愛の切り札！キュアエース！」

ハート、ダイヤモンド、ロゼッタ、ソード、エース「響け！愛の鼓動！ドキドキ！プリキュア！」

アイジス「正義の盾！キュアアイジス！」

ハート「真理奈、そいつの場所は分かったんだね？」

ハートは変身ポーズを決めた後、真理奈に改めてベリアルベリアルの幻影を操る何かがいる場

所を聞く。

真理奈「ええ。ゼロがいる場所の2時の方向よ。」

ハート「オツケー！」

ハート達は真理奈が言っていた場所へ行く。

その頃、めぐみ達はぴかりが丘にあるブルースカイ王国の大使館に戻り、ルルイエに向かう準備をしていた。

余談だが、マヤの手によって奪われたひめと各国の海外プリキュアのプリカードはマヤ自身から返してもらった。

その時のマヤは深く反省していた様子だったが、マヤの事情を知ったため、許してあげた。

ひめ「うーん！あたし達の努力の結晶が戻ってきてよかったよー！やっとな安心して眠れるよー！」

リボン「よく言いますわ！ファイルの中のプリカードが奪われた後でも、ひめはぐっすりと寝ていましたのよー！」

いおな「それに今は寝る時じゃないでしょう？これからはイビロンを倒すためにルル

イエに行かないといけないのよ？」

リボンとおおなはひめに文句を言う。

ひめ「わ、分かってるよ！ちよつと安心しててもいいじゃん〜！」

ゆうこ「じゃあ、この戦いが終わったらマヤちゃんと一緒に海外出張しようかな？マヤちゃんには世界中のプリキュア達にも謝ってほしいし。」

ひめ「それいいかも！マヤの全国謝罪巡礼ツアー&海外プリキュアとの共同作業！マナ達も誘おっかなー！」

ひめはゆうこの提案に舞い上がる。

めぐみ「イビロンとの戦いの後が楽しみになってきたね。誠司もどう？」

誠司「そうだな。」

めぐみと誠司もひめ曰く『マヤの全国謝罪巡礼ツアー&海外プリキュア共同作業』を楽しみにしている。

めぐみ「よし！そうと決まればウルトラマンと協力してこの戦いを終わらせるぞ！」
めぐみ達はイビロンとの戦いに気合を入れる。

その頃、ホープキングダムではGoo！プリンセスプリキュア、魔法つかいプリキュア、

キラキラ☆プリキュアアラモードが集まっている。

みらい「メランさんからイビロンがカーバンクルだって話を聞いた時、魔法学校の校長先生のお友達のクシイさんを思い出したんだ。」

リコ「クシイさんがデウスマスストに対抗するために校長先生と一緒にエメラルドのリンクルストーンを探したんだけど見つけれなくなって、それをきっかけで闇の魔法に手を出したんだけど、その力で命を落としてドクロクシーとなって帰ってこない人になつたのよ。」

みらいとリコはクシイの話を語った。

はるか「そうだったんだ・・・」

いちか「その校長先生、悔しかったんだらうね・・・」

はるかといちかはクシイの話を聞いて俯く。

リコ「まのんがイビロンと戦う時、申し訳ない気持ちが伝わったわ。メランさんから真実を聞いた時、動揺してたくらいだったし。」

みらい「でも、まのんちゃんだって同じことを繰り返させないって思ってるよ。キュアエレメントに変身する時、強い意志を感じたんだ。真理奈ちゃんとまのんちゃんならきつとできるよ！」

はるか「うん！」

いちか「そうだね！」

はるかといちかはみらいの言葉を聞いて頷く。

いちか「この戦いが終わったら、パティスリーでパーティーをやっちゃおう！」

ひまり「いいですね！」

シエル「私もお手伝いしようかしら！」

いちか達は今後の事に盛り上がる。

ゆかり「楽しみね。」

あきら「うん。」

いちか達は今後の為にルルイエに行く準備を始める。

その頃、ハート達は真理奈が教えた場所に向かった。

ちなみにハートの耳にはインカムがかかっていた。

真理奈が事前に渡したものである。

真理奈『ハート！真正面に元凶がいる！透明になってるから分からないけど、あんたの技で攻撃してみて！』

ハート「了解！」

ハートは真理奈の言う通りにする。

ハート「あなたに届け！ マイスイートハート！」

ハートはマイスイートハートを放つ。

すると、ハートの技が空気中で四散した。

よって、空間がブレはじめ、姿を現していった。

現れたのは、まるでケルベロスを思わせるような怪獣である。

その怪獣の名はフィンディッシュタイプビースト・ガルベロス。

死んだ人間を操ることができるスペースビーストである。

得意の幻影でレイが操るゴモラを翻弄させたことがある。

ソード「こいつが正体!？」

イージス「なんて不気味な!？」

ガルベロスが姿を現したことにより、ゼロが戦っていたベリアルが消える。

ゼロはベリアルが幻影が消えたことに驚くが、ガルベロスの方に振り向くと、納得したように指を鳴らす。

ゼロ「ベリアルが幻影を見せたのはこいつか・・・本当にめんどくせえ野郎だぜ！」

ゼロはガルベロスの方に走り出す。

その時、ゼロの頭上から青白い雷が落ちてきた。

ゼロ「グアアツ!?なんだ!」

ゼロは頭上を見上げると、貝のような怪獣が浮いていた。

その怪獣の名はノーチラスタイプビースト・メガフラシ。

アンノウハンドによって青葉ニュータウンに現れたスペースビーストである。

ガルベロスと共にネクサスを倒そうとしたが、ナイトレイダーとの連携によって、ガルベロスと共に絶命した。

ゼロ「いつの間に出てきたんだよ!」

ゼロはメガフラシを見て愚痴をこぼす。

しかし、そうは言ってられなかった。

ゼロにガルベロスの火炎弾が襲われる。

メガフラシは無重力光線でゼロの体を浮かせる。

ガルベロスはそれを狙い、火炎弾を放つ。

ガルベロスの火炎弾を諸に喰らったゼロをメガフラシは無重力光線を停止する。

ゼロは地面に落とされる。

ガルベロスは立ち上がろうとしたゼロを蹴り飛ばす。

ゼロは再び倒れ、メガフラシは急降下でゼロをのしかかる。

メガフラシは空中に飛行し、再びゼロを急降下でのしかかる。

真理奈「これはマズいかもね・・・」

真理奈はスパークレンスを取り出し、ティガに変身しようとする。

？「アギラ！ゼロを援護しろ！」

メガフラシが再びのしかかり攻撃をしようとした途端、別の怪獣がメガフラシを突進してきた。

メガフラシはそれにより、地面に不時着する。

ゼロを助けたのはトリケラトプスのような怪獣である。

その怪獣の名はカプセル怪獣アギラである。

ミクラス、ウインダムと同じく、セブンとともに戦ってきたカプセル怪獣である。

氷漬けにされた光の国でドラコを倒した。

ダイヤモンド「また怪獣!？」

ハート「でも、ゼロを助けたってことは味方だよ！とにかくあの2体の怪獣をやっつけるよ！」

ハート達はアギラと一緒にゼロの援護に回った。

真理奈はこの光景を呆然と見ているだけだった。

？「あいつなら大丈夫だ。」

真理奈の隣に歩いてきたのはダンだった。

真理奈「ダンおじさん！」

ダン「多くのウルトラマンは複数の怪獣達を相手にしてきた。それも手強い怪獣達にな。」

ダンはゼロ達の戦いぶりを見ながら、真理奈に言う。

ダン「だが、我々には数々の死線を潜り抜けてきた意地がある。」

ゼロはガルベロスに跳び蹴りを喰らわす。

ガルベロスは吹き飛ばされて地面に倒れる。

メガフラシは放電器官から電撃を放つが、アギラの素早い動きにより躲される。

アギラはメガフラシに突進する。

メガフラシはアギラの突進に怯む。

ダン「プリキュアも同じだ。どれほどの窮地に立たれても、大切なものを守るために立ち向かってきた。」

ハートとダイヤモンドとロゼッタとソードはガルベロスにプリキュア・ラプリーフォースアローを放つ。

ガルベロスはハート達の技を受けて怯む。

メガフラシは電撃を放つが、エースのエースミラーフラッシュによって跳ね返され、メガフラシにダメージを負う。

イージスはジャツジメントソードでメガフラシに集中砲火し、ダメージを負わせる。
真理奈「大切なものを……守るため……」

真理奈はダンの話を聞きながら、ゼロとアギラとドキドキ！プリキュアとイージスの戦いぶりを見届ける。

ソード「いくわよ、イージス！」

イージス「ええ！」

ソードはラブハートアローを構え、イージスはラブプリブレスを回す。

ソード「プリキュア・スパークルソード！」

イージス「イージス・サウザンドソード！」

ソードはプリキュア・スパークルソードを、イージスはイージス・サウザンドソードを放つ。

エース「エースミラーフラッシュユ！」

エレメント「命宿す大地よ、守り抜いて！プリキュア・クリスタルウォール！」

エースはエースミラーフラッシュユで、エレメントはプリキュア・クリスタルウォールでソードとイージスの技をメガフラシに向けて、跳ね返す。

メガフラシはソードとイージスとエースの連携によりダメージを受ける。

アギラはメガフラシに向けてジャンプし、角でメガフラシに突き刺すように突進す

る。

メガフラシはアギラの一撃により激痛が走り、絶命する。

ゼロはガルベロスの尻尾を掴み、ドラゴン・スクリューを繰り出す。

ガルベロスは螺旋に回転されながら倒れる。

ガルベロスは起き上がり、ゼロに火炎弾を放つ。

ロゼッタ「プリキュア・ロゼッタリフレクション！」

ロゼッタはプリキュア・ロゼッタリフレクションでガルベロスの火炎弾を防ぐ。

ハート「プリキュア・ハートシュート！」

ハートはプリキュア・ハートシュートを放つ。

ガルベロスはハートの技に怯む。

ダイヤモンド「プリキュア・ダイヤモンドシャワー！」

ダイヤモンドはプリキュア・ダイヤモンドシャワーでガルベロスの動きを止める。

ハート「ゼロ！今だよ！」

ゼロ「おう！」

ゼロはゼロツインソードを構え、ガルベロスに向かって飛翔する。

ゼロはガルベロスにゼロツインソードで切り裂く。

ガルベロスはゼロに斬られ、力なく倒れ、絶命する。

アギラはカプセルとなり、ダンの元に戻る。

ゼロはベリアルとの幻影との戦闘とガルベロスとメガフラシとの連戦による疲労なのか、膝をついた直後、消えていった。

ソード「シン!？」

ソードはハート達より早くシンの元に飛翔する。

ハート達もソードを追う。

ソードが見つけたのは、疲労で倒れていたシンだった。

上陸！ルルイエ

トランプ共和国に現れたウルトラマンベリアル、その正体はスペースビーストのガルベロスが見せた幻影だった。

ドキドキ！プリキュアとキュアイージスの活躍でガルベロスを炙り出し、ベリアルの幻影が消えたことで、ゼロは反撃を開始した。

その時、ガルベロスの他に同じスペースビーストのメガフラシが現れて、ガルベロスとの連携でゼロを追い詰める。

しかし、ダンが送り出したアギラによって形勢が逆転。

ドキドキ！プリキュアとイージスによる連携で、ゼロとアギラはガルベロスとメガフラシを退ける。

しかし、ゼロはベリアルの幻影とガルベロスとメガフラシとの連携で疲労し、倒れてしまう。

マナ達はシンをトランプ共和国に連れて行き、真琴が寝かせたベッドに寝かせつけた。

真琴「シン……」

真理奈「仕方ないわよ、幻影が相手とはいえ、酷く疲れてるんだもの・・・」

今のシンは眠っており、真琴はシンの手を握って俯いていた。

真理奈「仕方ない。シン兄さんがいないのは心細いけど、一足先にルルイエに行くしかないわね。」

真理奈はシンを置いて、先にルルイエに行くことを提案する。

マヤ「なっ!?!真理奈!?!」

真琴「シンを置いて行く気!?!」

真琴は真理奈に掴みかかってきた。

真理奈「気に障るような言い方をしたなら謝るわ。でもそうでしょ? こうしてる間にもイビロンが何をしでかすか分からない。だったら一刻も早くルルイエに行つて、対処するべきだと私は思う。」

真理奈はマナ達にそう言う。

マナ「・・・うん。そうだね。シンさんは疲れてるだけだし、今戦えるのはあたし達しかないんだもんね。まこぴー、シンさんの為にも行こう!」

真琴「まな・・・ええ、分かったわ!」

真琴はマナの言葉に賛成する。

真理奈「じゃあ、いこう。くるるは外で待つてる。」

マナ達は真理奈と一緒に城の外に行った。

ちなみにダンは、マナ達がシンを城の中に入った後、ホープキングダムに向かった。

マナ「ねえ、真理奈。こんな時に何だけど、真奈美さんとカズマさんが開拓していた島、何て名前だったっけ？」

真理奈「昔から名前がなかったけど、その島の名前はもう決まったんだよね。」

マナ「ホントに？何て名前？」

マナは『デイメンジョンゲート』で訪れた島の名前を聞いてみた。

真理奈「ノルンって名前。運命の三女神から取ったのよ。長女のウルズは過去を司り、ヴェルダンデイは現在を司り、そしてスクルドは未来を司る女神だけど、由来は運命の糸を編んでいるという事からノルンって名前になったんだって。まあ、この話は飽く迄仮説だけだね。でもこの仮説を考えると、過去と現在と未来は繋がってるって意味合いを兼ねてるだろうから、あの島の名前をノルンにしたのよ。」

マナ「へえ。」

ありす「奥が深いですわね。」

真理奈は両親とその助手達によって開拓を進めていった無人島の名前について理由を述べた。

真理奈「とにかく、あの島を人間と妖精が共存できる島にしたいのよね。私的には。」

六花「それがあなたの夢？」

真理奈「ええ。くると出会うからそんな風に考えてたの。」

真理奈は自分の夢のきっかけを言い出す。

あれこれ話している間、くるるがいる城門前に着いた。

真理奈「くるる、待たせたわね。」

くるる「キュウ！」

マナ「よし、一番乗りになるかもだけど、すぐにルルイエに行こう！」

まのん「ウイ！くるる、お願い！」

まのんはくるるにルルイエに転送するようお願いする。

くるるは額の宝石を赤から白に変化する。

そしてその宝石が光り出すと、白い光が真理奈達を包んで消えていった。

その頃、大貝町の離れにある小屋に黒いコートを纏った人物が入り、まだ開いた状態だったゲートを潜って行った。

そして、黒コートの人はそのままバラージ王国に向かっていく。

？『事情は分かったが、そのノイズを倒すためとはいえ、自分の夢の為に作ったパイ

プオルガンを戦いの道具にするなんて……』

音吉『そう言うな。確かにわしは音楽の素晴らしさを伝えるために作ったこのパイプオルガンでノイズを倒そうとするのは辛い事じゃ。だがわしは世界中の音楽を守りたいんじや。』

？『だったら、その事を含めて私に任せればいいだろ？スパークレンスもどこにあるのか見当はついた。この本に書かれてあるのが真実なら手の打ちようがある。私はフランスに行つて砂漠の使徒のような侵略者が現れないように例の計画を始めようとしている。それを実行すればノイズもイビロンも……』

音吉『ズレとるな。お前の言う計画の為にわしの夢を捨てるわけにはいかん。』
？『だが、音吉。私の考えでは……』

音吉『光太郎、今からでも遅くはない。その考えは忘れてしまえ。』
黒コートの人は音吉との会話が脳裏に浮かび上がる。

そうしている間、黒コートの人はバラージ王国の城内に入った。
しばらく経つた後、黒コートの人は地下へ通じる階段に下り始める。

地下に入った後でも歩き続けていた。

そして、ようやく歩き続けていた足が止まった場所はウルトラマンノアの石像が見える台座の前である。

黒コートの人にはノアの石像に見上げる。

？「久しぶりだな・・・ノア・・・」

黒コートの人はノアにそう言い出す。

一方、真理奈達はくるるの能力でルルイエに到着した。

真理奈「とりあえずルルイエに上陸したけど、他の皆はまだ来てないのかな？」

真理奈は一緒に来ているドキドキ！プリキュアとマヤ以外のウルトラマンとプリキュアが来ていないのか気になっていた。

？「もう来てるよ。」

真理奈達は声かしてきた方に振り向く。

そこにはタロウを除くウルトラ兄弟とネクサス、Go！プリンセスプリキュアと魔法つかいプリキュアとキラキラ☆プリキュアアラモードとエコー以外のウルトラマンとプリキュア達が来ていた。

真理奈「げっ?!みんな、もう来てるの!?!ていうか早っ!」

真理奈は一足先にルルイエに来たつもりが、もうとつくに他のウルトラマンとプリ

キュア達が来ていたことに驚いた。

ひめ「ハピネスチャージチームはこの私が、神様直伝の鏡での空間転移でここまで来たの。」

なぎさ「私達は七色が丘に一旦集合してからせつなのアカルンの力で来たよ。」

くるみ「でも、一足先にここに来たのはウルトラマンの皆だけだね。」

真理奈「マジ!？」

真理奈はルルイエに来るまでの経緯を聞いて驚く。

まのん「なんだか、出遅れたようですね・・・」

マヤ「アハハ・・・」

まのんとマヤはお互いに苦笑いしながら言う。

えりか「あれ？はるか達もそうだけど、シンさんは？」

えりかはまだ来ていないはるか達とトランプ共和国で真理奈達と一緒にいたはずのシンがいなことに気付く。

真理奈「ああ、シン兄さんはついさつき怪獣達と戦った後に疲れて倒れてたから休ませてもらってる。」

真理奈はシンが一緒じゃない理由を述べる。

その時、その話を聞いたほのかと舞とつぼみとみゆきは真理奈の方に詰め寄る。

ほのか「ど、どういうことなの、真理奈!? シンさんが倒れたって!」

舞「シンさんの身に何かあったの!? 大丈夫なの!」

つぼみ「シンさんはご無事なんですか!? どうなんですか!」

みゆき「このまま目を覚まさないなんてことないよね!? お願いだからそんなバツドエンドはやめてよ!」

ほのかと舞とつぼみとみゆきは大慌てで真理奈の方に歩み寄る。

一方の真理奈は別の意味で慌てて後ろに後退る。

真理奈「いやいやいや!? ちよつとみんな落ち着けて!? 確かにシン兄さんが倒れたって言ったけど、命に別状はないから! それにさつき言ってた怪獣はもう倒されたし!」

真理奈はほのか達に圧されながら説明する。

ありす「シンさんの事は心配ありませんわ。2体の怪獣の連携で苦しみました。ダンさんのカプセル怪獣の助力もあって倒されましたし、シンさんの方も体調が良くなっておられますので、直にこちらに来られます。」

ありすも真理奈に続いて説明する。

ほのか、舞、つぼみ、みゆき「よ、よかった〜・・・」

真理奈（た、助かった・・・）

ほのか達はありすの話を聞いて安心する。

真理奈もありすに助けられたと思ひ、ホッとす。

ココ「タルト、ミラクルライトはちゃんと持って来たココ？」

タルト「ああ。ユグドラシルと決着をつけるつもりで持って来たんやけど、イビロンがここにおるつて分かつたもんやから、ちゃんと持って来たで。前も言うたけどウルトラマンに効き目があるんか分からんから期待はできひん。」

ココはミラクルライトの事をタルトに聞いた。

タルトはミラクルライトは持って来たものの、ウルトラマンに効果があるかは分からないと言つた。

めぐみ「その時は私達が全力でサポートするよ！」

マナ「うん！イビロンだろうと、怪獣だろうと、ドーンと来いだよ！」

めぐみとマナは自信たつぷりに言う。

タルト「よっしゃ！ほな、しっかりな！今からミラクルライトを配るさかい！」

タルトはココ達にミラクルライトを配る。

変身アイテムの役割を持つているメツプル達にも渡した。

その時、怪獣の咆哮が響き渡る。

ウルトラマン達とプリキュア達は周囲を見渡す。

周りにはツルギデマーガの集団とゾイガーの集団が囲まれている。ゾイガーは真理奈達に光弾を放つ。

これによって真理奈がいる場所が爆発するが、その後に光が発した。

その光から変身したプリキュア達とウルトラマン達が現れる。

ドリーム「シロップ!ココ達をお願い!」

シロップ「任せるロップ!」

ビューティ「ポップさんも!」

ポップ「承知致した!」

シロップとポップは鳥の姿になってココ達を乗せて安全な場所へ連れて行く。

その時、シロップとポップの後ろに追ってくる巨大な獣が現れる。

その獣はイビロンだ。

イビロンはシロップとポップに攻撃しようとする。

ティガ「させない!」

ティガはマルチタイプからスカイタイプにタイプチェンジし、イビロンに向かって飛翔し、攻撃を妨害するように捕らえる。

シロップ「た、助かったロップ・・・」

ポップ「ティガ殿!感謝するでござる!」

シロップとポップはテイガに感謝し、その場から離れる。

メビウス「タロウ教官、この島にジェロニモンがいるという事は、奴がこの群れを！」
タロウ「そうだとすると厄介だ！まずはジェロニモンを倒す！」

メビウスとタロウはジェロニモンの討伐を優先することを決める。

タロウ「みんな！ここは私とマックスとメビウスで十分だ！君達はジェロニモンを探せ！奴は我々ウルトラマンに倒された怪獣を生き返らせる超能力を持っている！奴を倒した後、他の怪獣達を一網打尽にする！」

メビウス「イビロンはテイガに任せてください！」

タロウとマックスとメビウスはゾイガーとツルギデマーガの討伐を任せ、プリキュア達と他のウルトラマン達にジェロニモンの討伐を指示する。

タロウとマックスとメビウス以外のウルトラマン達とプリキュア達は手分けしてジェロニモンの搜索・討伐に向かう。

タロウ「誠司、大丈夫だろうな？」

タロウ（誠司）「正直言って怖いけど、俺は逃げない！めぐみと・・・皆と一緒にこの世界を守る！」

タロウ「いい覚悟だ！」

タロウは誠司の覚悟を聞いて頷く。

タロウ「いくぞ!マックス!メビウス!」

マックス、メビウス「はい!」

タロウとマックスとメビウスはゾイガーとツルギデマーガの群れに立ち向かう。

ルルイエでの戦い

ガルベロスとメガフラシとの戦闘で倒れたシンをトランプ共和国で休ませ、一足先にルルイエに発った真理奈達。

その島でG.O.プリンセスプリキュアと魔法つかいプリキュアとキラキラ☆プリキュアアラモードとキュアエコーを除くプリキュア達と、初代ウルトラマンとセブんとジャックとAとゾフィーとネクサスを除くウルトラマン達と合流する。

その直後、真理奈達の前にイビロンとツルギデマーガとゾイガの軍団が現れる。

テイガはイビロンと対峙し、タロウとマックスとメビウスはツルギデマーガとゾイガの群れと戦闘し、他のウルトラマンとプリキュア達は怪獣の復活の要であるジェロニモンを探しに向かった。

テイガは今もイビロンを離さずにしがみついている。

しかし、イビロンは触手から火球を放ち、テイガを離させる。

テイガは地上に叩き落される。

イビロンも翼蛇態から鎧殻態に変わり、地上に降り立つ。

テイガはすぐに立ち上がる。

ティガ（昔のティガはこいつを倒せなかったけど、私は違う！今まで戦ってきた経験、無駄にはしない！）

ティガはイビロンに向かって走り出す。

その時、ティガの背中に火炎弾が命中され、地面に突っ伏してしまふ。

ティガは後ろの方に振り向くと、ホープキングダムでティガを敗北させたグラールがいた。

いや、グラールだけじゃない。

グラールの他にゼットン、パンドン、テレスドン、ドラコもいた。

ティガ「なっ!?!冗談でしょ!?!6体なんて!?!」

ティガは周囲の怪獣を見渡す。

ティガの目の前にはイビロンが、背後にはグラールとゼットンとパンドンとテレスドンとドラコがいて、絶体絶命の状況になっている。

ティガ（ただでさえ1体だけでも苦戦すんのに、一気に6体なんて洒落になんないわよ!?!）

ティガは今の状況に焦りは抑えられなかった。

その頃、ジェロニモンを討伐するため手分けしたプリキュア達やダイナ達もイビロンの配下となった怪獣と遭遇していた。

コスモスとエックスとフレッシュプリキュアとハートキャッチプリキュアはEXゴモラと、ダイナとガイアとスイートプリキュアとスマイルプリキュアはザイゴグとゴグファイヤーゴルザとゴグアントラーとガクゾムと、ギンガとドキドキ！プリキュアとハピネスチャージプリキュアとイージスはガーゴルゴンと遭遇した。

ジェロニモンを見つけたのはふたりはプリキュアMAX HEARTとふたりはプリキュアSPFLASH STARRとYES！プリキュア5GOGOとエレメントである。

しかし、3組のプリキュアが見つけたのはジェロニモンだけではなかった。

ジェロニモンの他にバランガスも一緒だった。

ブラック「ねえ、ホワイト。あのトサカ頭の怪獣がジェロニモンかな？」

ホワイト「多分ね。ここに来る前にシンさんに教えてもらってたけど、そうみたい。」
ブラックとホワイトはジェロニモンの特徴を見て、そう言う。

ブルーム「まさかウルトラマンと一緒にじゃない私達が見つけるなんてね・・・」

イーグレット「ええ・・・」

エレメント「でも、頑張らないとですね。」

ブラック達はジェロニモンとバランガスを相手に身構える。

ブラック「みんな、行くよ！」

ホワイト達はブラックの合図で走り出す。

一方、タロウとマックスとメビウスはツルギデマーガの群れとゾイガーの群れを次々と薙ぎ払っていった。

タロウ「ストリウム光線！」

マックス「マクシウムカノン！」

メビウス「メビウムシュート！」

タロウ達はそれぞれの光線でツルギデマーガとゾイガーの群れを一網打尽にした。

タロウ「誠司、大丈夫か？」

タロウ（誠司）「かなりキツイけど、まだやれる！」

タロウは誠司を心配するが、誠司は大丈夫だと言う。

その時、地響きが鳴り出す。

タロウ達の足元が割れ始め、地割れから離れた後、その地割れからUキラーザウルスが現れた。

ただ、タロウ達が見たのはUキラーザウルスの下半身に昆虫のような足をして、4本だったはずの触手が6本になり、前と比べて303mの巨体となっていた。

タロウが目の前にいる怪獣、Uキラーザウルス改め、究極巨大超獣Uキラーザウルス・ネオ。

テンペラー星人、ザラブ星人、ガッツ星人、ナックル星人が組織した宇宙人連合の計画で神戸で復活を遂げ、巨大化したヤプールの超獣である。

6本もある触手で初代ウルトラマン、セブン、ジャック、A、メビウスを追い詰めた。メビウス「Uキラーザウルス！」

タロウ「いきなり強化された姿で来るとは……！」

タロウ達はUキラーザウルス・ネオの出現に驚く。

タロウ「マックス！メビウス！強敵だが、やれるな!？」

マックス「はい！」

メビウス「大丈夫です！」

タロウとマックスとメビウスはUキラーザウルス・ネオを相手に身構える。

その頃、ティガはイピロン達の猛攻に防戦一方でバリアで防ぐなり、攻撃を避けるなりでも足も出なかった。

ティガ「勘弁してよ……！」

ティガは防戦一方の状態で疲労しているのが目に見えていた。

ティガは反撃の隙を探るが、突如ゼットンとパンドンに捕まり、動きを封じられた。

ティガ「なっ!?この！離しなさい！」

ティガはゼットンとパンドンに捕らえられ、焦り出す。

ティガの目の前にテレスドンとドラコが立ち、口から火が溢れ出す。

その時、上空からジャックとAが現れ、テレスドンとドラコに蹴りを入れる。

テレスドンとドラコはジャックとAの乱入により怯む。

?「伏せろ！」

ティガは後ろから声が聞こえ、言われた通り、地面にしゃがみ込む。

すると、初代ウルトラマンとセブンを蹴り飛ばす。

ウルトラマン「大丈夫か？」

セブン「お困りのようだね？」

ティガ「2人とも……」

セブンはティガを立たせる。

その後、ティガの前にゾフィーが降り立つ。

ゾフィー「遅くなった。」

ティガ「ゾフィー……」

ジャック「はるかちやん達もギンガ達の元へ向かっている。」

A「ネクサスとあゆみちゃんもすでにこの島に来ている。」

ティガ「クリシス姉さんとあゆみも？」

初代ウルトラマン達はティガの問いに頷く。

ゾフィー「君はイビロンと決着をつけるんだ。」

ウルトラマン「他の怪獣は私達が引き受ける。」

ティガ「……わかった！」

ティガはゾフィー達の言う通り、イビロンと戦いに出た。

初代ウルトラマンはゼットンと、セブンはパンドンと、ジャックはテレスドンと、Aはドラコと、ゾフィーはグラールと対峙する。

その頃、EXゴモラを相手にしていたコスモスとエックスはEXゴモラの攻撃を躲し続けていた。

パイン「ムサシさん！大地さん！大丈夫ですか!？」

エックス（大地）「ああ！時空の歪みでスパークドールズにすることができないのはシヨックだけど……」

コスモス「僕も同じだよ。この世界に来て怪獣が現れた時、フルムーンレクトもルナエキストラクトも効かなかった……あのゴモラはイビロンの力で姿が変わった……せめて彼だけでも救いたい……!」

サンシャイン「ムサシさん……大地さん……」

エックスとコスモスはEXゴモラを見て悔しさを覚える。

ムサシは人間と怪獣の共存を望み、惑星ジュランでその夢を叶った。

大地もムサシには程遠いが、怪獣との共存を望み、怪獣を一旦スパークドールズ化した後、怪獣と暮らせる環境を探している。

しかし、今までプリキュアの世界に現れた怪獣達は沈静化することもスパークドールズ化することもできなかった。

2人にとってはこれ程悔しい事はないだろう。

？「だったら、私達が全力でお手伝いします!」

コスモスとエックスとフレッシュプリキュアとハートキャッチプリキュアは声がした方に振り向く。

そこにはG o!プリンセスプリキュアがいた。

ピーチ「フローラ!マーメイド!」

ブロッサム「トウインクル!スカーレット!」

マーメイド「ヒカルさんから聞きました。ムサシさんと大地さんは怪獣との共存を望んでいると。」

トウインクル「その話を聞いた時、信じらんないって思ったけど、夢の為に頑張った2人の後押しをするのも悪くないかな?」

スカーレット「レモネードもリトラという怪獣と一緒に戦っていましたものね。」

フローラ「1人で夢を叶えることは難しいかもしれないけど、力を合わせればきっとできる!」

エックス(大地)「君達・・・ありがとう!」

G o!プリンセスプリキュアはコスモス達と合流し、EXゴモラに目を向ける。

EXゴモラはコスモスとエックスを襲い掛かる。

コスモスとエックスはEXゴモラを救うべく、迎え撃つ。

フレッシュプリキュアとハートキャッチプリキュアとG o!プリンセスプリキュアはコスモスとエックスを援護する。

その頃、ダイナとガイアはゴッグファイヤーゴルザとゴッグアントラーを相手にしていた。

ダイナはフラッシュタイプからストロングタイプにタイプチェンジし、ガイアはV2からスプリームバージョンにタイプチェンジする。

ダイナはゴッグファイヤーゴルザに突進し、その後、ゴッグファイヤーゴルザを抱え込むように締め付ける。ゴッグファイヤーゴルザは激痛と共に苦しむ。

ダイナは止めにガルネイトボンバーを放つ。

ゴッグファイヤーゴルザの胴体に風穴が開き、そのまま爆散される。

ガイアはゴッグアントラーの顎を掴み、腹に蹴りを入れる。

その後、ガイアはゴッグアントラーの右顎をパンチでへし折る。

ガイアはゴッグアントラーに蹴り飛ばした後、フォトンストリームを放つ。

ゴッグアントラーはガイアの光線を受け、爆散される。

ザイゴッグは胸の触手を伸ばし、ダイナとガイアを絡みつく。

すると、ダイナとガイアから触手に伝ってエネルギーが流れ込んでいく。

ガクゾムは両腕の鎌から破壊光弾を放ち、ザイゴッグの触手によって捕らえられたダイナとガイアを命中させる。

ダイナとガイアはガクゾムの破壊光弾によるダメージと、ザイゴークによる触手でのエネルギー吸収により、膝をつける。

ガクゾムは再びダイナとガイアに破壊光弾を放つ。

？「リンクル・アメジスト！」

ダイナとガイアに破壊光弾が命中する直前、巨大な魔法陣が現れ、そこに入って行き、触手の真上に魔法陣が現れ、その魔法陣から破壊光弾が放たれる。

よってザイゴークの触手が破壊光弾によって粉々になった。

ダイナとガイアは絡まった触手を引きはがした。

リズム「さっきの魔法陣は！」

ビューティ「ええ！間違いありません！」

ダイナ達は上を見上げる。

そこにはホウキに乗っていた魔法つかいプリキュアがいた。

メロディ「ミラクル！マジカル！フェリーチェ！」

ハッピー「待ってたよ！」

ミラクル「お待たせしました！」

マジカル「助けに来たわよ！」

フェリーチェ「大丈夫ですか？」

ダイナ「おう！まだまだ余裕だぜ！」

ガイア「ありがとう！助かったよ！」

ダイナとガイアは魔法つかいプリキュアに感謝する。

ダイナ「よっしゃ！試合再開だ！」

ガイア「この地球を滅ぼさせはしない！」

ダイナとガイアは力を振り絞ってガクゾムとザイゴークを迎え撃つ。

魔法つかいプリキュアもダイナとガイアを援護する。

その頃、ギンガはガーゴルゴンの石化光線を躲し続けていた。

プリンセス「肩についてる奴、蛇みたいですごごごくくヤダー！」

ダイヤモンド「厄介な奴ね！」

ガーゴルゴンは肩の触手の口から青白い稲妻を放つ。

ギンガはドキドキ！プリキュアとハピネスチャージプリキュアを守るようにギンガ

ハイパーバリアーで防ぐ。

ギンガ「隙が無いな！」

ギンガはガーゴルゴンの強さに苦虫を噛み潰す。

？「お待たせしました！」

ギンガ達は声が出した方に振り向く。

そこにはキラキラ☆プリキュアアラモードがやって来た。

ハート「ホイップ！カスタード！ジェラート！」

ラブリー「マカロン！シヨコラ！パルフェ！」

パルフェ「サヴァア！」

シヨコラ「遅くなりました！」

マカロン「苦戦してるそうね。」

ジェラート「あたし達も付き合うよ！」

カスタード「まだまだ未熟者ですが、頑張ります！」

ホイップ「一緒に大切なものを守りましょう！」

ギンガ「サンキューな！」

ギンガの中にいるヒカルは腕についているタロウのレリーフが描かれていたブレスレットに変身モードに切り替える。

すると、「今こそ、一つになる時！」と音声の流れ、ヒカルはギンガスパークでスイッチを押す。

ヒカルが嵌めているブレスレットはストリウムブレスと呼び、ウルトラマンギンガが

パワーアップするのに必要なアイテムである。

本来はタロウ自身がストリウムブレスになるのだが、この説明は後でしよう。

ストリウムブレスから「ウルトラマンタロウ！」と音声 flowed した後、「ギンガに力を！
ギンガストリウム！」と流れた後、ギンガの額にビームランプが、プロテクターの形状
がタロウとほぼ同じものになった。

ギンガの今の姿はウルトラマンギンガストリウムと呼ぶ。

イージス「ギンガの姿が！」

ギンガ「よし、いくぜ皆！」

ギンガはガーゴルゴンに戦いに出る。

ドキドキ！プリキュアとハピネスチャージプリキュアとキラキラ☆プリキュアアラ
モードとイージスはギンガを援護する。

そしてその頃、ブラック達はジェロニモンを倒そうとするが、バランガスのガスによ
り視界が遮られ、手出しできない状況になった。

しかも、そのガスの中でバランガスの突進でやられてばかりである。

ブラック「はあ、はあ……ぶつちやけ……ありえない……」

ブルーム「手も足も出ず・・・」

ドリーム「返り討ちされちゃうよ・・・」

ブラック達はジェロニモンと balan ガスに苦戦する。

ジェロニモンは口から反重力ガスを吐き出す。

ブラック達はジェロニモンのガスによつて、まるで竜巻にのまれて吹き飛ばされたように浮かび上がる。

その時、ブラック達に光の帯が巻かれ、地上に着地する。

ホワイト「今のは！」

イーグレット「ええ！あの人しかないわ！」

ブラック達は見上げると、ネクサスが立っていた。

ネクサス「待たせたね、みんな。」

エレメント「クリシスさん！」

ネクサス「エコーもこの島に来てるけど、真理奈の所に行かせといたよ。もしかして、苦戦してるのかな？」

ドリーム「見ての通りで・・・」

ネクサスはジェロニモンと balan ガスの方を見る。

ネクサス「成程。じゃあ、君達はニワトリ君の相手をしていいかな？私はそっちの怪

獣を何とかするから。」

アクア「大丈夫なんですか？」

ネクサス「任せて♪」

ネクサスはネクサスハリケーンでバランガスをジェロニモンから離れた。

そしてネクサスはバランガスの前に立ち、フェーズシフトウエーブを放ち、メタ
フィールドを展開させた。

ブラック「みんな！クリシスさんの想いを無にしない為にもジェロニモンを倒そう
！」

ホワイト達はブラックの言葉に頷く。

ブラック達はジェロニモンを相手にする。

光の巨人と伝説の戦士

ジエロニモンを探す途中、それぞれの場所で怪獣達が立ちはだかる。

コスモスとエックスとフレッシュプリキュアとハートキャッチプリキュアはEXゴモラ、ダイナとガイアとスイートプリキュアとスマイルプリキュアはザイゴークとガクゾム、ギンガとドキドキ！プリキュアとハピネスチャージプリキュアとキュアアイジスはガーゴルゴンと対峙しているが、コスモス達の所にGo！プリンセスプリキュア、ダイナ達の所に魔法つかいプリキュア、ギンガ達の所にキラキラ☆プリキュアアラモードが合流し、共に怪獣達と戦う。

そんな中、ティガはイビロンと戦っている時、グラール、ゼットン、パンドン、テレスドン、ドラコがティガを追い詰める。

しかし、そこに初代ウルトラマン、セブン、ジャック、A、ゾフィーが駆けつけ、5人のウルトラマンは5体の怪獣を相手にし、ティガはイビロンと対峙する。

一方、タロウとマックスとメビウスはツルギデマーガとゾイガーの群れを一掃するが、そこでウキラーザウルスが進化したウキラーザウルス・ネオが立ちはだかる。

しかし、タロウ達はウキラーザウルス・ネオを立ち向かう。

そして、ふたりはプリキュアMAX HEARTとふたりはプリキュアSPLASH STARとYES!プリキュア5GOGOとキュアエレメントはジェロニモンとバランガスを見つけるも、2体の怪獣に苦戦する。

しかし、そこにネクサスが現れ、ジェロニモンをブラック達任せ、メタフィールドを展開し、バランガスと対峙する。

ブラック達はジェロニモンに攻撃を仕掛ける。

ジェロニモンは尻尾の羽根を飛ばし、ブラック達を襲わせる。

くるる『キュウ!』

エレメント「えっ!? 本当に!?!」

くるる『キュウ!』

エレメント「皆さん、気を付けてください!あの羽根には毒が仕込んでいます!」

エレメントはくるるに教えてもらい、ブラック達に注意する。

ドリーム「ええっ!?!」

ブルーム「マジ!?!」

ブラック「ありえなくない!」

ブラック達はエレメントの注意を聞いてジェロニモンの羽根から逃げる。

ルミナス「私がああ羽根を止めます!」

ルミナスはハーティエルバトンを構える。

ルミナス「ルミナス・ハーティエル・アंकシヨン！」

ルミナスはルミナス・ハーティエル・アंकシヨンを放つ。

よつてジェロニモンが飛ばした羽根が全て止まった。

ローズ「一気に粉々にしてあげるわ！」

ローズはミルキイミラーを構える。

ローズ「ミルキイローズ・メタルブリザード！」

ローズはミルキイローズ・メタルブリザードを放つ。

よつてジェロニモンが飛ばした羽根が次々と凍り付き、砕け散った。

ジェロニモンは再度羽根を飛ばそうとするが、尻尾にはすでに羽根がなくなっていたので飛ばせなかった。

ルージュ「隙あり！プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

ルージュはプリキュア・ファイヤー・ストライクを放つ。

ルージュの技はジェロニモンの頭に命中し、ジェロニモンは頭の羽根が燃えて悶絶する。

しばらくすると、ジェロニモンの頭の羽根が燃やされてハゲあがってしまう。

ジェロニモンは怒り心頭で無重力ガスを吐き出す

ブラック「負けないんだから！」

ホワイト「うん！」

ブラックとホワイトはスパークルブレスを装備する。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブラックとホワイトはプリキュア・マーブル・スクリュー・マックスを放つ。

2人の技がジェロニモンの無重力ガスとぶつかり合う。

その時、2人のスパークルブレスに稲妻が走る。

ブラック、ホワイト「スパーク！」

ブラックとホワイトの技が更にパワーアップし、そのままジェロニモンに直撃する。

よってジェロニモンは消滅する。

ドリーム「やった！」

エレメント「凄い・・・！あんなに大きいのを私達だけで・・・！」

エレメントはブラックとホワイトを見てウルトラマンに頼らずにジェロニモンを倒

した事に驚きを隠せなかった。

ブラック「これで他の怪獣は復活できないね。」

ホワイト「そうね。」

ブラック達はジェロニモンを倒した事で喜び合っている。

エレメント「クリシスさんはどうしましょう？シンさんの話だと、こことは別の空間で戦ってるって聞きましたし。」

アクア「ええ、クリシスさんが負けることはないと思うけど、今は他の場所で戦っているみんなの事を考えないと。」

ミント「とりあえず誠司君の所へ行きましょう。」

ブラック達はネクサスの事が気になるものの、今はタロウ達と合流することになった。

その頃、ギンガはハート達の援護によってガールゴンを追い詰める。

ガールゴンは両肩の蛇の口から電撃光線を放つ。

ソード「イージス！」

イージス「ええ！」

ソードはラブリーコミュニケーションにキュアラビーズをセットし、イージスはラブプリブレスのダイヤルを回し、互いに手を繋いだ。

ソード、イージス「プリキュア・ソードストーム！」

ソードとイージスは手を繋いだまま回転し、竜巻となってガーゴルゴンを襲い掛かる。

ガーゴルゴンは光剣の竜巻にのまれ、ダメージが蓄積していった。

しかし、ガーゴルゴンは両肩の口から再び電撃光線を放つ。

ハート達はガーゴルゴンの攻撃を避ける。

ダイヤモンド「あの蛇が邪魔ね！」

ホイップ「私達が押さええます！」

ホイップ達はクリームエネルギーでガーゴルゴンの肩の触手を縛りつける。

ホイップ「今です！」

ハート「プリキュア・ハートシュート！」

ラプリー「プリキュア・ピンキーラブシュート！」

ハートとラプリーはガーゴルゴンの肩の口に技を撃ち込む。

よってガーゴルゴンの肩の触手の先が無くなった。

ガーゴルゴンは口を開き、その口の中に目が表れ、石化光線を放つ。

ヒカルはストリウムブレスのディスクを回し、タロウの顔を合わせ、スイッチを押す

と、「ウルトラマンタロウの力よ！」と音声流れる。

ギンガ「ストリウム光線！」

ギンガはストリウム光線を放つ。

ギンガの光線がガーゴルゴンの石化光線を打ち破り、そのままガーゴルゴンに命中する。

よってガーゴルゴンは爆散される。

ハート「やった！」

ラブリー「勝った！」

ハートとラブリーはギンガがガーゴルゴンを倒したところを見て喜ぶ。

シャルル「みんな！ たった今、メツプル先輩から連絡が来たシャル！ ちようど今ジェロニモンを倒したみたいシャル！」

ハート「本当に!？」

パルフェ「これで他の怪獣は生き返らないわね。」

シャルルからジェロニモンが倒された事をハート達に教えたと安心するハート達。

ギンガ「まだ安心はできないぜ。戦いは終わってないんだからな。すぐにタロウ達と合流しよう。」

ハート達はギンガの言う通りにタロウ達と合流することにした。

その頃、ダイナ達はメロデイとハッピーとミラクル達の援護でザイゴークとガクゾムと戦っている。

ただ、ダイナとガイアはザイゴークにエネルギーを吸い取られたため、戦える時間は残りわずかとなっている。

ミラクル「私達が足止めします！アスカさんと我夢さんは止めを！」

アスカ「ああ！頼りにしてるぜ！」

我夢「気を付けてね！」

ミラクル達はザイゴークとガクゾムに攻撃を開始する。

ガクゾムはミラクル達に破壊光弾を放つ。

マジカル「リンクル・アメジスト！」

マジカルは魔法陣を二つ召喚し、ガクゾムの破壊光弾を吸い込むように消えていく。

その時、ガクゾムの両鎌の真上に二つの魔法陣が現れ、そこから破壊光弾が放たれ、ガクゾムの両鎌に命中する。

よってガクゾムの両腕の鎌は破壊された。

ザイゴークはヘルズレリーブをミラクル達に放射する。

フェリーチェ「リンクル・ピンクトルマリン！」

フェリーチェは花型のバリアでザイゴークの光線を防ぐ。

ハッピー「プリキュア・ハッピーシャワー！」

ハッピーはプリキュア・ハッピーシャワーを放つ。

しかし、ガクゾムはハッピーの技を吸収した。

その後、ガクゾムは吸収したハッピーの技を打ち返した。

ハッピー「うわっ!？」

ハッピーは打ち返された技を避ける。

ミューズ「プリキュア・シャイニングサークル！」

ミューズはガクゾムの周囲にプリキュア・シャイニングサークルを発動し、動きを封じる。

ザイゴグは背中のとげを放とうとした。

しかし、この瞬間サニー、ピース、マーチ、ビューティがそれを阻止するように自らの技で、ザイゴグが飛ばそうとしたとげを破壊した。

ミラクル「これもおまけだよ！」

ミラクルとマジカルはダイヤスタイルからトパーズスタイルに変身する。

ミラクル、マジカル「プリキュア・トパーズ・エスペランサー！」

ミラクルとマジカルはプリキュア・トパーズ・エスペランサーでザイゴグをガクゾムに向けて飛ばした。

よってザイゴークはガクゾムに衝突する。

フェリーチェ「今です！」

ダイナ「おう！」

ガイア「任せて！」

ダイナはストロングタイプからフラッシュタイプにタイプチェンジする。

そしてダイナはCチャージソルジエント光線を、ガイアはフォトンストリームを放つ。

2人の光線が螺旋状に混ざり合い、ガクゾムとザイゴークに命中する。

ガクゾムとザイゴークはダイナとガイアの光線により爆散される。

ガイア「やった！」

ダイナ「DGSスペシャル、決まったぜ！」

ハッピー達はガクゾムとザイゴークを倒した事に喜ぶ。

ダイナとガイアはエネルギーが限界を迎えた為、変身を解く。

我夢「プリキュア達がいなかったらやられてたよ・・・」

メロディ「無事でよかったです。」

アスカ「みんな、ナイスピッチだったぜ。」

リズム「それ、野球の試合に勝った時に言う言葉じゃ？」

アスカ「細かいことに気にすんなよ。」

メロディ達はアスカと我夢の元に駆け付ける。

我夢「ふう、あの怪獣にエネルギーが吸い取られたから思うように動けないや。しばらく休んだらみんなと合流しよう。」

アスカと我夢はザイゴッグにエネルギーを吸い取られたため、満足に戦える状態ではなかった。

しばらく体を休めた後、他のプリキュア達とウルトラマン達と合流することにした。

その頃、コスモス達はEXゴモラに対し、防戦一方になる一方だった。

マリリン「ああ、もう！大人しくしんしゃい！」

ベリー「頭を冷やしなさい！」

マリリンはプリキュア・ブルーフォルテウェイブを、ベリーはプリキュア・エスポワールシャワー・フレッシュを放つ。

EXゴモラは体を回転させて体当たりを仕掛ける。

よってマリリンとベリーの技が破られる。

マリリンとベリーに直撃する寸前、サイバーゴモラアーマーを装備したエックスが受け

止める。

ブロッサム「皆さん！ムサシさんと大地さんの願いを叶えてあげましょう！」

ピーチ「うん！私達の愛の力でゴモラを助けるよ！」

コスモス（ムサシ）「みんな、ありがとう！」

コスモスはルナモードからコロナモードにタイプチェンジし、さらにコロナモードからエクリプスモードにタイプチェンジする。

エックス（大地）「エックス！俺達も！」

エックス「よーし！行くぞ！」

大地の前にエックスが強化された姿をしたエックスのスパークドールズが現れる。

大地はそれをエクステバイザーで読み取る。

すると、「ウルトラマンエックス、パワーアップ！」と音声が流れる。

よって大地の前にエクストラッガーが現れる。

エックス、大地「エクシードエックス！」

大地はエクストラッガーでX字に斬る。

これよってエックスはウルトラマンエクシードエックスにパワーアップする。

EXゴモラはEX超振動波を放つ。

スカーレット「燃えよ、炎よ！プリキュア・スカーレットイリユージュオン！」

スカーレットはプリキュア・スカーレットイリユージョンでコスモスとエクシードエックスをEXゴモラの攻撃から守る。

ピーチ「プリキュア・ラブサンシャイン・・・」

ベリー「エスポワールシャワー・・・」

パイン「ヒーリングプレアー・・・」

ピーチ、ベリー、パイン「フレッシュユ！」

パッション「プリキュア・ハピネス・ハリケーン！」

プロツサム「プリキュア・ピンクフォルテウエイブ！」

マリン「プリキュア・ブルーフォルテウエイブ！」

サンシャイン「プリキュア・ゴールドフォルテバースト！」

ムーンライト「プリキュア・シルバーフォルテウエイブ！」

ピーチ達とプロツサム達はEXゴモラに技を撃ち込む。

フローラ「モードエレガント！プリマヴェーラ！」

フローラとマーメイドとトウインクルはモードエレガント・プリマヴェーラにモードチェンジする。

トウインクル「この姿、久しぶりだね。」

マーメイド「ハルモニアの守り神様を落ち着かせた時以来ね。」

フローラ「今度はゴモラを助ける為に使う時だね。」

フローラとマーメイドとトウインクルはエクシードエックスの方に振り向く。

コスモス「エックス、僕の力を使ってくれ！」

フローラ「私達の力も！」

コスモスはコズミューム光線を、フローラとマーメイドとトウインクルはプリキュア・レインボー・トルネードを放ち、エクシードエックスのエクスラツガーに与える。

エックス（大地）「ありがとう！みんなの想いを届けてみせる！」

大地はエクスラツガーのスライドタッチを3回なぞり、スイッチを押す。

エックス、大地「コスモレインボーエクスラツシュー！」

エクシードエックスは体全体を金色の光に包まれ、エクスラツガーに虹色のオーラを纏わせ、EXゴモラに向かって飛翔する。

EXゴモラはテールスピーアを繰り出す、エクシードエックスは紙一重に避け、そのままEXゴモラに横薙ぎに斬る。

よってEXゴモラの体から闇の瘴気が溢れ出て消えていった。

それと同時にEXゴモラがゴモラの姿に戻る。

エックス（大地）「元に戻った・・・」

ゴモラは訳も分からず周囲を見渡した後、地面を掘り、そのまま土の中へと消えて

いった。

コスモスとエクシードエックスはムサシと大地に戻る。

ブロッサム「ゴモラさん、行っちゃいましたね・・・」

ムサシ「もしまたゴモラに会うことになったら、どこか怪獣が暮らせる場所に連れて行かないとね。」

ピーチ「今度、真奈美さんに相談しよ。きつとわかってくれるよ。」

ムサシ達はルルイエから去って行ったゴモラの事を想い、他のプリキュア達とウルトラマン達と合流する。

その頃、ネクサスはメタフィールドの中でバランガスと対峙していた。

バランガスは翼からガスを放出し、ネクサスの視界を遮る。

バランガスはそのガスの中でネクサスを突進する。

ネクサスはバランガスに蹴りを入れるが、バランガスの姿が揺らぎだし、消えていった。

よってネクサスの攻撃が空振りになる。

ネクサスの背後にバランガスが突進する。

ネクサス「ガスに紛れて攻撃するんだね。これは厄介だな。」

ネクサスは立ち上がり、エナジーコアを輝かせ、コアファイナルを解き放つ。

それによつてバランガスはガスと共に吹き飛ばされる。

ネクサスは吹き飛ばされたバランガスに振り向く。

バランガスはガスを噴き出し、ガスが晴れると姿を消した。

ネクサスはアームドネクサスをエナジーコアの前に掲げ、光の弓を形成する。

ネクサスは光の弓を引いた直後、後ろに振り向いてアローレイ・シュトロームを放つ。

ネクサスの背後にはバランガスがいた。

バランガスはネクサスの技によつて前に倒れ、そのまま爆散された。

それと同時にメタフィールドが消えていき、ネクサスもクリシスの姿に戻った。

クリシスはこれまでの怪獣達の連戦で疲れたのか、仰向けに倒れる。

クリシス「疲れたな・・・ブラック達はもう行ったのか・・・」

クリシスは右手を額に当て、そう言う。

クリシス「少し休んだら追いかけてよっかな・・・」

クリシスはエボルトラスターを見ながら言う。

1万年前の真実

ルルイエの各所で激戦を繰り広げられたウルトラマン達とプリキュア達。

まず、ふたりはプリキュアMAX HEARTとふたりはプリキュアSPLEASH
STARとYES！プリキュア5GOGOとキュアエレメントはジェロニモンを倒し、
ギンガとドキドキ！プリキュアとハピネスチャージプリキュアとキラキラ☆プリキュ
アアラモードとキュアイージスはガーゴルゴンを倒し、ダイナとガイアとスイートプリ
キュアとスマイルプリキュアと魔法つかいプリキュアはガクゾムとザイゴグを倒し、
コスモスとエックスとフレッシュプリキュアとハートキャッチプリキュアとGo！プ
リンセスプリキュアはEXゴモラに植え付けたイビロンの闇を浄化して元のゴモラに
戻し、そして、ネクサスはメタフィールドでバランガスを倒した。

残る怪獣はイビロン、ウキラーザウルス・ネオ、グラール、ゼットン、パンドン、テ
レスドン、ドラコである。

ウキラーザウルス・ネオは触手でタロウとマックスとメビウスを捕らえようとしてい
た。

マックスはマクシウムソードで、メビウスはメビュームブレードで触手を斬り落と

す。

タロウはUキラーザウルス・ネオの真下に入る。

Uキラーザウルス・ネオはタロウの存在に気付いたのか、バイマナイト・レイザーを放とうとする。

しかし、タロウはUキラーザウルス・ネオが攻撃する前にストリウム光線を放つ。

よってバイマナイト・レイザーは発射されず、ストリウム光線によるエネルギーによって暴発する。

Uキラーザウルス・ネオはキラー・ウォーヘッドを放つ。

タロウ「マックス！お前が決める！」

マックス「はい！」

タロウ「いくぞ！メビウス！」

メビウス「はい！」

メビウスはバーニングブレイブにタイプチェンジする。

そして、タロウはウルトラダイナマイトを、メビウスはバーニングメビュームダイナマイトを発動する。

マックスはUキラーザウルス・ネオの攻撃に対し、超高速移動で躲し続ける。

そして、炎を纏ったタロウとメビウスはUキラーザウルス・ネオの生体ミサイルを受

けながらも物ともせず、Uキラーザウルス・ネオの胴体に突進する。

タロウとメビウスの爆発によってUキラーザウルス・ネオは大ダメージを負う。

タロウとメビウスは自らの再生能力で復活する。

タロウ「マックス！今だ！」

マックスはマックスギヤラクシーを召還し、右手に装備する。

Uキラーザウルス・ネオはザウルス・フルバーストを放とうとする。

マックス「ギヤラクシーソード！」

Uキラーザウルス・ネオはザウルス・フルバーストを放つ。

マックスも同時にギヤラクシーソードを繰り出す。

マックスの光剣でUキラーザウルス・ネオの攻撃を斬り払い、そのままUキラーザウルス・ネオの胴体を真っ二つにする。

よってUキラーザウルス・ネオは風化していつて、粉々になった。

その後、Uキラーザウルス・ネオが復活しないか、しばらく様子を見るが、何も起こらなかった。

タロウ「どうやらジェロニモンは倒されたようだな。」

マックス「ええ。」

メビウス「でも、まだ信じられません。あのUキラーザウルスが僕達3人で倒してし

まうなんて・・・」

メビウスはUキラーザウルス・ネオをタロウとマックスと共に倒せたことに実感がわかなかつた。

Uキラーザウルス・ネオはメビウスとウルトラ6兄弟が合体して誕生したメビウスインフィニティーによって倒されたので、その力に頼らずにUキラーザウルス・ネオを倒してしまつたことを今も信じられなかつたのだ。

それはタロウとマックスも同じである。

？「おーい！」

タロウ達が振り向くと、ギンガとふたりはプリキュアMAX HEART、ふたりはプリキュアSPLASH STAR、YES！プリキュア5GOGO、ドキドキ！プリキュア、ハピネスチャージプリキュア、キラキラ☆プリキュアアラモード、そしてエレメントとイージスが駆けつけてきた。

ギンガ「そつちも終わつたみたいだな？」

タロウ「ああ。たつた今な。」

メビウス「タロウ教官、ギンガの腕についているのはストリウムブレスですよ？それは確かあなた自身がこのブレスにならないとギンガストリウムに変身できないはずでは？」

メビウスはギンガの腕に装着しているストリウムブレスについて質問する。

タロウ「まだ話していなかったな？ヒカルが空間の歪みによつてこの世界に迷い込んだ時、ヒカルが身に着けていたはずのウルトラフュージョンブレスが失つてしまったんだ。恐らく空間の歪みによる影響で消えてしまったんだろう。ビクトリーがこの世界にいない以上、ウルトラフュージョンブレスの件はしばらく後回しにして、兄さん達の協力でストリウムブレスを作り、直接ヒカルに渡したんだ。私が誠司と一つになる前の話だ。」

タロウはギンガがストリウムブレスを身に着けていた理由を話す。

ホワイト「ウルトラフュージョンブレスって？」

ギンガ「ゼロの特訓で手に入れたアイテムだ。エタルガーっていうティガ達を倒した強敵を倒すために託されたんだ。」

ブラック「そんなに強いんですか!？」

ギンガ「ああ。シヨウが変身するウルトラマンビクトリーと俺と合体してようやく倒せた相手だ。もしシヨウがこの世界に来たら、あとで紹介するぜ。」

ギンガはウルトラフュージョンブレスについて話し、シヨウの事を後で紹介すると言い出すと、ブラック達は頷く。

ルミナス「?エレメント?」

ルミナスはエレメントがないことに気付き、辺りを見渡すが、いなかった。

その頃、ゾフィーはグラールを、初代ウルトラマンはゼットンを、セブンはパンドンを、ジャックはテレスドンを、Aはドラコを対峙している。

グラールは口から火炎弾を放つ。

ゾフィーは片手で火炎弾を薙ぎ払う。

そしてゾフィーはグラールに向かって走り出す。

グラールは角から光線を放つが、走り抜けるゾフィーに当たりもしなかった。

ゾフィーはグラールの腹に蹴りを入れる。

ゾフィー「ネオスだけでなく、ティガのエネルギーを吸収したそのけじめをつけさせてもらうぞ、グラール。」

ゾフィーはグラールの首根っこを掴み、持ち上げる。

そしてそのまま地面にたたきつける。

初代ウルトラマンはスペシウム光線を放つが、ゼットンはスペシウム光線を吸収した後、初代ウルトラマンに波状光線を放つ。

初代ウルトラマンは八つ裂き降臨で波状光線を真つ二つに切り裂き、そのままゼットンの腕を斬り落とす。

パンドンは高熱火炎を放つ。

セブンはパンドンの高熱火炎を物ともせず、パンドンに蹴りを入れる。

パンドンはセブンの攻撃に怯むが、構わずにセブんに殴りかかる。

しかし、セブンはパンドンの攻撃を防ぎ、何度もパンドンを殴り続ける。

ウルトラマン「かつて私達は目の前の怪獣に苦しめられた。」

セブン「だが、我々はどれほど苦しいことがあるとも、戦い続けてきた。」

ウルトラマン、セブン「もう昔の私達ではない！」

ジャックはシネラマショットを、Aはメタリウム光線を放つ。

よってテレスドンとドラコは2人の光線によって爆散される。

セブンはアイスラッガーを手に持ち、パンドンを斬り続ける。

最後にセブンはアイスラッガーでパンドンの首を斬り落とす。

初代ウルトラマンはゼットンの波状光線を紙一重に避け、ウルトラアタック光線を放つ。

それを受けたゼットンは動かなくなり、初代ウルトラマンの念波によって木つ端微塵にされる。

グラールは口からビームを放つ。

ゾフィーはM87光線を放つ。

ゾフィーの光線とグラールのビームがぶつかり合うが、威力はゾフィーのM87光線が上回り、そのままグラールに直撃する。

グラールはゾフィーの光線により、爆散される。

これでイビロンの配下になった怪獣軍団は全滅した。
残るは、今ティガが対峙しているイビロンだけとなった。

その一方、イビロンを相手にしていたティガは・・・

ティガ「くうっ！隙のないやつね！」

イビロンに苦戦していた。

ハンドスラッシュで攻撃するも、イビロンが召喚したクリスタルによって弾き返され、直後に火の玉を放ってティガにダメージを負わせられる。

ゼペリオン光線を放つも、ボール状の重力場によって、吸収されてしまう。

パワータイプにタイプチェンジして応戦するも、イビロンも翼蛇態へと変わり、電気を体に纏わせ、超高速で突進し、ティガを圧倒する。

テイガはイビロンを相手に手も足も出ない状況であった。イビロンは鎧殻態へと変わり、テイガに赤黒い破壊光線を放つ。

テイガはウルトラシールドを展開するが、イビロンの破壊光線に耐えられず、直撃を喰らわれる。

テイガはイビロンの攻撃により、倒れる。

テイガ「テイガとエレメントが相手をして倒せないのも納得だわ……！」

テイガは前に真理奈の姿でホープキングダム of 図書館で読んだ『ユザレと光の巨人』の内容を思い出す。

イビロンは再び破壊光線を放とうとする。

？「プリキュア・ハートフル・エコー！」

その時、テイガとイビロンの真上に光のシャワーが降り注いでいた。

テイガはその光を不思議そうに見渡す。

一方のイビロンは闇の瘴気を漏れ出しながら苦しみ出す。

エコー「真理奈ちゃん！大丈夫!?!」

テイガ「エコー！」

エコーはテイガの元に駆け付けてきた。

テイガ「かなりきついけど、大丈夫よ。」

? 「お姉ちゃん!」

ティガはエコーの他に誰かが来てるのを発見する。

駆けつけて来たのはエレメントであった。

ティガ「エレメント!」

エレメント「イビロン、なんだか苦しそうだね?」

ティガ「エコーの技が効いたのは間違いなさそうだけど・・・」

ティガ達はエコーの技を受けて苦しんでいるイビロンを見る。

その時、エレメントのブローチの宝石が赤から紫に変わる。

それによってティガ達の周りの風景が変わり始める。

ティガ達が見たのは、無人島・ノルンである。

いや、正確には、まだ名前がなかった1万年前のノルンである。

そして、そのノルンで当時のティガとエレメントがイビロンと対峙していた光景を目にするティガ(真理奈)達。

エレメント(まのん)「これって!?!」

ティガ(真理奈)「1万年前のノルン!?!じゃあ、あのティガとエレメントはアムイとユザレだっというの!?!」

ティガ(真理奈)達は1万年前のイビロンと戦っているティガとエレメントがアムイ

とユザレだと知る。

ティガ（アムイ）『ユザレ、あいつがカーバンクルだと言うのは本当なの？』

エレメント（ユザレ）『彼が教えてくれました。遙かなる古の時代より異なる世界で姿を現した闇の支配者の力によって、カーバンクルはあの姿に変えられた。』

ティガ（アムイ）『闇の・・・支配者？』

エレメント（ユザレ）『恐怖、破滅、悲しみ・・・そして無を齎す者。』

ティガ（アムイ）『どうすればいいの？』

ティガ（アムイ）はエレメント（ユザレ）に目の前にいるイビロンをどうすればいいのか質問する。

エレメント（ユザレ）『私と彼の全ての力を使います。上手くすれば、カーバンクルは闇の支配者の呪縛から解き放たれる。』

ティガ（アムイ）『・・・上手くすれば？』

ティガ（アムイ）はエレメント（ユザレ）が途中に言った「上手くすれば」の意味が分からなかった。

エレメント（ユザレ）『しかし、もし上手くいかなかったら、私とこの獣と共に消滅します。中にいる彼を置いて。』

ティガ（アムイ）はエレメント（ユザレ）の言葉に驚きを隠せなかった。

ティガ(アムイ)『君、本気でやるつもりなのか!? そんなことをしたら無駄死にだぞ!』
 ティガ(アムイ)はエレメント(ユザレ)がやろうとしていることに反対し始める。

エレメント(ユザレ)『覚悟はできています。』

エレメント(ユザレ)は胸のブローチを赤、青、黄、緑、紫、黒、白の7色の光で輝かせ、自身に7色の光を身に纏う。

エレメント(ユザレ)『七色の光の輝きよ、大いなる力となり、奇跡を導け! プリキュア・レインボーフォース・センセーション!』

エレメント(ユザレ)は7色の光に包まれた状態で、7色の光線をイビロンに放射する。

エレメント(ユザレ)が放った光線を喰らったイビロンは苦しみもがきながら咆哮を上げる。

ティガ(アムイ)『ユザレ!』

その時、イビロンの体から闇の瘴気が溢れ出し、その瘴気の中からアンモナイトのよな影が現れる。

ティガ(アムイ)『こいつが……闇の支配者……!?!』

闇の瘴気から現れた闇の支配者と呼ぶ影が紫色の光線をティガ(アムイ)の胸を貫く。

ティガ(アムイ)はその光線によって膝をつく。

テイガ（アムイ）はそれでも懸命に立ち上がろうとする。

テイガ（アムイ）『ユザレ．．．まさか．．．君．．．』

テイガ（アムイ）は今の状況で、エレメント（ユザレ）はイビロンとなったカーバンクルを救うことができなかつたと悟つた。

テイガ（アムイ）の体が石像となつてしまい、光の塵となつて消えてしまった。

そしてエレメント（ユザレ）の光線を受けたイビロンも光となつて消えていった。

7色の光が消えた後、黄色い体をしたカーバンクルが現れ、ユザレとイビロンとなつたカーバンクルを救えなかつたことを悔やんだ。

そして、闇の支配者はそのカーバンクルを包み込む。

カーバンクルは苦しみがきながら地中へと消えていった。

ノルンの草原に残っていたのはスパークレンスだけだった。

その直後、1万年前のノルンの風景から現在のルルイエの風景に戻る。

エレメント「そんなことが．．．」

テイガ「7つの力．．．イビロンを封印するためじゃなく、闇の支配者によつて変えられたイビロンをカーバンクルに戻すための力だったんだね．．．」

テイガ達は先程の風景を見て、1万年前のノルンでの戦いの真実を改めて知つた。

その時、エレメントのブローチの宝石がチカチカと輝く。

エレメント「えっ!? さっきの技を!? 駄目だよ! そんな事!」

くるる『キュウ!』

エレメント「え? 今の私ならできるって? 仲間がいるから絶対に救い出せるって?」

くるる『キュツ!』

エレメントはくるると会話し、今のエレメントならイビロンに変えられたカーバンクルを救い出せると訴えられる。

エレメント「・・・わかった、やってみる!」

ティガ「何言ってるのよ!? 失敗したら終わりなのよ!」

ティガはエレメントの決心に反対する。

エレメント「本当は怖いよ? でも、私にはお姉ちゃんやくるるがいるし、皆がついてるし・・・」

ティガ「・・・」

エコー「真理奈ちゃん、まのんちゃんを信じてあげよう。私も響ちゃんやみゆきちちゃん達のおかげでフリーちゃんに思いを伝えられたんだ。まのんちゃんやくるるの想いを無下にしたくない。まのんちゃんやくるるを信じてあげて。」

ティガはエコーの言葉を聞いて深刻そうに考えるが、溜息吐いた後、少し微笑む。

ティガ「姉として情けないわね。目の前に妹がいるのにさ。」

エレメント「ごめんね、お姉ちゃん。」

ティガ「謝らないでよ・・・生きて帰ってきなさい。絶対よ。」

エレメントはティガの言葉に頷き、イビロンの方に振り向く。

エレメント「いくよ、くるる！」

くるる『キュウ！』

エレメントのブローチの宝石が7色に光り出し、赤、青、黄、緑、紫、黒、白の7色の光に包まれる。

エレメント「七色の光の輝きよ、大いなる力となり、奇跡を導け！プリキュア・レインボーフォース・センサーション！」

エレメントは7色の光に包まれながら、7色の光線を放つ。

イビロンはエレメントの技を受け、苦しみもがきながら咆哮を上げる。

ティガはエレメントの帰りを信じて待つ。

その頃、エレメントはイビロンにプリキュア・レインボーフォース・センサーションを放った後、闇の瘴気の中で飛び続けた。

エレメント「うう・・・！なんてプレッシャー・・・！周りが全然見えない・・・！」
エレメントは腕で顔を覆いつつも、飛び続けていた。

そして、ようやく闇に包まれていた黄色い体をしたカーバンクルを見つける。

エレメント「いた！」

エレメントはそのカーバンクルの元へ近付く。

すると、闇の瘴気が強くなっていった。

エレメント「うっ！うっ！！」

エレメントは強くなった闇の瘴気に怯む。

しかし、エレメントはそれでもカーバンクルの元に近付く。

エレメント「これが・・・闇の支配者の呪縛・・・でも！」

エレメントのブローチの宝石の7色の光が強くなり、闇の瘴気を弾き飛ばし、カーバンクルの元へ向かう。

エレメント「諦めない！」

エレメントはカーバンクルに手を差しのばし、抱きかかえる。

それと同時にエレメントのブローチに光り輝く7色の光が周囲を覆う。

そして今、イビロンの体から虹色の光が放出し、その光からまのんとくると黄色い体のカーバンクルが現れる。

ティガ「まのん！くるる！」

ティガはまのん達をキヤツチし、様子を見る。

まのん「うう・・・」

ティガ「まのん、大丈夫？」

まのん「うん・・・ありがとう・・・」

ティガ（この子がユザレの・・・）

ティガはまのんとくるるの無事を見て安心したと同時に一緒にいるカーバンクルがユザレのパートナーであることを知る。

しかし、ティガはすぐにイビロンがいた方に振り向く。

イビロンの体から闇の瘴気が放出し、イビロンを覆う。

すると、イビロンの姿がまるで鎧を纏った竜人と思わせる風貌となり、付近に4つの腕が浮遊し、尻尾は失ったが、イビロンの右手には剣が握られていた。

ティガ「イビロンの新しい姿!？」

ティガはイビロンの新たな姿に驚く。

イビロンは左手から黒い球体を出し、頭上に掲げる。

すると、黒い球体が闇の瘴気となり、海へと飛翔した。

そして、闇の瘴気そのまま海の中に入っていった。

しばらく経つた後、ルルイエが揺れ始める。

エコー「なに!?!」

まのん「お姉ちゃん!あそこ!」

ティガ達はまのんが指した方向を見る。

海から水しぶきがし始める。

その海から巨大なアンモナイトのような体から触手が生え、鉋状の腕を持ち、下顎に目が付いている顔をした怪獣が現れた。

その怪獣の名は邪神ガタノゾア。

ネオフロンティアスペースの太平洋上に現れた闇の支配者である。

ティガのデラシウム光流もパワータイプ版ゼペリオン光線も効かなかった。

ただ、このプリキュアの世界に現れたガタノゾアはネオフロンティアスペースに現れたガタノゾアと違い、10倍以上の大きさをしていた。

ティガ「なっ・・・!?!」

エコー「大きすぎる・・・!」

まのん「あれが・・・闇の支配者・・・クトウルフの生まれ変わり・・・」
ティガ達はガタノゾーアを見て圧倒する。

ガタノゾーアの周囲に闇の瘴気を放出させ、ルルイエ全体を覆う。

今まで太陽に照らされていたルルイエが闇に覆われて光が差すことが無くなってしまった。

VSイピロン

ルルイエのそれぞれの場所でタロウとマックスとメビウスはUキラーザウルス・ネオを、ゾフィーはグラールを、初代ウルトラマンはゼットンを、セブンはパンドンを、ジャックはテレスドンを、Aはドラコを倒した。

残ったイピロンを対峙するティガだが、イピロンは元々カーバンクル、その能力によつてティガは苦戦する。

しかし、エコーの浄化技によつてイピロンは苦しむ。

その時にティガ達がくるるの能力で見たのは1万年前のノルンでアムイが変身したティガとユザレが変身したエレメントと衝突したイピロンとの戦いの光景であった。

その光景である真実を知る。

それはユザレがとつた行動はイピロンを封印する事ではなく、闇の支配者の呪縛によつてイピロンに変えられたカーバンクルを浄化し、元の姿に戻すことだった。

しかし、ユザレはそれに失敗し、道連れとなつて消えてしまった。

アムイはイピロンから溢れ出した瘴気から現れた闇の支配者によつて消滅してしまつた。

エレメントはユザレができなかったイビロンの浄化を決心する。
エレメントはイビロンに浄化技を繰り出す。

闇の瘴気に苦心惨憺しながらも見事にカーバンクルを救い出すことに成功する。

その時、カーバンクルの力を失ったイビロンは龍騎態となり、その後闇の支配者クトウルフの生まれ変わり、邪神ガタノゾーアが現れる。

ガタノゾーアから溢れ出した闇の瘴気によってルルイエ全体に闇を覆い尽くす。

ティガ「信じらんない・・・」

まのん「あんなのをどうやって・・・」

ティガ達はガタノゾーアの巨体に圧倒する。

その時、イビロンの周りの浮遊している腕がティガに向けて光弾を放つ。

ティガはそれに気づいたのか、まのん達を庇うように背を向け、しゃがみ込む。

ティガは光弾を受けるも、まのん達を守るために耐え抜く。

まのん「お姉ちゃん！」

イビロンの攻撃が止み、耐え抜いたティガ。

ティガ「まのん、もう一度変身できそう？」

まのん「ダメなの。くるるが物凄く疲れてる。エネルギーが使い切ったみたい。」

ティガ「でしようね・・・エコー。まのん達をお願い。」

エコー「うん。」

ティガはまのん達をエコーの元に下ろした後、イビロンの方に振り向く。
? 「兄さん!」

初代ウルトラマン達が声がした方に振り向くと、タロウ、マックス、メビウス、ギンガ、ふたりはプリキュアMAX HEART、ふたりはプリキュアSPLASH ST
AR、YES!プリキュア5GOGO、ドキドキ!プリキュア、ハピネスチャージプリ
キュア、キラキラ☆プリキュアアラモードとイージスが駆けつけてきた。

ゾフィー「みんな!」

メビウス「大丈夫ですか?」

セブン「ああ!」

イージス「まのん、あの巨大な化け物は!?!」

まのん「この子をイビロンに変えさせた闇の支配者の生まれ変わりです!」
まのんはイージス達にガタノゾーアの事を説明する。

ブラック「でかすぎでしょ!?!ありえなくいい!」

ダイヤモンド「あんなのどうやって戦うっていうの!?!」

ブラック達はガタノゾーアの巨体に圧倒される。

イビロンは剣を横薙ぎに振ると、三日月状のカッターを放つ。

ティガはウルトラシールドを展開して、イビロンの攻撃を防ぐ。

ティガ「あんな大きいのじゃ、プリキュアの力じゃ太刀打ちできないわね・・・！あの化け物はダンおじさん達に任せて、あんた達は私の援護に回って！あの腕みたいなのが邪魔でやりづらいわ！」

ティガはプリキュア達にガタノゾーアをウルトラ6兄弟とマックスとメビウスとギンガに任せ、イビロンとの戦いに参加するよう言い出す。

ドリーム「い、YES！」

プリンセス「でも、そいつを倒したらギンガ達と一緒に戦うよ!？」

ティガ「当たり前よ！」

ドリーム達はティガの言う事に従う。

初代ウルトラマン「真理奈、イビロンは任せたぞ。」

セブン「ダイナ達が君の元に合流してきても、助太刀はしない。自分の力で奴を倒すんだ。」

ティガ「うへえ・・・きつついな、それは・・・わかったよ。おじさん達も気を付けてね。」

初代ウルトラマン達は一足先にガタノゾーアの元に向かう。

イビロンはウルトラ6兄弟達に振り向いた後、4つの腕の物体から光弾を放とうとす

る。

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

アクアは放とうとしている光弾にプリキュア・サファイア・アローを放ち、その光弾を被爆させる。

フォーチュン「させないわ！」

フローラ「真理奈さん、本体をお願い！」

ティガ「言われなくても！」

ティガは浮遊している腕をブラック達に任せて、目の前にいるイピロンを対峙する。イピロンはウルトラ6兄弟達は後にして、ティガに襲い掛かる。

そして、ウルトラ6兄弟とマックスとメビウスとギンガはガタノゾーアと対峙する。初代ウルトラマンとジャックはスペシウム光線を放つが、ガタノゾーアはビクともしなかつた。

セブンはアイストラッガーで、マックスはマキシウムソードで斬りつけるが、傷一つも付かなかつた。

タロウとメビウスは何度も殴り続けるが、全くダメージはなかつた。

ガタノゾーアはシャドウミストを放ち、周囲のウルトラマン達にダメージを与える。そして、ガタノゾーアは触手でシャドウミストに怯んだウルトラマン達を叩き落す。ウルトラマン達は海に落ちるが、すぐに立ち上がり、体勢を立て直した。

初代ウルトラマン「なんて化け物だ！」

メビウス「傷一つつかないなんて・・・！」

ガタノゾーアは触手を伸ばし、ウルトラマン達を捕らえようとしていた。

その時、初代ウルトラマン達の頭上より、時空の穴が現れ、そこから緑色の光線が放ち、触手を焼き切る。

そして、時空の穴からウルティメイトイージスを装備したゼロが現れる。

セブン「ゼロ！」

ゼロ「待たせちまったな？」

メビウス「もう大丈夫なのかい？」

ゼロ「ああ、もうフルスロットルだ！問題ねえよ！」

ゼロはウルティメイトイージスをウルティメイトブレスレットに戻し、ガタノゾーアに目を向ける。

ゼロ「いくぜ、皆。ブラックホールが吹き荒れるぜ！」

ゼロ達はガタノゾーアに向かって飛翔する。

イビロンはティガに剣を振り下ろす。

ティガは柄の部分を受け止めるが、即座にイビロンに脇腹を横から蹴られる。

イビロンは今ので怯んだティガを斬りつける。

更にイビロンはティガの腹に蹴りを入れる。

イビロンは剣から赤黒い光線を放つ。

ティガはウルトラシールドを展開するが、いとも簡単に破られる。

ティガはイビロンの攻撃によって倒れる。

ティガ「つ、強い……！まのんがこいつからカーバンクルを取り戻したことで、能力が落ちてるとはいえ、それでも差が埋まらないっていうの……!？」

ティガはイビロンとの能力差に苦しむ。

ブラックとホワイトはイビロンの浮遊する腕による攻撃を避け、強い打撃を与える。

ラブリー「ラブリービーム！」

ラブリーはラブリービームを放ち、浮遊する腕に命中する。

よって腕はボロボロになるが、すぐに再生する。

シヨコラ「再生した!？」

プリンセス「そんなのあり!？」

浮遊する腕は手の平から光弾を放つ。

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー!」

ミントはプリキュア・エメラルド・ソーサーで光弾を防ぐ。

ティガはイビロンに蹴りを入れるが、イビロンはその蹴りを剣で防ぎ、もう片方の足に蹴り払う。

ティガは仰向けに倒れる。

イビロンはそのままティガに斬りかかるが、ティガは横回転してイビロンの攻撃を避ける。

ティガはイビロンにハンドスラッシュを放つ。

イビロンは剣を横に振ってカッターを放ち、ティガのハンドスラッシュを破り、そのままティガに命中させる。

ティガは諸に喰らって仰向けに倒れる。

ドリーム「真理奈!」

ドリームはイビロンに苦戦したティガを心配する。

この瞬間、浮遊する腕から光弾を放ち、ドリームに命中する。

ルージユ「ドリーム!」

浮遊する腕はドリームに再び光弾を放つが、ルージュに助けられ、間一髪助かった。ティガはイビロンにゼペリオン光線を放つ。

イビロンは赤黒い光線を放ち、ティガの光線を破り、そのままティガに命中する。

ティガはイビロンの光線に後ろに倒れる。

その直後にティガのカラータイマーが点滅を始める。

ティガは起き上がろうとするが、ティガの目と鼻の先にイビロンの剣が向かれる。

ティガ（今のこいつはカーバンクルの力が使えないから倒せると思ってたのに……！）
イビロンは剣を振りかぶる。

この時、ティガのカラータイマーから白い光が現れる。

イビロンはそれに気づかず、ティガに剣を振り下ろす。

この瞬間、イビロンの剣がティガの目の前に現れた『闇薙の剣』によって止められる。

ティガ「これは!？」

『闇薙の剣』はひとりでにイビロンの剣を弾く。

ティガは『闇薙の剣』を手に取る。

ティガ「あんた、力を貸してくれるの？」

ティガは『闇薙の剣』にそう言うのと、「そうだ。」と伝えているかのように光り輝く。

ティガはイビロンの方に振り向き、立ち上がる。

イビロンは咆哮を上げ、ティガに向かって剣で斬りかかる。

ティガも『闇薙の剣』を構えて、イビロンと一騎打ちする。

イビロンは剣で横薙ぎに斬りかかるが、ティガはジャンプして躲し、イビロンの背後を取る。

ティガは着地した後、振り向け様に横薙ぎに斬りかかるが、イビロンの剣に受け止められる。

しかし、ティガも負けずにイビロンの剣を躲し、『闇薙の剣』でイビロンを攻撃し続ける。

イビロンはティガの攻撃を剣で躲し続け、後ろに後退し、4つの腕を呼び寄せ、光弾を放つ。

しかし・・・

ルミナス「させません！」

ローズ「真理奈に任されてんのよ！」

イビロンの4つの腕から放つ光弾をルミナスとローズのバリア、ブルームとイーグレットのバリア、ミントのプリキュア・エメラルド・ソーサーとロゼッタのプリキュア・ロゼッタリフレクション、ラブリーとプリンセスの合体バリアとイージスのイージス・ソードシールドによって防がれる。

キラキラ☆プリキュアアラモードはクリームエネルギーで4つの内3つの腕を封じ、レモネードとハニーはプリキュア・プリズム・チェーンとハニーリボンでもう1つの腕を封じる。

この隙にブラックとホワイト、ドリムとルージュとアクア、ハートとダイヤモンドとソードとエース、フォーチュンはイビロン本体に技を撃ち込む。

イビロンは剣でプリキュアの技を防ぐ。

テイガは『闇薙の剣』を地面に刺した後、パワータイプからマルチタイプにタイプチェンジする。

テイガは地面に刺した『闇薙の剣』を引き抜き、イビロンを斬りかかる。

イビロンも剣でテイガを牽制する。

その時、テイガはイビロンの手首を掴み、上に揚げた直後、『闇薙の剣』でイビロンの胴体突き刺す。

イビロンはテイガの一撃により、苦しみもがく。

テイガは『闇薙の剣』を引き抜いて、イビロンとの距離を取る。

テイガ「ありがとう、後は私に任せて。」

テイガは『闇薙の剣』にそう語り掛ける。

その後、『闇薙の剣』が小さな光となって、テイガのカラータイマーの中に入る。

イビロンは虫の息になりながらも、剣に赤黒い稲妻を纏わせる。

テイガも左右に広げてエネルギーを集約する。

イビロンは剣を突き出して、赤黒い光線を放つ。

テイガも負けじとゼペリオン光線を放つ。

2つの光線がぶつかり合うが、イビロンの光線がテイガの光線を圧している。

まのん「お姉ちゃん！」

エコー「あと少しなの！」

まのん達はその様子を見て不安な表情を表れる。

ブラック「真理奈を信じよう。」

ホワイト「うん。真理奈はもう、負けない。」

ブラックとホワイトはまのん達にそう言う。

まのん達はブラックとホワイトの言う通り、テイガの勝利を信じる。

テイガ（以前、私が初めてテイガになった時、すごく動揺してた・・・目の前にいるイビロンのように強い怪獣と戦って、若干弱音を吐きそうになった。今まで苦戦ばかりしてたから・・・でも、そんな私をみんなは支えてくれた。一緒に戦ってくれた・・・私と一緒に戦ってくれたみんなの為に、ここで負けるわけにはいかない！）

テイガは河童山瓢箪池付近で初めてテイガになった事、それ以降プリキュアや他のウ

ルトラマンと一緒に戦ってきた事、強力な怪獣と戦って苦戦・敗北した事、そして、苦戦したり、倒れたりしながらも、諦めずに戦ってきた別の世界のティガに変身する2人を思い出し、更に気を強く持つ。

その時、ティガの体が黄金色のオーラを纏う。

ルミナス「ティガの体が！」

ミント「金色の光に包まれた!?!」

メツプル「凄い光のパワーだメポ！」

ミツプル「それにあつたかいミポ！」

ドリーム「その意気だよ、真理奈！なんとかなるなる！」

ドリーム達はティガにエールを贈る。

ティガはそのエールの応えたのか、ゼペリオン光線のパワーが今まで以上に強くなつて、イビロンの光線を押し返していく。

イビロンも剣から発した光線の威力を上げるも、ティガの光線を破れず、そのまま打ち破られ、ティガの光線に呑み込まれ、消滅される。

これによってイビロンの一部でもある浮遊する4つの腕も消滅する。

ハート「真理奈、イビロンを倒したんだね！」

プリンセス「すごごごーい！」

ジェラート「やるじゃん！」

ハート達はティガの勝利に喜ぶ。

その時、ティガはイビロンとの戦いの時に、力を使い果たしたのか、前に倒れ、光となつて消える。

まのん「お姉ちゃん!？」

まのんはティガが消えた場所へと向かう。

エコー達もまのんに続く。

まのん達がティガが消えた場所に駆け付けて見たのは、真理奈が気を失っている所であつた。

まのん「お姉ちゃん！」

まのんは真理奈の元に駆け付け、抱きかかえる。

真理奈「う．．．うう．．．」

真理奈はまのんに抱きかかえられると同時に目を覚ます。

真理奈「まのん．．．」

まのん「よかつた．．．」

まのんは真理奈の無事にホツとする。

ブラック「真理奈、やったじゃん！」

ホワイト「お疲れ様。」

真理奈「ありがとうって言いたいとこだけど、それどころじゃないわね・・・」

真理奈はブラックとホワイトに褒められるも、素直に礼を言ってる場合ではなかった。

何しろ、今のルルイエはゼロ達が戦っているガタノゾーアの闇によつて覆い尽くされているのだから。

その時、上空にダイナとガイアとコスモスとエックスがガタノゾーアと戦っているゼロ達の元へ飛翔しているのを目撃する真理奈達。

？「みんなー！」

今度は声が出した方に振り向く。

その先にフレッシュプリキュア、ハートキャッチプリキュア、スイートプリキュア、スマイルプリキュア、Go!プリンセスプリキュア、魔法つかいプリキュアが駆けつけてきた。

ブロッサム「遅くなりました！」

トウインクル「その様子だとイビロンは倒したみたいだね？」

真理奈「ええ。まだ戦いは終わってないけど・・・」

真理奈はガタノゾーアの方に視線を向く。

サニー「なんやねん、アレ!？」

マリリン「うええ、気持ちわる!」

サニーたちはガタノゾーアを見て怯む。

まのんはガタノゾーアについて説明する。

ピーチ「じゃあ、あいつを倒せばこの闇は晴れるんだね?」

マリリン「ちやつちやと済ませるっしゅ!」

ハッピー「エコーとイージスは真理奈ちゃんとまのんちゃんをお願い!」

エコー「うん!」

イージス「気を付けて!」

ブラック達はガタノゾーアと戦っているウルトラマン達の所に合流しに行く。

ゼロの最期!?

イビロンが率いた怪獣軍団を倒し、イビロンの姿となった1万年前のキュアエレメントのパートナーのカーバンクルを闇の支配者の呪縛から解き放ち、救い出すことができたエレメント達。

しかしその直後、エレメントの手によって浄化した闇によって再びイビロンが蘇り、そしてイビロンの手によってガタノゾーアが姿を現す。

そんな時、ゼロがウルトラ兄弟達と合流し、ガタノゾーアと対峙する。

一方のティガはプリキュア達の援護を受け、イビロンと対峙するが、苦戦する。

しかし、ティガは『闇薙の剣』を手に、再びイビロンと対峙する。

苦戦はするものの、ティガはすべての力を出して、イビロンに止めを刺す。

プリキュア達はウルトラマン達と一緒にガタノゾーアを倒すため、ウルトラマン達の元に駆け付ける。

ただ、イビロンとの戦闘で力を出し尽くした真理奈とまのんを除いて、ガタノゾーアとの戦いに参加していないものがいた。

それはクリシスである。

クリシスは現在、バランガスとの戦いの後、古代都市のような空間で眠りについていてた。

その眠りの中で、クリシスが今いる空間とは違う空間、つまり夢を見ていた。

クリシスが見たのは施設の中のような空間で、その中に数人の白衣を着た人が所々映っていた。

？ 『光太郎さん。完成しましたが、本当によろしいのですか？』

光太郎 『ああ。この世界と妖精の世界を守るためだ。』

その人物の内に光太郎の名前が聞こえた。

クリシス（光太郎って・・・確か真理奈とまのんのお祖父ちゃんだっけ？）

クリシスは光太郎の名前を聞いて真理奈とまのんを思い出す。

恐らく、光太郎と話していたのは助手だろう。

助手A 『新博士。M H C P ・ X ・ K I K I I を U S B に移動を完了しました。』

光太郎 『分かった。早速始めよう。』

クリシス（M H C P ・ ・ ・ ? K I K I I ・ ・ ・ ? 何のこと？）

クリシスは今の会話の意味が分からなかった。

助手A 『博士！ K I K I I の様子が変わります！』

光太郎 『なに!?!』

助手B 『回収できません!・・・あっ!?』

光太郎 『どうした!?!』

助手B 『K I K I が何かに変わり始めています!』

助手A 『ポン・デュ・ガール上空に時空エネルギーを感知!しかもこの反応、K I K I の信号です!』

クリシスが見た光太郎たちの反応はただ事ではないことを察した。

その後、風景が変わり、目の前にウルトラマンノアがおり、まるでクリシス自身に攻撃しているかのように何かに攻撃をしていた。

そして最後にノアのシャイニング・ノアによって目の前の光景が白く塗りつぶされる。

クリシスはハッと目を思い切り開け、起き上がると、古代都市のような空間にいた。

その後、キョロキョロとあたりを見渡す。

クリシス「夢・・・だったんだ・・・何だったんだろう、今の・・・」

クリシスは先程見た夢の事を気にしながら立ち上がる。

しかしその瞬間、クリシスは急に頭痛を起こす。

クリシス「うっ、うっ・・・また・・・!」

クリシスは頭痛に苦しむ。

その時、クリシスの目の前に空間に捻じれが生じる。

その捻じれから3体の怪獣が現れ、その内1体はゴルザだった。

残る2体は両腕が鎌状の腕になっている赤い怪獣と、頑丈な鎧のような体を持つ怪獣が現れる。

前者の怪獣は超古代竜メルバ。

イースター島の地底から現れた『空を切り裂く怪獣』と呼ばれた古代怪獣である。

ゴルザと共に光のピラミッドに隠されているティガを含む3体の巨人像を破壊し始めるが、破壊を免れたティガによって倒された。

後者の怪獣は超古代怪獣ガルラ。

メトロポリスの地下から現れた古代怪獣である。

ティガの攻撃もGUTSの援護射撃も通用しないほどの防御力を持つ『カウンターアタックアーマー』で守られている。

クリシス「外から物凄い力を感じたけど・・・今はこっちみたいだね・・・？」

クリシスは頭痛薬を飲んだ後、エボルトラスターを引き抜く。

よってクリシスはネクサスに変身する。

ネクサス「ネクサス、あなたは何者なのかは分からないけど、もう少し力を貸してね。」

ネクサスはゴルザとメルバとガルラに身構える。

その頃、ゼロ達はガタノゾーアと対峙している最中、ダイナ、ガイア、コスモス、エックスと、プリキュアオールスターズと合流し、共にガタノゾーアと決着をつけようとする。

エコーとイージスはイビロンとの戦いで力を使い果たした真理奈とまのんを守っている。

イージス「ねえ。勝てると思う?あの化け物に・・・」

真理奈「正直、勝算はないわね・・・」

真理奈はイージスの質問に対し、弱気な発言をする。

まのん「お姉ちゃん・・・」

まのんも真理奈の言葉を聞いた後、ガタノゾーアを見て俯く。

エンエン「弱気になっちゃダメだよ!」

グレル「そうだぞ!プリキュアの皆は勝ち目のない奴が出てきても、最後まで諦めずに立ち上がって来たんだぜ!」

エンエンとグレルは真理奈とまのんとイージスにそう言う。

エコー「それにまのんちゃんがこの子を助けに行った時、救い出せるかどうか分から

ないのに、真理奈ちゃんはまのんちゃんを止めなかった。それは真理奈ちゃんがまのんちゃんならこの子を助け出せるって信じてるからなんだよ。」

エコーは抱えていたカーバンクルを見ながら、真理奈とまのんに言う。

エコー「私もね、まだプリキュアになる前、横浜で怖い戦いに巻き込まれたんだ。その時はプリキュアに関わってたの。」

まのん「！知ってます！横浜に現れた怪物の事ですね？」

まのんはエコーが言っていた怖い戦いとは、横浜に姿を現したフュージョンとの戦いであることを悟った。

エコー「その怪物、フュージョンって言って、その体の一部だった私の友達のうちやんと出会って、横浜の町を消そうとしたフーちゃんを止めたかったけど、その力がなかったの。でも、プリキュアの皆が私を後押ししてくれて、それがきっかけでプリキュアになったんだ。」

真理奈「敵だったフュージョンの一部が友達・・・ね・・・」

真理奈はエコーの話を聞いて、プリキュアが戦った敵の一部がエコーの友達だったなんて信じられない思いが過っていた。

エコー「プリキュアの皆が助けてくれなかったら、私はずっと独りぼっちだったし、フーちゃんとも友達でいられなかったかもしれない。皆には感謝してるの。何度お礼

を言っても足りないくらい。」

エコーは話を続ける。

イーリス「分かる、エコーの気持ち分かるよ。私も真理奈や王女様のおかげで皆と一緒に戦うことができた。」

イーリスはエコーの過去を聞いて、ユグドラシルにいた頃を思い出し、エコーの気持ちを理解した。

真理奈「成程ね、伊達と一緒に戦ってきたわけじゃないわけだ。」

まのん「でも、エコーの言う通りだね。」

真理奈達はガタノゾーアと交戦しているウルトラマンとプリキュア達を見る。

シヨコラ「はあっ!」

シヨコラはクリームエネルギーで板チョコ状の足場を作る。

ブラックとホワイトはその足場で上っていく。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス!」

ブラックとホワイトはプリキュア・マーブル・スクリュー・マックスを放つ。

ブルーム、イーグレット「プリキュア・スパイラル・ハート・スプラッシュ!」

ブルームとイーグレットもプリキュア・スパイラル・ハート・スプラッシュを放つ。

2組の技がガタノゾーアに命中するが、全くと言っていいほどダメージを負っていない

かった。

その後、ピーチ、ハッピー、ハート、ラプリーも続けて技を放つが、効果がなかった。ダイナとガイアの光線や、ギンガとエックスの光線を繰り返すも、全く効かなかった。ガタノゾーアは鉄状の腕の先端から頭上に電流を放ち、増幅し始め、球体状のエネルギー体となる。

そのエネルギー体から四方八方に電流を放つ。

その電流は周囲のウルトラマンとプリキュアに浴びせる。

ゼロ達はガタノゾーアの攻撃によって大ダメージを負う。

初代ウルトラマン「なんて奴だ！」

コスモス「あれだけの攻撃を受けてもビックともしないなんて……！」

初代ウルトラマンとコスモスは今まで攻撃を受けても平気な状態で保っているガタノゾーアを見る。

ガタノゾーアは真理奈達の方に振り向き、口から氷の槍を放つ。

真理奈「なっ!?!」

イー吉斯「イー吉斯・ソードシールド！」

イー吉斯はイー吉斯・ソードシールドで守る。

しかし、ガタノゾーアの攻撃によってイーギスの盾が紙切れのように破られる。

イージス「キヤアアアアアアツ!!!」

イージスはガタノゾーアの攻撃により倒れ、変身が解かれる。ガタノゾーアは再び口から氷の槍を放つ。

その時、ゾフィーとタロウが真理奈達を庇う。

よってガタノゾーアの攻撃はゾフィーとタロウが受けることになった。

フローラ「カナタ!!」

ラブリー「誠司!!」

フローラとラブリーはそんな状況を見て悲鳴を上げる。

ゾフィーとタロウは倒れ、変身が解かれ、カナタと誠司の姿になる。

マヤ「カナタ王子!」

まのん「誠司さん!」

真理奈「落ち着いて!」

真理奈は倒れていたカナタと誠司の状態を確かめるため、二人の背中を確認する。

しかし、目立った外傷はなく、気絶しているだけだと理解した真理奈はまのん達に伝える。

真理奈「大丈夫よ。見た感じ傷はなかったし、気を失ってるだけ。」

エコー「よかった・・・」

まのん達は真理奈からカナタと誠司の容態を聞いてホツとする。

真理奈「・・・とはいえ、全くノーダメージだなんて洒落になんないわね・・・」

真理奈はガタノゾーアの方に振り向いて言う。

ゼロ達はガタノゾーアの触手に対し、切断技で捌いていく。

ゼロ「チイツ！しぶとい奴だぜ！」

ゼロはウルティメイトブレスレットをウルティメイトイージス・ファイナルウルティメイトゼロモードへと変化させる。

ウルトラマン達はゼロのウルティメイトイージスにエネルギーを送り込む。

ゼロ「これでどうだっ！」

ゼロはガタノゾーアにファイナルウルティメイトゼロを放つ。

ガタノゾーアに命中し、高速回転を始める。

しかし、ガタノゾーアはファイナルウルティメイトゼロを受けながらも、平然としていた。

ガタノゾーアは紫色の光線を放ち、ゼロの胸を貫く。

ゼロ「ガアッ!？」

ゼロはガタノゾーアの光線を受け、そのまま海に垂直落下する。

ガタノゾーアに受けたウルティメイトイージスも回転が止まり、光となってゼロの腕

に戻り、ウルティメイトブレスレットに戻る。

セブン「ゼロ!」

ダイナ「なっ!」

コスモス「ゼロ!」

ゼロは海に叩き落される。

ホワイト「シンさん!」

イーグレット「そんな!」

ブロッサム「ああっ!」

ハッピー「シンさん!」

ソード「シン!」

マジカル「うそでしょ!」

ホワイト達はゼロがガタノゾアの攻撃を受け、海に落ちた所を見て悲鳴を上げる。

ゼロはガタノゾアの光線によって胸を貫かれながらも、よろめきながら立ち上がる。

ゼロ「俺は・・・絶対に・・・負け・・・な・・・い・・・」

ゼロはガタノゾアの前に身を構えるが、ゼロの体が石となって動かなくなってしまう。

真理奈「シン兄さん!!」

まのん「シンさん!!」

エコー「そんな!?!」

マヤ「ゼロが・・・!?!」

真理奈達は石像となったゼロの姿に絶句する。

ガタノゾーアは触手で石像となったゼロを突き飛ばす。

よってゼロは海の中に沈んでいく。

ホワイト「あ・・・ああ・・・」

イーグレット「シン・・・さん・・・」

ブロッサム「シンさーーーーん!!!!」

ハッピー「うう・・・」

ソード「いや・・・いやああああああつ!!!!」

マジカル「シン・・・」

ホワイト達はゼロが海に沈んでいった状況を前に絶望する。

ブラック達はそんなホワイト達を心配かける。

その頃、ネクサスはゴルザとメルバとガルラと対峙していた。

ネクサスはシュトロームソードでゴルザとメルバの胴体を切り裂き、最後にガルラの首を目掛けて突き貫き、そのまま横に切り裂く。

よってゴルザとメルバとガルラは青い光の粒となって消えていった。

ネクサス「ふう・・・ようやく一区切りついたね。」

ネクサスはゴルザたちの戦いを終えた後、溜息を吐く。

その時、ネクサスは何かを感じ取った。

ネクサス「ゼロ・・・？ ホワイト達の声が聞こえる・・・何かあったのかな？」

ネクサスはすぐにゼロ達の元へ飛翔する。

残された希望

ルルイエに現れた闇の支配者クトウルフの生まれ変わり、邪神ガタノゾーアを倒すべく、立ち向かったゼロ達。

しかし、ウルトラマンの光線技も、プリキュアの浄化技もガタノゾーアの前では無力だった。

ゼロは仲間のウルトラマン達の力を借りて渾身のファイナルウルティメイトゼロを放つが、効果はなく、逆にガタノゾーアの光線により、ゼロは石像となり、海の底へと沈んでいった。

ネクススはルルイエの中の古代都市でゴルザ、メルバ、ガルラと対峙する。

3体の超古代怪獣を倒した後、すぐにゼロに合流しに向かった。

その頃、太平洋にあるルルイエに向かって飛行する巨大船が飛んでいた。

その巨大船はアートデッセイ号。

ネオフロンティアスペースで機械島やクリオモス島等で活躍をしていたマキシマ・オーバードライブが搭載されている戦闘母艦である。

尚、このプリキュアの世界では、アートデッセイ号は戦闘母艦ではなく、輸送艦であ

り、マキシマ・オーバードライブも搭載されていない。

ハルナ「ヒユウガ隊長、間もなくルルイエに到着します!」

オキ「ルルイエ付近に巨大な怪獣を発見! 今までの怪獣とは比べ物になりません!」

ヒユウガ『リヨウとカリヤとレイは俺と一緒にガッツイーグルで出撃! ハルナは他のパイロットにガッツウイングの出撃を呼び掛ける!』

ヒユウガは通信越しで命令を出す。

リヨウは指令室から離れてヒユウガ達と合流、ハルナは通信機でスーパーGUTSパイロットにガッツウイングの出勤準備を命じる。

オキ「ガタノゾーア、ウルトラマンテイガの光線を受けても倒せなかった邪神。しかもあんなに大きいとウルトラマンが束になっても敵いつこないですよ。」

オキはガタノゾーアを見て弱気になる。

ハルナ「弱音を吐かないで! プリキュアの皆もウルトラマンと一緒に頑張っているのに、そんな情けない言い方しないで頂戴!」

オキ「は、はい!」

ハルナに叱咤されるオキ。

その頃、ゼロがガタノゾーアに敗れ、海の底に沈んだことで、ホワイト、イーグレット、ブロッサム、ハッピー、ソード、マジカルが絶望し、膝を付いたところをブラック達を支える。

その時、ガタノゾーアは広範囲に電流を放ち、周囲にいるウルトラマン達とプリキュア達にダメージを与える。

ウルトラマン達は海に叩き落され、プリキュア達はルルイエの地に叩き落される。

エコー「みんな！」

まのん「大丈夫ですか!？」

エコー達はプリキュア達の元に駆け付ける。

ドリーム「私達は大丈夫だけど、ホワイト達は……」

ドリーム達はホワイト、イーグレット、ブロッサム、ハッピー、ソード、マジカルの方を見る。

ホワイト達の瞳にはハイライトが消え、立ち上がる気配もなかった。

真理奈「ひどく落ち込んでるわね……」

まのん「無理もないよ。ホワイト達、シンさんの事が好きなんだから……」

真理奈とまのんはホワイト達を見て俯く。

真理奈はスパークレンスを取り出すが、そのスパークレンスは石になっており、変身

できない状態になった。

真理奈（ティガになって、セブン達と一緒に戦いに行こうと思ったけど、イビロンを倒した時に力を使い果たしたのか、あの時みたいに石になってる・・・これじゃあ邪神を倒すこともシン兄さんを助けることもできない・・・）

真理奈は石になったスパークレンスを見て、悔しさを覚える。

真理奈はその後にガタノゾーアの方に見上げると、ガタノゾーアの口から氷の槍を放とうとするのを気付く。

真理奈「みんな！」

真理奈はプリキュア達に呼びかける。

プリキュア達は真理奈の声でガタノゾーアの方に振り向き、ガタノゾーアがプリキュア達に攻撃しようとするのを気付く。

ルミナス「いけない！」

ルミナスはハーティエル・ブローチエを身に着けた状態で、ブラック達全員を守るようにバリアで包み込む。

ミント、サンシャイン、ビート、ロゼッタ、ラブリ、プリンセス、スカーレット、フェリーチエもそれぞれのバリアでルミナスをサポートする。

真理奈「みんな、無茶よ！スケールが違いすぎる！」

真理奈はルミナス達の行為をやめさせようとするが、時すでに遅し。ガタノゾーアは口から氷の槍を放つ。

ガタノゾーアの攻撃によってルミナス達のバリアに罅が生じる。

ルミナス「ううっ！」

スカーレット「こ……このままでは……！」

ルミナス達は今の状況に命の危険を感じる。

その時、ガタノゾーアの顔付近にビームが命中する。

ガタノゾーアは平然としながらも、ルミナス達への攻撃を中止した。

ルミナスはガタノゾーアの攻撃が中止したのに違和感を感じ、上空に見上げる。

上空にはガッツイーグルが飛翔していた。

いや、ガッツイーグルだけではない。黄色の戦闘機が4機飛翔していた。

その戦闘機はガッツウイング1号。

ネオフロンティアスペースでウルトラマンティガと共に怪獣達と戦ってきた戦闘機である。

元々は偵察機だったが、ガクマの出現をきっかけに改修し、前線に赴いた。

真理奈「あれは!? GUTSが物資輸送に使われていたガッツウイング！」

ピース「わあ〜！ガッツイーグルもかっこいいけど、ガッツウイングもかっこいい〜」

！」

サニー「そんなこと言うとする場合か！」

サニーはピースの言葉にツッコミを入れる。

真理奈「でも、確か3年前のフランスの爆発事件がきっかけで使われてないはずだ
ど・・・」

真理奈はガッツウイングを見て疑問を思う。

その時、背後からいきなり風が吹き荒れてくる。

プリキュア達は後ろに振り向くと、アートデッセイ号が降りてきた。

ホワイト達の方はブラック達が庇っている。

真理奈「アートデッセイ号!？」

ピース「かあくっこいっく！」

サニー「もうええっちゅーねん！」

マーチ「こんな時に何言ってるの・・・」

サニーとマーチはピースの言葉にツッコむ。

メロディ「あれも使われてない奴なの？」

真理奈「ええ、ガッツウイングと同じ理由でね。でも、なんでここに？」

真理奈はガッツウイングに続いてアートデッセイ号の登場に疑問を浮かべる。

そのアートデッセイ号にゲートが開き、そこからダニエルとキャサリンが出てきた。真理奈「ダニエル！キャス！」

キャス「真理奈、みんなも無事みたいね。」

真理奈「ええ。ただ、一部のプリキュアが精神的にマズい状況だけど・・・」

真理奈は後ろに振り向き、今も落ち込んでいるホワイト達の方を見る。

その後、真理奈はダニエルとキャサリンにこれまでの状況を一通り説明する。

ダニエル「では、ウルトラマンゼロは石像となつて海底に？」

真理奈「ええ。とにかく彼女達を休ませてあげて。」

ダニエル「わかった。」

真理奈達はプリキュア達をアートデッセイ号に乗せた。

ちなみにプリキュアの妖精達も真理奈がダニエルとキャサリンに説明している間に

アートデッセイ号に乗り込んでいた。

ガッツイーグルとガッツウイングはガタノゾアの攻撃を躲しながら、ウルトラマン達を援護するように射撃する。

ダイナ「スーパージョウのガッツイーグルにガッツウイングか。懐かしいな。リョウ達を思い出さず。」

コスモス「タイガもその防衛チームにいたんだね。タイガは今どうしてるのかな？」

ダイナ「今頃元気でやってるんじゃないかねえか？タイガとリヨウ、皆の所に帰る為にも、こんなところで終わるわけにはいかねえ！行くぜ、コスモス！」

コスモス「うん！」

ダイナはガッツイーグルとガッツウイングを見てネオフロンティアスペースにいたスーパーGUTSメンバーを思い出し、コスモスもその一員だったタイガを思い出す。

2人は彼らの事を思い浮かべながら、ガタノゾーアとの戦闘に飛び込む。

一方、石像となって海底に沈められたゼロは意識を朦朧としながらも目を開ける。

その時、目の前では万華鏡のような空間となっており、自身の姿もゼロではなく、シンの姿となっている。

それだけではなく、今シンはクリスタルの中にいることに気付く。

シン「くっ・・・何だ、ここは・・・」

シンは動こうとするが、身動き取れなかった。

シン「確か俺はあのデカブツにブチ抜かれて・・・くっそ・・・要するにあいつにやられたってことかよ・・・！」

シンはガタノゾーアに倒されたことを思い出し、懸命にクリスタルの中から脱出しよ

うとするが、同じことだった。

それだけでなく、ウルティメイトブレスレットも石となっており、ゼロに変身できない状態になっていた。

？「フツフハハハハハハッ！」

シンはどこからか、不気味な笑い声を聞く。

周囲を見渡すと、万華鏡の一部の中に見覚えのある者を見つける。

その者はウルトラマンベリアルだった。

シン「ベリアル！」

ベリアル「久しぶりだなあ？ゼロ。」

シンはベリアルを見て怒りの形相へと変わる。

ベリアル「ウルトラ兄弟と若造共の力を借りておきながら情けねえ奴だぜ。」

シン「うるせえ！」

シンはベリアルに言われてカツとなる。

ベリアル「やる気ならかかってこい。けどまあ、今のお前じゃ戦うことも出来ねえな。」

シン「チイツ！」

ベリアル「負け犬は負け犬らしくそうやって苦しめ！お前の仲間が逝っちまったあの

時みてえに這い蹲ってな！あばよ、ゼロ。フツハツハツハツハツハツ！」

ベリアルはシンにそう言って、笑いながら鏡の中から消えていった。

シン「クツソオ・・・！」

シンはベリアルに言われて、クリスタルに殴りつけた後、悔しがる。

ちょうどその頃、アートデッセイ号内部で誠司とカナタとプリキユア達を休ませた真理奈は操縦室に移り、ダニエル達とゼロ救出作戦を話し合っていた。

真理奈「マジでどうする？ゼロは海底にいるし、見つけても石像になってるし、せめてウルトラマンの生体構造が分かればね・・・」

真理奈はゼロをどうやって復活させるか、悩んでいた。

ダニエル「その事だが、君が前にスパークレンスとそれに纏っていた石を見せた後、プロノン・カラモスの化学班がその石を解析してみたんだが、あの石は強力な光エネルギーが隠されていた。そのデータがこの中に入っている。」

ダニエルはUSBを出し、端末に差し込み、データを見せる。

真理奈はそのデータを見ると、ウルトラマンの光エネルギーとプロノン・カラモスが解析したというスパークレンスが纏っていた石に隠されてある光エネルギーの波形

が一致していることに気付く。

真理奈「エネルギー波が全く同じだわ。」

ダニエル「ああ。全く同じなんだ。」

キャサリン「そこでプロノーン・カラモスの化学班が開発した光遺伝子コンバーターというマシンで石像になったゼロを蘇らせようと考えているの。今、クマノ隊員がそのマシンをドルファアー202に搭載作業を行なっているわ。」

真理奈「準備、早いわね・・・」

真理奈はキャサリンの説明に苦笑いする。

真理奈「まあ、とにかくその光遺伝子コンバーターを使えばゼロが復活できるのは間違いないのよね。」

ダニエル「理論上ではね。あとはあの怪獣を引き付けておけば、もしかしたら・・・」
真理奈「それしか方法はないんでしょう。現にウルトラマン達があいつとやり合っているしね。で、そのドルファアーの乗組員は？」

キャサリン「ハルナ隊員の決定だけど、クマノ隊員とオキ隊員がドルファアーに乗るみたいよ。」

ダニエルとキャサリンは真理奈に作戦内容を伝えた。

真理奈「ホント、流石だわ。とにかくこの話を皆に伝えとく。少しは安心できるだろ

うからね。」

真理奈は操縦室を後にする。

ダニエル（上手くいけばいいんだが・・・）

ダニエルはモニターに映っているガタノゾーアとウルトラマン達を見て、不安を感じる。

ゼロ救出作戦

ガタノゾーアとの戦いで力尽き、石像となって海底に沈められたゼロ。

そのゼロを蘇らせるべく、ルルイエまで出動してきたスーパーGUTSの母艦・アトデッセイ号の中でゼロ救出作戦を企てる。

その内容はドルファア202に搭載されるプロノン・カラモスの化学班が開発した光遺伝子コンバーターでゼロに光エネルギーを送り込んで蘇らせることだった。

ガタノゾーアはゼロ、ティガ、ネクサス、ゾフィー、タロウを除くウルトラマン達が相手をしている。

そのウルトラマンはスーパーGUTS隊員が操縦するガッツイーグルとガッツウイングの援護でガタノゾーアと善戦している。

真理奈はプリキュア達にゼロ救出作戦について話した。

しかし、ブラック達は少し安心したかのように笑みを浮かべる者もいるが、ホワイト、イーグレット、ブロッサム、ハッピー、ソード、マジカルは素直に喜ばず、落ち込んでいたままだった。

真理奈「こんなグッドニュースを聞いたって、まだ落ち込むの？」

真理奈はそんなホワイト達を見て落胆としていた。

真理奈「まあ、仕方ないか。シン兄さんの最強の技を使ってもくたばれなかったし……」

真理奈は頭を掻きながら溜息を吐く。

真理奈（あく……マジ、どうしよう？かける言葉が見つからないわ……）

真理奈はホワイト達にどう慰めるか困っていた。

エース「皆さん、歯を食いしばりなさい！」

エースはホワイト、イーグレット、ブロッサム、ハッピー、ソード、マジカルにビントする。

真理奈「ちよっ!?ええっ!?何で引っ叩く……」

ムーンライト「黙って聞いてなさい。」

真理奈「グウ……（前にもこんなことがあったような……）」

真理奈はムーンライトに言われて口籠る。

エース「いい加減にしなさい!あなた方はそれでも伝説の戦士プリキュアなのですか!?今までどんな窮地に立っても立ち向かってきた姿はどこに行つたのですか!?確かにゼロが敗れた時は私達もショックを受けましたわ!それはダンおじ様達も同じですわ!でも、おじ様達はその気持ちを抑えて世界を守るために必死に戦ってくれたのです」

よ！この世界を守る使命を持ったあなた達が諦めて何もしないでどうするのですか!?!」
エースはホワイト達に叱咤する。

エース「真理奈がアンジュ王女を蘇らせる事を聞いて、正直信じられない事だと思いましたが。しかし、真理奈はアンジュ王女を蘇らせるため、マヤに説得して蘇らせることができましたのです。そうさせたのは真理奈のおかげでした。逆に言えば、今でもウルトラマンに頼ってばかりでした。それを考えるとそんな私達の不甲斐無さにとっても情けなく思います。そんなことでは自分達の手で守り抜いてきた大切な者達に顔向けできませんわ!」

エースはそのまま話を続ける。

エース「真理奈のお友達はゼロを蘇らせようと頑張つて来たのに、あなた方はこのままでよろしいのですか!?! 私達はすべきことがあつたはずですわ! 今のあなた方の姿じゃ、仮にゼロが戻つたら、愛想を尽き、二度と私達の前に姿を現すことがなくなるかもしれませんのよ!?! それでもよろしいのですか!?! 立ちなさい! 立つて自分のやるべきことをやりなさい!」

エースはホワイト達に説得し終える。

ホワイト「・・・ブラック。」

ブラック「ホワイト!」

イーグレット「・・・ブルーム。」

ブルーム「いつでもオツケーナリ！」

ホワイト達は涙を拭って立ち上がった。

ブラック達はその姿を見て喜びの表情を浮かべる。

ブロッサム「私達はまだシンさんの恩返しができていません！」

ハッピー「このままバッドエンドなんて嫌だよ！皆で生きて帰って、ウルトラハッ

ピーにしたいもん！」

ソード「私達だっていつまでもウルトラマンに頼ってばかりじゃない。シンにそれを伝えないと！」

マジカル「ありがとう、エース。おかげで目が覚めたわ。」

マリンたちはブロッサム達が立ち上がる姿を見て喜びの表情を浮かべる。

マヤ「でも、シンを蘇らせるって本当にできるの？あの邪神に邪魔をするようなことをしたら・・・」

真理奈「それは無理ね。太平洋に沈んでいるゼロの石像は水深1万メートル以上。太陽光すら届かない深さよ。あのデカブツにとっては盲点。ドルフアーで光遺伝子コンバーターの光をゼロに照射するには物凄く近くに行かないといけない。それを考えると妨害することは不可能に近いわ。YouTubeで深海生物の動画を見た時、静かす

ぎるほど海流が激しくなかったし、光が届かない水中だけあって灯りも乏しいしね。」

真理奈は石化したゼロの場所と作戦のメリットについて説明する。

真理奈「それ以前に、今のあのデカブツはおじさん達が相手をしているわけだし、更にプリキュア達が加勢したら、何の問題もなくゼロを復活できるわ。」

真理奈は付け加えて断言する。

マヤ「た、確かに・・・」

プリンセス「そう考えると不可能じゃないかも・・・」

ドリーム「流石は科学者の娘・・・」

マヤとプリンセスとドリームは真理奈の説明に度肝を抜く。

真理奈「とりあえず、急がないとね。おじさん達も限界迎えてるし。」

ハート「よし！それならすぐに行かないとだね！」

ラブリー「うん！真理奈が言ってた作戦をかけてみよう！」

フローラ「マヤさんとまのんちゃんの変身できそう？」

マヤ「ええ！十分よ！」

まのん「大丈夫です！くるるも全回復しました！」

くるる「キュウ！」

ブラック「よし！そうと決まれば行こう！」

ホワイト達はブラックの言う通りにウルトラマン達と合流しに行こうとする。

？「待ってくれ！」

その時、別のゲートから2人の男が入ってきた。

カナタと誠司である。

フローラ「カナタ！」

ラブリー「誠司！」

フローラとラブリーはカナタと誠司が来たことに驚く。

真理奈「カナタ兄さん、誠司。体は大丈夫なの？」

誠司「カイトさんとミライさんがこの世界を守るために戦ってるのに自分だけ寝てられねえよ。」

真理奈は誠司とカナタを心配するが、二人は問題ないと答える。

カナタ「それに前に誓ったんだ。はるかが笑顔でいられるように、はるかの夢を守りたい。はるかの夢をあゝの邪神に奪わせるわけにはいかない。」

フローラ「カナタ……」

真理奈（こんな状況でストロベリートークかよ……）

フローラはカナタの決意に嬉しがる一方、真理奈はその2人の様子を見て呆れる。

ラブリー「私も誠司がピンチになったら助けるって決めてたからね！」

誠司「ああ！俺もタロウと一緒に戦った時、大切な人を守るって決めたんだ！」

真理奈（なんか含みのある言い方ね・・・）

真理奈はラブリートと誠司をジト目で見る。

その時、ゲートからダニエルが入ってきた。

ダニエル「真理奈、光遺伝子コンバーターの搭載作業が完了した。ドルフアーも出撃準備に入っている。」

真理奈「OK。私もモニターで邪神との戦いを見届けるわ。」

ダニエルは真理奈の言葉に疑問を浮かべる。

ダニエル「？プリキュアと一緒に戦わないのか？」

真理奈「いや、だから・・・私はウルトラマンじゃないって・・・それに今のティガは戦えないし。とにかく一足先に操縦室に行くよ。」

真理奈はダニエルにそう言った後、操縦室に向かう。

ルージユ「その言い方、『はい、そうです。』って言うようなもんじゃないの・・・カスタード「ダニエルさんは真理奈さんがティガだった事を知ってるんですか？」カスタードはダニエルに質問する。

ダニエル「ああ。だが、この事は僕とキャス以外は誰も知らない。ミス真琴のライブが終わって3日後、スパークレンスやティガの事を真理奈から聞いた。その時に真理奈

はテイガになったのは偶然だと、自分はウルトラマンではなく人間だと強調していた。「フオーチユン」つまり、自分がウルトラマンだと自覚する気はなかったのね。」

ダニエル「それよりも急いでくれ。ウルトラマン達も長くは戦えない。」

ブラック達「オツケー！」

ブラック達はダニエルの言う通りにガタノゾーアの元へ急ぐ。

しかし、ムーンライトはブラック達が出ていった後、ダニエルに質問する。

ムーンライト「ダニエル。真理奈から聞いた作戦なんだけど、成功する保証はないのね？」

ダニエル「・・・」

ダニエルはムーンライトの質問に俯きながら答える。

ダニエル「・・・ああ。奴は闇の支配者だ。すぐに気づくかもしれない。だが、僕達は僕達なりにゼロを救い出す方法を模索している。他にない可能性をかけているんだ。」

ムーンライト「大丈夫よ。ゼロは必ず私達の前に復活する。皆、そう信じてるから。ムーンライトはダニエルの返答を聞いた後、部屋から出る。

ダニエルも今いる部屋を後にし、操縦室へと向かう。

その頃、初代ウルトラマン達はスーパーGUTSによる援護をされながらガタノゾーアと交戦しているが、すでにカラータイマーの点滅が始まっていた。

初代ウルトラマン達はガタノゾーアとの戦いでダメージや疲労が蓄積していたが、一方のガタノゾーアは全くのノーダメージだった。

ガイア「なんてタフな奴なんだ！」

ダイナ「知ってはいたが、しつげえ野郎だぜ！」

ガタノゾーアはダイナとガイアに缺状の腕で攻撃する。

その時、2つの光線がガタノゾーアの腕に命中する。

よってガタノゾーアの攻撃は不発になる。

ダイナとガイアは振り向くと、ゾフィーとタロウが駆けつけてきた。

初代ウルトラマン「ゾフィー！タロウ！」

ゾフィー「すまない、心配かけた。」

タロウ「スーパーGUTSの隊員はゼロを蘇らせるために作戦を実行しました。プリキュア達も前線に復帰します。」

セブン「ゼロを……！分かった。彼らの可能性を信じよう。我々は……」

ゾフィー達はガタノゾーアの方に振り向く。

初代ウルトラマン「ゼロが来るまで持ちこたえる！」

初代ウルトラマン達は再びガタノゾーアとの交戦を再開する。

それと同時にガタノゾーアの周囲に板チョコ状の足場が現れる。

ルミナス「エレメント、クルルの方は大丈夫なの？」

エレメント「ウイ！クルルはもう元氣すぎるくらい良くなったよ！」

ルミナスはエレメントとクルルを心配するが、エレメントはクルルの事も、自分の事も問題ないと告げる。

イージス「ソード、やっぱり不安なの？」

ソード「ええ……でも、シンがまた立ち上がってくれることを信じてるから……大丈夫よ。」

イージスはソードを心配するが、ソードの返答を聞いて、少し安心する。

ムーンライト「遅くなったわ。」

マリ「いやいや、お構いなく♪」

サンシャイン「ちょうど始めようと思っていた所です。」

ブロッサム「絶対勝ちましょう。この世界を守るために！」

ブロッサム「この言葉に頷くムーンライト達。」

メロディ「この感じ、ブラックホールを思い出すね……」

リズム「うん。でも、今度はみんな一緒よ。」

メロディとリズムはガタノゾーアの前に心を強く持つ。

ブラック「みんな、行くよ！」

ブラックの掛け声で一斉にガタノゾーアに攻撃を開始する。

その頃、真理奈達はアートデッセイ号の操縦室のモニターでウルトラマン達とプリキュア達の戦いを見届ける。

真理奈「始まったわね。」

キヤス「ええ。このまま引き付けてる間、ドルファアー202がゼロの石像の元に着けばいいけど・・・」

ダニエル「ハルナ隊員。クマノ隊員とオキ隊員は既に出動されましたか？」

ダニエルはハルナにドルファアー202の状況を聞く。

ハルナ「ええ。あと少しで目的地に着くわ。」

ハルナはダニエルにそう答える。

真理奈（それにしても、クリシス姉さんはまだ来ないの・・・）

真理奈は未だネクサスが姿を現さない事に気に掛ける。

しかし、今はそれを気にしてゐる暇はなく、ウルトラマン達とプリキュア達の戦いをモニター越しで見届ける。

蘇えるゼロ

ガタノゾーアとの戦いで石像になったゼロが海底に沈められる。

そのショックで立ち直れなくなったホワイトとイーグレットとプロツサムとハッピーとソードとマジカルにエースが叱咤し、再び立ち上がる。

ゼロ救出作戦に成功を祈りつつ、プリキュア達はゾフィーとタロウと共にガタノゾーアと戦うためにウルトラマン達と合流する。

真理奈達はウルトラマン達とプリキュア達をモニター越しで見届ける。

その一方、ウルトラマン達とプリキュア達はスーパーGUTSのガッツイーグルとガッツウイング4機の援護を受けながら、ガタノゾーアと対峙する。

ラブリー「いくよ、フローラ！」

フローラ「うん！」

ラブリーはラブプリブレスを、フローラはクリスタルプリンセスロッドを構える。

ラブリー「ラブリーパンチングパンチ！」

フローラ「プリキュア・フローラル・トルビヨン！」

ラブリーとフローラはそれぞれの技でガタノゾーアを命中する。

しかし、ガタノゾーアは2人の技が通用しない。

ゾフィーはM87光線を、タロウはストリウム光線を放つが、ガタノゾーアの鍔状の腕によって弾かれる。

ブラック、ホワイト「プリキュア・マーブル・スクリュー・マックス！」

ブルーム、イーグレット「プリキュア・スパイラル・ハート・スプラッシュ！」

ミラクル、マジカル「プリキュア・ダイヤモンド・エターナル！」

ブラック達とブルーム達とミラクル達はそれぞれの合体技をガタノゾーアに放つが、ダメージはなかった。

ガタノゾーアはブラック達を触手で捕らえようとしたが、Aのウルトラギロチンによってバラバラにされる。

ダイナはストロングタイプに、ガイアはスプリームヴァージョンにタイプチェンジする。

ダイナ「ガルネイトボンバー！」

ガイア「フォトンストリーム！」

ダイナはガルネイトボンバーを、ガイアはフォトンストリームを放つ。

しかし、それでもガタノゾーアは倒れない。

ガタノゾーアは触手を伸ばし、ダイナとガイアを捕らえようとする。

初代ウルトラマン「セブン！」

セブン「ああ！」

初代ウルトラマンはスペシウム光線を、セブンはワイドショットを放つ。

よってガタノゾーアの触手は初代ウルトラマンとセブンの光線によって焼き切られる。

初代ウルトラマン「みんな！諦めるな！」

セブン「ゼロが戻ってくるまで持ち堪えるぞ！」

初代ウルトラマンとセブンはウルトラマン達とプリキュア達に激励する。

その様子をアードテツセイ号のモニターで見ていた真理奈達。

真理奈（なんて巨人達だ・・・自分のエネルギーが尽きそうになっても最後まで戦い続けている・・・眩しい上に羨ましい限りだわ・・・ダイゴ兄さんやユウトもこんな逆境の中で頑張ってきたの？）

真理奈はウルトラマン達の戦いを見て呆気をとられる。

キャサリン「プリキュアもウルトラマンも、あの怪物と善戦している。」

ダニエル「十分奴を気を引き付けているわけだが・・・ハルナ隊員、ドルフアーはもう目的地に着きましたか？」

ハルナ「ちよつと待つてて。クマさん、ウルトラマンゼロの石像は発見したの？」

ハルナは通信機でドルフアー202に搭乗しているクマノに連絡を入れる。

クマノ『はい。リーダーに反応がありました。あと2kmでゼロの石像と遭遇します。』

ハルナ「発見次第、作戦を遂行して。」

クマノ『ラジャー！』

ハルナはクマノとの連絡を切る。

一方、ハルナの命令により、ゼロの石像をドルフアー202で探索していたクマノとオキは、ようやくゼロの石像を発見した。

クマノ「ゼロの石像が見えたぜ！」

オキ「DVDで見たけど、ガタノゾーアは紫の光線でティガを石像にして海底に沈ませたけど、今回はゼロがやられるなんて・・・」

クマノ「特撮DVDを思い出してる場合か？始めるぞ。」

オキ「はい。エネルギーユニット展開。」

オキはクマノにそう言われ、早速作業を始める。

ドルフアー202の頭部から懐中電灯のような装置が出てきた。

オキ「クマさん、もうちよつと右です。」

クマノはオキの言う通りにし、角度を直す。

クマノとオキはモニターでゼロの石像のカラータイマーを照準に合わせる。

オキ「クマさん、オツケーです。」

クマノ「よし。頼んだぞ、オキ。」

オキ「はい。光遺伝子コンバーター……起動！」

オキはレバーのスイッチを押す。

すると、エネルギーユニットから強力な光が発し、ゼロの石像のカラータイマーに照射する。

シンもクリスタルの中でその光の力に気付いた。

シン（この光……ティガの……？）

シンはクリスタルの中でドルフアー202が光遺伝子コンバーターの光でゼロの石像のカラータイマーを照射した事を知る。

その頃、アートデッセイ号では作戦開始の報告を受け、ゼロの復活の成功を祈る。

真理奈「あとはゼロが復活するのを待ただけね。思った通り、海上では光遺伝子コンバーターの光が浮かび上がらなかったみたいだし、形勢逆転になるのも時間の問題だわ。」

真理奈はまるで勝ち誇ったように言う。

ダニエルはガタノゾーアが映っているモニターの方に振り向く。

しかし、ダニエルはガタノゾーアの動きが止まったことに気付いた。

その時、ガタノゾーアは突然、鋏状の腕で海を叩き付け始めた。

キヤサリン「!?」

真理奈「あいつ、なにやってんの?」

ダニエル「海を叩き付けてる・・・まさか!?クマノ隊員!オキ隊員!」

ダニエルはハルナに代わってクマノとオキに交信する。

オキ『ドルフアーが突然揺れ始めました!』

クマノ『照準が思うように定まれません!』

真理奈達はドルフアー202からの報告に驚く。

ハルナ「頑張つて！なんとか耐えなさい！」

真理奈「なんで!?!あいつには見えないはずなのに!?!」

ダニエル「やはり……!」

真理奈はクマノとオキからの報告を聞いて、信じられないと言いたげな表情を浮かべる。

ハルナ「隊長！奴の暴走を止めてください！奴の暴走でドルフアーによる作戦が妨害されています！」

ヒュウガ『分かった!』

ヒュウガは通信でハルナの指示に従い、ガッツイーグルとガッツウイングでガタノゾーアに攻撃する。

勿論、ウルトラマンとプリキュアも攻撃するが、ガタノゾーアはお構いなしに海を叩き付け続ける。

その一方、シンはドルフアー202から照射されている光を受け取ろうと、必死に手を伸ばす。

クマノとオキも必死にゼロの石像のカラータイマーに光を照射する。

しかし、その踏ん張りも空しく、光遺伝子コンバーターのエネルギーユニットに内部破壊が生じ始める。

よってシンが伸ばした手の先の光が消えてしまう。

シン「!?どうしたんだ!？」

シンは目の前の光が消えたことに困惑する。

オキ「エネルギーユニットが破壊！光遺伝子コンバーターのエネルギーが完全に消費しました！」

クマノ「くっそおっ！」

ドルファアー202がガタノゾーアの暴走でゼロの石像から離れてしまい、損傷はないものの、海底に激突してしまう。

一方、アートデッセイ号ではドルファアー202からゼロ救出作戦が失敗した報告を聞いて、驚きを隠せなかった。

ハルナ「そんな!？」

真理奈「ありえない！水深1万メートルもあるのよ!？」

ダニエル「奴は闇の支配者だ。いくら深海でもドルファアーの位置は丸分かりだろう。」

しかも奴のあの大ききで暴れ出したら、その衝撃波で深海に影響を及ぼすぞ。」

真理奈「そんなのアリかよ!？」

真理奈は悔しさのあまり、デスクに叩きつける。

キャサリン「ダニエル、真理奈。上空に別のウルトラマンが飛翔しているわ。」

ダニエル「別のウルトラマン?」

キャサリン「今、映像を出す。」

キャサリンはデスクのモニターの映像を出す。

モニターから映し出したのはネクサスの姿である。

真理奈「ネクサス・・・クリシス姉さんの?!」

真理奈はモニター越しで、ネクサスがガタノゾーアの所ではなく、ゼロの石像が沈んだ海の中に潜りこむ。

真理奈「キャス、ドルフアーからの映像を出せる?」

キャス「ええ。」

キャスはアートデッセイ号からの映像からドルフアー202からの映像に切り替える。

その映像でネクサスがゼロの石像の近くに降り立っている所を見る。

そして、ネクサスはアームドネクサスからフェーズシフトウェーブを放ち、ゼロの石

像と共にメタフィールドに転移される。

ダニエル「消えた?!」

真理奈（メタフィールドに移ったの？さっきのようなことがないように・・・でも、それでもなんでそんな意味のない事を・・・）

真理奈はネクサスがゼロの石像と共にメタフィールドに転移したことを疑問を持った。

確かにメタフィールドならばガタノゾアによる妨害は受けませんが、ゼロが復活できなければ意味はない。

真理奈はネクサスの狙いは分からなかった。

場所が変わり、メタフィールドの内部でネクサスはゼロの石像に語り掛ける。

ネクサス「シン、聞こえる？」

シンはクリスタルの中でネクサスの声を聞く。

シン「この声・・・クリシスか!？」

シンはクリシスの声を聞き、目の前の万華鏡に振り向くと、そこにはクリシスの姿が映っていた。

クリシス「うん。ちゃんと声が聞こえてたみたいだね。」

シン「なかなか来ないと思っただが、どうしたんだ？」

クリシス「うん、さつき空間の歪みから怪獣が出てきたから遅くなっちゃった。」

シン「そうか・・・」

シンはクリシスから状況を聞いた。

クリシス「シン、時間がないから単刀直入に言うよ。私の力を君に分けてあげる。」

シン「！お前の？」

クリシス「うん。海の上で戦ってるウルトラマンの皆は残された力はもう僅かだし、プリキュアの皆も長くはもたない。だから、私の力を使つて。」

クリシスはシンに自身の力をあげると言い出す。

シン「だが、それじゃあお前はウルトラマンになれなくなるぞ。」

クリシス「気にしない、気にしない。ウルトラマンになれなくても、皆を助けるよ。そうじゃなくても私が振るっている光は誰かに受け継がれる・・・そんな気がしてたんだ。それって多分・・・私の代りにウルトラマンになる人が戦ってくれるってことなんだと思う。」

シン「お前の代りに・・・」

クリシス「うん。それに、君の全力全開はこの程度じゃないって分かっているもん。今

がその時じゃない？」

クリシスは笑顔でシンにそう言う。

シン「・・・ああ。俺は守りたいものがある！その為に戦う！それがウルトラマンだ！」

クリシスはシンの心掛けを聞いて頷く。

ネクサスはエナジーコアからゼロの石像のカラータイマーにエネルギーを送る。

よってネクサスは姿が消え、ゼロの石像が光り出すと同時に罅が入り、そして、砕けたと思ったら、金と銀の体をしたゼロが現れた。

このゼロの姿はシャイニングウルトラマンゼロ。

ベリアルに肉体を支配された時、ウルティメイトフォースゼロの呼びかけで復活したゼロの新しい姿である。

シャイニングスタードライブで周囲の時間を巻き戻すことができる。

ゼロはネクサスが消えたことでメタフィールドが消えていくのを確認した後、ドルファー202を回収し、海から脱出する。

その頃、初代ウルトラマン達はガタノゾーアとの戦いですでに力を使い果たした。ルルイエの地で跪いている。

それはプリキュア達も同じだった。

ハッピー「私達の技が・・・全然通じない・・・」

エレメント「それに、くるるから聞いたけど、ゼロの救出作戦が失敗したって・・・」

ジェラート「クツソオ・・・もうダメなのかよ・・・」

プリキュア達はガタノゾーアの前で絶望しかける。

セブン「いや、ゼロが戻ってきた・・・」

初代ウルトラマン「ああ。クリシスが蘇らせてくれた・・・」

プリキュア達はセブン達の言葉に驚く。

その時、海から金色の光が揺らめき、そこからドルフアー202を抱えていたゼロが飛び上がる。

そして、ゼロはルルイエに降り立ち、ドルフアー202を降ろし、シャイニングエナジーコアから光の粒子を放つと、クリシスが現れる。

クリシス「ワオ！綺麗でかつこいいね！」

クリシスはゼロを見て感想を述べる。

ホワイト「ゼロ！シンさんなの!？」

ゼロ「へへっ！心配かけたな！」

イーグレット「シンさん！」

ブロッサム「フェエ〜．．．よかったです〜．．．」

ハッピー「シンさん！よかったよ〜！」

ソード「シンのバカ〜．．．」

マジカル「シン〜．．．」

ホワイト達はゼロが蘇ったことを知り、涙する。

その光景はアートデッセイ号の方からも見ていた。

ハルナ「ゼロが蘇った！」

真理奈「でも、どうやって復活したの!?それにその姿は!？」

真理奈はゼロが復活した事と、ゼロの姿を見て驚きを隠せなかった。

だが、そんな場合ではなかった。

ガタノゾーアの触手がゼロを襲い掛かる。

ゼロは振り向け様に拳は横に振るう。

よってガタノゾーアの触手が弾かれる。

パルフェ「拳を振るっただけで弾かれた!？」

プリンセス「すごごごーい！このゼロ、強いよ！」

ピース「かつこいいく！もういつ死んでもいい！」

サニー「いや、死んだらアカンやろ！」

サニーはピースの言葉にツツコミを入れる。

ゼロ「親父、後は俺に任せてくれ！」

セブン「ああ。」

セブン達はガタノゾーアの事をゼロに任せ、人間の姿に変わる。

レイ「ゼロの新しい姿・・・」

ヒュウガ「ここは彼に任せよう！全員アートデッセイ号に帰艦！ドルフアーもすぐに回収だ！」

レイ達はヒュウガの命令でガッツイーグルとガッツウイングをアートデッセイ号に帰投し、ドルフアー202の回収作業を始める。

ゼロ「さてと、闇の支配者らしく、ブラックホールまでぶっ飛ばしてやるぜ！」

ゼロはガタノゾーアに立ち向かうべく、ルルイエの地から飛び上がる。

VSガタノゾーア

ゼロを復活するために立ち上がるプリキュア達。

そのプリキュア達はウルトラマン達と共にガタノゾーアに立ち向かう。

その間、スーパーGUTSはゼロを蘇らせるため、ドルフアー202に搭載された光遺伝子コンバーターのエネルギーでゼロの石像に照射する。

しかし、ガタノゾーアの暴走による妨害でゼロ救出作戦が失敗する。

その時、ネクサスがゼロの石像の前に現れ、メタフィールドを展開し、自身のエネルギーでゼロを蘇らせる。

よってゼロはシャイニングウルトラマンゼロへとタイプチェンジし、ガタノゾーアの前に立ちはだかる。

ゼロはガタノゾーアの触手を薙ぎ払い、本体に蹴りを入れる。

ガタノゾーアはゼロの攻撃に怯むが、ゼロに氷の槍を放つ。

ゼロはガタノゾーアの攻撃を次々と躲す。

ゼロはガタノゾーアとの距離を取って、シャイニングエメリウムスラッシュを放つ。

ガタノゾーアはゼロの光線を受け、吹き飛ばされる。

ガタノゾーアはすぐに起き上がり、電気エネルギーの塊を作り、四方八方に解き放つ。ゼロは次々と避け続ける。

ゼロ「シャイニングガルネイトバスター！」

ゼロは左拳から黄金の炎の光線を放つ。

その光線はガタノゾーアの左の鋏状の腕に命中する。

よってその腕の先が失ってしまふ。

プリンセス「すごごごーい！あのでかいのを追い詰めてる！」

ドリーム「これならイケるよ！」

ドリーム達はゼロがガタノゾーアを追い詰めているのを見て喜んでいる。

しかし、それも束の間だった。

ゼロの攻撃で失われていたはずの鋏状の腕が再生したのだ。

ホイップ「なんですとー!?!」

フローラ「再生した!?!」

マリン「そんなのあり!?!」

アクア「これじゃあ、キリがないわ！」

ガタノゾーアはゼロに触手を繰り出す。

ゼロ「シャイニングゼロスラッガー！」

ゼロはゼロスラッガーを放つと、ゼロと同じ大きさに巨大化していき、更に分裂する。そして、そのままガタノゾーアの触手を切り裂く。

ゼロはガタノゾーアの甲羅の部分に接近する。

ゼロ「シャイニングレボリウムスマッシュ！」

ゼロはガタノゾーアの甲羅の部分に右掌を添えると、黄金の光が放つとともに衝撃波を放つ。

よつてガタノゾーアは吹き飛ばされる。

しかし、ガタノゾーアはすぐに起き上がり、切り裂かれた触手も再生した。

アロマ「ただでさえプリキュアの技も効かなかったのに、すぐに再生するなんて滅茶

苦茶にも程があるロマ！」

タルト「今のゼロはんやったら、あのバケモンを倒せる思たんやけど・・・」

タルトはどこからかミラクルライトを出す。

タルト「こいつの出番が来たみたいやな。」

タルトはミラクルライトを出したまま、ゼロとガタノゾーアの戦いを見る。

ゼロ「シャイニングワイドゼロショット！」

ゼロはシャイニングワイドゼロショットを放つ。

ガタノゾーアも氷の槍を凝縮してジャブラッシュを放つ。

ゼロの光線とガタノゾーアの攻撃がぶつかり合う。

しかし、ゼロの光線がガタノゾーアの攻撃に競り負け、ゼロはガタノゾーアの攻撃に吹き飛ばされる。

ゼロ「グアアッ!!」

ゼロはそのまま海に落ちてしまう。

シプレ、コフレ「ゼロがやられたですう（っ）！」

タルト「このままやったら二の舞や！早くプリキュアの皆に力を与えんと！」

ハミイ「みんな、お願いニヤ！ミラクルライトを振って、ゼロとプリキュアに力を送るニヤ！いっくニヤ〜！」

妖精達「ゼロとプリキュアに！力を！」

妖精達はミラクルライトを振ってゼロとプリキュアを応援する。

ガタノゾーアは触手を使ってゼロの胴体を巻き付く。

ゼロ「グアッ！ク、クソッ！」

ゼロは抵抗するが、ガタノゾーアの触手が胴体だけでなく、両手首、両足、首にも巻き付く。

ガタノゾーアは更に鉋状の腕で電流を放ち、プリキュアにダメージを与える。

プリキュア達「キヤアアアアアアッ!!!」

プリキュア達は次々と倒れる。

エコーとエレメントとイージスはガタノゾーアの攻撃によって変身が解かれる。

ハミイ「みんな〜！大ピンチニヤ！もっとおつきな声でゼロとプリキュアを応援するニヤ〜！」

妖精達「ゼロとプリキュアに！力を！」

妖精達はミラクルライトを振って、先程より大きな声でゼロとプリキュア達を応援する。

その時、プリキュア達の体がピンク色の光に包まれる。

ゼロも黄金の光に包まれ、その上でゼロを巻き付いた触手がバラバラになる。

ガタノゾーアもその光に怯む。

その様子はアートのデッセイ号のモニターからも見ていた。

真理奈「この光は？」

ダニエル「いったい何が？」

真理奈はその光は何なのか分からなかった。

その時、操縦室にクリシスが入ってきた。

クリシス「奇跡の光だよ。」

真理奈「クリシス姉さん……」

クリシス「大丈夫。ゼロもプリキュアの皆も勝つよ。」

クリシスはモニターに映ったゼロとプリキュア達を見てそう言う。

あゆみとまのんとマヤはピンク色の光をキョロキョロと見渡す。

あゆみ「キレイ……」

まのん「あつたかい……」

マヤ「ソード……マコト、必ず勝つて。」

光に包まれたふたりはプリキュアMAX HEARTのブラックとホワイトはスーパープリキュアに、ルミナスはレインボーシャイニールミナスにパワーアップする。

続いて、ふたりはプリキュアSPLASH STARRのブルームはブライティブルームに、イーグレットはウインディイーグレットにパワーアップする。

更に、YES!プリキュア5 GOGOのドリームはシャイニングドリームに、ルージュとレモネードとミントとアクアはレインボープリキュアに、ローズはレインボーミルキイローズにパワーアップする。

次に、フレッシュプリキュアのピーチとベリーとパインとパッションはキュアエンジエルにパワーアップする。

そして、ハートキャッチプリキュアのブロッサムとマリンとサンシャインとムーンライトはスーパーシルエットにパワーアップする。

それだけに飽き足らず、スイートプリキュアのメロディはクレッシェンドメロディに、リズムはクレッシェンドリズムに、ビートはクレッシェンドビートに、ミュージズはクレッシェンドミュージズにパワーアップする。

それから、スマイルプリキュアのハッピーとサニーとピースとマーチとビューティはウルトラプリキュアにパワーアップする。

それにかけて、ドキドキ！プリキュアのハートとダイヤモンドとロゼッタとソードとエースはパルテノンモードにパワーアップする。

そして更にハピネスチャージプリキュアのラブリーとプリンセスとハニーとフォーチュンはイノセントフォームにパワーアップする。

そしてそして、G.O.！プリンセスプリキュアのフローラとマーメイドとトウインクルとスカレットはグランプリンセスにパワーアップする。

更に更に、魔法つかいプリキュアのミラクルとマジカルとフェリーチェはアレキサンドライトスタイルにパワーアップする。

最後にキラキラ☆プリキュアアラモードのホイップとカスタードとジェラートとマカロンとシヨコラとパルフェはスーパープリキュアにパワーアップする。

プリキュア達「力が・・・溢れてくる・・・！」

プリキュア達はミラクルライトの光を受けてパワーアップし、力が溢れていくのを感じ

じる。

プリキュア達「みんな！ありがとう！」

プリキュア達はゼロの元へ合流する。

ゼロ「お前ら！」

ホワイト「ゼロ！」

イーグレット「一緒に戦いましょう！」

ブロッサム「今回は皆と一緒にです！」

ハッピー「一緒にハッピーエンドを迎えよう！」

ソード「一人で無茶はさせないんだから！」

マジカル「勝って、みんなの所へ帰りましょう！」

ゼロはホワイト達の言葉に頷く。

ゼロ「いくぜ、みんな！ウルトラマンと！」

ホイツプ「プリキュアの力！」

ゼロ、プリキュア達「受けてみやがれ！（みなさい！）」

ゼロとプリキュア達はガタノゾーアの方に向いて言う。

ガタノゾーアは氷の槍を凝縮する。

ブラック「漲る勇氣！」

ホワイト「溢れる希望！」

ルミナス「光り輝く絆とともに！」

ブラック、ホワイト「エキストリーム！」

ルミナス「ルミナリオ！」

ふたりはプリキュアMAX HEARTはエキストリーム・ルミナリオを放つ。

イーグレット「精霊の光よ！命の輝きよ！」

ブルーム「希望へ導け！二つの心！」

ブルーム、イーグレット「プリキュア・スパイラル・スター・スプラッシュュ！」

ふたりはプリキュアSPLEASH STAIRはプリキュア・スパイラル・スター・ス

プラッシュュを放つ。

ドリーム、ルージュ、レモネード、ミント、アクア「希望の赤いバラ！」

ローズ「奇跡の青いバラ！」

ドリーム、ルージュ、レモネード、ミント、アクア、ローズ「プリキュア・ミルキイ

ローズ・フローラル・エクスプロージョン！」

YES！プリキュア5GOGOはプリキュア・ミルキイローズ・フローラル・エクス

プロージョンを放つ。

ピーチ、ベリー、パイン、パッション「想いよ届け！プリキュア・ラビング・トゥルー！

ハート！」

フレツシユプリキュアはプリキュア・ラビング・トゥルー・ハートを放つ。

ブロツサム、マリン、サンシャイン、ムーンライト「花よ咲き誇れ！プリキュア・ハートキャッチ・オーケストラ！」

ハートキャッチプリキュアはプリキュア・ハートキャッチ・オーケストラを放つ。

メロディ、リズム、ビート、ミュージズ「届けましょう、希望のシンフォニー！プリキュア・スイートセツション・アンサンブル・クレツシエンド！」

スイートプリキュアはプリキュア・スイートセツション・アンサンブル・クレツシエンドを放つ。

ハッピー「届け！希望の光！」

サニー、ピース、マーチ、ビューティ「はばたけ！光り輝く未来へ！」

ハッピー、サニー、ピース、マーチ、ビューティ「プリキュア・ウルトラレインボーバースト！」

スマイルプリキュアはプリキュア・ウルトラレインボーバーストを放つ。

ハート、ダイヤモンド、ロゼッタ、ソード、エース「プリキュア・ロイヤルラブリーストレートフラツシユ！」

ドキドキ！プリキュアはプリキュア・ロイヤルラブリーストレートフラツシユを放

つ。

ラブリー、プリンセス、ハニー、フォーチュン「プリキュア・イノセントプリフィケーション！」

ハピネスチャージプリキュアはプリキュア・イノセントプリフィケーションを放つ。

フローラ、マーメイド、トウインクル、スカーレット「開け！夢への扉！プリキュア・グラン・リベラシオン！」

Go！プリンセスプリキュアはプリキュア・グラン・リベラシオンを放つ。

ミラクル「巡り会う奇跡よ！」

マジカル「繋がる魔法よ！」

フェリーチェ「育まれし幸福よ！」

ミラクル、マジカル、フェリーチェ「今、私達の手に！フル・フル・フルフルリンクル！プリキュア・エクストリーム・レインボー！」

魔法つかいプリキュアはプリキュア・エクストリーム・レインボーを放つ。

ホイップ、カスタード、ジェラート、マカロン、シヨコラ「キラキラキラルン、フルチャージ！スイー・ツー・ワンダフル・アラモード！」

パールフェ「行くよ！アン・ドウ・トレビアン！キラクル・レインボー！」

ホイップとカスタードとジェラートとマカロンとシヨコラはスイー・ツー・ワンダフ

ルルイエに覆っていた闇も、ゼロとプリキュア達の攻撃による力で振り払われた。
レイ「よし！」

オキ「やったーっ！」

クリシス「勝ったーっ！」

真理奈「信じられない！本当に倒しちゃうなんて！」

真理奈達はモニターでゼロとプリキュア達の勝利を見て喜びに浸っている。

プリキュア達もガタノゾーアが倒され、ルルイエに覆っていた闇が消えた後、喜びに浸っている。

この時のプリキュア達は元の姿に戻っていた。

ゼロもシャイニングウルトラマンゼロから元の姿に戻っていた。

その時、ゼロのウルティメイトブレスレットから赤い光が現れ、光から形となつていく。

その形は石碑のような飛行物体が現れる。

その飛行物体はストーンフリーゲル。

ネクサスに変身するデユナミストのみが召喚することができる神秘の石碑である。

この中に入ったデユナミストはダメージは残るものの、体の傷や疲れを癒すことができる。

ストーンフリーユージェルはゼロの元から去り、空の彼方へ消えていった。その時、ルルイエの地で異変が起こった。

ルルイエが突然、揺れ始めたのだ。

真理奈「な、なに!?!」

クリシス「もしかしてこの島、沈んじやうんじやないかな?」

真理奈「なに!?!」

クリシスは呑気そうにルルイエの異変の理由に気付く。

ハルナ「プリキュアの皆!すぐにアートのデッセイ号に乗って!」

プリキュア達はハルナの言う通りにアートのデッセイ号に乗りこむ。

アートのデッセイ号がルルイエから離陸したのはギリギリセーフだった。

ルルイエでの戦いを終えたウルトラマン達とプリキュア達はトランプ共和国へと向

かっていった。

エピローグ

ネクサスから光を受け取ったゼロはシャイニングウルトラマンゼロとして復活し、ガタノゾーアに快進撃を行なう。

しかし、ゼロはガタノゾーアをようやく追い詰めたものの、ガタノゾーアの再生能力によって、ゼロは苦戦される。

プリキュアの妖精達はミラクルライトの力でゼロとプリキュア達に力を与える。

これによってプリキュア達はスーパープリキュアに覚醒し、ゼロも窮地から脱する。

ゼロはプリキュア達と共にガタノゾーアに止めを刺すべく、力を振り絞って強力な技を繰り出した。

ガタノゾーアも負けじと迎撃するが、ゼロとプリキュア達の合体攻撃により、消滅され、ルルイエに覆われていた闇の瘴気も消えていった。

その後、ウルトラマン達とプリキュア達はスーパーGUTSと共にトランプ共和国に帰還する。

1日過ぎて、トランプ共和国で起きたユグドラシルの侵攻阻止も含めて、ルルイエでの戦いの勝利を祝い、トランプ共和国でパーティを振る舞うことになった。

このパーティーはメイジャーランドやブルースカイ王国、そしてホープキングダムからの王族も参加している。

ジョナサンとアンジュの主催でトランプ共和国とルルイエで活躍したウルトラマン達やプリキュア達を紹介する等、色々やっている。

今はトランプ共和国の料理を食している。

このパーティーではるかかナタ、めぐみと誠司が仲良くやっている光景や、メフィストの親バカぶりにアコが怒鳴ってメフィストが落ち込んだりする光景やのぞみやラブ、響が豪快に料理を食べ続けている所をりん達が飽きられる光景も見られている。

真理奈「マヤとひめとゆうこといおなは兎も角、まりあまでパーティーに参加してたなんてね。」

真理奈はまのんと一緒にひめ、ゆうこ、いおな、まりあ、マヤと語り合っている。

まりあ「ウフフ。ウチの妹が大活躍してたんだもの。これくらい当然よ。それにひめちゃんから、マヤちゃんと一緒に海外出張に行こうって誘われてね。一緒に行くことにしたの。」

真理奈「そうなの？マヤ。」

真理奈はまりあの話聞いてマヤに振り向き、質問する。

マヤ「ええ。そのつもりだったから。マコト達も一緒に行くって言ってたし。」

まのん「じゃあ、私も行きます！」

真理奈「はあ!？」

真理奈はまのんの言葉に驚く。

まのん「真琴さんと一緒にツアーだなんて滅多にない事だし、アイドルを目指す私としてはいいい経験になるかも！」

真理奈「いやいや、あんたね！夏休みの宿題はどうすんのよ!？」

まのん「ほのかさんに教えてもらったおかげで全部仕上がりました！」

真理奈「もう終わらせたの!？」

真理奈はまのんがほのかのおかげで夏休みの宿題を終わらせたことを聞いて驚く。

いおな「そういえば、まのん。イピロンの方はどうするの?」

まのん「一緒に過ごすことにしました。海外出張の方も一緒に連れて行くつもりです。」

真理奈「ついでに言うけどね、あいつはもうイピロンじゃないのよ。もう名前も決めてるし。」

いおなは真理奈とまのんにイピロンから元に戻ったカーバンクルについて聞くと、真理奈の家で過ごすことになり、プリキュアの海外出張にも一緒に行くことにした。

そして、真理奈の口からそのカーバンクルの名前を変えた事を告げる。

真理奈「リユイルって名前。この言葉の意味はフランス語で光る、又は輝くって意味があるの。」

ひめ「くるるの名前の違いの差ありすぎない？」

いおな「くるるの場合、単純にカーバンクルのくるるをるが付けただけだったし・・・」
真理奈「うっさいわ！」

ひめといおなにくるるの名前の事を指摘され、真理奈は怒る。

その頃、シンはなぎさとほのか、咲と舞、つぼみとえりか、みゆきとあゆみ、真琴とライラとアリア、みらいとリコと語り合っていた。

えりか「いや、ゼロが石になっちゃった時はヒヤヒヤしたっしゅ・・・」

咲「ホントなりく・・・」

シン「心配かけたな。クリシスがいなかったら諦めてたぜ。」

ほのか「でもよかった。こうして話せる機会ができて。」

舞「はい。」

咲達はルルイエの時の事を話していた。

なぎさ「あの邪神のようにものすつごく大きな怪獣と戦った二セ天使を思い出すよ。」

なぎさはエックスを含めたウルトラ10勇士とプリキュア達と一緒にゾグとカイザードビシと戦った時の事を思い出す。

みらい「みんながいなかったらここにはいなかったかもね。」

リコ「・・・ええ・・・」

あゆみ「どうしたの？」

リコ「ええ。ゼロ達はこうして一緒に戦えるのは嬉しい事だけど、時空の歪みがなくなったらお別れになるって考えると、つい・・・」

みゆき「あ・・・」

ほのか達はリコの言葉で少し落ち込む。

シン「そう落ち込むな、リコ。お前の言う通り、時空の歪みが消えたら俺達は俺達の使命を果たす。でもな、もしこの世界にプリキュア達でも倒せなくなった時、必ずお前らの所に行く。大切なものを守るためにもな。俺とお前らは心で繋がっている。そう
だろ？」

ほのか達はシンの言葉に赤面する。

アリア「あらあら、6人共赤くなってる♡」

ライラ「マコトとほのか様達がシン様が蘇って嬉しがってるのも納得しますね。」

真琴「そ、それは関係ないでしょ!?(〃〃〃〃)」

アリア「ウフフ。顔を赤くしながら怒っても説得力ありませんよ？」
ライラ「素直に認めるのも恋の道です♡」

真琴はアリアとライラにからかわれて怒り、追いかける。

実はほのか達もあゆみを除く友達にからかわれ、真琴と同じように追い掛け回していった。

シン「？あゆみ、あいつらどうしたんだ？」

あゆみ「あ、いえ・・・（シンさん、本当に鈍感だね・・・）」

エンエン（見て分かることなのに・・・）

グレル（あんなセリフ言つといて、罪な奴だぜ・・・）

あゆみ達はシンの様子を見て苦笑いする。

ほのか達がパーティー会場から出ていった後、クリシスがシン達の所に来た。

クリシス「楽しんでるね〜。」

あゆみ「クリシスさん。」

シン「クリシス。あの時はありがとな。」

シンはクリシスに自信を蘇らせたことで礼を言う。

クリシス「なんの、なんの。持つべきものはウルトラマン・・・と言いたいトコだけ

ど、今の私変身できないんだっけ？」

あゆみ「クリシスさん……」

クリシス「気にしない、気にしない。ウルトラマンもプリキュアも皆は助け合いだから。ウルトラマンに変身できなくてもできることはいくらでもあるもん。」

シン「へへっ、ポジティブだな。」

クリシス「うん！」

クリシスは笑顔で答える。

その時、クリシスが頭痛を起こし、頭を抱える。

シン「クリシス！」

あゆみ「大丈夫ですか!？」

シンとあゆみはクリシスを支える。

クリシス「えへへ……大丈夫だよ。今まで起きた時より軽いから。」

あゆみ「でも、あまり無理しない方が……」

クリシス「そだね。じゃ、夜風に当たってスツキリしてこうかな。」

クリシスはパーティ会場を後にして、去って行った。

シンはそんなクリシスを見届けた後、不安な表情を浮かべる。

シン（あの石はどこに消えたんだ……？それに今まで起きた時空の歪み……この

世界では一体何が起ころうとしている……？）

シンは今まで怪獣を出現させた時空の歪みと、ガタノゾアとの戦いの後、どこかへ消えていったストーンフリーユージェルについて考えていた。

ウルトラマン達とプリキュア達は気付かなかった。

この世界に今でも不穏な空気が漂っていることを・・・

そして、この世界に新たな来訪者が訪れていることを・・・

同時刻、バラージ王国の外れにある森に小さな時空の捻じれが現れ、その捻じれからバトン状の杖を持ったツインテールの女の子と民族衣装を纏った金髪の少年が落下してきた。

ツインテールの少女「ふええええええええっ!!」

民族衣装の少年「お、落ちてるう!？」

ツインテールの少女「れ、レイジングハート! 浮遊制御! ユーノ君の分も!」

バトン状の杖へAll right。

ツインテールの少女はバトン状の杖に命令し、一緒にいる民族衣装の少年と共にピンの光を纏って浮遊し、落下を阻止する。

この2人は何者なのか、そしてこの2人がなぜプリキュアの世界に現れたのか、それは新たな物語で・・・

次回作の発表

皆さん、『ウルトラマンゼロ&プリキュアオールスターズ』を読んで頂きありがとうございます。
ございます。

相変わらずの文章力のない執筆ですが、読んでくれてうれしいです。

次回作ですが、更にクロスオーバーする作品を増やして、新しいストーリーを作ることになりました。

その作品は『魔法少女リリカルなのは』。

何故、『魔法少女リリカルなのは』をクロスオーバーするのかと聞かれると、特にこれと言った理由はないんですが、YouTubeで『魔法少女リリカルなのは』を見て（一部一部ですが・・・（汗））、今僕が執筆している小説に頭の中なのはシリーズのキャラクターが浮かんできたんですね。

それもあります、ウルトラマンとプリキュアのクロスオーバーでこのまま続けても物足りない感じが途中からしてきたんですね。

なので、ウルトラマンシリーズとプリキュアシリーズの他になのはシリーズも加えようかなと思いました。

すみませんね、いい加減な言い訳で。(汗)

そんなわけで、次回作のタイトルは『ウルトラリリカルキュアファイト!』というタイトルを決定しました。(センスのないネーミングですが・・・(汗))

この話は『ウルトラマンゼロ&プリキュアオールスターズ』の続編で、なのはとユイノがプリキュアの世界に来た時に幼くなつた(所謂、無印の姿になつた)わけですが、二人だけでなく、フェイトやはやてやクロノやアルフ、それからスバルやティアナやエリオやキャロも初登場の時の姿になってしまします。(ヴォルケンリッターは変わりようがないのでそのまま、リインとアギトは大きくも小さくもなれるので省きますが、登場します。)

それから、『魔法少女リリカルなのはVivid』より、ヴィヴィオとアインハルトとリオとコロナ、そしてシヤンテとルーテシアが、『魔法戦記リリカルなのはForce』より、トーマとリリイとアイシスが、『魔法少女リリカルなのは Detonation』より、アミティエとキリエ、ユーリとイリスが登場します。

尚、Forceの方はオリジナル設定で、すでにエクリップス事件が解決し、フツケバイン一家は拘束されているという事になっております。(Forceは事実、コミック6巻までストップした状態なので勝手に設定を決めました。)

他のキャラクターはそんなに出番がなく、プリキュアの世界では別人という扱いにな

りますが、登場します。

そして、『ウルトラリリカルキュアファイト』には前作の『ウルトラマンゼロ&プリキュアオールスターズ』には出さなかった敵ロボットも出す予定です。

更に、プリキュアの世界にレオ、80、ビクトリー、オーブ、それからウルティメイ
トフォースゼロも参戦します。(他にも参戦しますが・・・(汗))

次回作の『ウルトラリリカルキュアファイト』、期待せずにお楽しみください。